32 ビット RISC マイクロコントローラー
TX03 シリーズ

TMPM370FYDFG
TMPM370FYFG

Revision 1.1

2023-07

東芝デバイス＆ストレージ株式会社

© 2022-2023
Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation

目次

目次 2

図目次 19

表目次 23

1. 特長 30

1.1. 機能別製品一覧 34

1.2. ブロック図 35

1.3. ピン配置図 (top view) 36

1.3.1. QFP100 36

1.3.2. LQFP100 37

1.4. ピン名称と機能 38

1.4.1. 機能端子とポート割り当て(端子番号) 38

1.5. 電源の種類と供給端子 43

2. プロセッサーコア 44

2.1. コアに関する情報 44

2.2. 構成可能なオプション 45

2.3. 例外/割り込み 45

2.3.1. 割り込み本数 45

2.3.2. 割り込み優先度ビット数 45

2.3.3. SysTick 46

2.3.4. SYSRESETREQ 46

2.3.5. LOCKUP 46

2.3.6. 補助フォールトステータスレジスター 46

2.4. イベント 46

2.5. 電力管理 47

2.6. 排他アクセス 47

3. メモリーマップ 48
3.1. メモリーマップ 48
3.1.1. メモリーマップ 49
3.2. SFR 領域詳細 50
4. リセット動作 51
4.1. リセット入力前状態 51
4.2. リセット期間 51
4.3. リセット解除後 51
5. クロック/モード制御(CG) 52
5.1. 特長 52
5.2. レジスター説明 53
5.2.1. レジスター一覧 53
5.2.2. CGSYSCR (システムコントロールレジスター) 54
5.2.3. CGOSCCR (発振コントロールレジスター) 55
5.2.4. CGSTBYCR (スタンバイコントロールレジスター) 56
5.2.5. CGPLLSEL (PLL セレクトレジスター) 57
5.3. クロック制御 58
5.3.1. クロックの種類 58
5.3.2. リセット動作による初期値 58
5.3.3. クロック系統図 59
5.3.4. クロック逓倍回路(PLL) 60
5.3.5. ウオーミングアップ機能 61
5.3.6. システムクロック 62
5.3.7. プリスケーラークロック 63
5.4. モードとモード遷移 63
5.4.1. モード状態遷移 63
5.5. 動作モード 64

5.5.1. NORMAL モード 64
5.6. 低消費電力モード 64
5.6.1. IDLE モード 64
5.6.2. STOP モード 65
5.6.3. 低消費電力モードの選択 66
5.6.4. 各モードにおける動作状態 67
5.6.5. 低消費電力モードの解除 68
5.6.6. ウオーミングアップ 70
5.6.7. モード遷移によるクロック動作 71
6. 例外 72
6.1. 概要 72
6.1.1. 種類 72
6.1.2. 処理の流れ 73
6.2. リセット例外 80
6.3. SysTick 80
6.4. 割り込み 81
6.4.1. マスク不能割り込み(NMI) 81
6.4.2. マスク可能割り込み 81
6.4.3. 割り込み要求 81
6.4.4. 製品別の割り込み要因一覧 85
6.4.5. 割り込み検知レベル 88
6.4.6. 処理手順 89
6.5. 例外/割り込み関連レジスター 96
6.5.1. レジスター一覧 96
6.5.2. NVIC レジスター 98
6.5.3. CG レジスター 125
7. 製品個別情報 138

7.1. 各周辺機能の情報 138
7.1.1. クロック/モード制御(CG) 138
7.1.2. 例外 139
7.1.3. 入出力ポート 140
7.1.4. 16 ビットタイマー/イベントカウンター(TMRB) 141
7.1.5. シリアルチャネル(SIO/UART) 145
7.1.6. 12 ビットアナログデジタルコンバーター(ADC) 147
7.1.7. モーター制御回路(PMD) 150
7.1.8. ベクトルエンジン(VE) 154
7.1.9. エンコーダー入力回路(ENC) 155
7.1.10. 電圧検出回路(VLTD) 157
7.1.11. 周波数検知回路(OFD) 158
7.1.12. ウオッチドッグタイマー(WDT) 159
7.1.13. オペアンプ/アナログコンパレーター(AMP/CMP) 160
7.1.14. フラッシュメモリー 162
7.1.15. プロテクト/セキュリティー機能 164
7.1.16. デバッグインターフェース 165
8. 入出力ポート 166
8.1. 概要 166
8.2. 信号接続一覧 167
8.3. レジスター説明 172
8.3.1. レジスター一覧 173
8.3.2. ポート機能とレジスター設定 174
8.4. ポート回路図 186
8.4.1. タイプ T1 187
8.4.2. タイプ T2 188
8.4.3. タイプ T3 189

8.4.4. タイプ T4 190
8.4.5. タイプ T5 191
8.4.6. タイプ T6 192
8.4.7. タイプ T7 193
8.4.8. タイプ T8 194
8.4.9. タイプ T9 195
8.4.10. タイプ T10 196
8.4.11. タイプ T11 197
8.4.12. タイプ T12 198
8.4.13. タイプ T13 199
8.4.14. タイプ T14 200
8.4.15. タイプ T15 201
8.4.16. タイプ T16 202
8.4.17. タイプ T17 203
8.4.18. タイプ T18 204
8.4.19. タイプ T19 205
8.4.20. タイプ T20 206
8.4.21. タイプ T21 207
8.5. 使用上のご注意およびお願い事項 208
8.5.1. リセット期間中の端子状態について 208
8.5.2. 未使用端子の処理について 208
8.5.3. デバッグ用端子を汎用ポートとして使用する際の注意 208
9. 16 ビットタイマー/イベントカウンター(TMRB) 209
9.1. 概要 209
9.2. 構成 210
9.3. レジスター説明 211
9.3.1. レジスター一覧 211

9.3.2. TBxEN(許可レジスター)....212
9.3.3. TBxRUN(RUN レジスター)....213
9.3.4. TBxCR(コントロールレジスター)....214
9.3.5. TBxMOD(モードレジスター)....215
9.3.6. TBxFFCR(フリップフロップコントロールレジスター)....216
9.3.7. TBxST(ステータスレジスター)....217
9.3.8. TBxIM(割り込みマスクレジスター)....218
9.3.9. TBxUC(アップカウンターキャプチャーレジスター)....219
9.3.10. TBxRG0(タイマーレジスター0)....220
9.3.11. TBxRG1(タイマーレジスター1)....220
9.3.12. TBxCP0(キャプチャーレジスター0)....221
9.3.13. TBxCP1(キャプチャーレジスター1)....221
9.4. 動作説明....222
9.4.1. プリスケーラー....222
9.4.2. アップカウンター(UC)....224
9.4.3. タイマーレジスター(TBxRG0、TBxRG1)....224
9.4.4. キャプチャー制御....225
9.4.5. キャプチャーレジスター(TBxCP0、TBxCP1)....225
9.4.6. アップカウンターキャプチャーレジスター(TBxUC)....225
9.4.7. コンパレーター(CP0、CP1)....225
9.4.8. タイマーフリップフロップ(TBxFF0)....225
9.4.9. キャプチャー割り込み(INTCAPx0、INTCAPx1)....225
9.5. モード別動作説明....226
9.5.1. 16 ビットインターバルタイマーモード....226
9.5.2. 16 ビットイベントカウンターモード....226
9.5.3. 16 ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モード....227
9.5.4. 外部トリガープログラマブル矩形波(PPG)出力モード....229

9.5.5. キャプチャー機能を利用した応用例 230

10. シリアルチャネル(SIO/UART) 233

10.1. 概要 233

10.2. 構成 234

10.3. レジスター説明 235

10.3.1. レジスター一覧 235

10.3.2. SCxEN(許可レジスター) 236

10.3.3. SCxBUF(バッファーレジスター) 237

10.3.4. SCxCR(コントロールレジスター) 238

10.3.5. SCxMOD0(モードコントロールレジスター0) 239

10.3.6. SCxBRCR(ボーレートジェネレーターコントロールレジスター) 240

10.3.7. SCxBRADD(ボーレートジェネレーターコントロールレジスター2) 241

10.3.8. SCxMOD1(モードコントロールレジスター1) 242

10.3.9. SCxMOD2(モードコントロールレジスター2) 243

10.3.10. SCxRFC(受信 FIFO コンフィグレジスター) 245

10.3.11. SCxTFC(送信 FIFO コンフィグレジスター)(注 2) 246

10.3.12. SCxRST(受信 FIFO ステータスレジスター) 247

10.3.13. SCxTST(送信 FIFO ステータスレジスター) 248

10.3.14. SCxFCNF(FIFO コンフィグレジスター) 249

10.4. モード 251

10.5. データフォーマット 252

10.5.1. データフォーマット一覧 252

10.5.2. パリティービット制御 252

10.5.3. STOP ビット長 253

10.6. クロック制御 254

10.6.1. プリスケーラー 254

10.6.2. シリアルクロック生成回路 257

10.7. 送信/受信バッファーと FIFO 265
10.7.1. 構成 265
10.7.2. 送信/受信バッファー 265
10.7.3. FIFO 266
10.8. ステータスフラグ 266
10.9. エラーフラグ 267
10.9.1. OERR フラグ 267
10.9.2. PERR フラグ 268
10.9.3. FERR フラグ 268
10.10. 受信 269
10.10.1. 受信カウンター 269
10.10.2. 受信制御 269
10.10.3. 受信動作 270
10.11. 送信 273
10.11.1. 送信カウンター 273
10.11.2. 送信制御 273
10.11.3. 送信動作 274
10.12. ハンドシェーク機能 277
10.13. 割り込み/エラー発生タイミング 279
10.13.1. 受信割り込み(INTRXx) 279
10.13.2. 送信割り込み(INTTXx) 280
10.13.3. エラー発生時の割り込み発生タイミング 282
10.14. ソフトウェアリセット 282
10.15. モード別動作説明 283
10.15.1. モード 0(SIO モード) 283
10.15.2. モード 1(7 ビット UART モード) 294
10.15.3. モード 2(8 ビット UART モード) 295

10.15.4. モード 3(9 ビット UART モード) 296

11. 12 ビットアナログ/デジタルコンバーター(ADC) 298

11.1. 機能と特徴 298

11.2. ブロック図 299

11.3. レジスター一覧 300

11.4. レジスター詳細 302

11.4.1. ADxCLK(変換クロック設定レジスター) 302

11.4.2. ADxMOD0(モード設定レジスター0) 303

11.4.3. ADxMOD1(モード設定レジスター1) 304

11.4.4. ADxMOD2(モード設定レジスター2) 305

11.4.5. ADxCMPCR0(監視割り込み設定レジスター0) 306

11.4.6. ADxCMPCR1(監視割り込み設定レジスター1) 307

11.4.7. ADxCMP0(変換結果比較レジスター0) 308

11.4.8. ADxCMP1(変換結果比較レジスター1) 308

11.4.9. ADxREG0(変換結果格納レジスター0) 309

11.4.10. ADxREG1(変換結果格納レジスター1) 310

11.4.11. ADxREG2(変換結果格納レジスター2) 311

11.4.12. ADxREG3(変換結果格納レジスター3) 312

11.4.13. ADxREG4(変換結果格納レジスター4) 313

11.4.14. ADxREG5(変換結果格納レジスター5) 314

11.4.15. ADxREG6(変換結果格納レジスター6) 315

11.4.16. ADxREG7(変換結果格納レジスター7) 316

11.4.17. ADxREG8(変換結果格納レジスター8) 317

11.4.18. ADxREG9(変換結果格納レジスター9) 318

11.4.19. ADxREG10(変換結果格納レジスター10) 319

11.4.20. ADxREG11(変換結果格納レジスター11) 320

11.4.21. PMD トリガー用プログラムレジスター 321

11.4.22. ADxTSET03/ADxTSET47/ADxTSET811(タイマートリガー用プログラムレジスター) 342
11.4.23. ADxSSET03/ADxSSET47/ADxSSET811 (ソフトウェアトリガー用プログラムレジスター) 346
11.4.24. ADxASET03/ADxASET47/ADxASET811(常時変換用プログラムレジスター) 350
11.4.25. ADxMOD3(モード設定レジスター3) 354
11.5. 動作説明 355
11.5.1. アナログ基準電圧 355
11.5.2. AD 変換開始 355
11.5.3. AD 監視機能 357
11.6. AD 変換タイミングチャート 357
11.6.1. ソフトウェア AD 変換 357
11.6.2. 常時 AD 変換 359
11.6.3. トリガーによる AD 変換開始 360
11.7. 使用方法の例 361
11.7.1. PMD ch0(3 シャント)、AD コンバーターを 1 つ(ユニット A)を使用したときの例 361
11.7.2. PMD ch0(3 シャント)、AD コンバーターを 2 つ(ユニット A/B)を使用したときの例 362
11.7.3. PMD ch0(3 シャント)、ch1(1 シャント)、AD コンバーターを 2 つ(ユニット A/B)を使用したときの例 363
11.7.4. PMD ch0(1 シャント)、AD コンバーターを 1 つ(ユニット A)を使用したときの例 365
12. モーター制御回路(PMD) 366
12.1. 概要 366
12.2. 構成 367
12.3. レジスター説明 368
12.3.1. レジスター一覧 368
12.3.2. PMD 制御部 369
12.3.3. パルス幅変調回路 372
12.3.4. 通電制御回路 383
12.3.5. 保護制御回路 387
12.3.6. OVV 保護制御制御 393

12.3.7. デバッガーでブレークしたときの保護制御 397
12.3.8. デッドタイム回路 398
12.3.9. 同期トリガー生成回路 400
13. ベクトルエンジン(VE) 408
13.1. 概要 408
13.1.1. 特徴 408
13.1.2. 主な機能 409
13.2. 構成 409
13.2.1. VE と PMD および ADC の関連 410
13.3. レジスター説明 412
13.3.1. レジスター一覧 412
13.3.2. VE 制御レジスター 416
13.3.3. 共通レジスター 427
13.3.4. 専用レジスター 428
13.4. 動作説明 458
13.4.1. スケジュール管理 458
13.4.2. タスク概要 463
13.5. VE チャネルと PMD チャネル、ADC ユニットの組み合わせ 475
14. エンコーダー入力回路(ENC) 476
14.1. 概要 476
14.2. ブロック図 476
14.3. レジスター説明 477
14.3.1. レジスター一覧 477
14.3.2. ENxTNCR(入力制御レジスター) 477
14.3.3. ENxRELOAD(カウンターリロードレジスター) 481
14.3.4. ENxINT(比較レジスター) 482
14.3.5. ENxCNT(カウンターレジスター) 483

14.4. 動作説明 485
14.4.1. エンコーダーモード 485
14.4.2. センサーモード 485
14.4.3. タイマーモード 486
14.5. 機能 486
14.5.1. モード動作概要 486
14.5.2. カウンターおよび割り込み発生動作 <CMPEN> = "1"のとき 494
14.5.3. カウンターおよび割り込み発生動作<CMPEN> = "0"のとき 496
14.5.4. エンコーダー回転方向 498
14.5.5. カウンター回路 499
14.5.6. 割り込み 500
15. パワーオンリセット回路(POR) 502
15.1. 構成 502
15.2. 機能 503
16. 電圧検出回路(VLTD) 506
16.1. 概要 506
16.2. 構成 506
16.3. レジスター説明 507
16.3.1. レジスター一覧 507
16.3.2. VDCR(電圧検出制御レジスター) 507
16.4. 動作説明 508
16.4.1. 制御 508
16.4.2. 機能 508
17. 周波数検知回路(OFD) 510
17.1. 構成 510
17.2. レジスター説明 512
17.2.1. レジスター一覧 512

17.2.2. OFDCR1(周波数検知回路制御レジスター1) 512
17.2.3. OFDCR2(周波数検知回路制御レジスター2) 513
17.2.4. OFDMNPLLOFF(検知周波数下限値設定レジスター(PLL OFF 時)) 514
17.2.5. OFDMNPLLON(検知周波数下限値設定レジスター(PLL ON 時)) 515
17.2.6. OFDMXPLLOFF(検知周波数上限値設定レジスター(PLL OFF 時)) 516
17.2.7. OFDMXPLLON(検知周波数上限値設定レジスター(PLL ON 時)) 517
17.3. 機能 518
17.3.1. 周波数検知回路の動作制御 518
17.3.2. 検知周波数の設定 519
17.3.3. 周波数検知リセット 520
18. ウオッチドッグタイマー(WDT) 522
18.1. 概要 522
18.2. 構成 522
18.3. レジスター説明 523
18.3.1. レジスター一覧 523
18.3.2. WDMOD(ウオッチドッグタイマーモードレジスター) 524
18.3.3. WDCR(ウオッチドッグタイマーコントロールレジスター) 525
18.4. 動作説明 526
18.4.1. 基本動作 526
18.4.2. 動作モードと動作状態 526
18.5. 暴走検出時の動作 527
18.5.1. INTWDT 発生の場合 527
18.5.2. ウオッチドッグタイマーリセット発生の場合 528
18.6. 制御レジスター 529
18.6.1. ウオッチドッグタイマーモードレジスター(WDMOD) 529
18.6.2. ウオッチドッグタイマーコントロールレジスター(WDCR) 529
18.6.3. 設定例 530

19. オペアンプ/アナログコンパレーター(AMP/CMP) 531
19.1. 構成 532
19.2. レジスター説明 533
19.2.1. レジスター一覧 533
19.2.2. オペアンプ 533
19.2.3. コンパレーター 534
19.3. 動作説明 535
20. Flash 動作説明 536
20.1. フラッシュメモリー 536
20.1.1. 特長 536
20.1.2. フラッシュ部ブロック図 538
20.2. 動作モード 539
20.2.1. リセット動作 540
20.2.2. ユーザーブートモード(シングルチップモード) 541
20.2.3. シングルブートモード 550
20.2.4. モード設定 554
20.2.5. メモリーマップ 555
20.2.6. インターフェース仕様 556
20.2.7. データ転送フォーマット 557
20.2.8. メモリーの制約について 557
20.2.9. ブートプログラムの転送フォーマット 557
20.2.10. ブートプログラム動作説明 561
20.2.11. ブートプログラム全体フローチャート 575
20.3. オンボードプログラミングでのフラッシュメモリー書き込み/消去 576
20.3.1. フラッシュメモリー 576
20.3.2. バスライトサイクル時のアドレスビット構成 586
21. プロテクト/セキュリティー機能 591

21.1. 概要 591
21.2. 特長 591
21.2.1. 内蔵 ROM(Flash)のライト/消去プロテクト 591
21.2.2. セキュリティー機能 591
21.3. レジスター説明 593
21.3.1. レジスター一覧 593
21.3.2. FCSECBIT(セキュリティービットレジスター) 594
21.3.3. FCFLCS(フラッシュコントロールレジスター) 595
21.4. 設定/解除方法 596
21.4.1. 内蔵 ROM(Flash)のライト/消去プロテクト 596
21.4.2. セキュリティービット 596
22. デバッグインターフェース 597
22.1. 概要 597
22.1.1. SWJ-DP 597
22.1.2. ETM 597
22.2. 端子機能 598
22.3. デバッグツールとの接続 600
22.3.1. 接続 600
22.3.2. デバッグインターフェース端子を汎用ポートとして使用する場合の注意 600
22.3.3. ホルトモード中の周辺機能の動作(プログラム実行の一時停止時) 600
23. ポート部等価回路図 601
23.1. PA0 ~ 7、PB0 ~ 7、PC0 ~ 7、PD0 ~ 6、PE0 ~ 7、PF0 ~ 4、PG0 ~ 7 601
23.2. PH0 ~ 7、PI0 ~ 3、PJ0 ~ 7、PK0、PK1 602
23.3. PL0、PL1 603
23.4. PF0 603
23.5. X1、X2 604
23.6. RESET 604

23.7. MODE 604
23.8. VREFHA、VREFHB、VREFLA、VREFLB 605
23.9. AMPVDD5、AMPVSS、CREFABC、CREFD 605
23.10. VOUT15、VOUT3 606
24. 電気的特性 607
24.1. 絶対最大定格 607
24.2. DC 電気的特性(1/2) 608
24.3. DC 電気的特性(2/2)(消費電流) 610
24.4. 12 ビットアナログ/デジタルコンバーター特性 611
24.5. オペアンプ特性 612
24.6. アナログコンパレーター特性 612
24.7. AC 電気的特性 613
24.7.1. AC 測定条件 613
24.7.2. シリアルチャネル (SIO/UART) 614
24.7.3. 16 ビットタイマー/イベントカウンター (TMRB) 616
24.7.4. 外部割り込み端子 617
24.7.5. デバッグ通信 618
24.8. Flash 特性 620
24.9. 発振回路例 620
24.10. セラミック発振子 621
24.11. 電源投入時のご注意 622
24.11.1. 電源投入時のポート L(PL0、PL1 端子)について 622
24.11.2. 外部リセットを使用しない場合 623
24.11.3. 外部リセットを使用する場合 624
25. パッケージ寸法図 627
25.1. パッケージ型名: QFP100-P-1420-0.65Q 627
25.2. パッケージ型名: LQFP100-P-1414-0.50H 628

26. 改訂履歴 629

製品取り扱い上のお願い 630

図目次

図 1.1 ブロック図 35
図 3.1 メモリーマップ 49
図 5.1 クロック系統図 59
図 5.2 リセット解除後の PLL 設定シーケンス 60
図 5.3 モード状態遷移図 63
図 5.4 NORMAL→STOP→NORMAL 動作モード遷移 71
図 6.1 処理の流れ 73
図 6.2 レジスター退避終了後のスタック 77
図 6.3 割り込み要求経路 82
図 6.4 処理の流れ 89
図 8.1 ポートタイプ T1 187
図 8.2 ポートタイプ T2 188
図 8.3 ポートタイプ T3 189
図 8.4 ポートタイプ T4 190
図 8.5 ポートタイプ T5 191
図 8.6 ポートタイプ T6 192
図 8.7 ポートタイプ T7 193
図 8.8 ポートタイプ T8 194
図 8.9 ポートタイプ T9 195
図 8.10 ポートタイプ T10 196
図 8.11 ポートタイプ T11 197
図 8.12 ポートタイプ T12 198
図 8.13 ポートタイプ T13 199
図 8.14 ポートタイプ T14 200
図 8.15 ポートタイプ T15 201
図 8.16 ポートタイプ T16 202
図 8.17 ポートタイプ T17 203
図 8.18 ポートタイプ T18 204
図 8.19 ポートタイプ T19 205
図 8.20 ポートタイプ T20 206
図 8.21 ポートタイプ T21 207
図 9.1 TMRB ブロック図 210
図 9.2 16 ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モードの出力波形 227
図 9.3 レジスターバッファーの動作 227
図 9.4 16 ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モードの出力回路 228
図 9.5 外部トリガープログラマブル矩形波(PPG)出力モードによる矩形波出力 229
図 9.6 フリーランニングカウンターを使った外部信号からの矩形波出力(遅延付き) 230
図 9.7 TBxIN 端子入力パルスの"High"レベル幅測定 232

図 10.1 SIO/UART ブロック図.....234
図 10.2 データフォーマット.....252
図 10.3 送信/受信バッファーと FIFO の構成.....265
図 10.4 受信バッファーの動作.....270
図 10.5 受信 FIFO の動作.....271
図 10.6 UART モード送信クロックの生成.....273
図 10.7 送信バッファーの動作.....274
図 10.8 送信 FIFO の動作.....275
図 10.9 ハンドシェーク機能接続.....277
図 10.10 CTS信号のタイミング.....278
図 10.11 受信動作のデータの流れと読み出しの経路.....279
図 10.12 送信動作のデータの流れと書き込みの経路.....280
図 10.13 SIO モード受信動作(転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき).....284
図 10.14 SIO モード受信動作(転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているとき).....285
図 10.15 SIO モード送信動作(転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき).....287
図 10.16 SIO モード送信動作(転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているとき).....289
図 10.17 SIO モード送受信動作(転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき).....291
図 10.18 SIO モード送受信動作(転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているとき).....293
図 10.19 モード 1(7 ビット UART モード).....294
図 10.20 モード 2(8 ビット UART モード).....295
図 10.21 ウエイクアップ機能によるシリアルリンク.....296
図 10.22 ウエイクアップ機能のときの 1st フレームフォーマット.....297
図 10.23 ウエイクアップ機能のときの 2nd フレームフォーマット.....297
図 11.1 AD コンバーターブロック図.....299
図 11.2 PMD トリガー用プログラムレジスター.....322
図 11.3 AD 変換開始動作タイミングチャート.....356
図 11.4 ソフトウェア AD 変換時のタイミングチャート.....358
図 11.5 ソフトウェア AD 変換中に<ADEN> = "0"書き込み.....358
図 11.6 常時 AD 変換時のタイミングチャート.....359
図 11.7 ソフトウェア AD 変換中の PMD トリガー発生.....360
図 11.8 ソフトウェア AD 変換中のタイマートリガー発生.....360
図 11.9 PMD ch0 を 3 シャントで、AD コンバーターを 1 つ(ユニット A)を使用した場合の回路例.....361
図 11.10 PMD ch0 を 3 シャントで、AD コンバーターを 2 つ(ユニット A/B)を使用した場合の回路例.....362
図 11.11 PMD ch0 を 3 シャント、ch1 を 1 シャントで、AD コンバーターを 2 つ(ユニット A/B)を使用した場合の回路例.....363
図 11.12 PMD ch0 を 1 シャントで、AD コンバーターを 1 つ(ユニット A)を使用した場合の回路例.....365
図 12.1 PMD と ADC、AMP/CMP、VE の連携.....366
図 12.2 PMD ブロック図.....367
図 12.3 パルス幅変調回路.....372

図 12.4　のこぎり波、三角波の PWM 波形 373
図 12.5　通電制御回路 383
図 12.6　保護制御回路 387
図 12.7　デッドタイム回路 398
図 12.8　同期トリガー生成回路 402
図 13.1　ベクトル制御の構成 408
図 13.2　VE 構成 409
図 13.3　VE と PMD および ADC の関連図 411
図 13.4　モーター制御の動作状態フロー例 458
図 13.5　動作スケジュールの動作遷移 461
図 14.1　エンコーダー入力回路ブロック図 476
図 15.1　POR のブロック図 502
図 15.2　パワーオンリセット動作タイミング (1/2) 504
図 15.3　パワーオンリセット動作タイミング (2/2) 504
図 16.1　電圧検出回路 506
図 16.2　電圧検出タイミング 509
図 17.1　検出周波数範囲初期値(PLL OFF 時) 511
図 17.2　検出周波数範囲初期値(PLL ON 時) 511
図 17.3　周波数検知回路 511
図 17.4　各モードにおける周波数検知回路動作 519
図 17.5　周波数検知リセットタイミング 521
図 18.1　WDT のブロック図 522
図 18.2　INTWDT 発生タイミング 527
図 18.3　ウオッチドッグタイマーリセット発生のタイミング 528
図 19.1　オペアンプ、アナログコンパレーター接続図 532
図 19.2　オペアンプ、アナログコンパレーター構成 535
図 20.1　フラッシュ部ブロック図 538
図 20.2　モード遷移図 540
図 20.3　メモリーマップ 555
図 20.4　シリアル動作モード判定データ 570
図 20.5　シリアル動作モード受信フローチャート 572
図 20.6　シリアル動作モード判定フローチャート 573
図 20.7　パスワードエリアチェックフローチャート 574
図 20.8　ブートプログラム全体フローチャート 575
図 20.9　ブロック構成 577
図 20.10　自動プログラム 589
図 20.11　自動消去 590
図 24.1　転送クロックが SCLKx 端子入力のときのタイミングチャート 615
図 24.2　転送クロックが SCLKx 端子出力のときのタイミングチャート 615
図 24.3　イベントカウンターのタイミングチャート 616

図 24.4　キャプチャーのタイミングチャート 616
図 24.5　下記以外で外部割り込みを使用するときのタイミングチャート 617
図 24.6　STOP モード解除を外部割り込み端子で行うときのタイミングチャート 617
図 24.7　JTAG/SWD のタイミングチャート 618
図 24.8　ETM トレースのタイミングチャート 619
図 24.9　高周波発振回路例 620
図 24.10　電源投入シーケンス (外部リセットを使用ししない場合) 623
図 24.11　外部リセットの解除が POR リセット解除よりも早い場合のタイミングチャート 624
図 24.12　外部リセットの解除が POR リセット解除よりも遅い場合のタイミングチャート 625
図 24.13　t_{DVDD} が t_{PWUP} よりも長い場合のタイミングチャート 626

表目次

表 1.1 機能別製品一覧 34
表 1.2 信号接続一覧: SIO/UART 38
表 1.3 信号接続一覧: TMRB 39
表 1.4 信号接続一覧: ADC/AMP/CMP 40
表 1.5 信号接続一覧: INT/PMD 41
表 1.6 信号接続一覧: ENC/DEBUG/制御端子/電源 42
表 1.7 電源の種類と供給端子 43
表 2.1 コアリビジョン 44
表 2.2 構成可能なオプションと実装 45
表 3.1 SFR 詳細 50
表 5.1 高速クロック範囲(単位は MHz) 62
表 5.2 STOP モード時の端子状態 65
表 5.3 低消費電力モードと設定 66
表 5.4 各動作モードにおける動作状態 67
表 5.5 解除ソースと解除可能なモード 68
表 5.6 各動作モード遷移時のウオーミングアップ設定 70
表 6.1 例外の種類と優先度 75
表 6.2 優先度のグループ化設定 76
表 6.3 ベクターテーブルの構成 78
表 6.4 割り込み要因一覧 (マスク不能割り込み) 85
表 6.5 割り込み要因一覧 85
表 6.6 割り込みマスクレジスター設定 90
表 6.7 NVIC レジスター設定 91
表 6.8 外部割り込み端子設定 91
表 6.9 割り込み保留セットレジスター設定 92
表 6.10 CG の設定 92
表 6.11 CPU 割り込み許可の設定 93
表 6.12 割り込み優先度レジスターのアドレス 117
表 6.13 割り込み番号 0～3 の割り込み優先度レジスターの構成 118
表 6.14 システムハンドラー優先度レジスターのアドレス 121
表 6.15 割り込み優先度レジスターの構成 122
表 7.1 搭載一覧 138
表 7.2 ベースアドレス一覧 138
表 7.3 搭載一覧 139
表 7.4 ベースアドレス一覧 139
表 7.5 搭載一覧 (1/2) 140
表 7.6 搭載一覧 (2/2) 140
表 7.7 ベースアドレス一覧 (1/2) 140

表 7.8 ベースアドレス一覧 (2/2) 140
表 7.9 搭載一覧 141
表 7.10 ベースアドレス一覧 (1/2) 141
表 7.11 ベースアドレス一覧 (2/2) 141
表 7.12 機能端子とポート 142
表 7.13 入出力信号と周辺機能の接続(1/2) 143
表 7.14 入出力信号と周辺機能の接続(2/2) 144
表 7.15 搭載一覧 145
表 7.16 ベースアドレス一覧 145
表 7.17 機能端子とポート 146
表 7.18 入出力信号と周辺機能の接続 146
表 7.19 搭載一覧 147
表 7.20 ベースアドレス一覧 147
表 7.21 機能端子とポート(1/2) 148
表 7.22 機能端子とポート(2/2) 148
表 7.23 入出力信号と周辺機能の接続 149
表 7.24 搭載一覧 150
表 7.25 ベースアドレス一覧 150
表 7.26 機能端子とポート(1/2) 151
表 7.27 機能端子とポート(2/2) 151
表 7.28 入力信号と周辺機能の接続 152
表 7.29 入力信号と周辺機能の接続 152
表 7.30 出力信号と周辺機能の接続 153
表 7.31 出力信号と周辺機能の接続 153
表 7.32 搭載一覧 154
表 7.33 ベースアドレス一覧 154
表 7.34 搭載一覧 155
表 7.35 ベースアドレス一覧 155
表 7.36 機能端子とポート 156
表 7.37 搭載一覧 157
表 7.38 ベースアドレス一覧 157
表 7.39 搭載一覧 158
表 7.40 ベースアドレス一覧 158
表 7.41 搭載一覧 159
表 7.42 ベースアドレス一覧 159
表 7.43 機能端子とポート 159
表 7.44 搭載一覧 160
表 7.45 ベースアドレス一覧 160
表 7.46 AMP 機能端子とポート 161
表 7.47 CMP 機能端子とポート 161

表 7.48　搭載一覧 162
表 7.49　ベースアドレス一覧 162
表 7.50　フラッシュメモリーブロック構成 162
表 7.51　ID-Read 時のマクロコード値 163
表 7.52　シングルブートモード時の使用リソース 163
表 7.53　RAM アドレス範囲 163
表 7.54　搭載一覧 164
表 7.55　ベースアドレス一覧 164
表 7.56　デバッグインターフェース一覧 165
表 8.1　信号接続一覧: SIO/UART 167
表 8.2　信号接続一覧: TMRB 168
表 8.3　信号接続一覧: ADC/AMP,CMP 169
表 8.4　信号接続一覧: INT/PMD 170
表 8.5　信号接続一覧: ENC/DEBUG/FLASH 171
表 8.6　レジスター一覧(1/2) 173
表 8.7　レジスター一覧(2/2) 173
表 8.8　ポート A レジスター設定 175
表 8.9　ポート B レジスター設定 176
表 8.10　ポート C レジスター設定 177
表 8.11　ポート D レジスター設定 178
表 8.12　ポート E レジスター設定 179
表 8.13　ポート F レジスター設定 180
表 8.14　ポート G レジスター設定 181
表 8.15　ポート H レジスター設定 182
表 8.16　ポート I レジスター設定 183
表 8.17　ポート J レジスター設定 184
表 8.18　ポート K レジスター設定 185
表 8.19　ポート L レジスター設定 185
表 9.1　プリスケーラーからの出力クロックの分解能(fc = 80MHz) 222
表 10.1　分周値の設定 241
表 10.2　モードとデータフォーマット 251
表 10.3　プリスケーラーからの出力クロックの分解能(fc = 80MHz) (1 / 2) 255
表 10.4　プリスケーラーからの出力クロックの分解能(fc = 80MHz) (2 / 2) 256
表 10.5　設定可能な分周値 257
表 10.6　SIO モードで使用できる転送クロックのレジスター設定 258
表 10.7　UART モードで使用できる SIOCLK クロックのレジスター設定 260
表 10.8　UART モードのボーレート例 (単位: kbps) 262
表 10.9　UART モードのボーレート例 (単位: kbps) 263
表 10.10　シリアル転送モードとバッファー構成 265
表 10.11　転送モードと FIFO 構成 266

表 10.12　エラーフラグ.....267
表 10.13　バッファー構成と INTRXx の発生タイミング.....279
表 10.14　FIFO 許可時の INTRXx 発生条件.....280
表 10.15　バッファー構成と INTTXx の発生タイミング.....281
表 10.16　FIFO 使用時の INTTXx 発生条件.....281
表 10.17　SIO モードのエラー割り込み発生タイミング.....282
表 10.18　UART モードのエラー割り込み発生タイミング.....282
表 11.1　プログラム番号選択.....329
表 11.2　AD 変換入力端子の選択.....335
表 11.3　AD 変換入力端子の選択.....342
表 11.4　AD 変換入力端子の選択.....346
表 11.5　AD 変換入力端子の選択.....350
表 11.6　AD 変換時間と変換開始遅延時間(SCLK = 40MHz).....356
表 11.7　AD コンバーターユニット A の設定例.....361
表 11.8　AD コンバーターユニット A/B の設定例.....362
表 11.9　AD コンバーターユニット A の設定例.....364
表 11.10　AD コンバーターユニット B の設定例.....364
表 11.11　AD コンバーターユニット A の設定例.....365
表 12.1　PMDxMDOUT による通電制御回路出力(PMDxMDPOT<POLH><POLL> = "00"のとき).....384
表 12.2　PMDxMDOUT による通電制御回路出力(PMDxMDPOT<POLH><POLL> = "11"のとき).....384
表 12.3　1 シャント電流の検出設定.....384
表 12.4　トリガーコンペアレジスターの後段バッファー更新タイミング.....400
表 12.5　トリガー出力.....401
表 13.1　VEOUTCRx<UPWM>、VEOUTCRx<UOC[1:0]>PMD 設定: U 相(UOx、XOx)の出力制御.....454
表 13.2　VEOUTCRx<VPWM>、VEOUTCRx<VOC[1:0]>PMD 設定: V 相(VOx、YOx)の出力制御.....454
表 13.3　VEOUTCRx<WPWM>、VEOUTCRx<WOC[1:0]>PMD 設定: W 相(WOx、ZOx)の出力制御.....454
表 13.4　スケジュール別の動作タスク.....460
表 13.5　代表動作フローでの設定例.....460
表 13.6　タスク概要.....463
表 13.7　d 軸電流 PI 制御.....464
表 13.8　q 軸電流 PI 制御.....465
表 13.9　位相補間.....466
表 13.10　SIN/COS 演算.....467
表 13.11　dq−αβ 座標軸変換.....468
表 13.12　2-3 相変換(空間ベクトル変換).....469
表 13.13　3 相電圧算出(VESECTORx<SECTOR[3:0]> = "0"の場合).....470
表 13.14　出力制御.....471
表 13.15　トリガー生成.....472
表 13.16　入力処理.....473
表 13.17　3 − 2 相変換.....474

表 13.18 αβ-dq 座標軸変換 474
表 13.19 VE チャネルと PMD チャネルの組み合わせ 475
表 13.20 VE チャネルと ADC ユニット、AD 変換結果格納レジスターの組み合わせ 475
表 14.1 カウンターの制御 499
表 14.2 割り込み要因 500
表 16.1 VLTD 特性 509
表 17.1 各動作モードにおける周波数検知回路の状態 518
表 17.2 使用周波数と設定値 519
表 18.1 ウオッチドッグタイマーの検出時間 (fc = 80MHz) 524
表 20.1 書き込み/消去時間 536
表 20.2 書き換え方式 537
表 20.3 動作モード説明 539
表 20.4 動作モード設定 539
表 20.5 内蔵フラッシュメモリーと RAM のマッピング 555
表 20.6 端子の接続 556
表 20.7 動作コマンドデータ 557
表 20.8 シングルブート時のメモリーの制約 557
表 20.9 ブートプログラムの転送フォーマット[RAM 転送の場合] 558
表 20.10 ブートプログラムの転送フォーマット [フラッシュメモリーチップ消去およびプロテクトビット消去の場合] 560
表 20.11 対象エリア 561
表 20.12 パスワード領域 564
表 20.13 シリアル動作判定データに対する ACK 応答データ 569
表 20.14 動作コマンドデータに対する ACK 応答データ 569
表 20.15 CHECKSUM データに対する ACK 応答データ 569
表 20.16 フラッシュメモリーチップ消去およびプロテクトビット消去動作に対する ACK 対応データ 569
表 20.17 パスワード領域 573
表 20.18 フラッシュメモリーの機能 576
表 20.19 内部 CPU によるフラッシュメモリーアクセス 585
表 20.20 バスライトサイクル時のアドレスビット構成 586
表 20.21 ブロックアドレス 587
表 20.22 プロテクトビットプログラムアドレス 587
表 20.23 プロテクトビット消去アドレス 587
表 20.24 ID-Read コマンド第 4 バスライトサイクルの ID アドレス(IA)とその後の 588
表 21.1 セキュリティー機能有効時の制限内容 592
表 22.1 デバッグインターフェースと汎用ポートの対応 598
表 22.2 デバッグインターフェース端子兼用汎用ポートのリセット解除後のポート制御レジスター値 599
表 22.3 デバッグインターフェースと使用するデバッグインターフェース端子 600

表 24.1 絶対最大定格.....607
表 26.1 改訂履歴.....629

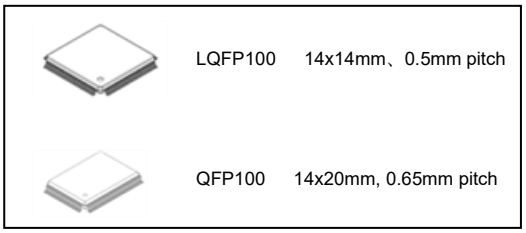
****

Arm,Cortex および Thumb は Arm Limited(またはその子会社)の US またはその他の国における登録商標です。 All rights reserved.

本資料に記載されている社名・商品名・サービス名などは、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。

CMOS 形 デジタル集積回路 シリコン モノリシック

TMPM370FYDFG
TMPM370FYFG



TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は、Arm® Cortex®-M3 コアを内蔵した 32 ビット RISC マイクロプロセッサーです。

製品名	ROM (FLASH)	RAM	パッケージ
TMPM370FYDFG	256Kbyte	10Kbyte	QFP100-P-1420-0.65Q
TMPM370FYFG	256Kbyte	10Kbyte	LQFP100-P-1414-0.50H

1. 特長

(1) Arm 社製 Cortex-M3 コアを使用

(a) Thumb®-2 命令で、コード効率の向上を実現

- プログラムフロー改善のための新しい 16 ビット命令
- 性能とコードサイズ向上のための新しい 32 ビット命令
- 32 ビット/16 ビット混在の命令セットでコード効率を向上

(b) 高性能化と低消費電力化を同時に実現

【高性能化】

- 32 ビット乗算(32 × 32 = 32 ビット)を 1 クロックで実行
- 除算を 2 ~ 12 クロックで実行

【低消費電力化】

- 低消費電力ライブラリーを使用した最適化設計
- プロセッサーコアの動作を停止させるスタンバイ機能

(c) リアルタイム制御に向いた高速割り込み応答

- 実行時間の長い命令は割り込みで中断可能
- スタックへの PUSH をハードウェアで自動的に実行

(2) 内蔵プログラムメモリー/データメモリー

- 内蔵 RAM: 10Kbyte
- 内蔵 Flash ROM: 256Kbyte

(3) 16 ビットタイマー/イベントカウンター(TMRB): 8 チャネル

- 16 ビットインターバルタイマーモード
- 16 ビットイベントカウンターモード
- インプットキャプチャー機能
- 外部トリガーPPG 出力

(4) ウオッチドッグタイマー(WDT): 1 チャネル

- リセットまたはマスク不能割り込み(NMI)発生

(5) パワーオンリセット回路(POR)

(6) 電圧検出回路(VLTD)

(7) 周波数検知回路(OFD)

(8) ベクトルエンジン(VE): 1 ユニット

- モーター制御用演算機能
- 2 モーター対応

(9) モーター制御回路(PMD): 2 チャネル

- 3 相相補 PWM 出力
- AD コンバーターを連動させる同期トリガー生成
- 緊急停止保護機能(EMG/コンパレーター出力)

(10) エンコーダー入力回路(ENC): 2 チャネル

- インクリメンタル形エンコーダー対応(AB 信号/ABZ 信号)
- 回転方向検出回路
- 絶対位置検出カウンター
- 位置コンペア回路
- ノイズフィルター内蔵
- 3 相センサー入力対応

(11) シリアルチャネル(SIO/UART): 4 チャネル

- UART/SIO モード選択可能(4byte FIFO 内蔵)

(12) 12 ビットアナログ/デジタルコンバーター(ADC) : 2 ユニット(アナログ入力: 22 チャネル)

- トリガースタート機能: TMRB 割り込み/PMD トリガーによるスタート可能
- 常時変換可能
- AD 監視機能 2ch
- 変換時間 2μs(AD 変換クロック 40MHz 時)

(13) オペアンプ(AMP): 4 チャネル

- 8 ゲイン選択可能

(14) コンパレーター(CMP): 3+1 チャネル

- モーター制御回路の緊急停止保護用
- 2 入力選択可能(オペアンプ出力/アナログ入力)

(15) 入出力ポート(PORT): 76 端子

- 入出力端子 : 74 本
- 入力端子 : 2 本

(16) 割り込み機能

- 内部 62 本: 7 レベルの優先順位設定可能(ウオッチドッグタイマー割り込みを除く)
- 外部 16 本: 7 レベルの優先順位設定可能

(17) 低消費電力モード

- IDLE、STOP モード

(18) クロック/モード制御(CG)

- PLL 内蔵(8 逓倍)
- クロックギア機能: 高速クロックを 1、2、4、8、16 に分周可

(19) エンディアン

- リトルエンディアン

(20) 最大動作周波数: 80MHz

(21) 動作電圧範囲

- 4.5 ~ 5.5V(内蔵レギュレーター使用)

(22) 温度範囲

- -40°C ~ 85°C (Flash W/E およびデバック時以外)
- 0°C ~ 70°C (Flash W/E 時)

(23) パッケージ

- QFP100-P-1420-0.65Q (14mm × 20mm、0.65mm ピッチ)
- LQFP100-P-1414-0.50H (14mm × 14mm、0.5mm ピッチ)

1.1. 機能別製品一覧

表 1.1 機能別製品一覧

内蔵機能		TMPM370FYDFG TMPM370FYFG
Memory	Flash (KB)	256
	RAM (KB)	10
I/O port	PORT (pin)	76
Interrupt	Internal	62
	External	16
Timer function	TMRB (ch)	8
Serial communication function	SIO/UART (ch)	4
Analog function	12-bit ADC Unit A/B (AIN ch)	22
	AMP (ch)	4
	CMP (ch)	3+1
Motor control peripherals	VE (unit)	1
	PMD (ch)	2
	ENC (ch)	2
System function	VLTD (ch)	1
	WDT (ch)	1
	OFD (ch)	1
	POR	1
Debug interface	Debug	JTAG/SW/TRACE
Package	Package type	QFP100 (14mm x 20mm、0.65mm pitch)
		LQFP100 (14mm x 14mm、0.5mm pitch)

1.2. ブロック図

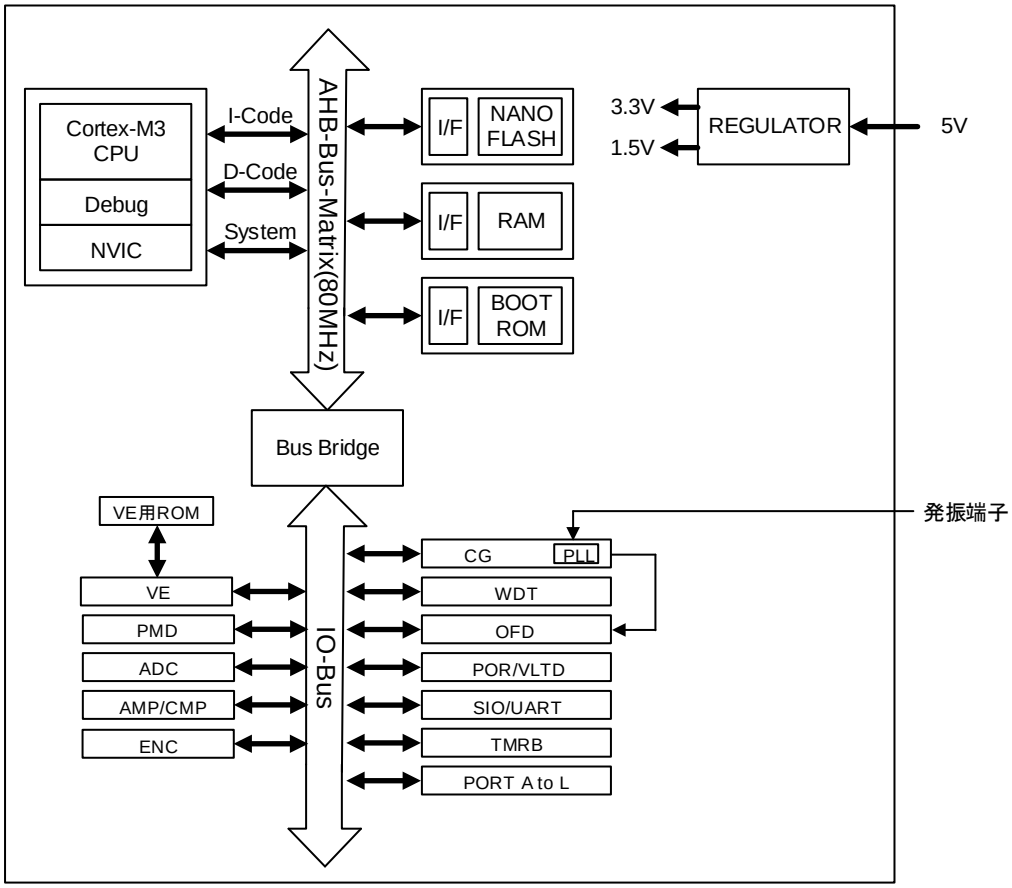
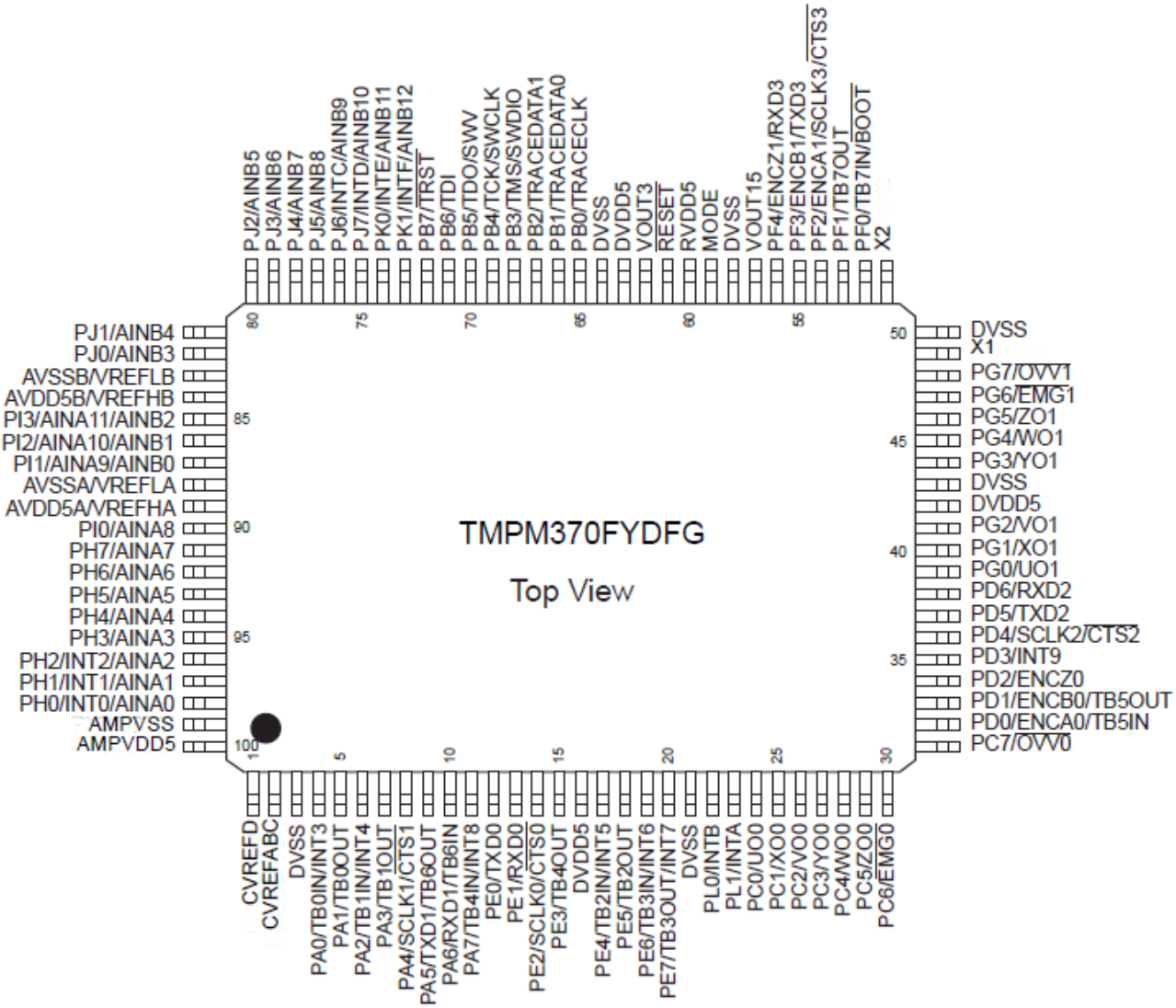


図 1.1 ブロック図

1.3. ピン配置図 (top view)

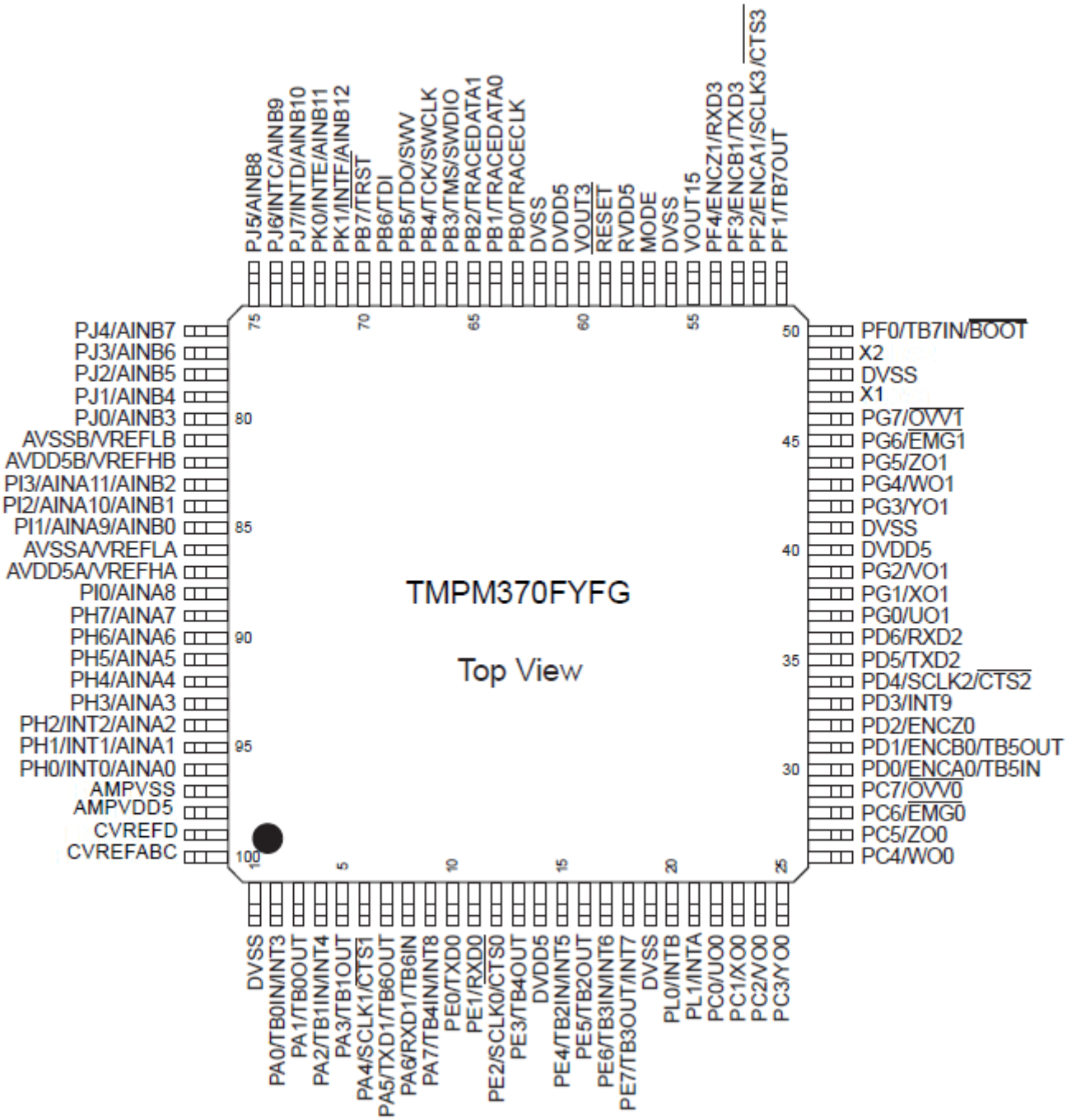
1.3.1. QFP100

TMPM370FYDFG のピン配置図は、下図のとおりです。



1.3.2. LQFP100

TMPM370FYFG のピン配置図は、下図のとおりです。



1.4. ピン名称と機能

1.4.1. 機能端子とポート割り当て(端子番号)

機能端子から見たポート割り当てと各製品の端子番号です。

表 1.2 信号接続一覧: SIO/UART

参照周辺機能章	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
SIO/UART	RXD0	PE1	13	11
	TXD0	PE0	12	10
	$\overline{\text{CTS0}}$/SCLK0	PE2	14	12
	RXD1	PA6	10	8
	TXD1	PA5	9	7
	$\overline{\text{CTS1}}$/SCLK1	PA4	8	6
	RXD2	PD6	38	36
	TXD2	PD5	37	35
	$\overline{\text{CTS2}}$/SCLK2	PD4	36	34
	RXD3	PF4	56	54
	TXD3	PF3	55	53
	$\overline{\text{CTS3}}$/SCLK3	PF2	54	52

表 1.3 信号接続一覧: TMRB

参照周辺機能章	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
TMRB	TB0IN	PA0	4	2
	TB0OUT	PA1	5	3
	TB1IN	PA2	6	4
	TB1OUT	PA3	7	5
	TB2IN	PE4	17	15
	TB2OUT	PE5	18	16
	TB3IN	PE6	19	17
	TB3OUT	PE7	20	18
	TB4IN	PA7	11	9
	TB4OUT	PE3	15	13
	TB5IN	PD0	32	30
	TB5OUT	PD1	33	31
	TB6IN	PA6	10	8
	TB6OUT	PA5	9	7
	TB7IN	PF0	52	50
	TB7OUT	PF1	53	51

表 1.4 信号接続一覧: ADC/AMP/CMP

参照周辺機能章	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
ADC	AINA0	PH0	98	96
	AINA1	PH1	97	95
	AINA2	PH2	96	94
	AINA3	PH3	95	93
	AINA4	PH4	94	92
	AINA5	PH5	93	91
	AINA6	PH6	92	90
	AINA7	PH7	91	89
	AINA8	PI0	90	88
	AINA9/AINB0	PI1	87	85
	AINA10/AINB1	PI2	86	84
	AINA11/AINB2	PI3	85	83
	AINB3	PJ0	82	80
	AINB4	PJ1	81	79
	AINB5	PJ2	80	78
	AINB6	PJ3	79	77
	AINB7	PJ4	78	76
	AINB8	PJ5	77	75
	AINB9	PJ6	76	74
	AINB10	PJ7	75	73
	AINB11	PK0	74	72
	AINB12	PK1	73	71
AMP/CMP	AINA9/AINB0	PI1	87	85
	AINA10/AINB1	PI2	86	84
	AINA11/AINB2	PI3	85	83
	AINB3	PJ0	82	80

表 1.5 信号接続一覧: INT/PMD

参照周辺機能	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
INT	INT0	PH0	98	96
	INT1	PH1	97	95
	INT2	PH2	96	94
	INT3	PA0	4	2
	INT4	PA2	6	3
	INT5	PE4	17	15
	INT6	PE6	19	17
	INT7	PE7	20	18
	INT8	PA7	11	9
	INT9	PD3	35	33
	INTA	PL1	23	21
	INTB	PL0	22	20
	INTC	PJ6	76	74
	INTD	PJ7	75	73
	INTE	PK0	74	72
	INTF	PK1	73	71
PMD	UO0	PC0	24	22
	XO0	PC1	25	23
	VO0	PC2	26	24
	YO0	PC3	27	25
	WO0	PC4	28	26
	ZO0	PC5	29	27
	$\overline{\text{EMG0}}$	PC6	30	28
	$\overline{\text{OVV0}}$	PC7	31	29
	UO1	PG0	39	37
	XO1	PG1	40	38
	VO1	PG2	41	39
	YO1	PG3	44	42
	WO1	PG4	45	43
	ZO1	PG5	46	44
	$\overline{\text{EMG1}}$	PG6	47	45
	$\overline{\text{OVV1}}$	PG7	48	46

表 1.6　信号接続一覧: ENC/DEBUG/制御端子/電源

参照周辺機能	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
ENC	ENCA0	PD0	32	30
	ENCB0	PD1	33	31
	ENCZ0	PD2	34	32
	ENCA1	PF2	54	52
	ENCB1	PF3	55	53
	ENCZ1	PF4	56	54
DEBUG	TMS/SWDIO	PB3	68	66
	TCK/SWCLK	PB4	69	67
	TDO/SWV	PB5	70	68
	TDI	PB6	71	69
	$\overline{\text{TRST}}$	PB7	72	70
	TRACECLK	PB0	65	63
	TRACEDATA0	PB1	66	64
	TRACEDATA1	PB2	67	65
制御端子	$\overline{\text{BOOT}}$	PF0	52	50
	MODE	-	59	57
	$\overline{\text{RESET}}$	-	61	59
電源	DVSS	-	3	1
	DVSS	-	21	19
	DVSS	-	43	41
	DVSS	-	50	48
	DVSS	-	58	56
	DVSS	-	64	62
	DVDD5	-	16	14
	DVDD5	-	42	40
	DVDD5	-	63	61
	RVDD5	-	60	58
	VOUT15	-	57	55
	VOUT3	-	62	60
	AVSSB/VREFLB	-	83	81
	AVDD5B/VREFHB	-	84	82
	AVSSA/VREFLA	-	88	86
	AVDD5A/VREFHA	-	89	87
	CVREFABC	-	2	100
	CVREFD	-	1	99
	AMPVDD5	-	100	98
	AMPVSS	-	99	97

1.5. 電源の種類と供給端子

表 1.7　電源の種類と供給端子

電源の種類	電圧範囲	電源供給端子
DVDD5	4.5 ~ 5.5V	PA、PB、PC、PD、PE、PF、PG、PL $\overline{\text{RESET}}$、MODE
AVDD5A		PH、PI
AVDD5B		PJ、PK
RVDD5		-
VOUT15	1.35 ~ 1.65V	内部レギュレーターの安定化コンデンサー接続端子です。外部回路への電源供給はできません。DVSS との間にコンデンサー(3.3μF ~ 4.7μF)を接続してください。
VOUT3	2.7 ~ 3.6V	内部レギュレーターの安定化コンデンサー接続端子です。外部回路への電源供給はできません。DVSS との間にコンデンサー(3.3μF ~ 4.7μF)を接続してください。

2. プロセッサーコア

TX03 シリーズには、高性能 32 ビットプロセッサーコア(Arm 社 Cortex-M3 コア)が内蔵されています。プロセッサーコアの動作については、Arm 社からリリースされる"Cortex-M シリーズプロセッサーの Arm ドキュメンテーションセット"を参照してください。ここでは、製品固有の情報について説明します。

2.1. コアに関する情報

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG で使用している Cortex-M3 コアのリビジョンは以下のとおりです。

CPU コア部、アーキテクチャーなどの詳細は、Arm 社のホームページよりドキュメントを参照してください。

表 2.1 コアリビジョン

製品名	コアリビジョン
TMPM370FYDFG	r2p0
TMPM370FYFG	

2.2. 構成可能なオプション

Cortex-M3 コアは、一部のブロックについて実装するかどうかを選択することができます。
TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG での構成は以下のとおりです。

表 2.2 構成可能なオプションと実装

構成可能なオプション	実装
FPB	リテラルコンパレーター: 2 本 命令コンパレーター: 6 本
DWT	コンパレーター: 4 本
ITM	あり
MPU	なし
ETM	あり
AHB-AP	あり
AHB トレースマクロ セルインターフェース	あり
TPIU	あり
WIC	なし
デバッグポート	JTAG/シリアルワイヤ

2.3. 例外/割り込み

例外/割り込みに関連する製品固有の情報をまとめます。

2.3.1. 割り込み本数

Cortex-M3 コアは割り込み本数を 1 ~ 240 本の間で任意に構成することができます。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の割り込み本数は 78 本です。割り込み本数は NVIC レジスターの割り込みコントローラータイプレジスターの<INTLINESNUM[4:0]>ビットに反映され、本製品では"0x00"が読み出されます。

2.3.2. 割り込み優先度ビット数

Cortex-M3 コアは割り込み優先度ビット数を 3 ~ 8 ビットの間で任意に構成することができます。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の割り込み優先度は 3 ビットです。このビット数は割り込み優先度レジスターとシステムハンドラー優先度レジスターのビット構成に反映されます。

2.3.3. SysTick

Cortex-M3 コアには SysTick と呼ばれるシステムタイマーがあり、SysTick 例外を発生させることができます。

SysTick の詳細については、例外の「6.3. SysTick」および、「6.5.2. NVIC レジスター」を参照してください。

2.3.4. SYSRESETREQ

Cortex-M3 コアは、アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスターの<SYSRESETREQ>ビットがセットされると SYSRESETREQ 信号を出力します。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では SYSRESETREQ 信号が出力されるとウオームリセットと同様の動作になります。

2.3.5. LOCKUP

回復不能な例外が発生すると Cortex-M3 コアは LOCKUP 信号を出力し、ソフトウェアに重大な誤りのあることを示します。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG ではこの信号は未使用です。LOCKUP 状態から復帰する際にはマスク不能割り込み(NMI) またはリセットを使用する必要があります。

2.3.6. 補助フォールトステータスレジスター

Cortex-M3 コアにはソフトウェアに対して追加のシステムフォールト情報を提供するための補助フォールトステータスレジスターが準備されています。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG ではこのレジスターに対して機能を定義していません。リードすると常に"0x0000_0000"が読み出されます。

2.4. イベント

Cortex-M3 コアにはイベント出力信号とイベント入力信号があります。イベント出力信号は、SEV 命令実行により出力されます。また、イベントが入力されると WFE 命令による低電力状態から復帰します。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、イベント出力信号、イベント入力信号とも未使用です。SEV 命令、WFE 命令は使用しないでください。

2.5. 電力管理

Cortex-M3 コアには電力管理のための信号として SLEEPING および SLEEPDEEP があります。

SLEEPDEEP は、システム制御レジスターの<SLEEPDEEP>ビットがセットされている場合に出力されます。

これらの信号は、割り込み待ち(WFI)命令の実行、イベント待ち(WFE)命令の実行または、システム制御レジスターの<SLEEPONEXIT>ビットがセットされている場合の割り込みサービスルーチン(ISR)からの退出時に出力されます。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、SLEEPDEEP 信号は使用していません。<SLEEPDEEP>ビットはセットしないでください。また、イベント信号も未使用のため、WFE 命令は使用しないでください。

電力管理については、「5. クロック/モード制御(CG)」を参照してください。

2.6. 排他アクセス

Cortex-M3 コアは DCode バスおよびシステムバスの排他アクセスをサポートしていますが、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG ではこの機能を使用していません。

3. メモリーマップ

3.1. メモリーマップ

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG のメモリーマップは、Arm Cortex-M3 コアのメモリーマップに沿って作られており、内蔵 ROM 領域は Cortex-M3 コアメモリーマップの Code 領域、内蔵 RAM 領域は SRAM 領域、特殊機能レジスター(SFR)領域は Peripheral 領域に割り付けられています。特殊機能レジスター(SFR: Special function register)とは、入出力ポートおよび周辺機能のコントロールレジスターを示します。SRAM 領域、SFR 領域は全てビットバンド領域に含まれています。

CPU 内レジスター領域はコア内部のレジスター領域です。

各領域の詳細については、"Cortex-M シリーズプロセッサーの Arm ドキュメンテーションセット"を参照してください。

"Fault"と記載された領域では、アクセスするとメモリーフォールトが有効な場合にはメモリーフォールト、無効な場合にはハードフォールトが発生します。また、ベンダー固有領域にはアクセスしないでください。

3.1.1. メモリーマップ

メモリーマップを以下に示します。

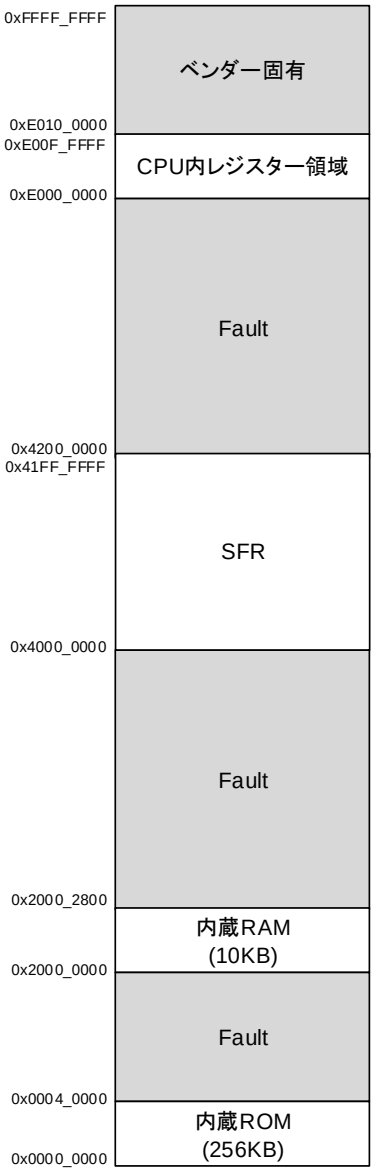


図 3.1 メモリーマップ

3.2. SFR 領域詳細

SFR 領域の詳細を表 3.1 に示します。

表 3.1 の Reserved(予約領域)にはアクセスしないでください。また、周辺機能によってはアクセスを制限するアドレスがあります。詳細は各周辺機能の章を参照してください。

表 3.1 SFR詳細

Start Address	End Address	Peripheral
0x4000_0000	0x4000_037F	PORT
0x4000_0380	0x4000_FFFF	Reserved
0x4001_0000	0x4001_01FF	TMRB
0x4001_0200	0x4001_03FF	Reserved
0x4001_0400	0x4001_053F	ENC
0x4001_0540	0x4002_007F	Reserved
0x4002_0080	0x4002_017F	SIO/UART
0x4002_0180	0x4002_FFFF	Reserved
0x4003_0000	0x4003_02FF	ADC
0x4003_0300	0x4003_03FF	Reserved
0x4003_0400	0x4003_043F	AMP/CMP
0x4003_0440	0x4003_FFFF	Reserved
0x4004_0000	0x4004_003F	WDT
0x4004_0040	0x4004_01FF	Reserved
0x4004_0200	0x4004_023F	CG
0x4004_0240	0x4004_07FF	Reserved
0x4004_0800	0x4004_083F	OFD
0x4004_0840	0x4004_08FF	Reserved
0x4004_0900	0x4004_093F	VLTD
0x4004_0940	0x4004_FFFF	Reserved
0x4005_0000	0x4005_023F	VE
0x4005_0240	0x4005_03FF	Reserved
0x4005_0400	0x4005_04FF	PMD
0x4005_0500	0x4007_FFFF	Reserved
0x4008_0000	0x41FF_EFFF	Hard fault
0x41FF_F000	0x41FF_F03F	FLASH
0x41FF_F040	0x41FF_FFFF	Reserved

4. リセット動作

4.1. リセット入力前状態

電源を投入したときに、パワーオンリセット信号が発生する、または$\overline{\text{RESET}}$端子に"Low"レベルが入力されるまでの期間、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の内部は不確定であり、レジスターの設定や各端子の状態は不定となります。

4.2. リセット期間

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG はパワーオンリセット回路を内蔵しており、電源を投入したときに、パワーオンリセット信号が発生されリセットされます。

また、$\overline{\text{RESET}}$端子からリセットをかける場合、電源電圧が動作範囲内であり、かつ、高周波発振器の発振が安定した状態で、$\overline{\text{RESET}}$端子を少なくとも 12 システムクロック間(1.2μs@10MHz 発振接続時)、"Low"レベルにしてください。

注 1) $\overline{\text{RESET}}$端子に"Low"レベルを入力している間、電源を投入することも可能です。

注 2) リセット動作により、内蔵 RAM のデータは保証できなくなります。

4.3. リセット解除後

リセット解除後は、Cortex-M3 コアの制御レジスターや周辺機能のレジスターは初期化されます。

なお、リセット解除後は PLL 逓倍回路が停止しているので、PLL 逓倍回路を使用するときには CGOSCCR および CGPLLSEL で設定が必要です。

リセット例外処理を行った後、CPU はリセットの割り込み処理ルーチンへ分岐します。リセットの割り込み処理ルーチンの先頭アドレスは、0x0000_0004 番地に格納します。

5. クロック/モード制御(CG)

5.1. 特長

クロック/モード制御ブロックでは、クロックギアやプリスケーラークロックの選択、PLL(逓倍回路)や発振器のウオーミングアップなどを設定することが可能です。

また、低消費電力モードがあり、モード遷移を行うことで電力の消費を抑えることが可能です。

この章では、クロックの制御および動作モードとモード遷移について説明します。

クロックに関連する機能としては以下のようなものがあります。

- システムクロックの制御
- プリスケーラークロックの制御
- クロック逓倍回路(PLL)の制御
- ウオーミングアップタイマーの制御

また、動作モードとして NORMAL モードと各種低消費電力モードがあり、使用方法に応じて消費電力を抑えることができます。

5.2. レジスター説明

5.2.1. レジスター一覧

CG 関連のレジスターとアドレスを以下に示します。

レジスター名		Address (Base+)
システムコントロールレジスター	CGSYSCR	0x0000
発振コントロールレジスター	CGOSCCR	0x0004
スタンバイコントロールレジスター	CGSTBYCR	0x0008
PLLセレクトレジスター	CGPLLSEL	0x000C
Reserved	-	0x0010

注) "Reserved"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

5.2.2. CGSYSCR (システムコントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	FPSEL	-	PRCK		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	GEAR		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:18	-	R	リードすると"0"が読めます。
17:16	-	R/W	"01"をライトしてください。
15:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12	FPSEL	R/W	fperiph選択 0: fgear 1: fc fperiphのソースクロックを選択します。
11	-	R	リードすると"0"が読めます
10:8	PRCK[2:0]	R/W	プリスケーラークロック選択 000: fperiph 001: fperiph / 2 010: fperiph / 4 011: fperiph / 8 100: fperiph / 16 101: fperiph / 32 110: Reserved 111: Reserved 周辺機能に供給するプリスケーラークロックを選択します。
7:3	-	R	リードすると"0"が読めます
2:0	GEAR[2:0]	R/W	高速クロック(fc)のギア選択 000: fc 001: Reserved 010: Reserved 011: Reserved 100: fc / 2 101: fc / 4 110: fc / 8 111: fc / 16

5.2.3. CGOSCCR (発振コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	WUODR							
リセット後	1	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	WUODR				-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	1	1	1	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	XEN1
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	WUPSEL1	PLLON	WUEF	WUEON
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:20	WUODR[11:0]	R/W	発振器用ウオーミングアップタイマーの時間を設定
19:16	-	R/W	"1110" をライトしてください。
15:12	-	R/W	"0"をライトしてください。
11:10	-	R	リードすると"0"が読めます
9	-	R/W	"0"をライトしてください。
8	XEN1	R/W	高速発振器(外部 OSC) 0: 停止 1: 発振 高速発振器(OSC)の動作を選択します。
7:4	-	R	リードすると"0"が読めます
3	WUPSEL1	R/W	ウオーミングアップタイマー(WUP)のクロック "0"を設定してください。
2	PLLON	R/W	PLL動作 0: 停止 1: 発振 PLL(逓倍回路)の動作を選択します。 リセット解除後は停止状態です。PLLを使用する場合はこのビットをセットします。
1	WUEF	R	ウオーミングアップタイマー(WUP)ステータス(注) 0: ウオーミングアップ終了 1: ウオーミングアップ中 このビットを読むことでウオーミングアップタイマーの動作状態を確認できます。
0	WUEON	W	ウオーミングアップタイマー(WUP)制御(注) 0: don't care 1: ウオーミングアップスタート このビットをセットすることでウオーミングアップタイマーがスタートします。

注) 自動ウオーミングアップする低消費電力モード(表 5.6)からの復帰では、本レジスターの設定をする必要はありません。ソフトウェアで WUP スタートした場合にはウオーミングアップが終了していること(<WUEF> = "0")を確認してから、モード遷移するようにしてください。

5.2.4. CGSTBYCR (スタンバイコントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	DRVE
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	RXEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	STBY		
リセット後	0	0	0	0	0	0	1	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:18	-	R	リードすると"0"が読めます
17	-	R/W	"0"をライトしてください。
16	DRVE	R/W	STOPモード中の端子状態制御 0: STOPモード中端子をドライブしません 1: STOPモード中も端子をドライブします
15:10	-	R	リードすると"0"が読めます
9	-	R/W	"0"をライトしてください。
8	RXEN	R/W	STOPモード解除後の高速発振器の動作選択 "1" を設定してください。
7:3	-	R	リードすると"0"が読めます
2:0	STBY[2:0]	R/W	低消費電力モード選択 000: Reserved 001: STOP 010: Reserved 011: IDLE 100: Reserved 101: Reserved 110: Reserved 111: Reserved

5.2.5. CGPLLSEL (PLL セレクトレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	1	0	1	0	0	0	0	1
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	PLLSEL
リセット後	0	0	1	1	1	1	1	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます
15:12	-	R/W	"1010"をライトしてください。
11	-	R	リードすると"0"が読めます
10:1	-	R/W	"00_1001_1111"をライトしてください。
0	PLLSEL	R/W	PLL選択 0: f_{OSC} 1: PLL使用 PLLで逓倍されたクロック(f_{PLL})をシステムクロック: fcへのクロックソースとするか選択します。 リセット解除後は"f_{OSC}"が選択されているので、PLLを使用する場合は設定が必要です。

注) PLL を設定する場合、周波数検知回路(OFD)は必ず禁止の状態で行ってください。特に OFD リセットが発生した後、イニシャルルーチンで PLL の設定を行う場合、OFD は許可のままとなっていますので注意が必要です。

PLL 設定例

OFDCR1<OFDWEN[7:0]> = "0xF9" : OFD 制御レジスター書き込み許可コード設定
OFDCR2<OFDEN[7:0]> = "0x00" : OFD 動作禁止
CGPLLSEL<PLLSEL> = "1" : PLL オン
OFDMNPLLON = "xxxx" : 検知周波数下限設定
OFDMXPLLON = "yyyy" : 検知周波数上限設定
OFDCR2<OFDEN[7:0]> = "0xE4" : OFD 動作許可
OFDCR1<OFDWEN[7:0]> = "0x06" : OFD 制御レジスター書き込み禁止コード設定

5.3. クロック制御

5.3.1. クロックの種類

クロックの一覧を以下に示します。

f_{OSC}:	外部発振器より入力されるクロック(X1、X2 端子)
f_{PLL}:	PLL により逓倍(8 逓倍)されたクロック
fc:	CGPLLSEL<PLLSEL>で選択されたクロック(高速クロック)
fgear:	CGSYSCR<GEAR[2:0]>で選択されたクロック
fsys:	fgear と同一クロック(システムクロック)
fperiph:	CGSYSCR<FPSEL>で選択されたクロック
ΦT0:	CGSYSCR<PRCK[2:0]>で選択されたクロック(プリスケーラークロック)

高速クロック fc と、プリスケーラークロック ΦT0 は以下のように分周することが可能です。

高速クロック:	fc、fc / 2、fc / 4、fc / 8、fc / 16
プリスケーラークロック:	fperiph、fperiph / 2、fperiph / 4、fperiph / 8、fperiph / 16、fperiph / 32

5.3.2. リセット動作による初期値

リセット動作により、クロックの設定は下記のような状態に初期化されます。

高速発振器(OSC):	停止(X1、X2)
PLL(逓倍回路):	停止
高速クロックギア:	fc(分周なし)

リセット動作により、全てのクロックの設定が f_{OSC} と同じになります。

$fc = f_{OSC}$

$fsys = fc (= f_{OSC})$

$fperiph = fc (= f_{OSC})$

$ΦT0 = fperiph (= f_{OSC})$

5.3.3. クロック系統図

クロック系統図を図 5.1 に示します。

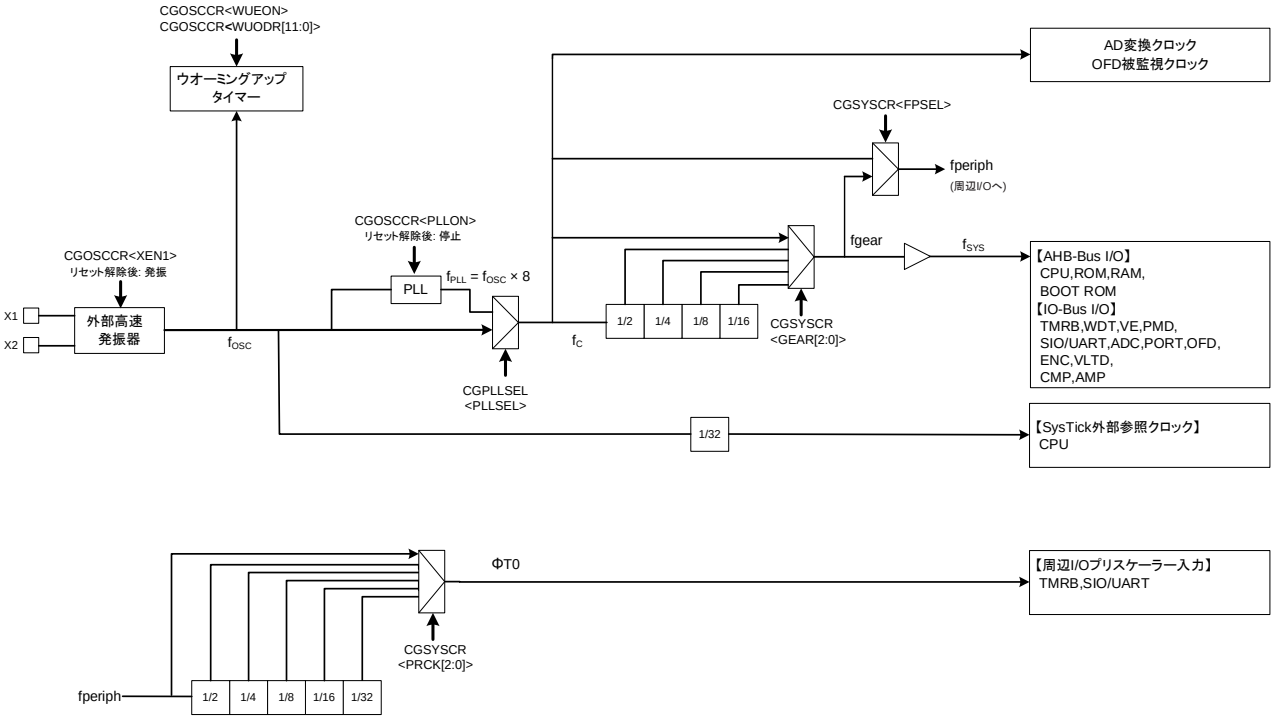


図 5.1　クロック系統図

セレクターに入力されるクロックのうち、矢印つきのものがリセット後の初期状態として選択されます。

5.3.4. クロック逓倍回路(PLL)

高速発振器の出力クロック f_{OSC} を 8 逓倍した f_{PLL} クロックを出力する回路です。これにより、発振器の発振周波数は低く内部クロックは高速にすることが可能です。

PLL はリセット解除後、禁止状態です。PLL を有効にするためには、CGOSCCR<PLLON>を"1"に設定し、CGPLLSEL<PLLSEL>を"1"に設定することで f_{OSC} を 8 逓倍した f_{PLL} クロックを出力することができます。なお、PLL の動作が安定するまでの時間をウオーミングアップ機能などを用いて確保する必要があります。

注) PLL 動作開始の PLL 安定時間は、約 200μs 以上待ってください。

5.3.4.1. PLL 設定シーケンス

以下にリセット解除後の PLL 設定シーケンスを示します。

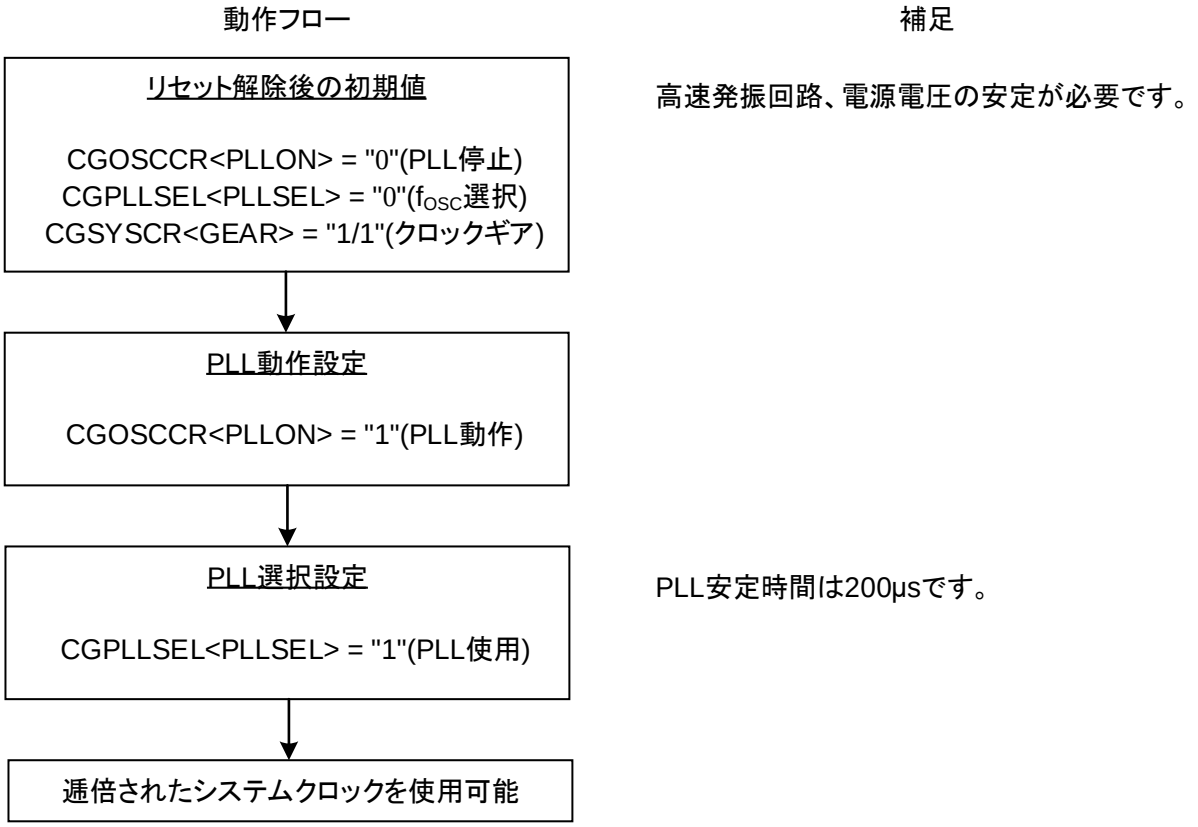


図 5.2 リセット解除後のPLL設定シーケンス

注) PLL を停止する場合は、CGPLLSEL<PLLSEL> = "0"を設定後、CGPLLSEL<PLLSEL>をリードして"0"となっていることを確認した後に CGOSCCR<PLLON> = ”0”(PLL 停止)を設定してください。

5.3.5. ウオーミングアップ機能

ウオーミングアップ機能は、STOP モード解除時に、ウオーミングアップタイマーを用いて発振子の発振安定時間や、PLL の安定時間を確保するための機能です。詳細機能については「5.6.6. ウオーミングアップ」で説明します。

注) ウオーミングアップタイマー動作中に、低消費電力モードへ遷移しないでください。

ウオーミングアップ機能は、STOP モードからの復帰の際にも使用されます。この場合には、低消費電力モードからの復帰割り込みが発生すると自動的にタイマーがカウントを開始し、設定された時間のカウント終了後、システムクロックが出力され CPU が動作を開始します。

STOP モードでは PLL が禁止になるため、復帰の際には内部発振器の安定の他に、PLL の安定時間も考慮してウオーミングアップ時間を設定してください。

ウオーミングアップ機能の設定方法を説明します。

(1) クロックの選択
ウオーミングアップカウンターのカウントアップクロックを CGOSCCR<WUPSEL1>で選択します。
(<WUPSEL1>は"0"を設定してください。)

(2) ウオーミングアップカウンター設定値の算出
ウオーミングアップ時間は CGOSCCR<WUODR[11:0]>により任意の値が設定可能です。

以下にウオーミングアップ時間の計算式と設定例を示します。

$$\text{ウオーミングアップサイクル数} = \frac{\text{ウオーミングアップ時間}}{\text{ウオーミングアップクロック周期}}$$

<例>高速発振子 8MHz 使用時、ウオーミングアップ時間 5ms を設定する場合

$$\frac{\text{ウオーミングアップ時間}}{\text{ウオーミングアップクロック周期}} = \frac{5\text{ms}}{1\ /\ 8\text{MHz}} = 40{,}000\ \text{サイクル} = \text{"0x9C40"}$$

下位 4 ビットを切り捨て、”0x9C4”を CGOSCCR<WUODR[11:0]>に設定します。

(3) ウオーミングアップの開始および終了確認
ウオーミングアップタイマーのスタートおよび終了確認は、CGOSCCR<WUEON>および<WUEF>を使用してソフトウェア (命令)により行います。

注) ウオーミングアップタイマーは発振クロックで動作しているため、発振周波数にゆらぎがある場合は誤差を含みます。従って概略時間としてとらえる必要があります。

以下に、ウオーミングアップ機能の設定例を示します。

ウオーミングアップ機能設定例(外部発振の場合)

CGOSCCR<WUPSEL1> = "0"	: ウオーミングアップタイマークロック設定
CGOSCCR<WUODR[11:0]> = "0x9C4"	: ウオーミングアップ時間設定
CGOSCCR<WUEON> = "1"	: ウオーミングアップタイマー(WUP)スタート
CGOSCCR<WUEF>リード	: "0"(WUP 終了)になるまでウエイト

5.3.6. システムクロック

システムクロックは高速クロックのみです。高速クロックは分周することができます。

- 外部発振周波数: 8MHz ~ 10MHz
- クロックギア: 1、2、4、8、16 分周(リセット後は 1 分周)

表 5.1 高速クロック範囲(単位はMHz)

入力周波数		最低動作周波数	最大動作周波数	リセット後 (PLL = OFF、CG = 1 / 1)	クロックギア(CG): PLL = ON時					クロックギア(CG): PLL = OFF時				
					1 / 1	1 / 2	1 / 4	1 / 8	1 / 16	1 / 1	1 / 2	1 / 4	1 / 8	1 / 16
f_{osc}	8	1	80	8	64	32	16	8	4	8	4	2	1	-
	10			10	80	40	20	10	5	10	5	2.5	1.25	-

注 1) PLL = ON/OFF は CGOSCCR<PLLON>で設定します。

注 2) 高速クロックの分周の切り替えは、CGSYSCR<GEAR[2:0]>へ値を書き込むことにより実行されます。書き込み後、実際に切り替わるまでに若干の時間を要します。

注 3) PLL = OFF 時、クロックギアの 1 / 16 は設定しないでください。

注 4) SysTick 使用時、クロックギアの 1 / 16 は設定しないでください。

5.3.7. プリスケーラークロック

周辺機能には、それぞれにクロックを分周するプリスケーラーがあります。これらのプリスケーラーへ入力するクロック ΦT0 は、CGSYSCR<FPSEL>から選択されたクロック fperiph をさらに CGSYSCR<PRCK[2:0]>で分周することが可能です。リセット後の ΦT0 は fperiph / 1 が選択されます。

注) クロックギアを使用する場合、周辺機能の各ブロックのプリスケーラー出力 ΦTn は、ΦTn < fsys を満足するように時間設定(ΦTn が fsys よりも遅くなるように)してください。また、タイマーカウンターなどの周辺機能動作中にクロックギアを切り替えないようにしてください。

5.4. モードとモード遷移

5.4.1. モード状態遷移

動作モードとしてシステムクロックに高速クロックを使用する NORMAL モードがあります。

プロセッサーコアの動作を停止して電力の消費を抑える低消費電力モードとして、IDLE モード、STOP モードがあります。

図 5.3 にモード状態遷移図を示します。

WFI 命令、Sleep-on-exit については、"Cortex-M シリーズプロセッサーの Arm ドキュメンテーションセット"を参照してください。

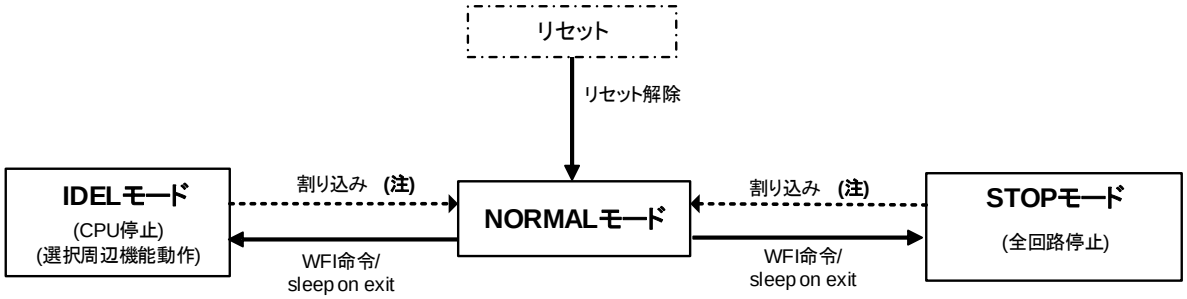


図 5.3 モード状態遷移図

注) 復帰時にウオーミングアップが必要となります。ウオーミングアップ時間の設定は IDLE モード、STOP モードに入る前のモード(NORMAL)で設定する必要があります。ウオーミングアップ時間に関しては、「5.6.6. ウオーミングアップ」を参照してください。

5.5. 動作モード

動作モードには NORMAL モードがあります。NORMAL モードの特長は次のとおりです。

5.5.1. NORMAL モード

CPU コアおよび周辺機能を高速クロックで動作させるモードです。リセット解除後は、NORMAL モードになります。

5.6. 低消費電力モード

低消費電力モードには、IDLE、STOP モードがあります。低消費電力モードに移行するには、システムコントロールレジスターCGSTBYCR<STBY[2:0]>でモードを選択し、WFI(Wait For Interrupt)命令を実行します。WFI 命令によって低消費電力モードへ移行した場合、低消費電力モードからの復帰はリセットまたは割り込み発生により行われます。割り込みで復帰する場合には、設定を行っておく必要があります。詳細は「6. 例外」の章の「6.4. 割り込み」を参照してください。

注 1) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG ではイベントによる復帰はサポートしていないため、WFE(Wait For Event)による低消費電力モードへの移行は行わないでください。

注 2) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は、Cortex-M3 コアの SLEEPDEEP による低消費電力モードはサポートしていません。システム制御レジスターの<SLEEPDEEP> ビットは設定しないでください。

IDLE、STOP モードの特長は次のとおりです。

5.6.1. IDLE モード

CPU のみが停止するモードです。周辺機能は、各モジュールの中のレジスターに IDLE モード時の動作/停止設定レジスターを 1 ビット持ち、IDLE モードでの動作設定が可能です。IDLE モード時に動作停止に設定された周辺機能は、IDLE モードへ遷移したときの状態で停止します。

以下に IDLE モードでの動作を設定できる周辺機能の一覧を示します。設定方法は、各機能の章を参照してください。

- 16 ビットタイマー/イベントカウンター(TMRB)
- シリアルチャネル(SIO/UART)
- ウオッチドッグタイマー(WDT)
- ベクトルエンジン(VE)

注) ウオッチドッグタイマーは IDLE モードへ遷移する前に停止してください。

5.6.2. STOP モード

STOP モードでは、内部発振器も含めて全ての内部回路が停止します。

STOP モードが解除されると、STOP モードへ移行する直前の動作モードへ復帰し、動作を開始します。

STOP モードでは、CGSTBYCR<DRVE>の設定により端子の状態を設定することができます。STOP モード時の端子状態を表 5.2 に示します。

表 5.2 STOPモード時の端子状態

	機能	入出力	<DRVE> = 0	<DRVE> = 1
ポート以外	X1	入力専用	×	
	X2	出力専用	"High"レベル出力	
	$\overline{\text{RESET}}$、MODE	入力専用	○	
	VOUT15、VOUT3	出力専用	○	
ポート	TMS TCK TDI $\overline{\text{TRST}}$	入力	○	
	TDO/SWV	出力	データ有効時は許可 データ無効時は禁止	
	SWCLK	入力	○	
	SWDIO	入力	○	
		出力	データ有効時は許可 データ無効時は禁止	
	TRACECLK TRACEDATA0 TRACEDATA1 SWV	出力	○	
	UO0,1、VO0,1、WO0,1 XO0,1、YO0,1、ZO0,1	出力	×	○
	INT0、INT1、INT2、INT3、 INT4、INT5、INT6、INT7、 INT8、INT9、INTA、INTB、 INTC、INTD、INTE、INTF	入力	○	
	上記以外の機能端子または 汎用入出力として使用	入力	×	○
		出力	×	○

注) ○: 入力または出力が許可であることを示します。

×: 入力または出力が禁止であることを示します。

5.6.3. 低消費電力モードの選択

低消費電力モード選択は、CGSTBYCR<STBY[2:0]>の設定で選択されます。

表 5.3 に<STBY[2:0]>の設定により選択されるモードを示します。

表 5.3 低消費電力モードと設定

モード	CGSTBYCR <STBY[2:0]>
STOP	001
IDLE	011

注) 上記以外の設定は行わないでください。

5.6.4. 各モードにおける動作状態

各モードにおける動作状態を表 5.4 に示します。

I/O ポートについては「○」は入出力の有効、「×」は無効を、その他の機能については「○」はクロックが供給されていることを、「×」は供給されていないことを示します。

表 5.4 各動作モードにおける動作状態

周辺機能	NORMAL	IDLE	STOP
プロセッサーコア	○	×	×
I/O ポート	○	○	× (注 2)
PMD	○	○	×
ENC	○	○	×
OFD	○	○	×
ADC	○	○	×
VE	○	モジュールごとに動作/停止選択可能	×
SIO/UART	○		×
TMRB	○		×
WDT	○		×
AMP/CMP	○	○	○ (注 3)
VLTD	○	○	○ (注 3)
POR	○	○	○ (注 3)
CG	○	○	×
PLL	○	○	×
高速発振器(f_c)	○	○	×

注 1) ○: 対象のモード中に動作が可能

×: 対象のモードに移行すると自動的にモジュールへのクロックが停止

注 2) CGSTBYCR<DRVE>の設定によります。

注 3) クロックは供給されていませんが、動作停止しません。

5.6.5. 低消費電力モードの解除

低消費電力モードからの解除は、割り込み、NMI、リセットによって行うことができます。使用できる低消費電力モード解除ソースは、低消費電力モードにより決まります。詳細を表 5.5 に示します。

表 5.5 解除ソースと解除可能なモード

低消費電力モード			IDLE (プログラマブル)	STOP
解除ソース	割り込み	INT0 ~ F (注 1)	○	○
		INTRX0 ~ 3、INTTX0 ~ 3	○	×
		INTVCNA、INTVCNB	○	×
		INTEMG0、1	○	×
		INTOVV0、1	○	×
		INTADAPDA、INTADBPDA	○	×
		INTADAPDB、INTADBPDB	○	×
		INTTB00、10、20、30、40、50、60、70	○	×
		INTTB01、11、21、31、41、51、61、71	○	×
		INTPMD0、1	○	×
		INTCAP00、10、20、30、40、50、60、70	○	×
		INTCAP01、11、21、31、41、51、61、71	○	×
		INTADACPA、INTADBCPA	○	×
		INTADACPB、INTADBCPB	○	×
		INTADASFT、INTADBSFT	○	×
		INTADATMR、INTADBTMR	○	×
		INTENC0、1	○	×
	SysTick 割り込み		○	×
	NMI (INTWDT)		×	×
	リセット ($\overline{\text{RESET}}$端子)		○	○

注 1) ○: 解除後、割り込み処理を開始します(リセットは本製品を初期化します)。
×: 解除に使用できません。

注 2) レベルモードの割り込みによる解除を行う場合、割り込み処理が開始されるまでレベルを保持してください。それ以前でレベルを変化させた場合は、正しい割り込み処理を開始できません。

注 3) 消費電力モードへ移行する場合は、CPU で復帰要因以外の割り込みを禁止してください。禁止していないと復帰要因以外の割り込みで解除が行われる場合があります。

注 4) 各モードからの復帰に必要なウオーミングアップについては「5.6.6 ウオーミングアップ」を参照してください。

- 割り込み要求による解除
  割り込みによって低消費電力モードを解除する場合、CPU で割り込みが検出されるよう準備しておく必要があります。STOP モードの解除に使用する割り込みは、CPU の設定の他にクロックジェネレーターで割り込み検出の設定を行う必要があります。

- マスク不能割り込み(NMI)による解除
  マスク不能割り込みの要因には、WDT 割り込み(INTWDT)があります。INTWDT は IDLE モードでのみ使用可能です。

注) IDLE モード中は CPU によるウオッチドッグタイマーのクリアができませんので注意してください。

- リセットによる解除
  $\overline{\text{RESET}}$端子によるリセットで全ての低消費電力モードからの解除を行うことができます。リセットで解除した場合には通常のリセット動作と同様になり、解除後は NORMAL モードで全てのレジスターが初期化された状態になります。

- SysTick 割り込みによる解除
  SysTick 割り込みは IDLE モードでのみ使用可能です。

割り込みの詳細に関しては、「6. 例外」章を参照してください。

5.6.6. ウオーミングアップ

モード遷移の際には内部回路の安定のためウオーミングアップが必要な場合があります。

STOP モードから NORMAL モードへの遷移では、自動的にウオーミングアップ用カウンターが起動され、設定されているウオーミングアップ時間経過後にシステムクロックの出力が開始されます。このため、STOP モードに移行する命令を実行する前に CGOSCCR<WUPSEL1>でウオーミングアップする発振器の選択(注 1)および、CGOSCCR<WUODR>でウオーミングアップ時間の設定を行ってください。

注 1) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、常に CGOSCCR<WUPSEL1> = “0”を設定してください。

注 2) STOP モードでは PLL が禁止になるため、STOP モード解除の際には内部発振器の安定の他に、PLL の安定時間も考慮してウオーミングアップ時間を設定してください。PLL の安定時間は、約 200μs です。

注 3) 自動ウオーミングアップする低消費電力モードからの復帰では、CGOSCCR<WUEON>の設定をする必要はありません。

各動作モード遷移時におけるウオーミングアップ設定の要否を表 5.6 に示します。

表 5.6 各動作モード遷移時のウオーミングアップ設定

動作モード遷移	ウオーミングアップ設定
NORMAL → IDLE	不要
NORMAL → STOP	不要
IDLE → NORMAL	不要
STOP → NORMAL	必要

5.6.7. モード遷移によるクロック動作

モード遷移の際の、クロック動作について示します。

5.6.7.1. NORMAL→STOP→NORMAL 動作モード遷移

STOP モードから NORMAL モードへ復帰する場合、ウオーミングアップは自動的に起動します。STOP モードへ遷移する前にウオーミングアップ時間の設定を行ってください。

リセットで NORMAL モードへ復帰する場合にはウオーミングアップは行われませんので、発振動作が安定するまでリセット信号を有効に保ってください。

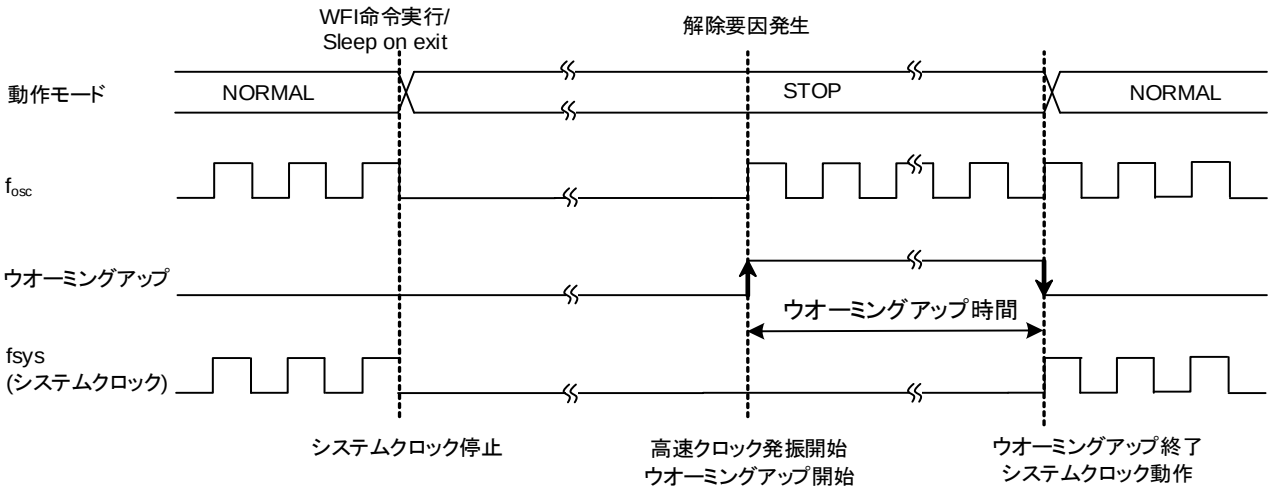


図 5.4 NORMAL→STOP→NORMAL動作モード遷移

6. 例外

この章では、例外の特長、種類、処理について説明します。

例外は CPU のアーキテクチャーと深くかかわる部分ですので、必要に応じて「Arm Cortex-M シリーズプロセッサーの Arm ドキュメンテーションセット」を参照してください。

6.1. 概要

例外は CPU に対し、現在実行中の処理を中断して別の処理に移ることを要求するものです。

例外には、何らかの異常な状態が起こったときや、例外を発生する命令を実行したときに発生するものと、外部割り込み端子や周辺機能からの割り込み要求信号といった、ハードウェアによる要因で発生する割り込みがあります。

全ての例外は優先度に従って CPU 内にあるネスト型ベクター割り込みコントローラー(NVIC)によって処理されます。例外が発生すると、CPU はそのときの状態をスタックに退避し、割り込み処理ルーチンへ分岐します。割り込み処理ルーチンの実行後、スタックに退避した情報は自動的に復帰されます。

6.1.1. 種類

例外には以下のものがあります。

それぞれの例外の詳細な内容は、「Cortex-M シリーズプロセッサーの Arm ドキュメンテーションセット」を参照してください。

- リセット
- マスク不能割り込み(NMI)
- ハードフォールト
- メモリー管理
- バスフォールト
- 用法フォールト
- SVCall (スーパーバイザーコール)
- デバッグモニター
- PendSV
- SysTick
- 外部割り込み

6.1.2. 処理の流れ

例外/割り込みの処理の流れの概略を以下に示します。以下の説明で、□はハードウェアによる処理を、□はソフトウェアによる処理を示しています。

それぞれの処理の内容について、後続の節で説明します。

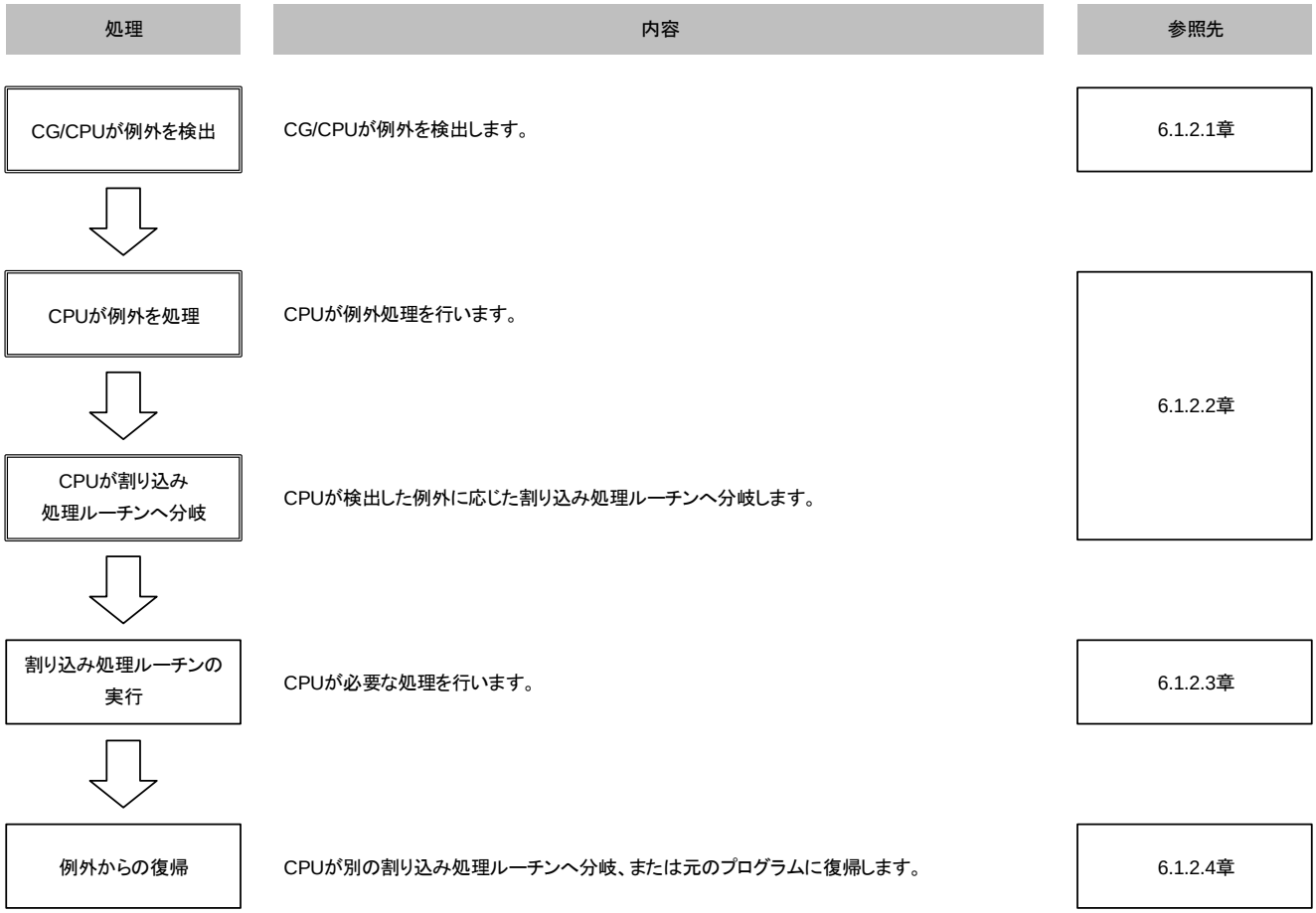


図 6.1 処理の流れ

6.1.2.1. 例外要求と検出

(1) 例外要求の発生

例外は、CPU の命令実行、メモリーアクセス、外部割り込み端子や周辺機能からの外部割り込みなどにより発生します。

CPU の命令実行による例外の要求は、例外を発生する命令の実行や、命令実行中の異常が要因で発生します。

メモリーアクセスによる例外の要求は、実行不可領域からの命令フェッチや、フォールト領域へのアクセスにより発生します。

外部割り込みの例外の要求は、外部割り込み端子や周辺機能から発生します。外部割り込み端子を低消費電力モード解除に使用する場合、CG の設定も必要になります。詳細は「6.4. 割り込み」で説明します。

(2) 例外の検出

複数の例外が同時に検出された場合には、CPU は優先度に従って最も優先度の高い例外を選択します。

各例外の優先度は以下のとおりです。「構成可能」と記載された例外は、優先度を設定することができます。また、メモリー管理、バスフォールト、用法フォールトは許可/禁止を選択することができます。禁止された例外が発生した場合にはハードフォールトとして扱われます。

表 6.1　例外の種類と優先度

番号	例外	優先度	要因
1	リセット	-3 (最高)	$\overline{\text{RESET}}$端子、WDT、POR、VLTD、OFD、<SYSRESETREQ>
2	マスク不能割り込み	-2	WDT
3	ハードフォールト	-1	より優先度の高いフォールトの処理中、または禁止されているために発生できないフォールト
4	メモリー管理	構成可能	MPU(メモリー保護ユニット)からの例外(注 1) 実行不可(XN)(Execute Never)領域からの命令フェッチ
5	バスフォールト	構成可能	メモリーマップのハードフォールト領域に対するアクセス
6	用法フォールト	構成可能	未定義命令の実行や、命令実行によって発生するその他のエラー
7 ~ 10	予約	-	-
11	SVCall	構成可能	SVC 命令によるシステムサービスの呼び出し
12	デバッグモニター	構成可能	CPU がフォールト中でないときのデバッグモニター
13	予約	-	-
14	PendSV	構成可能	保留可能なシステムサービスへの要求
15	SysTick	構成可能	システムタイマーからの通知
16 ~	外部割り込み	構成可能	外部割り込み端子や周辺機能(注 2)

注 1) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は MPU を搭載していません。

注 2) 外部割り込みは、製品により要因と番号が異なります。具体的な要因と番号については、「6.4.4. 製品別の割り込み要因一覧」を参照してください。

(3) 優先度の設定

- 優先度レベル

  外部割り込みの優先度は、割り込み優先度レジスターで、それ以外の例外はシステムハンドラー優先度レジスターで該当する<PRI_n[7:0]>に設定します。

  <PRI_n[7:0]>は、構成を変更することが可能になっており、優先度設定のためのビット数は製品により 3 ビット ～8 ビットのいずれかになります。このため、設定できる優先度の範囲も製品により異なります。

  8 ビットの構成の場合、優先度は 0～255 のレベルを設定できます。最も高い優先度は"0"です。複数の要因を同じ優先度に設定した場合、番号の小さい例外の優先度が高くなります。

注) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、<PRI_n[7:0]>の優先度設定のビット数は 3 ビットの構成になっています。

- 優先度のグループ化

  優先度をグループ化することもできます。アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスターの<PRIGROUP[2:0]>を設定することで、<PRI_n[7:0]>を横取り優先度とサブ優先度に分割することができます。

  優先度はまず横取り優先度で判定され、横取り優先度が同じ場合サブ優先度で判定されます。サブ優先度も同じ場合は例外番号の小さいほうが優先度が高くなります。

  表 6.2 に優先度のグループ化の設定についてまとめます。表中の横取り優先度数、サブ優先度数は、<PRI_n[7:0]>が 8 ビット構成の場合の数です。

表 6.2 優先度のグループ化設定

<PRIGROUP[2:0]>の設定	<PRI_n[7:0]>		横取り優先度数	サブ優先度数
	横取りフィールド	サブ優先度フィールド		
000	[7:1]	[0]	128	2
001	[7:2]	[1:0]	64	4
010	[7:3]	[2:0]	32	8
011	[7:4]	[3:0]	16	16
100	[7:5]	[4:0]	8	32
101	[7:6]	[5:0]	4	64
110	[7]	[6:0]	2	128
111	なし	[7:0]	1	256

注) <PRI_n[7:0]>の構成が 8 ビットより小さい場合、下位ビットは"0"となります。

例えば、3 ビット構成の場合、<PRI_n[7:5]>で優先度が設定され、<PRI_n[4:0]>は"0_0000"になります。

6.1.2.2. 例外の処理と割り込み処理ルーチンへの分岐(横取り)

例外により、実行中の処理を中断して割り込み処理ルーチンへ分岐する動作を「横取り」と呼びます。

(1) レジスターの退避

例外を検出すると、CPU は 8 つのレジスターの内容を退避します。退避するレジスターと退避の順序は以下のとおりです。

- プログラムステータスレジスター(xPSR)
- プログラムカウンター(PC)
- リンクレジスター(LR)
- r12
- r3 ~ r0

レジスターの退避が終了すると、SP は 8 ワード分減らされます。レジスター退避終了後のスタックの状態は以下のようになっています。

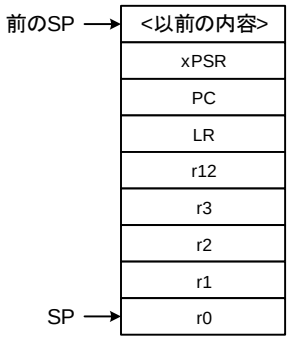


図 6.2 レジスター退避終了後のスタック

(2) 割り込み処理ルーチンのフェッチ

レジスターの退避と同時に CPU は割り込み処理ルーチンの命令フェッチを行います。

各例外の割り込み処理ルーチンの先頭番地をベクターテーブルに準備しておきます。ベクターテーブルはリセット後、コード領域の 0x0000_0000 番地に置かれます。ベクターテーブルは、ベクターテーブルオフセットレジスターを設定することでコード空間またはSRAM空間の任意のアドレスに置くことができます。

ベクターテーブルにはまた、メインスタックの初期値を設定します。

(3) 後着

割り込み処理ルーチンの実行前に、検出した例外よりも優先度の高い例外を検出した場合、CPU は優先度の高い例外の処理に移行します。これを後着と呼びます。

後着の場合、CPU は新たに検出された例外の割り込み処理ルーチンの命令フェッチをあらためて行い、分岐しますが、再度レジスターの内容を退避することはありません。

(4) ベクターテーブルの構成

ベクターテーブルの構成は以下のとおりです。

最初の 4 ワード(スタックの先頭アドレス、リセット、マスク不能割り込み(NMI)、ハードフォールトの割り込み処理ルーチンアドレス)は必ず設定する必要があります。その他の例外の割り込み処理ルーチンアドレスは、必要に応じて準備します。

表 6.3 ベクターテーブルの構成

オフセット	例外	内容	設定
0x00	リセット	メインスタックの初期値	必須
0x04	リセット	割り込み処理ルーチンアドレス	必須
0x08	マスク不能割り込み(NMI)	割り込み処理ルーチンアドレス	必須
0x0C	ハードフォールト	割り込み処理ルーチンアドレス	必須
0x10	メモリー管理	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x14	バスフォールト	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x18	用法フォールト	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x1C ~ 0x28	予約	-	-
0x2C	SVCall	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x30	デバッグモニター	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x34	予約	-	-
0x38	PendSV	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x3C	SysTick	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x40	外部割り込み	割り込み処理ルーチンアドレス	任意

6.1.2.3. 割り込み処理ルーチンの実行

割り込み処理ルーチンでは、発生した例外に応じて必要な処理を行います。割り込み処理ルーチンはユーザーが準備します。

割り込み処理ルーチンでは、通常の処理プログラムに戻ったときに再度同じ割り込みが発生しないよう、割り込み要求の取り下げなどの処理が必要になる場合があります。

割り込みについての詳細は「6.4. 割り込み」で説明します。

割り込み処理ルーチンの実行中に現在処理中の例外よりも優先度の高い例外を検出した場合、CPU は現在実行中の割り込み処理ルーチンを中断し新たに検出された例外の処理を行います。

6.1.2.4. 例外からの復帰

(1) 割り込み処理ルーチンからの復帰先

割り込み処理ルーチン終了時の状態により復帰先が決まります。

- テールチェイン
  保留中の例外が存在し、中断されている例外処理がないかまたは中断されているどの例外よりも優先度が高い場合、保留中の例外の割り込み処理ルーチンへ復帰します。
  このとき、レジスターのスタックへの退避と復帰は省略されます。この動作をテールチェインと呼びます。
- 処理が中断されている割り込み処理ルーチンへ復帰
  保留中の例外がない場合、または存在しても処理が中断されている例外の優先度が高い場合、中断されている例外の割り込み処理ルーチンへ復帰します。
- 元のプログラムへ復帰
  保留中の例外も処理が中断されている例外もない場合、元のプログラムへ復帰します。

(2) 復帰処理

CPU は、割り込み処理ルーチンから復帰する際に以下の処理を行います。

- レジスターの復帰
  退避していた 8 つのレジスター(xPSR、PC、LR、r12、r3～r0)を復帰し SP を調整します。
- 割り込み番号のロード
  退避していた xPSR から現在有効な割り込み番号をロードします。この割り込み番号によって CPU はどの割り込みに復帰するかを制御します。
- SP の選択
  例外(ハンドラーモード)へ復帰する場合、SP は SP_main です。スレッドモードへ復帰する場合、SP は SP_main または SP_process です。

6.2. リセット例外

リセット例外には、以下の 6 種類の要因があります。
リセットの要因を確認するためには、CG レジスターの CGRSTFLG を参照してください。

- $\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット例外
  $\overline{\text{RESET}}$端子を"Low"レベルにしたのち、"High"レベルにすることによりリセット例外が発生します。
- POR によるリセット例外
  POR にリセット例外を発生する機能があります。詳細は「15. パワーオンリセット回路(POR)」を参照してください。
- VLTD によるリセット例外
  VLTD にリセット例外を発生する機能があります。詳細は「16. 電圧検出回路(VLTD)」を参照してください。
- OFD によるリセット例外
  OFD にリセット例外を発生する機能があります。詳細は「17. 周波数検知回路(OFD)」を参照してください。
- WDT によるリセット例外
  WDT にリセット例外を発生する機能があります。詳細は「18. ウオッチドッグタイマー(WDT)」を参照してください。
- <SYSRESETREQ>によるリセット例外
  NVIC レジスターのアプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスターの<SYSRESETREQ>をセットすることで、リセット例外を発生させることができます。

6.3. SysTick

SysTick は、CPU の持つシステムタイマーを使用した割り込み機能です。

SysTick リロード値レジスターに値を設定し、SysTick 制御およびステータスレジスターで機能を許可すると、リロード値レジスターに設定された値がタイマーへリロードされカウントダウンを開始します。タイマーが"0"になると SysTick 例外を発生します。また、例外を保留し、フラグでタイマーが"0"になったことを確認することもできます。

SysTick 較正値レジスターには、システムタイマーで 10ms を計測する際のリロード値が準備されています。製品により、カウントクロックの周期は異なるため、較正値レジスターに設定されている値も異なります。

注) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は外部参照クロックとして f_{OSC}(CGOSCCR<OSCSEL>で選択されるクロック)を 32 分周したクロックが使用されます。

6.4. 割り込み

この節では、割り込みの伝わる経路、要因、必要な設定について説明します。

6.4.1. マスク不能割り込み(NMI)

マスク不能割り込みの要因については、「6.4.4. 製品別の割り込み要因一覧」の表 6.4 を参照してください。

6.4.2. マスク可能割り込み

マスク可能割り込みの要因については、「6.4.4. 製品別の割り込み要因一覧」の表 6.5 を参照してください。

6.4.3. 割り込み要求

割り込み要求は、それぞれの割り込み要因からの信号により CPU へ通知されます。

CPU は、優先順位付けを行い最も優先度の高い割り込みを発生します。

6.4.3.1. 割り込み要求経路

割り込み要求の経路を図 6.3 に示します。

外部割り込みのうち、周辺機能からの割り込み要求信号で低消費電力モード解除に使用しないものは CPU に入力されます。(経路(1))

低消費電力モード解除に使用する周辺機能からの割り込み要求信号(経路(2))は、CG に入力され、低消費電力モード解除の回路を経由して CPU に入力されます。(経路(4))

外部割り込みのうち、外部割り込み端子からの割り込み(経路(3))は CG に入力されます。低消費電力モード解除の回路を経由しない信号(経路(6))と経由した信号(経路(7))が、CGIMCGn<INTmEN>で選択され CPU に入力されます(経路(5))。

外部割り込み端子を低消費電力モード解除に使用するときは経路(7)を選択し、使用しないときには経路(6)を選択します。

注) 「n」はレジスター名称の添え字、「m」はビットシンボルの添え字を示します。

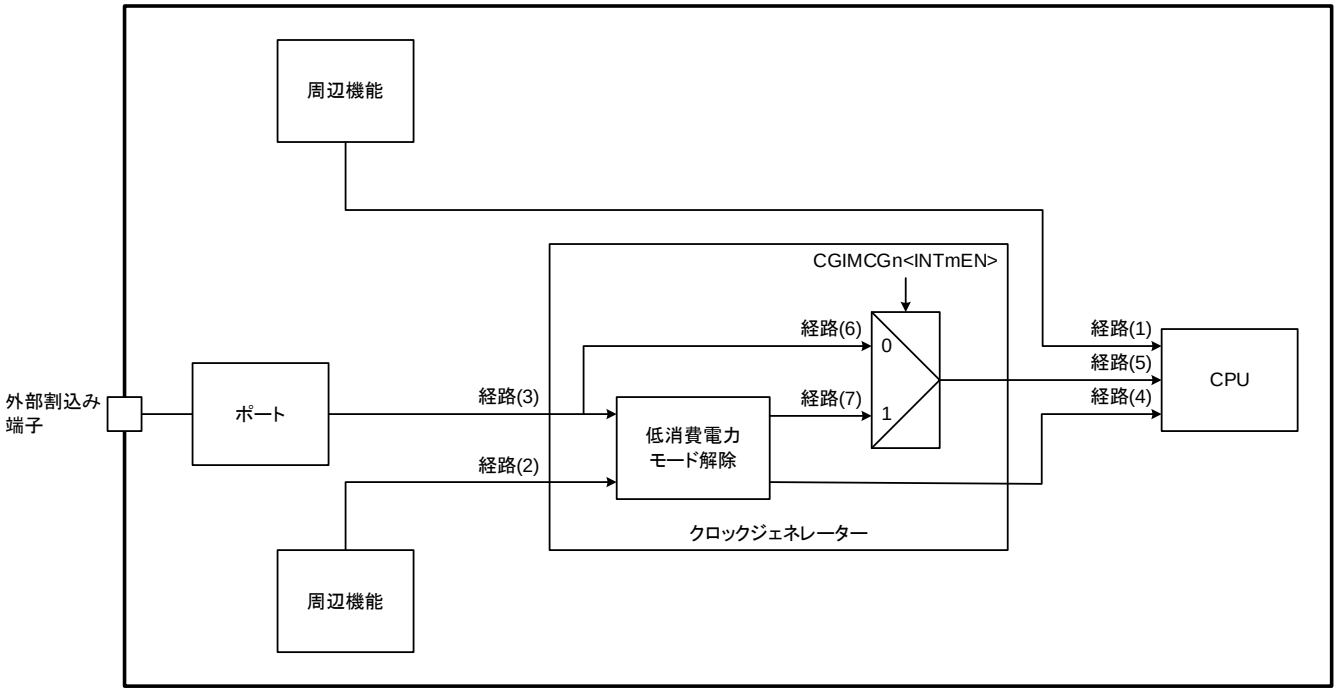


図 6.3　割り込み要求経路

6.4.3.2. 割り込み要求の発生

割り込み要求は、割り込み要因に割り当てられた外部割り込み端子、周辺機能、NVIC レジスターの割り込み保留セットレジスターの設定により発生します。

- 外部割り込み端子からの割り込み
  ポートの制御レジスターで端子を割り込み機能に設定します。
- 周辺機能の割り込み
  周辺機能で割り込み要求が出力されるよう設定します。
  詳細は各章を参照してください。
- 割り込みの強制的な保留
  割り込み保留セットレジスターの該当する割り込みのビットをセットすることで、割り込み要求を発生させることができます。

6.4.3.3. 割り込み検知レベルのモニター

CG は、検出した割り込み検知レベルのモニターフラグを備えています。
CGIMCGn<EMSTm[1:0]>を読み出すことで検出した検知レベルが分かります。

注) 「n」はレジスター名称の添え字、「m」はビットシンボルの添え字を示します。

6.4.3.4. 割り込み要求の伝達

低消費電力モード解除要因として使用しない割り込み要求は直接 CPU に接続されます。
低消費電力モード解除要因として使用する周辺機能の割り込み要求信号と外部割り込み端子からの信号は、CG を経由して CPU に接続されます。そのため CG の設定が必要です。

6.4.3.5. 外部割り込み端子を使用する際の注意

外部割り込み端子を使用する際には、予期しない割り込みが発生しないよう以下の点に留意してください。

外部割り込み端子からの入力信号は、入力禁止(PxIE<PxmIE> = "0")のとき、"High"レベルとなります。

外部割り込み端子を低消費電力モード解除要因として使用しない場合（「図 6.3　割り込み要求経路」の(6)の経路）、外部割り込み端子からの入力信号がそのまま CPU に伝わります。

また、CPU は"High"レベルを割り込み要求として認識します。

そのため、入力禁止のまま該当する割り込みを許可すると割り込み要求が発生します。

外部割り込み端子を低消費電力モード解除要因としないときは、外部割り込み端子が"Low"レベルの状態で入力許可にして、その後に CPU で割り込み許可設定を行ってください。

注 1) ポートの設定は「8. 入出力ポート」を参照してください。

注 2) 「x」は該当ポート番号、「m」は該当ビットを示します。

6.4.4. 製品別の割り込み要因一覧

マスク不能割り込み(NMI)の割り込み要因を表 6.4 に示します。

表 6.4 割り込み要因一覧 (マスク不能割り込み)

割り込み番号	割り込み要因		NMI発生要因フラグ
1	INTWDT	WDT 割り込み	CGNMIFLG<MNIFLG0>

マスク可能割り込み要因一覧を表 6.5 に示します。

表 6.5 割り込み要因一覧

割り込み番号	割り込み要因		CG割り込みモードコントロールレジスター
0	INT0	外部割り込み端子 0	CGIMCGA
1	INT1	外部割り込み端子 1	CGIMCGA
2	INT2	外部割り込み端子 2	CGIMCGA
3	INT3	外部割り込み端子 3	CGIMCGA
4	INT4	外部割り込み端子 4	CGIMCGB
5	INT5	外部割り込み端子 5	CGIMCGB
6	INTRX0	SIO/UART ch0 シリアル受信	
7	INTTX0	SIO/UART ch0 シリアル送信	
8	INTRX1	SIO/UART ch1 シリアル受信	
9	INTTX1	SIO/UART ch1 シリアル送信	
10	INTVCNA	ベクトルエンジン割り込み A	
11	INTVCNB	ベクトルエンジン割り込み B	
12	INTEMG0	PMD ch0 EMG 割り込み	
13	INTEMG1	PMD ch1 EMG 割り込み	
14	INTOVV0	PMD ch0 OVV 割り込み	
15	INTOVV1	PMD ch1 OVV 割り込み	
16	INTADAPDA	ADC unit A PMD ch0 トリガー変換終了	
17	INTADBPDA	ADC unit B PMD ch0 トリガー変換終了	
18	INTADAPDB	ADC unit A PMD ch1 トリガー変換終了	
19	INTADBPDB	ADC unit B PMD ch1 トリガー変換終了	
20	INTTB00	TMRB ch0 コンペアー致 0/オーバーフロー	
21	INTTB01	TMRB ch0 コンペアー致 1	
22	INTTB10	TMRB ch1 コンペアー致 0/オーバーフロー	
23	INTTB11	TMRB ch1 コンペアー致 1	
24	INTTB40	TMRB ch4 コンペアー致 0/オーバーフロー	

割り込み番号	割り込み要因		CG割り込みモードコントロールレジスター
25	INTTB41	TMRB ch4 コンペアー致 1	
26	INTTB50	TMRB ch5 コンペアー致 0/オーバーフロー	
27	INTTB51	TMRB ch5 コンペアー致 1	
28	INTPMD0	PMD ch0 PWM 割り込み	
29	INTPMD1	PMD ch1 PWM 割り込み	
30	INTCAP00	TMRB ch0 インプットキャプチャー0	
31	INTCAP01	TMRB ch0 インプットキャプチャー1	
32	INTCAP10	TMRB ch1 インプットキャプチャー0	
33	INTCAP11	TMRB ch1 インプットキャプチャー1	
34	INTCAP40	TMRB ch4 インプットキャプチャー0	
35	INTCAP41	TMRB ch4 インプットキャプチャー1	
36	INTCAP50	TMRB ch5 インプットキャプチャー0	
37	INTCAP51	TMRB ch5 インプットキャプチャー1	
38	INT6	外部割り込み端子 6	CGIMCGB
39	INT7	外部割り込み端子 7	CGIMCGB
40	INTRX2	SIO/UART ch2 シリアル受信	
41	INTTX2	SIO/UART ch2 シリアル送信	
42	INTADACPA	ADC unit A 監視割り込み A	
43	INTADBCPA	ADC unit B 監視割り込み A	
44	INTADACPB	ADC unit A 監視割り込み B	
45	INTADBCPB	ADC unit B 監視割り込み B	
46	INTTB20	TMRB ch2 コンペアー致 0/オーバーフロー	
47	INTTB21	TMRB ch2 コンペアー致 1	
48	INTTB30	TMRB ch3 コンペアー致 0/オーバーフロー	
49	INTTB31	TMRB ch3 コンペアー致 1	
50	INTCAP20	TMRB ch2 インプットキャプチャー0	
51	INTCAP21	TMRB ch2 インプットキャプチャー1	
52	INTCAP30	TMRB ch3 インプットキャプチャー0	
53	INTCAP31	TMRB ch3 インプットキャプチャー1	
54	INTADASFT	ADC unit A ソフトウェアスタート変換終了	
55	INTADBSFT	ADC unit B ソフトウェアスタート変換終了	
56	INTADATMR	ADC unit A タイマー同期変換終了	
57	INTADBTMR	ADC unit B タイマー同期変換終了	
58	INT8	外部割り込み端子 8	CGIMCGC
59	INT9	外部割り込み端子 9	CGIMCGC
60	INTA	外部割り込み端子 A	CGIMCGC

割り込み番号	割り込み要因		CG割り込みモードコントロールレジスター
61	INTB	外部割り込み端子 B	CGIMCGC
62	INTENC0	エンコーダー入力 ch0	
63	INTENC1	エンコーダー入力 ch1	
64	INTRX3	SIO/UART ch3 シリアル受信	
65	INTTX3	SIO/UART ch3 シリアル送信	
66	INTTB60	TMRB ch6 コンペアー致 0/オーバーフロー	
67	INTTB61	TMRB ch6 コンペアー致 1	
68	INTTB70	TMRB ch7 コンペアー致 0/オーバーフロー	
69	INTTB71	TMRB ch7 コンペアー致 1	
70	INTCAP60	TMRB ch6 インプットキャプチャー0	
71	INTCAP61	TMRB ch6 インプットキャプチャー1	
72	INTCAP70	TMRB ch7 インプットキャプチャー0	
73	INTCAP71	TMRB ch7 インプットキャプチャー1	
74	INTC	外部割り込み端子 C	CGIMCGD
75	INTD	外部割り込み端子 D	CGIMCGD
76	INTE	外部割り込み端子 E	CGIMCGD
77	INTF	外部割り込み端子 F	CGIMCGD

6.4.5. 割り込み検知レベル

CG を経由して割り込みを使用するときには、CG 割り込みモードコントロールレジスター CGIMCGn<EMCGm>で割り込み要求信号の割り込み検知レベル("Low"レベル/"High"レベル/立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジ/両エッジ)を選択します。検出された割り込み信号は、"High"レベルの信号として CPU に出力されます。

各種周辺機能から CPU へ直接割り込み信号が伝わるものは、割り込み信号として"High"レベルパルスを出力するようになっています。

CPU は割り込み信号の"High"レベルを割り込み要因とみなします。

注) 「n」はレジスター名称の添え字、「m」はビットシンボルの添え字を示します。

6.4.5.1. 低消費電力モード解除時の注意

外部割り込みを低消費電力モード解除に使用するには、下記の設定が必要です。

- CGIMCGn<EMCGm>で割り込み検知レベルを設定
- CGIMCGn<INTmEN>を有効に設定

注) 「n」はレジスター名称の添え字、「m」はビットシンボルの添え字を示します。

6.4.6. 処理手順

6.4.6.1. 処理の流れ

例外/割り込みの処理の流れの概略を以下に示します。以下の説明で、[ ]はハードウェアによる処理を、[ ]はソフトウェアによる処理を示しています。

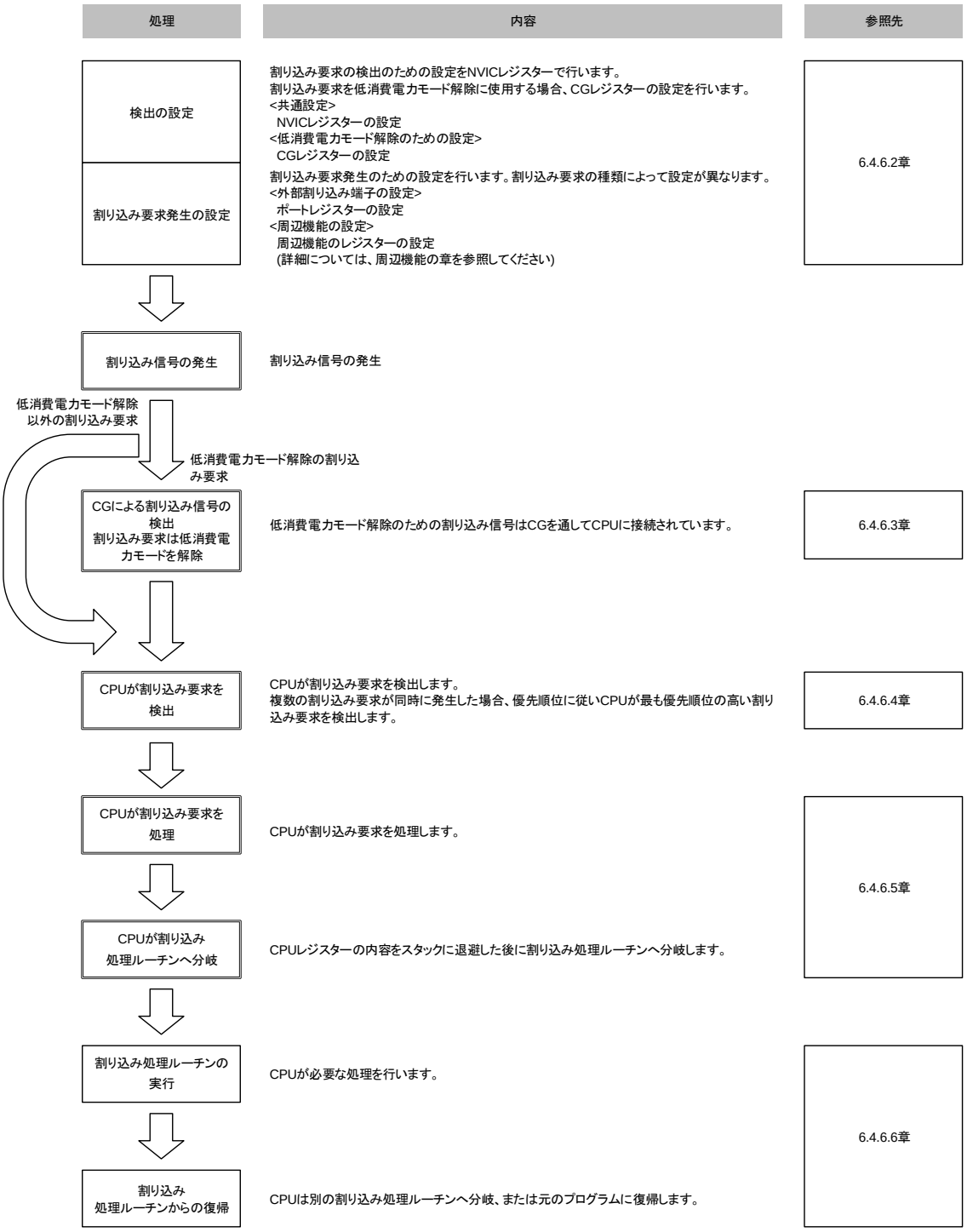


図 6.4 処理の流れ

6.4.6.2. 準備

割り込みの準備を行うときには、設定途中で不要な割り込みの発生を防ぐために設定の順番に注意が必要です。

割り込みの使用開始、または設定変更のときの基本的な順序は、まず、CPU で割り込みを禁止し、次に割り込み経路を CPU から遠いところから設定を行います。最後に CPU で割り込みを許可します。

CG の設定を行うときには、条件の設定を行った後、不要な割り込みが発生しないよう CG 内部の割り込み情報をクリアしてから割り込み許可の設定を行います。

以下に設定の手順と、手順ごとの具体的な設定方法を示します。

(1) CPU 割り込み禁止

(2) CPU 割り込みレジスター設定

(3) 割り込み要因の準備(1) (外部割り込み端子)

(4) 割り込み要因の準備(2) (周辺機能からの割り込み)

(5) 割り込み要因の準備(3) (割り込み保留セットレジスター)

(6) CG の設定

(7) CPU 割り込み許可

(1) CPU 割り込み禁止

CPU を割り込み禁止状態にするには、PRIMASK に"1"をセットします。これにより、マスク不能割り込みとハードフォールト例外以外の全ての割り込みと例外がマスクされます。

このレジスターをセットするためには「MSR」命令を使用します。

表 6.6 割り込みマスクレジスター設定

割り込みマスクレジスター
PRIMASK ← "1"(割り込み禁止)

注 1) PRIMASK は、ユーザー・アクセス・レベルでは変更できません。

注 2) PRIMASK に"1"がセットされているとき、フォールトが発生するとハードフォールトとして扱われます。

(2) CPU 割り込みレジスター設定

NVIC レジスターの割り込み優先度レジスター<PRI_n[7:5]>で優先度の設定を行います。

このレジスターは、各割り込み要因ごとに 8 ビット割り当てられていますが、製品ごとに構成するビット数が異なります。8 ビットの構成の場合「0」から「255」までの優先度を設定することができます。最も高い優先度は「0」です。複数の要因を同じ優先度に設定した場合、番号の小さい割り込みの優先度が高くなります。

グループ優先度を設定する場合にはアプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスターの<PRIGROUP[2:0]>も設定します。

表 6.7 NVICレジスター設定

NVICレジスター		
<PRI_n[7:5]>	←	優先度
<PRIGROUP[2:0]>	←	グループ優先度(必要に応じて設定)

注) 「n」は該当する例外/割り込みの番号を示します。
TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では割り込み優先度レジスターの優先度設定ビット幅は 3 ビットの構成になっています。

(3) 要因の準備(1) (外部割り込み端子)

外部割り込み端子を使用する場合、該当する端子のポートの設定を行います。機能端子として使用するため、PxFRn<PxmFn>を"1"に、入力として使用するために PxIE<PxmIE>を"1"に設定します。

表 6.8 外部割り込み端子設定

ポート設定レジスター		
PxFRn<PxmFn>	←	"1"
PxIE<PxmIE>	←	"1"

注 1) 「x」は該当ポート番号、「m」は該当ビット、「n」はファンクションレジスター番号を示します。

注 2) STOP 以外のモードでは、PxIE で入力許可設定であれば PxFRn の設定によらず外部割り込み端子の入力が有効になります。外部割り込み端子の設定を行う際に、使用しない外部割り込み端子を入力許可にしないようにしてください。詳細については、「6.4.3.5. 外部割り込み端子を使用する際の注意」を参照してください。

(4) 要因の準備(2) (周辺機能からの割り込み)

周辺機能からの割り込みを使用する場合、設定は周辺機能によって異なります。各周辺機能の章をご覧ください。

(5) 要因の準備(3) (割り込み保留セットレジスター)

割り込み保留セットレジスターで割り込みを発生する場合、該当するビットに"1"をセットします。

表 6.9 割り込み保留セットレジスター設定

NVICレジスター		
<SETPEND>	←	"1"

注) <SETPEND>は割り込み保留セットレジスターの該当ビットを示します。

(6) CG の設定

低消費電力モード解除要因となる外部割り込みは、CG の CGIMCGn<EMCGm[2:0]>で割り込み検知レベルを、CMIMCGn<INTmEN>で低消費電力モード解除許可の設定を行います。

割り込み許可の前に、不要な外部割り込み要求発生を防止するため、事前に CGICRCG で割り込み要因のクリアが必要です。

CGICRCG は、外部割り込みに対応した値を書き込むことで保持されていた割り込み要求をクリアすることができます。詳細は、「6.5.3.1. CGICRCG(CG 割り込み要求クリアレジスター)」を参照してください。

表 6.10 CGの設定

CGレジスター		
CGIMCGn<EMCGm>	←	割り込み検知レベル
CGICRCG<ICRCG>	←	使用する割り込み要求のクリア
CGIMCGn<INTmEN>	←	"1"(低消費電力モード解除許可)

注) 「n」はレジスター名称の添え字、「m」はビットシンボルの添え字を示します。

(7) CPU 割り込み許可

下記の通り、CPU の割り込み許可の設定をします。

割り込み保留クリアレジスターの該当する割り込みのビットに"1"を書くことで、保留されている割り込み要求をクリアすることができます。また、割り込みイネーブルセットレジスターの該当する割り込みのビットに"1"を書くことで割り込みを許可することができます。

これらは 1 ビットずつ各割り込み要因に割り当てられています。

ただし、割り込み保留セットレジスターの設定で割り込みを発生する場合、割り込み保留クリアを行うと割り込み要因そのものが失われるため、この操作は不要です。

最後に、PRIMASK を"0"にクリアします。

表 6.11 CPU割り込み許可の設定

NVICレジスター		
<CLRPEND>	←	"1"
<SETENA>	←	"1"
割り込みマスクレジスター		
PRIMASK	←	"0"(割り込み許可)

注 1) <CLRPEND>は割り込み保留クリアレジスターの該当ビット、<SETENA>は割り込みイネーブルセットレジスターの該当ビットを示します。

注 2) PRIMASK レジスターは、ユーザー・アクセス・レベルでは変更できません。

6.4.6.3. 検出(CG)

低消費電力モード解除要因となる割り込み信号は、CG に設定された割り込み検知レベルに従って発生し CPU に伝えられます。

割り込み検知レベルが立ち上がり/立ち下がり/両エッジの割り込み信号は、CG で検知された後、CGICRCG で割り込み要求が解除されるまで"High"レベルの割り込み信号を CPU に出力します。そのため、割り込み要求を解除をしないで、割り込み処理ルーチンから復帰すると同じ割り込みが発生しますので、割り込み処理ルーチン内で割り込み要求の解除を行ってください。

また、"High"レベルまたは"Low"レベルの割り込み信号は、割り込み検知レベルから変化すると割り込み要求がなくなったとみなされます。そのため、割り込み検出までレベルを保つ必要があります。

6.4.6.4. 検出(CPU)

CPU は優先順位に従って、最も優先度の高い割り込み要求を検出します。

6.4.6.5. CPU の処理

割り込みが検出されると、CPU はスタックへ xPSR、PC、LR、r12、r3 ~ r0 を退避し、検出した割り込みの割り込み処理ルーチンへ分岐します。

6.4.6.6. 割り込み処理ルーチンでの処理(要因のクリア)

割り込み処理ルーチンでは、アプリケーションにより必要な内容をプログラミングしますが、ここでは推奨する処理と要因のクリアについて説明します。

(1) 割り込み処理ルーチンでの処理

通常、割り込み処理ルーチンでは必要なレジスターの退避と割り込み処理を行います。Cortex-M3 コアは自動的に xPSR、PC、LR、r12、r3～r0 をスタックへ退避するため、これらのレジスターをユーザープログラムで退避する必要はありません。

その他のレジスターについては必要に応じて退避します。

割り込み処理ルーチン実行中でも、より高い優先度の割り込みやマスク不能割り込み(NMI)などの例外は受け付けます。そのため書き換わる可能性のある汎用レジスターを退避することを推奨します。

(2) 割り込み要因のクリア

低消費電力モード解除に使用する外部割り込みの要因は、CGICRCG でクリアする必要があります。

割り込み検知レベルが立ち上がり/立ち下がり/両エッジの外部割り込みの場合、CGICRCG に対応した値を書き込むことで保持されていた割り込み要因は取り下げられます。そのため再度設定した割り込み検知レベルが発生したときに、再び割り込み要因として検出されます。

割り込み検知レベルが"High"レベルまたは"Low"レベル設定の外部割り込みの場合、割り込み信号をクリアするまで、割り込み要因は存在し続けます。そのために、割り込み信号をクリアする必要があります。割り込み信号がクリアされると CG からの割り込み要因はクリアされます。

6.5. 例外/割り込み関連レジスター

6.5.1. レジスター一覧

制御レジスターとアドレスを以下に示します。

6.5.1.1. NVIC レジスター

レジスター名	Address (Base+)
SysTick制御およびステータスレジスター	0x0010
SysTickリロード値レジスター	0x0014
SysTick現在値レジスター	0x0018
SysTick較正値レジスター	0x001C
割り込みイネーブルセットレジスター1	0x0100
割り込みイネーブルセットレジスター2	0x0104
割り込みイネーブルセットレジスター3	0x0108
割り込みイネーブルクリアレジスター1	0x0180
割り込みイネーブルクリアレジスター2	0x0184
割り込みイネーブルクリアレジスター3	0x0188
割り込み保留セットレジスター1	0x0200
割り込み保留セットレジスター2	0x0204
割り込み保留セットレジスター3	0x0208
割り込み保留クリアレジスター1	0x0280
割り込み保留クリアレジスター2	0x0284
割り込み保留クリアレジスター3	0x0288
割り込み優先度レジスター	0x0400 ~ 0x044F
ベクターテーブルオフセットレジスター	0x0D08
アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスター	0x0D0C
システムハンドラー優先度レジスター	0x0D18、0x0D1C、0x0D20
システムハンドラー制御およびステータスレジスター	0x0D24

6.5.1.2. CG レジスター

レジスター名		Address (Base+)
CG割り込み要求クリアレジスター	CGICRCG	0x0014
NMI発生要因フラグレジスター	CGNMIFLG	0x0018
リセットフラグレジスター	CGRSTFLG	0x001C
CG割り込みモードコントロールレジスターA	CGIMCGA	0x0020
CG割り込みモードコントロールレジスターB	CGIMCGB	0x0024
CG割り込みモードコントロールレジスターC	CGIMCGC	0x0028
CG割り込みモードコントロールレジスターD	CGIMCGD	0x002C
Reserved	-	0x0030 ~ 0x003F

注) "Reserved"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

6.5.2. NVIC レジスター

6.5.2.1. SysTick 制御およびステータスレジスター

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	COUNTFLAG
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	CLKSOURCE	TICKINT	ENABLE
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:17	-	R	リードすると"0"が読めます。
16	COUNTFLAG	R/W	0: タイマーは"0"になっていない 1: タイマーが"0"になった "1"の場合、最後の読み出しの後にタイマーが"0"になったことを示します。 このレジスターのいずれかの部分を読み出すとこのビットはクリアされます。
15:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2	CLKSOURCE	R/W	0: 外部参照クロック(f_{osc} / 32) (注) 1: CPUクロック(fsys)
1	TICKINT	R/W	0: SysTickを保留しない 1: SysTickを保留する
0	ENABLE	R/W	0: 禁止 1: 許可 "1"をセットするとリロード値レジスターの値をタイマーにロードし、カウントダウンを開始します。

注) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は外部参照クロックとして f_{osc}(CGOSCCR<OSCSEL>で選択されるクロック)を 32 分周したクロックが使用されます。

6.5.2.2. SysTick リロード値レジスター

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	RELOAD							
リセット後	不定							
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	RELOAD							
リセット後	不定							
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	RELOAD							
リセット後	不定							

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:24	-	R	リードすると"0"が読めます。
23:0	RELOAD[23:0]	R/W	リロード値 タイマーが"0"になったときにSysTick現在値レジスターにロードする値を設定します。

6.5.2.3. SysTick 現在値レジスター

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	CURRENT							
リセット後	不定							
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CURRENT							
リセット後	不定							
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CURRENT							
リセット後	不定							

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:24	-	R	リードすると"0"が読めます。
23:0	CURRENT[23:0]	R	SysTickタイマー現在値
		W	任意の値: クリア 任意の値を書き込むとタイマーがクリアされます。 タイマーをクリアすることで、SysTick制御およびステータスレジスターの<COUNTFLAG>もクリアされます。

6.5.2.4. SysTick 較正値レジスター

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	NOREF	SKEW	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	TENMS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	TENMS							
リセット後	0	0	0	0	1	0	0	1
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	TENMS							
リセット後	1	1	0	0	0	1	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	NOREF	R	0: 参照クロックあり 1: 参照クロックなし
30	SKEW	R	0: 較正値は10ms 1: 較正値は10msでない
29:24	-	R	リードすると"0"が読めます。
23:0	TENMS[23:0]	R	較正値 外部参照クロックで10msをカウントするために使用するリロード値(0x9C4)です。(注)

注) マルチショットで使用する場合、<TENMS[23:0]>から"1"を引いた値を使用してください。

6.5.2.5. 割り込み制御用レジスター

割り込み要因ごとに､割り込みイネーブルセットレジスター､割り込みイネーブルクリアレジスター、割り込み保留セットレジスター、割り込み保留クリアレジスターがあります。

各ビットが指定された割り込みに対応しています。

注) 割り込み要因は製品ごとに異なります。詳細については、「6.4.4. 製品別の割り込み要因一覧」を参照してください。

(1) 割り込みイネーブルセットレジスター

各ビットが割り込み番号に対応しています。

割り込みを許可したり、割り込みの許可状態が確認できます。

"1"をライトすることで該当する割り込みを許可します。

"0"の書き込みは意味を持ちません。

リードすると該当する割り込みの許可状態が確認できます。

このレジスターのビットをクリアするには、割り込みイネーブルクリアレジスターの対応するビットに"1"をセットします。

(a) 割り込みイネーブルセットレジスター1

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	SETENA(割り込み31)	0	R/W	[リード時] 0: 割り込みが禁止状態 1: 割り込みが許可状態 [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 割り込みを許可状態にする
30	SETENA(割り込み30)	0		
29	SETENA(割り込み29)	0		
28	SETENA(割り込み28)	0		
27	SETENA(割り込み27)	0		
26	SETENA(割り込み26)	0		
25	SETENA(割り込み25)	0		
24	SETENA(割り込み24)	0		
23	SETENA(割り込み23)	0		
22	SETENA(割り込み22)	0		
21	SETENA(割り込み21)	0		
20	SETENA(割り込み20)	0		
19	SETENA(割り込み19)	0		
18	SETENA(割り込み18)	0		
17	SETENA(割り込み17)	0		
16	SETENA(割り込み16)	0		
15	SETENA(割り込み15)	0		
14	SETENA(割り込み14)	0		
13	SETENA(割り込み13)	0		
12	SETENA(割り込み12)	0		
11	SETENA(割り込み11)	0		
10	SETENA(割り込み10)	0		
9	SETENA(割り込み9)	0		
8	SETENA(割り込み8)	0		
7	SETENA(割り込み7)	0		
6	SETENA(割り込み6)	0		
5	SETENA(割り込み5)	0		
4	SETENA(割り込み4)	0		
3	SETENA(割り込み3)	0		
2	SETENA(割り込み2)	0		
1	SETENA(割り込み1)	0		
0	SETENA(割り込み0)	0		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(b) 割り込みイネーブルセットレジスター2

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	SETENA(割り込み63)	0	R/W	[リード時] 0: 割り込みが禁止状態 1: 割り込みが許可状態 [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 割り込みを許可状態にする
30	SETENA(割り込み62)	0		
29	SETENA(割り込み61)	0		
28	SETENA(割り込み60)	0		
27	SETENA(割り込み59)	0		
26	SETENA(割り込み58)	0		
25	SETENA(割り込み57)	0		
24	SETENA(割り込み56)	0		
23	SETENA(割り込み55)	0		
22	SETENA(割り込み54)	0		
21	SETENA(割り込み53)	0		
20	SETENA(割り込み52)	0		
19	SETENA(割り込み51)	0		
18	SETENA(割り込み50)	0		
17	SETENA(割り込み49)	0		
16	SETENA(割り込み48)	0		
15	SETENA(割り込み47)	0		
14	SETENA(割り込み46)	0		
13	SETENA(割り込み45)	0		
12	SETENA(割り込み44)	0		
11	SETENA(割り込み43)	0		
10	SETENA(割り込み42)	0		
9	SETENA(割り込み41)	0		
8	SETENA(割り込み40)	0		
7	SETENA(割り込み39)	0		
6	SETENA(割り込み38)	0		
5	SETENA(割り込み37)	0		
4	SETENA(割り込み36)	0		
3	SETENA(割り込み35)	0		
2	SETENA(割り込み34)	0		
1	SETENA(割り込み33)	0		
0	SETENA(割り込み32)	0		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(c) 割り込みイネーブルセットレジスター3

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	-	0	R/W	[リード時] 0: 割り込みが禁止状態 1: 割り込みが許可状態 [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 割り込みを許可状態にする
30	-	0		
29	-	0		
28	-	0		
27	-	0		
26	-	0		
25	-	0		
24	-	0		
23	-	0		
22	-	0		
21	-	0		
20	-	0		
19	-	0		
18	-	0		
17	-	0		
16	-	0		
15	-	0		
14	-	0		
13	SETENA(割り込み77)	0		
12	SETENA(割り込み76)	0		
11	SETENA(割り込み75)	0		
10	SETENA(割り込み74)	0		
9	SETENA(割り込み73)	0		
8	SETENA(割り込み72)	0		
7	SETENA(割り込み71)	0		
6	SETENA(割り込み70)	0		
5	SETENA(割り込み69)	0		
4	SETENA(割り込み68)	0		
3	SETENA(割り込み67)	0		
2	SETENA(割り込み66)	0		
1	SETENA(割り込み65)	0		
0	SETENA(割り込み64)	0		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(2) 割り込みイネーブルクリアレジスター

各ビットが割り込み番号に対応しています。
割り込みを禁止したり、割り込みの禁止状態が確認できます。
"1"をライトすることで該当する割り込みを禁止します。
"0"の書き込みは意味を持ちません。
リードすると該当する割り込みの禁止状態が確認できます。

(a) 割り込みイネーブルクリアレジスター1

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	CLRENA(割り込み31)	0	R/W	[リード時] 0: 割り込みが禁止状態 1: 割り込みが許可状態 [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 割り込みを禁止状態にする
30	CLRENA(割り込み30)	0		
29	CLRENA(割り込み29)	0		
28	CLRENA(割り込み28)	0		
27	CLRENA(割り込み27)	0		
26	CLRENA(割り込み26)	0		
25	CLRENA(割り込み25)	0		
24	CLRENA(割り込み24)	0		
23	CLRENA(割り込み23)	0		
22	CLRENA(割り込み22)	0		
21	CLRENA(割り込み21)	0		
20	CLRENA(割り込み20)	0		
19	CLRENA(割り込み19)	0		
18	CLRENA(割り込み18)	0		
17	CLRENA(割り込み17)	0		
16	CLRENA(割り込み16)	0		
15	CLRENA(割り込み15)	0		
14	CLRENA(割り込み14)	0		
13	CLRENA(割り込み13)	0		
12	CLRENA(割り込み12)	0		
11	CLRENA(割り込み11)	0		
10	CLRENA(割り込み10)	0		
9	CLRENA(割り込み9)	0		
8	CLRENA(割り込み8)	0		
7	CLRENA(割り込み7)	0		
6	CLRENA(割り込み6)	0		
5	CLRENA(割り込み5)	0		
4	CLRENA(割り込み4)	0		
3	CLRENA(割り込み3)	0		
2	CLRENA(割り込み2)	0		
1	CLRENA(割り込み1)	0		
0	CLRENA(割り込み0)	0		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(b) 割り込みイネーブルクリアレジスター2

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	CLRENA(割り込み63)	0	R/W	[リード時] 0: 割り込みが禁止状態 1: 割り込みが許可状態 [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 割り込みを禁止状態にする
30	CLRENA(割り込み62)	0		
29	CLRENA(割り込み61)	0		
28	CLRENA(割り込み60)	0		
27	CLRENA(割り込み59)	0		
26	CLRENA(割り込み58)	0		
25	CLRENA(割り込み57)	0		
24	CLRENA(割り込み56)	0		
23	CLRENA(割り込み55)	0		
22	CLRENA(割り込み54)	0		
21	CLRENA(割り込み53)	0		
20	CLRENA(割り込み52)	0		
19	CLRENA(割り込み51)	0		
18	CLRENA(割り込み50)	0		
17	CLRENA(割り込み49)	0		
16	CLRENA(割り込み48)	0		
15	CLRENA(割り込み47)	0		
14	CLRENA(割り込み46)	0		
13	CLRENA(割り込み45)	0		
12	CLRENA(割り込み44)	0		
11	CLRENA(割り込み43)	0		
10	CLRENA(割り込み42)	0		
9	CLRENA(割り込み41)	0		
8	CLRENA(割り込み40)	0		
7	CLRENA(割り込み39)	0		
6	CLRENA(割り込み38)	0		
5	CLRENA(割り込み37)	0		
4	CLRENA(割り込み36)	0		
3	CLRENA(割り込み35)	0		
2	CLRENA(割り込み34)	0		
1	CLRENA(割り込み33)	0		
0	CLRENA(割り込み32)	0		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(c) 割り込みイネーブルクリアレジスター3

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	-	0	R/W	[リード時] 0: 割り込みが禁止状態 1: 割り込みが許可状態 [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 割り込みを禁止状態にする
30	-	0		
29	-	0		
28	-	0		
27	-	0		
26	-	0		
25	-	0		
24	-	0		
23	-	0		
22	-	0		
21	-	0		
20	-	0		
19	-	0		
18	-	0		
17	-	0		
16	-	0		
15	-	0		
14	-	0		
13	CLRENA(割り込み77)	0		
12	CLRENA(割り込み76)	0		
11	CLRENA(割り込み75)	0		
10	CLRENA(割り込み74)	0		
9	CLRENA(割り込み73)	0		
8	CLRENA(割り込み72)	0		
7	CLRENA(割り込み71)	0		
6	CLRENA(割り込み70)	0		
5	CLRENA(割り込み69)	0		
4	CLRENA(割り込み68)	0		
3	CLRENA(割り込み67)	0		
2	CLRENA(割り込み66)	0		
1	CLRENA(割り込み65)	0		
0	CLRENA(割り込み64)	0		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(3) 割り込み保留セットレジスター

各ビットが割り込み番号に対応しています。

割り込みを強制的に保留したり、保留されているかどうかを確認できます。

"1"をライトすることで該当する割り込みを保留します。ただし、すでに保留されている割り込みおよび禁止されている割り込みに対しては無効です。

"0"の書き込みは意味を持ちません。

リードの場合、該当する割り込みが保留されているかどうかを示します。

このレジスターのビットをクリアするには、割り込み保留クリアレジスターの対応するビットに"1"をセットします

。

(a) 割り込み保留セットレジスター1

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	SETPEND(割り込み31)	不定	R/W	[リード時] 0: 保留なし 1: 保留あり [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 保留する
30	SETPEND(割り込み30)	不定		
29	SETPEND(割り込み29)	不定		
28	SETPEND(割り込み28)	不定		
27	SETPEND(割り込み27)	不定		
26	SETPEND(割り込み26)	不定		
25	SETPEND(割り込み25)	不定		
24	SETPEND(割り込み24)	不定		
23	SETPEND(割り込み23)	不定		
22	SETPEND(割り込み22)	不定		
21	SETPEND(割り込み21)	不定		
20	SETPEND(割り込み20)	不定		
19	SETPEND(割り込み19)	不定		
18	SETPEND(割り込み18)	不定		
17	SETPEND(割り込み17)	不定		
16	SETPEND(割り込み16)	不定		
15	SETPEND(割り込み15)	不定		
14	SETPEND(割り込み14)	不定		
13	SETPEND(割り込み13)	不定		
12	SETPEND(割り込み12)	不定		
11	SETPEND(割り込み11)	不定		
10	SETPEND(割り込み10)	不定		
9	SETPEND(割り込み9)	不定		
8	SETPEND(割り込み8)	不定		
7	SETPEND(割り込み7)	不定		
6	SETPEND(割り込み6)	不定		
5	SETPEND(割り込み5)	不定		
4	SETPEND(割り込み4)	不定		
3	SETPEND(割り込み3)	不定		
2	SETPEND(割り込み2)	不定		
1	SETPEND(割り込み1)	不定		
0	SETPEND(割り込み0)	不定		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(b) 割り込み保留セットレジスター2

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	SETPEND(割り込み63)	不定	R/W	[リード時] 0: 保留なし 1: 保留あり [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 保留する
30	SETPEND(割り込み62)	不定		
29	SETPEND(割り込み61)	不定		
28	SETPEND(割り込み60)	不定		
27	SETPEND(割り込み59)	不定		
26	SETPEND(割り込み58)	不定		
25	SETPEND(割り込み57)	不定		
24	SETPEND(割り込み56)	不定		
23	SETPEND(割り込み55)	不定		
22	SETPEND(割り込み54)	不定		
21	SETPEND(割り込み53)	不定		
20	SETPEND(割り込み52)	不定		
19	SETPEND(割り込み51)	不定		
18	SETPEND(割り込み50)	不定		
17	SETPEND(割り込み49)	不定		
16	SETPEND(割り込み48)	不定		
15	SETPEND(割り込み47)	不定		
14	SETPEND(割り込み46)	不定		
13	SETPEND(割り込み45)	不定		
12	SETPEND(割り込み44)	不定		
11	SETPEND(割り込み43)	不定		
10	SETPEND(割り込み42)	不定		
9	SETPEND(割り込み41)	不定		
8	SETPEND(割り込み40)	不定		
7	SETPEND(割り込み39)	不定		
6	SETPEND(割り込み38)	不定		
5	SETPEND(割り込み37)	不定		
4	SETPEND(割り込み36)	不定		
3	SETPEND(割り込み35)	不定		
2	SETPEND(割り込み34)	不定		
1	SETPEND(割り込み33)	不定		
0	SETPEND(割り込み32)	不定		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(c) 割り込み保留セットレジスター3

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	-	不定	R/W	[リード時] 0: 保留なし 1: 保留あり [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 保留する
30	-	不定		
29	-	不定		
28	-	不定		
27	-	不定		
26	-	不定		
25	-	不定		
24	-	不定		
23	-	不定		
22	-	不定		
21	-	不定		
20	-	不定		
19	-	不定		
18	-	不定		
17	-	不定		
16	-	不定		
15	-	不定		
14	-	不定		
13	SETPEND(割り込み77)	不定		
12	SETPEND(割り込み76)	不定		
11	SETPEND(割り込み75)	不定		
10	SETPEND(割り込み74)	不定		
9	SETPEND(割り込み73)	不定		
8	SETPEND(割り込み72)	不定		
7	SETPEND(割り込み71)	不定		
6	SETPEND(割り込み70)	不定		
5	SETPEND(割り込み69)	不定		
4	SETPEND(割り込み68)	不定		
3	SETPEND(割り込み67)	不定		
2	SETPEND(割り込み66)	不定		
1	SETPEND(割り込み65)	不定		
0	SETPEND(割り込み64)	不定		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(4) 割り込み保留クリアレジスター

各ビットが割り込み番号に対応しています。

保留された割り込みをクリアしたり、保留されているかどうかを確認できます。

"1"をライトすることで該当する保留された割り込みをクリアします。ただし、すでに処理が開始されている割り込みに対しては無効です。

"0"の書き込みは意味を持ちません。

リードの場合、該当する割り込みが保留されているかどうかを示します。

(a) 割り込み保留クリアレジスター1

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	CLRPEND(割り込み31)	不定	R/W	[リード時] 0: 保留なし 1: 保留あり [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 保留をクリアする
30	CLRPEND(割り込み30)	不定		
29	CLRPEND(割り込み29)	不定		
28	CLRPEND(割り込み28)	不定		
27	CLRPEND(割り込み27)	不定		
26	CLRPEND(割り込み26)	不定		
25	CLRPEND(割り込み25)	不定		
24	CLRPEND(割り込み24)	不定		
23	CLRPEND(割り込み23)	不定		
22	CLRPEND(割り込み22)	不定		
21	CLRPEND(割り込み21)	不定		
20	CLRPEND(割り込み20)	不定		
19	CLRPEND(割り込み19)	不定		
18	CLRPEND(割り込み18)	不定		
17	CLRPEND(割り込み17)	不定		
16	CLRPEND(割り込み16)	不定		
15	CLRPEND(割り込み15)	不定		
14	CLRPEND(割り込み14)	不定		
13	CLRPEND(割り込み13)	不定		
12	CLRPEND(割り込み12)	不定		
11	CLRPEND(割り込み11)	不定		
10	CLRPEND(割り込み10)	不定		
9	CLRPEND(割り込み9)	不定		
8	CLRPEND(割り込み8)	不定		
7	CLRPEND(割り込み7)	不定		
6	CLRPEND(割り込み6)	不定		
5	CLRPEND(割り込み5)	不定		
4	CLRPEND(割り込み4)	不定		
3	CLRPEND(割り込み3)	不定		
2	CLRPEND(割り込み2)	不定		
1	CLRPEND(割り込み1)	不定		
0	CLRPEND(割り込み0)	不定		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(b) 割り込み保留クリアレジスター2

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	CLRPEND(割り込み63)	不定	R/W	[リード時] 0: 保留なし 1: 保留あり [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 保留をクリアする
30	CLRPEND(割り込み62)	不定		
29	CLRPEND(割り込み61)	不定		
28	CLRPEND(割り込み60)	不定		
27	CLRPEND(割り込み59)	不定		
26	CLRPEND(割り込み58)	不定		
25	CLRPEND(割り込み57)	不定		
24	CLRPEND(割り込み56)	不定		
23	CLRPEND(割り込み55)	不定		
22	CLRPEND(割り込み54)	不定		
21	CLRPEND(割り込み53)	不定		
20	CLRPEND(割り込み52)	不定		
19	CLRPEND(割り込み51)	不定		
18	CLRPEND(割り込み50)	不定		
17	CLRPEND(割り込み49)	不定		
16	CLRPEND(割り込み48)	不定		
15	CLRPEND(割り込み47)	不定		
14	CLRPEND(割り込み46)	不定		
13	CLRPEND(割り込み45)	不定		
12	CLRPEND(割り込み44)	不定		
11	CLRPEND(割り込み43)	不定		
10	CLRPEND(割り込み42)	不定		
9	CLRPEND(割り込み41)	不定		
8	CLRPEND(割り込み40)	不定		
7	CLRPEND(割り込み39)	不定		
6	CLRPEND(割り込み38)	不定		
5	CLRPEND(割り込み37)	不定		
4	CLRPEND(割り込み36)	不定		
3	CLRPEND(割り込み35)	不定		
2	CLRPEND(割り込み34)	不定		
1	CLRPEND(割り込み33)	不定		
0	CLRPEND(割り込み32)	不定		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

(c) 割り込み保留クリアレジスター3

Bit	Bit Symbol	リセット後	Type	機能
31	-	不定	R/W	[リード時] 0: 保留なし 1: 保留あり [ライト時] (注) 0: 意味を持ちません 1: 保留をクリアする
30	-	不定		
29	-	不定		
28	-	不定		
27	-	不定		
26	-	不定		
25	-	不定		
24	-	不定		
23	-	不定		
22	-	不定		
21	-	不定		
20	-	不定		
19	-	不定		
18	-	不定		
17	-	不定		
16	-	不定		
15	-	不定		
14	-	不定		
13	CLRPEND(割り込み77)	不定		
12	CLRPEND(割り込み76)	不定		
11	CLRPEND(割り込み75)	不定		
10	CLRPEND(割り込み74)	不定		
9	CLRPEND(割り込み73)	不定		
8	CLRPEND(割り込み72)	不定		
7	CLRPEND(割り込み71)	不定		
6	CLRPEND(割り込み70)	不定		
5	CLRPEND(割り込み69)	不定		
4	CLRPEND(割り込み68)	不定		
3	CLRPEND(割り込み67)	不定		
2	CLRPEND(割り込み66)	不定		
1	CLRPEND(割り込み65)	不定		
0	CLRPEND(割り込み64)	不定		

注) ビットシンボルが"-"のビットには"0"を書いてください。

6.5.2.6. 割り込み優先度レジスター

割り込み優先度レジスターは、各割り込みに対し 8 ビットごとの構成になっています。
割り込み番号と対応する割り込み優先度レジスターのアドレスは以下のとおりです。

表 6.12 割り込み優先度レジスターのアドレス

アドレス	31 24	23 16	15 8	7 0
0xE000E400	PRI_3	PRI_2	PRI_1	PRI_0
0xE000E404	PRI_7	PRI_6	PRI_5	PRI_4
0xE000E408	PRI_11	PRI_10	PRI_9	PRI_8
0xE000E40C	PRI_15	PRI_14	PRI_13	PRI_12
0xE000E410	PRI_19	PRI_18	PRI_17	PRI_16
0xE000E414	PRI_23	PRI_22	PRI_21	PRI_20
0xE000E418	PRI_27	PRI_26	PRI_25	PRI_24
0xE000E41C	PRI_31	PRI_30	PRI_29	PRI_28
0xE000E420	PRI_35	PRI_34	PRI_33	PRI_32
0xE000E424	PRI_39	PRI_38	PRI_37	PRI_36
0xE000E428	PRI_43	PRI_42	PRI_41	PRI_40
0xE000E42C	PRI_47	PRI_46	PRI_45	PRI_44
0xE000E430	PRI_51	PRI_50	PRI_49	PRI_48
0xE000E434	PRI_55	PRI_54	PRI_53	PRI_52
0xE000E438	PRI_59	PRI_58	PRI_57	PRI_56
0xE000E43C	PRI_63	PRI_62	PRI_61	PRI_60
0xE000E440	PRI_67	PRI_66	PRI_65	PRI_64
0xE000E444	PRI_71	PRI_70	PRI_69	PRI_68
0xE000E448	PRI_75	PRI_74	PRI_73	PRI_72
0xE000E44C	-	-	PRI_77	PRI_76

注) 割り込み要因は製品ごとに異なります。詳細については、「6.4.4. 製品別の割り込み要因一覧」を参照してください。

各割り込みに割り当てられている 8 ビットのうち何ビットを優先度の設定に使用できるかは製品により異なります。TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、3 ビットで優先度を設定することができます。

以下に、代表として割り込み番号 0 ~ 3 の割り込み優先度レジスターの構成を示します。未使用のビットはリードすると"0"が読め、ライトは無視されます。

表 6.13　割り込み番号0 ~ 3の割り込み優先度レジスターの構成

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	PRI_3			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	PRI_2			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	PRI_1			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	PRI_0			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:29	PRI_3[2:0]	R/W	割り込み番号3優先度
28:24	-	R	リードすると"0"が読めます。
23:21	PRI_2[2:0]	R/W	割り込み番号2優先度
20:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:13	PRI_1[2:0]	R/W	割り込み番号1優先度
12:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:5	PRI_0[2:0]	R/W	割り込み番号0優先度
4:0	-	R	リードすると"0"が読めます。

6.5.2.7. ベクターテーブルオフセットレジスター

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	TBLBASE	TBLOFF				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	TBLOFF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	TBLOFF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	TBLOFF	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:30	-	R	リードすると"0"が読めます。
29	TBLBASE	R/W	テーブルベース ベクターテーブルを置くメモリー空間を指定します。 0: コード空間 1: SRAM空間
28:7	TBLOFF[21:0]	R/W	オフセット値 <TBLBASE>で指定した領域の先頭からのオフセット値を設定します。 オフセットはテーブルにある例外の数に基づいてアラインされる必要があります。16個までの割り込みが使える、最小のアライメントは32ワードになります。割り込みの数がより多い場合は、次の2のべき乗まで切り上げて、アライメントを調整する必要があります。
6:0	-	R	リードすると"0"が読めます。

6.5.2.8. アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスター

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	VECTKEY/VECTKEYSTAT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	VECTKEY/VECTKEYSTAT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	ENDIANESS	-	-	-	-	PRIGROUP		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	SYSRESET REQ	VECTCLR ACTIVE	VECTRESET
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	VECTKEYSTAT [15:0]	R	レジスターキー リードすると"0xFA05"が読めます。
	VECTKEY[15:0]	W	レジスターキー このレジスターへ書き込みを行うには、<VECTKEY[15:0]>に"0x05FA"を書き込む必要があります。
15	ENDIANESS	R/W	エンディアン形式ビット(注1) 0: リトルエンディアン 1: ビッグエンディアン
14:11	-	R	リードすると"0"が読めます。
10:8	PRIGROUP[2:0]	R/W	割り込み優先度グループ分け 000: 横取り優先度7bit、サブ優先度1bit 001: 横取り優先度6bit、サブ優先度2bit 010: 横取り優先度5bit、サブ優先度3bit 011: 横取り優先度4bit、サブ優先度4bit 100: 横取り優先度3bit、サブ優先度5bit 101: 横取り優先度2bit、サブ優先度6bit 110: 横取り優先度1bit、サブ優先度7bit 111: 横取り優先度0bit、サブ優先度8bit 割り込み優先度レジスター<PRI_n[7:0]>を、横取り優先度とサブ優先度分けする際のビット構成を設定します。
7:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2	SYSRESETREQ	R/W	システムリセットリクエスト "1"をセットするとCPUがSYSRESETREQ信号を出力します。(注2)
1	VECTCLR ACTIVE	R/W	アクティブなベクターのクリア 0: クリアしません。 1: アクティブなNMI、フォールト、割り込みの全ての状態の情報をクリアします。 <VECTCLRACTIVE>は"1"を設定するとクリアされます。 アプリケーションによるスタックの再初期化が必要です。
0	VECTRESET	R/W	システムリセット 0: システムをリセットしません。 1: システムをリセットします。 "1"をセットするとデバッグコンポーネント(FPB、DWT、ITM)以外のCPU内部をリセットし、本ビットもクリアされます。

注 1) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG はリトルエンディアン固定です。

注 2) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、SYSRESETREQ 信号が出力されるとウォームリセットが発生します。ウォームリセットにより<SYSRESETREQ>はクリアされます。

6.5.2.9. システムハンドラー優先度レジスター

システムハンドラー優先度レジスターは、各割り込みに対し 8 ビットごとの構成になっています。
例外と対応する割り込み優先度レジスターのアドレスは以下のとおりです。

表 6.14 システムハンドラー優先度レジスターのアドレス

アドレス	31 24	23 16	15 8	7 0
0xE000ED18	PRI_7	PRI_6 (用法フォールト)	PRI_5 (バスフォールト)	PRI_4 (メモリー管理)
0xE000ED1C	PRI_11 (SVCall)	PRI_10	PRI_9	PRI_8
0xE000ED20	PRI_15 (SysTick)	PRI_14 (PendSV)	PRI_13	PRI_12 (デバッグモニター)

各割り込みに割り当てられている 8 ビットのうち何ビットを優先度の設定に使用できるかは製品により異なります。TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、3 ビットで優先度を設定することができます。

以下に、代表として用法フォールト、バスフォールト、メモリー管理のシステムハンドラー優先度レジスターの構成を示します。未使用のビットはリードすると"0"が読め、ライトは無視されます。

表 6.15　割り込み優先度レジスターの構成

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	PRI_7			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	PRI_6			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	PRI_5			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	PRI_4			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:29	PRI_7[2:0]	R/W	予約
28:24	-	R	リードすると"0"が読めます。
23:21	PRI_6[2:0]	R/W	用法フォールト優先度
20:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:13	PRI_5[2:0]	R/W	バスフォールト優先度
12:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:5	PRI_4[2:0]	R/W	メモリー管理優先度
4:0	-	R	リードすると"0"が読めます。

6.5.2.10. システムハンドラー制御およびステータスレジスター

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	USGFAULT ENA	BUSFAULT ENA	MEMFAULT ENA
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	SVCALL PENDED	BUSFAULT PENDED	MEMFAULT PENDED	USGFAULT PENDED	SYSTICKACT	PENDSVACT	-	MONITOR ACT
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	SVCALLACT	-	-	-	USGFAULT ACT	-	BUSFAULT ACT	MEMFAULT ACT
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:19	-	R	リードすると"0"が読めます。
18	USGFAULTENA	R/W	用法フォールト 0: 禁止 1: 許可
17	BUSFAULTENA	R/W	バスフォールト 0: 禁止 1: 許可
16	MEMFAULTENA	R/W	メモリー管理 0: 禁止 1: 許可
15	SVCALLPENDED	R/W	SVCall 0: 保留されていない 1: 保留されている
14	BUSFAULT PENDED	R/W	バスフォールト 0: 保留されていない 1: 保留されている
13	MEMFAULT PENDED	R/W	メモリー管理 0: 保留されていない 1: 保留されている
12	USGFAULT PENDED	R/W	用法フォールト 0: 保留されていない 1: 保留されている
11	SYSTICKACT	R/W	SysTick 0: アクティブでない 1: アクティブ
10	PENDSVACT	R/W	PendSV 0: アクティブでない 1: アクティブ
9	-	R	リードすると"0"が読めます。
8	MONITORACT	R/W	デバッグモニター 0: アクティブでない 1: アクティブ

7	SVCALLACT	R/W	SVCall 0: アクティブでない 1: アクティブ
6:4	-	R	リードすると"0"が読めます。
3	USGFAULTACT	R/W	用法フォールト 0: アクティブでない 1: アクティブ
2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	BUSFAULTACT	R/W	バスフォールト 0: アクティブでない 1: アクティブ
0	MEMFAULTACT	R/W	メモリー管理 0: アクティブでない 1: アクティブ

注) アクティブビットの書き換えは、スタックの内容の更新などを行いませんので注意して行ってください。

6.5.3. CG レジスター

(1) 割り込みを使用する場合は必ず以下の順に設定してください。

(a) 汎用ポートを外部割り込み端子と兼用する場合は該当割り込みの入力を許可

(b) 初期化時に割り込み検知レベルなどの設定

(c) 割り込み要求のクリア

(d) 割り込みの許可

(2) 各設定は必ず割り込み禁止の状態で行ってください。

(3) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は、外部割り込み端子を低消費電力モード解除に使用することが可能です。低消費電力モード解除割り込みとして使用するかどうか、および割り込み検知レベルは CG で設定します。

詳細については、「6.4.3.5. 外部割り込み端子を使用する際の注意」を参照してください。

6.5.3.1. CGICRCG(CG 割り込み要求クリアレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	ICRCG				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	ICRCG[4:0]	W	割り込み要求クリア 0_0000: INT0　　0_1000: INT8 0_0001: INT1　　0_1001: INT9 0_0010: INT2　　0_1010: INTA 0_0011: INT3　　0_1011: INTB 0_0100: INT4　　0_1100: INTC 0_0101: INT5　　0_1101: INTD 0_0110: INT6　　0_1110: INTE 0_0111: INT7　　0_1111: INTF 上記以外: 設定禁止

6.5.3.2. CGNMIFLG(NMI 発生要因フラグレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	NMIFLG0
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	NMIFLG0	R	NMI発生要因フラグ 0: WDTによるNMI発生なし 1: WDTによるNMI発生

注) <NMIFLG0>は読み出すと自動的に"0"にクリアされます。

6.5.3.3. CGRSTFLG(リセットフラグレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	OFDRSTF	DBGRSTF	VLTDRSTF	WDTRSTF	PINRSTF	PONRSTF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
5	OFDRSTF	R	OFDリセットフラグ 0: OFDによるリセットが発生していない 1: OFDによるリセットが発生
		W	0: <OFDRSTF>のクリア 1: Don't care
4	DBGRSTF	R	デバッグリセットフラグ(注1) 0: <SYSRESETREQ>によるリセットが発生していない 1: <SYSRESETREQ>によるリセットが発生
		W	0: <DBGRSTF>のクリア 1: Don't care
3	VLTDRSTF	R	VLTDリセットフラグ 0: VLTDによるリセットが発生していない 1: VLTDによるリセットが発生
		W	0: <VLTDRSTF>のクリア 1: Don't care
2	WDTRSTF	R	WDTリセットフラグ 0: WDTによるリセットが発生していない 1: WDTによるリセットが発生
		W	0: <WDTRSTF>のクリア 1: Don't care
1	PINRSTF	R	$\overline{\text{RESET}}$端子リセットフラグ 0: $\overline{\text{RESET}}$端子によるリセットが発生していない 1: $\overline{\text{RESET}}$端子によるリセットが発生
		W	0: <PINRSTF>のクリア 1: Don't care
0	PONRSTF	R	PORリセットフラグ 0: PORによるリセットが発生していない 1: PORによるリセットが発生
		W	0: <PONRSTF>のクリア 1: Don't care

注1) CPUのNVIC内にある、アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスターの<SYSRESETREQ>のセットにより発生したリセットであることを示します。

注 2) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は POR を内蔵しています。CGRSTFLG は POR でのみ初期化されます。電源投入時は<PONRSTF>がセットされますが、POR 以外のリセットでは<PONRSTF>はセットされません。リセット要因に対応するリセットフラグがセットされます。

6.5.3.4. CGIMCGA(CG 割り込みモードコントロールレジスターA)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	EMCG3			EMST3		-	INT3EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	EMCG2			EMST2		-	INT2EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	EMCG1			EMST1		-	INT1EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	EMCG0			EMST0		-	INT0EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	-	R	リードすると"0"が読めます。
30:28	EMCG3[2:0]	R/W	INT3による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
27:26	EMST3[1:0] (注1)	R	INT3による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
25	-	R	リードすると不定値が読めます。
24	INT3EN (注2)	R/W	INT3による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
23	-	R	リードすると"0"が読めます。
22:20	EMCG2[2:0]	R/W	INT2による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
19:18	EMST2[1:0] (注1)	R	INT2による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
17	-	R	リードすると不定値が読めます。
16	INT2EN (注2)	R/W	INT2による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
15	-	R	リードすると"0"が読めます。

Bit	Bit Symbol	Type	機能
14:12	EMCG1[2:0]	R/W	INT1による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
11:10	EMST1[1:0] (注1)	R	INT1による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
9	-	R	リードすると不定値が読めます。
8	INT1EN (注2)	R/W	INT1による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
7	-	R	リードすると"0"が読めます。
6:4	EMCG0[2:0]	R/W	INT0による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
3:2	EMST0[1:0] (注1)	R	INT0による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
1	-	R	リードすると不定値が読めます。
0	INT0EN (注2)	R/W	INT0による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可

注 1) <EMSTm>は、<EMCGm[2:0]>が"100"の両エッジ検知のときのみ意味を持ちます。<EMSTm>を参照することにより、低消費電力モード解除に使用された割り込み検知レベルを確認することができます。CGICRCG レジスターで割り込みをクリアすると<EMSTm>もクリアされます。

注 2) <EMCGm[2:0]>と同時に<INTmEN>を設定しないでください。<EMCGm[2:0]>を設定してから<INTmEN>を設定してください。

注 3) 「m」はビットシンボルの添え字を示します。

6.5.3.5. CGIMCGB(CG 割り込みモードコントロールレジスターB)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	EMCG7			EMST7		-	INT7EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	EMCG6			EMST6		-	INT6EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	EMCG5			EMST5		-	INT5EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	EMCG4			EMST4		-	INT4EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	-	R	リードすると"0"が読めます。
30:28	EMCG7[2:0]	R/W	INT7による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
27:26	EMST7[1:0] (注1)	R	INT7による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
25	-	R	リードすると不定値が読めます。
24	INT7EN (注2)	R/W	INT7による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
23	-	R	リードすると"0"が読めます。
22:20	EMCG6[2:0]	R/W	INT6による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
19:18	EMST6[1:0] (注1)	R	INT6による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
17	-	R	リードすると不定値が読めます。
16	INT6EN (注2)	R/W	INT6による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
15	-	R	リードすると"0"が読めます。

14:12	EMCG5[2:0]	R/W	INT5による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
11:10	EMST5[1:0] (注1)	R	INT5による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
9	-	R	リードすると不定値が読めます。
8	INT5EN (注2)	R/W	INT5による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
7	-	R	リードすると"0"が読めます。
6:4	EMCG4[2:0]	R/W	INT4による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
3:2	EMST4[1:0] (注1)	R	INT4による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
1	-	R	リードすると不定値が読めます。
0	INT4EN (注2)	R/W	INT4による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可

注 1) <EMSTm>は、<EMCGm[2:0]>が"100"の両エッジ検知のときのみ意味を持ちます。<EMSTm>を参照することにより、低消費電力モード解除に使用された割り込み検知レベルを確認することができます。CGICRCG レジスターで割り込みをクリアすると<EMSTm>もクリアされます。

注 2) <EMCGm[2:0]>と同時に<INTmEN>を設定しないでください。<EMCGm[2:0]>を設定してから<INTmEN>を設定してください。

注 3) 「m」はビットシンボルの添え字を示します。

6.5.3.6. CGIMCGC(CG 割り込みモードコントロールレジスターC)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	EMCGB			EMSTB		-	INTBEN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	EMCGA			EMSTA		-	INTAEN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	EMCG9			EMST9		-	INT9EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	EMCG8			EMST8		-	INT8EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	-	R	リードすると"0"が読めます。
30:28	EMCGB[2:0]	R/W	INTBによる低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
27:26	EMSTB[1:0] (注1)	R	INTBによる低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
25	-	R	リードすると不定値が読めます。
24	INTBEN (注2)	R/W	INTBによる低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
23	-	R	リードすると"0"が読めます。
22:20	EMCGA[2:0]	R/W	INTAによる低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
19:18	EMSTA[1:0] (注1)	R	INTAによる低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
17	-	R	リードすると不定値が読めます。
16	INTAEN (注2)	R/W	INTAによる低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
15	-	R	リードすると"0"が読めます。

14:12	EMCG)[2:0]	R/W	INT9による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
11:10	EMST9[1:0] (注1)	R	INT9による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
9	-	R	リードすると不定値が読めます。
8	INT9EN (注2)	R/W	INT9による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
7	-	R	リードすると"0"が読めます。
6:4	EMCG8[2:0]	R/W	INT8による低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
3:2	EMST8[1:0] (注1)	R	INT8による低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
1	-	R	リードすると不定値が読めます。
0	INT8EN (注2)	R/W	INT8による低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可

注 1) <EMSTm>は、<EMCGm[2:0]>が"100"の両エッジ検知のときのみ意味を持ちます。<EMSTm>を参照することにより、低消費電力モード解除に使用された割り込み検知レベルを確認することができます。CGICRCG レジスターで割り込みをクリアすると<EMSTm>もクリアされます。

注 2) <EMCGm[2:0]>と同時に<INTmEN>を設定しないでください。<EMCGm[2:0]>を設定してから<INTmEN>を設定してください。

注 3) 「m」はビットシンボルの添え字を示します。

6.5.3.7. CGIMCGD(CG 割り込みモードコントロールレジスターD)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	EMCGF			EMSTF		-	INTFEN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	EMCGE			EMSTE		-	INTEEN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	EMCGD			EMSTD		-	INTDEN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	EMCGC			EMSTC		-	INTCEN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	-	R	リードすると"0"が読めます。
30:28	EMCGF[2:0]	R/W	INTFによる低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
27:26	EMSTF[1:0] (注1)	R	INTFによる低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
25	-	R	リードすると不定値が読めます。
24	INTFEN (注2)	R/W	INTFによる低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
23	-	R	リードすると"0"が読めます。
22:20	EMCGE[2:0]	R/W	INTEによる低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
19:18	EMSTE[1:0] (注1)	R	INTEによる低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
17	-	R	リードすると不定値が読めます。
16	INTEEN (注2)	R/W	INTEによる低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
15	-	R	リードすると"0"が読めます。

14:12	EMCGD[2:0]	R/W	INTDによる低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
11:10	EMSTD[1:0] (注1)	R	INTDによる低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
9	-	R	リードすると不定値が読めます。
8	INTDEN (注2)	R/W	INTDによる低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可
7	-	R	リードすると"0"が読めます。
6:4	EMCGC[2:0]	R/W	INTCによる低消費電力モード解除の割り込み検知レベル設定 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外: 設定禁止
3:2	EMSTC[1:0] (注1)	R	INTCによる低消費電力モード解除時の割り込み検知レベルモニター 00: 未検知 01: 立ち上がりエッジ検知 10: 立ち下がりエッジ検知 11: 両エッジ検知
1	-	R	リードすると不定値が読めます。
0	INTCN (注2)	R/W	INTCによる低消費電力モード解除許可 0: 禁止 1: 許可

注 1) <EMSTm>は、<EMCGm[2:0]>が"100"の両エッジ検知のときのみ意味を持ちます。<EMSTm>を参照することにより、低消費電力モード解除に使用された割り込み検知レベルを確認することができます。CGICRCG レジスターで割り込みをクリアすると<EMSTm>もクリアされます。

注 2) <EMCGm[2:0]>と同時に<INTmEN>を設定しないでください。<EMCGm[2:0]>を設定してから<INTmEN>を設定してください。

注 3) 「m」はビットシンボルの添え字を示します。

7. 製品個別情報

この章では、周辺機能に関し、チャネルまたはユニット数、端子情報、その他の製品固有機能の情報について纏めています。

7.1. 各周辺機能の情報

7.1.1. クロック/モード制御(CG)

7.1.1.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.1 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)
TMPM370FYDFG	○
TMPM370FYFG	○

7.1.1.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.2 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス
TMPM370FYDFG	0x4004_0200
TMPM370FYFG	0x4004_0200

7.1.2. 例外

7.1.2.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.3 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)
TMPM370FYDFG	○
TMPM370FYFG	○

7.1.2.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.4 ベースアドレス一覧

製品		ベースアドレス
TMPM370FYDFG	NVIC	0xE000_E000
	CG	0x4004_0200
TMPM370FYFG	NVIC	0xE000_E000
	CG	0x4004_0200

7.1.3. 入出力ポート

7.1.3.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.5 搭載一覧 (1/2)

製品	搭載/非搭載(○: 搭載、-: 非搭載)					
	ポートA	ポートB	ポートC	ポートD	ポートE	ポートF
TMPM370FYDFG	○	○	○	○	○	○
TMPM370FYFG	○	○	○	○	○	○

表 7.6 搭載一覧 (2/2)

製品	搭載/非搭載(○: 搭載、-: 非搭載)					
	ポートG	ポートH	ポートI	ポートJ	ポートK	ポートL
TMPM370FYDFG	○	○	○	○	○	○
TMPM370FYFG	○	○	○	○	○	○

7.1.3.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.7 ベースアドレス一覧 (1/2)

製品	ベースアドレス					
	ポートA	ポートB	ポートC	ポートD	ポートE	ポートF
TMPM370FYDFG	0x4000_0000	0x4000_0040	0x4000_0080	0x4000_00C0	0x4000_0100	0x4000_0140
TMPM370FYFG	0x4000_0000	0x4000_0040	0x4000_0080	0x4000_00C0	0x4000_0100	0x4000_0140

表 7.8 ベースアドレス一覧 (2/2)

製品	ベースアドレス					
	ポートG	ポートH	ポートI	ポートJ	ポートK	ポートL
TMPM370FYDFG	0x4000_0180	0x4000_01C0	0x4000_0200	0x4000_0240	0x4000_0280	0x4000_02C0
TMPM370FYFG	0x4000_0180	0x4000_01C0	0x4000_0200	0x4000_0240	0x4000_0280	0x4000_02C0

7.1.4. 16 ビットタイマー/イベントカウンター(TMRB)

7.1.4.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.9 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)							
	ch0	ch1	ch2	ch3	ch4	ch5	ch6	ch7
TMPM370FYDFG	○	○	○	○	○	○	○	○
TMPM370FYFG	○	○	○	○	○	○	○	○

7.1.4.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.10 ベースアドレス一覧 (1/2)

製品	ベースアドレス			
	ch0	ch1	ch2	ch3
TMPM370FYDFG	0x4001_0000	0x4001_0040	0x4001_0080	0x4001_00C0
TMPM370FYFG	0x4001_0000	0x4001_0040	0x4001_0080	0x4001_00C0

表 7.11 ベースアドレス一覧 (2/2)

製品	ベースアドレス			
	ch4	ch5	ch6	ch7
TMPM370FYDFG	0x4001_0100	0x4001_0140	0x4001_0180	0x4001_01C0
TMPM370FYFG	0x4001_0100	0x4001_0140	0x4001_0180	0x4001_01C0

7.1.4.3. 機能端子とポート

機能端子のポート割り当てを下記に示します。

表 7.12 機能端子とポート

チャネル	機能端子	ポート名
TMRB ch0	TB0IN	PA0
	TB0OUT	PA1
TMRB ch1	TB1IN	PA2
	TB1OUT	PA3
TMRB ch2	TB2IN	PE4
	TB2OUT	PE5
TMRB ch3	TB3IN	PE6
	TB3OUT	PE7
TMRB ch4	TB4IN	PA7
	TB4OUT	PE3
TMRB ch5	TB5IN	PD0
	TB5OUT	PD1
TMRB ch6	TB6IN	PA6
	TB6OUT	PA5
TMRB ch7	TB7IN	PF0
	TB7OUT	PF1

7.1.4.4. 内部信号接続

入出力信号と周辺機能との接続を下記に示します。

表 7.13 入出力信号と周辺機能の接続(1/2)

チャネル	信号名	接続周辺機能
TMRB ch0	INTCA00	CG
	INTCAP01	CG
	INTTB00	CG
	INTTB01	CG
	TB0OUT	PORT
TMRB ch1	INTCA10	CG
	INTCAP11	CG
	INTTB10	CG
	INTTB11	CG
	TB1OUT	PORT
TMRB ch2	INTCA20	CG
	INTCAP21	CG
	INTTB20	CG
	INTTB21	CG
	TB2OUT	PORT
TMRB ch3	INTCA30	CG
	INTCAP31	CG
	INTTB30	CG
	INTTB31	CG
	TB3OUT	PORT

表 7.14　入出力信号と周辺機能の接続(2/2)

チャネル	信号名	接続周辺機能
TMRB ch4	INTCA40	CG
	INTCAP41	CG
	INTTB40	CG
	INTTB41	CG
	TB4OUT	PORT SIO/UART0 SIO/UART1
TMRB ch5	INTCA50	CG
	INTCAP51	CG
	INTTB50	CG
	INTTB51	ADC CG
	TB5OUT	PORT
TMRB ch6	INTCA60	CG
	INTCAP61	CG
	INTTB60	CG
	INTTB61	CG
	TB6OUT	PORT
TMRB ch7	INTCA70	CG
	INTCAP71	CG
	INTTB70	CG
	INTTB71	CG
	TB7OUT	PORT SIO/UART2 SIO/UART3

7.1.5. シリアルチャネル(SIO/UART)

7.1.5.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.15 搭載一覧

製品	搭載/非搭載(○: 搭載、-: 非搭載)			
	ch0	ch1	ch2	ch3
TMPM370FYDFG	○	○	○	○
TMPM370FYFG	○	○	○	○

7.1.5.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.16 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス			
	ch0	ch1	ch2	ch3
TMPM370FYDFG	0x4002_0080	0x4002_00C0	0x4002_0100	0x4002_0140
TMPM370FYFG	0x4002_0080	0x4002_00C0	0x4002_0100	0x4002_0140

7.1.5.3. 機能端子とポート

機能端子のポート割り当てを下記に示します。

表 7.17 機能端子とポート

チャネル	機能端子	ポート名
UART/SIO ch0	TXD0	PE0
	RXD0	PE1
	$\overline{\text{CTS0}}$/SCLK0	PE2
UART/SIO ch1	TXD1	PA5
	RXD1	PA6
	$\overline{\text{CTS1}}$/SCLK1	PA4
UART/SIO ch2	TXD2	PD5
	RXD2	PD6
	$\overline{\text{CTS2}}$/SCLK2	PD4
UART/SIO ch3	TXD3	PF3
	RXD3	PF4
	$\overline{\text{CTS3}}$/SCLK3	PF2

7.1.5.4. 内部信号接続

入出力信号と周辺機能との接続を下記に示します。

表 7.18 入出力信号と周辺機能の接続

チャネル	信号名	接続周辺回路
SIO/UART ch0	UART モード時の SIOCLK	TMRB ch4
SIO/UART ch1	UART モード時の SIOCLK	TMRB ch4
SIO/UART ch2	UART モード時の SIOCLK	TMRB ch7
SIO/UART ch3	UART モード時の SIOCLK	TMRB ch7

7.1.6. 12 ビットアナログデジタルコンバーター(ADC)

7.1.6.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.19 搭載一覧

製品	搭載/非搭載(○: 搭載、-: 非搭載)	
	unit A	unit B
TMPM370FYDFG	○	○
TMPM370FYFG	○	○

7.1.6.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.20 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス	
	unit A	unit B
TMPM370FYDFG	0x4003_0000	0x4003_0200
TMPM370FYFG	0x4003_0000	0x4003_0200

7.1.6.3. 機能端子とポート

機能端子のポート割り当てを下記に示します。

表 7.21 機能端子とポート(1/2)

ユニット	入力チャネル	機能端子	ポート名
ADC unit A	ch0	AINA0	PH0
	ch1	AINA1	PH1
	ch2	AINA2	PH2
	ch3	AINA3	PH3
	ch4	AINA4	PH4
	ch5	AINA5	PH5
	ch6	AINA6	PH6
	ch7	AINA7	PH7
	ch8	AINA8	PI0
	ch9	AINA9	PI1
	ch10	AINA10	PI2
	ch11	AINA11	PI3

表 7.22 機能端子とポート(2/2)

ユニット	入力チャネル	機能端子	ポート名
ADC unit B	ch0	AINB0	PI1
	ch1	AINB1	PI2
	ch2	AINB2	PI3
	ch3	AINB3	PJ0
	ch4	AINB4	PJ1
	ch5	AINB5	PJ2
	ch6	AINB6	PJ3
	ch7	AINB7	PJ4
	ch8	AINB8	PJ5
	ch9	AINB9	PJ6
	ch10	AINB10	PJ7
	ch11	AINB11	PK0
	ch12	AINB12	PK1

7.1.6.4. 内部信号接続

入出力信号と周辺機能との接続を下記に示します。

表 7.23 入出力信号と周辺機能の接続

ユニット	信号名	接続周辺機能
ADC unit A	INTTB51	TMRB ch5
ADC unit B	INTTB51	TMRB ch5

注) PMD との接続については、「7.1.7. モーター制御回路(PMD)」を参照してください。

7.1.7. モーター制御回路(PMD)

7.1.7.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.24 搭載一覧

製品	搭載/非搭載(○: 搭載、-: 非搭載)	
	ch0	ch1
TMPM370FYDFG	○	○
TMPM370FYFG	○	○

7.1.7.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.25 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス	
	ch0	ch1
TMPM370FYDFG	0x4005_0400	0x4005_0480
TMPM370FYFG	0x4005_0400	0x4005_0480

7.1.7.3. 機能端子とポート

機能端子のポート割り当てを下記に示します。

表 7.26 機能端子とポート(1/2)

チャネル	機能端子	ポート名
PMD ch0	UO0	PC0
	VO0	PC2
	WO0	PC4
	XO0	PC1
	YO0	PC3
	ZO0	PC5
	$\overline{\text{EMG0}}$	PC6
	$\overline{\text{OVV0}}$	PC7

表 7.27 機能端子とポート(2/2)

チャネル	機能端子	ポート名
PMD ch1	UO1	PG0
	VO1	PG2
	WO1	PG4
	XO1	PG1
	YO1	PG3
	ZO1	PG5
	$\overline{\text{EMG1}}$	PG6
	$\overline{\text{OVV1}}$	PG7

7.1.7.4. 内部信号接続

入出力信号と周辺機能との接続を下記に示します。

表 7.28 入力信号と周辺機能の接続

出力周辺機能	信号名	接続周辺機能
VE ch0	VECMPU0	PMD ch0
	VECMPV0	PMD ch0
	VECMPW0	PMD ch0
	VEOUTCR0	PMD ch0
	VETRGCMP00	PMD ch0
	VETRGCMP10	PMD ch0
	VETRGSEL0	PMD ch0
ADC unit A	ADCA 監視信号 0	PMD ch0
	ADCA 監視信号 1	PMD ch0

表 7.29 入力信号と周辺機能の接続

出力周辺機能	信号名	接続周辺機能
VE ch1	VECMPU1	PMD ch1
	VECMPV1	PMD ch1
	VECMPW1	PMD ch1
	VEOUTCR1	PMD ch1
	VETRGCMP01	PMD ch1
	VETRGCMP11	PMD ch1
	VETRGSEL1	PMD ch1
ADC unit B	ADCB 監視信号 0	PMD ch1
	ADCB 監視信号 1	PMD ch1

表 7.30 出力信号と周辺機能の接続

入力周辺機能	信号名	接続周辺機能
ADC unit A	PMD0TRG0	ADC unit A
	PMD0TRG1	ADC unit A
	PMD0TRG2	ADC unit A
	PMD0TRG3	ADC unit A
	PMD0TRG4	ADC unit A
	PMD0TRG5	ADC unit A

表 7.31 出力信号と周辺機能の接続

入力周辺機能	信号名	接続周辺機能
ADC unit B	PMD1TRG0	ADC unit B
	PMD1TRG1	ADC unit B
	PMD1TRG2	ADC unit B
	PMD1TRG3	ADC unit B
	PMD1TRG4	ADC unit B
	PMD1TRG5	ADC unit B

7.1.8. ベクトルエンジン(VE)

7.1.8.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.32 搭載一覧

製品	搭載/非搭載(○: 搭載、-: 非搭載)	
	ch0	ch1
TMPM370FYDFG	○	○
TMPM370FYFG	○	○

7.1.8.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.33 ベースアドレス一覧

レジスター	製品	ベースアドレス	
		ch0	ch1
VE 制御レジスター	TMPM370FYDFG	0x4005_0000	0x4005_0000
	TMPM370FYFG	0x4005_0000	0x4005_0000
共通レジスター	TMPM370FYDFG	0x4005_0000	0x4005_0000
	TMPM370FYFG	0x4005_0000	0x4005_0000
専用レジスター	TMPM370FYDFG	0x4005_0044	0x4005_00DC
	TMPM370FYFG	0x4005_0044	0x4005_00DC

7.1.8.3. 内部信号接続

PMD との接続は、「7.1.7. モーター制御回路(PMD)」を参照してください。

7.1.9. エンコーダー入力回路(ENC)

7.1.9.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.34 搭載一覧

製品	搭載/非搭載(○: 搭載、-: 非搭載)	
	ch0	ch1
TMPM370FYDFG	○	○
TMPM370FYFG	○	○

7.1.9.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.35 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス	
	ch0	ch1
TMPM370FYDFG	0x4001_0400	0x4001_0500
TMPM370FYFG	0x4001_0400	0x4001_0500

7.1.9.3. 機能端子とポート

機能端子のポート割り当てを下記に示します。

表 7.36 機能端子とポート

チャネル	機能端子	ポート名
ENC ch0	ENCA0	PD0
	ENCB0	PD1
	ENCZ0	PD2
ENC ch1	ENCA1	PF2
	ENCB1	PF3
	ENCZ1	PF4

7.1.10. 電圧検出回路(VLTD)

7.1.10.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.37 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)
TMPM370FYDFG	○
TMPM370FYFG	○

7.1.10.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.38 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス
TMPM370FYDFG	0x4004_0900
TMPM370FYFG	0x4004_0900

7.1.11. 周波数検知回路(OFD)

7.1.11.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.39 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)
TMPM370FYDFG	○
TMPM370FYFG	○

7.1.11.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.40 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス
TMPM370FYDFG	0x4004_0800
TMPM370FYFG	0x4004_0800

7.1.12. ウオッチドッグタイマー(WDT)

7.1.12.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.41 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)
TMPM370FYDFG	○
TMPM370FYFG	○

7.1.12.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.42 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス
TMPM370FYDFG	0x4004_0000
TMPM370FYFG	0x4004_0000

7.1.12.3. 機能端子とポート

機能端子のポート割り当てを下記に示します。

表 7.43 機能端子とポート

機能端子	ポート名
$\overline{\text{WDTOUT}}$	-

7.1.13. オペアンプ/アナログコンパレーター(AMP/CMP)

7.1.13.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.44 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)
TMPM370FYDFG	○
TMPM370FYFG	○

7.1.13.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.45 ベースアドレス一覧

機能	製品	ベースアドレス
オペアンプ	TMPM370FYDFG	0x4003_0400
	TMPM370FYFG	0x4003_0400
アナログコンパレーター	TMPM370FYDFG	0x4003_0420
	TMPM370FYFG	0x4003_0420

7.1.13.3. 機能端子とポート

機能端子のポート割り当てを下記に示します。

表 7.46 AMP機能端子とポート

機能端子	ポート名
AMPA 入力	PI1
AMPB 入力	PI2
AMPC 入力	PI3
AMPD 入力	PJ0

表 7.47 CMP機能端子とポート

機能端子	ポート名
CMPA 入力	PI1
CMPB 入力	PI2
CMPC 入力	PI3
CMPD 入力	PJ0

7.1.14. フラッシュメモリー

7.1.14.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.48 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)
TMPM370FYDFG	○
TMPM370FYFG	○

7.1.14.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.49 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス
TMPM370FYDFG	0x41FF_F000
TMPM370FYFG	0x41FF_F000

7.1.14.3. フラッシュメモリーブロック構成

製品ごとのフラッシュメモリーブロック構成を下記に示します。

表 7.50 フラッシュメモリーブロック構成

ブロック名称	ブロックサイズ (KB)
Block0	64
Block1	64
Block2	64
Block3	32
Block4	16
Block5	16

7.1.14.4. ID-Read 時のマクロコード値

製品ごとのマクロコードを下記に示します。

表 7.51 ID-Read時のマクロコード値

	Code (ID[7:0])
マクロコード	0x13

7.1.14.5. シングルブートモードでの使用リソース

シングルブートモードで使用する周辺機能を下記に示します。

表 7.52 シングルブートモード時の使用リソース

周辺機能	チャネル	インターフェース	端子名
BOOT	-	-	PF0 ($\overline{\text{BOOT}}$)
SIO/UART	ch0	UART モード	PE0 (TXD0)/PE1 (RXD0)
		SIO モード	PE0 (TXD0)/PE1 (RXD0)/PE2 (SCLK0)/ PE4 (ハンドシェーク信号)
TMRB	ch0	-	-

製品ごとの RAM 転送コマンドで転送できる RAM アドレス範囲を下記に示します。

表 7.53 RAMアドレス範囲

製品名	RAM アドレス範囲
TMPM370FYDFG	0x2000_0400 ~ 0x2000_27FF
TMPM370FYFG	0x2000_0400 ~ 0x2000_27FF

7.1.15. プロテクト/セキュリティー機能

7.1.15.1. 搭載一覧

製品ごとの搭載一覧を下記に示します。

表 7.54 搭載一覧

製品	搭載/非搭載 (○: 搭載、-: 非搭載)
TMPM370FYDFG	○
TMPM370FYFG	○

7.1.15.2. ベースアドレス

製品ごとのベースアドレスを下記に示します。

表 7.55 ベースアドレス一覧

製品	ベースアドレス
TMPM370FYDFG	0x41FF_F000
TMPM370FYFG	0x41FF_F000

7.1.16. デバッグインターフェース

7.1.16.1. デバッグインターフェース端子一覧

デバッグインターフェースには JTAG(TMS、TCK、TDI、$\overline{\text{TRST}}$)とシリアルワイヤ(SWDIO、SWCLK)があります。

また、トレース出力(TRACEDATA0 ~ 1)とクロック出力(TRACECLK)および、シリアルワイヤビューアー(SWV)があります。

表 7.56 デバッグインターフェース一覧

SWJ-DP端子名	ポート名
TMS/SWDIO	PB3
TCK/SWCLK	PB4
TDO/SWV	PB5
TDI	PB6
$\overline{\text{TRST}}$	PB7
TRACECLK	PB0
TRACEDATA0	PB1
TRACEDATA1	PB2

8. 入出力ポート

8.1. 概要

ポート関連のレジスターとその設定について説明します。以下に機能の一覧を示します。

機能分類	機能	説明
ポート	-	内蔵プログラマブルプルアップ/プルダウンの選択、オープンドレイン出力選択が可能
周辺機能端子	外部割り込み端子	ノイズフィルター(フィルター幅 typ. 30ns)付き外部割り込み端子
	16 ビットタイマー/イベントカウンター	TMRB インプットキャプチャー端子、TMRB 出力端子
	シリアルチャネル	送信端子、受信端子、クロック端子、ハンドシェーク用端子
	12 ビットアナログ/デジタルコンバーター	アナログ入力端子
	モーター制御回路	X/Y/Z 相出力端子、U/V/W 相出力端子、EMG 検出入力、OVV 検出入力
	エンコーダー入力回路	エンコーダー入力
	オペアンプ/アナログコンパレーター	アナログ入力端子
デバッグ端子	JTAG	デバッグ用端子
	SW	デバッグ用端子
	トレース	デバッグ用端子
制御端子	高速クロック	高速発振子接続端子
	BOOT モード制御	BOOT モード端子

8.2. 信号接続一覧

各周辺機能のブロック図に記載された信号名をポート順に変換した表です。周辺機能のレジスター設定はポート順に説明していますので、ポート名の逆引きにご使用ください。

数値は端子番号を表します。

表 8.1 信号接続一覧: SIO/UART

参照周辺機能章	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
SIO/UART	RXD0	PE1	13	11
	TXD0	PE0	12	10
	$\overline{\text{CTS0}}$/SCLK0	PE2	14	12
	RXD1	PA6	10	8
	TXD1	PA5	9	7
	$\overline{\text{CTS1}}$/SCLK1	PA4	8	6
	RXD2	PD6	38	36
	TXD2	PD5	37	35
	$\overline{\text{CTS2}}$/SCLK2	PD4	36	34
	RXD3	PF4	56	54
	TXD3	PF3	55	53
	$\overline{\text{CTS3}}$/SCLK3	PF2	54	52

表 8.2 信号接続一覧: TMRB

参照周辺機能章	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
TMRB	TB0IN	PA0	4	2
	TB0OUT	PA1	5	3
	TB1IN	PA2	6	4
	TB1OUT	PA3	7	5
	TB2IN	PE4	17	15
	TB2OUT	PE5	18	16
	TB3IN	PE6	19	17
	TB3OUT	PE7	20	18
	TB4IN	PA7	11	9
	TB4OUT	PE3	15	13
	TB5IN	PD0	32	30
	TB5OUT	PD1	33	31
	TB6IN	PA6	10	8
	TB6OUT	PA5	9	7
	TB7IN	PF0	52	50
	TB7OUT	PF1	53	51

表 8.3 信号接続一覧: ADC/AMP,CMP

参照周辺機能章	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
ADC	AINA0	PH0	98	96
	AINA1	PH1	97	95
	AINA2	PH2	96	94
	AINA3	PH3	95	93
	AINA4	PH4	94	92
	AINA5	PH5	93	91
	AINA6	PH6	92	90
	AINA7	PH7	91	89
	AINA8	PI0	90	88
	AINA9/AINB0	PI1	87	85
	AINA10/AINB1	PI2	86	84
	AINA11/AINB2	PI3	85	83
	AINB3	PJ0	82	80
	AINB4	PJ1	81	79
	AINB5	PJ2	80	78
	AINB6	PJ3	79	77
	AINB7	PJ4	78	76
	AINB8	PJ5	77	75
	AINB9	PJ6	76	74
	AINB10	PJ7	75	73
	AINB11	PK0	74	72
	AINB12	PK1	73	71
AMP/CMP	AINA9/AINB0	PI1	87	85
	AINA10/AINB1	PI2	86	84
	AINA11/AINB2	PI3	85	83
	AINB3	PJ0	82	80

表 8.4 信号接続一覧: INT/PMD

参照周辺機能	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
INT	INT0	PH0	98	96
	INT1	PH1	97	95
	INT2	PH2	96	94
	INT3	PA0	4	2
	INT4	PA2	6	3
	INT5	PE4	17	15
	INT6	PE6	19	17
	INT7	PE7	20	18
	INT8	PA7	11	9
	INT9	PD3	35	33
	INTA	PL1	23	21
	INTB	PL0	22	20
	INTC	PJ6	76	74
	INTD	PJ7	75	73
	INTE	PK0	74	72
	INTF	PK1	73	71
PMD	UO0	PC0	24	22
	XO0	PC1	25	23
	VO0	PC2	26	24
	YO0	PC3	27	25
	WO0	PC4	28	26
	ZO0	PC5	29	27
	$\overline{\text{EMG0}}$	PC6	30	28
	$\overline{\text{OVV0}}$	PC7	31	29
	UO1	PG0	39	37
	XO1	PG1	40	38
	VO1	PG2	41	39
	YO1	PG3	44	42
	WO1	PG4	45	43
	ZO1	PG5	46	44
	$\overline{\text{EMG1}}$	PG6	47	45
	$\overline{\text{OVV1}}$	PG7	48	46

表 8.5　信号接続一覧: ENC/DEBUG/FLASH

参照周辺機能	兼用機能端子名	ポート名	TMPM370FYDFG (QFP100)	TMPM370FYFG (LQFP100)
ENC	ENCA0	PD0	32	30
	ENCB0	PD1	33	31
	ENCZ0	PD2	34	32
	ENCA1	PF2	54	52
	ENCB1	PF3	55	53
	ENCZ1	PF4	56	54
DEBUG	TMS/SWDIO	PB3	68	66
	TCK/SWCLK	PB4	69	67
	TDO/SWV	PB5	70	68
	TDI	PB6	71	69
	$\overline{\text{TRST}}$	PB7	72	70
	TRACECLK	PB0	65	63
	TRACEDATA0	PB1	66	64
	TRACEDATA1	PB2	67	65
FLASH	$\overline{\text{BOOT}}$	PF0	52	50

8.3. レジスター説明

ポートを使用する際には以下のレジスターを設定する必要があります。
レジスターは全て 32 ビットですが、ポートのビット数、機能の割り当てにより構成が異なります。
以下の説明では「x」はポート名、「n」はファンクション番号を示します。

レジスター名		Type	設定値	説明
PxDATA	データレジスター	R/W	"0"または"1"	ポートのデータ読み出し、データ書き込みを行います。
PxCR	出力コントロールレジスター	R/W	0: 出力禁止 1: 出力許可	出力の制御を行います。
PxFRn	ファンクションレジスター n	R/W	0: PORT 1: 機能	機能設定を行ないます。 "1"をセットすることにより割り当てられている機能を使用できるようになります。ファンクションレジスターはポートに割り当てられている機能ごとに存在します。複数の機能が割り当てられている場合、1つの機能のみ有効になるように設定してください。
PxOD	オープンドレインコントロールレジスター	R/W	0: CMOS 1: オープンドレイン	プログラマブルオープンドレインの制御を行います。 プログラマブルオープンドレインは、PxOD = "1"の設定で、出力データが"1"の場合に出力バッファーを禁止にし、擬似的にオープンドレインを実現する機能です。
PxPUP	プルアップコントロールレジスター	R/W	0: プルアップ禁止 1: プルアップ許可	プログラマブルプルアップを制御します。
PxPDN	プルダウンコントロールレジスター	R/W	0: プルダウン禁止 1: プルダウン許可	プログラマブルプルダウンを制御します。
PxIE	入力コントロールレジスター	R/W	0: 入力禁止 1: 入力許可	入力の制御を行ないます。

8.3.1. レジスター一覧

機能の存在しないビットをリードすると"0"が読めます。ライトは意味を持ちません。

表 8.6 レジスター一覧(1/2)

レジスター名	Address(Base+)	ポートA	ポートB	ポートC	ポートD	ポートE	ポートF
データ レジスター	0x0000	PADATA	PBDATA	PCDATA	PDDATA	PEDATA	PFDATA
出力コントロールレジスター	0x0004	PACR	PBCR	PCCR	PDCR	PECR	PFCR
ファンクションレジスター 1	0x0008	PAFR1	PBFR1	PCFR1	PDFR1	PEFR1	PFFR1
ファンクションレジスター 2	0x000C	PAFR2	-	-	PDFR2	PEFR2	PFFR2
ファンクションレジスター 3	0x0010	-	-	-	-	-	PFFR3
オープンドレインコントロールレジスター	0x0028	PAOD	PBOD	PCOD	PDOD	PEOD	PFOD
プルアップコントロールレジスター	0x002C	PAPUP	PBPUP	PCPUP	PDPUP	PEPUP	PFPUP
プルダウンコントロールレジスター	0x0030	PAPDN	PBPDN	PCPDN	PDPDN	PEPDN	PFPDN
入力コントロールレジスター	0x0038	PAIE	PBIE	PCIE	PDIE	PEIE	PFIE

注) "-"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

表 8.7 レジスター一覧(2/2)

レジスター名	Address(Base+)	ポートG	ポートH	ポートI	ポートJ	ポートK	ポートL
データ レジスター	0x0000	PGDATA	PHDATA	PIDATA	PJDATA	PKDATA	PLDATA
出力コントロールレジスター	0x0004	PGCR	PHCR	PICR	PJCR	PKCR	-
ファンクションレジスター 1	0x0008	PGFR1	PHFR1	-	PJFR1	PKFR1	PLFR1
ファンクションレジスター 2	0x000C	-	-	-	-	-	-
ファンクションレジスター 3	0x0010	-	-	-	-	-	-
オープンドレインコントロールレジスター	0x0028	PGOD	PHOD	PIOD	PJOD	PKOD	-
プルアップコントロールレジスター	0x002C	PGPUP	PHPUP	PIPUP	PJPUP	PKPUP	-
プルダウンコントロールレジスター	0x0030	PGPDN	PHPDN	PIPDN	PJPDN	PKPDN	-
入力コントロールレジスター	0x0038	PGIE	PHIE	PIIE	PJIE	PKIE	PLIE

注) "-"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

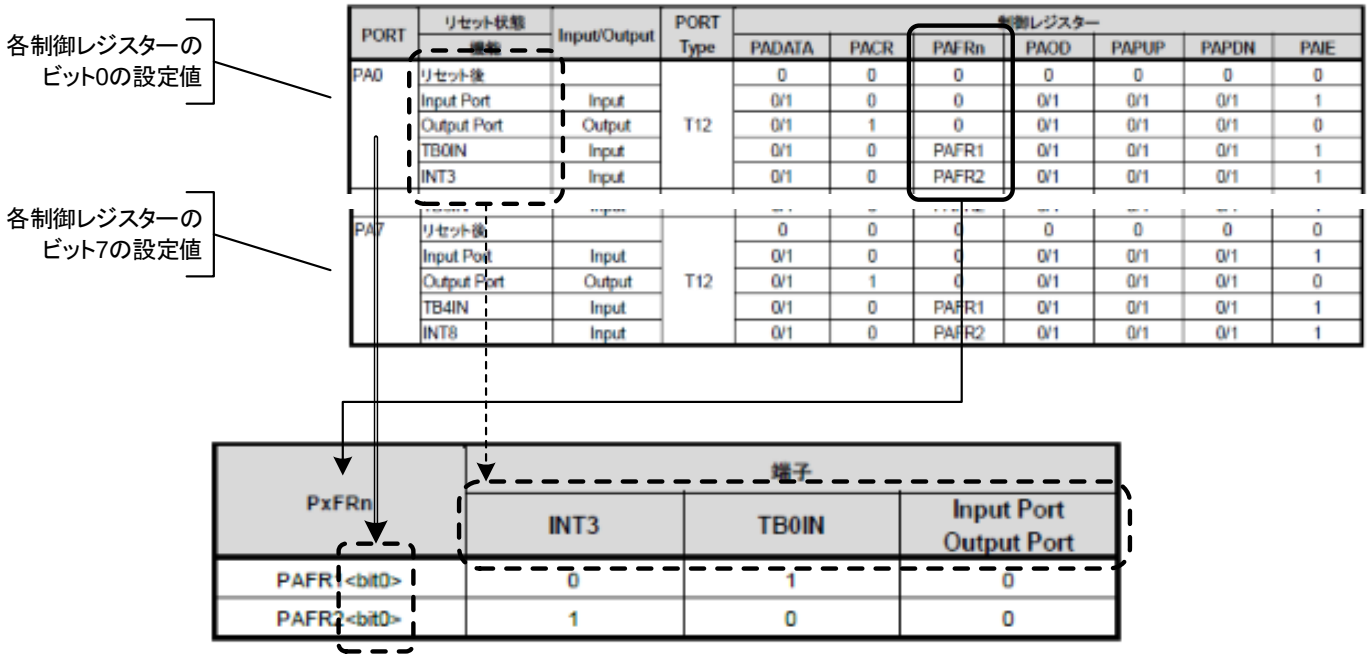
8.3.2. ポート機能とレジスター設定

ポート機能レジスター設定一覧の表の見方を説明します。

PxFRn の欄は、設定の必要なファンクションレジスターを示します。このレジスターを"1"に設定するとその機能が有効となります。(「x」はポート名、「n」はファンクション番号)

表中の"N/A"のビットはリードすると"0"が読め、ライトは意味を持ちません。

表中の"0"、"1"は設定値を示し、"0"/"1"は任意に設定可能であることを示します。



注)リセット後のレジスター値は、クロックが許可される前の初期値です。

8.3.2.1. 機能端子を使用する際の設定について

機能端子を周辺機能の出力端子として使用する際には、ファンクションレジスターを使用する周辺機能(PxFRn<bit m> = "1")に設定し、出力コントロールレジスターを出力許可(PxCR<bit m> = "1")に設定した後、周辺機能の設定をしてください。ファンクションレジスターの設定よりも先に出力許可すると、ファンクションレジスターが設定されるまで、ポートのデータレジスター値が出力されます。

機能端子を周辺機能の入力端子として使用する際には、ポートの入力コントロールレジスターを入力(PxIE<bit m> = "1")に設定し、ファンクションレジスターを使用する周辺機能(PxFRn<bit m> = "1")に設定した後、周辺機能の設定をしてください。

また、SIO/UART など入出力端子となる周辺機能を使用する場合は、ポートの入力コントロールレジスターを入力(PxIE<bit m> = "1")に設定し、ファンクションレジスターを使用する周辺機能(PxFRn<bit m> = "1")に設定し、出力コントロールレジスターを出力許可(PxCR<bit m> = "1")に設定した後、周辺機能の設定をしてください。

- 複数の機能が割り当てられているポートは、使用する機能を一つだけ選択してください。
- 同一機能が複数ポートに割り当てられている端子は、排他的に使用してください。

8.3.2.2. PORT A

表 8.8 ポートA レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PADATA	PACR	PAFRn	PAOD	PAPUP	PAPDN	PAIE
PA0	リセット後		T12	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB0IN	Input		0/1	0	PAFR1	0/1	0/1	0/1	1
	INT3	Input		0/1	0	PAFR2	0/1	0/1	0/1	1
PA1	リセット後		T2	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB0OUT	Output		0/1	1	PAFR1	0/1	0/1	0/1	0
PA2	リセット後		T12	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB1IN	Input		0/1	0	PAFR1	0/1	0/1	0/1	1
	INT4	Input		0/1	0	PAFR2	0/1	0/1	0/1	1
PA3	リセット後		T2	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB1OUT	Output		0/1	1	PAFR1	0/1	0/1	0/1	0
PA4	リセット後		T9	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	SCLK1	Input		0/1	0	PAFR1	0/1	0/1	0/1	1
		Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{CTS1}}$	Input		0/1	0	PAFR2	0/1	0/1	0/1	1
PA5	リセット後		T13	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TXD1	Output		0/1	1	PAFR1	0/1	0/1	0/1	0
	TB6OUT	Output		0/1	1	PAFR2	0/1	0/1	0/1	0
PA6	リセット後		T11	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	RXD1	Input		0/1	0	PAFR1	0/1	0/1	0/1	1
	TB6IN	Input		0/1	0	PAFR2	0/1	0/1	0/1	1
PA7	リセット後		T12	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB4IN	Input		0/1	0	PAFR1	0/1	0/1	0/1	1
	INT8	Input		0/1	0	PAFR2	0/1	0/1	0/1	1

8.3.2.3. PORT B

表 8.9 ポートB レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PBDATA	PBCR	PBFRn	PBOD	PBPUP	PBPDN	PBIE
PB0	リセット後		T18	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TRACECLK	Output		0/1	1	PBFR1	0	0	0	0
PB1	リセット後		T18	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TRACEDATA0	Output		0/1	1	PBFR1	0	0	0	0
PB2	リセット後		T18	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TRACEDATA1	Output		0/1	1	PBFR1	0	0	0	0
PB3	リセット後 (TMS/SWDIO)	I/O	T6	0	1(注1)	PBFR1	0	1	0	1
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
PB4	リセット後 (TCK/SWCLK)	Input	T8	0	0	PBFR1	0	0	1	1
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
PB5	リセット後 (TDO/SWV)	Output	T19	0	1(注1)	PBFR1	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
PB6	リセット後 (TDI)	Input	T7	0	0	PBFR1	0	1	0	1
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
PB7	リセット後($\overline{\text{TRST}}$)	Input	T7 (注2)	0	0	PBFR1	0	1	0	1
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0

注 1) ツールからのコマンドを受け付けるまでは出力にはなりません。

注 2) ノイズフィルター(30ns typ.)が入ります。

8.3.2.4. PORT C

表 8.10　ポートC レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PCDATA	PCCR	PCFRn	PCOD	PCPUP	PCPDN	PCIE
PC0	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	UO0	Output		0/1	1	PCFR1	0/1	0/1	0/1	0
PC1	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	XO0	Output		0/1	1	PCFR1	0/1	0/1	0/1	0
PC2	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	VO0	Output		0/1	1	PCFR1	0/1	0/1	0/1	0
PC3	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	YO0	Output		0/1	1	PCFR1	0/1	0/1	0/1	0
PC4	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	WO0	Output		0/1	1	PCFR1	0/1	0/1	0/1	0
PC5	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	ZO0	Output		0/1	1	PCFR1	0/1	0/1	0/1	0
PC6	リセット後		T3	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{EMG0}}$	Input		0/1	0	PCFR1	0/1	0/1	0/1	1
PC7	リセット後		T3	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{OVV0}}$	Input		0/1	0	PCFR1	0/1	0/1	0/1	1

8.3.2.5. PORT D

表 8.11 ポートD レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PDDATA	PDCR	PDFRn	PDOD	PDPUP	PDPDN	PDIE
PD0	リセット後		T11	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	ENCA0	Input		0/1	0	PDFR1	0/1	0/1	0/1	1
	TBIN5	Input		0/1	0	PDFR2	0/1	0/1	0/1	1
PD1	リセット後		T10	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	ENCB0	Input		0/1	0	PDFR1	0/1	0/1	0/1	1
	TB5OUT	Output		0/1	1	PDFR2	0/1	0/1	0/1	0
PD2	リセット後		T3	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	ENCZ0	Input		0/1	0	PDFR1	0/1	0/1	0/1	1
PD3	リセット後		T4	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	INT9	Input		0/1	0	PDFR1	0/1	0/1	0/1	1
PD4	リセット後		T9	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	SCLK2	Input		0/1	0	PDFR1	0/1	0/1	0/1	1
		Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{CTS2}}$	Input		0/1	0	PDFR2	0/1	0/1	0/1	1
PD5	リセット後		T2	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TXD2	Output		0/1	1	PDFR1	0/1	0/1	0/1	0
PD6	リセット後		T3	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	RXD2	Input		0/1	0	PDFR1	0/1	0/1	0/1	1

8.3.2.6. PORT E

表 8.12 ポートE レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PEDATA	PECR	PEFRn	PEOD	PEPUP	PEPDN	PEIE
PE0	リセット後		T2	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TXD0	Output		0/1	1	PEFR1	0/1	0/1	0/1	0
PE1	リセット後		T3	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	RXD0	Input		0/1	0	PEFR1	0/1	0/1	0/1	1
PE2	リセット後		T9	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	SCLK0	Input		0/1	0	PEFR1	0/1	0/1	0/1	1
		Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{CTS0}}$	Input		0/1	0	PEFR2	0/1	0/1	0/1	1
PE3	リセット後		T2	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB4OUT	Output		0/1	1	PEFR1	0/1	0/1	0/1	0
PE4	リセット後		T12	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB2IN	Input		0/1	0	PEFR1	0/1	0/1	0/1	1
	INT5	Input		0/1	0	PEFR2	0/1	0/1	0/1	1
PE5	リセット後		T2	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB2OUT	Output		0/1	1	PEFR1	0/1	0/1	0/1	0
PE6	リセット後		T12	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB3IN	Input		0/1	0	PEFR1	0/1	0/1	0/1	1
	INT6	Input		0/1	0	PEFR2	0/1	0/1	0/1	1
PE7	リセット後		T14	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB3OUT	Output		0/1	1	PEFR1	0/1	0/1	0/1	0
	INT7	Input		0/1	0	PEFR2	0/1	0/1	0/1	1

8.3.2.7. PORT F

表 8.13 ポートF レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PFDATA	PFCR	PFFRn	PFOD	PFPUP	PFPDN	PFIE
PF0	リセット中($\overline{\text{BOOT}}$)(注)	Input	T20	0	0	0	0	1	0	0
	リセット後			0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB7IN	Input		0/1	0	PFFR1	0/1	0/1	0/1	1
PF1	リセット後		T2	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB7OUT	Output		0/1	1	PFFR1	0/1	0/1	0/1	0
PF2	リセット後		T15	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	ENCA1	Input		0/1	0	PFFR1	0/1	0/1	0/1	1
	SCLK3	Input		0/1	0	PFFR2	0/1	0/1	0/1	1
		Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{CTS3}}$	Input		0/1	0	PFFR3	0/1	0/1	0/1	1
PF3	リセット後		T10	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	ENCB1	Input		0/1	0	PFFR1	0/1	0/1	0/1	1
	TXD3	Output		0/1	1	PFFR2	0/1	0/1	0/1	0
PF4	リセット後		T11	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	ENCZ1	Input		0/1	0	PFFR1	0/1	0/1	0/1	1
	RXD3	Input		0/1	0	PFFR2	0/1	0/1	0/1	1

注) リセット端子($\overline{\text{RESET}}$)によるリセット期間中は PFPUP は許可状態("1")となります。PFIE レジスターは"0"ですが、$\overline{\text{BOOT}}$信号が入力可能となります。

8.3.2.8. PORT G

表 8.14 ポートG レジスター設定

PORT	リセット状態 / 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PGDATA	PGCR	PGFRn	PGOD	PGPUP	PGPDN	PGIE
PG0	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	UO1	Output		0/1	1	PGFR1	0/1	0/1	0/1	0
PG1	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	XO1	Output		0/1	1	PGFR1	0/1	0/1	0/1	0
PG2	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	VO1	Output		0/1	1	PGFR1	0/1	0/1	0/1	0
PG3	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	YO1	Output		0/1	1	PGFR1	0/1	0/1	0/1	0
PG4	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	WO1	Output		0/1	1	PGFR1	0/1	0/1	0/1	0
PG5	リセット後		T1	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	ZO1	Output		0/1	1	PGFR1	0/1	0/1	0/1	0
PG6	リセット後		T3	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{EMG1}}$	Input		0/1	0	PGFR1	0/1	0/1	0/1	1
PG7	リセット後		T3	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{OVV1}}$	Input		0/1	0	PGFR1	0/1	0/1	0/1	1

8.3.2.9. PORT H

表 8.15　ポートH レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PHDATA	PHCR	PHFRn	PHOD	PHPUP	PHPDN	PHIE
PH0	リセット後		T17	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	INT0	Input		0/1	0	PHFR1	0/1	0/1	0/1	1
	AINA0	Input		0/1	0	0	0/1	0	0	0
PH1	リセット後		T17	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	INT1	Input		0/1	0	PHFR1	0/1	0/1	0/1	1
	AINA1	Input		0/1	0	0	0/1	0	0	0
PH2	リセット後		T17	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	INT2	Input		0/1	0	PHFR1	0/1	0/1	0/1	1
	AINA2	Input		0/1	0	0	0/1	0	0	0
PH3	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA3	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PH4	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA4	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PH5	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA5	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PH6	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA6	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PH7	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA7	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0

8.3.2.10. PORT I

表 8.16 ポートI レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PIDATA	PICR	PIFRn	PIOD	PIPUP	PIPDN	PIIE
PI0	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA8	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PI1	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA9/AINB0	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PI2	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA10/AINB1	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PI3	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINA11/AINB2	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0

8.3.2.11. PORT J

表 8.17 ポートJ レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PJDATA	PJCR	PJFRn	PJOD	PJPUP	PJPDN	PJIE
PJ0	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINB3	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PJ1	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINB4	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PJ2	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINB5	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PJ3	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINB6	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PJ4	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINB7	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PJ5	リセット後		T16	0	0	N/A	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	N/A	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	N/A	0/1	0/1	0/1	0
	AINB8	Input		0/1	0	N/A	0/1	0	0	0
PJ6	リセット後		T17	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	INTC	Input		0/1	0	PJFR1	0/1	0/1	0/1	1
	AINB9	Input		0/1	0	0	0/1	0	0	0
PJ7	リセット後		T17	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	INTD	Input		0/1	0	PJFR1	0/1	0/1	0/1	1
	AINB10	Input		0/1	0	0	0/1	0	0	0

8.3.2.12. PORT K

表 8.18 ポートK レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PKDATA	PKCR	PKFRn	PKOD	PKPUP	PKPDN	PKIE
PK0	リセット後		T17	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	INTE	Input		0/1	0	PKFR1	0/1	0/1	0/1	1
	AINB11	Input		0/1	0	0	0/1	0	0	0
PK1	リセット後		T17	0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	INTF	Input		0/1	0	PKFR1	0/1	0/1	0/1	1
	AINB12	Input		0/1	0	0	0/1	0	0	0

8.3.2.13. PORT L

表 8.19 ポートL レジスター設定

PORT	リセット状態 機能	Input/Output	PORT Type	制御レジスター						
				PLDATA	PLCR	PLFRn	PLOD	PLPUP	PLPDN	PLIE
PL0	リセット後		T5	N/A	N/A	0	N/A	N/A	N/A	0
	Input Port	Input		N/A	N/A	0	N/A	N/A	N/A	1
	Output Port	Output		N/A	N/A	0	N/A	N/A	N/A	0
	INTB	Input		N/A	N/A	PLFR1	N/A	N/A	N/A	1
PL1	リセット後		T5	N/A	N/A	0	N/A	N/A	N/A	0
	Input Port	Input		N/A	N/A	0	N/A	N/A	N/A	1
	Output Port	Output		N/A	N/A	0	N/A	N/A	N/A	0
	INTA	Input		N/A	N/A	PLFR1	N/A	N/A	N/A	1

8.4. ポート回路図

ポートには、T1 ~ T21 のタイプがあります。それぞれの回路図を次ページから示します。

回路図内の"I/O リセット"は、パワーオンリセット(POR)または端子リセットを示します。ただし、デバッグ用端子(TMS/SWDIO、TDI、TDO/SWV、TCK/SWCLK、$\overline{\text{TRST}}$)の I/O リセットは、パワーオンリセット(POR)のみとなります。

8.4.1. タイプ T1

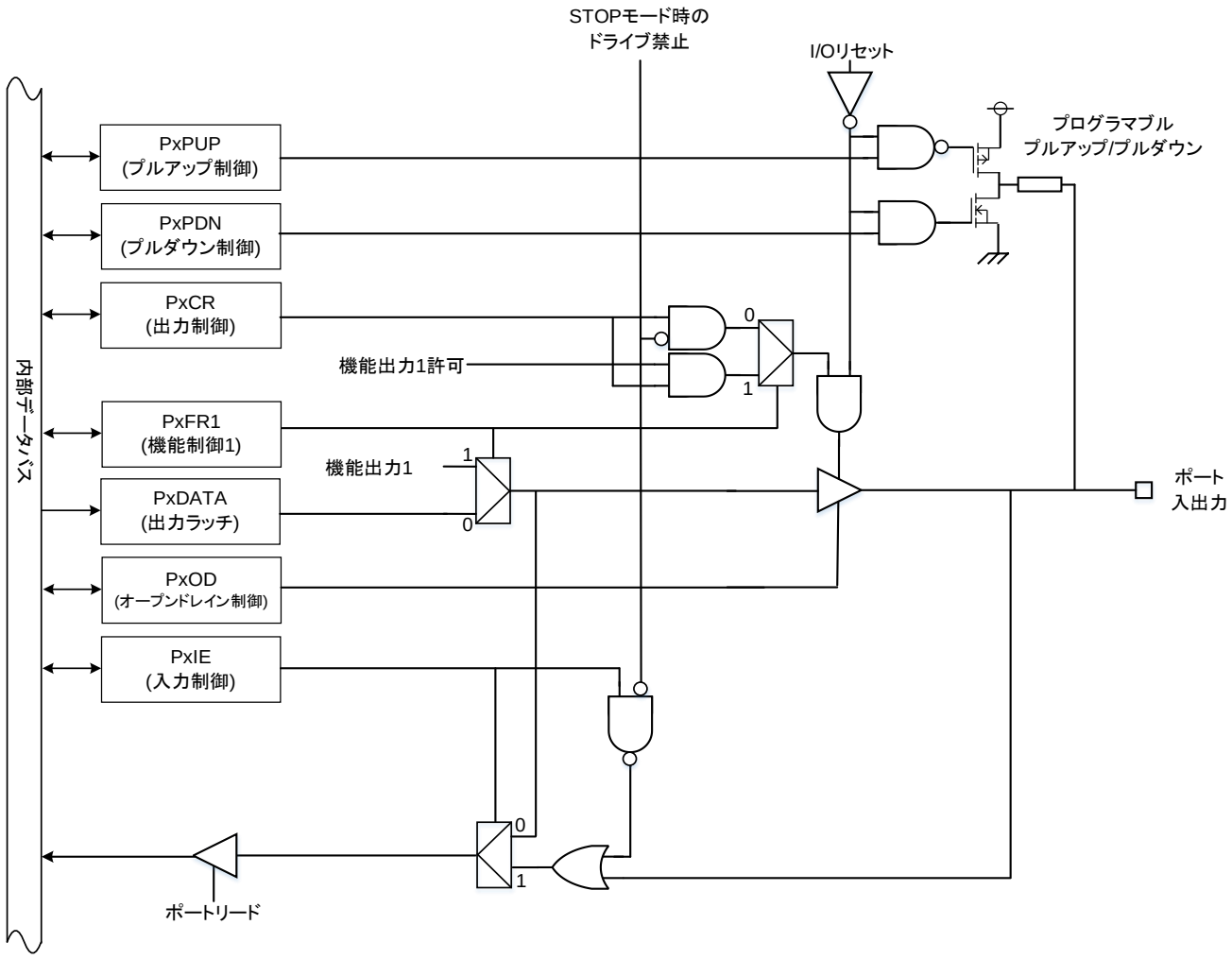


図 8.1　ポートタイプT1

8.4.2. タイプ T2

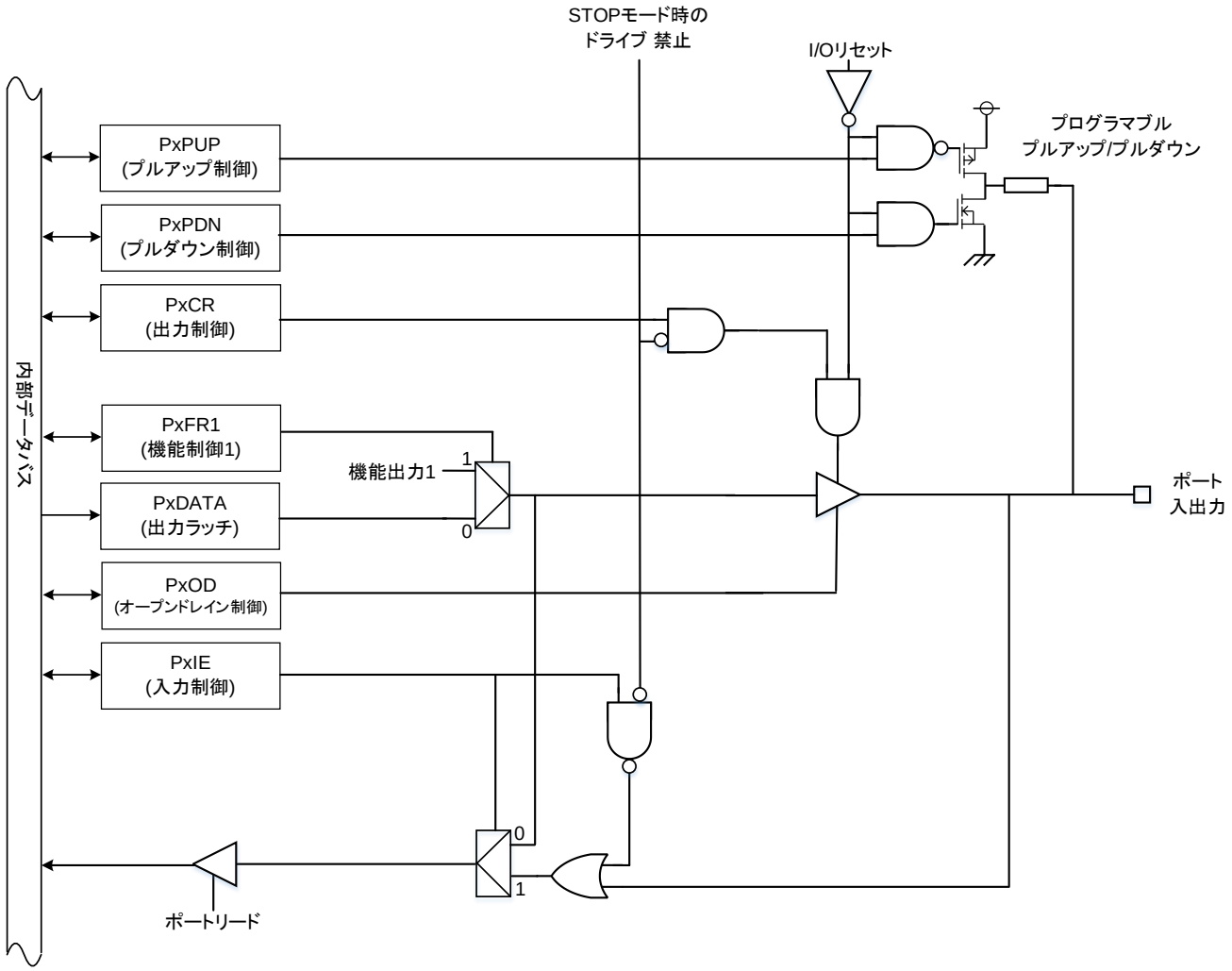


図 8.2 ポートタイプT2

8.4.3. タイプ T3

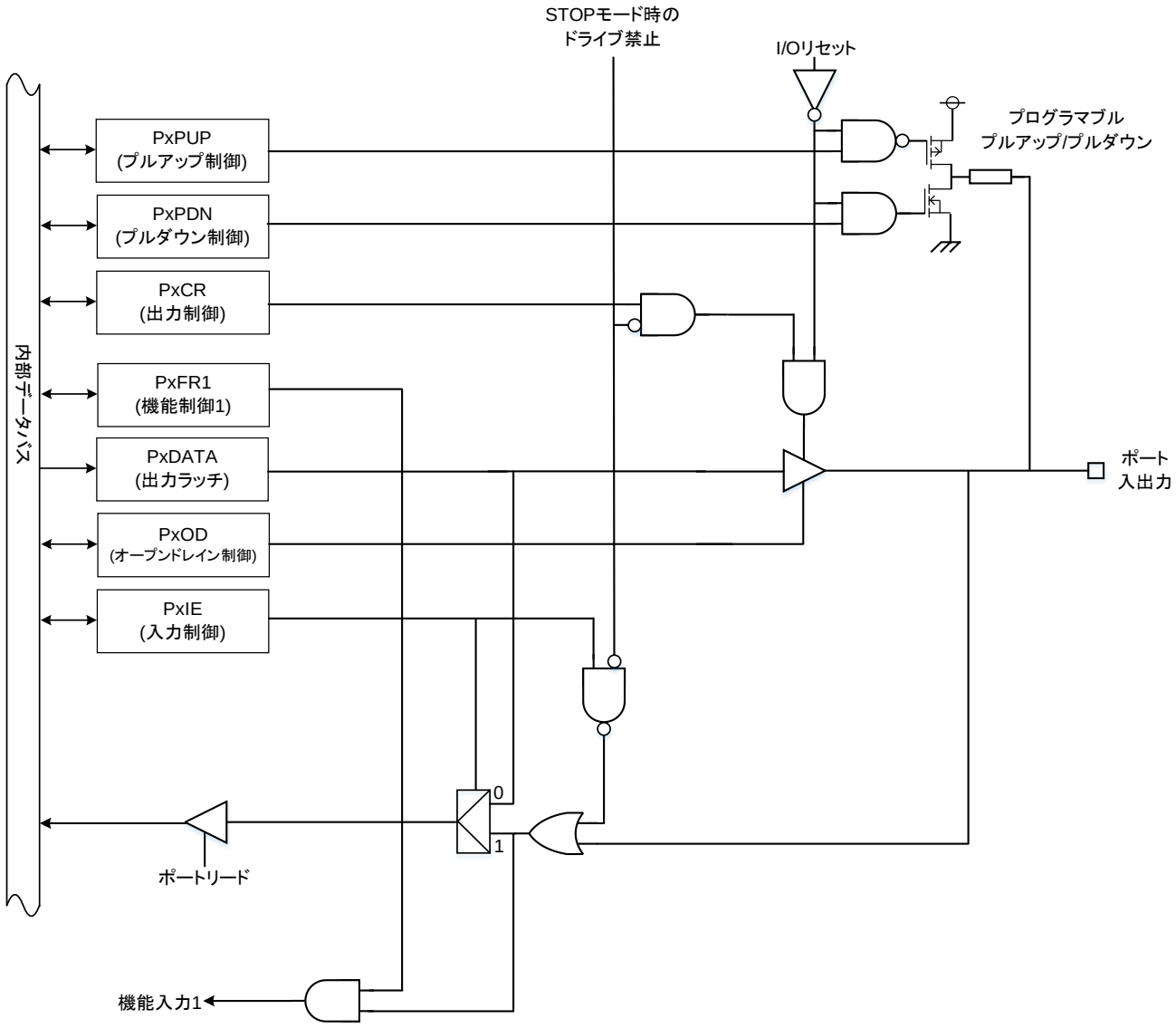


図 8.3　ポートタイプT3

8.4.4. タイプ T4

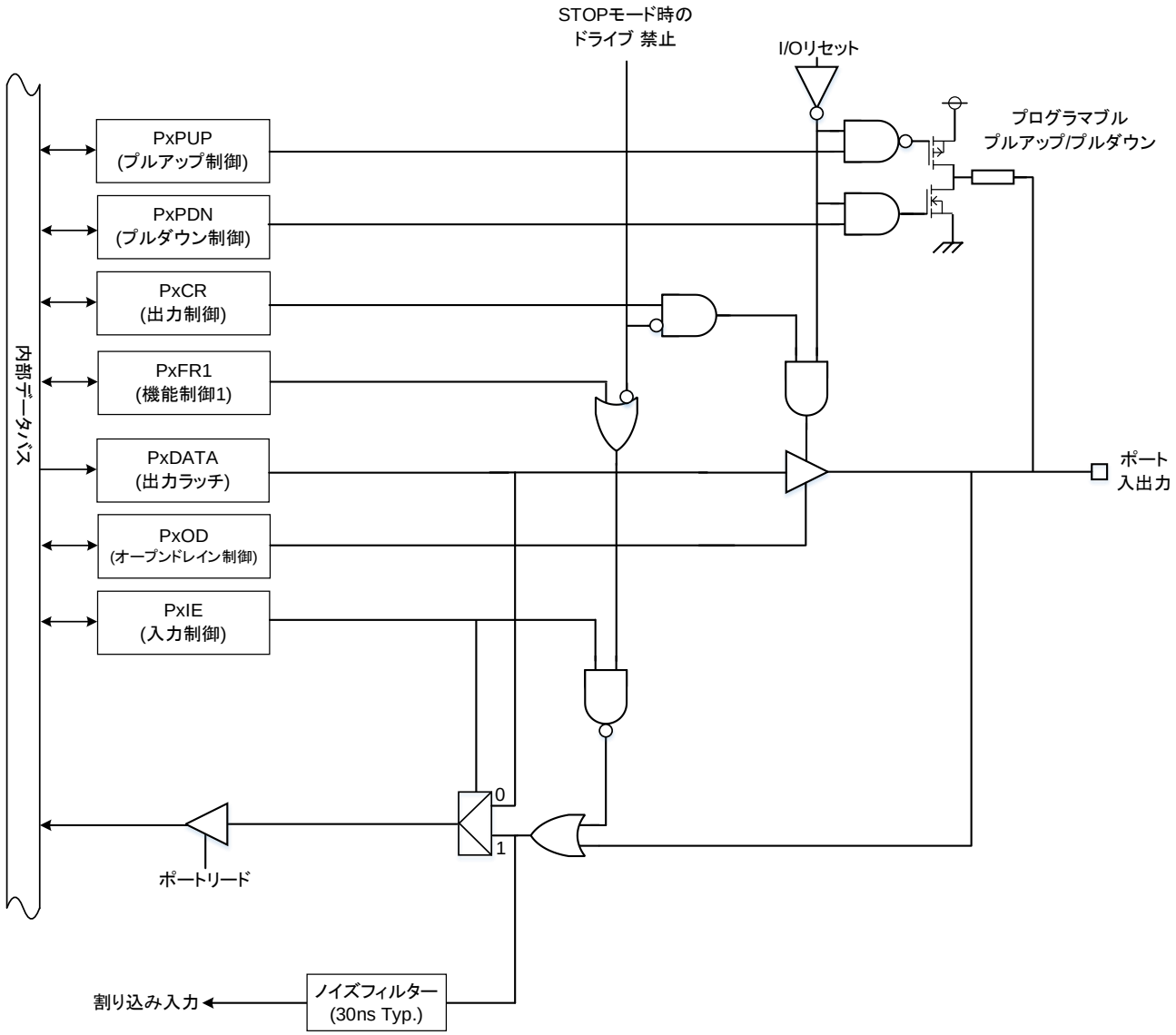


図 8.4 ポートタイプT4

8.4.5. タイプ T5

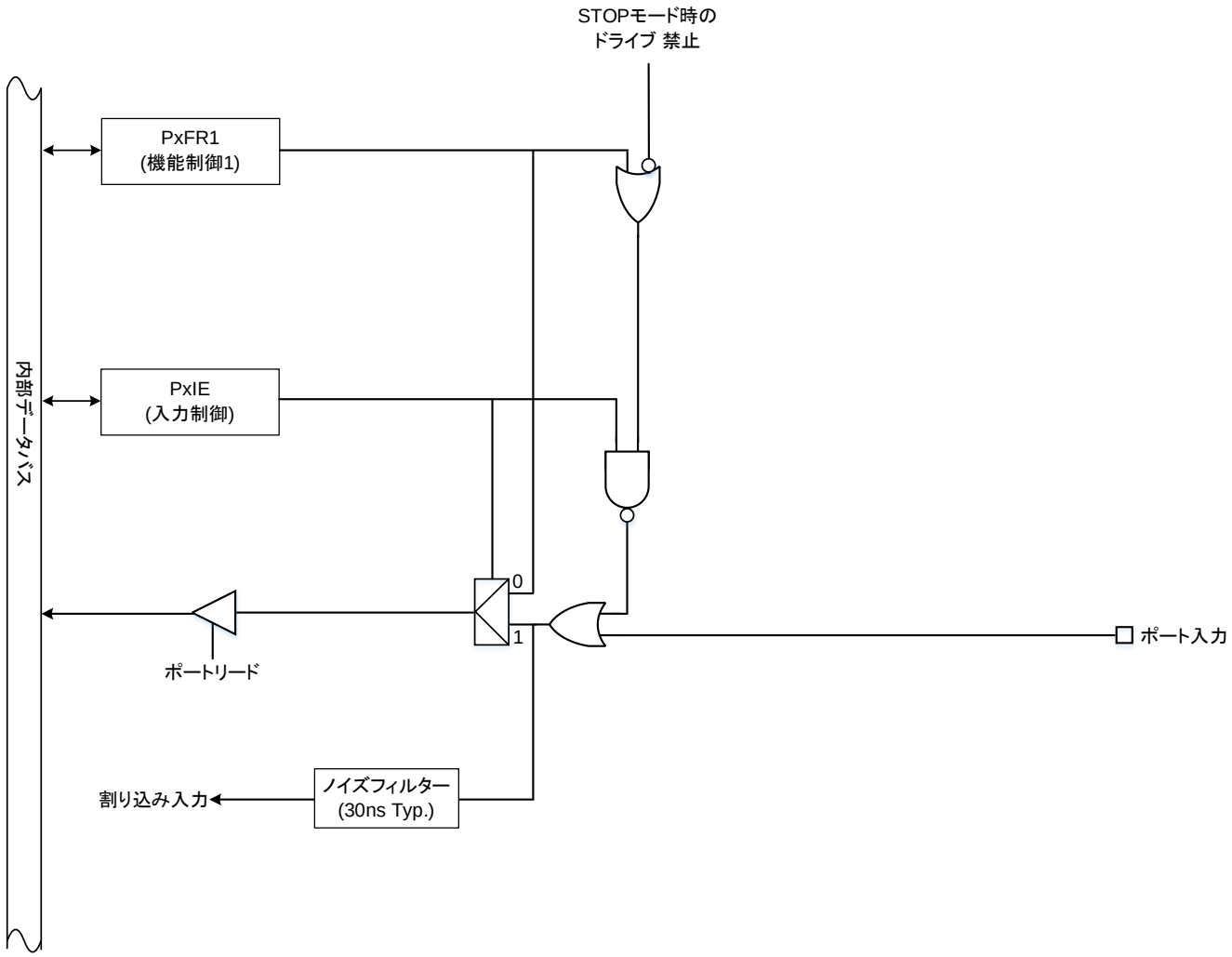


図 8.5 ポートタイプT5

8.4.6. タイプ T6

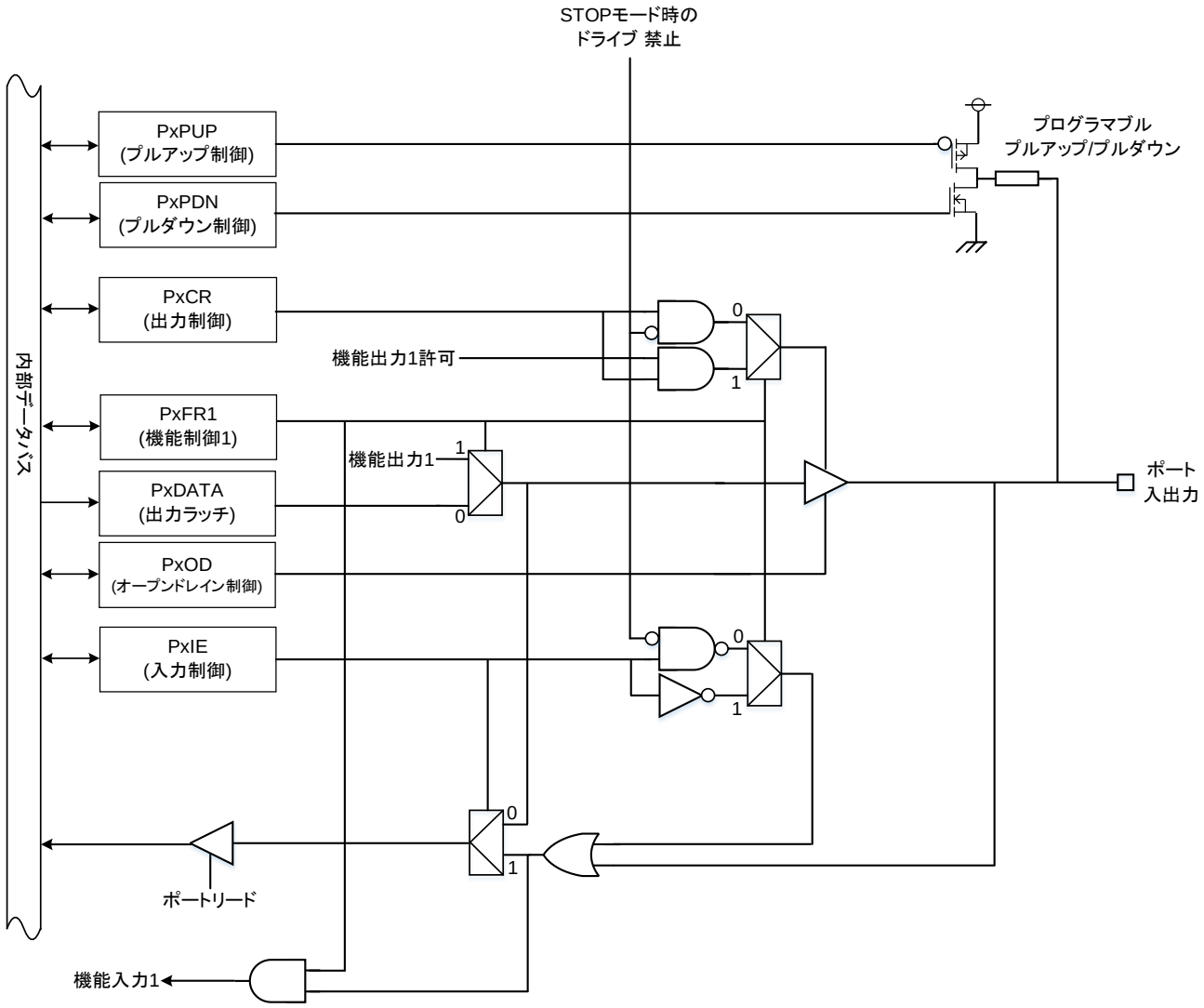


図 8.6　ポートタイプT6

8.4.7. タイプ T7

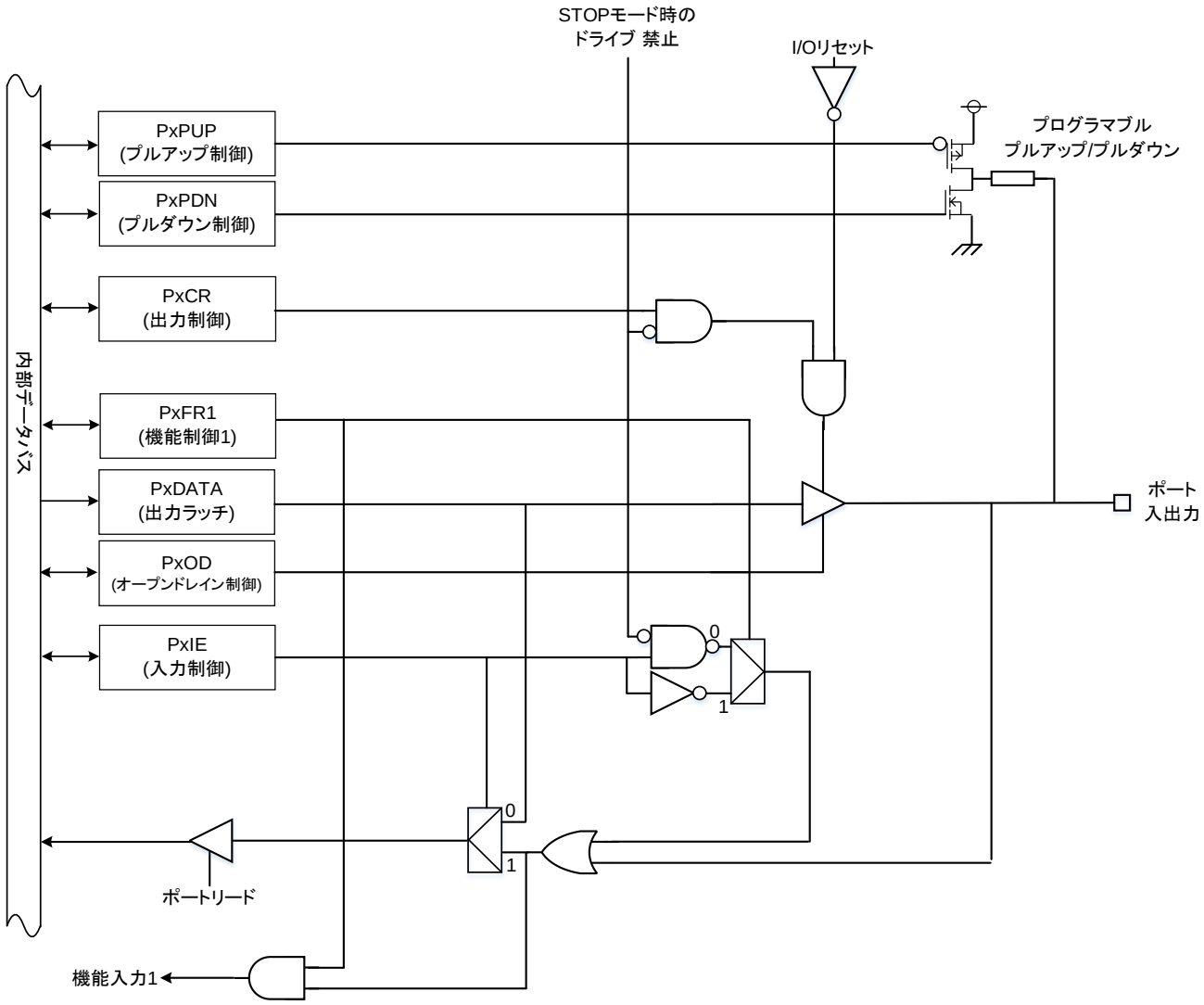


図 8.7　ポートタイプT7

8.4.8. タイプ T8

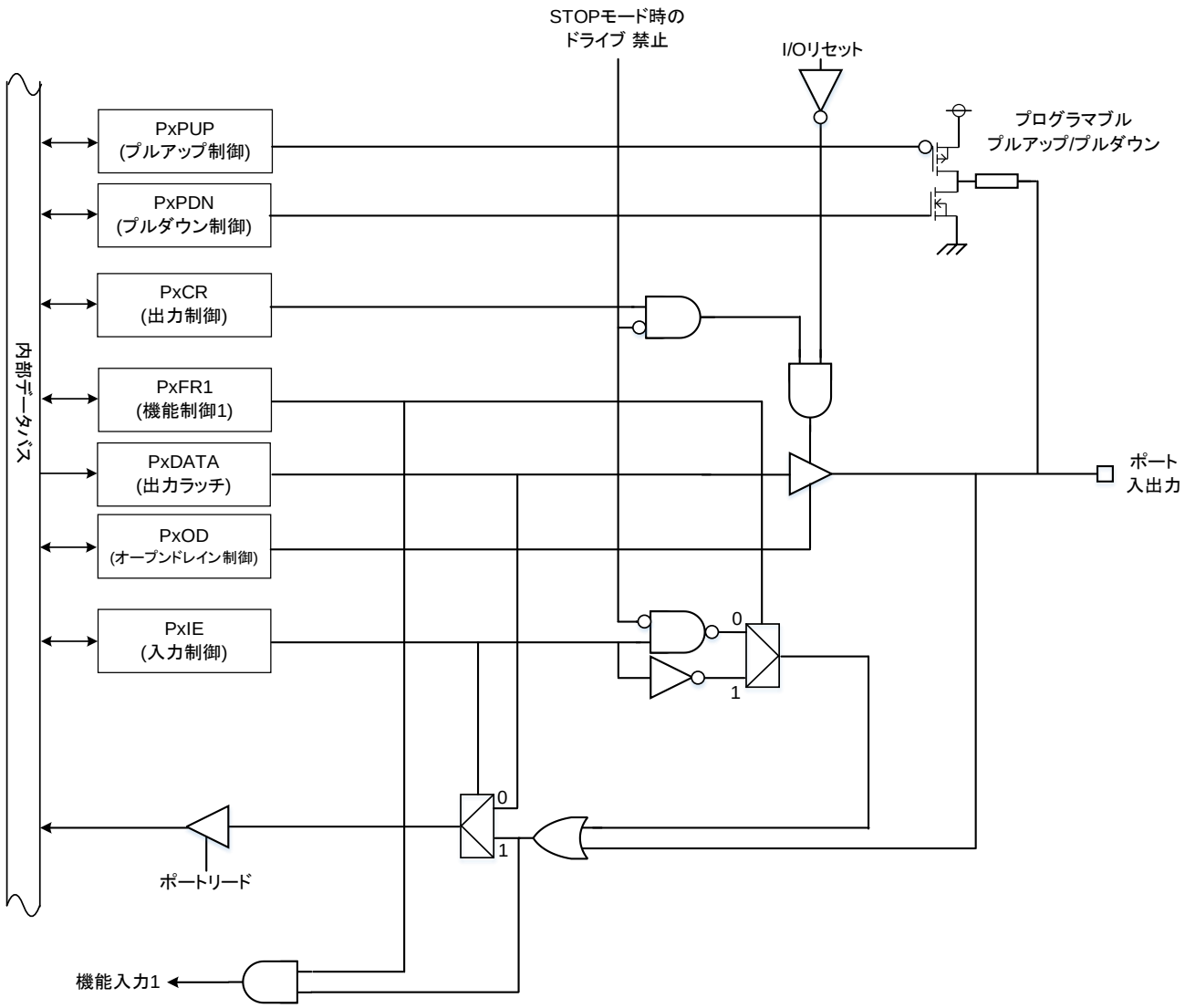


図 8.8 ポートタイプT8

8.4.9. タイプ T9

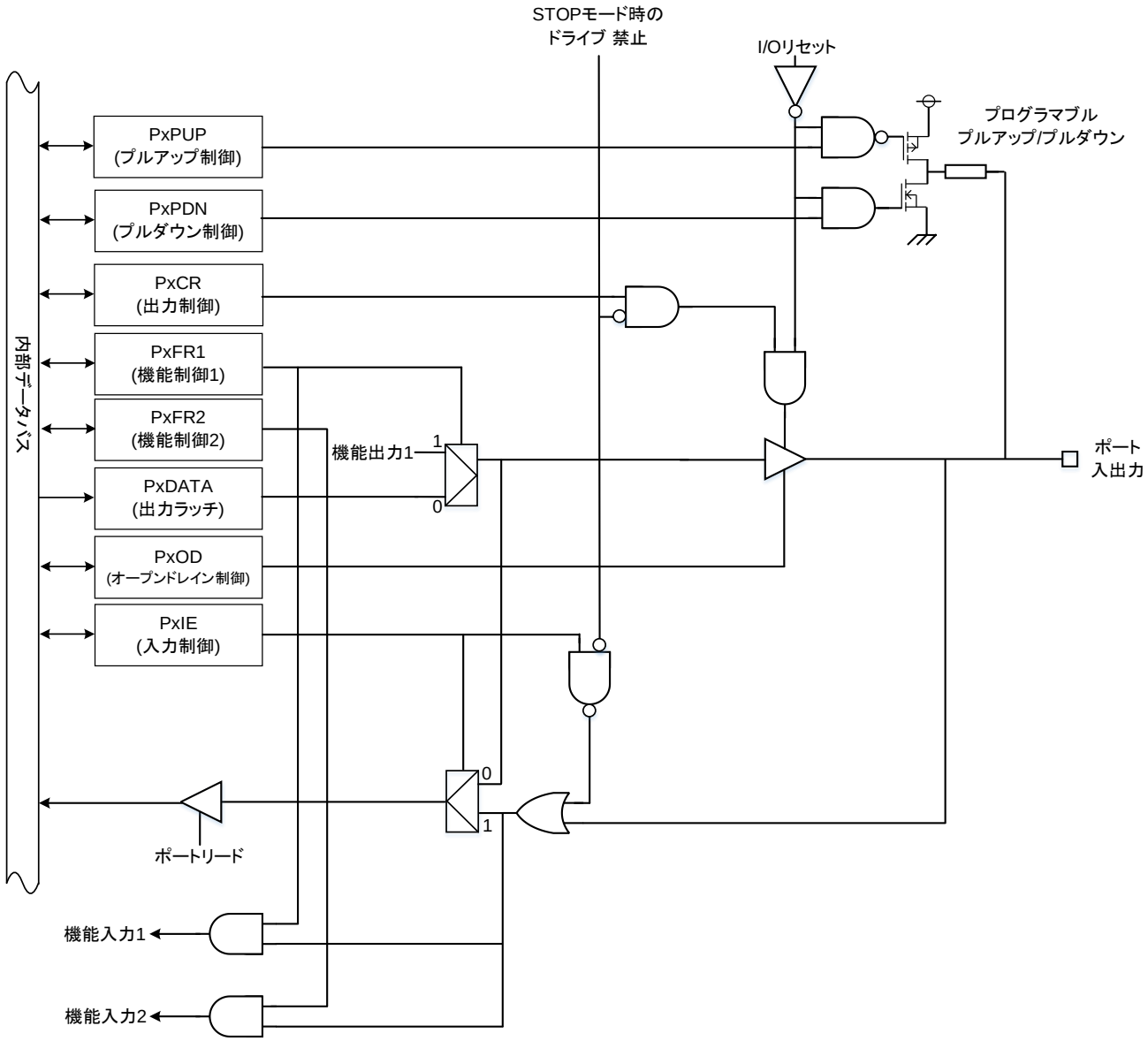


図 8.9　ポートタイプT9

8.4.10. タイプ T10

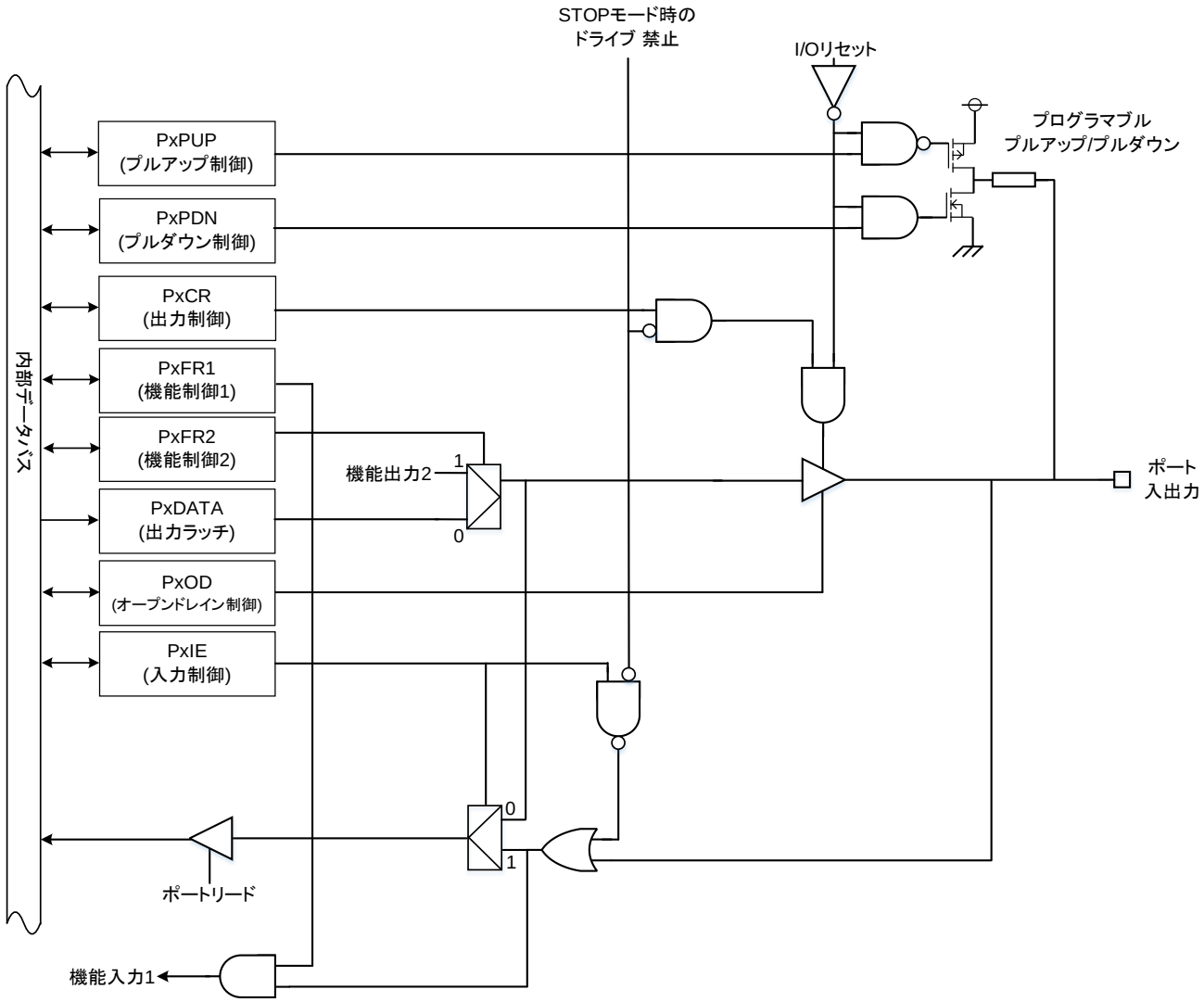


図 8.10 ポートタイプT10

8.4.11. タイプ T11

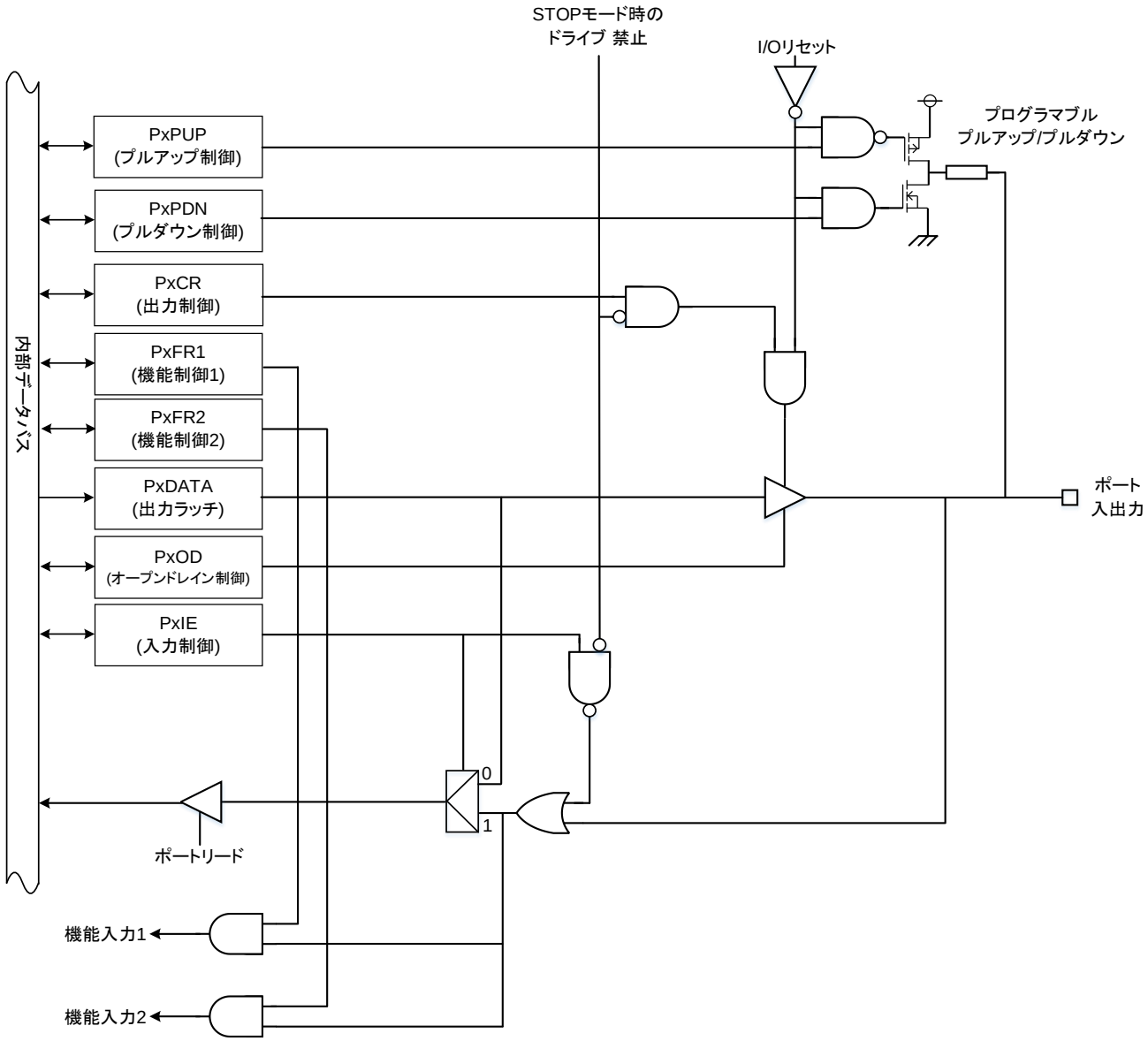


図 8.11 ポートタイプT11

8.4.12. タイプ T12

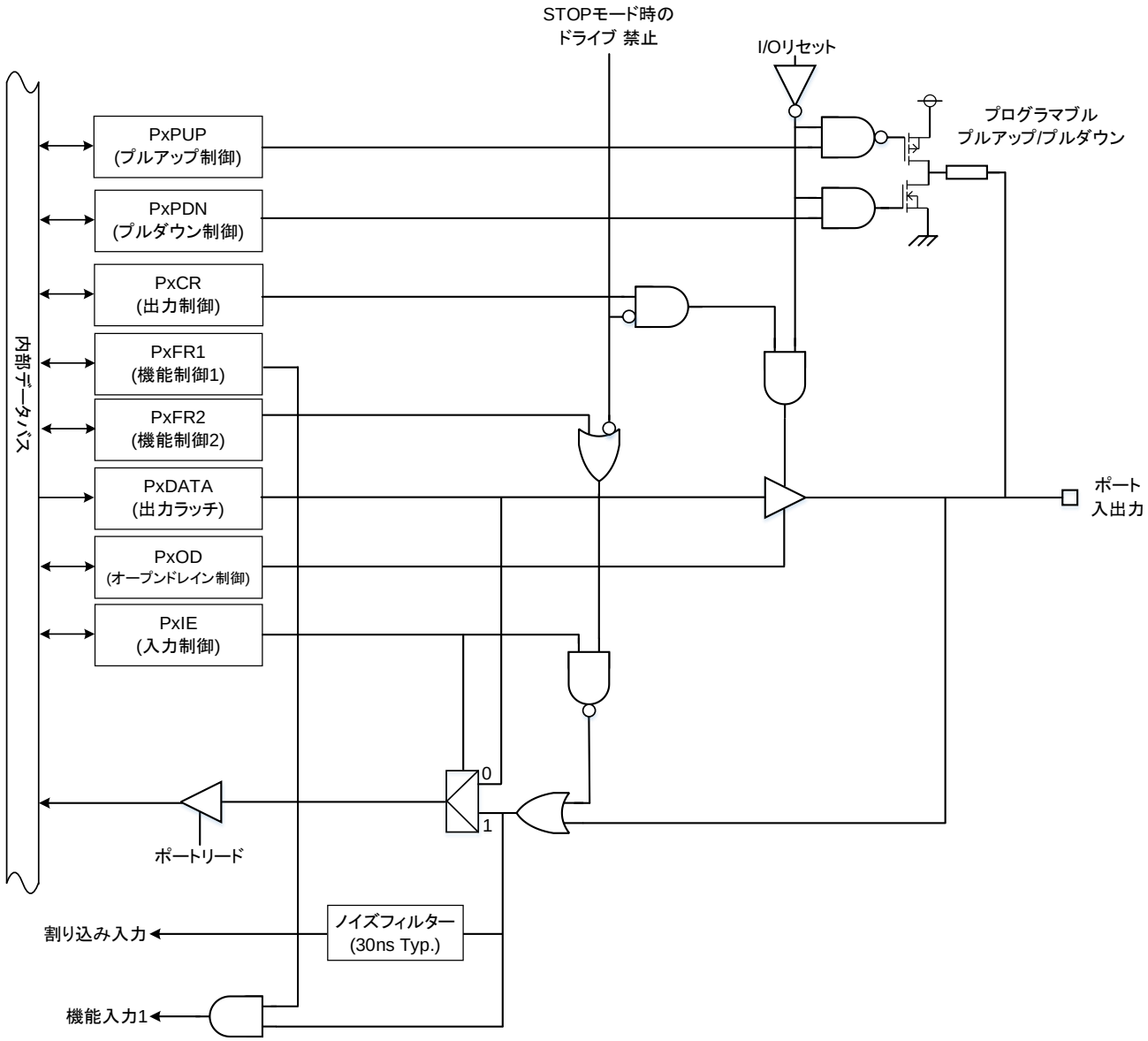


図 8.12 ポートタイプT12

8.4.13. タイプ T13

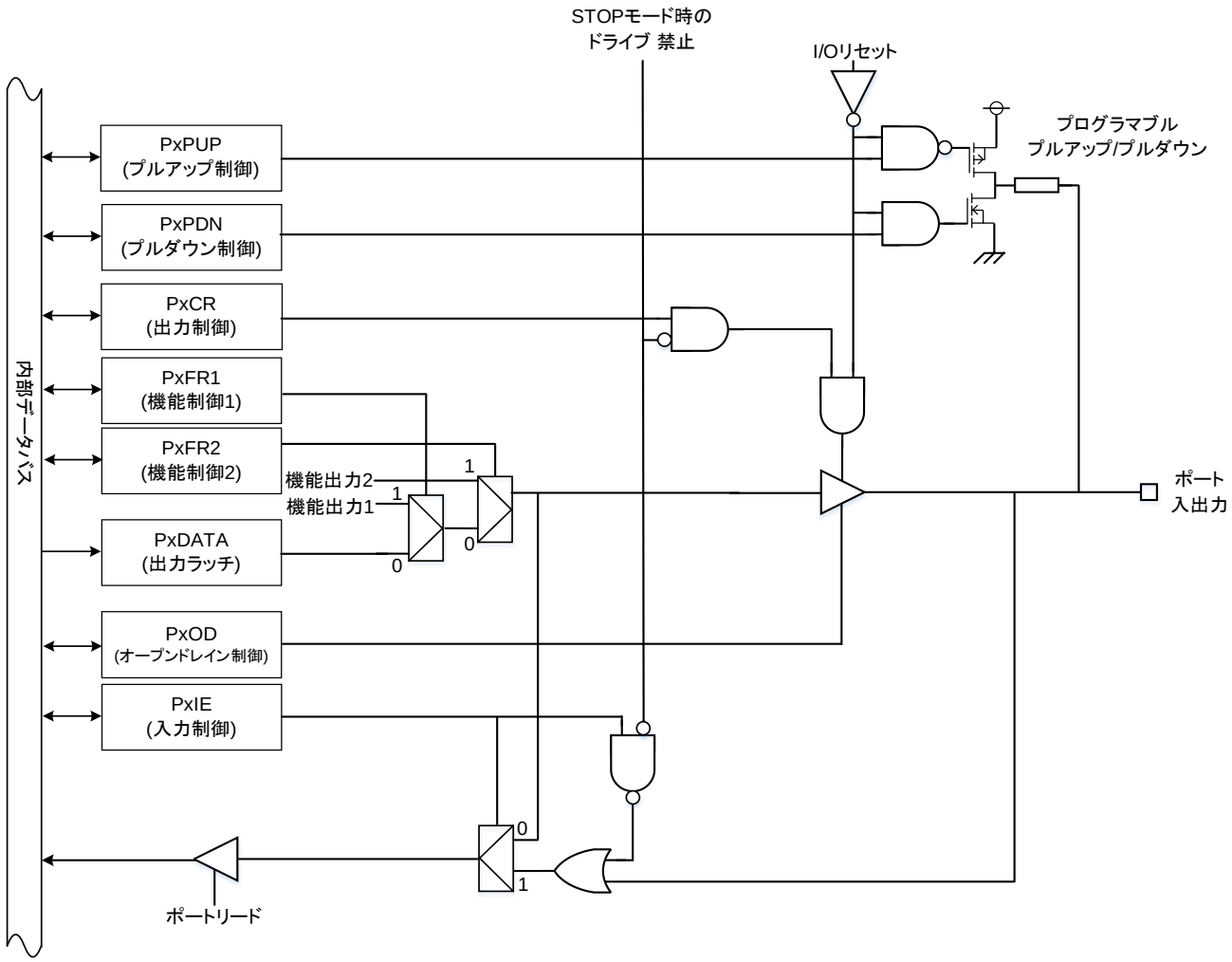


図 8.13　ポートタイプT13

8.4.14. タイプ T14

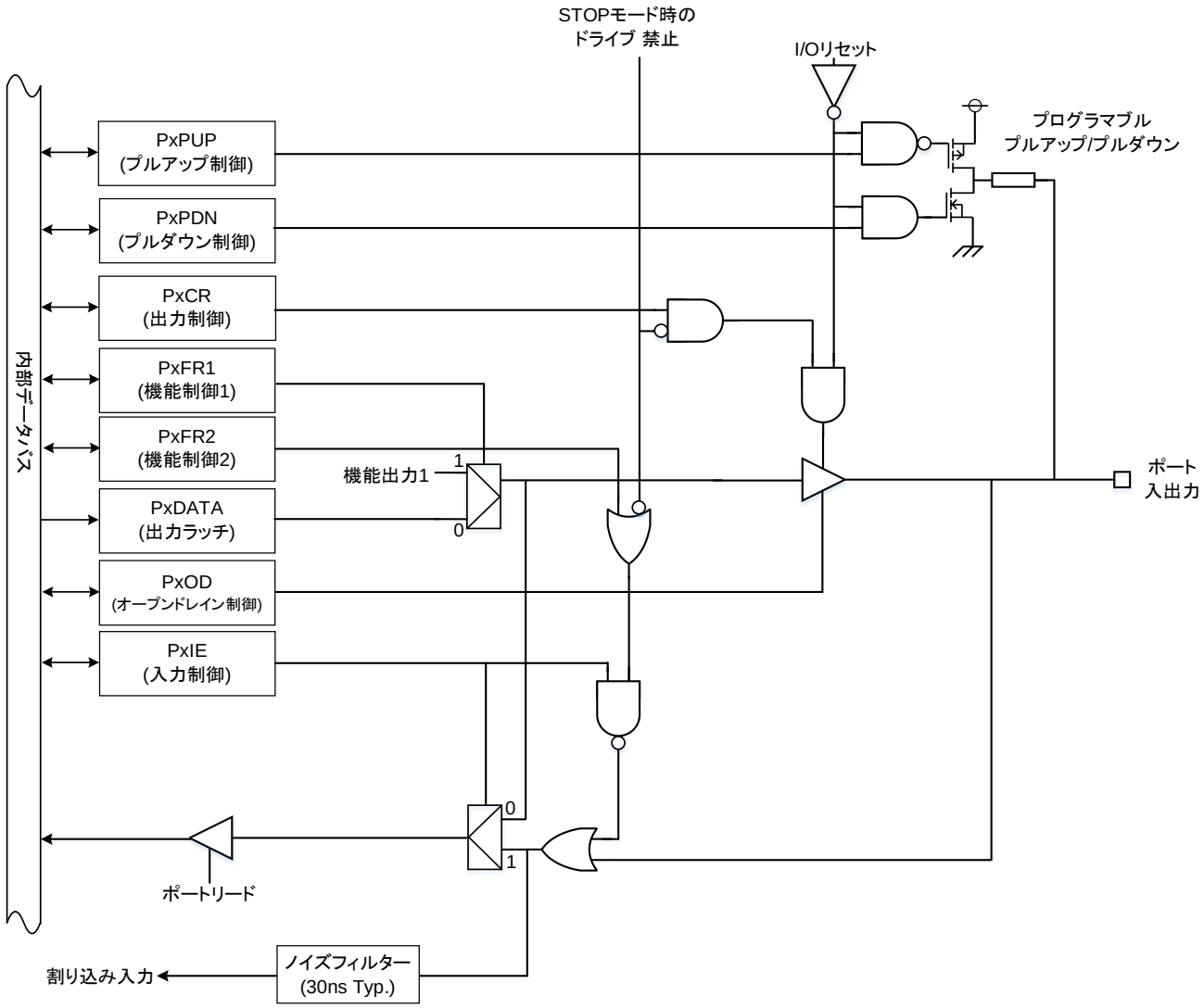


図 8.14 ポートタイプT14

8.4.15. タイプ T15

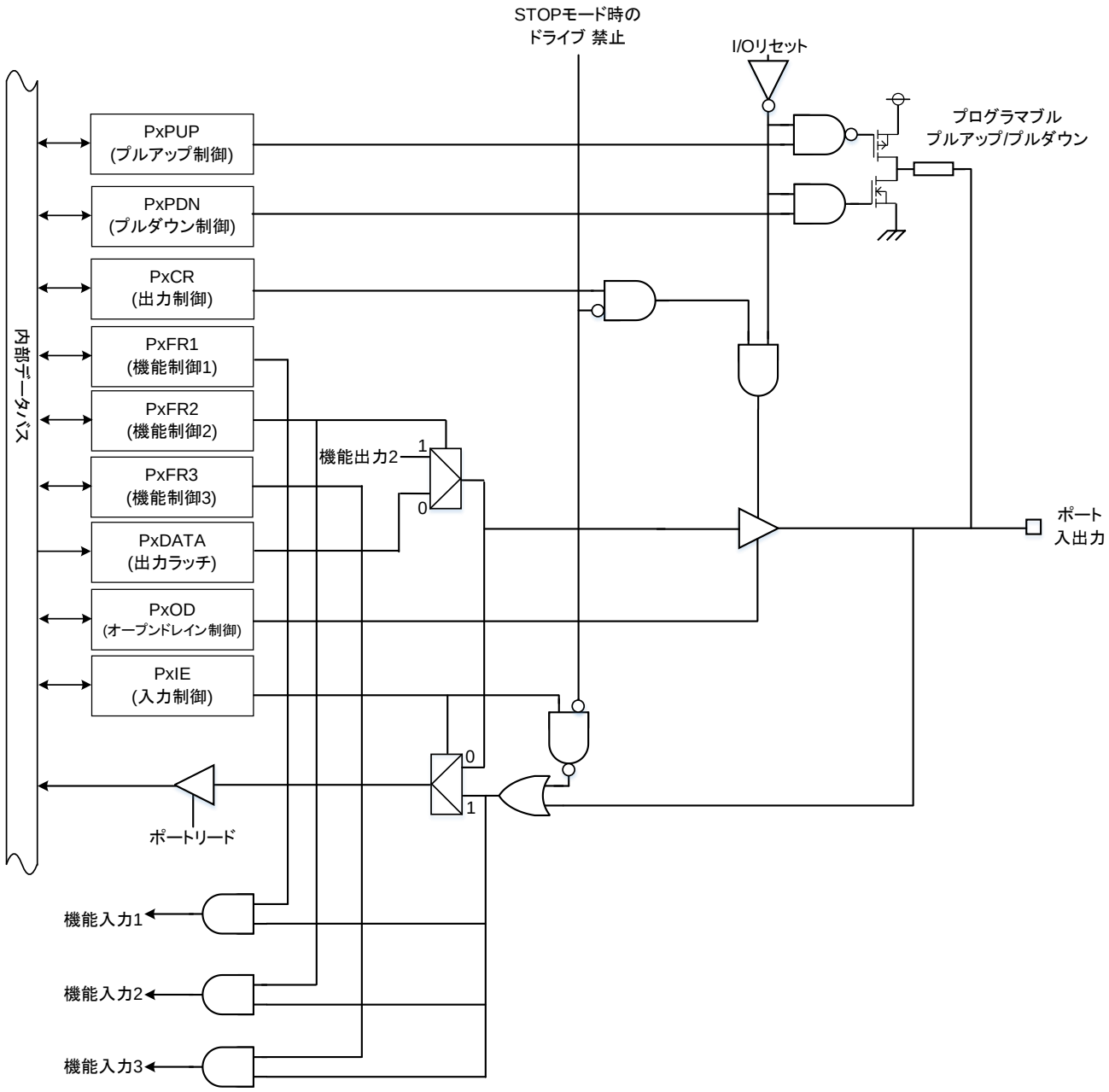


図 8.15 ポートタイプT15

8.4.16. タイプ T16

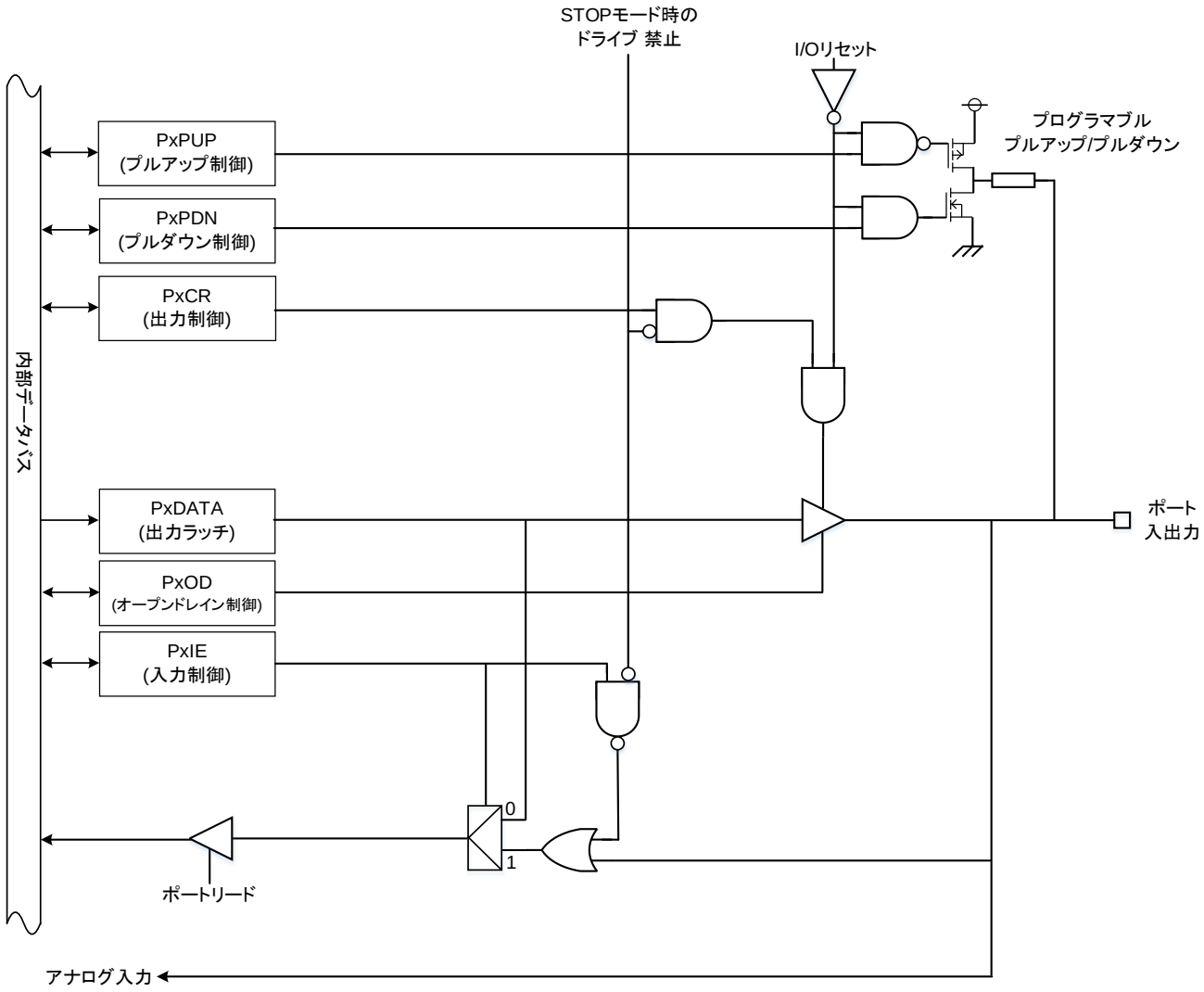


図 8.16 ポートタイプT16

8.4.17. タイプ T17

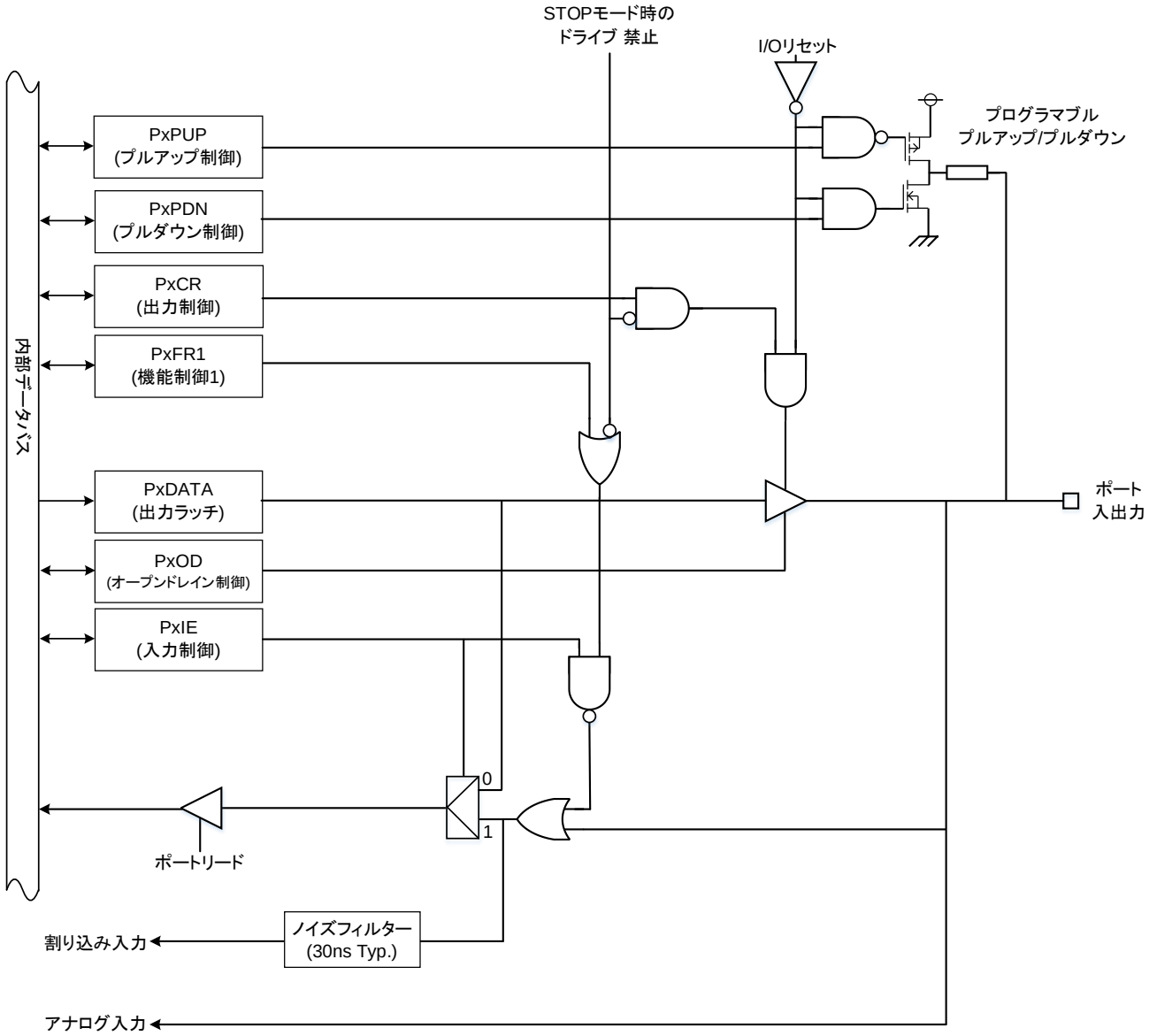


図 8.17　ポートタイプT17

8.4.18. タイプ T18

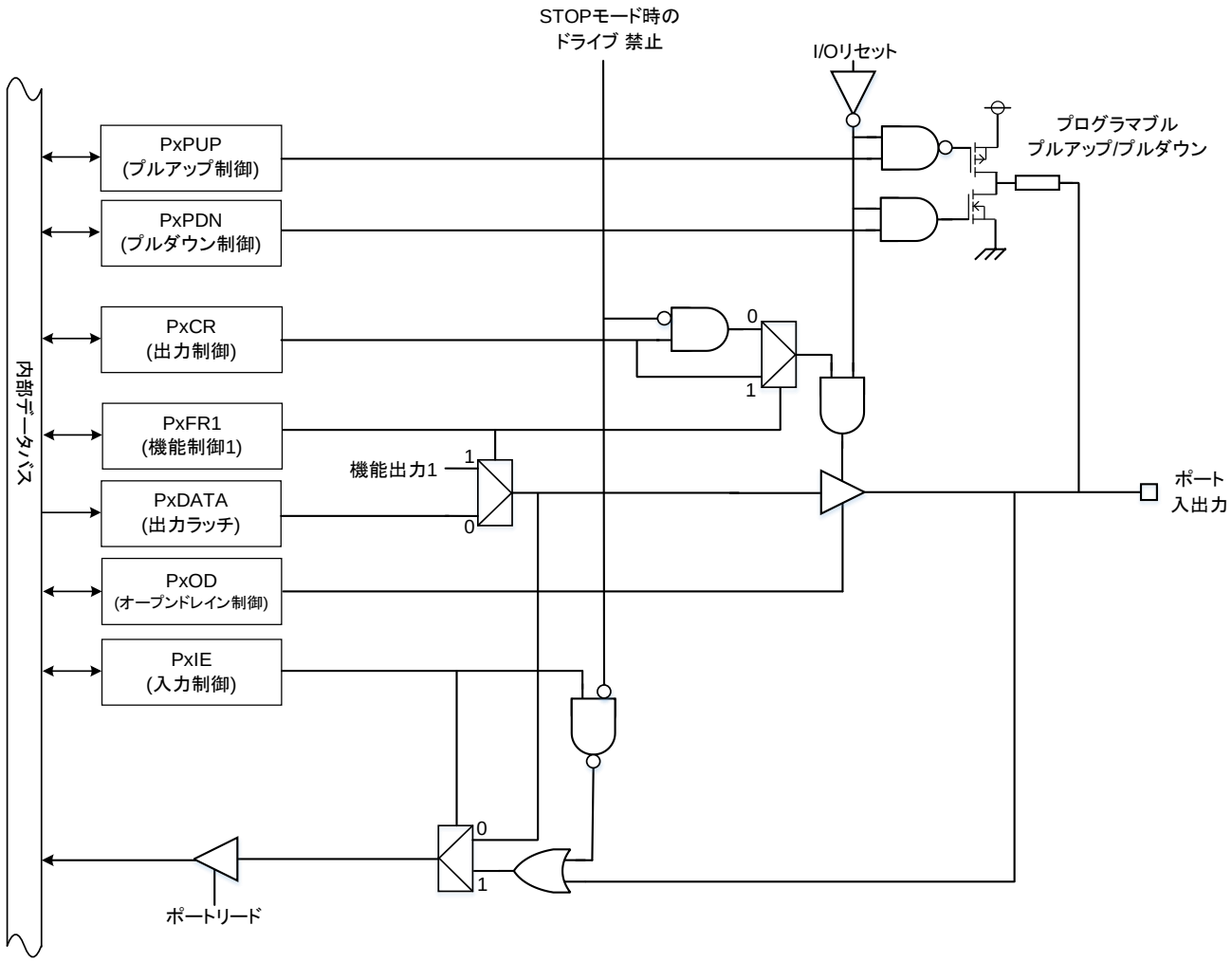


図 8.18 ポートタイプT18

8.4.19. タイプ T19

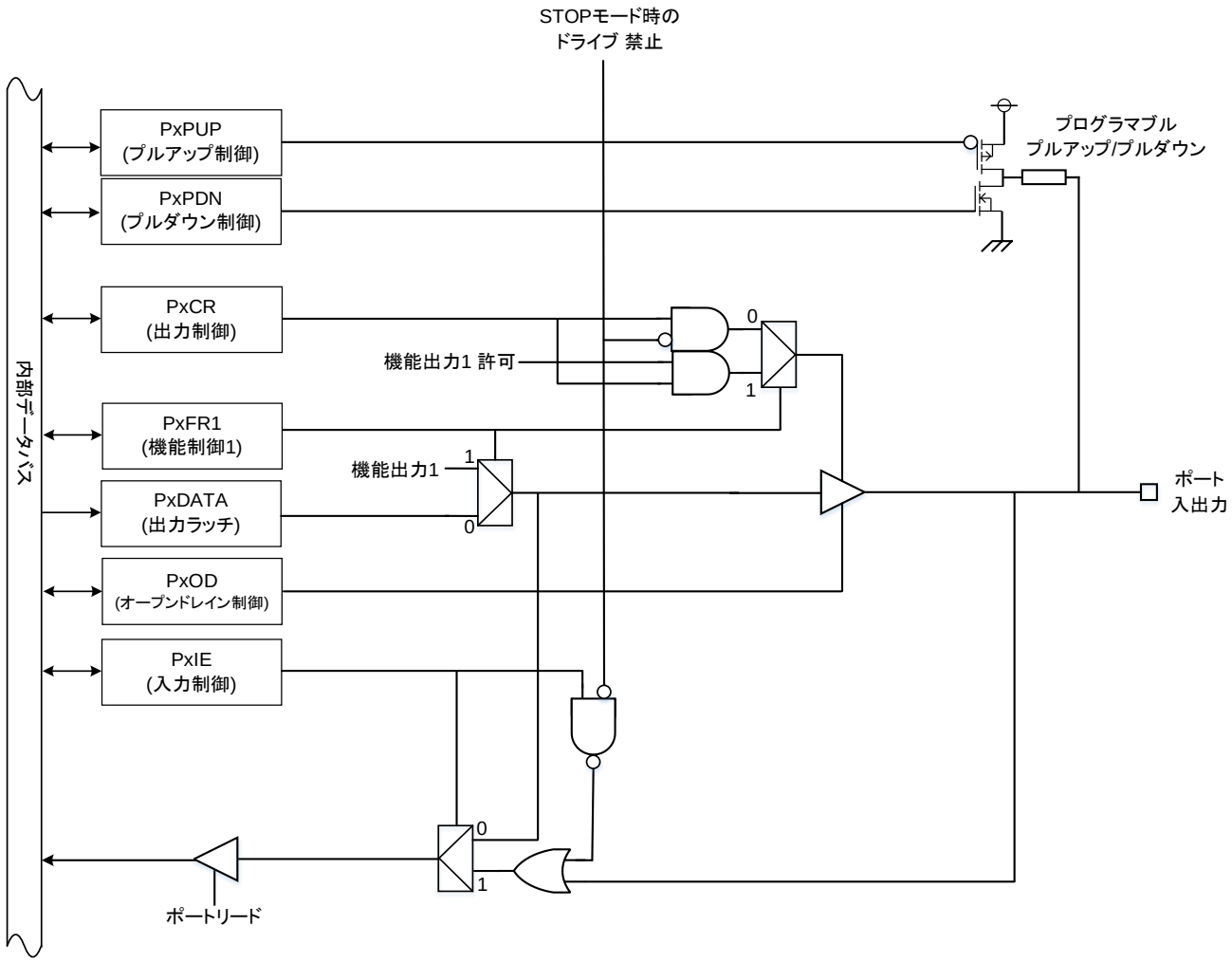


図 8.19 ポートタイプT19

8.4.20. タイプ T20

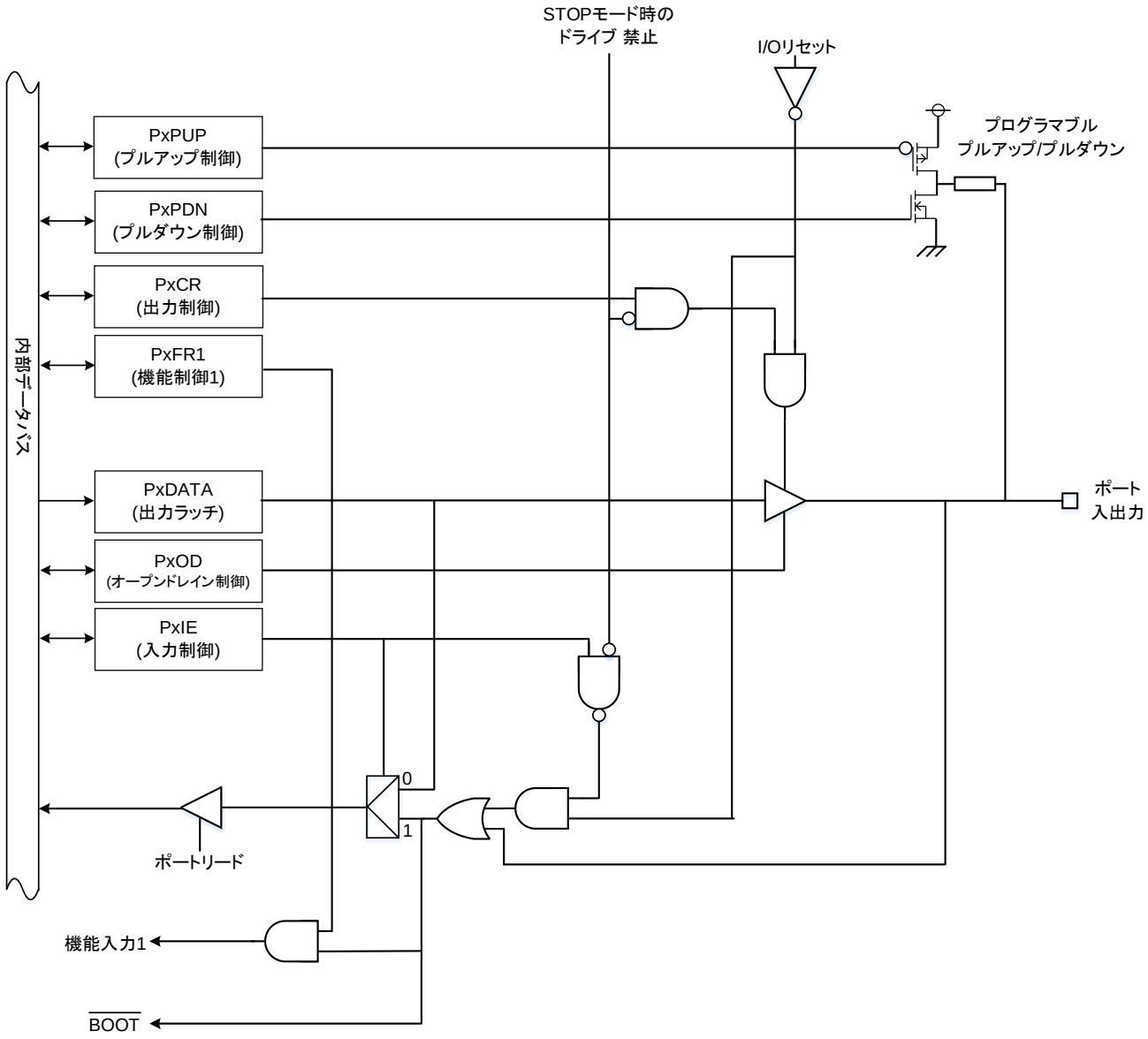


図 8.20 ポートタイプT20

8.4.21. タイプ T21

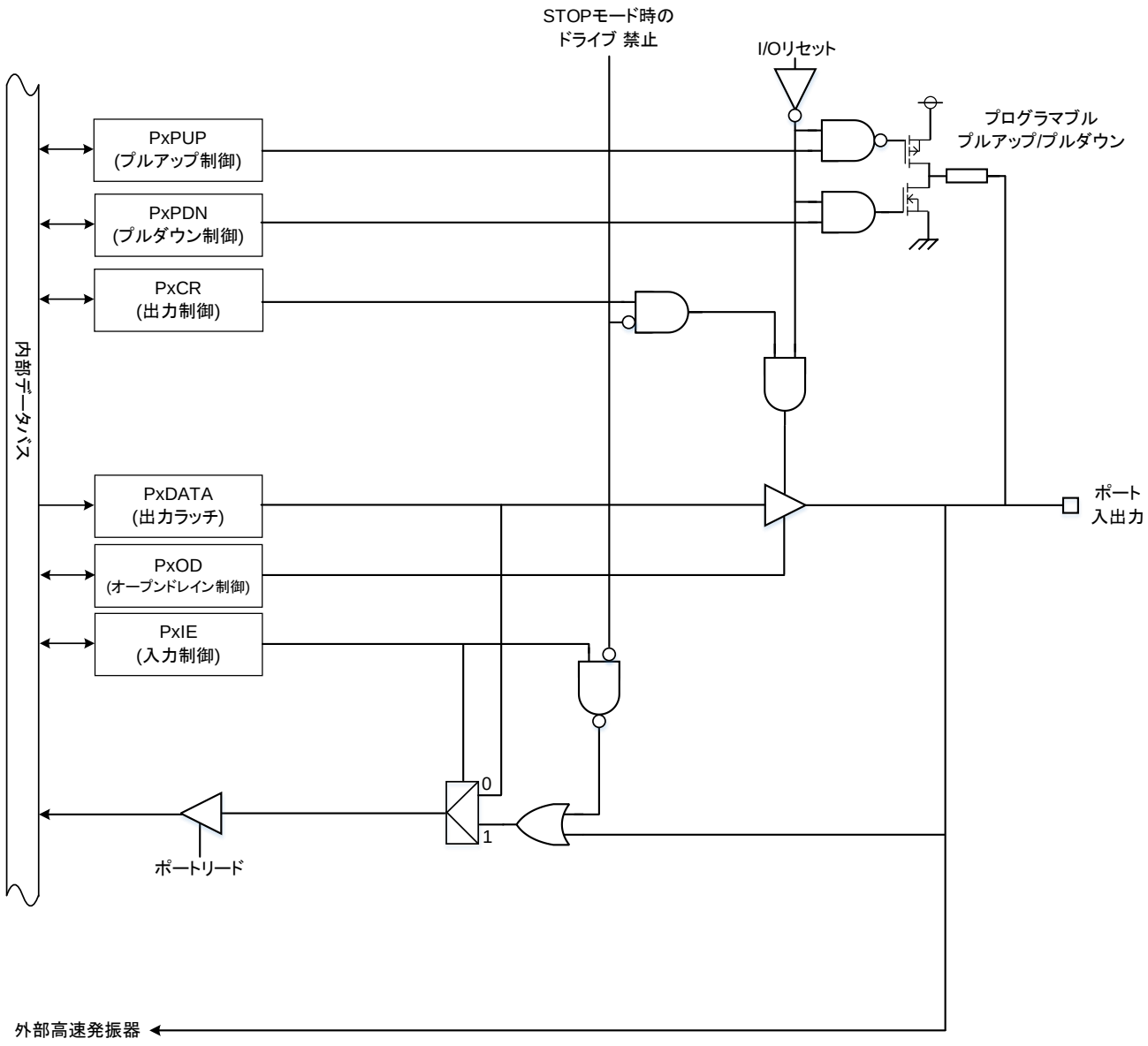


図 8.21　ポートタイプT21

8.5. 使用上のご注意およびお願い事項

8.5.1. リセット期間中の端子状態について

リセット期間中、下記以外の端子はハイインピーダンス状態となり、プルアップ・プルダウンも無効状態となります。

- デバッグ用端子(PB3 ~ PB7)はデバッグ端子状態となります。
- PF0($\overline{\text{BOOT}}$)は端子リセット期間中は入力およびプルアップが許可となっており、リセット信号の立ち上がりで、PF0 が"High"レベルの場合、シングルチップモードとなり内蔵フラッシュメモリーから起動し、PF0 が"Low"レベルの場合、シングルブートモードとなり内蔵 BOOT ROM から起動します。

8.5.2. 未使用端子の処理について

未使用端子は、1 本ずつ抵抗を通して電源端子または 1 本ずつ抵抗を通して GND 端子に固定することを推奨します。

一般にハイインピーダンスの端子を開放状態で製品を動作させると、外部からのノイズを受け誘起電圧が発生して LSI 内部で静電破壊やラッチアップが発生することがあります。

8.5.3. デバッグ用端子を汎用ポートとして使用する際の注意

リセット解除後ユーザープログラムでデバッグ用端子を汎用ポートに設定すると、それ以降はデバッグツールからの接続ができなくなり制御ができなくなります。

デバッグツールによるデバッグができなくなった場合、シングルブートモードに設定し UART 接続でフラッシュ消去することで、再度デバッグツールと接続することができます。詳細は「20.1 フラッシュメモリー」を参照してください。

9. 16 ビットタイマー/イベントカウンター(TMRB)

9.1. 概要

TMRB は、次の機能をもっています。

- 16 ビットインターバルタイマーモード
- 16 ビットイベントカウンターモード
- 16 ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モード
- 外部トリガープログラマブル矩形波出力(PPG)モード

また、キャプチャー機能を利用することで、次のような用途に使用することができます。

- 外部トリガーからのワンショットパルス出力
- パルス幅測定

以下の説明中、「x」はチャネル番号を表します。

9.2. 構成

16 ビットアップカウンター、16 ビットタイマーレジスター2 本(ダブルバッファー構成)、16 ビットのキャプチャーレジスター2 本、コンパレーター2 個、および、キャプチャー入力制御、タイマーフリップフロップとその制御回路で構成されています。タイマーの動作モードやタイマーフリップフロップはレジスターで制御されます。

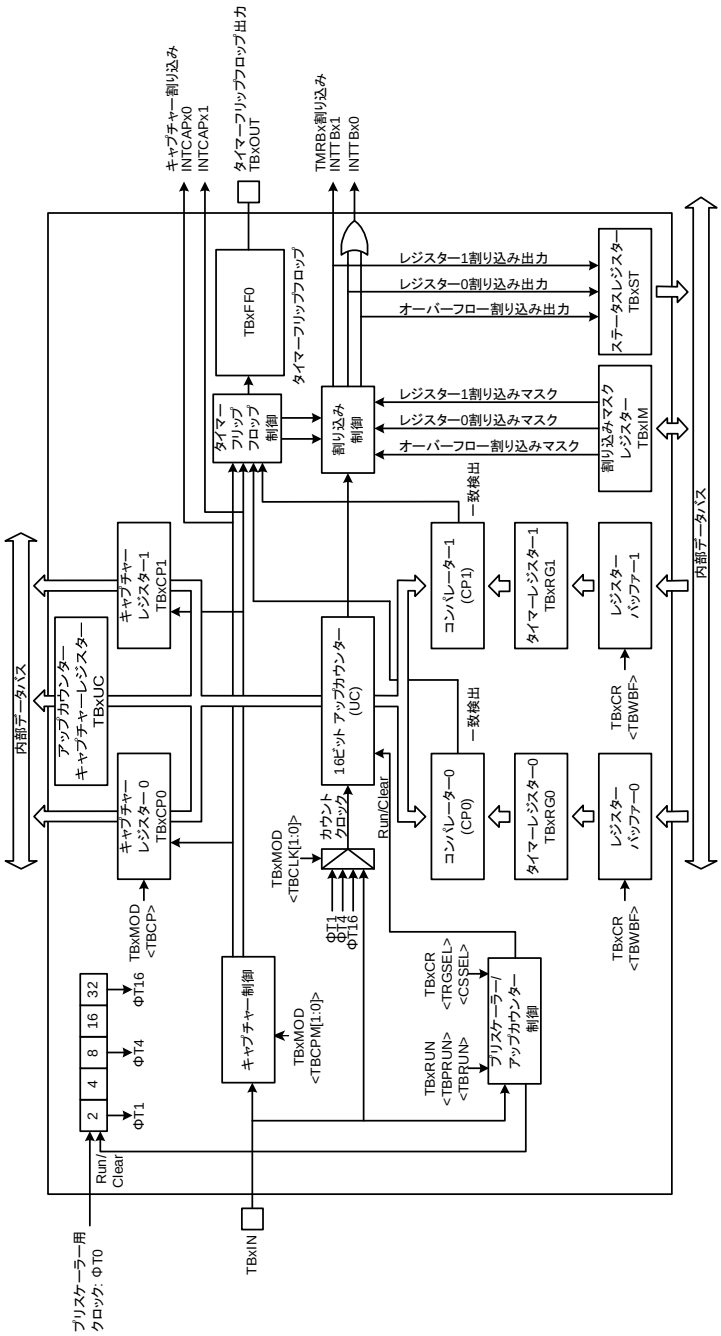


図 9.1 TMRBブロック図

9.3. レジスター説明

9.3.1. レジスター一覧

制御レジスターとアドレスを以下に示します。

レジスター名		Base+ (Address)
許可レジスター	TBxEN	0x0000
RUNレジスター	TBxRUN	0x0004
コントロールレジスター	TBxCR	0x0008
モードレジスター	TBxMOD	0x000C
フリップフロップコントロールレジスター	TBxFFCR	0x0010
ステータスレジスター	TBxST	0x0014
割り込みマスクレジスター	TBxIM	0x0018
アップカウンターキャプチャーレジスター	TBxUC	0x001C
タイマーレジスター0	TBxRG0	0x0020
タイマーレジスター1	TBxRG1	0x0024
キャプチャーレジスター0	TBxCP0	0x0028
キャプチャーレジスター1	TBxCP1	0x002C

9.3.2. TBxEN(許可レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	TBEN	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	TBEN	R/W	TMRB動作制御 0: 禁止 1: 許可 TMRBの動作を指定します。動作禁止の状態ではTMRBの他のレジスターへクロックが供給されませんので消費電力の低減が可能です(この状態では、TBxEN以外のレジスターへのリード、ライトはできません)。 TMRBを使用する場合は、TMRBの各レジスターを設定する前に許可("1")にしてください。TMRBをいったん動作させた後に動作禁止した場合、各レジスターの設定は保持されます。
6:0	-	R	リードすると"0"が読めます。

9.3.3. TBxRUN(RUN レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	TBPRUN	-	TBRUN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2	TBPRUN	R/W	プリスケーラー動作制御 0: 停止&クリア 1: カウント開始
1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	TBRUN	R/W	アップカウンター動作制御 0: 停止&クリア 1: カウント開始

注 1) 外部トリガーでカウントをスタートさせる場合は、必ず TBxRUN<TBRUN>に"1"を設定してください。

注 2) アップカウンター停止状態(TBxRUN<TBRUN> = "0")で TBxUC<TBxUC[15:0]>をリードすると、アップカウンター動作時に最後にキャプチャーした値がリードされます。

9.3.4. TBxCR(コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TBWBF	-	-	-	I2TB	-	TRGSEL	CSSEL
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	TBWBF	R/W	ダブルバッファー制御 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R/W	"0"をライトしてください。
4	-	R	リードすると"0"が読めます。
3	I2TB	R/W	IDLEモード時動作制御 0: 停止 1: 動作
2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	TRGSEL	R/W	外部トリガー選択 0: 立ち上がりエッジ 1: 立ち下がりエッジ
0	CSSEL	R/W	アップカウンターのスタート方法選択 0: ソフトウェアスタート 1: 外部トリガースタート

注 1) TBxCR は TMRB 動作中に変更しないでください。

注 2) アップカウントスタートの方法に外部トリガースタートを選択したときは、TBxCR<CSSEL>と TBxCR<TRGSEL>を設定した後、TBxRUN<TBRUN>と TBxRUN<TBPRUN>に"1"を設定してください。

9.3.5. TBxMOD(モードレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	TBRSWR	TBCP	TBCPM		TBCLE	TBCLK	
リセット後	0	0	1	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:7	-	R	リードすると"0"が読めます。
6	TBRSWR	R/W	ダブルバッファー使用時のタイマーレジスター0、1への書き込みタイミング制御 0: タイマーレジスター0、タイマーレジスター1への書き込み準備が片側のみしかできていない場合でも、片方ずつタイマーレジスターに書き込みを行うことができます。 1: タイマーレジスター0、タイマーレジスター1への書き込み準備が両方ともできていない場合は、タイマーレジスターに書き込みを行うことができません。
5	TBCP	R	リードすると"1"が読めます。
		W	ソフトウェアキャプチャー制御 0: ソフトウェアキャプチャー 1: Don't care "0"を書き込むとキャプチャーレジスター0(TBxCP0)にカウント値を取り込みます。
4:3	TBCPM[1:0]	R/W	キャプチャー制御 00: 禁止 01: TBxIN端子入力の立ち上がりでキャプチャーレジスター0(TBxCP0)にカウント値を取り込む 10: TBxIN端子入力の立ち上がりでキャプチャーレジスター0(TBxCP0)にカウント値を取り込み、TBxIN端子入力の立ち下がりでキャプチャーレジスター1(TBxCP1)にカウント値を取り込む 11: 禁止
2	TBCLE	R/W	アップカウンタークリア制御 0: クリア禁止 1: クリア許可 アップカウンターのクリア制御を行います。 "0"を設定するとクリア禁止、"1"を設定するとタイマーレジスター1(TBxRG1)との一致時にクリアします。
1:0	TBCLK[1:0]	R/W	TMRBのソースクロック選択 00: TBxIN端子入力 01: ΦT1 10: ΦT4 11: ΦT16

注) TBxMOD は TMRB 動作中に変更しないでください。

9.3.6. TBxFFCR(フリップフロップコントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	TBC1T1	TBC0T1	TBE1T1	TBE0T1	TBFF0C	
リセット後	1	1	0	0	0	0	1	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:6		R	リードすると"1"が読めます。
5	TBC1T1	R/W	TBxCP1へのアップカウンター値取り込み時のTBxFF0反転制御 0: 反転禁止 1: 反転許可 "1"を設定すると、アップカウンターの値がTBxCP1に取り込まれたときに、TBxFF0を反転します。"0"を設定すると反転しません。
4	TBC0T1	R/W	TBxCP0へのアップカウンター値取り込み時のTBxFF0反転制御 0: 反転禁止 1: 反転許可 "1"を設定すると、アップカウンターの値がTBxCP0に取り込まれたときに、TBxFF0を反転します。"0"を設定すると反転しません。
3	TBE1T1	R/W	アップカウンターとTBxRG1との一致時のTBxFF0反転制御 0: 反転禁止 1: 反転許可 "1"を設定すると、アップカウンターとTBxRG1との一致時にTBxFF0を反転します。"0"を設定すると反転しません。
2	TBE0T1	R/W	アップカウンターとTBxRG0との一致時のTBxFF0反転制御 0: 反転禁止 1: 反転許可 "1"を設定すると、アップカウンターとTBxRG0との一致時にTBxFF0を反転します。"0"を設定すると反転しません。
1:0	TBFF0C[1:0]	R	リードすると"11"が読めます。
		W	TBxFF0の制御 00: TBxFF0の値を反転します。 01: TBxFF0を"1"にセットします。 10: TBxFF0を"0"にクリアします。 11: Don't care

注) TBxFFCR は TMRB 動作中に変更しないでください。

9.3.7. TBxST(ステータスレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	INTTBOF	INTTB1	INTTB0
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2	INTTBOF	R	オーバーフローフラグ 0: オーバーフローは発生していない 1: オーバーフローが発生した アップカウンターがオーバーフローすると"1"がセットされます。
1	INTTB1	R	アップカウンターとTBxRG1との一致フラグ 0: 一致を検出していない 1: TBxRG1との一致を検出した アップカウンターとTBxRG1との一致を検出すると“1”がセットされます。
0	INTTB0	R	アップカウンターとTBxRG0との一致フラグ 0: 一致を検出していない 1: TBxRG0との一致を検出した アップカウンターとTBxRG0との一致を検出すると“1”がセットされます。

注 1) TBxIM で各割り込み要求にマスクが設定されていても、割り込み要求が発生するとフラグはセットされます。

注 2) フラグはレジスターをリードすると自動的にクリアされます。

9.3.8. TBxIM(割り込みマスクレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	-	-	-	TBIMOF	TBIM1	TBIM0
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2	TBIMOF	R/W	オーバーフロー割り込み要求マスク制御 0: 割り込み要求をマスクしない 1: 割り込み要求をマスクする "0"を設定すると、オーバーフロー割り込み要求をマスクしません。"1"を設定するとマスクします。
1	TBIM1	R/W	アップカウンターとタイマーレジスター1(TBxRG1)の一致割り込み要求マスク制御 0: 割り込み要求をマスクしない 1: 割り込み要求をマスクする "0"を設定すると、アップカウンターとTBxRG1の一致割り込み要求をマスクしません。"1"を設定するとマスクします。
0	TBIM0	R/W	アップカウンターとタイマーレジスター0(TBxRG0)の一致割り込み要求マスク制御 0: 割り込み要求をマスクしない 1: 割り込み要求をマスクする "0"を設定すると、アップカウンターとTBxRG0の一致割り込み要求をマスクしません。"1"を設定するとマスクします。

注) TBxIM で割り込み要求をマスクしても割り込み要求が発生すると TBxST の各フラグはセットされます。

9.3.9. TBxUC(アップカウンターキャプチャーレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	TBUC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TBUC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TBUC[15:0]	R	アップカウンターのキャプチャー値 アップカウンター動作時にTBxUC<TBxUC[15:0]>をリードすると、リード時のアップカウンターの値をキャプチャーしリードされます。

注) アップカウンターが停止しているとき(TBxRUN<TBRUN> = "0")、TBxUC<TBxUC[15:0]>をリードするとアップカウンター動作時にキャプチャーした最後の値がリードされます。

9.3.10. TBxRG0(タイマーレジスター0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	TBRG0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TBRG0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TBRG0[15:0]	R/W	アップカウンターと比較する値を設定します。

9.3.11. TBxRG1(タイマーレジスター1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	TBRG1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TBRG1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TBRG1[15:0]	R/W	アップカウンターと比較する値を設定します。

9.3.12. TBxCP0(キャプチャーレジスター0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	TBCP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TBCP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TBCP0[15:0]	R	アップカウンターをキャプチャーした値が読めます。

9.3.13. TBxCP1(キャプチャーレジスター1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	TBCP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TBCP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TBCP1[15:0]	R	アップカウンターをキャプチャーした値が読めます。

9.4. 動作説明

9.4.1. プリスケーラー

アップカウンター(UC)のソースクロックを生成する 4 ビットのプリスケーラーです。

プリスケーラーへの入力クロック ΦT0 は CGSYSCR<PRCK[2:0]>で選択された fperiph / 1、fperiph / 2、fperiph / 4、fperiph / 8、fperiph / 16、fperiph / 32 のいずれかのクロックです。

fperiph は CGSYSCR<FPSEL>で選択した fgear または fc のいずれかのクロックです。

fgear は CGSYSCR<GEAR[2:0]>で選択された fc / 1、fc / 2、fc / 8、fc / 16 のいずれかのクロックです。

プリスケーラーの動作は TBxRUN<TBPRUN>により制御します。"1"をライトするとカウントを開始し、"0"をライトするとカウントは停止し、プリスケーラーはクリアされします。

プリスケーラーからの出力クロックの分解能を表 9.1 に示します。

表 9.1 プリスケーラーからの出力クロックの分解能(fc = 80MHz)

CGSYSCR <FPSEL>	CGSYSCR <GEAR[2:0]>	CGSYSCR <PRCK[2:0]>	プリスケーラーからの出力クロックの分解能		
			ΦT1	ΦT4	ΦT16
0 (fgear)	000 (fc)	000 (fperiph/1)	0.025μs (fc/2^1)	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)
		001 (fperiph/2)	0.05μs (fc/2^2)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)
		010 (fperiph/4)	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)
		011 (fperiph/8)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		100 (fperiph/16)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		101 (fperiph/32)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
	100 (fc / 2)	000 (fperiph/1)	0.05μs (fc/2^2)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)
		001 (fperiph/2)	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)
		010 (fperiph/4)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		011 (fperiph/8)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		100 (fperiph/16)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
		101 (fperiph/32)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)	25.6μs (fc/2^{11})
	101 (fc / 4)	000 (fperiph/1)	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)
		001 (fperiph/2)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		010 (fperiph/4)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		011 (fperiph/8)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
		100 (fperiph/16)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)	25.6μs (fc/2^{11})
		101 (fperiph/32)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})	51.2μs (fc/2^{12})
	110 (fc / 8)	000 (fperiph/1)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		001 (fperiph/2)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		010 (fperiph/4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
		011 (fperiph/8)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)	25.6μs (fc/2^{11})
		100 (fperiph/16)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})	51.2μs (fc/2^{12})
		101 (fperiph/32)	6.4μs (fc/2^9)	25.6μs (fc/2^{11})	102.4μs (fc/2^{13})
	111 (fc /16)	000 (fperiph/1)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		001 (fperiph/2)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
		010 (fperiph/4)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)	25.6μs (fc/2^{11})
		011 (fperiph/8)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})	51.2μs (fc/2^{12})
		100 (fperiph/16)	6.4μs (fc/2^9)	25.6μs (fc/2^{11})	102.4μs (fc/2^{13})
		101 (fperiph/32)	12.8μs (fc/2^{10})	51.2μs (fc/2^{12})	204.8μs (fc/2^{14})

CGSYSCR <FPSEL>	CGSYSCR <GEAR[2:0]>	CGSYSCR <PRCK[2:0]>	プリスケーラーからの出力クロックの分解能		
			ΦT1	ΦT4	ΦT16
1 (fc)	000 (fc)	000 (fperiph/1)	0.025μs (fc/2^1)	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)
		001 (fperiph/2)	0.05μs (fc/2^2)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)
		010 (fperiph/4)	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)
		011 (fperiph/8)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		100 (fperiph/16)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		101 (fperiph/32)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
	100 (fc / 2)	000 (fperiph/1)	-	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)
		001 (fperiph/2)	0.05μs (fc/2^2)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)
		010 (fperiph/4)	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)
		011 (fperiph/8)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		100 (fperiph/16)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		101 (fperiph/32)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
	101 (fc / 4)	000 (fperiph/1)	-	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)
		001 (fperiph/2)	-	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)
		010 (fperiph/4)	0.1μs (fc/2^3)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)
		011 (fperiph/8)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		100 (fperiph/16)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		101 (fperiph/32)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
	110 (fc / 8)	000 (fperiph/1)	-	-	0.4μs (fc/2^5)
		001 (fperiph/2)	-	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)
		010 (fperiph/4)	-	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)
		011 (fperiph/8)	0.2μs (fc/2^4)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		100 (fperiph/16)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		101 (fperiph/32)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})
	111 (fc /16)	000 (fperiph/1)	-	-	0.4μs (fc/2^5)
		001 (fperiph/2)	-	-	0.8μs (fc/2^6)
		010 (fperiph/4)	-	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)
		011 (fperiph/8)	-	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)
		100 (fperiph/16)	0.4μs (fc/2^5)	1.6μs (fc/2^7)	6.4μs (fc/2^9)
		101 (fperiph/32)	0.8μs (fc/2^6)	3.2μs (fc/2^8)	12.8μs (fc/2^{10})

注 1) プリスケーラーからの出力クロック ΦTn は、必ず ΦTn < fsys を満足するように(ΦTn が fsys よりも遅くなるように)選択してください。

注 2) TMRB 動作中はクロックギアの切り替えは行わないでください。

注 3) "-"は設定禁止です。

9.4.2. アップカウンター(UC)

16 ビットのバイナリーカウンターです。

- ソースクロック
  ソースクロックは TBxMOD<TBCLK[1:0]>で設定します。プリスケーラー出力クロック ΦT1、ΦT4、ΦT16、または、TBxIN 入力から選択できます。

- UC 動作の開始と停止
  UC のクリアは TBxRUN<TBRUN>で設定します。<TBRUN>を"1"に設定するとカウントを開始し、"0"に設定するとカウントを停止するとともに UC をクリアします。

- UC クリアのタイミング
  (a) コンペア一致時
  TBxMOD<TBCLE>を"1"に設定することで、UC と TBxRG1 の一致とともに UC をクリアします。
  TBxMOD<TBCLE>を"0"に設定することで、UC と TBxRG1 の一致検出は行われません。したがって、UC はフリーランニングアップカウンターとして動作します。
  (b) UC 停止時
  TBxRUN<TBRUN>を"0"に設定することで、カウントを停止するとともに UC をクリアします。

- UC のオーバーフロー
  UC がオーバーフローすると、TBxST<INTTBOF>が"1"にセットされるとともに、オーバーフロー割り込み(INTTBx0)が発生します。

9.4.3. タイマーレジスター(TBxRG0、TBxRG1)

UC と比較する値を設定するレジスターで 2 つあります。タイマーレジスターに設定された値と UC の値をコンパレーター(CPn)で比較し、一致すると CPn が一致検出信号を出力します。

TBxRG0 と TBxRG1 はダブルバッファー構成になっており、バッファーレジスターとペアになっています。初期状態では、ダブルバッファーは禁止です。

ダブルバッファー制御は TBxCR<TBWBF>で設定します。TBxCR<TBWBF>を"0"に設定すると禁止、TBxCR<TBWBF>を"1"に設定すると許可します。

ダブルバッファーが許可のとき、UC と TBxRG1 が一致すると、レジスターバッファー0/1 からタイマーレジスターTBxRG0/1 へデータが転送されます。なお、ダブルバッファーが許可でも UC が停止しているとき、ダブルバッファーは無効になり、バッファーレジスターに値を書き込むと同時に TBxRG0/1 に転送されます。

9.4.4. キャプチャー制御

TBxIN 端子入力の立ち上がり/立ち下がりによって UC の値をキャプチャーレジスター TBxCP0、TBxCP1 に取り込むタイミングを制御する回路です。キャプチャーレジスターへの取り込みタイミングは、TBxMOD<TBCPM[1:0]>で設定します。

また、ソフトウェアにより任意のタイミングで UC の値をキャプチャーレジスターへ取り込むことも可能です。TBxMOD<TBCP>に"0"を設定すると、設定したタイミングの UC の値を TBxCP0 へ取り込みます。

9.4.5. キャプチャーレジスター(TBxCP0、TBxCP1)

UC をキャプチャーした値を格納するレジスターで、2 つあります。どちらのキャプチャーレジスターにキャプチャーした値が格納されるかは、「9.4.4. キャプチャー制御」を参照してください。

TBxCP0、TBxCP1 を読み出す場合は、16bit データ転送命令を用いるか、下位、上位の順に読み出してください。

9.4.6. アップカウンターキャプチャーレジスター(TBxUC)

キャプチャー制御によるキャプチャーの他に、TBxUC を読み出すことにより、UC の現在の値をキャプチャーし、読み出すことができます。

9.4.7. コンパレーター(CP0、CP1)

UC と TBxRG0、TBxRG1 の設定値を比較します。それぞれが一致すると一致信号を出力するとともに INTTBx0 と INTTBx1 を発生します。

9.4.8. タイマーフリップフロップ(TBxFF0)

タイマーフリップフロップ(TBxFF0)は、CPn からの一致信号または UC の値を TBxCPn へ取り込む信号によって、出力が反転するフリップフロップです。反転の許可/禁止は、TBxFFCR<TBC1T1>、<TBC0T1>、<TBE1T1>、<TBE0T1>で設定します。

リセット解除後、TBxFF0 不定です。

TBxFFCR<TBFF0C[1:0]>に"00"を設定すると TBxFF0 の値が反転します。"01"を設定すると"1"にセットされます。"10"を設定すると"0"にクリアされます。

TBxFF0 の値は、タイマーフリップフロップ出力端子(TBxOUT)へ出力されます。TBxFF0 の値を出力するときは、あらかじめ該当するポートの設定を行う必要があります。

9.4.9. キャプチャー割り込み(INTCAPx0、INTCAPx1)

キャプチャーレジスター TBxCP0、TBxCP1 に UC の値を取り込むタイミングで INTCAPx0、INTCAPx1 を発生します。

9.5. モード別動作説明

9.5.1. 16 ビットインターバルタイマーモード

一定周期の割り込みを発生させる場合、TBxRG0 にインターバル時間を設定し、INTTBx0 を発生させます。同様に TBxRG1 にインターバル時間を設定し、INTTBx1 を発生させます。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TBxEN	←	1	×	×	×	×	×	×	×	TMRBの動作を許可します。
TBxRUN	←	×	×	×	×	×	0	×	0	プリスケーラー、UCの動作を停止、クリアします。
割り込み許可セットレジスター	←	*	*	*	*	*	*	*	*	INTTBx1割り込みに対応するビットを"1"にし、割り込みを許可します。
TBxFFCR	←	×	×	0	0	0	0	1	1	TBxFF0反転を禁止します。
TBxMOD	←	×	0	1	0	0	1	Y	Y	UCのソースクロックをプリスケーラー出力クロックにします。ソフトウェア、ハードウェアによるキャプチャーを行いません。
		YY = "01"、"10"または"11"								
TBxRG1	←	*	*	*	*	*	*	*	*	インターバル時間(16ビット)を設定します。
		*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxRUN	←	×	×	×	×	×	1	×	1	プリスケーラー、UCのカウントを開始します。

注) ×: Don't care、*: 任意の値を設定できます、-: 変更できません

9.5.2. 16 ビットイベントカウンターモード

UC のカウントクロックを TBxIN 端子に入力する信号にすることで、イベントカウンターとして使用します。

UC は信号の立ち上がりエッジでカウントアップします。

TBxMOD<TBCP>に"0"を設定して、UC の値を TBxCP0 に取り込むこともできます。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TBxEN	←	1	×	×	×	×	×	×	×	TMRBの動作を許可します。
TBxRUN	←	×	×	×	×	×	0	×	0	プリスケーラー、UCの動作を停止、クリアします。
ポートレジスター設定										TBxIN端子に割り当てられているポートをTBxIN端子として使用するための設定を行います。
TBxFFCR	←	×	×	0	0	0	0	1	1	TBxFF0反転を禁止します。
TBxMOD	←	×	0	1	0	0	0	0	0	ソースクロックをTBxIN端子入力にし、ソフトウェア、ハードウェアキャプチャーを行いません。
TBxRUN	←	×	×	×	×	×	1	×	1	プリスケーラー、UCのカウントを開始します。
	:									
	:									
TBxMOD	←	×	0	0	0	0	0	0	0	UCの値をTBxCP0に取り込みます。

注) ×: Don't care、*: 任意の値を設定できます、-: 変更できません

9.5.3. 16 ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モード

任意の周期で任意デューティーの矩形波(プログラマブル矩形波)を出力します。

プログラマブル矩形波は、"Low"アクティブ、"High"アクティブのどちらにも対応します。

TBxRG1 でプログラマブル矩形波の周期を決定します。TBxRG0 でプログラマブル矩形波のデューティーを決定します。また、UC と TBxRG0、TBxRG1 との一致での TBxFF0 反転を許可します。TBxRG1 が TBxRG0 より大きくなるようにそれぞれの値を設定してください。

なお、プログラマブル矩形波を TBxOUT 端子から出力するには、あらかじめポートを TBxOUT 端子として使用するための設定が必要です。

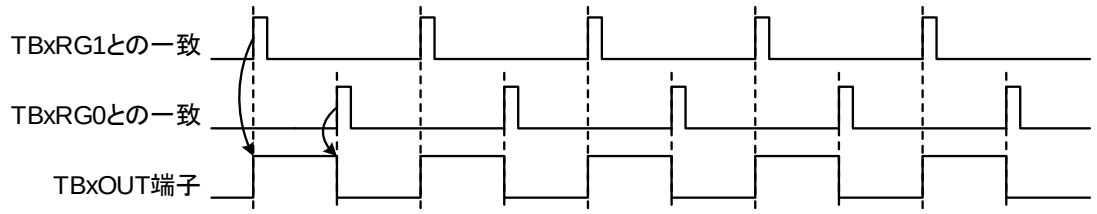


図 9.2 16ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モードの出力波形

プログラマブル矩形波デューティーを小さくするときに、TBxRG0 の変更が間に合わないことがあります。

ダブルバッファーを許可することで、あらかじめ設定されたレジスターバッファー0 の値が UC と TBxRG1 の一致で TBxRG0 へ転送されます。

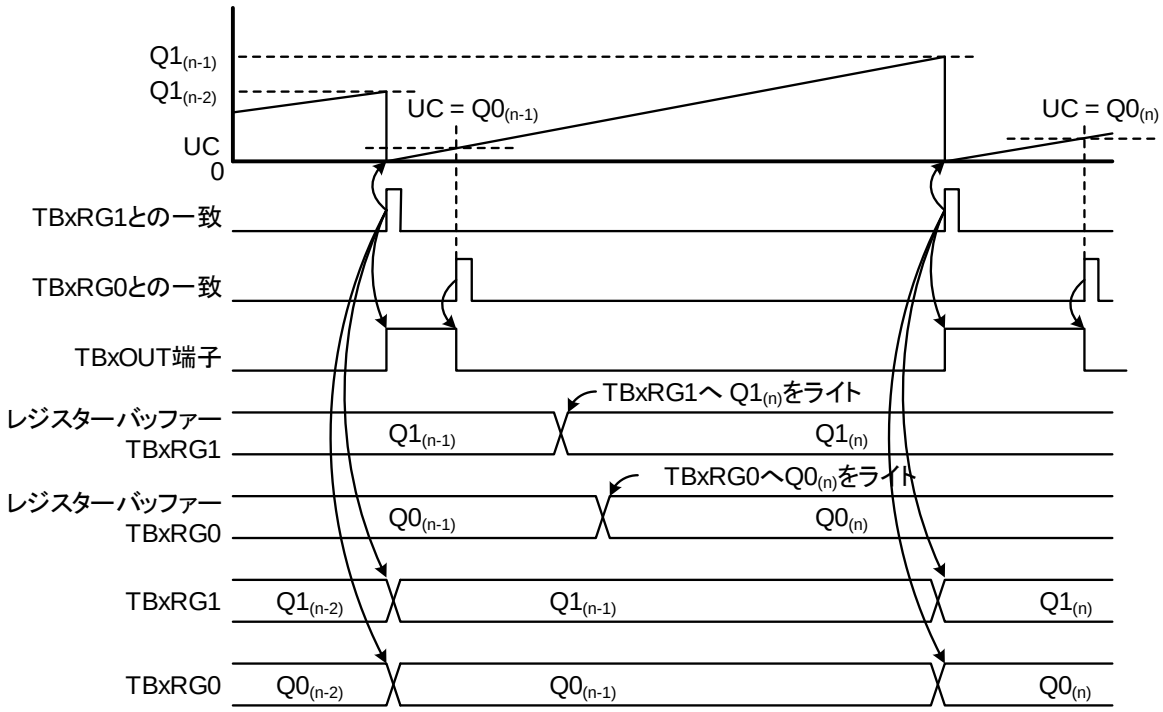


図 9.3 レジスターバッファーの動作

16 ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モードの出力回路を図 9.4 に示します。

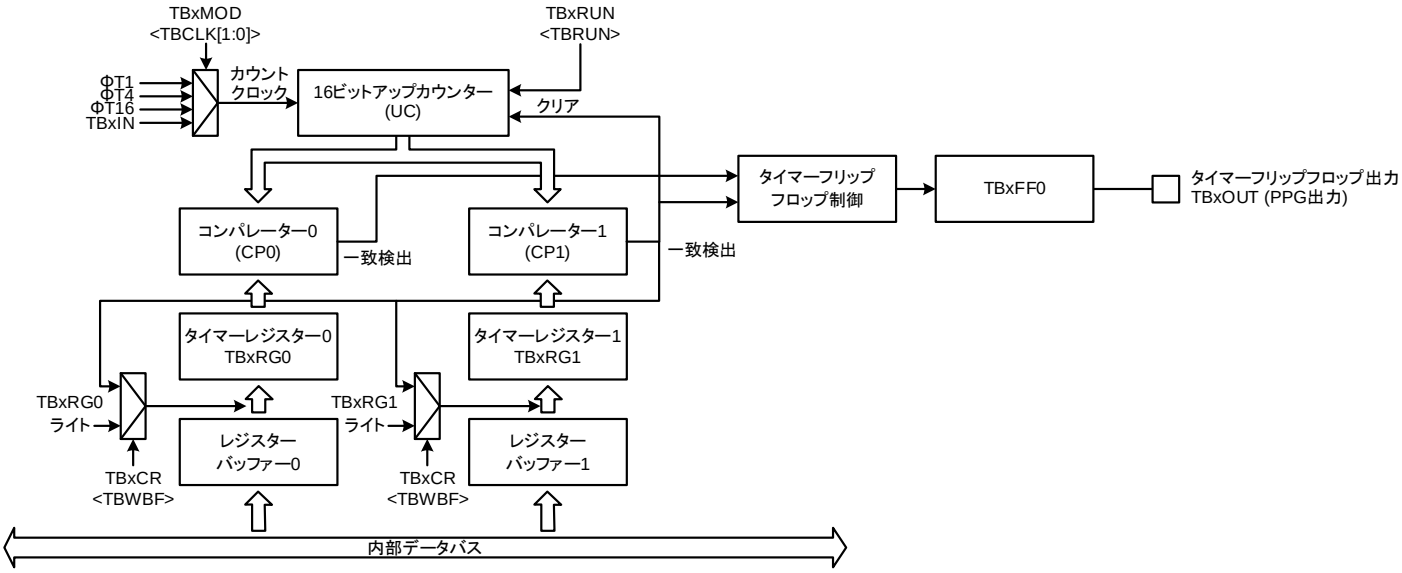


図 9.4　16ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モードの出力回路

16 ビットプログラマブル矩形波出力(PPG)モードのとき、各レジスターは下記のとおり設定します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TBxEN	←	1	×	×	×	×	×	×	×	TMRBの動作を許可します。
TBxRUN	←	×	×	×	×	×	0	×	0	プリスケーラー、UCの動作を停止、クリアします。
TBxCR	←	0	0	0	×	×	×	×	0	ダブルバッファーを禁止します。カウンタースタート方法をソフトウェアスタートにします。
TBxRG0	←	*	*	*	*	*	*	*	*	デューティー(16ビット)を設定します。
		*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxRG1	←	*	*	*	*	*	*	*	*	周期(16ビット)を設定します
		*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxCR	←	1	0	0	×	×	×	×	-	ダブルバッファーを許可します
TBxFFCR	←	×	×	0	0	1	1	1	0	TBxFF0を"0"にします。 UCとTBxRG0、TBxRG1の一致でのTBxFF0反転を許可します。
TBxMOD	←	×	0	1	0	0	1	Y	Y	UCとTBxRG1との一致でのUCクリアを許可します。 キャプチャーを禁止します。 UCのソースクロックをプリスケーラー出力クロックにします。 YY = "01"、"10"または"11"
ポートレジスター設定										TBxOUT端子に割り当てられているポートをTBxOUT端子として使用するための設定を行います
TBxRUN	←	×	×	×	×	×	1	×	1	プリスケーラー、UCのカウントを開始します

注) ×: Don't care、*: 任意の値を設定できます、-: 変更できません

9.5.4. 外部トリガープログラマブル矩形波(PPG)出力モード

TBxIN 端子に入力した外部信号に対して遅延を持ったプログラマブル矩形波を出力します。

外部信号の立ち上がりから、(d)の遅延を持った"High"パルス幅(p)のプログラマブル矩形波を 1 回出力する例を以下に説明します。

TBxCR<CSSEL>を"1"に設定して UC を外部トリガーでスタートさせます。また、TBxCR<TRGSEL>を"0"に設定して外部信号の立ち上がりを外部トリガーにします。

TBxRG0 に遅延(d)を設定します。TBxRG1 に遅延(d)とパルス幅(p)を加えた値(d) + (p)を設定します。

TBxFFCR<TBFF0C[1:0]>に"10"を設定して TBxFF0 を"0"にします。TBxFFCR<TBE1T1>と<TBE0T1>に"1"を設定して、UC と TBxRG0、TBxRG1 との一致での TBxFF0 反転を許可します。

外部信号の立ち上がりで UC がスタートします。UC と TBxRG0 との一致で TBxOUT 端子が"High"レベルに変化します。UC と TBxRG1 との一致で TBxOUT 端子が"Low"レベルに変化するとともに INTTBx1 が発生します。INTTBx1 の割り込みサービスルーチンで TBxFFCR<TBE1T1>と<TBE0T1>に"1"を設定して TBxFF0 反転を禁止するか、TBxRUN<TBRUN>に"0"を設定して、UC を停止、クリアします。

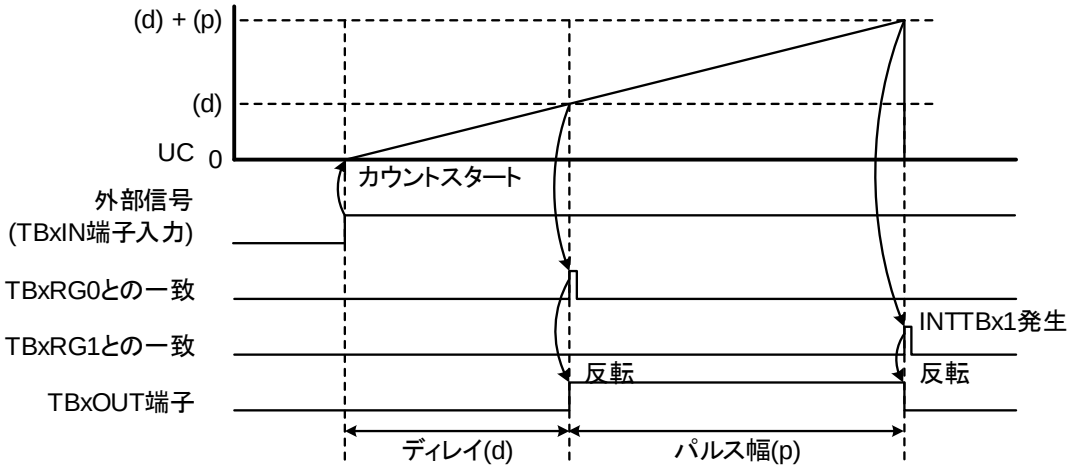


図 9.5 外部トリガープログラマブル矩形波(PPG)出力モードによる矩形波出力

9.5.5. キャプチャー機能を利用した応用例

キャプチャー機能を利用することにより、次に示す例をはじめ多くの応用が可能です。

(1) 外部信号からの矩形波出力

(2) パルス幅測定

9.5.5.1. 外部信号からの矩形波出力

キャプチャー機能を使用して、UC をフリーランニングアップカンターとして動作させているときに、外部信号の立ち上がりから、(d)の遅延を持った"High"パルス幅(p)のプログラマブル矩形波を 1 回出力する例を以下に説明します。

TBxMOD<TBCLE>を"0"に設定して、UC のクリアを禁止します。UC はフリーランニングアップカウンターとして動作します。

TBxMOD<TBCPM[1:0]>を"01"に設定して、TBxIN 端子入力の立ち上がりで TBxCAP0 に UC のカウント値を取り込みます。

TBxFFCR<TBFF0C[1:0]>に"10"を設定して TBxFF0 を"0"にします。TBxFFCR<TBE1T1>と<TBE0T1>に"1"を設定して、UC と TBxRG0、TBxRG1 との一致での TBxFF0 反転を許可します。

外部信号が立ち上がると、UC の値を TBxCAP0 に取り込むとともに、INTCAPx0 が発生します。INTCAPx0 の割り込みサービスルーチンで、TBxCAP0 の値(c)を読み出し、遅延(d)を加算した値(c) + (d)を TBxRG0 に設定します。また、(c) + (d)に"High"パルス幅(p)を加算した値(c) + (d) + (p)を TBxRG1 に設定します。

UC と TBxRG0 との一致で TBxOUT 端子が"High"レベルに変化します。UC と TBxRG1 との一致で TBxOUT 端子が"Low"レベルに変化するとともに INTTBx1 が発生します。INTTBx1 の割り込みサービスルーチンで TBxFFCR<TBE1T1>と<TBE0T1>に"1"を設定して TBxFF0 反転を禁止するか、TBxRUN<TBRUN>に"0"を設定して、UC を停止、クリアします。

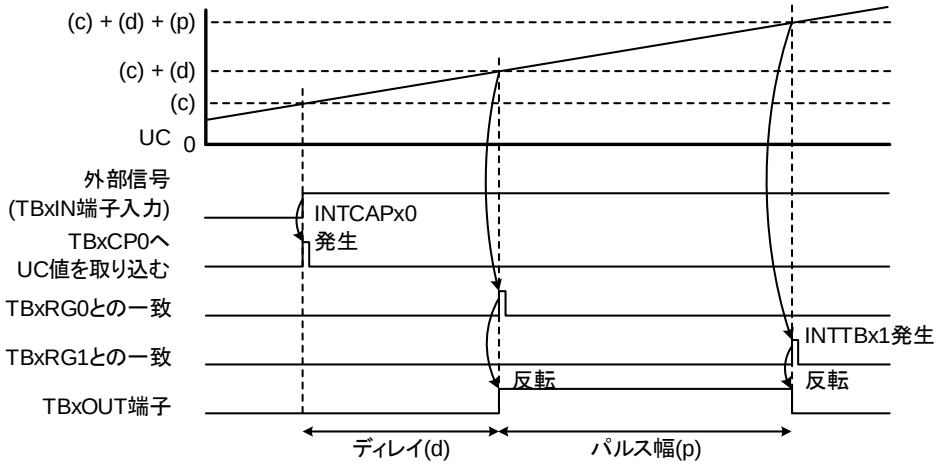


図 9.6 フリーランニングカウンターを使った外部信号からの矩形波出力(遅延付き)

TBxIN 端子入力信号の立ち上がりをトリガーとして、3ms 後に 2ms 幅の矩形波を出力する設定例を以下に示します。

(d) = 3ms / ΦT1、(p) = 2ms / ΦT1

		7	6	5	4	3	2	1	0	
[メイン処理] TBxIN端子でのキャプチャー設定										
TBxEN	←	1	×	×	×	×	×	×	×	TMRBの動作を許可します。
TBxRUN	←	×	×	×	×	×	0	×	0	プリスケーラー、UCの動作を停止、クリアします。
TBxCR	←	0	0	0	×	×	×	×	0	ダブルバッファーを禁止し、カウンタースタート方法をソフトウェアスタートにします。
TBxCR	←	1	0	0	×	×	×	×	-	ダブルバッファーを許可します
TBxFFCR	←	×	×	0	0	0	0	1	0	TBxFF0を"0"にします。TBxFF0反転を禁止します。
TBxMOD	←	×	0	1	0	1	0	0	1	TBxIN端子入力の立ち上がりでUCの値をTBxCP0に取り込みます。UCクリアを禁止します。 UCのソースクロックをΦT1にします。
ポートレジスター設定										TBxIN端子に割り当てられているポートを TBxIN端子として使用するための設定を行います
ポートレジスター設定										TBxOUT端子に割り当てられているポートを TBxOUT端子として使用するための設定を行います
割り込み許可設定										INTCAPx0を許可します。
TBxRUN	←	×	×	×	×	×	1	×	1	プリスケーラー、UCのカウントを開始します
	:									
	:									
[INTCAPx0割り込みサービスルーチンの処理] 遅延、パルス幅設定										
TBxRG0	←	*	*	*	*	*	*	*	*	遅延としてTBxCAP0 + (d)を設定します。
		*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxRG1	←	*	*	*	*	*	*	*	*	パルス幅としてTBxCAP0 + (d) + (p)を設定します
		*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxFFCR	←	×	×	0	0	1	1	1	1	UCとTBxRG0、TBxRG1の一致でのTBxFF0反転を許可します。
割り込み許可設定										INTTBx1を許可します。
	:									
	:									
[INTTBx1割り込みサービスルーチンの処理] TBxFF0反転の禁止										
TBxFFCR	←	×	×	0	0	0	0	1	1	TBxFF0反転を禁止します。
割り込み禁止設定										INTTBx1を禁止します。
	:									
	:									

注) ×: Don't care、*: 任意の値を設定できます

9.5.5.2. TBxIN 端子入力パルスの"High"レベル幅測定

キャプチャー機能を使用して、UC をフリーランニングアップカンターとして動作させているときに、TBxIN 端子入力パルスの"High"レベル幅を測定する例を以下に説明します。

TBxMOD<TBCLE>を"0"に設定して、UC のクリアを禁止します。UC はフリーランニングアップカウンターとして動作します。

TBxMOD<TBCPM[1:0]>を"10"に設定して、TBxIN 端子入力の立ち上がりで TBxCAP0 に、立ち下がりで TBxCAP1 に UC のカウント値を取り込みます。

割り込み許可レジスターを設定して、INTCAPx1 で割り込みを発生させます。

外部信号が立ち上がると、UC の値を TBxCAP0 に取り込みます。

外部信号が立ち下がると、UC の値を TBxCAP1 に取り込むとともに、INTCAPx1 が発生します。

INTCAPx1 の割り込みサービスルーチンで、TBxCAP1 の値から TBxCAP0 の値を引き、その値に UC のソースクロックの周期をかけると、TBxIN 端子入力パルスの"High"レベル幅を求めることができます。

例えば TBxCP1 と TBxCP0 の差が 100 で、UC のソースクロックの周期が 0.5μs のとき、"High"レベルの幅は、100 × 0.5μs = 50μs となります。

なお、UC の最大カウント周期を越える"High"レベル幅を測定するときには、UC の最大カウント周期を加算するなど、ソフトウェアによる処理が必要となります。

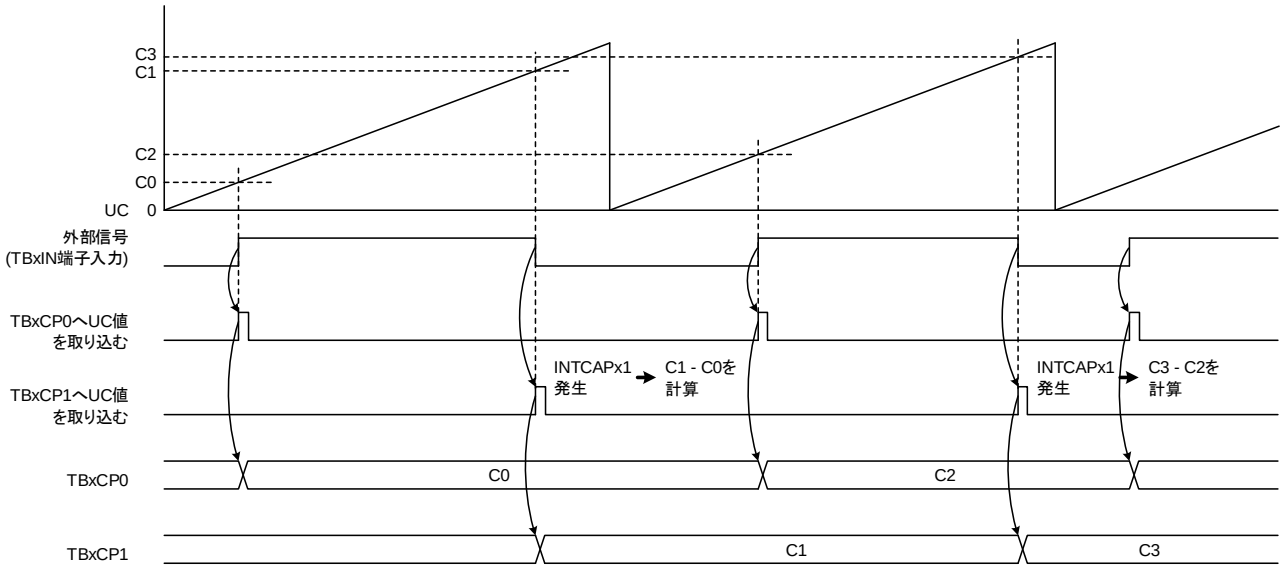


図 9.7 TBxIN端子入力パルスの"High"レベル幅測定

10. シリアルチャネル(SIO/UART)

10.1. 概要

シリアルチャネル(SIO/UART)は同期通信モード(SIO モード)と非同期通信モード(UART モード)の 2 つのモードを持っています。

特長は以下のとおりです。

- 転送クロック
  - プリスケーラーでペリフェラルクロック(ΦT0)を 2、8、32、128 分周可能
  - プリスケーラー出力クロックに対し、1 ~ 16 分周可能
  - プリスケーラー出力クロックに対し、$N + \frac{(16 - K)}{16}$分周(N = 2 ~ 15、K = 1 ~ 15)が可能

    (UART モードのみ)
  - システムクロック fsys を使用可能(UART モードのみ)
- 送受信ダブルバッファーと FIFO

  送受信ダブルバッファーおよび、最大 4 バイトの FIFO を使用可能
- SIO モード
  - 転送モード: 半二重(送信/受信)、全二重
  - データ入力/出力タイミング:

    SCLKx 端子出力: 入力は SCLKx 端子の立ち上がり、出力は SCLKx 端子の立ち下がり

    SCLKx 端子入力: SCLKx 端子のエッジ選択が可能
  - 連続転送時のインターバル時間設定が可能
- UART モード
  - データ長: 7、8、9 ビット
  - パリティービット付加(7、8 ビットデータ長)
  - $\overline{\text{CTSx}}$端子を用いたハンドシェーク機能
  - ウエイクアップ機能によるシリアルリンク(9 ビットデータ長)

以下の説明では、「x」はチャネル番号をあらわします。

10.2. 構成

図 10.1 に SIO/UART のブロック図を示します。

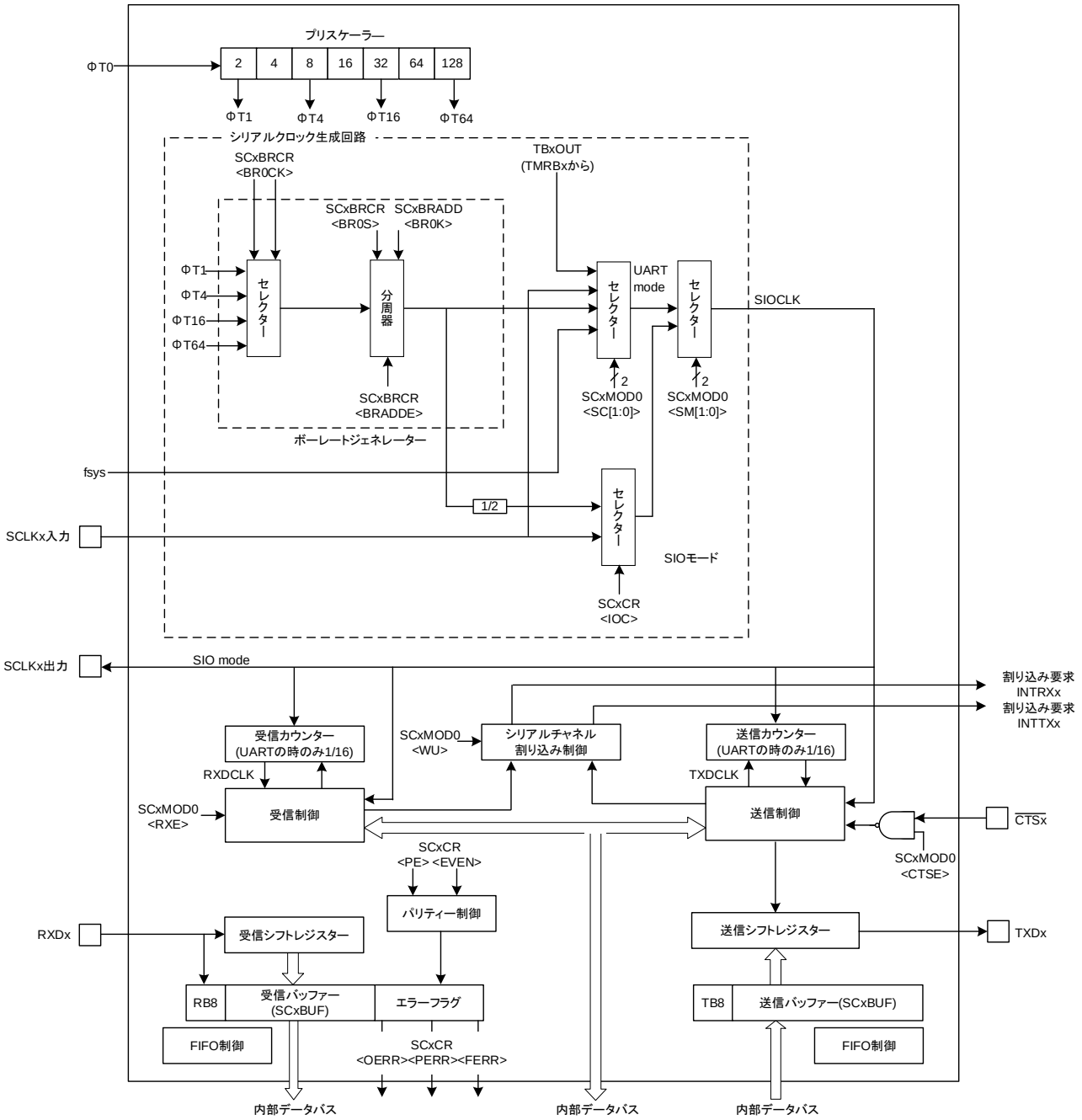


図 10.1 SIO/UARTブロック図

10.3. レジスター説明

10.3.1. レジスター一覧

制御レジスターとアドレスを以下に示します。

レジスター名		Address (Base+)
許可レジスター	SCxEN	0x0000
送受信バッファーレジスター	SCxBUF	0x0004
コントロールレジスター	SCxCR	0x0008
モードコントロールレジスター0	SCxMOD0	0x000C
ボーレートジェネレーターコントロールレジスター	SCxBRCR	0x0010
ボーレートジェネレーターコントロールレジスター2	SCxBRADD	0x0014
モードコントロールレジスター1	SCxMOD1	0x0018
モードコントロールレジスター2	SCxMOD2	0x001C
受信FIFOコンフィグレジスター	SCxRFC	0x0020
送信FIFOコンフィグレジスター	SCxTFC	0x0024
受信FIFOステータスレジスター	SCxRST	0x0028
送信FIFOステータスレジスター	SCxTST	0x002C
FIFOコンフィグレジスター	SCxFCNF	0x0030

注) 送信中、受信中に制御レジスターを書き換えないでください。

10.3.2. SCxEN(許可レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	SIOE
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	SIOE	R/W	SIO/UART動作制御 0: 禁止 1: 許可 SIO/UARTの動作を指定します。SIO/UARTを使用する場合は、まずSCxEN<SIOE>を"1"に設定してください。 SIO/UARTを動作許可した後に動作禁止にした場合は、SCxTFC<TIL[1:0]>を除くすべてのレジスターの値は保持されます。 動作禁止の状態では、SCxENを除くSIO/UARTへのクロック供給が停止しますので消費電力を低減できます。

注) SCxEN<SIOE>に"0"が設定(SIO/UART 動作禁止)、または SCxMOD1<I2S0>に"0"が設定されていて、かつ IDLE モードへ移行(IDLE モード中の動作禁止)したときは、IDLE モードから復帰後、SCxTFC の再設定を行ってください。

10.3.3. SCxBUF(バッファーレジスター)

SCxBUF は、書き込み時は送信バッファーまたは FIFO、読み出し時は受信バッファーまたは FIFO として機能します。

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TB/RB							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:0	RB[7:0]	R	受信バッファー/FIFO
	TB[7:0]	W	送信バッファー/FIFO

10.3.4. SCxCR(コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	RB8	R	受信データビット8(UARTモード) 9ビットUARTモード時の9ビット目の受信データです。
6	EVEN	R/W	パリティービット設定(UARTモード) 0: Odd 1: Even パリティービットのodd/evenを設定します。 パリティービットは、7ビットUARTモード、8ビットUARTモードで使用可能です。
5	PE	R/W	パリティービット付与制御(UARTモード) 0: 禁止 1: 許可 パリティービット付与の許可/禁止を制御するビットです。 パリティービットは、7ビットUARTモード、8ビットUARTモードで使用可能です。
4	OERR	R	オーバーランエラー(注) 0: エラーが発生していない 1: エラーが発生
3	PERR	R	パリティー/アンダーランエラー(注) 0: エラーが発生していない 1: エラーが発生
2	FERR	R	フレーミングエラー(注) 0: エラーが発生していない 1: エラーが発生
1	SCLKS	R/W	クロックエッジ選択(SIOモード) 0: SCLKx端子の立ち下がりエッジで送信シフトレジスターのデータを1ビットずつTXDx端子へ出力します。SCLKx端子の立ち上がりエッジでRXDx端子のデータを1ビットずつ受信シフトレジスターに取り込みます。このとき、SCLKx端子は"High"レベルからスタートします。 1: SCLKx端子の立ち上がりエッジで送信シフトレジスターのデータを1ビットずつTXDx端子へ出力します。SCLKx端子の立ち下がりエッジでRXDx端子のデータを1ビットずつ受信シフトレジスターに取り込みます。このとき、SCLKx端子は"Low"レベルからスタートします。 SCxCR<IOC>を"0"に設定した時には、SCxCR<SCLKS>に"0"を設定してください。
0	IOC	R/W	転送クロック入出力選択(SIOモード) 0: SCLKx端子出力 1: SCLKx端子入力

注) エラーフラグ(OERR、PERR、FERR)は読み出すとクリアされます。

10.3.5. SCxMOD0(モードコントロールレジスター0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TB8	CTSE	RXE	WU	SM		SC	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	TB8	R/W	送信データビット8(UARTモード) 9ビットUARTモード時の9ビット目の送信データをセットします。
6	CTSE	R/W	ハンドシェーク機能制御(UARTモード) 0: ハンドシェーク機能禁止 1: ハンドシェーク機能許可 ハンドシェーク機能の制御を行います。許可にすると$\overline{\text{CTS}}$x端子を用いたハンドシェーク機能が使用できます。
5	RXE	R/W	受信動作制御(注1)(注2) 0: 禁止 1: 許可
4	WU	R/W	ウエイクアップ機能制御(UARTモード) 0: 禁止 1: 許可 9ビットUARTモード時のみ有効で、その他のモードでは意味を持ちません。許可の場合、9ビット目の受信データが"1"のときに割り込みが発生します。
3:2	SM[1:0]	R/W	シリアル転送モード 00: SIOモード 01: 7ビットUARTモード 10: 8ビットUARTモード 11: 9ビットUARTモード
1:0	SC[1:0]	R/W	SIOCLKクロック選択(UARTモード) 00: TMRB TBxOUT 01: ボーレートジェネレーター 10: fsys 11: SCLKx端子入力

注 1) SCxMOD0、SCxMOD1、SCxMOD2 を設定した後に、SCxMOD0<RXE>を設定してください。

注 2) 受信中に SCxMOD0<RXE>を"0"に設定しないでください。

10.3.6. SCxBRCR(ボーレートジェネレーターコントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	BRADDE	BR0CK		BR0S			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	-	R/W	"0"をライトしてください。
6	BRADDE	R/W	N + $\frac{(16 - K)}{16}$分周制御(UARTモード) 0: 禁止 1: 許可 SIOモードでは、SCxBRCR<BRADDE>に"0"を設定してください。
5:4	BR0CK[1:0]	R/W	ボーレートジェネレーター入力クロック選択 00: ΦT1 01: ΦT4 10: ΦT16 11: ΦT64
3:0	BR0S[3:0]	R/W	分周値"N"設定 0000: 16 0001: 1 0010: 2 : 1111: 15

10.3.7. SCxBRADD(ボーレートジェネレーターコントロールレジスター2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	BR0K			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:4	-	R	リードすると"0"が読めます。
3:0	BR0K[3:0]	R/W	分周値"K"設定(UARTモード) 0000: 設定禁止 0001: 1 0010: 2 : 1111: 15

分周値の設定を表 10.1 に示します。

表 10.1 分周値の設定

項目	SCxBRCR<BRADDE> = "0"のとき	SCxBRCR<BRADDE> = "1"のとき(注1) (UARTモードのみ使用可能)
SCxBRCR<BR0S>の設定	分周値"N"を設定(注2)(注3)	
SCxBRADD<BR0K>の設定	設定不要	"K"を設定
分周値	N分周	$N + \frac{(16 - K)}{16}$分周

注 1) $N + \frac{(16 - K)}{16}$分周分周を使用する場合、必ず SCxBRADD<BR0K>に"K"を設定後に SCxBRCR <BRADDE>に"1"を設定してください。

注 2) UART モードで$N + \frac{(16 - K)}{16}$分周を使用する場合、分周値"N"に"1"と"16"は設定できません。

注 3) SIO モードでダブルバッファー許可の場合のみ分周値"N"に"1"を設定できます。

10.3.8. SCxMOD1(モードコントロールレジスター1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	I2S0	FDPX		TXE	SINT			-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	I2S0	R/W	IDLEモード時の動作 0: 停止 1: 動作
6:5	FDPX[1:0]	R/W	転送モード設定 00: 転送禁止 01: 半二重受信 10: 半二重送信 11: 全二重 SIOモード時の転送モードとFIFOの構成を指定します。 UARTモード時はFIFO構成のみ指定します。
4	TXE	R/W	送信動作制御(注1)(注2) 0: 禁止 1: 許可
3:1	SINT[2:0]	R/W	連続転送時のインターバル時間(SIOモード) 000: なし 001: 1 × SCLKx周期 010: 2 × SCLKx周期 011: 4 × SCLKx周期 100: 8 × SCLKx周期 101: 16 × SCLKx周期 110: 32 × SCLKx周期 111: 64 × SCLKx周期 SIOモードで転送クロックにSCLKx端子出力を選択したときに有効なビットです。その他のモードでは意味を持ちません。 SIOモードで、ダブルバッファーまたはFIFOが許可されているときに連続転送のインターバル時間を指定します。
0	-	R/W	"0"をライトしてください。

注 1) SCxMOD0、SCxMOD1、SCxMOD2 を設定した後に、SCxMOD1<TXE>を設定してください。

注 2) 送信中に SCxMOD1<TXE>を"0"に設定しないでください。

注 3) SCxEN<SIOE>に"0"が設定(SIO/UART 動作禁止)、または SCxMOD1<I2S0>に"0"が設定されているとき、IDLE モードへ移行(IDLE モード中の動作禁止)した後は、SCxTFC の再設定を行ってください。

10.3.9. SCxMOD2(モードコントロールレジスター2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TBEMP	RBFLL	TXRUN	SBLEN	DRCHG	WBUF	SWRST	
リセット後	1	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	TBEMP	R	送信バッファーエンプティーフラグ 0: バッファーフル 1: バッファーエンプティー 送信バッファーのバッファーエンプティーを示すフラグです。送信バッファーのデータが送信シフトレジスターに転送されバッファーエンプティーになると"1"になり、送信バッファーに送信データが書き込まれると"0"になります。ダブルバッファー禁止のとき、このフラグは意味を持ちません。
6	RBFLL	R	受信バッファーフルフラグ 0: バッファーエンプティー 1: バッファーフル 受信バッファーのバッファーフルを示すフラグです。受信動作が終了して、受信シフトレジスターから受信バッファーへデータが格納されると"1"になり、受信バッファーから受信データを読み出すと"0"になります。ダブルバッファー禁止の場合はこのフラグは意味を持ちません。
5	TXRUN	R	送信動作フラグ 0: 停止 1: 動作 送信動作を示すステータスフラグです。 SCxMOD2<TXRUN>とSCxMOD2<TBEMP>で以下のような状態を示します。

SCxMOD2 <TXRUN>	SCxMOD2 <TBEMP>	状態
1	-	送信動作中
0	1	送信終了
	0	送信バッファーに次のデータがあり送信待ち

4	SBLEN	R/W	送信STOPビット長選択(UARTモード) 0: 1ビット 1: 2ビット 送信STOPビット長を選択します。受信STOPビット長はSCxMOD2<SBLEN>によらず、1ビットのみです。
3	DRCHG	R/W	転送方向選択 0: LSBファースト 1: MSBファースト SIOモード時の転送方向を選択します。UARTモード時はSCxMOD2<DRCHG>に"0"を設定してください。

<table>
<tr><td>2</td><td>WBUF</td><td>R/W</td><td>ダブルバッファーの制御
0: 禁止
1: 許可
SIOモードで、転送クロックにSCLKx端子出力を選択したとき、またはSCLKx端子入力を選択して送信のときに有効になります
UARTモードでは、送信のときに有効になります。
SIOモードで、SCLKx端子入力を選択して受信のとき、UARTモードで受信のときは、SCxMOD2<WBUF>の設定にかかわらず、ダブルバッファーは許可となります。</td></tr>
<tr><td>1:0</td><td>SWRST[1:0]</td><td>R/W</td><td>ソフトウェアリセット
"10" → "01"の順に書き込むことでソフトウェアリセットが発生します。
ソフトウェアリセットにより、以下のビットが初期化されます。また、送受信回路とFIFOは初期状態になります。(注1)(注2)
<table>
<tr><th>レジスター名</th><th>ビット</th></tr>
<tr><td>SCxMOD0</td><td><RXE></td></tr>
<tr><td>SCxMOD1</td><td><TXE></td></tr>
<tr><td>SCxMOD2</td><td><TBEMP>、<RBFLL>、<TXRUN></td></tr>
<tr><td>SCxCR</td><td><OERR>、<PERR>、<FERR></td></tr>
</table></td></tr>
</table>

注 1) 転送動作中にソフトウェアリセットを実施する場合は 2 回連続して実施してください。

注 2) ソフトウェアリセット動作が完了するのに、命令実行後 2 クロック必要です。

10.3.10. SCxRFC(受信 FIFO コンフィグレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	RFCS	RFIS	-	-	-	-	RIL	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	RFCS	R	リードすると"0"が読めます。
		W	受信用FIFOクリア制御(注) 0: Don't care 1: クリア "1"を書き込むと受信に使用されているFIFO、リードポインターが初期化され、SCxRST<RLVL[2:0]>が"000"になります。
6	RFIS	R/W	FIFO許可時の割り込み発生条件選択 0: FILLレベル到達 1: FILLレベル到達および新規データ読み出し時にFILLレベルを超えている
5:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	RIL[1:0]	R/W	FIFO許可時、割り込みが発生するFILLレベル設定

SCxRFC <RIL[1:0]>	半二重	全二重
00	フル	フル
01	1バイト	1バイト
10	2バイト	フル
11	3バイト	1バイト

注) FIFO 許可時は、SIO/UART の転送モード設定(SCxMOD1<FDPX[1:0]>)、FIFO 許可(SCxFCNF <CNFG> に"1"を設定)の後、必ず送信用/受信用 FIFO のクリアを実行してください。

10.3.11. SCxTFC(送信 FIFO コンフィグレジスター)(注 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TFCS	TFIS	-	-	-	-	TIL	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	TFCS	R	リードすると"0"が読めます。
		W	送信用FIFOクリア制御(注1) 0: Don't care 1: クリア "1"を書き込むと送信に使用されているFIFO、ライトポインターが初期化され、SCxTST<TLVL[2:0]>が"000"になります。
6	TFIS	R/W	FIFO許可時の割り込み発生条件選択 0: FILLレベル到達 1: FILLレベル到達および新規データ書き込み時にFILLレベルに達していない
5:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	TIL[1:0]	R/W	FIFO許可時、割り込みが発生するFILLレベル設定

SCxTFC <TIL[1:0]>	半二重	全二重
00	エンプティー	エンプティー
01	1バイト	1バイト
10	2バイト	エンプティー
11	3バイト	1バイト

注 1) FIFO 使用時は、SIO の転送モード設定(SCxMOD1<FDPX[1:0>)、FIFO 許可(SCxFCNF <CNFG> = "1")の後、必ず送信用/受信用 FIFO のクリアを実行してください。

注 2) SIO/UART 動作禁止(SCxEN<SIOE> = "0")、または SCxMOD1<I2S0>に"0"が設定されているとき、IDLE モードへの移行(IDLE モード中の動作禁止)した後は、SCxTFC の再設定を行ってください。

10.3.12. SCxRST(受信 FIFO ステータスレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	ROR	-	-	-	-	RLVL		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	ROR	R	FIFO許可時のオーバーランエラー(注) 0: エラーが発生していない 1: エラーが発生
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	RLVL[2:0]	R	受信用FIFOのFILLレベル 000: 0バイト 001: 1バイト 010: 2バイト 011: 3バイト 100: フル

注) SCxRST<ROR>は SCxBUF を読み出すと"0"になります。

10.3.13. SCxTST(送信 FIFO ステータスレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TUR	-	-	-	-	TLVL		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	TUR	R	FIFO許可時のアンダーランエラー(注) 0: エラーが発生していない 1: エラーが発生
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	TLVL[2:0]	R	送信用FIFOのFILLレベル 000: エンプティー 001: 1バイト 010: 2バイト 011: 3バイト 100: 4バイト

注) SCxTST<TUR>は SCxBUF に書き込むと"0"になります。

10.3.14. SCxFCNF(FIFO コンフィグレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	-	RFST	TFIE	RFIE	RXTXCNT	CNFG
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:5	-	R/W	"0"をライトしてください。
4	RFST	R/W	受信時に使用するFIFOバイト数設定(注1) 0: 最大 1: 受信FIFOのFILLレベルと同じ "0"の場合、構成されているFIFOの最大のバイト数が使用可能です。 "1"の場合、SCxRFC<RIL[1:0]>に設定したFILLレベルのバイト数が使用可能です。 使用できるFIFOのバイト数はSCxFCNF<CNFG>を参照してください。
3	TFIE	R/W	送信時、FIFO許可での送信割り込み発生制御 0: 禁止 1: 許可 FIFOが許可されているときの送信割り込み発生の禁止/許可を行います
2	RFIE	R/W	受信時、FIFO許可での受信割り込み発生制御 0: 禁止 1: 許可 FIFOが有効にされているときの受信割り込み発生の禁止/許可を行います
1	RXTXCNT	R/W	SCxMOD0<RXE>/SCxMOD1<TXE>の自動禁止制御 0: 禁止 1: 許可 転送モードより、以下のように動作します。

転送モード	動作
半二重受信	受信シフトレジスター、受信バッファーおよびFIFOに、指定されたバイト数分のデータが格納されると自動的にSCxMOD0<RXE>が"0"となり受信動作が禁止される。
半二重送信	FIFO、送信バッファーおよび送信シフトレジスターの全てのデータ送信が終了すると自動的に SCxMOD1<TXE>が"0"となり、送信動作が禁止される。
全二重	半二重受信または半二重送信のどちらかの条件が成立すると、自動的にSCxMOD1 <TXE>、SCxMOD0<RXE>がともに"0"となり、送信/受信動作が禁止される。

<table>
<tr>
<td>0</td>
<td>CNFG</td>
<td>R/W</td>
<td>FIFOの許可制御(注2)
0: 禁止
1: 許可
転送モードにより、FIFO構成は以下のようになります。
<table>
<tr><th>転送モード</th><th>FIFO構成</th></tr>
<tr><td>半二重受信</td><td>受信4バイト</td></tr>
<tr><td>半二重送信</td><td>送信 4 バイト</td></tr>
<tr><td>全二重</td><td>受信 2 バイト + 送信 2 バイト</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

注 1) 送信時の FIFO 使用バイト数は、常に最大バイトです。

注 2) 9 ビット UART モードでは FIFO は使用できません。

10.4. モード

表 10.2 にモードとデータフォーマットを示します。

表 10.2 モードとデータフォーマット

モード	種類	データ長	転送方向	パリティービット付加	STOPビット長
モード0	同期通信モード (SIOモード)	8ビット	LSBファーストまたは MSBファースト	×	×
モード1	非同期通信モード (UARTモード)	7ビット	LSBファースト	○	送信: 1ビットまたは2ビット 受信: 1ビット
モード2		8ビット		○	
モード3		9ビット		×	

注) ○: 可能、×: 不可

モード 0 は SIO モードで、I/O を拡張するために使用します。

SCLKx 端子に同期してデータの送受信を行います。SCLKx 端子は入力/出力いずれでも使用できます。

転送方向は、LSB ファーストと MSB ファーストから選択します。

パリティービット付加、STOP ビット付加ともに非対応です。

モード 1 からモード 3 は UART モードです。

転送方向は LSB ファーストのみです。

モード 1 とモード 2 はパリティービットの付加が可能です。モード 3 は、データ長が 9 ビットであるため、パリティービットの付加はできません。

STOP ビット付加が可能です。送信時の STOP ビットは 1 ビット、2 ビットから選択します。受信時の STOP ビット長は 1 ビットのみです。

モード 3 には、マスターコントローラーがシリアルリンク(マルチコントローラーシステム)でスレーブコントローラーを起動させるためのウエイクアップ機能に対応しています。

10.5. データフォーマット

10.5.1. データフォーマット一覧

図 10.2 にデータフォーマットを示します。

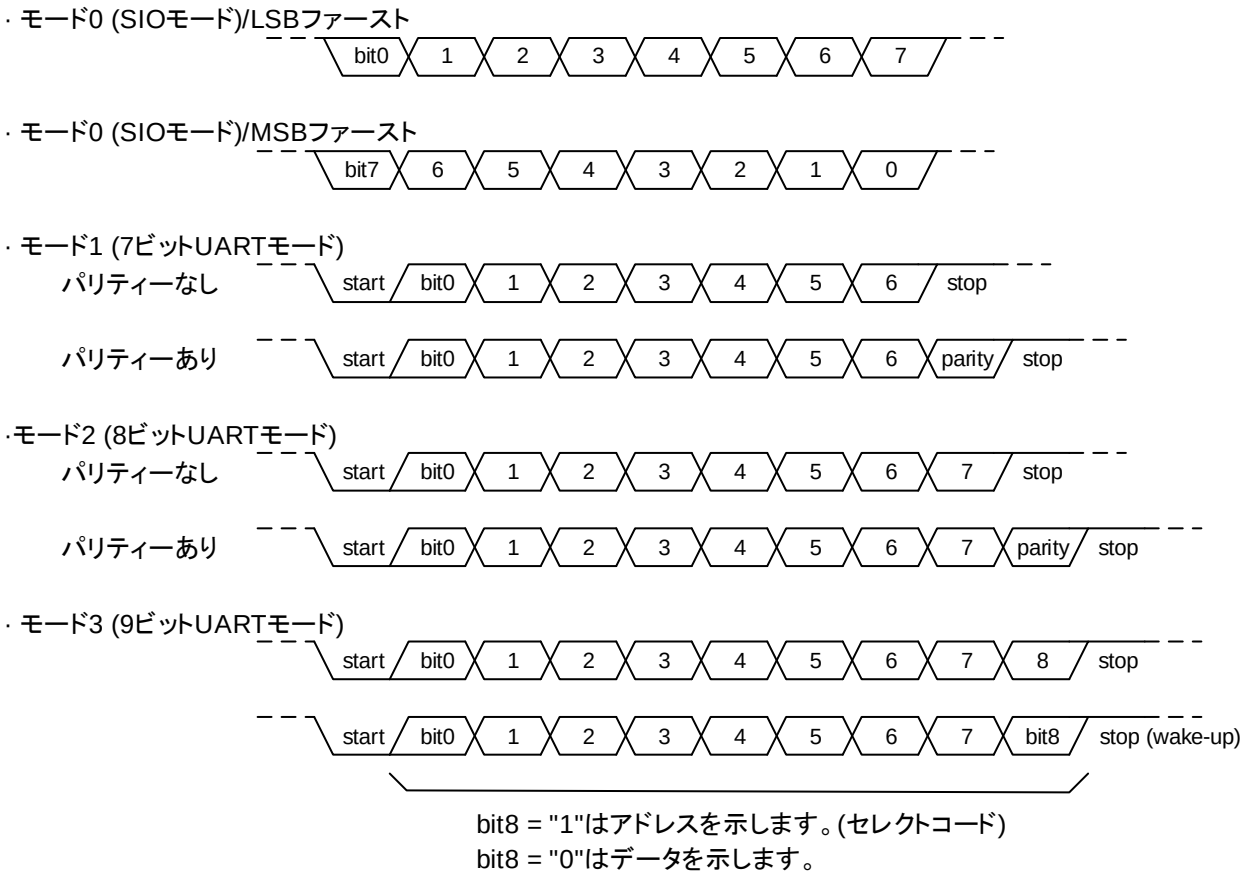


図 10.2 データフォーマット

10.5.2. パリティービット制御

モード 1 およびモード 2 では転送データにパリティービットを付加することができます。

SCxCR<PE>に"1"を設定するとパリティービット付加が許可されます。

SCxCR<EVEN>でパリティービットの odd、even を選択します。

10.5.2.1. 送信時

送信時、パリティー制御回路は、バッファーレジスターのデータに対して自動的にパリティービットを発生します。

モード 1 のときは、SCxBUF<TB7>にパリティービットが格納されます。

モード 2 のときは、SCxMOD0<TB8>にパリティービットが格納されます。

SCxCR<PE>と SCxCR<EVEN>の設定は、送信データをバッファーレジスターに書き込む前に行ってください。

10.5.2.2. 受信時

受信時、パリティー制御回路は、データが受信シフトレジスターから受信バッファーレジスターに格納されると自動的にパリティービットを発生します。

モード 1 のときは、SCxBUF<RB7>と発生したパリティービットを比較します。

モード 2 のときは、SCxCR<RB8>と発生したパリティービットを比較します。

比較結果が不一致なときにパリティーエラーが発生し、SCxCR<PERR>が"1"になります。

FIFO を使用する場合、SCxCR <PERR>は受信したいずれかのデータでパリティーエラーが発生したことを示します。

10.5.3. STOP ビット長

シリアル転送モードが UART モードのとき、SCxMOD2<SBLEN>で送信時の STOP ビット長を 1 ビットまたは 2 ビットから選択します。

受信時の STOP ビット長は、SCxMOD2<SBLEN>によらず、1 ビットのみです。

10.6. クロック制御

10.6.1. プリスケーラー

7 ビットのプリスケーラーを内蔵しており、ΦT0 の 2/8/32/128 分周クロックを生成します。

プリスケーラーの入力クロック ΦT0 は、クロック/モード制御回路の CGSYSCR で fgear と fc から選択します。

プリスケーラーが生成したクロックを使用する条件を以下に示します。

- SIO モード
  SCxCR<IOC>を"0"に設定して、転送クロックに SCLKx 端子出力を選択する。

- UART モード
  SCxMOD0<SC[1:0]>を"01"に設定して、シリアル転送クロックにボーレートジェネレーターを選択する。

プリスケーラーからの出力クロックの分解能を表 9.1、表 10.4 に示します。

表 10.3　プリスケーラーからの出力クロックの分解能(fc = 80MHz) (1 / 2)

CGSYSCR <FPSEL>	CGSYSCR <GEAR[2:0]>	CGSYSCR <PRCK[2:0]>	プリスケーラーからの出力クロックの分解能			
			ΦT1	ΦT4	ΦT16	ΦT64
0 (fgear)	000 (fc)	000 (fperiph / 1)	-	0.1μs (fc / 2^3)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)
		001 (fperiph / 2)	0.05μs (fc / 2^2)	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)
		010 (fperiph / 4)	0.1μs (fc / 2^3)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)
		011 (fperiph / 8)	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		100 (fperiph / 16)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		101 (fperiph / 32)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
	100 (fc / 2)	000 (fperiph / 1)	-	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)
		001 (fperiph / 2)	0.1μs (fc / 2^3)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)
		010 (fperiph / 4)	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		011 (fperiph / 8)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		100 (fperiph / 16)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
		101 (fperiph / 32)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})	102.4μs (fc / 2^{13})
	101 (fc / 4)	000 (fperiph / 1)	-	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)
		001 (fperiph / 2)	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		010 (fperiph / 4)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		011 (fperiph / 8)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
		100 (fperiph / 16)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})	102.4μs (fc / 2^{13})
		101 (fperiph / 32)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})	204.8μs (fc / 2^{14})
	110 (fc / 8)	000 (fperiph / 1)	-	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		001 (fperiph / 2)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		010 (fperiph / 4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
		011 (fperiph / 8)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})	102.4μs (fc / 2^{13})
		100 (fperiph / 16)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})	204.8μs (fc / 2^{14})
		101 (fperiph / 32)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})	102.4μs (fc / 2^{13})	409.6μs (fc / 2^{15})
	111 (fc /16)	000 (fperiph / 1)	-	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		001 (fperiph / 2)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
		010 (fperiph / 4)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})	102.4μs (fc / 2^{13})
		011 (fperiph / 8)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})	204.8μs (fc / 2^{14})
		100 (fperiph / 16)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})	102.4μs (fc / 2^{13})	409.6μs (fc / 2^{15})
		101 (fperiph / 32)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})	204.8μs (fc / 2^{14})	819.2μs (fc / 2^{16})

注 1) プリスケーラーからの出力クロック ΦTn は、必ず ΦTn < fsys / 2 を満足するように(ΦTn が fsys / 2 よりも遅くなるように)選択してください。

注 2) SIO/UART 動作中に CGSYSCR<FPSEL>、CGSYSCR<GEAR[2:0]>、CGSYSCR<PRCK[2:0]>を変更しないでください。

注 3) "−"は設定禁止です。

表 10.4　プリスケーラーからの出力クロックの分解能(fc = 80MHz) (2 / 2)

CGSYSCR <FPSEL>	CGSYSCR <GEAR[2:0]>	CGSYSCR <PRCK[2:0]>	プリスケーラーからの出力クロックの分解能			
			ΦT1	ΦT4	ΦT16	ΦT64
1 (fc)	000 (fc)	000 (fperiph / 1)	-	0.1μs (fc / 2^3)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)
		001 (fperiph / 2)	0.05μs (fc / 2^2)	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)
		010 (fperiph / 4)	0.1μs (fc / 2^3)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)
		011 (fperiph / 8)	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		100 (fperiph / 16)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		101 (fperiph / 32)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
	100 (fc / 2)	000 (fperiph / 1)	-	0.1μs (fc / 2^3)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)
		001 (fperiph / 2)	-	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)
		010 (fperiph / 4)	0.1μs (fc / 2^3)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)
		011 (fperiph / 8)	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		100 (fperiph / 16)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		101 (fperiph / 32)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
	101 (fc / 4)	000 (fperiph / 1)	-	-	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)
		001 (fperiph / 2)	-	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)
		010 (fperiph / 4)	-	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)
		011 (fperiph / 8)	0.2μs (fc / 2^4)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		100 (fperiph / 16)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		101 (fperiph / 32)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
	110 (fc / 8)	000 (fperiph / 1)	-	-	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)
		001 (fperiph / 2)	-	-	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)
		010 (fperiph / 4)	-	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)
		011 (fperiph / 8)	-	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		100 (fperiph / 16)	0.4μs (fc / 2^5)	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		101 (fperiph / 32)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})
	111 (fc /16)	000 (fperiph / 1)	-	-	-	1.6μs (fc / 2^7)
		001 (fperiph / 2)	-	-	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)
		010 (fperiph / 4)	-	-	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)
		011 (fperiph / 8)	-	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})
		100 (fperiph / 16)	-	1.6μs (fc / 2^7)	6.4μs (fc / 2^9)	25.6μs (fc / 2^{11})
		101 (fperiph / 32)	0.8μs (fc / 2^6)	3.2μs (fc / 2^8)	12.8μs (fc / 2^{10})	51.2μs (fc / 2^{12})

注 1) プリスケーラーからの出力クロック ΦTn は、必ず ΦTn < fsys / 2 を満足するように(ΦTn が fsys / 2 よりも遅くなるように)選択してください。

注 2) SIO/UART 動作中に CGSYSCR<FPSEL>、CGSYSCR<GEAR[2:0]>、CGSYSCR<PRCK[2:0]>を変更しないでください。

注 3) "−"は設定禁止です。

10.6.2. シリアルクロック生成回路

送信/受信クロック(SIOCLK)を生成する回路です。

ボーレートジェネレーターとクロック選択回路で構成されています。

10.6.2.1. ボーレートジェネレーター

ボーレートジェネレーターは、SIO/UART の転送速度を定めるクロックを生成するための回路です。

ボーレートジェネレーター入力クロックを分周回路で分周して、ボーレートジェネレーター出力クロックを出力します。

(1) ボーレートジェネレーター入力クロック

ボーレートジェネレーターの入力クロックは、プリスケーラーから出力される 2/8/32/128 分周クロックから選択します。分周クロックは SCxBRCR<BR0CK[1:0]>で選択します。

(2) ボーレートジェネレーター出力クロック

分周回路は、N 分周回路と$N + \frac{(16 - K)}{16}$分周回路をから構成されます。

分周値は SCxBRCR<BRADDE>、<BR0S[3:0]>、SCxBRADD<BR0K>で設定します。

シリアル転送モードごとに使用できる分周設定と分周値を表 10.5 に示します。

表 10.5 設定可能な分周値

シリアル転送モード	分周設定 SCxBRCR<BRADDE>	分周値"N" SCxBRCR<BR0S[3:0]>	分周値"K" SCxBRADD<BR0K>
SIO モード	0: $N + \frac{(16 - K)}{16}$分周禁止 (N 分周が使用されます)	1 ~ 16(注)	意味を持ちません
UART モード	0: $N + \frac{(16 - K)}{16}$分周禁止 (N 分周が使用されます)	1 ~ 16	意味を持ちません
	1: $N + \frac{(16 - K)}{16}$分周許可	2 ~ 15	1 ~ 15

注) 1 分周は、ダブルバッファー許可時のみ使用できます。

10.6.2.2. クロック選択回路

シリアル転送モードにより、クロックを選択する回路です。

シリアル転送モードは SCxMOD0<SM[1:0]>で指定します。

SIO モード時のボーレートジェネレーター出力クロックは、SCxCR<IOC>、SCxCR<SCLKS>で指定します。

UART モード時のボーレートジェネレーター出力クロックは、SCxMOD0<SC[1:0]>で指定します。

(1) SIO モードの転送クロック

表 10.6 に SIO モードで使用できる転送クロックのレジスター設定を示します。

表 10.6 SIOモードで使用できる転送クロックのレジスター設定

シリアル転送モード SCxMOD0<SM[1:0]>	転送クロック入出力選択SCxCR<IOC>	クロックエッジ選択 SCxCR<SCLKS>	転送クロック
00: SIO モード	0: SCLKx 端子出力	0: 送信: 立ち下がり 受信: 立ち上がり	ボーレートジェネレーター出力の 2 分周クロック
	1: SCLKx 端子入力	0: 送信: 立ち下がり 受信: 立ち上がり	SCLKx 端子入力クロック
		1: 送信: 立ち上がり 受信: 立ち下がり	

転送クロックの最大周波数を以下に示します。

注) 電気的特性章の「24.7. AC 電気的特性」を満たすように、クロックを設定してください。

– クロック/モード制御回路の設定
  - fc = 80MHz
  - fgear = 80MHz(CGSYSCR<GEAR[2:0]> = "000"、fc 選択)
  - fperiph = 80MHz(CGSYSCR<FPSEL> = "0"、fgear 選択)
  - ΦT0 = 80MHz(CGSYSCR<PRCK[2:0]> = "000"、fperiph の 1 分周選択)

- 転送クロックに SCLKx 端子出力を使用する場合
  – ダブルバッファー許可時の SIO/UART の設定
    - プリスケーラー出力クロック選択(SCxBRCR<BR0CK[1:0]> = "00"、ΦT1 選択) = 40MHz
    - 分周値"N"(SCxBRCR<BR0S[3:0]> = "0001"、1 分周)、分周回路出力 = 40MHz
      ダブルバッファー許可の場合、分周値"N"に"1"を設定できます。
    - SIOCLK(分周回路出力周波数 / 2) = 20MHz

  – ダブルバッファー禁止時の SIO/UART の設定
    - プリスケーラー出力クロック(SCxBRCR<BR0CK[1:0]> = "00"、ΦT1 選択) = 40MHz
    - 分周値"N"(SCxBRCR<BR0S[3:0]> = "0010"、2 分周)、分周回路出力 = 20MHz
      ダブルバッファー禁止の場合、分周値"N"に設定できる最小値は"2"です。
    - SIOCLK(分周回路出力周波数 / 2) = 10MHz

- 転送クロックに SCLKx 端子入力を使用する場合
  – ダブルバッファー許可時の SIO/UART の設定
    - SCLKx 端子入力転送クロック周期 > 6 / fsys
      転送クロックの最大周波数は、f_{SCLKx} = 80MHz / 6 = 13.3MHz@fsys = 80MHz 未満となります。

  – ダブルバッファー禁止時の SIO/UART の設定
    - SCLKx 端子入力転送クロック周期 > 8 / fsys
      転送クロックの最大周波数は、f_{SCLKx} = 80MHz / 8 = 10MHz@fsys = 80MHz 未満となります。

(2) UART モードの転送クロック

表 10.7 に UART モードで使用できる転送クロックのレジスター設定を示します。

UART モードでは、SCxMOD0<SC[1:0]>で選択された SIOCLK クロックを受信/送信カウンターで 16 分周します。

表 10.7 UARTモードで使用できるSIOCLKクロックのレジスター設定

モード SCxMOD0<SM[1:0]>	SIOCLKクロック選択 SCxMOD0<SC[1:0]>
01: UART モード 10: UART モード 11: UART モード	00: TMRB TBxOUT
	01: ボーレートジェネレーター
	10: fsys
	11: SCLKx 端子入力

SCxMOD0<SC[1:0]>で選択した SIOCLK クロックごとのボーレートを以下に示します。

- TMRB TBxOUT を使用する場合
  TMRB TBxOUT を使用する場合、あらかじめ UC のソースクロックを選択、UC と TBxRG1 の一致で TBxFF0 出力を反転に設定します。UC のソースクロックに ΦT1 を選択したときのボーレートの計算式を以下に示します。

ボーレートの計算式:

$$\text{ボーレート} = \frac{\Phi T1}{(TBxRG1 \times 2) \times 2 \times 16}$$

タイマープリスケーラークロック ΦT1(2 分周)を選択した場合

TBxFF0 出力反転 2 回で 1 クロックとなる

表 10.8 に下記のクロック設定で TMRB TBxOUT を使用する場合のボーレート例を示します。

– クロック/モード制御回路の設定
  - fc = 80MHz、9.8304MHz、8MHz
  - fgear = 80MHz、9.8304MHz、8MHz(CGSYSCR<GEAR[2:0]> = "000"、fc 選択)
  - fperiph = 80MHz、9.8304MHz、8MHz(CGSYSCR<FPSEL> = "0"、fgear 選択)
  - ΦT0 = 80MHz、9.8304MHz、8MHz(CGSYSCR<PRCK[2:0]> = "000"、fperiph の 1 分周選択)

– TMRB の設定
  - UC のソースクロック = 40MHz、4.9152MHz、4MHz(TBxMOD<TBCLK[1:0]> = "01"、ΦT1 選択)

表 10.8 UARTモードのボーレート例 (単位: kbps)

TBxRG1設定	fc (MHz)		
	80	9.8304	8
0x0001	625.0	76.8	62.5
0x0002	312.5	38.4	31.25
0x0003	-	25.6	-
0x0004	156.25	19.2	15.625
0x0005	125.0	15.36	12.5
0x0006	-	12.8	-
0x0008	78.125	9.6	-
0x000A	62.5	7.68	6.25
0x0010	39.025	4.8	-
0x0014	31.25	3.84	3.125

- ボーレートジェネレーターを使用する場合
  ボーレートジェネレーターを使用する場合の最大ボーレートを以下に示します。

  – クロック/モード制御回路の設定
    - fc = 80MHz
    - fgear = 80MHz(CGSYSCR<GEAR[2:0]> = "000"、fc 選択)
    - fperiph = 80MHz(CGSYSCR<FPSEL> = "0"、fgear 選択)
    - ΦT0 = 80MHz(CGSYSCR<PRCK[2:0]> = "000"、fperiph の 1 分周選択)

  – SIO/UART の設定
    - ΦT1 = 40MHz(SCxBRCR<BR0CK[1:0]> = "00"、ΦT1 選択)
    - SCxBRCR<BRADDE>が"0"に設定されているとき
      分周値"N"が"1"に設定されているとき、SIOCLK は 40MHz となります。転送ボーレートは SIOCLK が 16 分周され 2.5Mbps となります。
    - SCxBRCR<BRADDE>が"1"に設定されているとき
      分周値"N"が"2"、分周値"K"が"15"に設定されているとき、SIOCLK は 19.4MHz となります。転送ボーレートは SIOCLK が 16 分周され 1.2Mbps となります。

表 10.9 に下記のクロック設定でボーレートジェネレーターを使用する場合のボーレート例を示します。

  – クロック/モード制御回路の設定
    - fc = 9.8304MHz
    - fgear = 9.8304MHz(CGSYSCR<GEAR[2:0]> = "000"、fc 選択)
    - fperiph = 9.8304MHz(CGSYSCR<FPSEL> = "0"、fgear 選択)
    - ΦT0 = 4.9152MHz(CGSYSCR<PRCK[2:0]> = "001"、fperiph の 2 分周選択)

  – SIO/UART の設定
    - SCxBRCR<BRADDE>が"0"に設定されているとき

表 10.9 UARTモードのボーレート例 (単位: kbps)

fc (MHz)	分周値"N" (SCxBRCR<BRS[3:0]>)	ΦT1 (ΦT0 / 2)	ΦT4 (ΦT0 / 8)	ΦT16 (ΦT0 / 32)	ΦT64 (ΦT0 / 128)
9.830400	0010: 2	76.800	19.200	4.800	1.200
	0100: 4	38.400	9.600	2.400	0.600
	1000: 8	19.200	4.800	1.200	0.300
	0000: 16	9.600	2.400	0.600	0.150

- SCLKx 端子入力を使用する場合
  - SCLKx 端子入力周期 > 2 / fsys
    SIOCLK は 40MHz 未満なので、最大ボーレートは、40MHz / 16 = 2.5Mbps 未満となります。

- fsys を使用する場合
  fsys は最大 80MHz ですので、最大ボーレートは、80 / 16 = 5Mbps となります。

10.7. 送信/受信バッファーと FIFO

10.7.1. 構成

送信/受信バッファーと FIFO の構成を図 10.3 に示します。

送信/受信バッファーと FIFO を使用するには事前に SIO/UART レジスターの設定が必要です。また、転送モードにより FIFO 構成が決まっています。

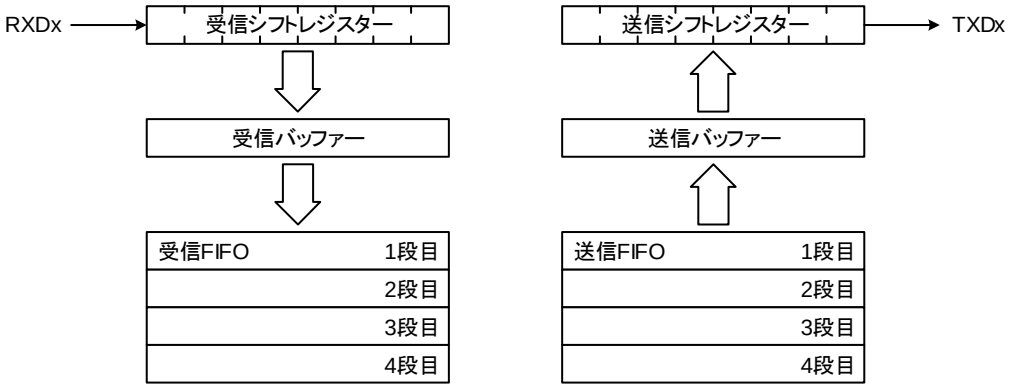


図 10.3 送信/受信バッファーとFIFOの構成

10.7.2. 送信/受信バッファー

送信/受信バッファーはダブルバッファーを許可できます。SCxMOD2<WBUF>でダブルバッファーの許可/禁止の設定をします。

受信時の SIO モードで転送クロックが SCLKx 端子入力のとき、または受信時の UART モードのときは、SCxMOD2<WBUF>の設定によらずダブルバッファーは許可です。

それ以外は SCxMOD2<WBUF>の設定によります。

表 10.10 にシリアル転送モードとバッファー構成の関係を示します。

表 10.10 シリアル転送モードとバッファー構成

シリアル転送モード		SCxMOD2<WBUF>	
		0	1
UART モード	送信	ダブルバッファー禁止	ダブルバッファー許可
	受信	ダブルバッファー許可	ダブルバッファー許可
SIO モード (SCLKx 端子入力)	送信	ダブルバッファー禁止	ダブルバッファー許可
	受信	ダブルバッファー許可	ダブルバッファー許可
SIO モード (SCLKx 端子出力)	送信	ダブルバッファー禁止	ダブルバッファー許可
	受信	ダブルバッファー禁止	ダブルバッファー許可

10.7.3. FIFO

ダブルバッファーに加えて、4byte の FIFO を使用することができます。

FIFO を許可にするには SCxMOD2<WBUF>を"1"、SCxFCNF<CNFG>に"1"を設定します。

FIFO の構成は SCxMOD1<FDPX[1:0]>で設定します。

注) FIFO 使用時は、SIO/UART の転送モード設定(半二重/全二重)、FIFO 許可(SCxFCNF <CNFG> = "1")の後、必ず送信用/受信用 FIFO のクリアを実行してください。

表 10.11 に転送モードと FIFO 構成の関係を示します。

表 10.11 転送モードとFIFO構成

転送モード	SCxMOD1<FDPX[1:0]>	受信FIFO	送信FIFO
半二重受信	01	4byte	-
半二重送信	10	-	4byte
全二重	11	2byte	2byte

10.8. ステータスフラグ

SCxMOD2<RBFLL>は、受信バッファーフルを示すフラグです。データの受信が終了した後に、データが受信シフトレジスターから受信バッファーに格納されると"1"になります。受信バッファーを読み出すと"0"になります。

SCxMOD2<TBEMP>は、送信バッファーエンプティーを示すフラグです。送信バッファーから送信シフトレジスターへデータが転送されると"1"になります。送信バッファーにデータを書き込むと"0"になります。

これらのステータスフラグは、ダブルバッファーが許可の時のみ意味を持ちます。

10.9. エラーフラグ

これらのフラグは、SCxCR を読み出すと"0"にクリアされます。

表 10.12　エラーフラグ

シリアル転送モード	フラグ		
	SCxCR<OERR>	SCxCR<PERR>	SCxCR<FERR>
UART モード	オーバーランエラー	パリティーエラー	フレーミングエラー
SIO モード (SCLKx 端子入力)	オーバーランエラー	アンダーランエラー (ダブルバッファー許可 またはダブルバッファー /FIFO 許可時)	"0"
		"0" (ダブルバッファー および FIFO 禁止時)	
SIO モード (SCLKx 端子出力)	意味を持ちません	送信終了	"0"

10.9.1. OERR フラグ

オーバーランエラーは、UART モード、SIO モードで、受信バッファーのデータを読み出す前に、次のデータの受信が終了すると発生し、OERR フラグが"1"になります。

FIFO を有効にしている場合は、受信バッファーのデータが FIFO へ自動的に転送されます。そのため、FIFO がフルになるまで、OERR フラグ"1"になりません。

SIO モードで転送クロックに SCLKx 端子出力を使用するとき、使用可能な受信バッファー/FIFO に全てデータが格納されると SCLKx 端子出力が停止するため、OERR フラグは意味を持ちません。

注) SIO モードで転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているときに、転送モード、転送クロックを変更する前に SCxCR を読み出し、OERR フラグをクリアしてください。

10.9.2. PERR フラグ

UART モードではパリティーエラーを、SIO モードではアンダーランエラーまたは送信終了を示します。

パリティーエラーは、受信したデータから生成されたパリティービットと受信したパリティービットが異なるときに発生し、PERR フラグがに"1"になります。

アンダーランエラーは、ダブルバッファーまたは FIFO に次に送信するデータがないときに、次の転送クロックが入力されたときに発生し、PERR フラグが"1"になります。

SIO モードで転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき､データが全て送信されると SCLKx 端子出力は自動的に停止するため、アンダーランエラーは発生しません。

注) SIO モードで転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているときに、転送モード、転送クロックを変更する前に SCxCR を読み出し、PERR フラグをクリアしてください。

10.9.3. FERR フラグ

フレーミングエラーは、UART モードの受信時に、STOP ビットを STOP ビットタイミングの中央付近でサンプリングした結果が"0"の場合に発生し、FERR フラグが"1"になります。

SIO モードではこのビットは常に"0"です。

10.10. 受信

10.10.1. 受信カウンター

受信カウンターは 4 ビットのバイナリーカウンターです。

SIO モードでは、SIOCLK クロックでカウントアップされます。

UART モードでは、16 SIOCLK クロックでカウントアップされます。

10.10.2. 受信制御

10.10.2.1. SIO モードの場合

転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき、SCLKx 端子へ出力されるクロックの立ち上がりで RXDx 端子を取り込みます。

転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているときは、SCxCR<SCLKS>の設定に従って、SCLKx 端子入力の立ち上がりまたは立ち下がりで RXDx 端子を取り込みます。

10.10.2.2. UART モードの場合

受信制御回路はスタートビット検出回路を持ちます。正常なスタートビットを検出して受信動作を開始します。

データ受信は、SIOCLK の 7、8、9 クロック目で RXDx 端子をサンプリングし、多数決により受信データを決定します。

10.10.3. 受信動作

10.10.3.1. 受信バッファーの動作

受信シフトレジスターに受信データが 1 ビットずつ格納され、受信が終了すると受信割り込み(INTRXx)が発生します

ダブルバッファー許可の場合は、受信動作が終了して、受信シフトレジスターから受信バッファーへ受信データが格納されると受信バッファーフルフラグ(SCxMOD2<RBFLL>)が"1"になります。SCxMOD2<RBFLL>は、受信バッファーからデータを読み出すと"0"になります。

ダブルバッファー禁止の場合、SCxMOD2<RBFLL>は意味を持ちません。

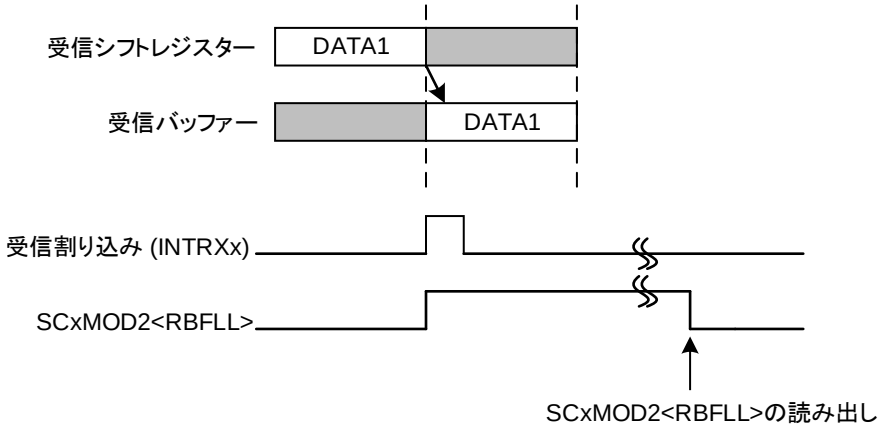


図 10.4 受信バッファーの動作

10.10.3.2. FIFO の動作

FIFO が許可されている場合、受信動作が終了した後、受信データは受信バッファーから FIFO に転送されるために、直ちに SCxMOD2<RBFLL>は"0"になります。

割り込みは SCxRFC<RIL[1:0]>の設定に従って発生します。

以下に、4 バイトのデータを半二重受信する場合の設定と動作を示します。

SCxMOD1<FDPX[1:0]> = "01"	: 転送モードを半二重受信に設定
SCxFCNF<RFST><TFIE><RFIE> <RXTXCNT><CNFG> = "10111"	: FILL レベル到達後の自動禁止の許可。FIFO の使用バイト数は割り込み発生 FILL レベルに同じ
SCxRFC<RIL[1:0]> = "00"	: 受信割り込みが発生する FIFO の FILL レベルを 4 バイトに設定
SCxRFC<RFCS><RFIS> = "11"	: FIFO のクリアと割り込み発生条件の設定
SCxFCNF<CNFG> = "1"	: FIFO の許可

上記の FIFO 許可の設定後、SCxMOD0<RXE>を"1"に設定するとデータ受信を開始します。4 バイトのデータが FIFO に格納されると INTRXx が発生します。受信シフトレジスター、受信バッファー、受信 FIFO 全てにデータが格納されると SCxMOD0<RXE>を自動的に"0"にして受信を終了します。

上記の設定で、FILL レベル到達後の自動禁止を禁止に設定すると、FIFO のデータを読み出すと継続して受信動作を行います。

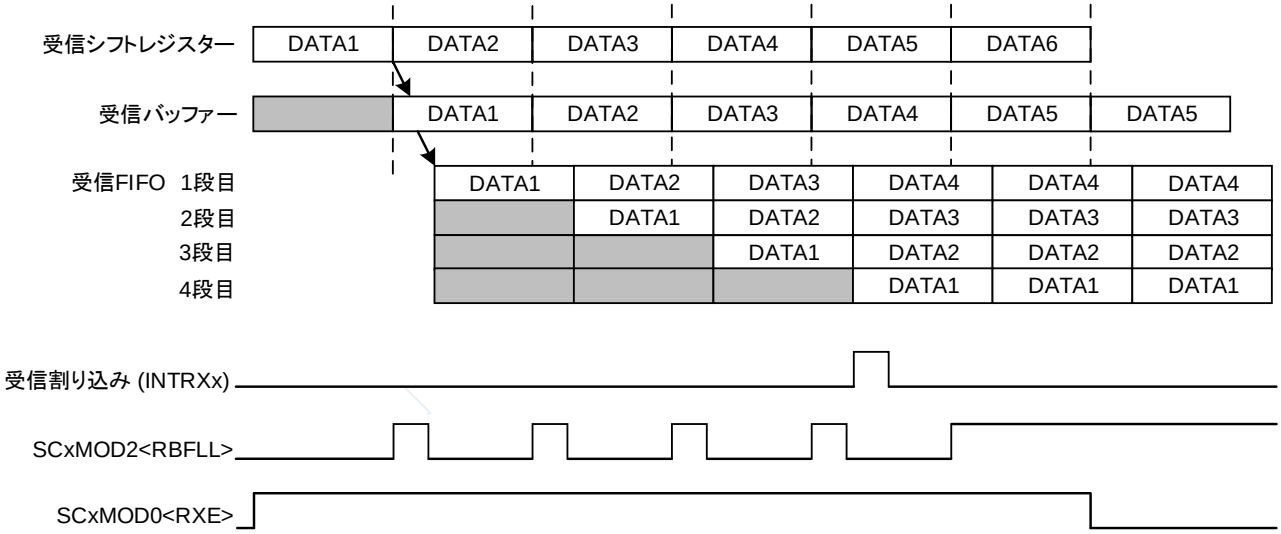


図 10.5 受信FIFOの動作

10.10.3.3. SIO モード、SCLKx 端子出力での受信

SCLKx 端子出力の停止/再開のタイミングは受信バッファー/FIFO の許可/禁止によって変わります。

(1) ダブルバッファー禁止の場合

受信シフトレジスターにデータが格納されると SCLKx 端子出力を停止します。受信バッファーからデータが読み出されると SCLKx 端子出力を再開します。

(2) ダブルバッファー許可の場合

受信シフトレジスター、受信バッファーともにデータが格納されると、SCLKx 端子出力を停止します。受信バッファーのデータが読み出されると受信シフトレジスターから受信バッファーへ受信データが転送され、SCLKx 端子出力を再開します。

(3) FIFO 許可の場合

受信シフトレジスター、受信バッファー、FIFO にデータが格納されると、SCLKx 端子出力を停止します。FIFO のデータが読み出されると受信バッファーから FIFO へ、受信シフトレジスターから受信バッファーへ受信データが転送され、SCLKx 端子出力を再開します。

なお、SCxFCNF<RXTXCNT>に"1"を設定していると、SCLKx 端子出力停止とともに SCxMOD0<RXE>が"0"になり、受信動作を停止します。

10.10.3.4. 受信データの読み出し

FIFO の許可/禁止にかかわらず SCxBUF からデータを読み出します。

FIFO が禁止の場合は、読み出しにより SCxMOD2<RBFLL>は"0"になります。

受信バッファーを読み出す前でも、次の受信データは受信シフトレジスターに格納することができます。モード 2 でパリティービット付加の場合とモード 3 の場合、MSB は SCxCR<RB8>に格納されます。

モード 3 では FIFO を許可できません。モード 2 でパリティービット付加の場合、FIFO にパリティービットは格納できませんが、各受信データごとにパリティーエラーの判定は行われ、その結果は SCxCR<PERR>に格納されます。

10.10.3.5. ウエイクアップ機能

モード 3 の場合、SCxMOD0<WU>を"1"に設定(ウエイクアップ機能制御許可)すると、スレーブコントローラーのウエイクアップ動作が可能です。SCxCR<RB8>が"1"のときのみ、INTRXx を発生させることができます。

10.10.3.6. オーバーランエラー

FIFO が許可されていないとき、受信バッファーを読み出す前に、次のデータの受信が終了するとオーバーランエラーが発生します。

オーバーランエラーが発生した場合、受信バッファーの内容は保持されます。また、SCxCR<RB8>の内容も保持されます。

FIFO が許可にされているとき、FIFO がフルにもかかわらず、FIFO を読み出す前に、次のデータ受信が終了するとオーバーランが発生します。

オーバーランエラーが発生した場合、FIFO のデータは保存されます。

10.11. 送信

10.11.1. 送信カウンター

送信カウンターは 4 ビットのバイナリーカウンターす。

SIO モードでは、SIOCLK でカウントされます。

UART モードでは、SIOCLK 16 クロックでカウントアップされます。16 クロックごとに TXDCLK を生成します。

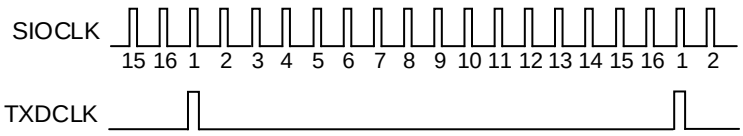


図 10.6 UARTモード送信クロックの生成

10.11.2. 送信制御

10.11.2.1. SIO モードの場合

転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき、SCLKx 端子へ出力されるクロックの立ち下がりで送信シフトレジスターのデータを 1 ビットずつ TXDx 端子へ出力します。

転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているときは、SCxCR<SCLKS>の設定に従って SCLKx 端子入力の立ち上がり/立ち下がりで送信シフトレジスターのデータを 1 ビットずつ TXD 端子 x へ出力します。

10.11.2.2. UART モードの場合

送信バッファーに送信データが書き込まれると、次の TXDCLK クロックの立ち上がりエッジから送信を開始し、送信シフトクロックを生成します。

10.11.3. 送信動作

10.11.3.1. 送信バッファーの動作

ダブルバッファー禁止の場合、送信データの書き込みは送信シフトレジスターに対して行われ、送信が終了すると送信割り込み(INTTXx)が発生します。

ダブルバッファー許可、またはダブルバッファー/FIFO 許可の場合、送信バッファーへ書き込まれたデータは送信シフトレジスターに転送されます。同時に INTTXx が発生し、SCxMOD2<TBEMP>が"1"になります。次のデータを送信バッファーに書き込むと SCxMOD2<TBEMP>は"0"になります。

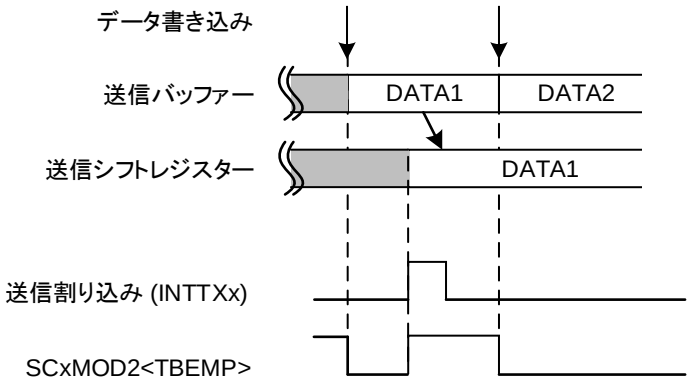


図 10.7 送信バッファーの動作

10.11.3.2. FIFO の動作

FIFO が許可されている場合、送信バッファーと FIFO で最大 5 バイトの送信データを格納することができます。送信を許可すると、送信シフトレジスターに送信バッファーに格納されたデータが転送されて送信を開始します。この時、FIFO に送信データが格納されている場合は、送信バッファーへ送信データが転送され、SCxMOD2<TBEMP>フラグは"0"にクリアされます。

割り込みは SCxTFC<TIL[1:0]>の設定に従って発生します。

以下に、4 バイトのデータを半二重送信する場合の設定と動作を示します。

SCxMOD1<FDPX[1:0]> = "10"	: 転送モードを半二重送信に設定
SCxFCNF<RFST><TFIE><RFIE> <RXTXCNT><CNFG> = "10111"	: FIFO がエンプティー時の自動禁止の許可。FIFO の使用バイト数は割り込み発生 FILL レベルに同じ
SCxTFC<TIL[1:0]> = "00"	: 割り込み発生の FIFO FILL レベルを 0 byte に設定
SCxTFC<TFCS><TFIS> = "11"	: FIFO のクリアと割り込み発生条件の設定
SCxFCNF<CNFG> = "1"	: FIFO の許可

上記の FIFO の許可設定後、送信バッファー/FIFO に 5 バイト分の送信データを書き込み、SCxMOD1<TXE>を"1"に設定するとデータ送信を開始します。最後の送信データが送信バッファーに転送されると INTTXx が発生します。最後の送信データの送信が終了すると SCxMOD1<TXE>を自動的に"0"にします。

上記の設定で、FILL レベル到達後の自動禁止を禁止に設定すると、送信データを書き込むと継続して送信動作を行います。

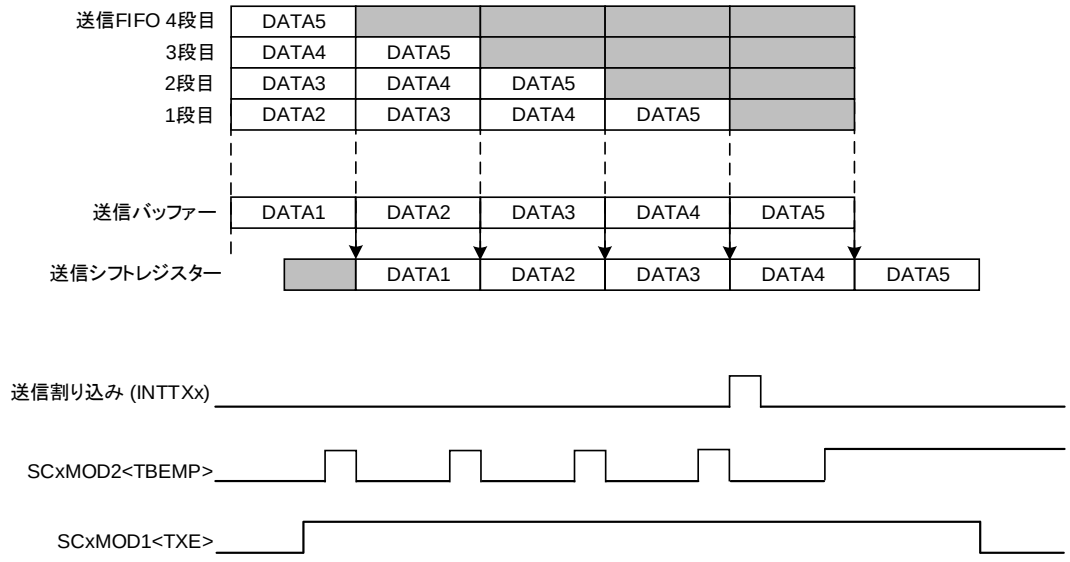


図 10.8 送信FIFOの動作

10.11.3.3. SIO モード、SCLKx 出力での送信

SCLKx 出力の停止/再開のタイミングは送信バッファー/FIFO の許可/禁止によって変わります。

(1) ダブルバッファー禁止の場合

送信シフトレジスターのデータ送信後に SCLKx 端子出力を停止します。送信バッファーに送信データが書き込まれると SCLKx 端子出力を再開します。

(2) ダブルバッファー許可の場合

送信シフトレジスター、送信バッファーのデータ送信後に SCLKx 端子出力を停止します。送信バッファーに送信データが書き込まれると送信バッファーから送信シフトレジスターへデータが転送され、SCLKx 端子出力を再開します。

(3) FIFO 許可の場合

送信シフトレジスター、送信バッファー、FIFO のデータの送信後に SCLKx 端子出力を停止します。次のデータが書き込まれると送信バッファーから送信シフトレジスターへデータが転送され、SCLKx 出力を再開します。

なお、SCxFCNF<RXTXCNT>に"1"を設定していると、SCLKx 端子出力停止とともに SCxMOD1<TXE>が"0"になり、送信動作を停止します。

10.11.3.4. アンダーランエラー

送信シフトレジスターのデータの送信が終了し、次の送信が開始する前に送信バッファーへ次のデータが書き込まれないと、アンダーランエラーが発生します。

10.12. ハンドシェーク機能

ハンドシェーク機能は 1 データごとの送信を行う機能です。この機能により、オーバーランエラー発生を防ぐことができます。ハンドシェーク機能は UART モードで使用します。

ハンドシェーク機能は SCxMOD0<CTSE>によって許可/禁止を設定できます。

$\overline{\text{CTSx}}$端子入力が"High"レベルになると、現在送信中のデータ送信完了後、$\overline{\text{CTSx}}$端子入力が"Low"レベルになるまで送信を停止します。

INTTXx の割り込みサービスルーチンで、次の送信データを送信バッファーに書き込み、送信待機状態にすることができます。

注 1) 送信中に$\overline{\text{CTSx}}$端子入力を立ち上げたとき、送信中のデータ送信終了後に停止します。(図 10.10 "a")

注 2) $\overline{\text{CTSx}}$端子入力が"Low"レベルになったあとの最初の TXDCLK クロックから送信を開始します。(図 10.10 "b")

なお、$\overline{\text{RTS}}$端子はありませんが、任意のポートの 1 つを$\overline{\text{RTS}}$端子に割り当てることで容易にハンドシェーク機能を構築できます。受信終了時に受信割り込みサービスルーチン内でこのポートを"High"レベルにし、送信側に送信の一時停止を要求します。

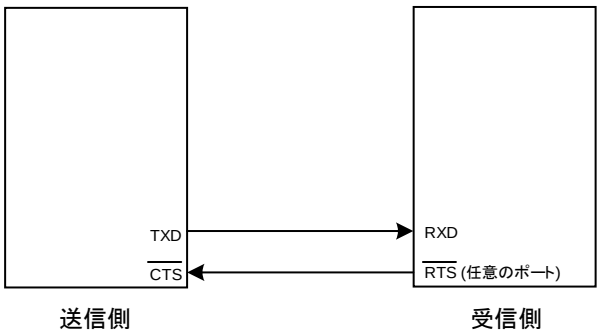


図 10.9 ハンドシェーク機能接続

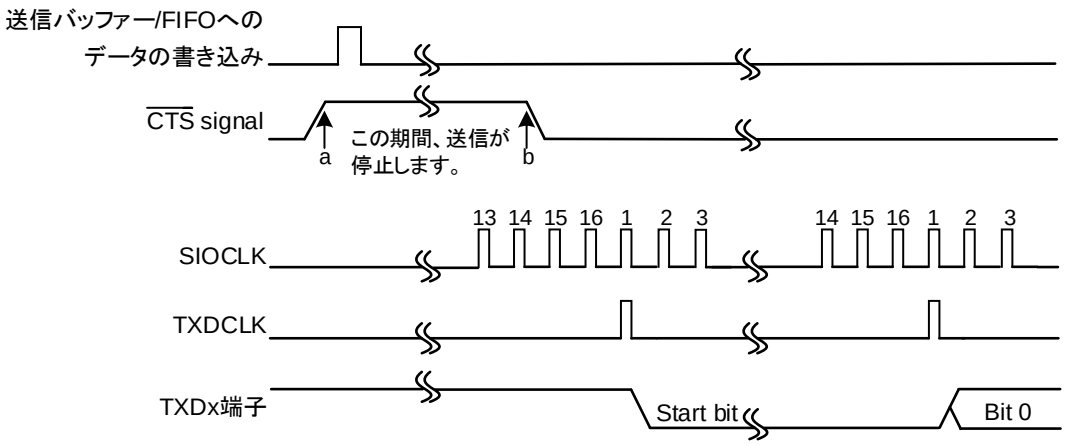


図 10.10 $\overline{\text{CTS}}$信号のタイミング

10.13. 割り込み/エラー発生タイミング

10.13.1. 受信割り込み(INTRXx)

受信動作のデータの流れと読み出しの経路を図 10.11 に示します。

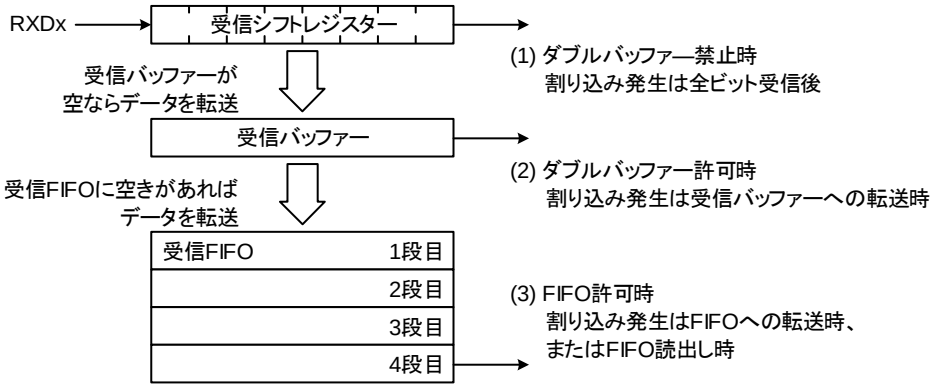


図 10.11 受信動作のデータの流れと読み出しの経路

10.13.1.1. バッファー構成と INTRXx の発生タイミング

INTRXx は、バッファー構成と転送モードにより以下のタイミングで発生します。

表 10.13 バッファー構成とINTRXxの発生タイミング

バッファー構成	転送モード	
	UARTモード	SIOモード
ダブルバッファー禁止	-	転送クロックとして SCLKx 端子出力を使用しているとき、最終ビットの SCLKx 出力の立ち上がり直後
ダブルバッファー許可	1 つ目の STOP ビットの中央付近	転送クロックとして SCLKx 端子入力を使用しているとき、最終ビットの SCLKx 入力の立ち上がり/立ち下がり直後(立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR<SCLKS>設定による) 転送クロックとして SCLKx 端子出力を使用しているとき、最終ビットの SCLKx 出力の立ち上がり直後 受信バッファーのリードによる、受信シフトレジスターから受信バッファーへのデータ転送時

注) オーバーランエラーが発生したときには割り込みは発生しません。

10.13.1.2. FIFO 許可の場合

FIFO 使用の場合の受信割り込みは、表 10.14 の割り込み発生タイミングに記載の動作が発生したときに、SCxRFC<RFIS>の設定で決まる条件を満たしていると発生します。

表 10.14　FIFO許可時のINTRXx発生条件

SCxRFC<RFIS>	割り込み発生条件	割り込み発生タイミング
0	FIFO fill レベル(SCxRST<RLVL[2:0]>) = 割り込み発生 fill レベル(<RIL[1:0]>)のとき	・受信バッファから受信 FIFO へ受信データの転送がおこなわれるとき
1	FIFO fill レベル(SCxRST<RLVL[2:0]>) ≥ 割り込み発生 fill レベル(<RIL[1:0]>)のとき	・受信 FIFO から受信データをリードしたとき ・受信バッファから受信 FIFO へ受信データの転送がおこなわれるとき

10.13.2. 送信割り込み(INTTXx)

送信動作のデータの流れと書き込みの経路を図 10.12 に示します。

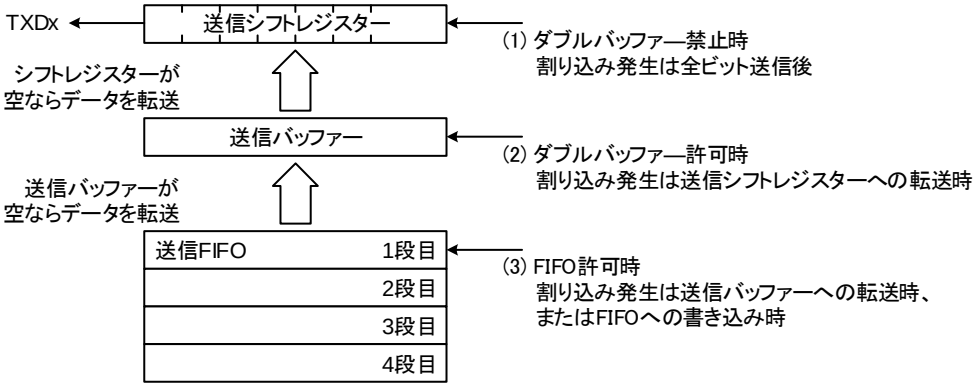


図 10.12　送信動作のデータの流れと書き込みの経路

10.13.2.1. バッファー構成と INTTXx の発生タイミング

INTTXx は、転送モードとバッファー構成により以下のタイミングで発生します。

表 10.15 バッファー構成とINTTXxの発生タイミング

バッファー構成	UARTモード	SIOモード
ダブルバッファー禁止	STOP ビット送出の直前	転送クロックとして SCLKx 端子入力を使用しているとき、最終ビットの SCLKx 端子入力の立ち上がり/立ち下がり直後(立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR <SCLKS> 設定による) 転送クロックとして SCLKx 端子出力を使用しているとき、最終ビットの SCLKx 端子出力の立ち下がり直後
ダブルバッファー許可	送信バッファーから送信シフトレジスターへのデータ転送時	

注) ダブルバッファー許可の場合、送信バッファーへの書き込みによって送信バッファーから送信シフトレジスターへデータが転送された場合も INTTXx が発生します。

10.13.2.2. FIFO 使用の場合

FIFO 使用の場合の送信割り込みは、表 10.16 の割り込み発生タイミングに記載の動作が発生したときに、SCxTFC<TFIS>の設定で決まる条件を満たした場合に発生します。

表 10.16 FIFO使用時のINTTXx発生条件

SCxTFC<TFIS>	割り込み発生条件	割り込み発生タイミング
0	FIFO fill レベル(SCxTST<TLVL[2:0]>) = 割り込み発生 fill レベル(<TIL[1:0]>) のとき	・送信 FIFO から送信バッファへ送信データの転送が行われたとき
1	FIFO fill レベル(SCxTST<TLVL[2:0]>) ≤ 割り込み発生 fill レベル(<TIL[1:0]>) のとき	・送信 FIFO へ送信データをライトしたとき ・送信 FIFO から送信バッファへ送信データの転送が行われたとき

10.13.3. エラー発生時の割り込み発生タイミング

10.13.3.1. SIO モード

表 10.17 SIOモードのエラー割り込み発生タイミング

エラー	転送クロック	
	SCLKx端子出力	SCLKx端子入力
オーバーランエラー	なし	受信の場合、最終ビットの SCLKx 端子入力の立ち上がり/立ち下がり直後(立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR <SCLKS>設定による)
アンダーランエラー	なし	送信の場合、次データの先頭ビットの SCLKx 端子入力の立ち上がり/立ち下がり直後(立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR<SCLKS>設定による)

10.13.3.2. UART モード

表 10.18 UARTモードのエラー割り込み発生タイミング

エラー	モード		
	モード3	モード1、モード2	モード1、モード2
	パリティービット付与禁止	パリティービット付与禁止	パリティービット付与許可
フレーミングエラー オーバーランエラー	STOP ビットの中央付近	STOP ビットの中央付近	STOP ビットの中央付近
パリティーエラー	なし	なし	パリティービットの中央付近

10.14. ソフトウェアリセット

SCxMOD2<SWRST[1:0]>に"10" → "01"の順でライトすることによりソフトウェアリセットが発生します。初期化される範囲は、「10.3.9. SCxMOD2(モードコントロールレジスター2)」を参照してください。

10.15. モード別動作説明

10.15.1. モード 0(SIO モード)

このモードでの転送クロックを下記に示します。

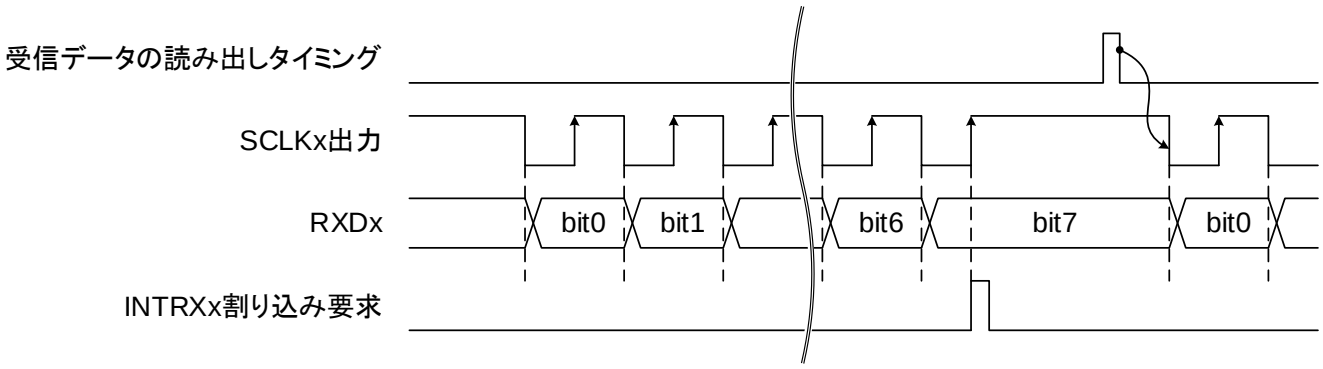
- SCLKx 端子から出力するとき
- SCLKx 端子に入力するとき

以下に FIFO が禁止されている状態での、受信、送信、送受信動作の説明を行います。
FIFO の動作については、「10.7.3. FIFO」を参照してください。

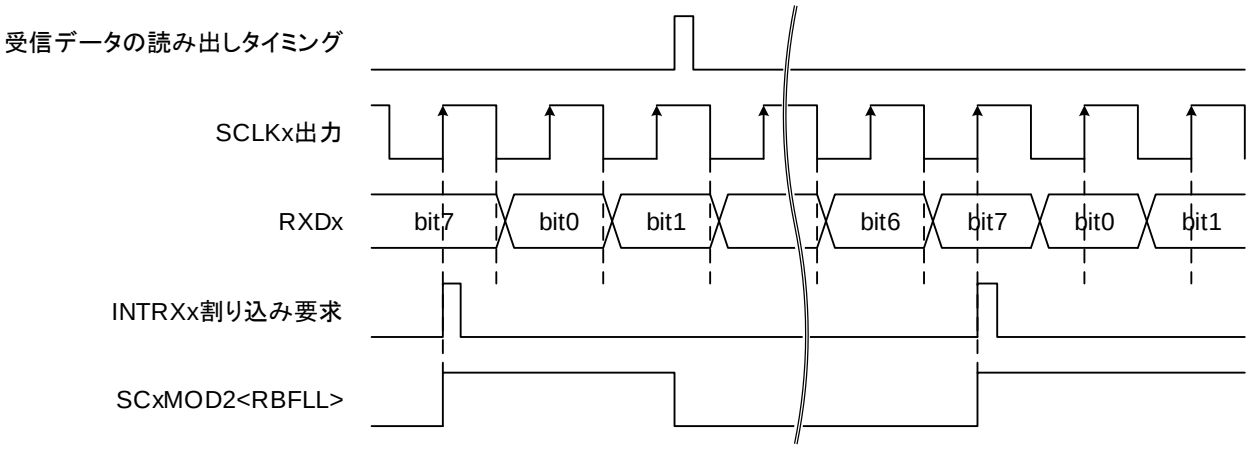
10.15.1.1. 受信

(1) 転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき
SCxMOD0<RXE>を"1"に設定すると、SCLKx 端子出力が開始され、RXDx 端子のデータを取り込みます。

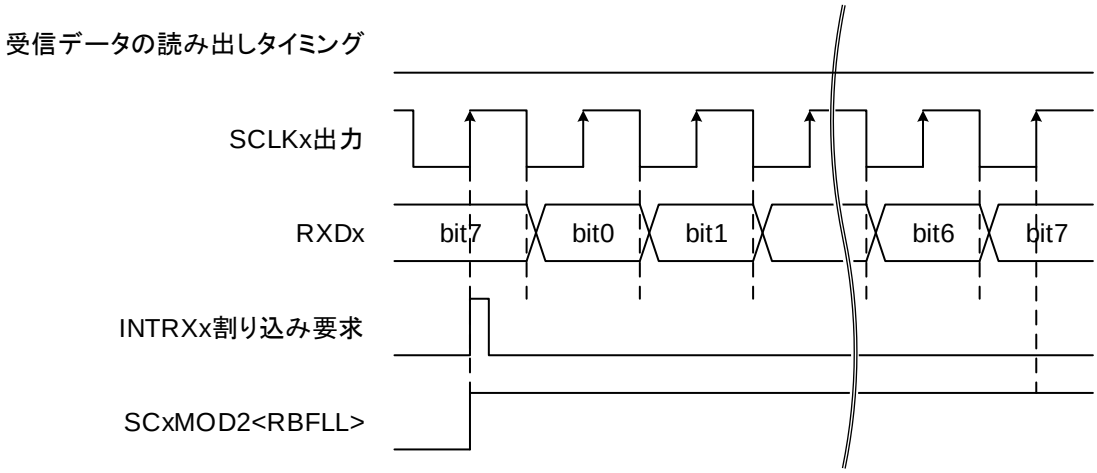
- ダブルバッファー禁止(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合
受信データが読み出されるごとに、SCLKx 端子より転送クロックが出力され次のデータが受信シフトレジスターに格納されます。データ受信が終了すると、INTRXx が発生します。
- ダブルバッファー許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合
受信シフトレジスターに格納されたデータが受信バッファーに転送されるため、続けて次のデータを受信することができます。
受信シフトレジスターから受信バッファーにデータが転送されると、SCxMOD2<RBFLL>が"1"になり、INTRXx が発生します。
受信バッファーにデータが存在する状態で、次のデータを受信完了する前に受信バッファーのデータが読み出されない場合、INTRXx は発生せず、SCLKx 端子出力は停止します。
この状態で受信バッファーのデータを読み出すと、受信シフトレジスターのデータを受信バッファーに転送し、INTRXx を発生します。SCLKx 端子より転送クロックが出力され受信が再開します。



SCxMOD2<WBUF> = ″0″ (ダブルバッファ―禁止)



SCxMOD2<WBUF> = "1" (ダブルバッファ―許可でバッファーからデータ読出し)



SCxMOD2<WBUF> = "1" (ダブルバッファ―許可でバッファーからデータ読出し)

図 10.13　SIOモード受信動作(転送クロックにSCLKx端子出力を使用しているとき)

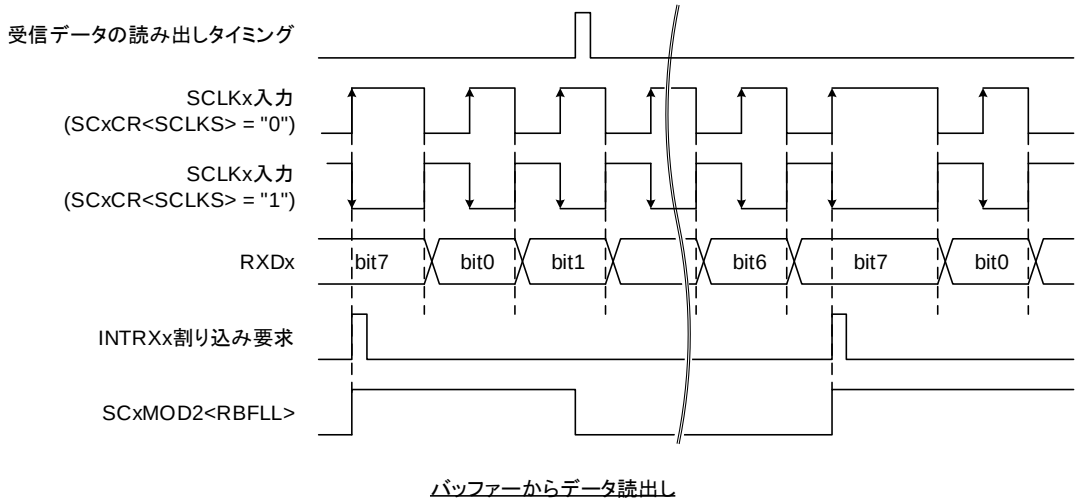
(2) 転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているとき

SCxMOD0<RXE>が"1"に設定されているときに、SCLKx 端子に転送クロックが入力されると RXDx 端子のデータを取り込みます。

転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているとき常に受信ダブルバッファーが許可されます。そのため、受信したデータは受信シフトレジスターから受信バッファーに転送され、連続して次のデータを受信することができます。

受信データが受信バッファーへ転送されるごとに INTRXx が発生します。

受信バッファーにデータが存在する状態で、次のデータを受信完了する前に受信バッファーのデータが読み出されない場合、INTRXx は発生せず、SCxCR<OERR>が"1"になります。



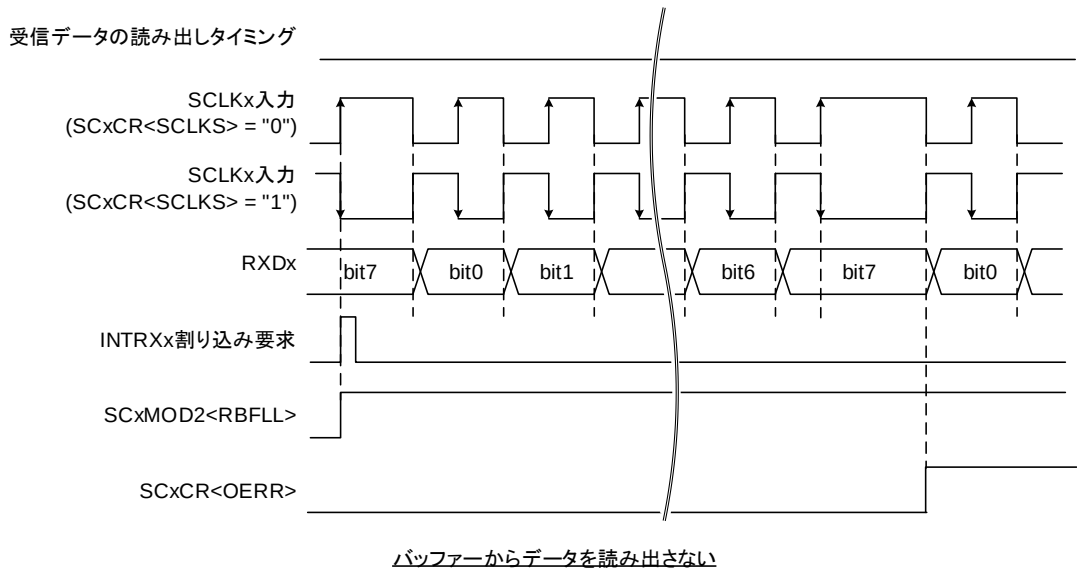


図 10.14 SIOモード受信動作(転送クロックにSCLKx端子入力を使用しているとき)

10.15.1.2. 送信

(1) 転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき

送信データを書き込んだ状態で、SCxMOD1<TXE>を"1"に設定すると転送クロックが SCLKx 端子から出力され、TXDx 端子からデータが出力されます。

- ダブルバッファー禁止(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合

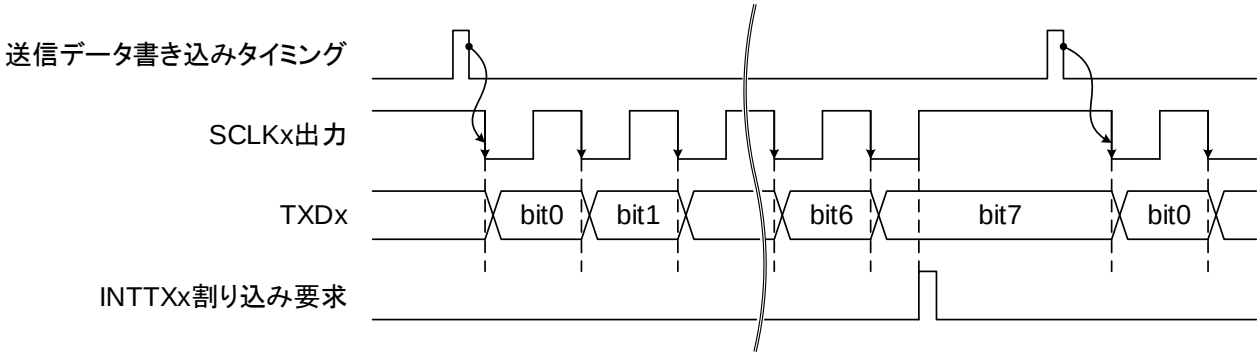
  送信バッファーにデータを書き込むたびに、データが TXDx 端子から、転送クロックが SCLKx 端子より出力されます。データ送信が終了すると INTTXx が発生します。

- ダブルバッファー許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合

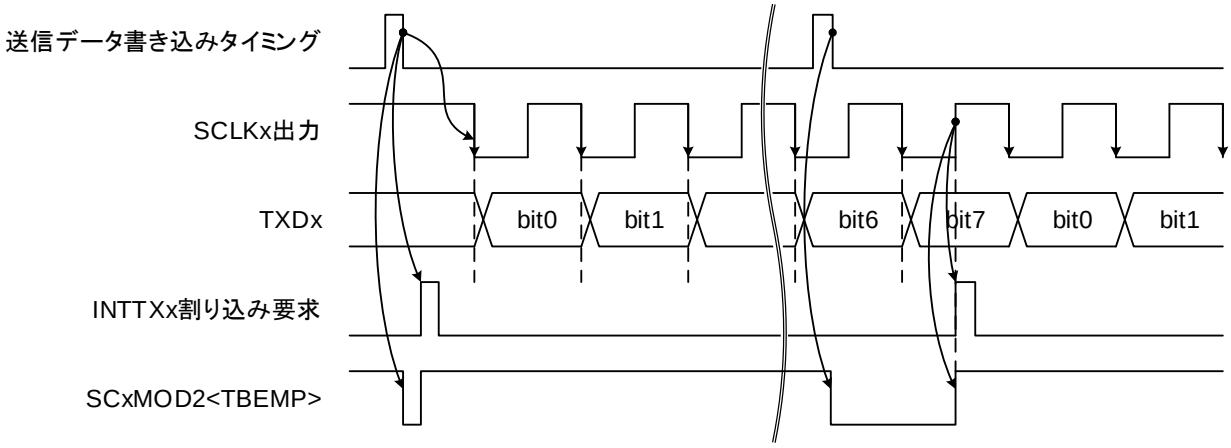
  送信停止の状態で送信バッファーにデータを書き込んだとき、または送信シフトレジスターのデータ送信が終了したときに送信バッファーから送信シフトレジスターにデータが転送されます。このとき、SCxMOD2 <TBEMP>が"1"になり、INTTXx が発生します。

  送信シフトレジスターのデータの送信が終了したときに送信バッファーにデータが書き込まれていない場合、INTTXx を発生せず、SCLKx 端子出力は停止します。

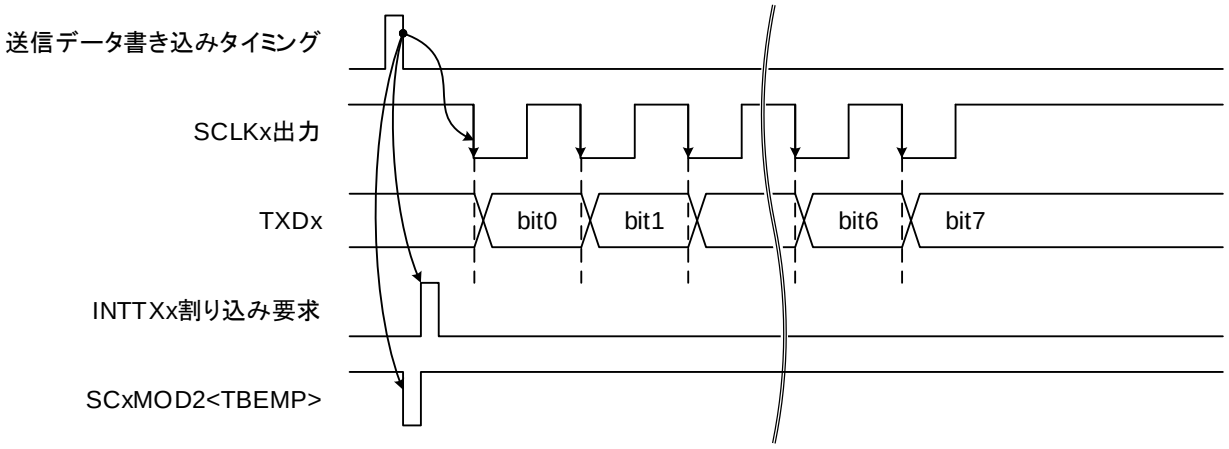
  この状態で送信バッファーにデータを書き込むと、送信バッファーのデータが送信シフトレジスターに転送され、INTTXx が発生します。SCLKx 端子より転送クロックが出力され送信が再開します。



SCxMOD2〈WBUF〉= ″0″（ダブルバッファ―禁止）



SCxMOD2<WBUF> = "1" (ダブルバッファ―許可でデータがバッファーに存在)

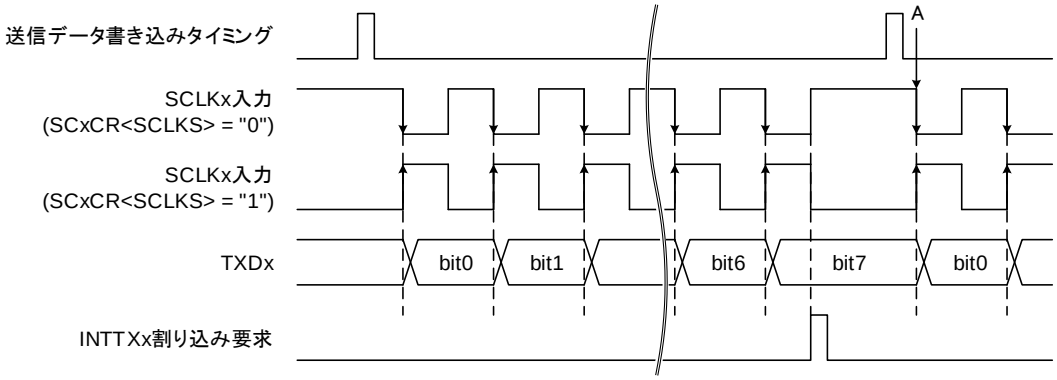


SCxMOD2<WBUF> = "1" (ダブルバッファ―許可でデータがバッファーに存在しない)

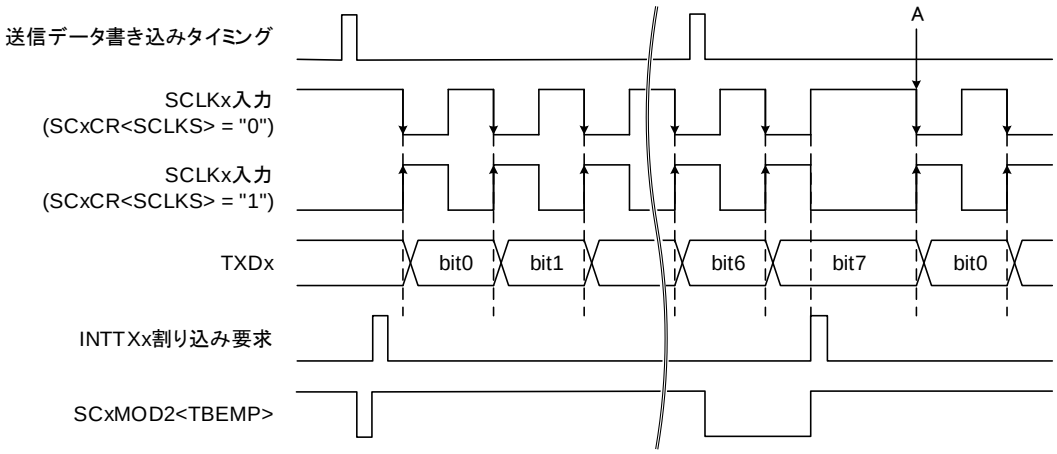
図 10.15　SIOモード送信動作(転送クロックにSCLKx端子出力を使用しているとき)

(2) 転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているとき

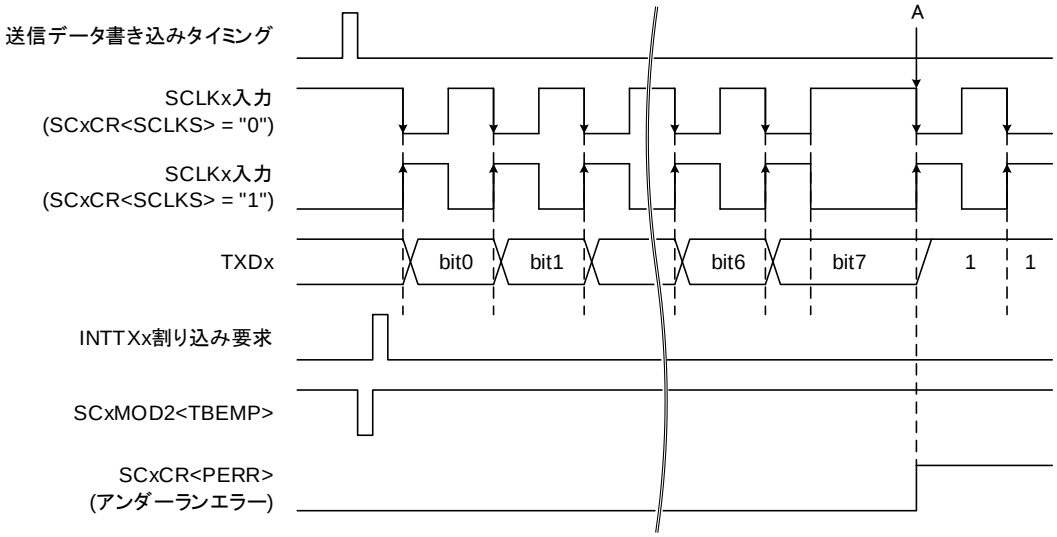
- ダブルバッファー禁止(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合
  送信バッファーにデータが書き込まれている状態で SCLKx 端子に転送クロックが入力されると、データが TXDx 端子より出力されます。データが送信されると INTTXx が発生します。次のデータは図 10.16 に示す A 点までに書き込んでください。
- ダブルバッファー許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合
  送信停止状態で送信バッファーにデータを書き込んだとき、または送信シフトレジスターのデータ送信が終了したときに送信バッファーから送信シフトレジスターへデータが転送されます。このとき、SCxMOD2<TBEMP>が"1"になり、INTTXx が発生します。次のデータは図 10.16 に示す A 点までに書き込んでください。
  送信シフトレジスターのデータ送信が終了したときに、送信バッファーに次のデータが書き込まれていなく転送クロックが SCLKx 端子に入力された場合、送信動作は継続されますが、アンダーランエラーが発生します。この時、SCxCR<PERR>が"1"になり、TXDx 端子から 8 ビット分のダミーデータ"0xFF"を出力します。



SCxMOD2<WBUF> = "0" (ダブルバッファ―禁止)



SCxMOD2<WBUF> = "1" (ダブルバッファ―許可でデータがバッファーに存在)



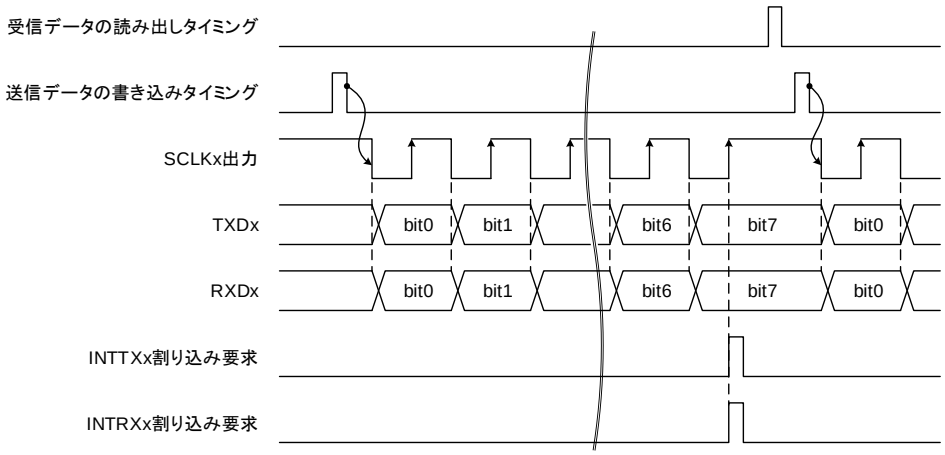
SCxMOD2<WBUF> = "1" (ダブルバッファ―許可でデータがバッファーに存在しない)

図 10.16　SIOモード送信動作(転送クロックにSCLKx端子入力を使用しているとき)

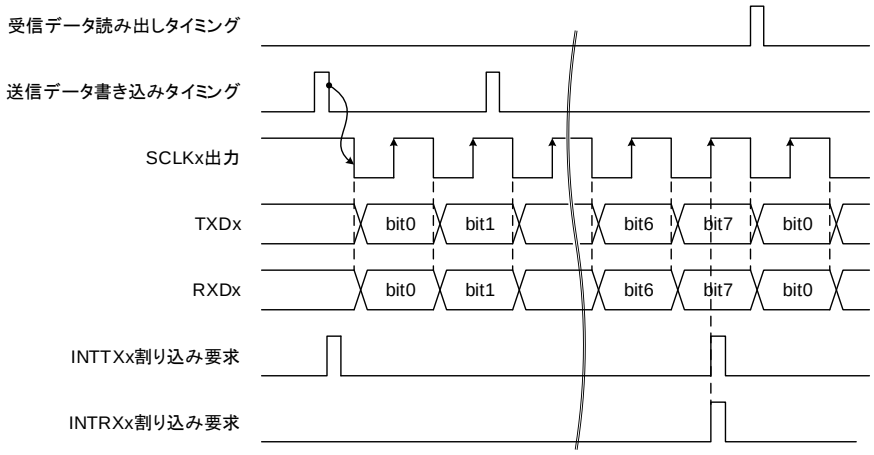
10.15.1.3. 送受信(全二重)

(1) 転送クロックに SCLKx 端子出力を使用しているとき

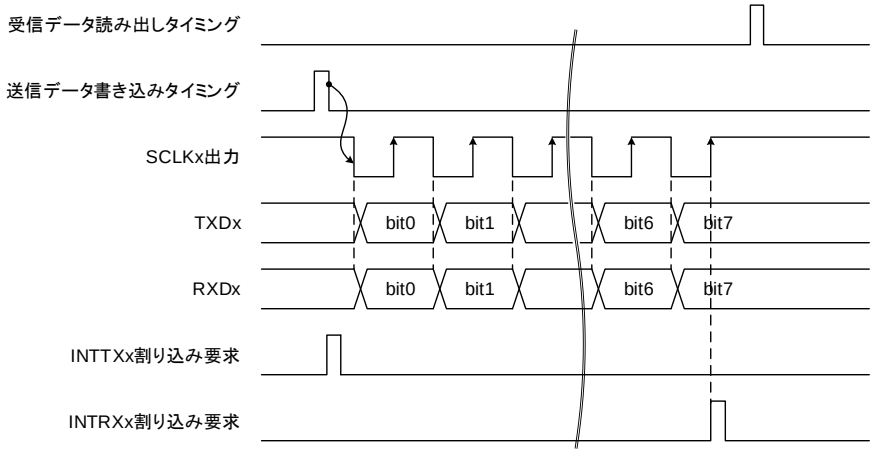
- ダブルバッファー禁止(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合
  送信バッファーにデータを書き込むと SCLKx 端子出力を開始します。
  RXDx 端子を通して、受信データが受信シフトレジスターに格納され、INTRXx が発生します。また、送信バッファーに書き込んだデータが、TXDx 端子より出力され、データ送信が終了すると INTTXx が発生します。この時、SCLKx 端子出力は停止します。
  受信バッファーの読み出しと次のデータが送信バッファーへ書き込まれると SCLKx 端子出力が再開され、次のデータの送信、受信が行われます。
  受信バッファーの読み出しと送信バッファーの書き込み順番は任意です。両方の条件が成立した場合に SCLKx 端子出力は再開されます。
- ダブルバッファー許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合
  送信バッファーにデータを書き込むと SCLKx 出力を開始します。
  RXDx 端子を通して、受信データが受信シフトレジスターに格納され、INTRXx が発生します。
  また、送信バッファーに書き込んだデータが TXDx 端子より出力され、データ送信が終了したとき送信バッファーに次のデータ書き込まれていると INTTXx が発生します。この場合、SCLKx 端子出力は継続し、次のデータの送信、受信が行われます。
  送信バッファーに次のデータが書き込まれていないと INTTXx が発生しません。また、SCLKx 端子出力は停止します。
  受信データの読み出しと送信データの書き込みの両方の条件が成立すると、SCLKx 端子出力は再開されます。



SCxMOD2<WBUF> = "0" (ダブルバッファ―禁止)



SCxMOD2<WBUF> = "0" (ダブルバッファ―許可)

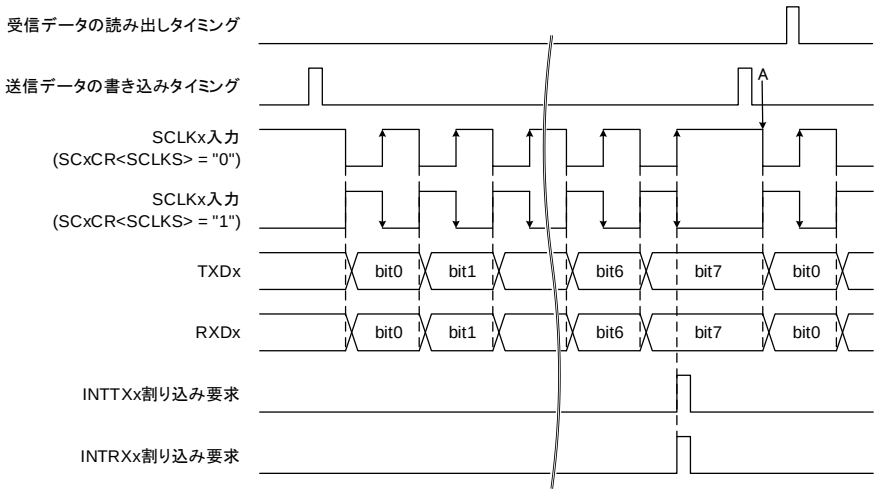


SCxMOD2<WBUF> = "0" (ダブルバッファ―許可)

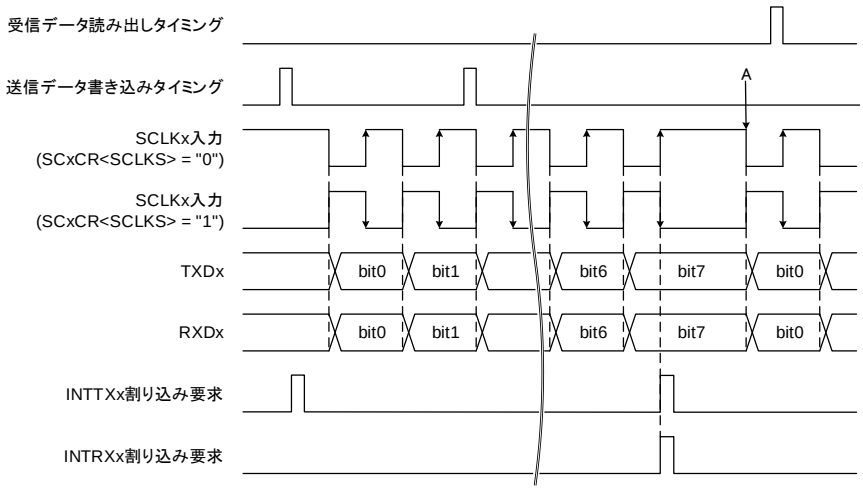
図 10.17　SIOモード送受信動作(転送クロックにSCLKx端子出力を使用しているとき)

(2) 転送クロックに SCLKx 端子入力を使用しているとき

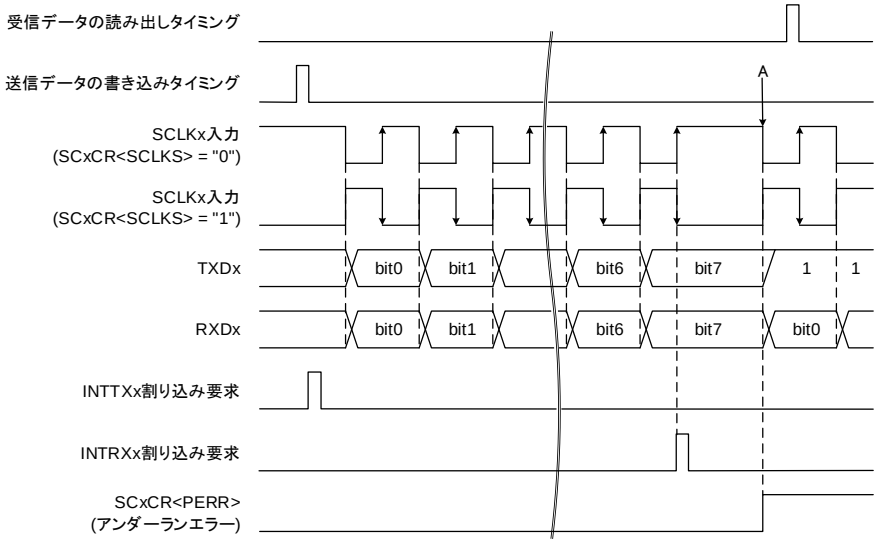
- ダブルバッファー禁止(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合
  受信は SCxMOD2<WBUF>の設定に関わらずダブルバッファー許可になります。
  送信バッファーにデータが書き込まれている状態で転送クロックが SCLKx 端子に入力されると、送信データが TXDx 端子より出力されます。また、RXDx 端子を通して、受信データが受信シフトレジスターに格納されます。
  データ出力が終了すると INTTXx が発生します。また、受信が終了すると受信シフトレジスターから受信バッファーへデータが格納され、INTRXx が発生します。
  次のデータは図 10.18 に示す A 点までに書き込んでください。受信データは、次のデータ受信が終了する前に読み出してください。
- ダブルバッファー許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合
  送信バッファーにデータが書き込まれている状態で転送クロックが SCLKx 端子に入力されると、データが送信バッファーから送信シフトレジスターに転送され、INTTXx が発生します。SCLKx 端子に入力されている転送クロックに同期して、送信データが TXDx 端子より出力されます。また、RXDx 端子を通して、受信データが受信シフトレジスターに格納されます。
  送信シフトレジスターのデータの送信が終了すると、INTTXx が発生します。また、受信が終了すると受信シフトレジスターから受信バッファーへデータが転送され、INTRXx が発生します。
  次の送信データは図 10.18 に示す A 点までに書き込んでください。受信データは、次のデータの受信が終了する前に読み出してください。
  続けて次のデータの転送クロックが SCLKx 端子に入力されると、送信バッファーのデータが送信シフトレジスターへ転送され、INTTXx が発生します。また、RXDx 端子を通して、受信データが受信シフトレジスターに格納されます。
  このデータの最終ビットの受信までに受信バッファーのデータが読み出されていない場合はオーバーランエラーが発生します。また、図 10.18 に示す A 点までに次の送信データが送信バッファーに書き込まれていない場合はアンダーランエラーが発生します。



SCxMOD2<WBUF> = "0" (ダブルバッファ―禁止)



SCxMOD2<WBUF> = "1" (ダブルバッファ―許可(エラーなし))



SCxMOD2<WBUF> = "1" (ダブルバッファ―許可(エラーあり))

図 10.18　SIOモード送受信動作(転送クロックにSCLKx端子入力を使用しているとき)

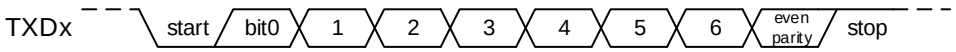
10.15.2. モード 1(7 ビット UART モード)

SCxMOD0<SM[1:0]>に"01"を設定すると、UART はモード 1 で動作します。

このモードでは、パリティービットの付加が可能です。SCxCR<PE>でパリティービット付加の許可/禁止を制御します。SCxCR<EVEN>でパリティービットの Odd、Even を設定します。

また、送信の場合のみ、SCxMOD2<SBLEN>で STOP ビット長を選択します。受信の場合は STOP ビット長は 1 ビットのみです。

下記のフォーマットのデータを送信する場合の設定例を示します。



転送速度 2400bps @ fc = 9.8304MHz

クロック条件
- f_{SYS}: fc
- fgear: fc
- ΦT0: fperiph / 32 (fperiph = f_{SYS})

図 10.19 モード1(7ビットUARTモード)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SCxMOD0	←	×	0	0	0	0	1	0	1	7ビットUARTモードに設定
SCxCR	←	×	1	1	×	×	×	0	0	パリティービット付加許可、evenに設定
SCxBRCR	←	0	0	1	0	0	1	0	0	2400bpsに設定(ΦT16、N = 4)
SCxBUF	←	*	*	*	*	*	*	*	*	送信データを設定

注) ×: Don't care、*: 任意の値を設定可能

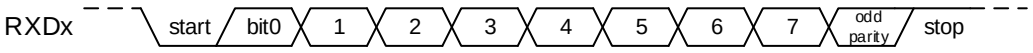
10.15.3. モード 2(8 ビット UART モード)

SCxMOD0<SM[1:0]>を"10"に設定すると、UART はモード 2 で動作します。

このモードでは、パリティービットの付加が可能です。SCxCR<PE>でパリティービット付加の許可/禁止を制御します。SCxCR<EVEN>でパリティービットの Odd、Even を設定します。

また、送信の場合のみ、SCxMOD2<SBLEN>で STOP ビット長を選択します。受信の場合は STOP ビット長は 1 ビットのみです。

下記のフォーマットのデータを受信する場合の設定例を示します。



転送速度 9600bps @ fc = 9.8304MHz

クロック条件
- f_{SYS}: fc
- fgear: fc
- ΦT0: fperiph / 32 (fperiph = f_{SYS})

図 10.20 モード2(8ビットUARTモード)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SCxMOD0	←	×	0	0	0	1	0	0	1	8ビットUARTモードに設定
SCxCR	←	×	1	1	×	×	×	0	0	パリティービット許可付加、Oddに設定
SCxBRCR	←	0	0	0	1	0	1	0	0	9600bpsに設定(ΦT4、N = 4)
SCxMOD0	←	×	-	1	-	-	-	-	-	受信許可

注) ×: Don't care、-: 変更できません

10.15.4. モード 3(9 ビット UART モード)

SCxMOD0<SM[1:0]>)に"11"を設定すると、UART はモード 3 で動作します。

このモードでは、パリティービットの付加はできません、SCxCR<PE>に"0"を設定してください。

データの MSB を、送信の場合 SCxMOD0<TB8>に書き込み、受信の場合 SCxCR<RB8>から読み出します。送信データの書き込み、受信データの読み出しは、データの MSB を最初に行います。

また、送信の場合のみ、SCxMOD2<SBLEN>で STOP ビット長を選択します。受信の場合は STOP ビット長は 1 ビットのみです。

モード 3 では、スレーブコントローラーのウエイクアップ機能が使用できます。

10.15.4.1. ウエイクアップ機能

(1) ウエイクアップ機能によるシリアルリンク

モード 3 ではスレーブコントローラーのウエイクアップ機能を使うことができます。ウエイクアップ機能を許可するには、SCxMOD0<WU>を"1"に設定します。

ウエイクアップ機能が許可されているとき、SCxCR<RB8>が"1"のときのみ INTRXx が発生します。

注) スレーブコントローラーの TXDx 端子は、必ず PxOD レジスターを設定してオープンドレイン出力モードにしてください。

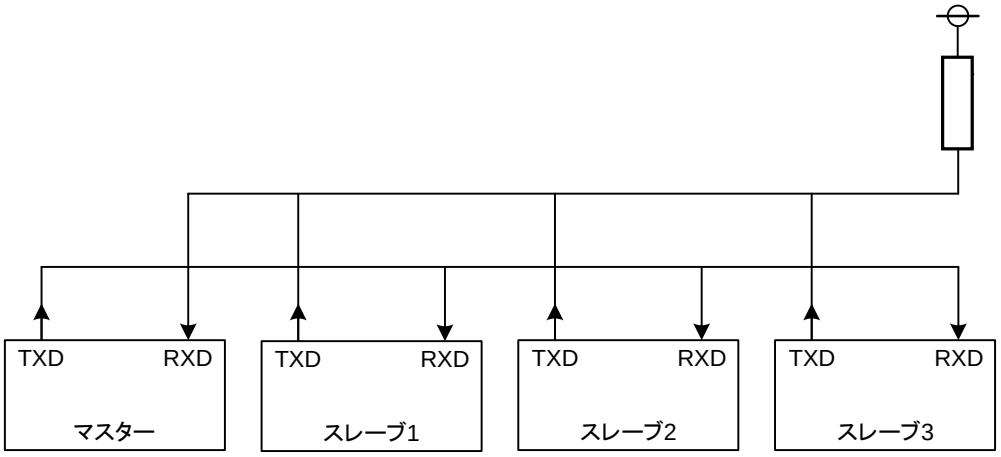


図 10.21　ウエイクアップ機能によるシリアルリンク

(2) プロトコル

(a) マスターおよびスレーブコントローラーはモード 3 にします。

(b) 各スレーブコントローラーの SCxMOD0<WU>を"1"に設定します。
SCxMOD0<RXE>を"1"にセットし受信可能状態とします。

マスターコントローラーは、スレーブコントローラーのセレクトコード(8 ビット)を含む 1 フレームを送信します。
このときマスターコントローラーの SCxMOD0<TB8>に"1"を設定します。

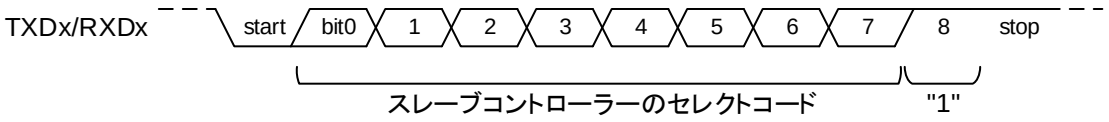


図 10.22 ウエイクアップ機能のときの1stフレームフォーマット

(c) 各スレーブコントローラーは、上記フレームを受信し、自分のセレクトコードと一致すれば、SCxMOD0<WU>に"0"を設定します。

(d) マスターコントローラーは指定したスレーブコントローラー(SCxMOD0<WU>に"0"を設定したコントローラー)に対しデータを送信します。
このときマスターコントローラーの SCxMOD0<TB8>に"0"を設定します。

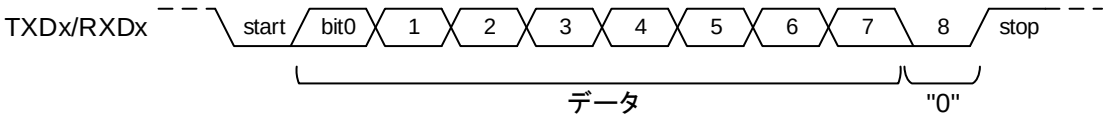


図 10.23 ウエイクアップ機能のときの2ndフレームフォーマット

(e) 自分のセレクトコードと一致しなかったスレーブコントローラーは、SCxMOD0<WU>が"1"のままで受信データの MSB が"0"であるため、INTRXx が発生しません。
自分のセレクトコードと一致したスレーブコントローラーは、SCxMOD0<WU>に"0"を設定しているため、INTRXx が発生します。スレーブコントローラーは INTRXx の割り込みサービスルーチンで、マスターコントローラーにデータを送信し、この送信データで受信終了をマスターコントローラーに通知することもできます。

11. 12 ビットアナログ/デジタルコンバーター(ADC)

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG には、2 つの 12 ビット逐次変換方式アナログ/デジタルコンバーター(ADC)を内蔵しています。モーター制御用ベクトルエンジン、および PMD 回路と連携してモーターのベクトル制御を支援します。

AD コンバーターユニット A は 15 本のアナログ入力を持っています。6 本はモーター0 の測定用に使用可能です。この 6 本のうち 3 本はマイコン内部でオペアンプ/コンパレーターの出力に接続されています。外部から入力可能なアナログ入力は 12 本です。

AD コンバーターユニット B は 17 本のアナログ入力を持っています。6 本はモーター0 の測定用、および 2 本はモーター1 の測定用に使用可能です。この 8 本のうち 4 本はマイコン内部でオペアンプ/コンパレーターの出力に接続されています。外部から入力可能なアナログ入力は 13 本です。

22 本のアナログ入力端子(AINA0 ~ AINA8、AINA9/AINB0、AINA10/AINB1、AINA11/AINB2、AINB3 ~ AINB12)は、入出力ポートと兼用です。

11.1. 機能と特徴

(1) PMD やタイマーからのトリガー信号に同期して任意のアナログ入力を変換することができます。

(2) ソフトウェア起動、常時起動に任意のアナログ入力を変換することができます。

(3) AD 変換値レジスターが 12 個あります。

(4) トリガー起動したプログラムの終了時に割り込みを発生できます。

(5) ソフトウェア起動、常時起動したプログラムの終了時に割り込みを発生できます。

(6) AD 監視機能があります。有効時に比較条件と一致した場合は割り込みを発生します。

11.2. ブロック図

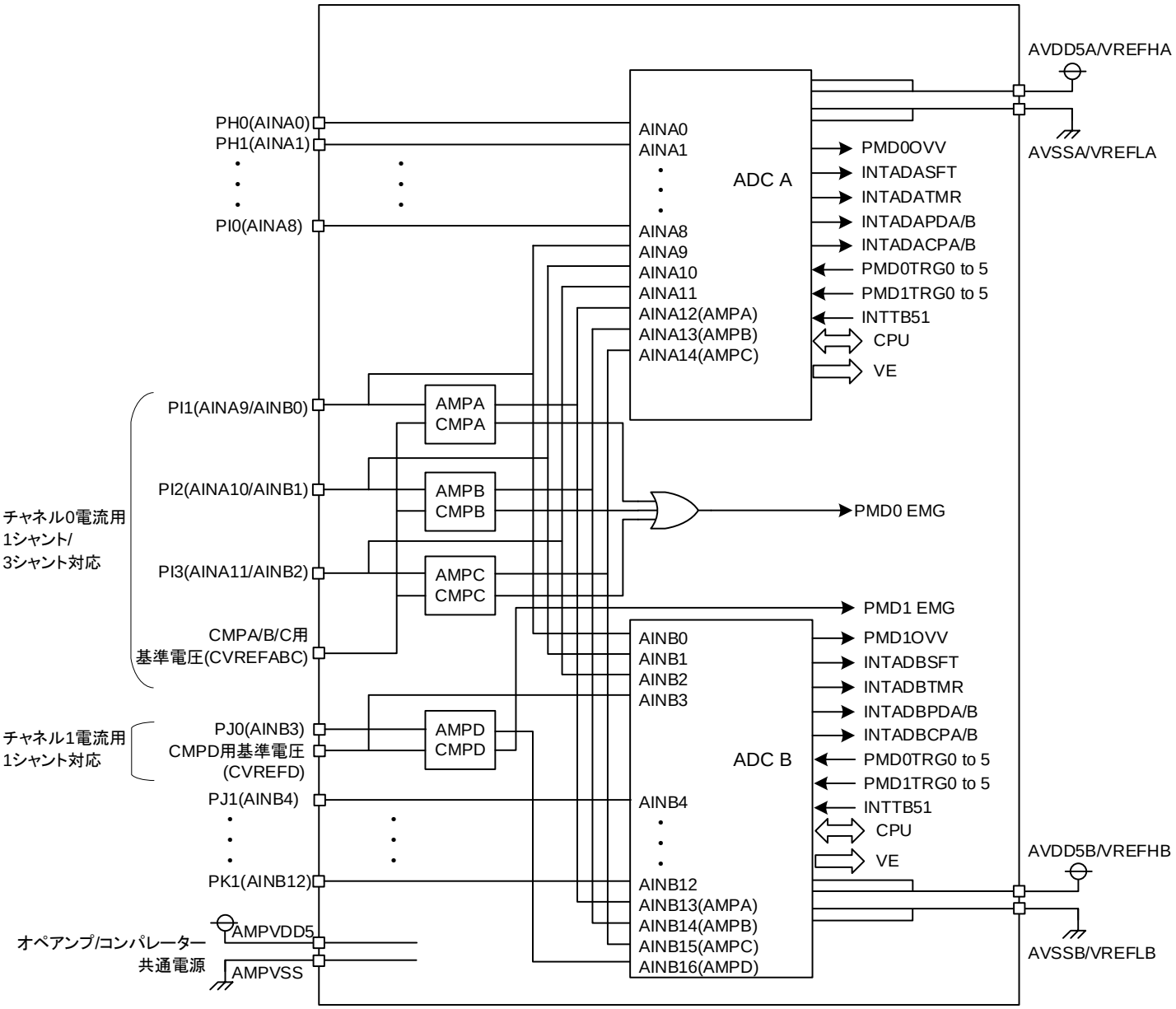


図 11.1 ADコンバーターブロック図

11.3. レジスター一覧

レジスター名		Address (Base+)
クロック設定レジスター	ADxCLK	0x0000
モード設定レジスター0	ADxMOD0	0x0004
モード設定レジスター1	ADxMOD1	0x0008
モード設定レジスター2	ADxMOD2	0x000C
監視割り込み設定レジスター0	ADxCMPCR0	0x0010
監視割り込み設定レジスター1	ADxCMPCR1	0x0014
変換結果比較レジスター0	ADxCMP0	0x0018
変換結果比較レジスター1	ADxCMP1	0x001C
変換結果格納レジスター0	ADxREG0	0x0020
変換結果格納レジスター1	ADxREG1	0x0024
変換結果格納レジスター2	ADxREG2	0x0028
変換結果格納レジスター3	ADxREG3	0x002C
変換結果格納レジスター4	ADxREG4	0x0030
変換結果格納レジスター5	ADxREG5	0x0034
変換結果格納レジスター6	ADxREG6	0x0038
変換結果格納レジスター7	ADxREG7	0x003C
変換結果格納レジスター8	ADxREG8	0x0040
変換結果格納レジスター9	ADxREG9	0x0044
変換結果格納レジスター10	ADxREG10	0x0048
変換結果格納レジスター11	ADxREG11	0x004C
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター0	ADxPSEL0	0x0050
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター1	ADxPSEL1	0x0054
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター2	ADxPSEL2	0x0058
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター3	ADxPSEL3	0x005C
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター4	ADxPSEL4	0x0060
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター5	ADxPSEL5	0x0064
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター6	ADxPSEL6	0x0068
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター7	ADxPSEL7	0x006C
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター8	ADxPSEL8	0x0070
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター9	ADxPSEL9	0x0074
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター10	ADxPSEL10	0x0078
PMDトリガー用プログラム番号選択レジスター11	ADxPSEL11	0x007C
PMDトリガー用割り込み選択レジスター0	ADxPINTS0	0x0080
PMDトリガー用割り込み選択レジスター1	ADxPINTS1	0x0084

レジスター名		Address (Base+)
PMDトリガー用割り込み選択レジスター2	ADxPINTS2	0x0088
PMDトリガー用割り込み選択レジスター3	ADxPINTS3	0x008C
PMDトリガー用割り込み選択レジスター4	ADxPINTS4	0x0090
PMDトリガー用割り込み選択レジスター5	ADxPINTS5	0x0094
PMDトリガー用プログラム選択レジスター0	ADxPSET0	0x0098
PMDトリガー用プログラム選択レジスター1	ADxPSET1	0x009C
PMDトリガー用プログラム選択レジスター2	ADxPSET2	0x00A0
PMDトリガー用プログラム選択レジスター3	ADxPSET3	0x00A4
PMDトリガー用プログラム選択レジスター4	ADxPSET4	0x00A8
PMDトリガー用プログラム選択レジスター5	ADxPSET5	0x00AC
タイマートリガー用プログラムレジスター0～3	ADxTSET03	0x00B0
タイマートリガー用プログラムレジスター4～7	ADxTSET47	0x00B4
タイマートリガー用プログラムレジスター8～11	ADxTSET811	0x00B8
ソフトウェアトリガー用プログラムレジスター0～3	ADxSSET03	0x00BC
ソフトウェアトリガー用プログラムレジスター4～7	ADxSSET47	0x00C0
ソフトウェアトリガー用プログラムレジスター8～11	ADxSSET811	0x00C4
常時変換用プログラムレジスター0～3	ADxASET03	0x00B8
常時変換用プログラムレジスター4～7	ADxASET47	0x00BC
常時変換用プログラムレジスター8～11	ADxASET811	0x00D0
モード設定レジスター3	ADxMOD3	0x00D4

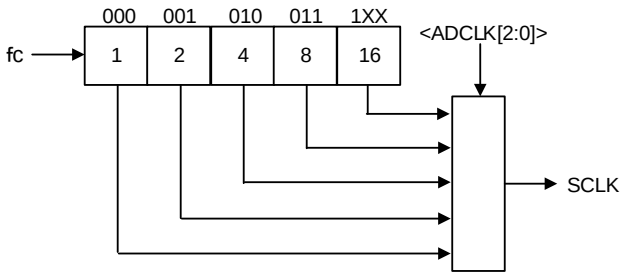
11.4. レジスター詳細

AD 変換は AD コンバータークロック設定レジスターによって選択されたクロックで実行されます。

11.4.1. ADxCLK(変換クロック設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	TSH				ADCLK		
リセット後	0	1	0	1	1	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:7	-	R	リードすると"0"が読めます。
6:3	TSH[3:0]	R/W	"1001"をライトしてください。
2:0	ADCLK[2:0]	R/W	AD 変換クロック(SCLK)選択 000: fc(注1) 001: fc/2 010: fc/4 011: fc/8 1xx: fc/16



注 1) SCLK は最大 40MHz です。したがって、fc が 40MHz を超える場合は<ADCLK[2:0]> = "000"を選択しないでください。

注 2) AD 変換は上記レジスターで選択されたクロックで実行されますが、保証精度を満足するように変換クロックを選択する必要があります。

注 3) AD 変換中に、AD 変換クロック設定を変更しないでください。

11.4.2. ADxMOD0(モード設定レジスター0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	DACON	ADSS
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	DACON	R/W	DAC制御 0: OFF 1: ON ADコンバーターを使用するときには必ず<DACON>を"1"にセットしてください。
0	ADSS	W	ソフトウェア変換スタート 0: Don't care 1: 変換開始 ADxMOD1<ADEN>を"1"にセットして変換を許可し、<ADSS>を"1"にセットするとAD変換を開始します。また、PMDトリガー，タイマー割り込み入力でもAD変換を開始します。PMDトリガーのタイミング設定，タイマー割り込みの設定はPMDとTMRBの章を参照してください。

11.4.3. ADxMOD1(モード設定レジスター1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	ADEN	-	-	-	-	-	-	ADAS
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	ADEN	R/W	AD変換許可/禁止 0: 禁止 1: 許可 <ADEN>を"1"に設定することでADを変換許可します。<ADEN>が"1"のとき、<ADAS>を"1"に設定することでAD変換を開始します。
6:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	ADAS	W	常時AD変換許可/禁止 0: 禁止 1: 許可

11.4.4. ADxMOD2(モード設定レジスター2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	ADSFN	ADBFN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	ADSFN	R	ソフトウェア変換フラグ 0: ソフトウェア変換終了 1: ソフトウェア変換中
0	ADBFN	R	AD変換ビジーフラグ 0: 変換停止 1: 変換中 <ADBFN>はAD変換ビジーフラグで、ソフトウェア変換が開始されると、"1"にセットされ、変換が終了すると"0"にクリアされます。

11.4.5. ADxCMPCR0(監視割り込み設定レジスター0)

判定が確定すると割り込み(INTADxCPn)を発生します。(n = A、B、A: 監視 0、B: 監視 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	CMPCNT0			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	CMP0EN	-	-	ADBIG0	REGS0			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:12	-	R	リードすると"0"が読めます。
11:8	CMPCNT0[3:0]	R/W	判定確定するまでの比較回数を設定 0: 毎回有効 1: 2回以上有効 ・ ・ 15: 16回以上有効
7	CMP0EN	R/W	AD監視機能禁止/許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4	ADBIG0	R/W	大小判定設定 0: 比較レジスターより大 1: 比較レジスターより小
3:0	REGS0[3:0]	R/W	比較するAD変換結果格納レジスター 0000: ADxREG0　0100: ADxREG4　1000: ADxREG8 0001: ADxREG1　0101: ADxREG5　1001: ADxREG9 0010: ADxREG2　0110: ADxREG6　1010: ADxREG10 0011: ADxREG3　0111: ADxREG7　1011: ADxREG11

11.4.6. ADxCMPCR1(監視割り込み設定レジスター1)

判定が確定すると割り込み(INTADxCPn)を発生します。(n = A、B、A: 監視 0、B: 監視 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	CMPCNT1			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	CMP1EN	-	-	ADBIG1	REGS1			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:12	-	R	リードすると"0"が読めます。
11:8	CMPCNT1[3:0]	R/W	判定確定するまでの比較回数を設定 0: 毎回有効 1: 2回以上有効 ・ ・ 15: 16回以上有効
7	CMP1EN	R/W	AD監視機能禁止/許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4	ADBIG1	R/W	大小判定設定 0: 比較レジスターより大 1: 比較レジスターより小
3:0	REGS1[3:0]	R/W	比較するAD変換結果格納レジスター 0000: ADxREG0　0100: ADxREG4　1000: ADxREG8 0001: ADxREG1　0101: ADxREG5　1001: ADxREG9 0010: ADxREG2　0110: ADxREG6　1010: ADxREG10 0011: ADxREG3　0111: ADxREG7　1011: ADxREG11

11.4.7. ADxCMP0(変換結果比較レジスター0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	AD0CMP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	AD0CMP0				-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	AD0CMP0[11:0]	R/W	AD変換結果比較値格納 AD変換結果と比較する値を設定します。
3:0	-	R	リードすると"0"が読めます。

11.4.8. ADxCMP1(変換結果比較レジスター1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	AD0CMP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	AD0CMP1				-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	AD0CMP1[11:0]	R/W	AD変換結果比較値格納 AD変換結果と比較する値を設定します。
3:0	-	R	リードすると"0"が読めます。

11.4.9. ADxREG0(変換結果格納レジスター0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR0				-	-	OVR0	ADR0RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR0[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR0	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG0レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG0レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR0RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG0レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.10. ADxREG1(変換結果格納レジスター1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR1				-	-	OVR1	ADR1RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR1[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR1	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG1レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG1レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR1RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG1レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.11. ADxREG2(変換結果格納レジスター2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR2							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR2				-	-	OVR2	ADR2RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR2[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR2	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG2ジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG2レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR2RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG2レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.12. ADxREG3(変換結果格納レジスター3)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR3							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR3				-	-	OVR3	ADR3RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR3[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR3	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG3レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG3レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR3RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG3レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.13. ADxREG4(変換結果格納レジスター4)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR4							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR4				-	-	OVR4	ADR4RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR4[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR4	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG4レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG4レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR4RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG4レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.14. ADxREG5(変換結果格納レジスター5)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR5							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR5				-	-	OVR5	ADR5RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR5[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR5	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG5レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG5レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR5RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG5レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.15. ADxREG6(変換結果格納レジスター6)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR6							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR6				-	-	OVR6	ADR6RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR6[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR6	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG6レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG6レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR6RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG6レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.16. ADxREG7(変換結果格納レジスター7)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR7							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR7				-	-	OVR7	ADR7RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR7[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR7	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG7レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG7レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR7RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG7レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.17. ADxREG8(変換結果格納レジスター8)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR8							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR8				-	-	OVR8	ADR8RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR8[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR8	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG8レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG8レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR8RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG8レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.18. ADxREG9(変換結果格納レジスター9)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR9							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR9				-	-	OVR9	ADR9RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR9[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR9	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG9レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG9レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR9RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG9レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.19. ADxREG10(変換結果格納レジスター10)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR10							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR10				-	-	OVR10	ADR10RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR10[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR10	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG10レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG10レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR10RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG10レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.20. ADxREG11(変換結果格納レジスター11)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR11							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR11				-	-	OVR11	ADR11RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:4	ADR11[11:0]	R	AD変換結果値格納
3:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVR11	R	Over Runフラグ 0: 発生なし 1: 発生あり ADxREG11レジスターを読み出す前にAD変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグはADxREG11レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR11RF	R	AD変換結果格納フラグ 0: 変換結果なし 1: 変換結果あり AD変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグはADxREG11レジスターの下位8ビットをリードすると"0"にクリアされます。

11.4.21. PMD トリガー用プログラムレジスター

AD コンバーターは PMD が発生するトリガー信号によって AD 変換を開始することができます。

PMD トリガー用プログラムレジスターは PMD が発生する 12 種類のトリガーによって起動するプログラム番号の設定、プログラム終了時に発生する割り込みの制御、AD 変換の AIN の選択を行います。

PMD トリガー用プログラムレジスターは 3 種類のレジスターから構成されます。

- PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター(ADxPSEL0～ADxPSEL11)
  PMD からの 12 本のトリガー信号(PMD0TRG0～5、PMD1TRG0～5)に対して、それぞれ起動するプログラム番号(0～5)を選択します。
  ADxPSEL0～ADxPSEL5 が PMD0TRG0～PMD0TRG5 に、ADxPSEL6～ADxPSEL11 が PMD1TRG0～PMD1TRG5 に対応しています。
- PMD トリガー用割り込み選択レジスター(ADxPINTS0～ADxPINTS5)
  それぞれのプログラム番号ごとにプログラム終了時に発生させる割り込みの有無や種類(INTADxPDA、INTADxPDB)を選択します。
  ADxPINTS0～ADxPINTS5 がプログラム 0～5 に対応しています。
- PMD トリガー用プログラム選択レジスター(ADxPSET0～ADxPSET5)
  プログラム番号(0～5)に対して、AD 変換する AIN 番号とベクトルエンジンへの通知用に U/V/W の相を設定します。プログラム番号 1 つに PMD トリガー用プログラム選択レジスターが 1 つ割り当てられます。1 つの PMD トリガー用プログラム選択レジスターには、AD 変換する AIN 番号とベクトルエンジンへの通知用に U/V/W の相を設定するためのレジスターを 4 組持ちます。それぞれの組の AD 変換結果は、変換結果格納レジスター0～3(ADxREG0～3)に格納されます。

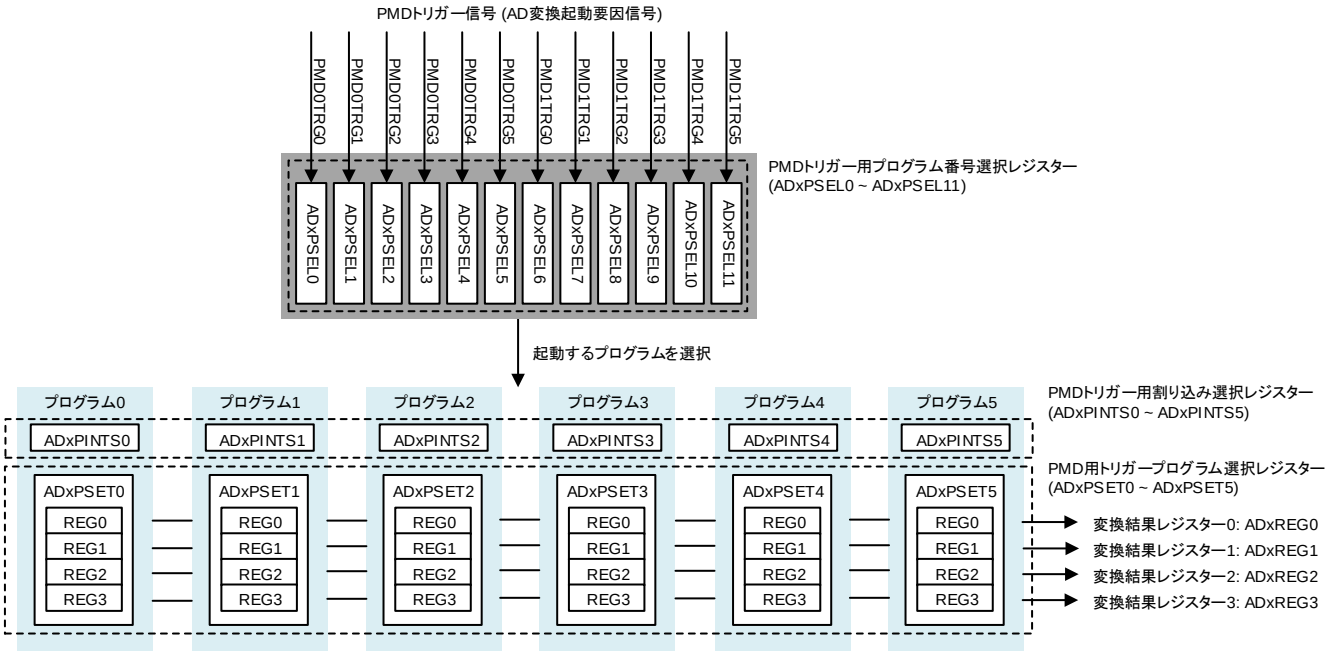


図 11.2 PMDトリガー用プログラムレジスター

11.4.21.1. ADxPSEL0 ~ ADxPSEL11(PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター0 ~ 11)

ADxPSEL0: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター0

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	PENS0	-	-	-	-	PMDS0		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS0	R/W	PMD0TRG0トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS0[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL1: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS1	-	-	-	-	PMDS1		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS1	R/W	PMD0TRG1トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS1[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL2: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター2

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS2	-	-	-	-	PMDS2		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS2	R/W	PMD0TRG2トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS2[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL3: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター3

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS3	-	-	-	-	PMDS3		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS3	R/W	PMD0TRG3トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS3[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL4: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター4

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS4	-	-	-	-	PMDS4		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS4	R/W	PMD0TRG4トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS4[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL5: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター5

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS5	-	-	-	-	PMDS5		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS5	R/W	PMD0TRG5トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS5[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL6: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター6

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS6	-	-	-	-	PMDS6		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS6	R/W	PMD1TRG0トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS6[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL7: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター7

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS7	-	-	-	-	PMDS7		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS7	R/W	PMD1TRG1トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS7[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL8: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター8

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS8	-	-	-	-	PMDS8		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS8	R/W	PMD1TRG2トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS8[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL9: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター9

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS9	-	-	-	-	PMDS9		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS9	R/W	PMD1TRG3トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS9[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL10: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター10

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS10	-	-	-	-	PMDS10		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS10	R/W	PMD1TRG4トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS10[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

ADxPSEL11: PMD トリガー用プログラム番号選択レジスター11

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	PENS11	-	-	-	-	PMDS11		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS11	R/W	PMD1TRG5トリガー制御 0: 禁止 1: 許可
6:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	PMDS11[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 11.1参照)

表 11.1 プログラム番号選択

<PMDS0[2:0]> ~ <PMDS11[2:0]>	プログラム番号
000	プログラム 0
001	プログラム 1
010	プログラム 2
011	プログラム 3
100	プログラム 4
101	プログラム 5
110	Reserved
111	Reserved

11.4.21.2. ADxPINTS0 ~ 5(PMD トリガー用割り込み選択レジスター0 ~ 5)

ADxPINTS0: PMD 用割り込み選択レジスター0

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL0	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	INTSEL0[1:0]	R/W	割り込み選択 00: 割り込み出力なし 01: INTADxPDA 10: INTADxPDB 11: 割り込み出力なし プログラム0に対して、起動する割り込みを選択します。

ADxPINTS1: PMD 用割り込み選択レジスター1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL1	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	INTSEL1[1:0]	R/W	割り込み選択 00: 割り込み出力なし 01: INTADxPDA 10: INTADxPDB 11: 割り込み出力なし プログラム1に対して、起動する割り込みを選択します。

ADxPINTS2: PMD 用割り込み選択レジスター2

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL2	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	INTSEL2[1:0]	R/W	割り込み選択 00: 割り込み出力なし 01: INTADxPDA 10: INTADxPDB 11: 割り込み出力なし プログラム2に対して、起動する割り込みを選択します。

ADxPINTS3: PMD 用割り込み選択レジスター3

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL3	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	INTSEL3[1:0]	R/W	割り込み選択 00: 割り込み出力なし 01: INTADxPDA 10: INTADxPDB 11: 割り込み出力なし プログラム3に対して、起動する割り込みを選択します。

ADxPINTS4: PMD 用割り込み選択レジスター4

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL4	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	INTSEL4[1:0]	R/W	割り込み選択 00: 割り込み出力なし 01: INTADxPDA 10: INTADxPDB 11: 割り込み出力なし プログラム4に対して、起動する割り込みを選択します。

ADxPINTS5: PMD 用割り込み選択レジスター5

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL5	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	INTSEL5[1:0]	R/W	割り込み選択 00: 割り込み出力なし 01: INTADxPDA 10: INTADxPDB 11: 割り込み出力なし プログラム5に対して、起動する割り込みを選択します。

11.4.21.3. ADxPSET0 ~ 5(PMD トリガー用プログラム選択レジスター0 ~ 5)

各 ADxPSETn（n = 0 ~ 5: プログラム番号）は、AD 変換入力端子の選択をする<AINSPnm[4:0]>とベクトルエンジンへの通知用の相を選択をする<UVWISnm[1:0]>およびADxREGm を許可する<ENSPnm>を 1 組とした 4 つのセットで構成されます(m = 0 ~ 3)。

ADxPSETn \ ADxREGm	m = 0	m = 1	m = 2	m = 3
n = 0	<ENSP00> <UVWIS00[1:0]> <AINSP00[4:0]>	<ENSP01> <UVWIS01[1:0]> <AINSP01[4:0]>	<ENSP02> <UVWIS02[1:0]> <AINSP02[4:0]>	<ENSP03> <UVWIS03[1:0]> <AINSP03[4:0]>
n = 1	<ENSP10> <UVWIS10[1:0]> <AINSP10[4:0]>	<ENSP11> <UVWIS11[1:0]> <AINSP11[4:0]>	<ENSP12> <UVWIS12[1:0]> <AINSP12[4:0]>	<ENSP13> <UVWIS13[1:0]> <AINSP13[4:0]>
n = 2	<ENSP20> <UVWIS20[1:0]> <AINSP20[4:0]>	<ENSP21> <UVWIS21[1:0]> <AINSP21[4:0]>	<ENSP22> <UVWIS22[1:0]> <AINSP22[4:0]>	<ENSP23> <UVWIS23[1:0]> <AINSP23[4:0]>
n = 3	<ENSP30> <UVWIS30[1:0]> <AINSP30[4:0]>	<ENSP31> <UVWIS31[1:0]> <AINSP31[4:0]>	<ENSP32> <UVWIS32[1:0]> <AINSP32[4:0]>	<ENSP33> <UVWIS33[1:0]> <AINSP33[4:0]>
n = 4	<ENSP40> <UVWIS40[1:0]> <AINSP40[4:0]>	<ENSP41> <UVWIS41[1:0]> <AINSP41[4:0]>	<ENSP42> <UVWIS42[1:0]> <AINSP42[4:0]>	<ENSP43> <UVWIS43[1:0]> <AINSP43[4:0]>
n = 5	<ENSP50> <UVWIS50[1:0]> <AINSP50[4:0]>	<ENSP51> <UVWIS51[1:0]> <AINSP51[4:0]>	<ENSP52> <UVWIS52[1:0]> <AINSP52[4:0]>	<ENSP53> <UVWIS53[1:0]> <AINSP53[4:0]>

表 11.2 AD変換入力端子の選択

<AINSP00[4:0]> ~ <AINSP53[4:0]>	ADコンバーター ユニットA	ADコンバーター ユニットB
0_0000	AINA0	AINB0
0_0001	AINA1	AINB1
0_0010	AINA2	AINB2
0_0011	AINA3	AINB3
0_0100	AINA4	AINB4
0_0101	AINA5	AINB5
0_0110	AINA6	AINB6
0_0111	AINA7	AINB7
0_1000	AINA8	AINB8
0_1001	AINA9	AINB9
0_1010	AINA10	AINB10
0_1011	AINA11	AINB11
0_1100	AINA12	AINB12
0_1101	AINA13	AINB13
0_1110	AINA14	AINB14
0_1111	Reserved	AINB15
1_0000	Reserved	AINB16
1_0001 ~ 1_1111	Reserved	Reserved

ADxPSET0: PMD トリガー用プログラム選択レジスター0

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP03	UVWIS03		AINSP03				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP02	UVWIS02		AINSP02				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP01	UVWIS01		AINSP01				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP00	UVWIS00		AINSP00				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP03	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	UVWIS03[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
28:24	AINSP03[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP02	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	UVWIS02[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
20:16	AINSP02[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP01	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	UVWIS01[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
12:8	AINSP01[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP00	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	UVWIS00[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
4:0	AINSP00[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照

相選択

<UVWIS00[1:0]> ~ <UVWIS03[1:0]>	相選択
00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADxPSET1: PMD トリガー用プログラム選択レジスター1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP13	UVWIS13		AINSP13				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP12	UVWIS12		AINSP12				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP11	UVWIS11		AINSP11				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP10	UVWIS10		AINSP10				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP13	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	UVWIS13[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
28:24	AINSP13[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP12	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	UVWIS12[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
20:16	AINSP12[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP11	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	UVWIS11[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
12:8	AINSP11[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP10	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	UVWIS10[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
4:0	AINSP10[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照

相選択

<UVWIS10[1:0]> ~ <UVWIS13[1:0]>	相選択
00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADxPSET2: PMD トリガー用プログラム選択レジスター2

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP23	UVWIS23		AINSP23				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP22	UVWIS22		AINSP22				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP21	UVWIS21		AINSP21				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP20	UVWIS20		AINSP20				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP23	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	UVWIS23[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
28:24	AINSP23[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP22	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	UVWIS22[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
20:16	AINSP22[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP21	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	UVWIS21[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
12:8	AINSP21[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP20	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	UVWIS20[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
4:0	AINSP20[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照

相選択

<UVWIS20[1:0]> ~ <UVWIS23[1:0]>	相選択
00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADxPSET3: PMD トリガー用プログラム選択レジスター3

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP33	UVWIS33		AINSP33				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP32	UVWIS32		AINSP32				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP31	UVWIS31		AINSP31				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP30	UVWIS30		AINSP30				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP33	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	UVWIS33[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
28:24	AINSP33[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP32	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	UVWIS32[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
20:16	AINSP32[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP31	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	UVWIS31[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
12:8	AINSP31[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP30	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	UVWIS30[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
4:0	AINSP30[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照

相選択

<UVWIS30[1:0]> ~ <UVWIS33[1:0]>	相選択
00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADxPSET4: PMD トリガー用プログラム選択レジスター4

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP43	UVWIS43		AINSP43				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP42	UVWIS42		AINSP42				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP41	UVWIS41		AINSP41				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP40	UVWIS40		AINSP40				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP43	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	UVWIS43[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
28:24	AINSP43[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP42	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	UVWIS42[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
20:16	AINSP42[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP41	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	UVWIS41[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
12:8	AINSP41[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP40	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	UVWIS40[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
4:0	AINSP40[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照

相選択

<UVWIS40[1:0]> ~ <UVWIS43[1:0]>	相選択
00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADxPSET5: PMD トリガー用プログラム選択レジスター5

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP53	UVWIS53		AINSP53				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP52	UVWIS52		AINSP52				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP51	UVWIS51		AINSP51				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP50	UVWIS50		AINSP50				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP53	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	UVWIS53[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
28:24	AINSP53[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP52	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	UVWIS52[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
20:16	AINSP52[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP51	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	UVWIS51[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
12:8	AINSP51[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP50	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	UVWIS50[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
4:0	AINSP50[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.2 AD変換入力端子の選択」を参照

相選択

<UVWIS50[1:0]> ~ <UVWIS53[1:0]>	相選択
00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

11.4.22. ADxTSET03/ADxTSET47/ADxTSET811(タイマートリガー用プログラムレジスター)

AD コンバーターは TMRB5 が発生するトリガー信号 INTTB51 によって AD 変換を開始することができます。

タイマートリガー用プログラムレジスターは 12 組の設定レジスターから構成されます。設定レジスターの番号は変換結果レジスター番号(m = 0 ~ 11)にそれぞれ対応しています。

<ENSTm>を"1"にセットすると一組の設定レジスターを許可にします。

<AINSTm[4:0]>は AD 変換する AIN 入力を選択します。

タイマートリガーによる AD 変換が終了すると INTADxTMR を発生します。

表 11.3 AD変換入力端子の選択

<AINST0[4:0]> ~ <AINST11[4:0]>	ADコンバーターユニットA	ADコンバーターユニットB
0_0000	AINA0	AINB0
0_0001	AINA1	AINB1
0_0010	AINA2	AINB2
0_0011	AINA3	AINB3
0_0100	AINA4	AINB4
0_0101	AINA5	AINB5
0_0110	AINA6	AINB6
0_0111	AINA7	AINB7
0_1000	AINA8	AINB8
0_1001	AINA9	AINB9
0_1010	AINA10	AINB10
0_1011	AINA11	AINB11
0_1100	AINA12	AINB12
0_1101	AINA13	AINB13
0_1110	AINA14	AINB14
0_1111	Reserved	AINB15
1_0000	Reserved	AINB16
1_0001 ~ 1_1111	Reserved	Reserved

ADxTSET03: タイマートリガー用プログラムレジスター03

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENST3	-	-	AINST3				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENST2	-	-	AINST2				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENST1	-	-	AINST1				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENST0	-	-	AINST0				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENST3	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINST3[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENST2	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINST2[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENST1	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINST1[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENST0	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINST0[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照

ADxTSET47: タイマートリガー用プログラムレジスター47

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENST7	-	-	AINST7				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENST6	-	-	AINST6				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENST5	-	-	AINST5				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENST4	-	-	AINST4				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENST7	R/W	ADxREG7許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINST7[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENST6	R/W	ADxREG6許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINST6[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENST5	R/W	ADxREG5許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINST5[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENST4	R/W	ADxREG4許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINST4[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照

ADxTSET811: タイマートリガー用プログラムレジスター811

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENST11	-	-	AINST11				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	ENST10	-	-	AINST10				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	ENST9	-	-	AINST9				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	ENST8	-	-	AINST8				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENST11	R/W	ADxREG11許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINST11[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENST10	R/W	ADxREG10許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINST10[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENST9	R/W	ADxREG9許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINST9[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENST8	R/W	ADxREG8許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINST8[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.3 AD変換入力端子の選択」を参照

11.4.23. ADxSSET03/ADxSSET47/ADxSSET811 (ソフトウェアトリガー用プログラムレジスター)

AD コンバーターはソフトウェアによって、AD 変換を開始することができます。

ソフトウェアトリガー用のプログラムレジスターは 12 組の設定レジスターから構成されます。設定レジスターの番号は変換結果レジスター番号(m = 0 ~ 11)にそれぞれ対応しています。

<ENSSm>を"1"にセットすると一組の設定レジスターを許可にします。

<AINSSm[4:0]>は AD 変換する AIN を選択します。

ソフトウェアトリガーによる AD 変換が終了すると INTADxSFT を発生します。

表 11.4 AD変換入力端子の選択

<AINSS0[4:0]> ~ <AINSS11[4:0]>	ADコンバーターユニットA	ADコンバーターユニットB
0_0000	AINA0	AINB0
0_0001	AINA1	AINB1
0_0010	AINA2	AINB2
0_0011	AINA3	AINB3
0_0100	AINA4	AINB4
0_0101	AINA5	AINB5
0_0110	AINA6	AINB6
0_0111	AINA7	AINB7
0_1000	AINA8	AINB8
0_1001	AINA9	AINB9
0_1010	AINA10	AINB10
0_1011	AINA11	AINB11
0_1100	AINA12	AINB12
0_1101	AINA13	AINB13
0_1110	AINA14	AINB14
0_1111	Reserved	AINB15
1_0000	Reserved	AINB16
1_0001 ~ 1_1111	Reserved	Reserved

ADxSSET03: ソフトウェアトリガー用プログラムレジスター03

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSS3	-	-	AINSS3				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	ENSS2	-	-	AINSS2				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	ENSS1	-	-	AINSS1				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	ENSS0	-	-	AINSS0				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSS3	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINSS3[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSS2	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINSS2[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSS1	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINSS1[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSS0	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINSS0[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照

ADxSSET47: ソフトウェアトリガー用プログラムレジスター47

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSS7	-	-	AINSS7				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	ENSS6	-	-	AINSS6				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	ENSS5	-	-	AINSS5				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	ENSS4	-	-	AINSS4				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSS7	R/W	ADxREG7許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINSS7[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSS6	R/W	ADxREG6許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINSS6[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSS5	R/W	ADxREG5許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINSS5[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSS4	R/W	ADxREG4許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINSS4[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照

ADxSSET811: ソフトウェアトリガー用プログラムレジスター811

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSS11	-	-	AINSS11				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	ENSS10	-	-	AINSS10				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	ENSS9	-	-	AINSS9				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	ENSS8	-	-	AINSS8				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSS11	R/W	ADxREG11許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINSS11[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSS10	R/W	ADxREG10許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINSS10[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSS9	R/W	ADxREG9許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINSS9[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSS8	R/W	ADxREG8許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINSS8[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.4 AD変換入力端子の選択」を参照

11.4.24. ADxASET03/ADxASET47/ADxASET811(常時変換用プログラムレジスター)

AD コンバーターは常時変換状態に設定することが出来ます。

常時変換用プログラムレジスターは 12 組の設定レジスターから構成されます。設定レジスターの番号は変換結果レジスター番号(m = 0 ~ 11)にそれぞれ対応しています。

<ENSAm>を"1"にセットすると一組の設定レジスターを許可にします。

<AINSAm[4:0]>は AD 変換する AIN 入力を選択します。

表 11.5 AD変換入力端子の選択

<AINSA0[4:0]> ~ <AINSA11[4:0]>	ADコンバーター ユニットA	ADコンバーター ユニットB
0_0000	AINA0	AINB0
0_0001	AINA1	AINB1
0_0010	AINA2	AINB2
0_0011	AINA3	AINB3
0_0100	AINA4	AINB4
0_0101	AINA5	AINB5
0_0110	AINA6	AINB6
0_0111	AINA7	AINB7
0_1000	AINA8	AINB8
0_1001	AINA9	AINB9
0_1010	AINA10	AINB10
0_1011	AINA11	AINB11
0_1100	AINA12	AINB12
0_1101	AINA13	AINB13
0_1110	AINA14	AINB14
0_1111	Reserved	AINB15
1_0000	Reserved	AINB16
1_0001 ~ 1_1111	Reserved	Reserved

ADxASET03: 常時トリガー用プログラムレジスター03

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSA3	-	-	AINSA3				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSA2	-	-	AINSA2				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSA1	-	-	AINSA1				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSA0	-	-	AINSA0				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSA3	R/W	ADxREG3許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINSA3[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSA2	R/W	ADxREG2許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINSA2[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSA1	R/W	ADxREG1許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINSA1[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSA0	R/W	ADxREG0許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINSA0[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照

ADxASET47: 常時トリガー用プログラムレジスター47

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSA7	-	-	AINSA7				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSA6	-	-	AINSA6				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSA5	-	-	AINSA5				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSA4	-	-	AINSA4				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSA7	R/W	ADxREG7許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINSA7[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSA6	R/W	ADxREG6許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINSA6[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSA5	R/W	ADxREG5許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINSA5[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSA4	R/W	ADxREG4許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINSA4[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照

ADxASET811: 常時トリガー用プログラムレジスター811

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSA11	-	-	AINSA11				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSA10	-	-	AINSA10				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSA9	-	-	AINSA9				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSA8	-	-	AINSA8				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSA11	R/W	ADxREG11許可 0: 禁止 1: 許可
30:29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28:24	AINSA11[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
23	ENSA10	R/W	ADxREG10許可 0: 禁止 1: 許可
22:21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20:16	AINSA10[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
15	ENSA9	R/W	ADxREG9許可 0: 禁止 1: 許可
14:13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12:8	AINSA9[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照
7	ENSA8	R/W	ADxREG8許可 0: 禁止 1: 許可
6:5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4:0	AINSA8[4:0]	R/W	AIN選択 「表 11.5 AD変換入力端子の選択」を参照

11.4.25. ADxMOD3(モード設定レジスター3)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	1	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	PMODE			-	-	-
リセット後	0	1	0	1	1	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:11	-	R/W	"00000"をライトしてください。
10:6	-	R/W	"10001"をライトしてください。
5:3	PMODE[2:0]	R/W	"100"をライトしてください。
2:0	-	R/W	"000"をライトしてください。

注) ADxMOD3 には指定した値を設定してください。

11.5. 動作説明

11.5.1. アナログ基準電圧

アナログ基準電圧は AD コンバーターユニット B の VREFHx、VREFLx 端子にそれぞれ"High"レベル、"Low"レベルを入力します。また VREFHx と VREFLx 間に流れる電流を制御するレジスターは無く、一定の電流が流れ続けます。

注 1) AD 変換精度への影響を避けるために AD 動作(変換)中は出力ポートとしてポート I/J/K の出力データを書き換えないようにしてください。

注 2) 電源電圧の変動や周囲のノイズの影響によって AD 変換結果がばらつくことがあります。AD 変換中に AD 入力が兼用となっている端子への入力および端子出力を変化させる、または AD 変換中に出力ポートに設定している端子の出力電流が変動すると AD 変換精度が低下することがあります。プログラムで複数回の平均値をとるなどして対策してください。

11.5.2. AD 変換開始

AD コンバーターはソフトウェアによる起動(ソフトウェアトリガー)または PMD/タイマーからのトリガー信号により任意の AD が変換開始します。

これらの起動トリガーには優先順位があり、

PMD トリガー0 ＞ … ＞ PMD トリガー5 ＞ タイマー ＞ ソフトウェア ＞ 常時変換

上位の起動トリガーが発生したときは、実行中の AD 変換を中止して直ちに上位のプログラムを実行します。PMD トリガーによる AD 変換実行中に上位の PMD トリガーが発生したときは、実行中の AD 変換終了後に上位のプログラムに移行します。

起動要因発生から実際の AD 変換実行までには遅れがあります。トリガー要因による AD 変換タイミングと遅延時間を以下に示します。

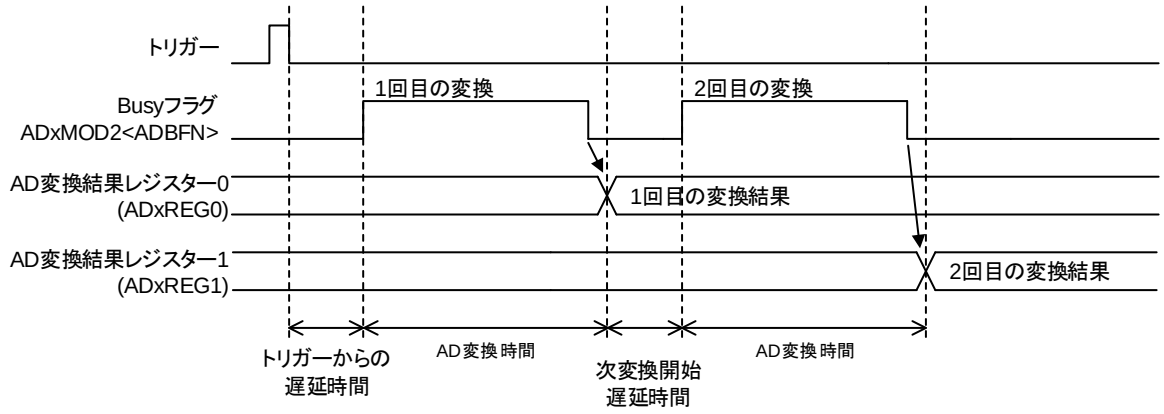


図 11.3 AD変換開始動作タイミングチャート

表 11.6 AD変換時間と変換開始遅延時間(SCLK = 40MHz)

		fsys = 80MHz		fsys = 40MHz	
	変換開始トリガー	MIN	MAX	MIN	MAX
開始遅延時間[μs] (注1)	PMD	0.125	0.163	0.225	0.3
	TMRB	0.125	0.263	0.225	0.5
	ソフトウェア、常時変換	0.138	0.275	0.25	0.525
AD比較時間[μs]	-	1.85		1.85	
次変換開始遅延時間[μs] (注2)	PMD	0.1	0.125	0.175	0.225
	TMRB、ソフトウェア、常時変換	0.1	0.238	0.175	0.425

注 1) 変換開始トリガー発生から AD 変換開始までの時間

注 2) 同一変換開始トリガーで複数の変換を設定する場合の 2 番目以降の開始遅延時間

11.5.3. AD 監視機能

AD コンバーターには AD 監視機能があり、監視機能有効時に比較条件と一致した場合、割り込みを発生します。

ADxCMPCRn<CMPnEN>を"1"に設定すると AD 監視機能が有効となります。<REGSn[3:0]>で指定された変換結果格納レジスターの内容と ADxCMPn の値が比較されます。比較結果が、<ADBIGn>で設定された条件と一致すると比較カウンターがインクリメントされます。比較動作は変換結果が格納されるごとに行われます。

比較カウンターが<CMPCNTn[3:0]>で設定した条件を満たすと、INTADxCPn が発生します。

注 1) AD 監視機能による変換結果の読み出しでは AD 変換結果格納フラグ<ADR0RF> ~ <ADR11RF>はクリアされません。

注 2) AD 監視機能は通常の読み出し動作と異なりますので、ソフトによる変換結果読み出しなしに連続して AD 変換が行われる場合は、Over Run フラグ<OVR0> ~<OVR11>が"1"にセットされます。

11.6. AD 変換タイミングチャート

ソフトウェア AD 変換、常時 AD 変換、PMD トリガー/タイマートリガー受け付け時のタイミングチャートを以下に示します。

11.6.1. ソフトウェア AD 変換

ソフトウェア AD 変換では、ADxSSET03、ADxSSET47、ADxSSET811 でプログラムされた AD 変換が終了時に割り込みが発生します(図 11.4 参照)。

ソフトウェア AD 変換中に ADxMOD1<ADEN> = "0"とした場合、実行中の AD 変換を終了します。このとき、変換途中の結果はレジスターには格納されません(図 11.5 参照)。

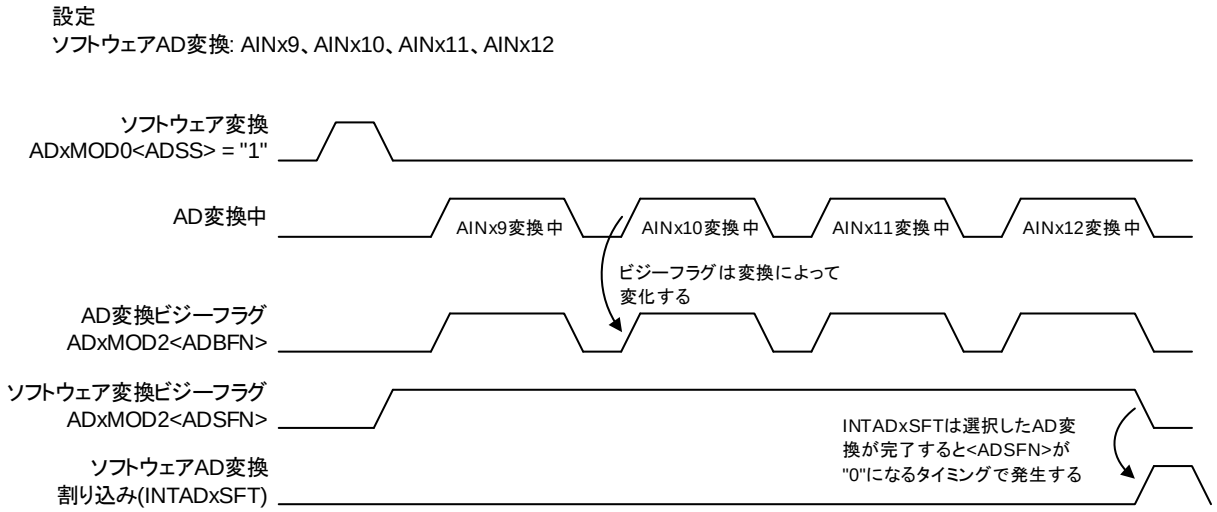


図 11.4　ソフトウェアAD変換時のタイミングチャート

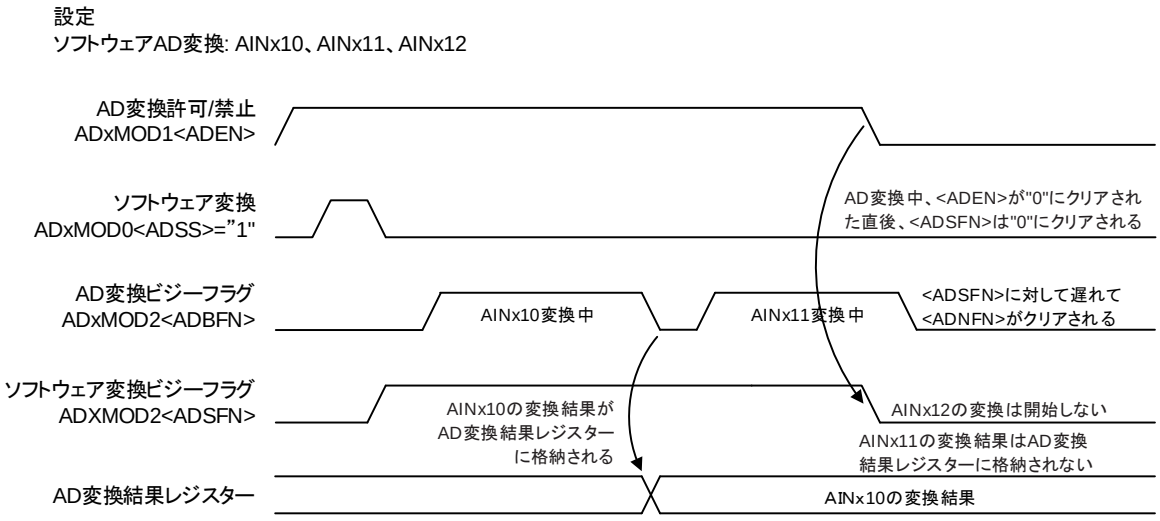


図 11.5　ソフトウェアAD変換中に<ADEN> = "0"書き込み

11.6.2. 常時 AD 変換

常時 AD 変換では、変換結果を読み出す前に次の AD 変換が終了した場合、Over Run フラグが"1"にセットされます。このとき、変換結果レジスターは後続のデータによって上書きされます。Over Run フラグは変換結果を読み出すことにより"0"にクリアされます(図 11.6 参照)。

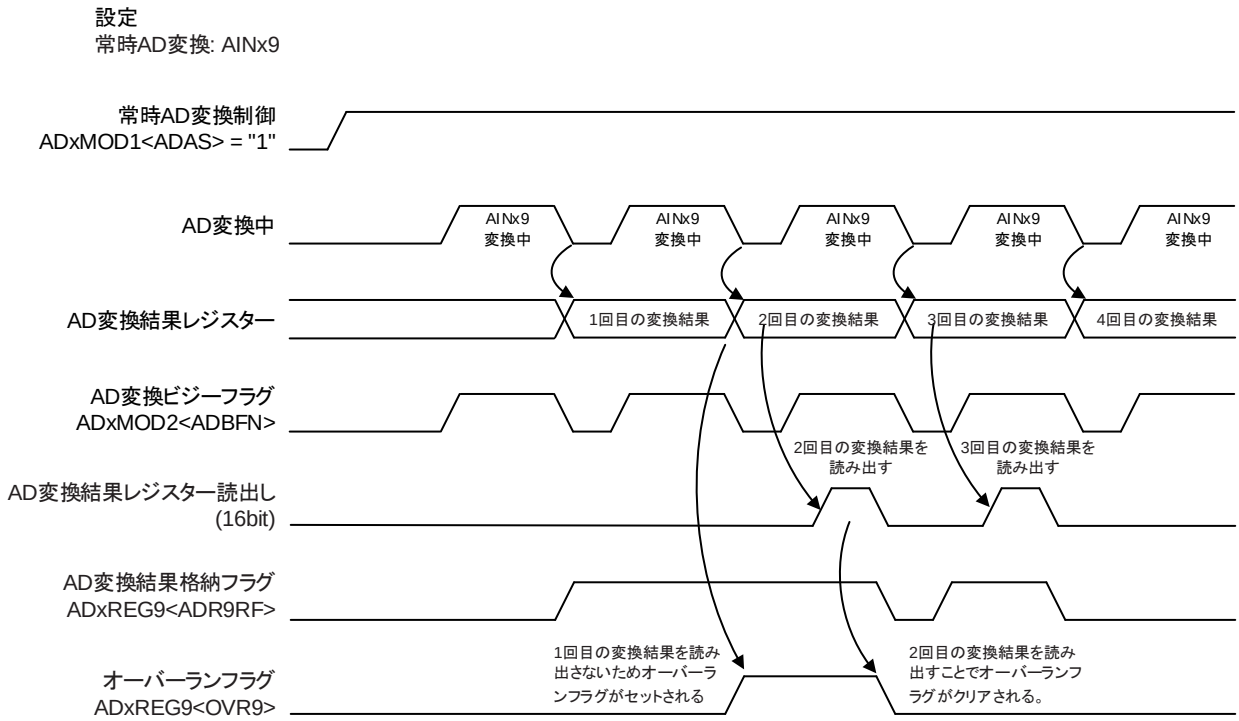


図 11.6　常時AD変換時のタイミングチャート

11.6.3. トリガーによる AD 変換開始

ソフトウェア AD 変換実行中に PMD トリガーが発生した場合、実行中のソフトウェア AD 変換は直ちに中断して PMD トリガーによる AD 変換を開始します(図 11.7 参照)。PMD トリガーによる AD 変換が終了後、ソフトウェア AD 変換は設定されたプログラムの最初から AD 変換を開始します。タイマートリガーが発生した場合も同様です(図 11.8 参照)。

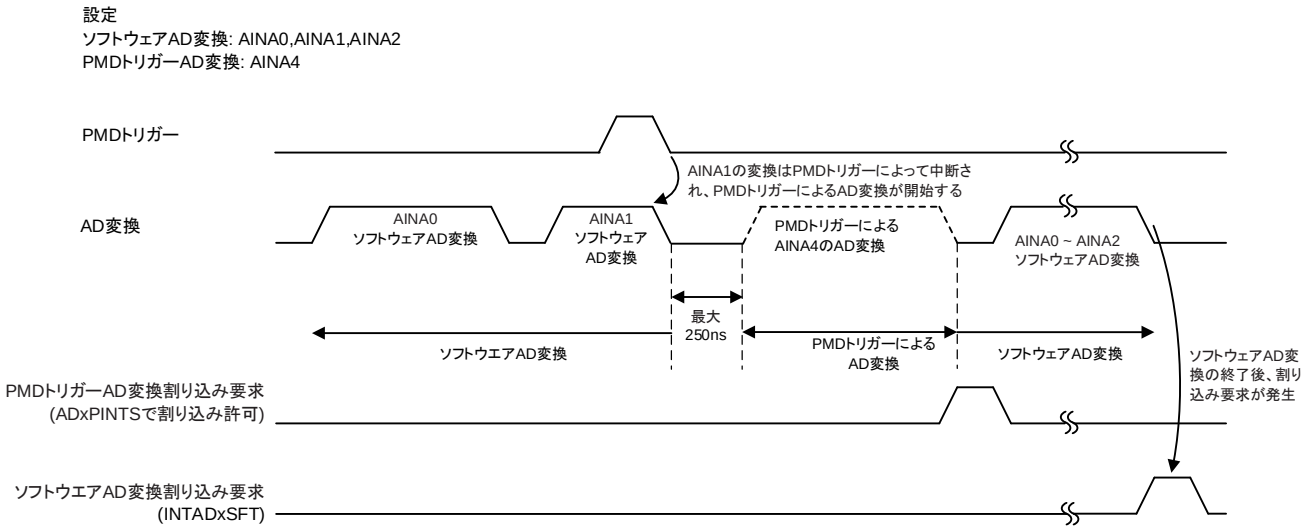


図 11.7　ソフトウェアAD変換中のPMDトリガー発生

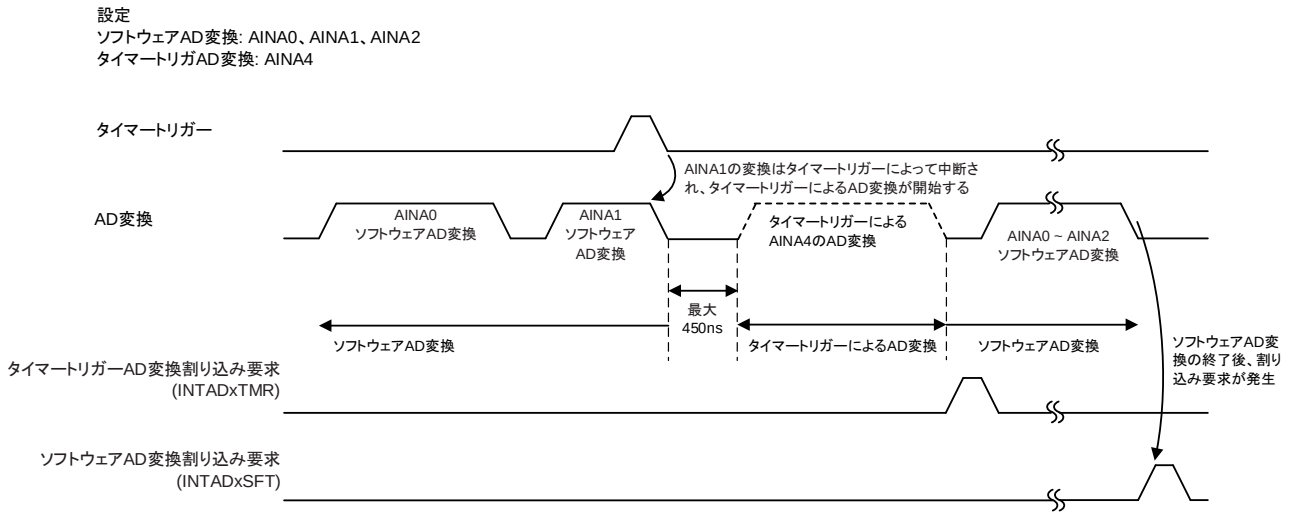


図 11.8　ソフトウェアAD変換中のタイマートリガー発生

注) タイマートリガーを使用しない場合は、INTTB51 を使用しないでください。TB5IM<TBIM1> = "1" に設定してください。

11.7. 使用方法の例

11.7.1. PMD ch0(3 シャント)、AD コンバーターを 1 つ(ユニット A)を使用したときの例

PMD ch0 を 3 シャントで、AD コンバーターを 1 つ(ユニット A)を使用した場合の回路例を以下に示します。

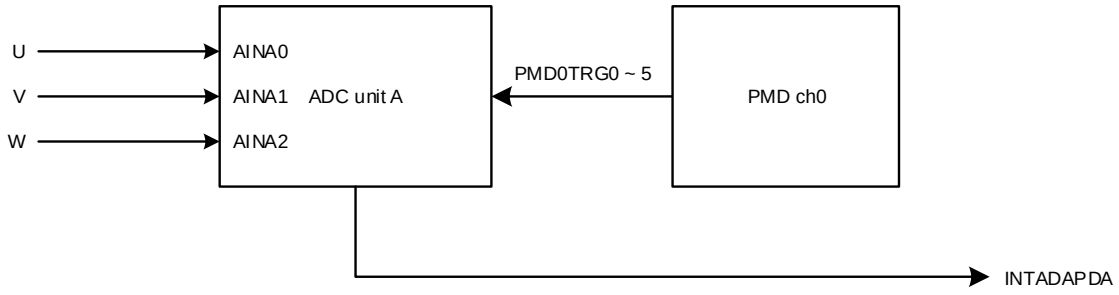


図 11.9 PMD ch0を3シャントで、ADコンバーターを1つ(ユニットA)を使用した場合の回路例

この場合のADコンバーターユニットAの設定例を「表 11.7 ADコンバーターユニットAの設定例」に示します。

PMD ch0 からの 6 本のトリガー信号 PMD0TRG0 ~ 5 に対し、ADAPSEL0<PMDS0[2:0]> ~ ADAPSEL5<PMDS5[2:0]>でそれぞれ 0 ~ 5 のプログラム番号を選択します。

「U」、「V」、「W」はモーターの位相を表しており、それぞれの位相が得られる AD 変換入力端子を選択します。

トリガー信号が入力されると ADAPSETn[7:0]、ADAPSETn[15:8]の順で AD 変換が開始されます。それぞれの変換結果が変換結果格納レジスターへ保存され、INTADAPDA 割り込み要求が出力されます。

表 11.7 ADコンバーターユニットAの設定例

プログラム番号	0	1	2	3	4	5
ADAPSETn[7:0]	U	U	W	V	W	U
ADAPSETn[15:8]	V	W	U	U	V	W
割り込み要求	INTADAPDA	INTADAPDA	INTADAPDA	INTADAPDA	INTADAPDA	INTADAPDA

11.7.2. PMD ch0(3 シャント)、AD コンバーターを 2 つ(ユニット A/B)を使用したときの例

PMD ch0 を 3 シャントで、AD コンバーターを 2 つ(ユニット A/B)を使用した場合の回路例を以下に示します。

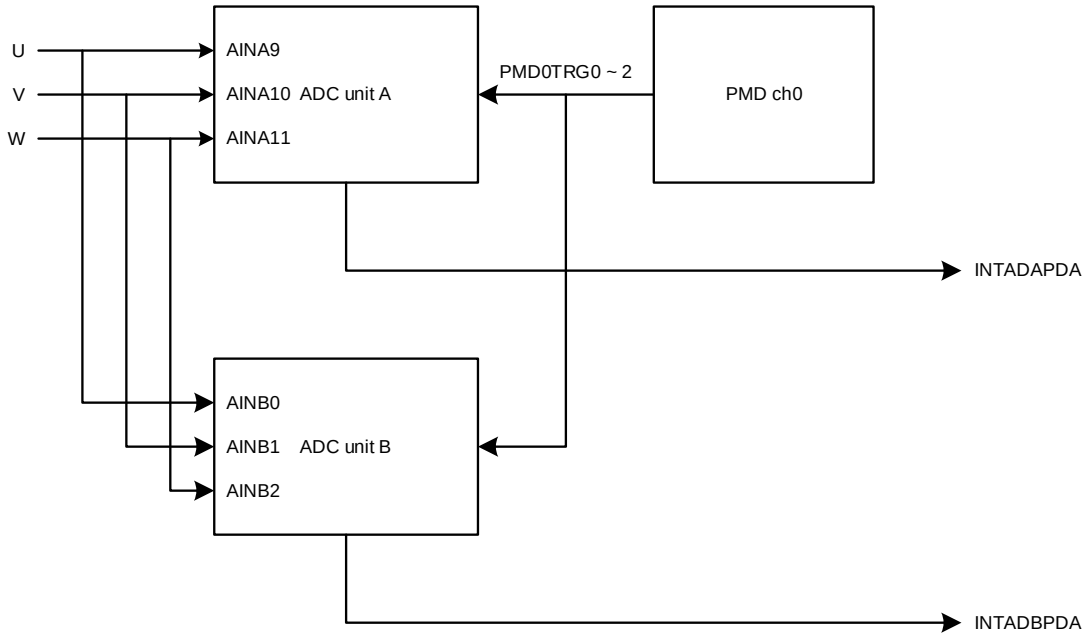


図 11.10 PMD ch0を3シャントで、ADコンバーターを2つ(ユニットA/B)を使用した場合の回路例

この場合の AD コンバーターユニット A/B の設定例を「表 11.8 AD コンバーターユニット A/B の設定例」に示します。

PMD ch0 からの 3 本のトリガー信号 PMD0TRG0 ~ 2 に対し、AD コンバーターユニット A では、ADAPSEL0<PMDS0[2:0]> ~ ADAPSEL2<PMDS2[2:0]>で 0 ~ 2 のプログラム番号を選択します。

AD コンバーターユニット B では、ADBPSEL0<PMDS0[2:0]> ~ ADBPSEL2<PMDS2[2:0]>で 0 ~ 2 のプログラム番号を選択します。

「U」、「V」、「W」はモーターの位相を表しており、それぞれの位相が得られる AD 変換入力端子を選択します。

トリガー信号が入力されると ADAPSETn[7:0]、ADBPSETn[7:0]の AD 変換が同時に開始されます。それぞれの変換結果が変換結果格納レジスターへ保存され、INTADAPDA/INTBDAPDA 割り込み要求が出力されます。

表 11.8 ADコンバーターユニットA/Bの設定例

プログラム番号	0	1	2
ADAPSETn[7:0]	U	V	W
割り込み要求	INTADAPDA	INTADAPDA	INTADAPDA
ADBPSETn[7:0]	U	V	W
割り込み要求	INTADBPDA	INTADBPDA	INTADBPDA

11.7.3. PMD ch0(3 シャント)、ch1(1 シャント)、AD コンバーターを 2 つ(ユニット A/B)を使用したときの例

PMD ch0 を 3 シャント、ch1 を 1 シャントで、AD コンバーターを 2 つ(ユニット A/B)を使用した場合の回路例を以下に示します。

ここで、AD コンバーターユニット B は割り込み要求を出力しない設定になっているものとします。

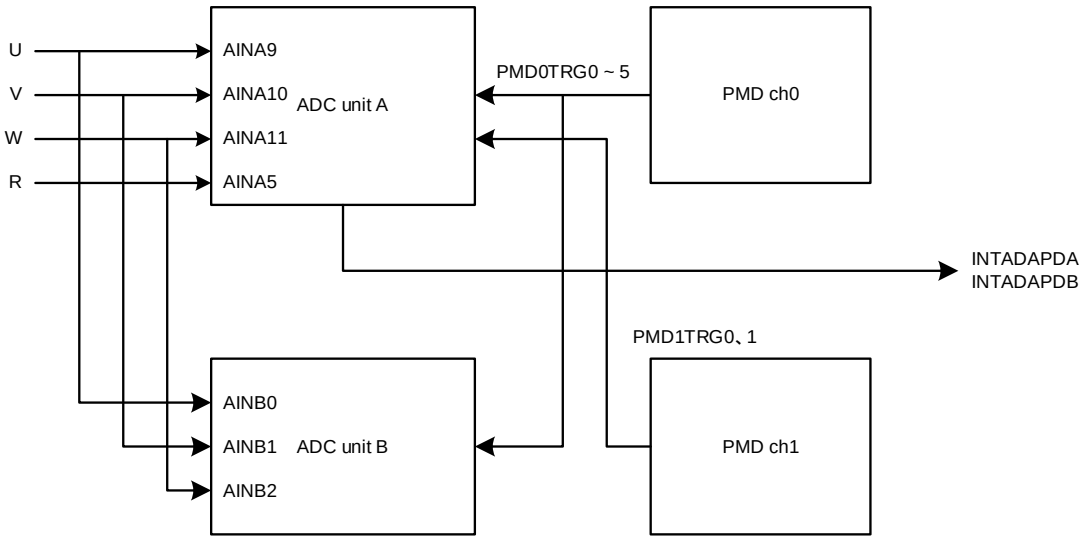


図 11.11 PMD ch0を3シャント、ch1を1シャントで、ADコンバーターを2つ(ユニットA/B)を使用した場合の回路例

この場合の AD コンバーターユニット A/B の設定例を「表 11.9　AD コンバーターユニット A の設定例」、「表 11.10　AD コンバーターユニット B の設定例」に示します。

AD コンバーターユニット A は、PMD ch0、1 から出力される 8 本のトリガー信号に対して、PMD ch0 からの 6 本のトリガー信号 PMD0TRG0 ~ 5 に ADAPSEL0<PMDS0[2:0]> ~ ADAPSEL5<PMDS5[2:0]>で 0 ~ 2 のプログラム番号を選択、ch1 からの 2 本のトリガー信号 PMD1TRG0、1 に ADAPSEL6<PMDS6[2:0]>、ADAPSEL7<PMDS7[2:0]>で 3、4 のプログラム番号を選択します。

AD コンバーターユニット B は、PMD ch0 からの 6 本のトリガー信号 PMD0TRG0 ~ 5 に ADBPSEL0<PMDS0[2:0]> ~ ADBPSEL5<PMDS5[2:0]>で 0 ~ 2 のプログラム番号を選択します。

「U」、「V」、「W」はモーターの位相を表しており、それぞれの位相が得られる AD 変換入力端子を選択します。「R」は抵抗を表しており、接続されている AD 変換入力端子を選択します。

トリガー信号が入力されると ADAPSETn[7:0]、ADAPSETn[15:8]、ADAPSETn[23:16]、ADBPSETn[7:0] の AD 変換が開始されます。それぞれの変換結果が変換結果格納レジスターへ保存されます。

AD コンバーターユニット A は、PMD ch0 からのトリガー信号には INTADAPDA 割り込み要求が、ch1 からのトリガー信号には INTADAPDB 割り込み要求が出力されます。

表 11.9　ADコンバーターユニットAの設定例

トリガー信号	PMD0TRG0 PMD0TRG3	PMD0TRG1 PMD0TRG4	PMD0TRG2 PMD0TRG5	PMD1TRG0	PMD1TRG1
プログラム番号	0	1	2	3	4
ADAPSETn[7:0]	U	V	W	-	-
ADAPSETn[15:8]	-	-	-	R	-
ADAPSETn[23:16]	-	-	-	-	R
割り込み要求	INTADAPDA	INTADAPDA	INTADAPDA	-	INTADAPDB

表 11.10　ADコンバーターユニットBの設定例

トリガー信号	PMD0TRG0 PMD0TRG3	PMD0TRG1 PMD0TRG4	PMD0TRG2 PMD0TRG5
プログラム番号	0	1	2
ADBPSETn[7:0]	V	W	U
割り込み要求	-	-	-

11.7.4. PMD ch0(1 シャント)、AD コンバーターを 1 つ(ユニット A)を使用したときの例

PMD ch0 を 1 シャントで、AD コンバーターを 1 つ(ユニット A)を使用した場合の回路例を以下に示します。

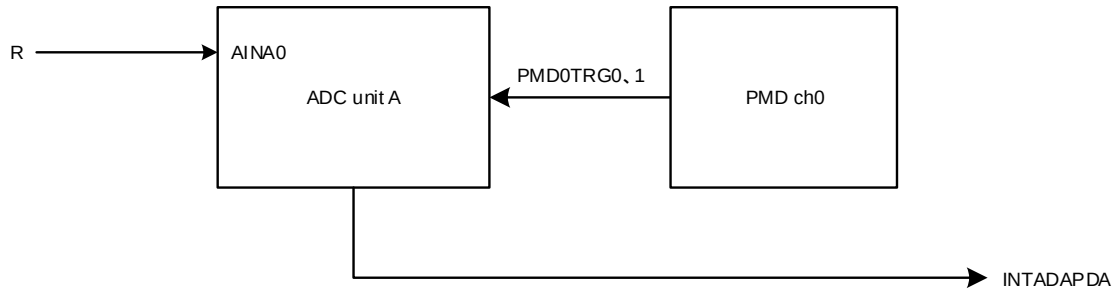


図 11.12 PMD ch0を1シャントで、ADコンバーターを1つ(ユニットA)を使用した場合の回路例

この場合の AD コンバーターユニット A の設定例をに示します。

PMD ch0 からの 2 本のトリガー信号 PMD0TRG0、1 に対し、ADAPSEL0<PMDS0[2:0]>、ADAPSEL1<PMDS1[2:0]>でそれぞれ 0、1 のプログラム番号を選択します。

「R」は抵抗を表しており、接続されている AD 変換入力端子を選択します。

トリガー信号が入力されると ADAPSETn[7:0]、ADAPSETn[15:8]の順で AD 変換が開始されます。それぞれの変換結果が変換結果格納レジスターへ保存され、INTADAPDA 割り込み要求が出力されます。

表 11.11 ADコンバーターユニットAの設定例

トリガー信号	PMD0TRG0	PMD0TRG1
プログラム番号	0	1
ADAPSETn[7:0]	R	-
ADAPSETn[15:8]	-	R
割り込み要求	-	INTADAPDA

12. モーター制御回路(PMD)

12.1. 概要

PMD は 1 シャントセンサーレスモーター制御を実現させるために、通電出力制御や DC 過電圧検出入力を搭載しています。また、ADC、AMP/CMP、VE を連携させたモーター制御を可能としています。

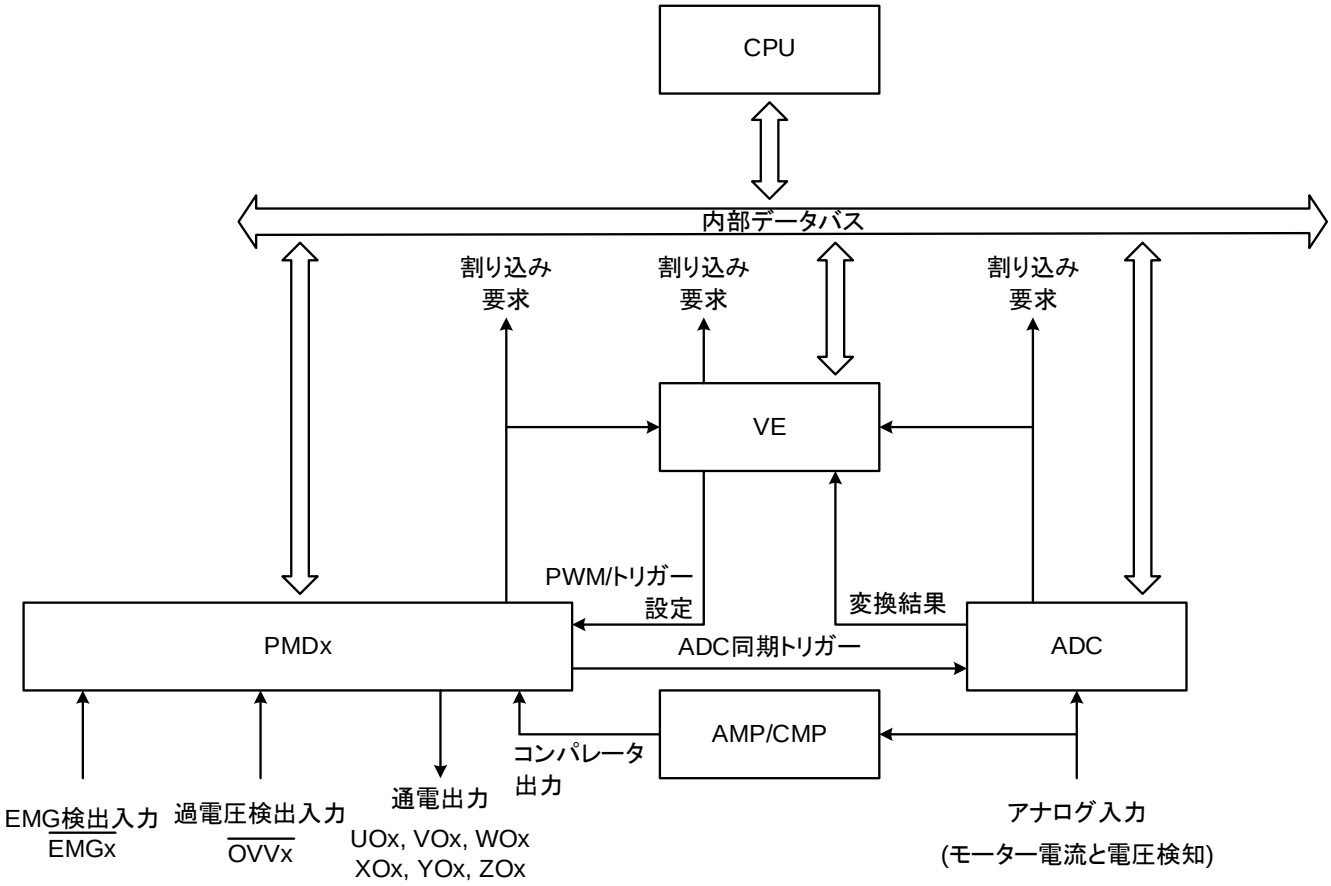


図 12.1 PMDとADC、AMP/CMP、VEの連携

12.2. 構成

PMD は大きく分けて波形生成回路と同期トリガー生成回路の 2 ブロックから構成されています。
波形生成回路を構成する回路は下記のとおりです。

- パルス幅変調回路は PWM 周波数が等しい 3 相の独立した PWM 波形を生成します。
- 通電制御回路は U、V、W 相の各上下相の出力パターンを決定します。
- 保護回路では$\overline{\text{EMGx}}$端子入力、PMDxEMG(コンパレーター出力)、$\overline{\text{OVVx}}$端子入力による緊急出力停止を行います。
- デッドタイム制御回路では上下相の切り替え時の短絡を防止します。

また、同期トリガー生成回路は ADC への同期トリガー信号を生成します。

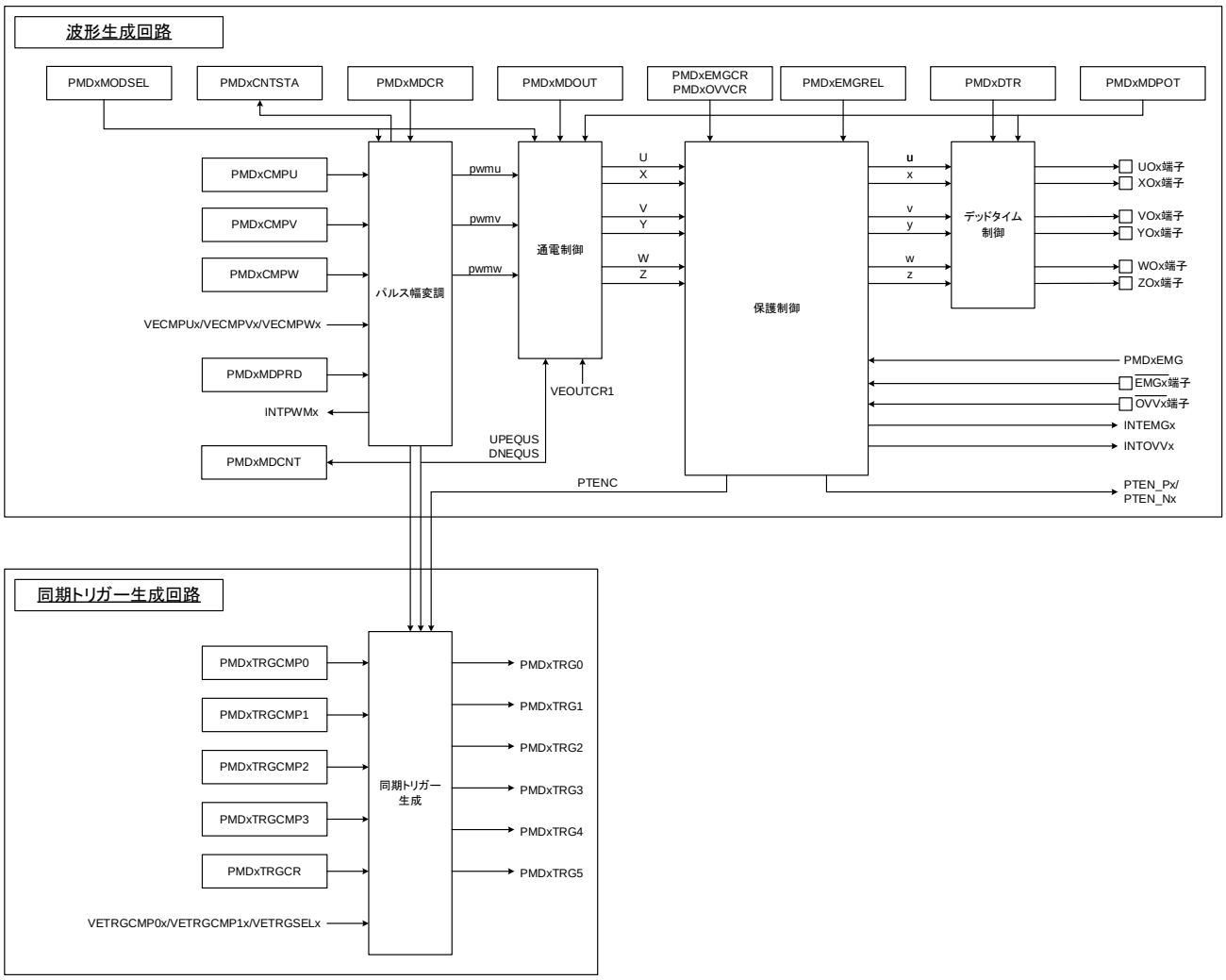


図 12.2 PMDブロック図

12.3. レジスター説明

12.3.1. レジスター一覧

制御レジスターとアドレスを以下に示します。

レジスター名		Base+ (Address)
PMDイネーブルレジスター	PMDxMDEN	0x0000
ポート出力モードレジスター	PMDxPORTMD	0x0004
PMDコントロールレジスター	PMDxMDCR	0x0008
PWMカウンターステータスレジスター	PMDxCNTSTA	0x000C
PWMカウンターレジスター	PMDxMDCNT	0x0010
PWM周期レジスター	PMDxMDPRD	0x0014
PWMコンペアUレジスター	PMDxCMPU	0x0018
PWMコンペアVレジスター	PMDxCMPV	0x001C
PWMコンペアWレジスター	PMDxCMPW	0x0020
モード選択レジスター	PMDxMODESEL	0x0024
PMD出力コントロールレジスター	PMDxMDOUT	0x0028
PMD出力設定レジスター	PMDxMDPOT	0x002C
EMG解除レジスター	PMDxEMGREL	0x0030
EMGコントロールレジスター	PMDxEMGCR	0x0034
EMGステータスレジスター	PMDxEMGSTA	0x0038
OVVコントロールレジスター	PMDxOVVCR	0x003C
OVVステータスレジスター	PMDxOVVSTA	0x0040
デッドタイムレジスター	PMDxDTR	0x0044
トリガーコンペア0レジスター	PMDxTRGCMP0	0x0048
トリガーコンペア1レジスター	PMDxTRGCMP1	0x004C
トリガーコンペア2レジスター	PMDxTRGCMP2	0x0050
トリガーコンペア3レジスター	PMDxTRGCMP3	0x0054
トリガーコントロールレジスター	PMDxTRGCR	0x0058
トリガー出力モード設定レジスター	PMDxTRGMD	0x005C
トリガー出力選択レジスター	PMDxTRGSEL	0x0060
Reserved	-	0x007C

注) "Reserved"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

12.3.2. PMD 制御部

12.3.2.1. PMDxMDEN(PMD イネーブルレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	PWMEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	PWMEN	R/W	波形合成機能の許可/禁止制御 0: 禁止 1: 許可 ポートを機能出力(PWM出力)として使用しているとき、PMDxMDEN<PWMEN>を"0"に設定すると機能出力として使用しているポートは"Hi-Z"になります。 出力ポート極性選択などの設定を行った後に、PMDxMDEN<PWMEN>を"1"に設定します。

12.3.2.2. PMDxPORTMD(ポート出力モードレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	PORTMD	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1:0	PORTMD[1:0]	R/W	U相、V相、W相、X相、Y相、Z相出力端子制御 00 : 上相 "Hi-Z"/下相 "Hi-Z" 01 : 上相 "Hi-Z"/下相オン(注3) 10 : 上相オン(注3)/下相 "Hi-Z" 11 : 上相オン(注3)/下相オン(注3) ホールトしたときに上相(UOx、VOx、WOx端子)および下相(XOx、YOx、ZOx端子)の出力設定します。

注 1) PMDxMDEN<PWMEN>が"0"のときは、ポートの出力コントロールレジスターの設定によらずUOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx 出力端子を"Hi-Z"にします。

注 2) UOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx 出力端子制御は、PMDxEMGCR<EMGMD[1:0]>の設定により、$\overline{\text{EMGx}}$端子入力が"Low"レベルになったときにも行われます。

注 3) オン: PWM 出力を継続します。

12.3.2.3. PMDxMODESEL(モード選択レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	MDSEL
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	MDSEL	R/W	モード選択レジスター 0: バスモード 1: VEモード PMDxMODESEL<MDSEL>は、ダブルバッファーの後段への入力方法をバスから設定したレジスター値を使用するバスモード、またはVEからの値を使用するVEモードから選択します。 PMDxCMPU、PMDxCMPV、PMDxCMPW、PMDxTRGCMP0、PMDxTRGCMP1、PMDxMDOUTはダブルバッファー構成となっています。 PMDxMODESEL<MDSEL>が"0"のときは、レジスターに書き込んだデータが直ちにダブルバッファー—後段にロードされます。 PMDxMODESEL<MDSEL>が"1"のときはPMD内部の更新タイミングでダブルバッファーの後段へデータがロードされます。

12.3.3. パルス幅変調回路

パルス幅変調回路は、16 ビットのアップ/ダウンカウンターである PMD カウンターを持ち、12.5ns@fsys = 80MHz の分解能で PWM キャリアーを生成します。PWM キャリアーの波形モードは PWM モード 0 としてエッジ PWM(のこぎり波変調)、モード 1 としてセンターPWM(三角波変調)を選択可能です。

また、PWM 周期延長モード(PMDxMDCR<PWMCK> = "1")にすることにより、PWM カウンターは 50ns の分解能で PWM キャリアーを生成します。

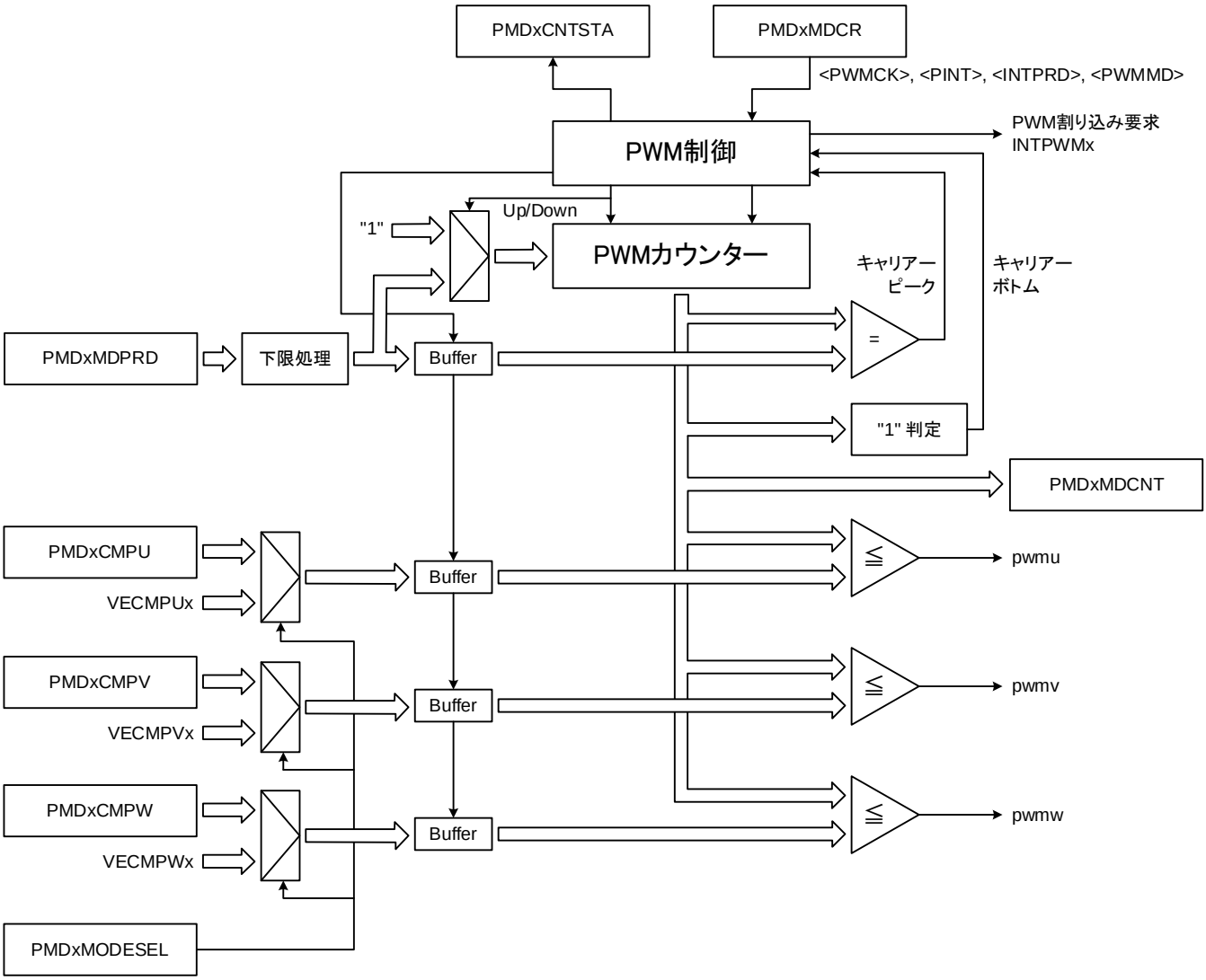


図 12.3 パルス幅変調回路

12.3.3.1. PWM 周期設定

PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>により PWM 周期を決定します。PMDxMDPRD はダブルバッファー構成であり、コンパレーター入力は PWM 周期で更新されます。PWM 半周期ごとの更新(半周期ごとロード)も選択できます。

$$\text{のこぎり波 PWM: PMDxMDPRD のレジスター設定} = \frac{\text{発振周波数 [Hz]}}{\text{PWM 周波数 [Hz]}}$$

$$\text{三角波変調 PWM: PMDxMDPRD のレジスター設定} = \frac{\text{発振周波数 [Hz]}}{\text{PWM 周波数 } \times 2 \text{ [Hz]}}$$

12.3.3.2. コンペア機能

3 相の PWM コンペアレジスター(PMDxCMPU/V/W)の値と、PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>が生成する搬送波をコンパレーターで比較して所望のデューティーの PWM 波形を生成します。

各相の PMD コンペアレジスターは比較レジスターを持ち、ダブルバッファー構成となります。

PMD コンペアレジスターの値は PWM 周期に同期して、PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>が PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときに比較レジスターにロードされます。

PWM 半周期での更新(半周期ごとロード)も選択できます。

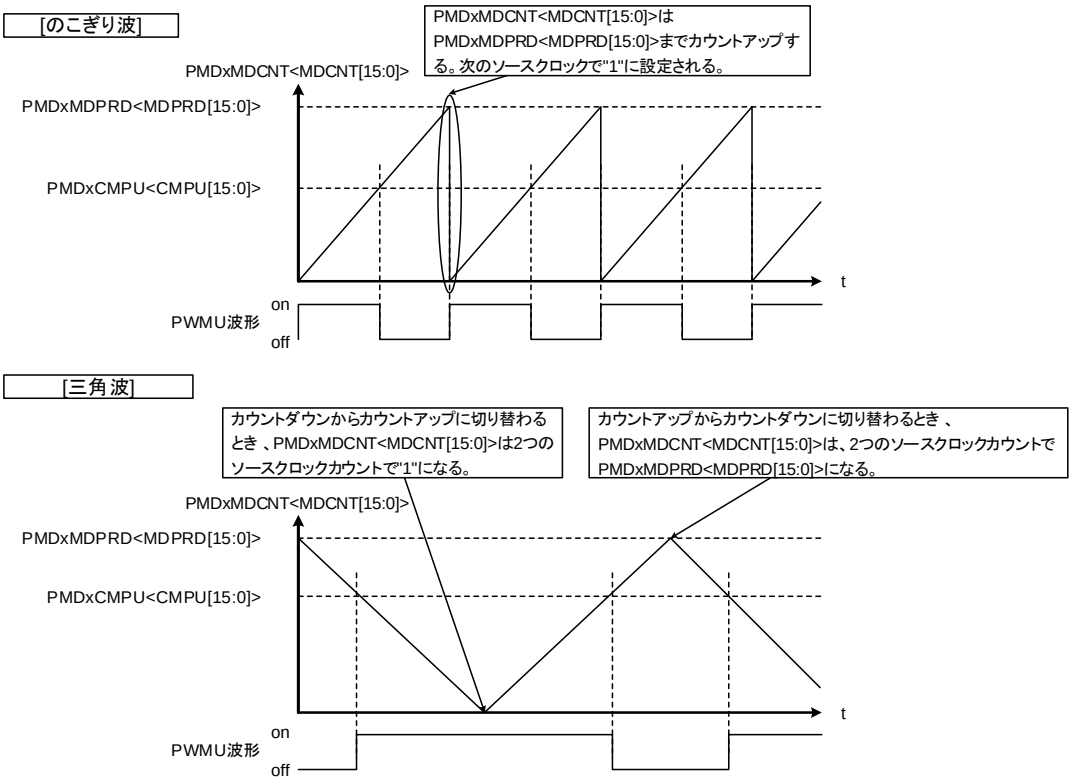


図 12.4 のこぎり波、三角波のPWM波形

12.3.3.3. 波形モード

下記の 3 相 PWM の生成モードを選択できます。

(1) 3 相独立デューティーモード: 3 相の PMD コンペアレジスターにそれぞれ独立した値を設定して、3 相の独立した PWM 波形を生成します。これは、正弦波などの任意の駆動波形生成に使用します。

(2) 3 相共通デューティーモード:U 相の PMD コンペアレジスターだけに値を設定し、U 相の設定値で 3 相同一の PWM 波形を生成します。これは、DC モーターの矩形波駆動に使用します。

12.3.3.4. 割り込み処理

パルス幅変調回路では PWM 波形に同期して PWM 割り込み要求(INTPWMx)を発生します。INTPWMx の頻度は下記から選択できます。

(1) PWM 周期半周期に 1 回

(2) PWM1 周期に 1 回

(3) PWM2 周期に 1 回

(4) PWM4 周期に 1 回

12.3.3.5. PMDxMDCR(PMD コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	PWMCK	SYNTMD	DTYMD	PINT	INTPRD		PWMMD
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:7	-	R	リードすると"0"が読めます。
6	PWMCK	R/W	PWM周期延長モード選択 0: 通常周期 1: 4倍周期 通常周期を選択したとき、PWMカウンターは分解能12.5ns@fsys = 80MHzで動作します。ノコギリ波の分解能は12.5ns、三角波の分解能は25nsです。 4倍周期を選択したとき、PWMカウンターは分解能50ns@fsys = 80MHzで動作します。ノコギリ波の分解能は50ns、三角波の分解能は100nsです。
5	SYNTMD	R/W	UOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx出力端子モード設定 UOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx出力端子を設定します。詳細については、表 12.2を参照してください。
4	DTYMD	R/W	デューティーモード選択 0: 3相共通デューティーモード 1: 3相独立デューティーモード デューティーの設定にPMDxCMPUの設定値を3相共通で用いるか、PMDxCMPU/V/Wの設定値それぞれを3相独立で用いるかの選択を行います。
3	PINT	R/W	INTPWMx発生タイミング選択 0: PWMカウンターPMDxMDCNT<MDCNT[15:0]> = "0x0001"(最小)のときINTPWMx発生 1: PWMカウンターPMDxMDCNT<MDCNT[15:0]> = PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>のときINTPWMx発生 INTPWMx発生タイミングをPWMカウンターが"0x0001"のとき、PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>のときから選択します。 PMDxMDCR<PINT> = "1"のとき、PMDxMDCR<PWMMD>の設定値によりINTPWM発生のタイミングが下記のようになります。 PMDxMDCR<PWMMD> = "0"のとき:PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>がPMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>のときINTPWMx発生 PMDxMDCR<PWMMD> = "1"のとき: "PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>が0x0001"またはPMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>のときINTPWMx発生
2:1	INTPRD[1:0]	R/W	INTPWMx発生周期選択 00: PWM 0.5周期ごとにINTPWMxが発生 (PMDxMDCR<PWMMD> = "1"の場合のみ設定できます) (注) 01: PWM 1周期ごとにINTPWMxが発生 10: PWM 2周期ごとにINTPWMxが発生 11: PWM 4周期ごとにINTPWMxが発生 INTPWMが発生する頻度をPWM周期0.5、1周期、2周期、4周期ごとから選択します。

0	PWMMD	R/W	PWMキャリアー波形選択 0: PWMモード0(エッジPWM、ノコギリ波変調) 1: PWMモード1(センターPWM、三角波変調) PWMのモードを選択します。PWMモード0はエッジPWM、PWMモード1はセンターPWMになります。

注) PMDxMDCR<INTPRD[1:0]> = "00"のとき、PMDxCMPU/V/W、PMDxMDPRD は PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>が"0x0001"または PMDxMDPRD <MDPRD[15:0]>と一致したときにダブルバッファー後段にデータが取り込まれます。

12.3.3.6. PMDxCNTSTA(PWM カウンターステータスレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	UPDWN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	UPDWN	R	PWMカウンターフラグ 0: アップカウント中 1: ダウンカウント中 PWMカウンターがアップカウント中かダウンカウント中かを示します。 PWMモード0が選択されているとき、常に"0"が読み出されます。

12.3.3.7. PMDxMDCNT(PWM カウンターレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	MDCNT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	MDCNT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	MDCNT[15:0]	R	PWMカウンター読み出し PWM周期をカウントする16bitのPWMカウンターの値を読み出すことができます。 PMDxMDCR<PWMCK> = "0"のとき、PWMカウンターは分解能12.5ns@fsys = 80MHzで動作します。ノコギリ波の分解能は12.5ns、三角波の分解能は25nsです。 PMDxMDCR<PWMCK> = "1"のとき、PWMカウンターは分解能50ns@fsys = 80MHzで動作します。ノコギリ波の分解能は50ns、三角波の分解能は100nsです。 波形合成機能が禁止(PMDxMDEN<PWMEN> = "0")のとき、PWMカウンター値はPMDxMDCR<PWMMD>の設定値によって、以下のようになります。 PMDxMDCR<PWMMD> = "0"の場合: "0x0001" PMDxMDCR<PWMMD> = "1"の場合: PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>の値

12.3.3.8. PMDxMDPRD(PWM 周期レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	MDPRD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	MDPRD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	MDPRD[15:0]	R/W	PWM周期設定 PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>には"0x0010"以上の値を設定してください。 PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>でPWM周期を設定します。 ダブルバッファー構成となっているので、PWMカウンターの動作中でも変更することが出来ます。ダブルバッファー後段にはPWM周期ごとに書き込んだ値がロードされます。 PWMカウンターがPMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときにロードされます。 PMDxMDCR<INTPRD[1:0]> に "00" が設定されているとき、PWM カウンターが "0x0001" または PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときにロードされます。 このとき、PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>のLSBには"0"を設定してください。 PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>に"0x0010"未満の値を設定した場合、PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>には設定した値が設定されますが、"0x0010"を設定したとして扱われます。

注) このレジスターへのバイト転送命令による書き込み(上位 8bit([15:8]、下位 8bit([7:0])を別々に書き込む)をしないでください。

12.3.3.9. PMDxCMPU(U 相用 PWM コンペアレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	CMPU1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	CMPU1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	CMPU1[15:0]	R	リードするとダブルバッファー前段(書き込んだ値)が読めます。
		W	U相PWMパルス幅設定 PMDxCMPU<CMPU1[15:0]>でU相のPWMパルス幅を設定します。 U相のPWMパルス幅の分解能12.5ns@fsys = 80MHzです。ノコギリ波の分解能は12.5ns、三角波の分解能は25nsです。 ダブルバッファー構成となっているので、PWMカウンターの動作中でも変更することが出来ます。ダブルバッファー後段にはPWM周期ごとに書き込んだ値がロードされます。 PWMカウンターとダブルバッファー後段の値を比較することでPWMパルス幅を決定します。 PWMカウンターがPMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときにロードされます。 PMDxMDCR<INTPRD[1:0]> に "00" が設定されているとき、PWM カウンターが "0x0001" または PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときにロードされます。

注 1) 本レジスターに書き込んだデータをダブルバッファー後段に直ちにロードする場合は、PMDxMODESEL<MDSEL>に"0"を設定します。

注 2) このレジスターへのバイト転送命令による書き込み(上位 8bit([15:8])、下位 8bit([7:0])を別々に書き込む)をしないでください。

12.3.3.10. PMDxCMPV(V 相用 PWM コンペアレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	CMPV1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	CMPV1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	CMPV1[15:0]	R	リードするとダブルバッファー前段(書き込んだ値)が読めます。
		W	V相PWMパルス幅設定 PMDxCMPV<CMPV1[15:0]>でV相のPWMパルス幅を設定します。 V相のPWMパルス幅の分解能12.5ns@fsys = 80MHzです。ノコギリ波の分解能は12.5ns、三角波の分解能は25nsです。 ダブルバッファー構成となっているので、PWMカウンターの動作中でも変更することが出来ます。ダブルバッファー後段にはPWM周期ごとに書き込んだ値がロードされます。 PWMカウンターとダブルバッファー後段の値を比較することでPWMパルス幅を決定します。 PWMカウンターがPMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときにロードされます。 PMDxMDCR<INTPRD[1:0]> に "00" が設定されているとき、PWM カウンターが "0x0001" または PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときにロードされます。

注 1) 本レジスターに書き込んだデータをダブルバッファー後段に直ちにロードする場合は、PMDxMODESEL<MDSEL>に"0"を設定します。

注 2) このレジスターへのバイト転送命令による書き込み(上位 8bit([15:8])、下位 8bit([7:0])を別々に書き込む)をしないでください。

12.3.3.11. PMDxCMPW(W 相用 PWM コンペアレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	CMPW1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	CMPW1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	CMPW1[15:0]	R	リードするとダブルバッファー前段(書き込んだ値)が読めます。
		W	W相PWMパルス幅設定 PMDxCMPW<CMPU1[15:0]>でW相のPWMパルス幅を設定します。 W相のPWMパルス幅の分解能12.5ns@fsys = 80MHzです。ノコギリ波の分解能は12.5ns、三角波の分解能は25nsです。 ダブルバッファー構成となっているので、PWMカウンターの動作中でも変更することが出来ます。ダブルバッファー後段にはPWM周期ごとに書き込んだ値がロードされます。 PWMカウンターとダブルバッファー後段の値を比較することでPWMパルス幅を決定します。 PWMカウンターがPMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときにロードされます。 PMDxMDCR<INTPRD[1:0]> に "00" が設定されているとき、PWM カウンターが "0x0001" または PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>と一致したときにロードされます。

注 1) 本レジスターに書き込んだデータをダブルバッファー後段に直ちにロードする場合は、PMDxMODESEL<MDSEL>に"0"を設定します。

注 2) このレジスターへのバイト転送命令による書き込み(上位 8bit([15:8])、下位 8bit([7:0])を別々に書き込む)をしないでください。

12.3.4. 通電制御回路

通電制御回路は、PMDxMDOUT と PMDxMDPOT に設定された内容により、PWM 出力の制御を行います。

通電制御回路は大きく、PMDxMDOUT リロードタイミングの選択と PWM 出力設定に分けられます。

PMDxMDOUT リロードタイミングの選択を PMDxMDPOT<PSYNCS>で行います。同期タイミングは PWM カウンターの同期と非同期を選択できます。リロードタイミングで PWM 出力が更新されます。

PWM 出力設定は、PWM 出力の上相、下相それぞれに、"Low"アクティブ/"High"アクティブを PMDxMDPOT<POLH>、<POLL>で設定します。

PWM 出力の U 相、V 相、W 相それぞれに、"High"レベル/"Low"レベル出力と PWM 出力の選択を PMDxMDOUT<WPWM>、<VPWM>、<UPWM>で設定します。

"High"レベル/"Low"レベル出力を選択すると通電制御回路は"High"レベル、または"Low"レベルを出力します。

PWM 出力を選択すると通電制御回路は PWM 波形を出力します。

PMDxMDOUT による PWM 出力設定と PMDxMDPOT によるの極性設定の関係については、表 12.1、表 12.2 を参照してください。

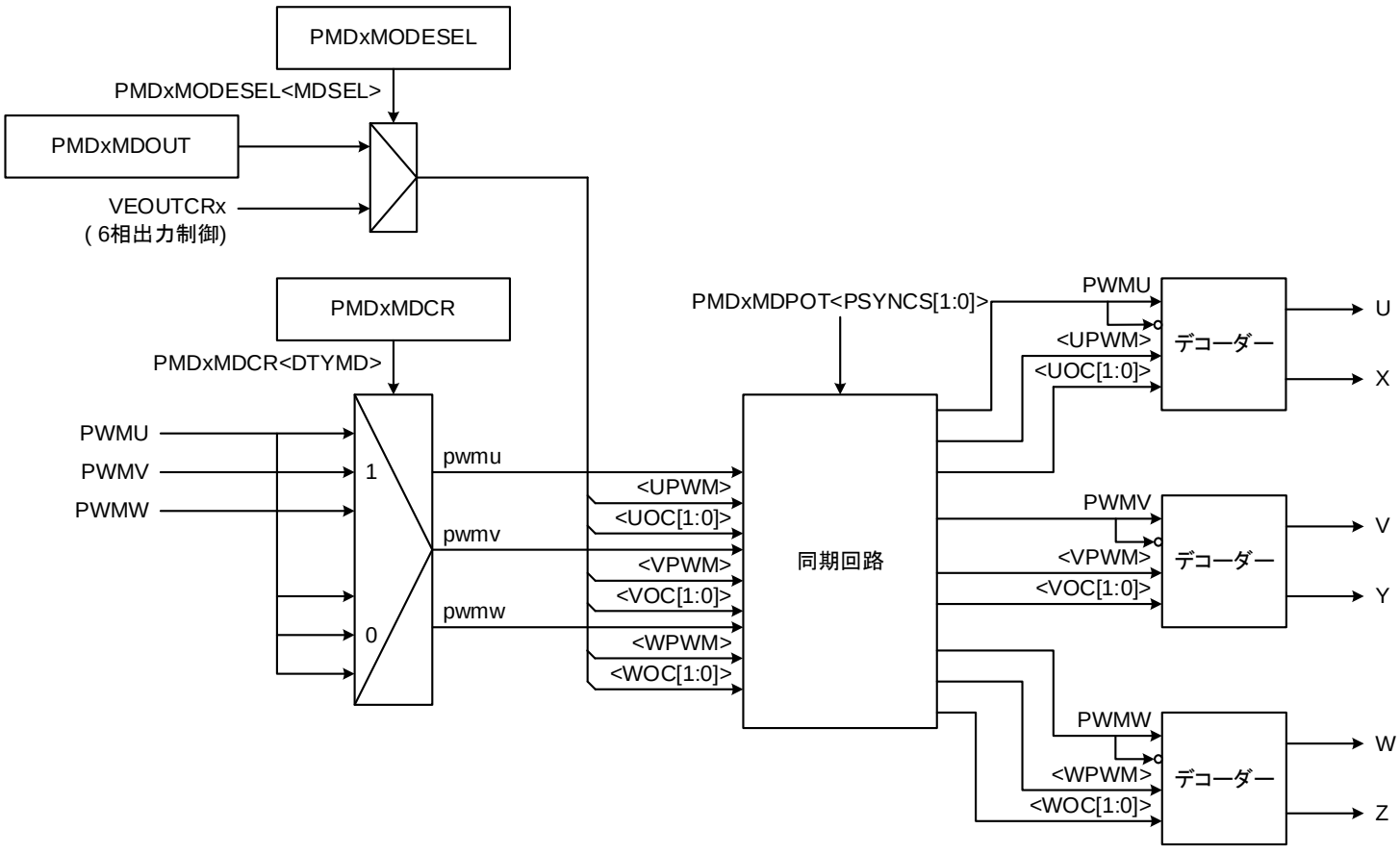


図 12.5 通電制御回路

表 12.1 PMDxMDOUTによる通電制御回路出力(PMDxMDPOT<POLH><POLL> = "00"のとき)

PMDxMDOUT <WOC[1:0]> <VOC[1:0]> <UOC[1:0]>	PMDxMDOUT <UPWM>、<VPWM>、<WPWM>			
	0: "High"/"Low"レベル出力		1: PWM出力	
	上相出力	下相出力	上相出力	下相出力
00	"High"レベル	"High"レベル	PWM出力	$\overline{\text{PWM}}$出力
01	"High"レベル	"Low"レベル	"High"レベル	$\overline{\text{PWM}}$出力
10	"Low"レベル	"High"レベル	$\overline{\text{PWM}}$出力	"High"レベル
11	"Low"レベル	"Low"レベル	$\overline{\text{PWM}}$出力	PWM出力

表 12.2 PMDxMDOUTによる通電制御回路出力(PMDxMDPOT<POLH><POLL> = "11"のとき)

PMDxMDOUT <WOC[1:0]> <VOC[1:0]> <UOC[1:0]>	PMDxMDOUT <UPWM>、<VPWM>、<WPWM>			
	0: "High"/"Low"レベル出力		1: PWM出力	
	上相出力	下相出力	上相出力	下相出力
00	"Low"レベル	"Low"レベル	$\overline{\text{PWM}}$出力	PWM出力
01	"Low"レベル	"High"レベル	"Low"レベル	PWM出力
10	"High"レベル	"Low"レベル	PWM出力	"Low"レベル
11	"High"レベル	"High"レベル	PWM出力	$\overline{\text{PWM}}$出力

1 シャント電流の検出は下記のように設定することで対応可能です。

表 12.3 1シャント電流の検出設定

レジスター	通常	U相PWMシフト	V相PWMシフト	W相PWMシフト
PMDxCMPU	duty_U	<MDPRD[15:0]>-duty_U	duty_U	duty_U
PMDxCMPV	duty_V	duty_V	<MDPRD[15:0]>-duty_V	duty_V
PMDxCMPW	duty_W	duty_W	duty_W	<MDPRD[15:0]>-duty_W
PMDxMDOUT <UOC[1:0]>	11	00	11	11
PMDxMDOUT <VOC[1:0]>	11	11	00	11
PMDxMDOUT <WOC[1:0]>	11	11	11	00

12.3.4.1. PMDxMDPOT (PMD 出力設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	POLH	POLL	PSYNCS	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:4	-	R	リードすると"0"が読めます。
3	POLH	R/W	PWM出力上相極性選択 0: "Low"アクティブ 1: "High"アクティブ
2	POLL	R/W	PWM出力下相極性選択 0: "Low"アクティブ 1: "High"アクティブ
1:0	PSYNCS[1:0]	R/W	PMDxMDOUTリロードタイミング選択 00: PWMカウンター非同期 01: PWMカウンター<MDCNT[15:0]> ＝ "0x0001"のときリロード 10: PWMカウンター<MDCNT[15:0]> ＝ PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>のときリロード 11: PWMカウンター<MDCNT[15:0]> ＝ "0x0001"またはPMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>のときリロード PMDxMDOUTのリロードタイミングを選択します。リロードタイミングでPWM出力が更新されます。 "00"を設定した場合、PMDxMDOUTの更新タイミングでPWM出力が更新されます。 VEからのVEOUTCR1に対しても有効です。

注) PMDxMDEN<PWMEN>が"0"に設定されているとき、設定してください。

12.3.4.2. PMDxMDOUT(PMD 出力コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	WPWM	VPWM	UPWM
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	WOC		VOC		UOC	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:11	-	R	リードすると"0"が読めます。
10	WPWM	R/W	U相、V相、W相出力制御 0: "High"/"Low"レベル出力 1: PWM出力 詳細については、表 12.1、表 12.2を参照してください。
9	VPWM	R/W	
8	UPWM	R/W	
7:6	-	R	リードすると"0"が読めます。
5:4	WOC[1:0]	R/W	U相、V相、W相出力制御 詳細については、表 12.1、表 12.2を参照してください。
3:2	VOC[1:0]	R/W	
1:0	UOC[1:0]	R/W	

注 1) 本レジスターに書き込んだデータをダブルバッファー後段に直ちにロードする場合は、PMDxMODESEL<MDSEL>に"0"を設定します。

注 2) このレジスターへのバイト転送命令による書き込み(上位 8bit([15:8])、下位 8bit([7:0])を別々に書き込む)をしないでください。

12.3.5. 保護制御回路

保護制御回路は、EMG 保護制御回路、OVV 保護制御回路部とポート出力禁止回路から構成されます。

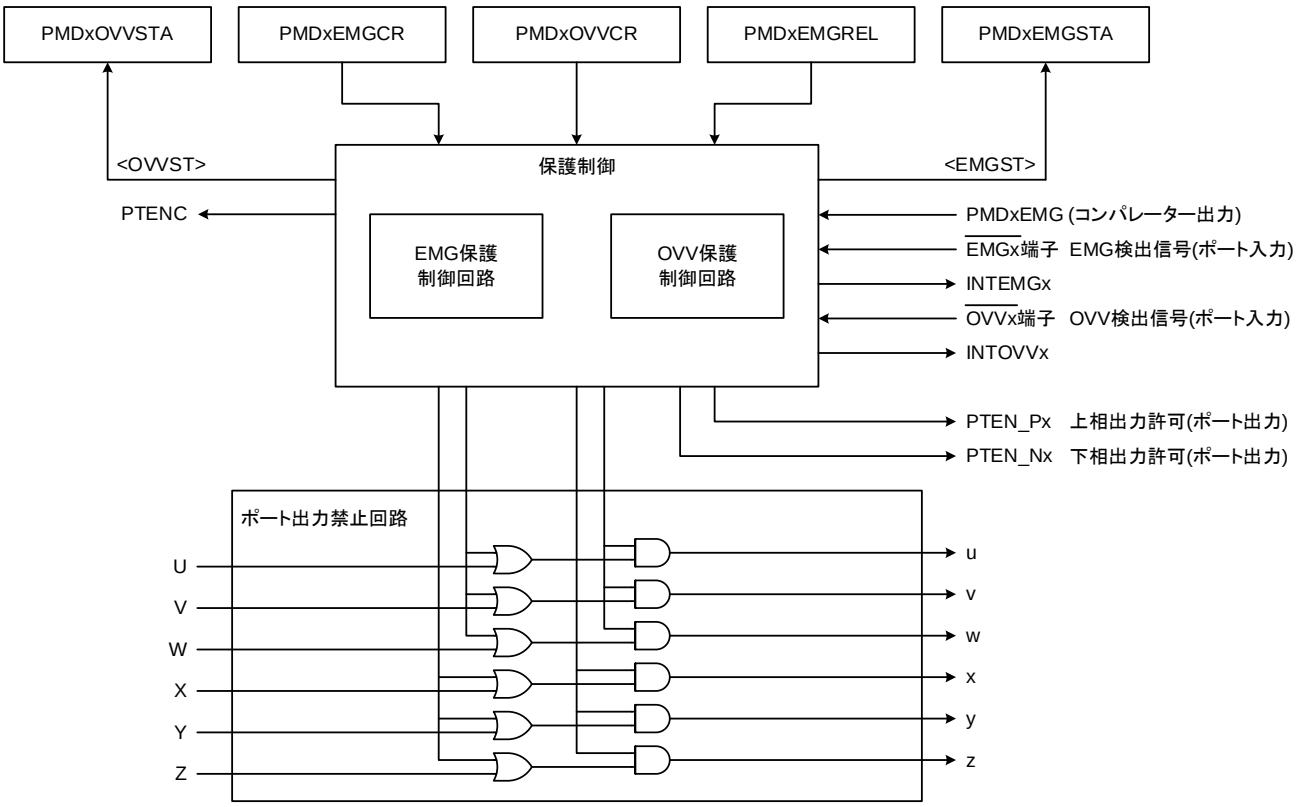


図 12.6 保護制御回路

12.3.5.1. EMG 保護制御回路

EMG 保護制御回路は緊急停止用保護回路です。ポート出力禁止回路と組み合わせて使用します。

EMG 保護制御回路の動作は PMDxEMGCR で設定します。
PMDxEMGCR<EMGEN>を"1"に設定すると EMG 保護制御回路の動作は許可されます。
EMG 入力が"Low"レベルになると PMD は緊急停止します。EMG 入力は、PMDxEMGCR<EMGISEL>で$\overline{\text{EMGx}}$端子入力と PMDxEMG(コンパレーター出力)から選択されます。

注) リセット解除後、EMG 保護制御回路は許可です。

- $\overline{\text{EMGx}}$端子
  $\overline{\text{EMGx}}$端子にはノイズフィルターが挿入されています。ノイズフィルターが除去するノイズ時間は PMDxEMGCR<EMGCNT[3:0]>で指定します。PMDxEMGCR<EMGCNT[3:0]>に"0000"を設定したとき、ノイズフィルターは無視されます。
- PMDxEMG(コンパレーター出力)
  PMDxEMG は、AMP/CMP のコンパレーターの出力信号です。詳細については「19. オペアンプ/アナログコンパレーター(AMP/CMP)」を参照してください。

注) EMG 保護制御回路許可の状態で PMDxEMGCR<EMGCNT[3:0]>を書き換えると EMG 保護中となることがあります。そのため、書き変えたときには「EMG 保護中の解除」を実行してください。

- 保護制御回路の動作
  EMG 入力が"Low"レベルになると、EMG 保護制御回路が動作し EMG 保護中になります。このとき、UOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx 出力端子を禁止するための制御信号を出力します。これにより各出力端子を直ちに禁止します。各出力端子の禁止時の出力は、PMDxEMGCR <EMGMD[1:0]>で設定します。また、EMG 割り込み(INTEMGx)を発生します。
  PMDxEMGSTA<EMGST>をリードしたときに、リードした値が"1"なら EMG 保護中であることを示します。

- EMG 保護中の解除
  PMDxMDOUT<WPWM>、<VPWM>、<UPWM>、<WOC[1:0]>、<VOC[1:0]>、<UOC[1:0]>を全て"0"を設定して UOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx 出力端子を全てインアクティブにします。
  その後、PMDxEMGCR<EMGRS>に"1"を設定して EMG 保護中を解除します。
  EMG 保護中を解除するときには、必ず、PMDxEMGSTA<EMGI>を読み出し"1"になったことを確認します。PMDxEMGSTA<EMGI>が"1"のとき、EMG 入力は"High"レベルです。EMG 入力が"Low"レベルで、解除シーケンスを実行しても、それは無視されます。

注) $\overline{\text{EMGx}}$端子入力と兼用となっている入出力ポートは、リセット解除後はポート機能が選択されていますが、EMG 保護制御回路は許可です。そのため、EMG 保護中になっている場合がありますので、下記の手順で、EMG 保護中を解除してください。

(1) ポートのファンクションレジスター(PxFRn)で EMG 機能を選択します。
(2) PMDxEMGSTA<EMGI>をリードし、"1"であることを確認します。
(3) PMDxMDOUT<WPWM>、<VPWM>、<UPWM>、<WOC[1:0]>、<VOC[1:0]>、<UOC[1:0]>を全て"0"に設定し、UOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx 出力端子を全てインアクティブにします。
(4) PMDxEMGCR<EMGRS>を"1"に設定し、EMG 保護中を解除します

- EMG 保護制御回路動作の禁止
  EMG 保護制御回路動作を禁止するには、PMDxEMGREL に"0x5A" → "0xA5"を設定します。その後、PMDxEMGCR<EMGEN>に"0"を設定します。誤って EMG 保護制御回路を禁止することを防止するため、3 命令連続して行う必要があります。

12.3.5.2. PMDxEMGREL(EMG 解除レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	EMGREL							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:0	EMGREL[7:0]	W	EMG保護制御回路/OVV保護制御回路禁止コード "0x5A"→"0xA5"に設定することによりEMG保護制御回路とOVV保護制御回路の禁止がされます。禁止コードを書き込んだ後に、PMDxEMGCR<EMGEN>または、PMDxEMGCR<OVVEN>に"0"を設定してください。

注) EMG 保護制御回路禁止時と OVV 保護制御回路禁止時のそれぞれで、禁止コードの書き込みが必要です。

12.3.5.3. PMDxEMGCR(EMG コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	EMGCNT			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	INHEN	EMGMD		EMGISEL	EMGRS	EMGEN
リセット後	0	0	1	1	1	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:12	-	R	リードすると"0"が読めます。
11:8	EMGCNT[3:0]	R/W	EMG入力検出時間 "0000" ~ "1111" ("0000"設定時はノイズフィルターをスルーます) $\overline{\text{EMGx}}$端子入力のノイズ除去時間を設定します。ノイズ除去時間は以下の計算式で表されます。 PMDxEMGCR<EMGCNT[3:0]> × 16 / fsys (分解能200ns@fsys = 80MHz)
7:6	-	R	リードすると"0"が読めます。
5	INHEN	R/W	ホールト時のPMDの許可/禁止 0: 禁止 1: 許可(初期状態は許可) ホールト時にPMDを停止させるかを選択します。
4:3	EMGMD[1:0]	R/W	EMG保護モード選択 00: 全相 "Hi-Z" 01: 全上相オン/全下相 "Hi-Z" 10: 全上相 "Hi-Z"/全下相オン 11: 全相 "Hi-Z" EMG保護制御回路が動作したときの、上相(UOx、VOx、WOx端子)および下相(XOx、YOx、ZOx端子)の出力を設定します。「オン」はPWM出力を示します。
2	EMGISEL	R/W	EMG入力選択 0: $\overline{\text{EMGx}}$端子入力 1: PMDxEMG(コンパレーター出力) 保護回路に入力させるEMG入力を$\overline{\text{EMGx}}$端子入力とPMDxEMG(コンパレーター出力)から選択されます。
1	EMGRS	R	リードすると"0"が読めます。
		W	EMG保護中からの解除 0: Don't care 1: EMG保護中からの解除 PMDxMDOUT<WPWM>、<VPWM>、<UPWM>、<WOC[1:0]>、<VOC[1:0]>、<UOC[1:0]>を全て"0"に設定します。PMDxEMGSTA<EMGI>が"1"になったことを確認してから、PMDxEMGCR <EMGRS>に"1"を設定することによりEMG保護中を解除します。
0	EMGEN	R/W	EMG保護制御回路の制御 0: 禁止 1: 許可 禁止するときはPMDxEMGRELに"0x5A"→"0xA5"を設定します。その後、PMDxEMGCR<EMGEN>に"0"を設定してください。3命令を連続して実行してください。

12.3.5.4. PMDxEMGSTA(EMG ステータスレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	EMGI	EMGST
リセット後	0	0	0	0	0	0	不定	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	EMGI	R	EMG入力状態 0: "Low"レベル入力 1: "High"レベル入力 リードすることにより、EMG入力の状態を知ることができます。
0	EMGST	R	EMG保護状態 0: 通常動作中 1: EMG保護中 リードすることにより、EMG保護の状態を知ることができます。

12.3.6. OVV 保護制御制御

OVV 保護制御回路は緊急停止用保護回路です。ポート出力禁止回路と組み合わせて使用します。

OVV 保護制御回路の動作は PMDxOVVCR で設定します。

PMDxOVVCR<OVVEN>を"1"に設定すると OVV 保護制御回路の動作は許可されます。OVV 入力が"Low"レベルになると PMD は緊急停止します。

注) リセット解除後、OVV 保護制御回路は禁止です。

- OVV 入力

  OVV 入力には、PMDxOVVCR<OVVISEL>で$\overline{\text{OVVx}}$端子入力と ADC 監視機能信号から選択できます。ADC 監視機能は PMDxOVVCR<ADIN0EN>、<ADIN1EN>で監視信号を禁止/許可できます。

  $\overline{\text{OVVx}}$端子にはノイズフィルターが挿入されています。ノイズフィルターが除去するノイズ時間は PMDxOVVCR<OVVCNT[3:0]>で指定します。PMDxOVVCR<OVVCNT[3:0]>に"0000"を設定したとき、"0001"を設定したとして動作します。PMDxOVVCR<OVVCNT[3:0]>は PMDxOVVCR<OVVISEL>が"1"に設定されているときのみ有効になります。

注) OVV 許可状態で PMDxOVVCR<OVVCNT[3:0]>を書き換えると OVV 保護状態になる可能性があります。そのため書き変えた場合は、「OVV 保護からの復帰」を実行してください。

- OVV 保護の動作

  OVV 入力がアクティブレベルになると、OVV 保護制御回路が動作し OVV 保護中になります。このとき、UOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx 出力端子を禁止するための制御信号を出力します。これにより各出力端子を直ちに禁止します。各出力端子の禁止時の出力は、PMDxOVVCR <OVVMD[1:0]>で設定します。また、OVV 割り込み(INTOVVx)を発生します。

  PMDxOVVSTA<OVVST>をリードしたときに、リードした値が"1"なら OVV 保護中であることを示します。

- OVV 保護中の解除

  PMDxOVVCR<OVVRS>に"1"を設定して OVV 保護中を解除します。

  OVV 保護中を解除するときには、必ず、PMDxOVVSTA<OVVI>を読み出し"1"になったことを確認します。PMDxOVVSTA<OVVI>が"1"のとき、OVV 入力はインアクティブレベルです。OVV 入力がアクティブレベルで、解除シーケンスを実行しても、それは無視されます。

  PMDxOVVCR<OVVRS>が"1"に設定されていると、OVV 入力がインアクティブレベルになった後の PWM カウンターと PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>が一致したタイミングで OVV 保護中が解除されます。

  ただし、PWM 0.5 周期割り込み設定のときには、PWM カウンターと"0x0001"または PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>が一致したタイミングで OVV 保護中が解除されます。

- OVV 保護制御回路動作の禁止
  OVV 保護制御回路動作を禁止するには、PMDxEMGREL に"0x5A" → "0xA5"を設定します。その後、PMDxOVVCR<OVVEN>に"0"を設定します。誤って OVV 保護制御回路を禁止することを防止するため、3 命令連続して行う必要があります。

12.3.6.1. PMDxOVVCR(OVV コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	OVVCNT			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	ADIN1EN	ADIN0EN	OVVMD		OVVISEL	OVVRS	OVVEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:12	-	R	リードすると"0"が読めます。
11:8	OVVCNT[3:0]	R/W	OVV入力検出時間(注1) "0000" ~ "1111" ("0000"設定時は"0001"設定として動作します。) OVV入力のノイズ除去時間を設定します。ノイズ除去時間は以下の計算式で表されます。 PMDxOVVCR<OVVCNT[3:0]> × 16 / fsys (分解能200ns@fsys = 80MHz)
7	-	R	リードすると"0"が読めます。
6	ADIN1EN	R/W	ADC監視信号1入力制御(注2) 0: 禁止 1: 許可 ADC監視機能1からの監視信号の許可/禁止を設定します。許可に設定し、かつOVV入力にADC監視信号を選択したときのみ、ADCの監視機能1の監視信号をOVV入力として使用できます。
6	ADIN0EN	R/W	ADC監視信号0入力制御(注2) 0: 禁止 1: 許可 ADC監視機能0からの監視信号の許可/禁止を設定します。許可に設定し、かつOVV入力にADC監視信号を選択したときのみ、ADCの監視機能0の監視信号をOVV入力として使用できます。
4:3	OVVMD[1:0]	R/W	OVV保護モード選択(注3) 00: 出力制御なし 01: 全上相オン/全下相オフ 10: 全上相オフ/全下相オン 11: 全相オフ OVV保護制御回路が動作したときの、上相(UOx、VOx、WOx端子)および下相(XOx、YOx、ZOx端子)の出力を設定します。「オン」はアクティブレベル出力、「オフ」はインアクティブレベル出力を示します。
2	OVVISEL	R/W	OVV入力選択(注1) 0 : $\overline{\text{OVV}}$x端子 1 : ADC監視信号 OVV保護制御回路に入力するOVV入力を選択します。
1	OVVRS	R/W	OVV保護中からの解除 0: Don't care 1: 保護中からの解除 PMDxOVVSTA<OVVI>が"1"になったことを確認してから、PMDxOVVCR<OVVRS>に"1"を設定することによりOVV保護中を解除します。
0	OVVEN	R/W	OVV保護制御回路の制御 0: 禁止 1: 許可 禁止するときはPMDxEMGRELに"0x5A"→"0xA5"を設定します。その後、PMDxOVVCR<OVVEN>に"0"を設定してください。3命令を連続して実行してください。

注 1) PMDxOVVCR<OVVISEL>が"1"に設定されているときのみ有効です。

注 2) ADC 監視機能の詳細は「11. 12 ビットアナログ/デジタルコンバーター(ADC)」の動作説明の"AD 監視機能"を参照してください。

注 3) OVV、EMG 保護制御回路が同時に動作したときは、PMDxEMGCR<EMGMD[1:0]>の設定が優先されます。

12.3.6.2. PMDxOVVSTA(OVV ステータスレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	OVVI	OVVST
リセット後	0	0	0	0	0	0	不定	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	OVVI	R	OVV入力状態 0: "Low"レベル入力 1: "High"レベル入力 リードすることにより、OVV入力の状態を知ることができます。
0	OVVST	R	OVV保護状態 0: 通常動作中 1: OVV保護中 リードすることにより、OVV保護の状態を知ることができます。

12.3.7. デバッガーでブレークしたときの保護制御

デバッガーでブレークしたときの PMD 保護制御時も UOx、VOx、WOx、XOx、YOx、ZOx 出力端子を禁止します。各出力端子の禁止時の出力は、PMDxPORTMD<PORTMD>で設定します。

12.3.8. デッドタイム回路

デッドタイム回路はデッドタイム回路と出力極性切替回路から構成されます。

デッドタイム回路は、上相(UOx、VOx、WOx 端子)、下相(XOx、YOx、ZOx 端子)が逆転する場合に上下相が短絡するのを回避するため、オン時間を遅延させます。

遅延時間は、PMDxDTR<DTR[7:0]>により 8 / fsys (100ns@fsys = 80MHz)の分解能で設定が可能です。

出力極性切替回路は、上相(UOx、VOx、WOx 端子)と下相(XOx、YOx、ZOx 端子)それぞれに対して、ハイアクティブ/ローアクティブを PMDxMDPOT<POLH>、<POLL>により設定します。

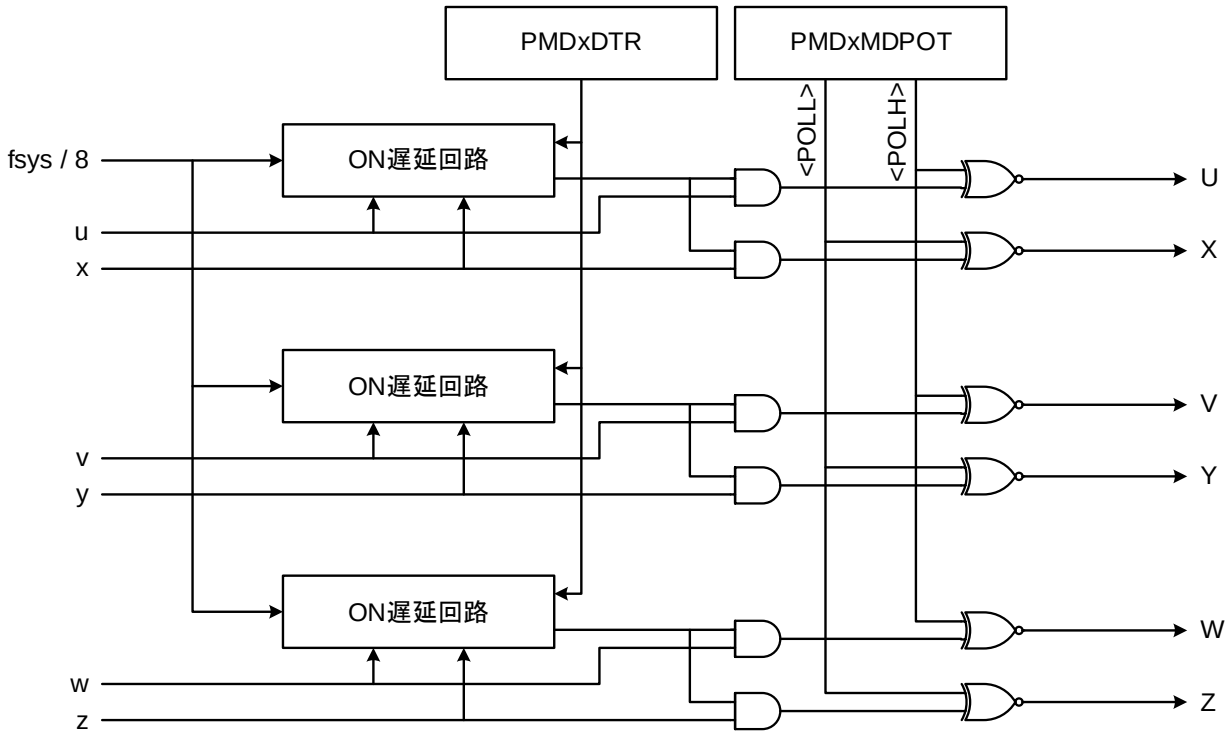


図 12.7　デッドタイム回路

12.3.8.1. PMDxDTR(デッドタイムレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	DTR							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:0	DTR[7:0]	R/W	デッドタイムを設定します。 "0x00" ~ "0xFF" デッドタイムは以下の計算式で表されます。 <DTR[7:0]> × 8 / fsys (最大25.5μs@fsys = 80MHz)

注) このレジスターは PMDxMDEN<PWMEN>が"0"のときに変更してください。

12.3.9. 同期トリガー生成回路

同期トリガー生成回路は相別 PWM キャリアーに同期して ADC のサンプリングを行うためのトリガー信号を生成します。

PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>と PMDxTRGCMPn<TRGCMPn[15:0]>が一致したときにトリガー信号(TRG0 ~ TRG3)を発生します。

発生タイミングは下記から選択します。

(1) アップカウント動作時の一致

(2) ダウンカウント動作時の一致

(3) アップおよびダウンカウント両動作での一致

エッジモード選択時はアップカウント時となります。

PMDxMDEN<PWMEN>が"0"のとき、トリガー信号は出力されません。

12.3.9.1. PMDxTRGCMPn (n = 0 ~3)の更新タイミング

PMDxTRGCMPn はダブルバッファー構造となっています。PMDxTRGCR<TRGnBE>に"0"を設定すると、ダブルバッファー後段の更新タイミングは PMDxTRGCR<TRGnMD[2:0]> で決まります。PMDxTRGCR<TRGnBE>に"1"を設定すると、PMDxTRGCMPn に書き込んだデータが、ダブルバッファー後段に直ちに転送されます。

表 12.4 トリガーコンペアレジスターの後段バッファー更新タイミング

PMDxTRGCR<TRGnMD[2:0]>	PMDxTRGCMPn<TRGCMPn[15:0]>ダブルバッファー後段更新タイミング
000: トリガー出力禁止	常にダブルバッファー後段更新
001: ダウンカウント時の一致でトリガー出力	キャリアーピーク(PMDxCNT<MDCNT[15:0]>とPMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>との一致)でダブルバッファー後段更新
010: アップカウント時の一致でトリガー出力	キャリアーボトム(PMDxCNT<MDCNT[15:0]>と"0x0001"との一致)でダブルバッファー後段更新
011: アップおよびダウンカウント時の一致でトリガー出力	キャリアーのピークとボトムでダブルバッファー後段更新
100: PWM キャリアーピークでトリガー出力	常にダブルバッファー後段更新
101 :PWM キャリアーボトムでトリガー出力	
110: PWM キャリアーピークおよびボトムでトリガー出力	
111: トリガー出力禁止	

12.3.9.2. トリガー出力パターン

トリガー出力モードをトリガー固定出力モードに設定(PMDxTRGMD<TRGOUT> = "0")すると ADC 同期トリガー信号(PMDxTRGn)は下記のように出力されます。

- PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>と PMDxTRGCMPn<TRGCMPn[15:0]>が一致したときに、PMDxTRGSEL<TRGSEL[2:0]>によらず、ADC 同期トリガー信号(PMDxTRGn)に出力されます。

トリガー選択出力モードに設定(PMDxTRGMD<TRGOUT> = "1")すると、ADC 同期トリガー信号(PMDxTRGn)は下記のように出力されます。

- PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>と PMDxTRGCMP0<TRGCMP0[15:0]>が一致したときに、PMDxTRGSEL<TRGSEL[2:0]>で選択した ADC 同期トリガー信号(PMDxTRGn)に出力されます。

表 12.5 トリガー出力

PMDxTRGMD <TRGOUT>	PMDxTRGCMPn コンペアレジスター	PMDxTRGSEL <TRGSEL[2:0]>	ADC同期トリガー出力
0	PMDxTRGCMP0	-	PMDxTRG0
	PMDxTRGCMP1		PMDxTRG1
	PMDxTRGCMP2		PMDxTRG2
	PMDxTRGCMP3		PMDxTRG3
1	PMDxTRGCMP0	000	PMDxTRG0
		001	PMDxTRG1
		010	PMDxTRG2
		011	PMDxTRG3
		100	PMDxTRG4
		101	PMDxTRG5
	PMDxTRGCMP1	-	トリガー出力なし
	PMDxTRGCMP2		トリガー出力なし
	PMDxTRGCMP3		トリガー出力なし

注) -: Don't care

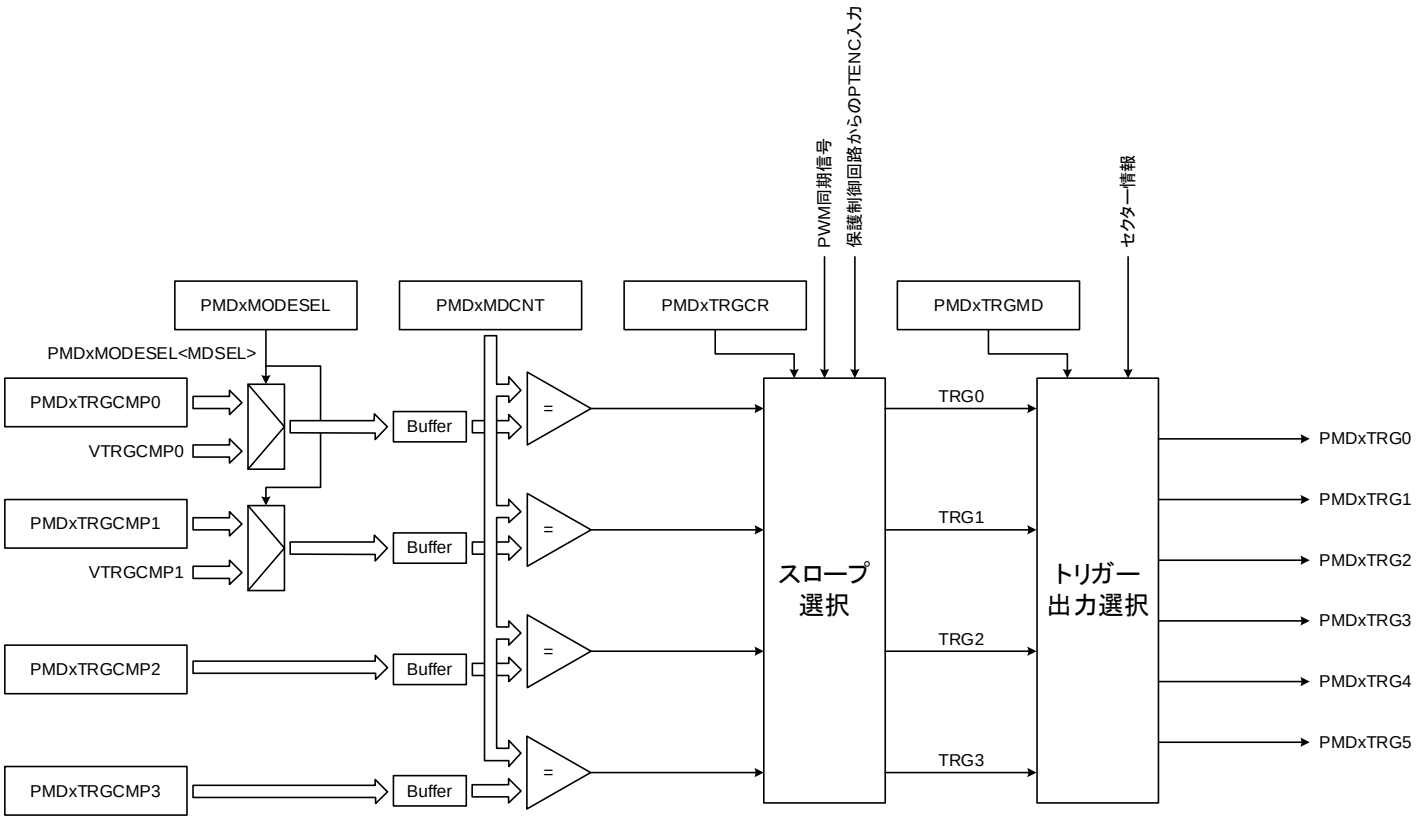


図 12.8　同期トリガー生成回路

12.3.9.3. PMDxTRGCMPn(トリガーコンペアレジスターn) (n = 0 ~ 3)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	TRGCMPn							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	TRGCMPn							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TRGCMPn[15:0]	R	リード時はダブルバッファー前段の値(バスから設定したデータ)が読めます。
		W	トリガーコンペアレジスター "0x0001" ~ PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]> - 1 上記以外: 設定禁止 PWMカウンターPMDxCNT<MDCNT[15:0]>とPMDxTRGCMPn<TRGCMPn[15:0]>が一致するとトリガー信号TRGnを出力します。

注 1) 本レジスターに書き込んだデータをダブルバッファー後段に直ちにロードする場合は、PMDxMODESEL<MDSEL>"0"を設定します。

注 2) このレジスターへのバイト転送命令による書き込み(上位 8bit([15:8])、下位 8bit([7:0])を別々に書き込む)をしないでください。

注 3) PMDxMDCR<PWMMD>に"0"(PWM モード 0)を設定し、PMDxTRGCMPn<TRGCMPn>に"0x0001"を設定すると、PMDxMDEN<PWMEN>に"1"を設定した後の最初の 1 周期はトリガー信号 TRGn が出力されません。

12.3.9.4. PMDxTRGCR(トリガーコントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	TRG3BE	TRG3MD			TRG2BE	TRG2MD		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	TRG1BE	TRG1MD			TRG0BE	TRG0MD		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15	TRG3BE	R/W	PMDxTRGCMP3のダブルバッファー後段の更新タイミング選択(注1) 0: 同期更新(注2) 1: 非同期更新(書き込み後、直ちに転送されます)
14:12	TRG3MD[2:0]	R/W	PMDxTRGCMP3のモード設定 000 : トリガー出力禁止 001 : ダウンカウント時の一致でトリガー出力 010 : アップカウント時の一致でトリガー出力 011 : アップおよびダウンカウント時の一致でトリガー出力 100 : PWMキャリアーピークでトリガー出力 101 : PWMキャリアーボトムでトリガー出力 110 : PWMキャリアーピークおよびボトムでトリガー出力 111 : トリガー出力禁止 トリガー出力TRG3の一致モードを選択します。 PMDxMDCR<PMDMD>でPWMモード0(ノコギリ波)を選択したときには、ダウンカウントの一致またはキャリアーボトムを選択しても、アップカウント時の一致またはキャリアーピークでの出力となります。 PMDxTRGCMP3<TRGCMP3[15:0]>に"0x0001"を設定し、かつPMDxMDCR<PWMMD>でモード1(三角波)を選択したときには、PMDxTRGCR<TRG3MD[2:0]>に"011"を設定すると、トリガー出力は1周期に1回となります。
11	TRG2BE	R/W	PMDxTRGCMP2のダブルバッファー後段の更新タイミング選択(注1) 0: 同期更新(注2) 1: 非同期更新(書き込み後、直ちに転送されます)
10:8	TRG2MD[2:0]	R/W	PMDxTRGCMP2のモード設定 000 : トリガー出力禁止 001 : ダウンカウント時の一致でトリガー出力 010 : アップカウント時の一致でトリガー出力 011 : アップおよびダウンカウント時の一致でトリガー出力 100 : PWMキャリアーピークでトリガー出力 101 : PWMキャリアーボトムでトリガー出力 110 : PWMキャリアーピークおよびボトムでトリガー出力 111 : トリガー出力禁止 トリガー出力TRG2の一致モードを選択します。 PMDxMDCR<PMDMD>でPWMモード0(ノコギリ波)を選択したときには、ダウンカウントの一致またはキャリアーボトムを選択しても、アップカウント時の一致またはキャリアーピークでの出力となります。 PMDxTRGCMP2<TRGCMP2[15:0]>に"0x0001"を設定し、かつPMDxMDCR<PWMMD>でモード1(三角波)を選択したときには、PMDxTRGCR<TRG2MD[2:0]>に"011"を設定すると、トリガー出力は1周期に1回となります。

7	TRG1BE	R/W	PMDxTRGCMP1のダブルバッファー後段の更新タイミング選択(注1) 0: 同期更新(注2) 1: 非同期更新(書き込み後、直ちに転送されます)
6:4	TRG1MD[2:0]	R/W	PMDxTRGCMP1のモード設定 000 : トリガー出力禁止 001 : ダウンカウント時の一致でトリガー出力 010 : アップカウント時の一致でトリガー出力 011 : アップおよびダウンカウント時の一致でトリガー出力 100 : PWMキャリアーピークでトリガー出力 101 : PWMキャリアーボトムでトリガー出力 110 : PWMキャリアーピークおよびボトムでトリガー出力 111 : トリガー出力禁止 トリガー出力TRG1の一致モードを選択します。 PMDxMDCR<PMDMD>でPWMモード0(ノコギリ波)を選択したときには、ダウンカウントの一致またはキャリアーボトムを選択しても、アップカウント時の一致またはキャリアーピークでの出力となります。 PMDxTRGCMP1<TRGCMP1[15:0]>に"0x0001"を設定し、かつPMDxMDCR<PWMMD>でモード1(三角波)を選択したときには、PMDxTRGCR<TRG1MD[2:0]>に"011"を設定すると、トリガー出力は1周期に1回となります。
3	TRG0BE	R/W	PMDxTRGCMP0のダブルバッファー後段の更新タイミング選択(注1) 0: 同期更新(注2) 1: 非同期更新(書き込み後、直ちに転送されます)
2:0	TRG0MD[2:0]	R/W	PMDxTRGCMP0のモード設定 000 : トリガー出力禁止 001 : ダウンカウント時の一致でトリガー出力 010 : アップカウント時の一致でトリガー出力 011 : アップおよびダウンカウント時の一致でトリガー出力 100 : PWMキャリアーピークでトリガー出力 101 : PWMキャリアーボトムでトリガー出力 110 : PWMキャリアーピークおよびボトムでトリガー出力 111 : トリガー出力禁止 トリガー出力TRG0の一致モードを選択します。 PMDxMDCR<PMDMD>でPWMモード0(ノコギリ波)を選択したときには、ダウンカウントの一致またはキャリアーボトムを選択しても、アップカウント時の一致またはキャリアーピークでの出力となります。 PMDxTRGCMP0<TRGCMP0[15:0]>に"0x0001"を設定し、かつPMDxMDCR<PWMMD>でモード1(三角波)を選択したときには、PMDxTRGCR<TRG0MD[2:0]>に"011"を設定すると、トリガー出力は1周期に1回となります。

注 1) PMDxMDEN<PWMEN>が"0"のときは、設定に関わらず非同期更新になります。

注 2) 更新タイミングは「表 12.4　トリガーコンペアレジスターの後段バッファー更新タイミング」を参照してください。

12.3.9.5. PMDxTRGMD(トリガー出力モード設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	TRGOUT	EMGTGE
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	TRGOUT	R/W	トリガー出力モード 0: トリガー固定出力モード 1: トリガー選択出力モード トリガー固定出力モードでは、トリガー出力PMDxTRG0 ~ PMDxTRG3はそれぞれ、PWMカウンターPMDxCNT <MDCNT[15:0]>がPMDxTRGCMP0<TRGCMP0> ~ PMDxTRGCMP3<TRGCMP3>と一致するとトリガー信号を出力します。PMDxTRG4、PMDxTRG5は出力されません。 トリガー選択出力モードでは、PWMカウンターPMDxCNT<MDCNT[15:0]>がPMDxTRGCMP0<TRGCMP0>と一致すると出力されるトリガー信号をトリガー出力PMDxTRG0 ~ PMDxTRG5のいずれかに出力します。トリガー出力はPMDxTRGSEL<TRGSEL[2:0]>で選択します。(注)
0	EMGTGE	R/W	EMG保護動作中の出力許可設定 0: 保護動作時トリガー出力禁止 1: 保護動作時トリガー出力許可

注) PMDxTRGMD<TRGOUT>に"1"を設定したときの、トリガー出力については「表 12.5 トリガー出力」を参照してください。

12.3.9.6. PMDxTRGSEL(トリガー出力選択)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	TRGSEL		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	TRGSEL[2:0]	R/W	トリガー出力選択 000: PMDxTRG0より出力 001: PMDxTRG1より出力 010: PMDxTRG2より出力 011: PMDxTRG3より出力 100: PMDxTRG4より出力 101: PMDxTRG5より出力 110: トリガー出力しない 111: トリガー出力しない トリガー選択出力がトリガー選択出力モードのとき(PMDxTRGMD<TRGOUT> =1)、有効となります。PWMカウンターPMDxCNT<MDCNT[15:0]>がPMDxTRGCMP0<TRGCMP0>一致すると出力されるトリガー信号の出力先を選択します。(表 12.5を参照してください。)

13. ベクトルエンジン(VE)

13.1. 概要

13.1.1. 特徴

(1) ベクトル制御で実行される基本的な処理(座標軸変換、相変換、SIN/COS 演算)の組み込み演算処理は固定小数点形式データで行われます。
→ソフトウェア処理では面倒な小数点位置管理不要

(2) PMD と ADC を制御するインターフェース(出力制御、トリガー生成、入力処理)の組み込み

- 固定小数点形式の演算結果を PMD の設定データ形式に変換
- 連携動作タイミングデータの生成
- AD 変換結果を固定少数点形式のデータに変換

(3) 電流、電圧、回転速度をそれぞれの最大値を基準に正規化した値で演算
この場合、小数は固定小数点形式

(4) 電流制御に PI 制御の組み込み

(5) 回転速度を積分する位相補間の組み込み

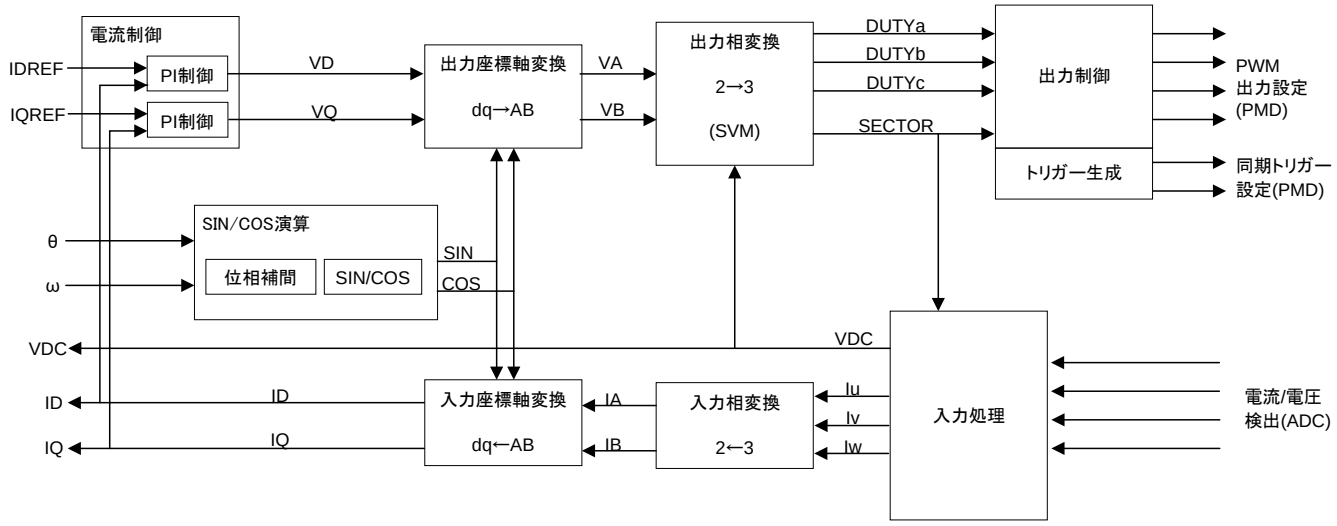


図 13.1 ベクトル制御の構成

13.1.2. 主な機能

(1) 2 相から 3 相への相変換には、空間ベクトル変換を採用。変換方式は、2 相変調と 3 相変調に対応します。

(2) トリガー生成では、センサーレス電流検出方式に対応する ADC のサンプリングタイミングを生成可能。電流検出は 1 シャント方式、3 シャント方式および 2 センサー方式に対応します。

(3) 電流制御には、d 軸と q 軸に独立した PI 制御を採用。電流制御処理を使用しないで直接電圧指令することも可能です。

(4) SIN/COS 演算には、級数展開を使った近似式を採用。位相指定は直接設定と回転速度から PWM 周期で積分する位相補間が可能です。

注 1) VE を使用する場合は PMD および ADC の設定が必要です。PMD の設定は、モード選択レジスター(PMDxMODESEL)で VE モードを選択します。

注 2) ADC の設定は、PMD からの同期トリガー毎のプログラム(トリガー許可、AIN 選択、結果レジスター選択)を設定します。

13.2. 構成

VE の構成を図 13.2 に示します。

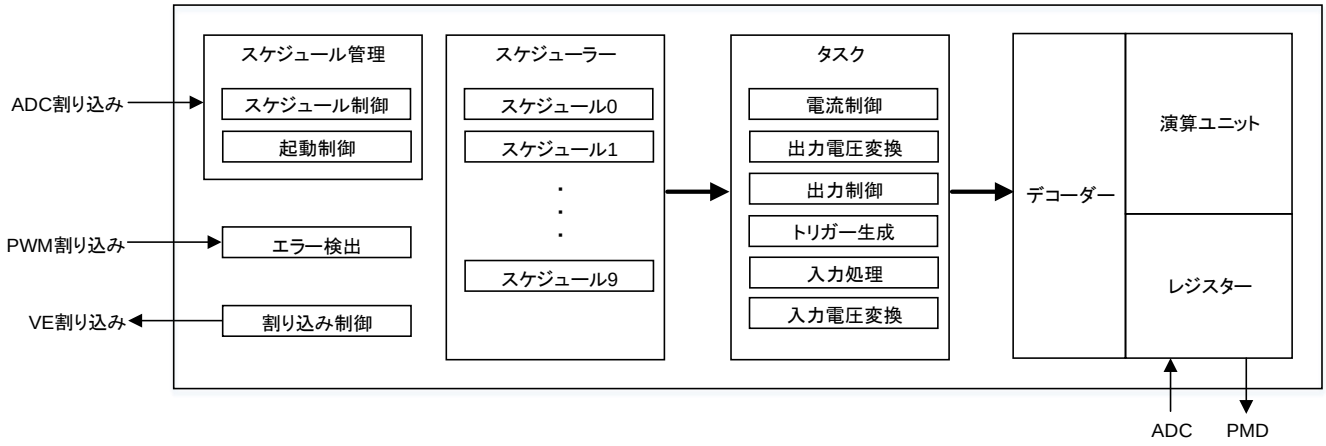


図 13.2 VE構成

13.2.1. VE と PMD および ADC の関連

VE は図 13.3 に示すように PMD および ADC と直接データの受け渡しができます。

PMD レジスターの PMDxCMPU、PMDxCMPV、PMDxCMPW、PMDxMDOUT、PMDxTRGCMP0、PMDxTRGCMP1、PMDxTRGSEL は PMDxMODESEL で VE モードに設定すると、それぞれ VE レジスターの VECMPUx、VECMPVx、VECMPWx、VEOUTCRx、VETRGCMP0x、VETRGCMP1x、VETRGSELx に切り替わります。この場合、CPU から PMD の該当レジスターの書き込みによる制御はできず、VE からの書き込みで制御します。その他の PMD のレジスターについては読み書き制限はありません。

ADC レジスターの ADxREG0、ADxREG1、ADxREG2、ADxREG3、ADxPSETn<UVWISn0[1:0]>、<UVWISn1[1:0]>、<UVWISn2[1:0]>、<UVWISn3[1:0]>はそれぞれ VE レジスターの VEADREG0x、VEADREG1x、VEADREG2x、VEADREG3x、VEPHNUM0x、VEPHNUM1x、VEPHNUM2x、VEPHNUM3x(これらは CPU からアクセスできない専用レジスター)に読み込まれます。CPU から ADC のレジスターへの読み書きの制限はありません。

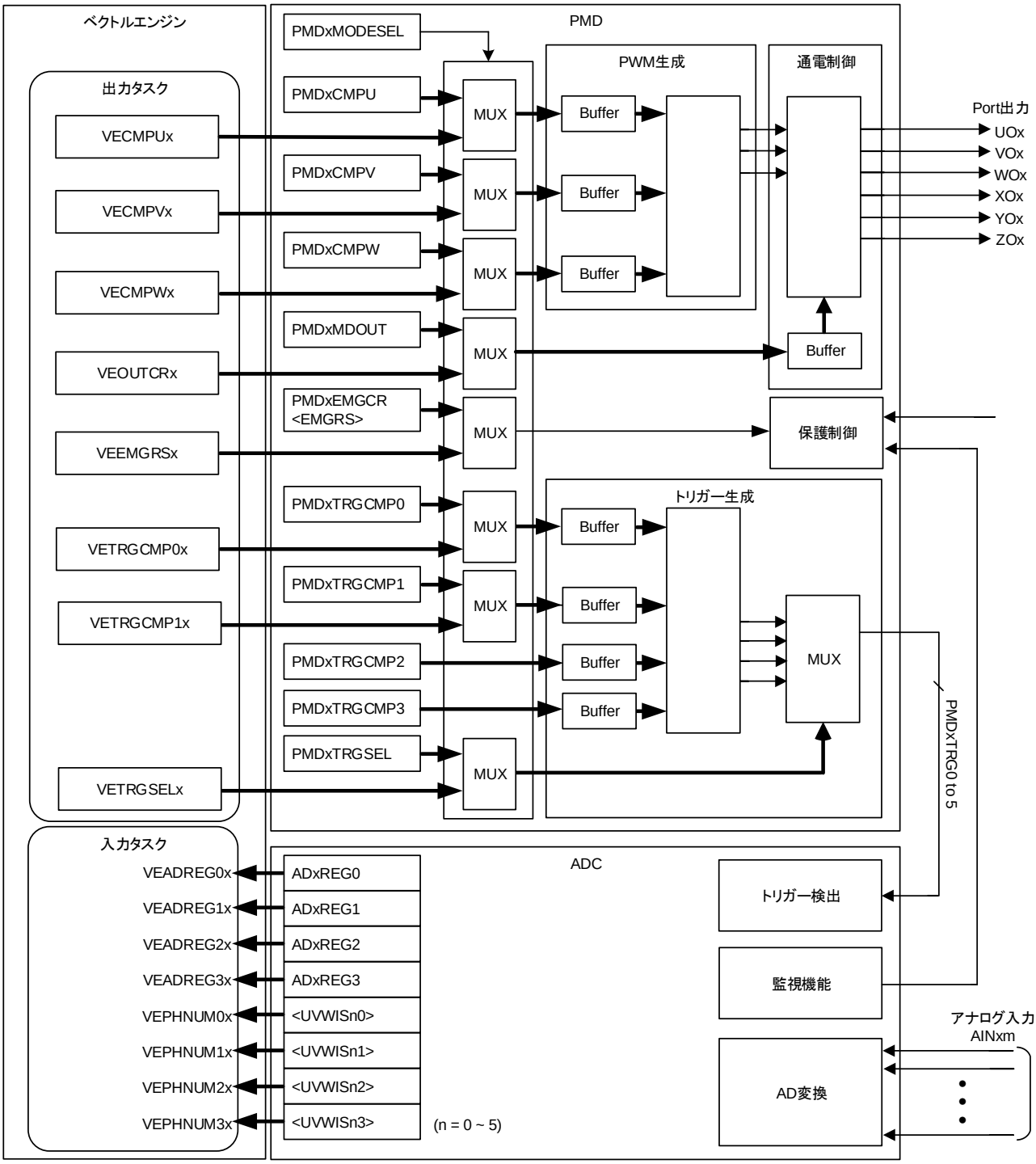


図 13.3 VEとPMDおよびADCの関連図

13.3. レジスター説明

VE は下記のとおり、3 つのレジスターが存在します。

- VE 制御レジスター
  VE 制御用レジスターおよびテンポラリーレジスター
- 共通レジスター
  チャネルで共通に使用するレジスター
- 専用レジスター
  チャネル毎の演算データおよび演算制御レジスター

13.3.1. レジスター一覧

13.3.1.1. VE 制御レジスター

レジスター名		Address (Base+)
VE動作許可/禁止レジスター	VEEN	0x0000
CPU起動トリガー選択レジスター	VECPURUNTRG	0x0004
タスク指定レジスター	VETASKAPP	0x0008
動作スケジュール選択レジスター	VEACTSCH	0x000C
動作スケジュール繰り返し回数指定レジスター	VEREPTIME	0x0010
起動トリガーモード設定レジスター	VETRGMODE	0x0014
エラー割り込み許可/禁止設定レジスター	VEERRINTEN	0x0018
VE強制終了レジスター	VECOMPEND	0x001C
エラー検出レジスター	VEERRDET	0x0020
スケジュール動作状態/実行中タスク番号レジスター	VESCHTASKRUN	0x0024
Reserved	-	0x0028
テンポラリー0レジスター	VETMPREG0	0x002C
テンポラリー1レジスター	VETMPREG1	0x0030
テンポラリー2レジスター	VETMPREG2	0x0034
テンポラリー3レジスター	VETMPREG3	0x0038
テンポラリー4レジスター	VETMPREG4	0x003C
テンポラリー5レジスター	VETMPREG5	0x0040
Reserved	-	0x01BC

注) "Reserved"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

13.3.1.2. 共通レジスター

レジスター名		Address (Base+)
Reserved	-	0x0174
AD変換時間設定(PWM クロック基準)レジスター	VETADC	0x0178

注) "Reserved"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

13.3.1.3. 専用レジスター

レジスター名		Address (Base+)
ステータスフラグレジスター	VEMCTLFx	0x0000
タスク制御モードレジスター	VEMODEx	0x0004
フロー制御レジスター	VEFMODEx	0x0008
PWM周期レート (PWM周期[s] × 最大速度(注1) × 2^{16}) 設定レジスター	VETPWMx	0x000C
回転速度(速度[Hz] ÷ 最大速度(注1) × 2^{15})設定 レジスター	VEOMEGAx	0x0010
モーター位相(モーター位相[deg] ÷ 360 × 2^{16})設定 レジスター	VETHETAx	0x0014
d軸基準電流値(電流[A] ÷ 最大電流(注2) × 2^{15}) 設定レジスター	VEIDREFx	0x0018
q軸基準電流値(電流[A] ÷ 最大電流(注2) × 2^{15}) 設定レジスター	VEIQREFx	0x001C
d軸電圧(電圧[V] ÷ 最大電圧(注3) × 2^{31})設定 レジスター	VEVDx	0x0020
q軸電圧(電圧[V] ÷ 最大電圧(注3) × 2^{31})設定 レジスター	VEVQx	0x0024
d軸電流制御PI制御積分項係数設定レジスター	VECIDKIx	0x0028
d軸電流制御PI制御比例項係数設定レジスター	VECIDKPx	0x002C
q軸電流制御PI制御積分項係数設定レジスター	VECIQKIx	0x0030
q軸電流制御PI制御比例項係数設定レジスター	VECIQKPx	0x0034
d軸電圧積分項保持(VDIの上位32bit)レジスター	VEVDIHx	0x0038
d軸電圧積分項保持(VDIの下位32bit)レジスター	VEVDILHx	0x003C
q軸電圧積分項保持(VQIの上位32bit)レジスター	VEVQIHx	0x0040
q軸電圧積分項保持(VQIの下位32bit)レジスター	VEVQILHx	0x0044
2相変調でシフトPWM許可時の回転速度 レジスター	VEFPWMCHGx	0x0048
PWM周期設定(PMDのPWM周期設定と同じ値を 設定)レジスター	VEMDPRDx	0x004C

レジスター名		Address (Base+)
最小パルス幅差設定レジスター	VEMINPLSx	0x0050
同期トリガー補正量設定レジスター	VETRGCRCx	0x0054
Reserved	–	0x0058
THETAでの余弦値出力変換用(Q15データ)レジスター	VECOSx	0x005C
THETAでの正弦値出力変換用(Q15データ)レジスター	VESINx	0x0060
前回の余弦値入力処理用(Q15データ)レジスター	VECOSMx	0x0064
前回の正弦値入力処理用(Q15データ)レジスター	VESINMx	0x0068
セクター情報レジスター	VESECTORx	0x006C
前回セクター情報レジスター	VESECTORMx	0x0070
a相ゼロ電流検出時のAD変換結果レジスター(注4)	VEIAOx	0x0074
b相ゼロ電流検出時のAD変換結果レジスター(注4)	VEIBOx	0x0078
c相ゼロ電流検出時のAD変換結果レジスター(注4)	VEICOx	0x007C
a相電流AD変換結果レジスター(注4)	VEIAADCx	0x0080
b相電流AD変換結果レジスター(注4)	VEIBADCx	0x0084
c相電流AD変換結果レジスター(注4)	VEICADCx	0x0088
DC電源電圧(電圧[V] ÷ 最大電圧(注3) × 2^{15})レジスター	VEVDCx	0x008C
d軸電流(電流[A] ÷ 最大電流(注2) × 2^{31})レジスター	VEIDx	0x0090
q軸電流(電流[A] ÷ 最大電流(注2) × 2^{31})レジスター	VEIQx	0x0094
PMD制御：U相PWMパルス幅設定レジスター	VECMPUx	0x00C0
PMD制御：V相PWMパルス幅設定レジスター	VECMPVx	0x00C4
PMD制御：W相PWMパルス幅設定レジスター	VECMPWx	0x00C8
PMD制御：6相出力制御レジスター	VEOUTCRx	0x00CC
PMD制御：トリガータイミング設定(TRGCMP0)レジスター	VETRGCMP0x	0x00D0
PMD制御：トリガータイミング設定(TRGCMP1)レジスター	VETRGCMP1x	0x00D4
PMD制御：同期トリガー指定レジスター	VETRGSELx	0x00D8
PMD制御：EMG復帰設定レジスター	VEEMGRSx	0x00DC

注 1) 最大速度: 制御あるいは動作可能な最大回転数[Hz]

注 2) 最大電流: 相電流の AD 変換結果をゼロレベル補正した後に"0x7FF0"になる場合の電流値[A]

注 3) 最大電圧: 電源電圧(VDC)の AD 変換結果が"0xFFF0"になる場合の電圧値[V]

注 4) AD 変換結果は 16bit レジスターの上位 12bit に保存されます

注 5) "Reserved"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

13.3.2. VE 制御レジスター

13.3.2.1. VEEN(VE 動作許可/禁止レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	VEIDLEN	VEEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	VEIDLEN	R/W	IDLEモード時のクロック動作制御 0: 停止 1: 動作
0	VEEN	R/W	VE動作制御 0: 禁止 1: 許可

13.3.2.2. VECPURUNTRG(CPU 起動トリガー選択レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	VCPURTB	VCPURTA
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	VCPURTB	R	リードすると"0"が読めます。
		W	VE ch1をソフトウェアで起動(注1) 0: - 1: 動作開始
0	VCPURTA	R	リードすると"0"が読めます。
		W	VE ch0をソフトウェアで起動(注1) 0: - 1: 動作開始

注 1) "1"を書き込んでも、次のサイクルでクリアされます。

注 2) 動作開始されるタスクは VETASKAPP と VEACTSCH の設定により決まります。

注 3) スケジュール実行中に、同じチャネルのタスクを再起動する場合、VECOMPEND で対応するチャネルを強制終了してから、再度、VECPURUNTRG で動作を開始させてください。

13.3.2.3. VETASKAPP(タスク指定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	VTASKB				VTASKA			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:4	VTASKB[3:0]	R/W	VEの開始タスクを指定 0x0: 出力制御 0x1: トリガー生成 0x2: 入力処理 0x3: 入力相変換 0x4: 入力座標軸変換 0x5: 電流制御 0x6: SIN/COS演算 0x7: 出力座標軸変換 0x8: 出力相変換 0x9 ~ 0xF: 設定禁止 VE ch1をソフトウェアで起動するときの開始タスクを指定します。
3:0	VTASKA[3:0]	R/W	VEの開始タスクを指定 0x0: 出力制御 0x1: トリガー生成 0x2: 入力処理 0x3: 入力相変換 0x4: 入力座標軸変換 0x5: 電流制御 0x6: SIN/COS演算 0x7: 出力座標軸変換 0x8: 出力相変換 0x9 ~ 0xF: 設定禁止 VE ch0をソフトウェアで起動するときの開始タスクを指定します。

注) 動作スケジュールに含まれているタスク以外を指定しないでください。

13.3.2.4. VEACTSCH(動作スケジュール選択レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	VACTB				VACTA			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:4	VACTB[3:0]	R/W	VE ch1の動作スケジュールを指定 0x0: タスク実行 0x1: スケジュール1 0x4: スケジュール4 0x9: スケジュール9 その他: 設定禁止
3:0	VACTA[3:0]	R/W	VE ch0の動作スケジュールを指定 0x0: タスク実行 0x1: スケジュール1 0x4: スケジュール4 0x9: スケジュール9 その他: 設定禁止

13.3.2.5. VEREPTIME(動作スケジュール繰り返し回数指定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	VREPB				VREPA			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:4	VREPB[3:0]	R/W	VE ch1動作スケジュールの繰り返し回数指定(注) 0: スケジュール実行しない 1 ~ 15: 設定回数だけスケジュール実行する
3:0	VREPA[3:0]	R/W	VE ch0動作スケジュールの繰り返し回数指定(注) 0: スケジュール実行しない 1 ~ 15: 設定回数だけスケジュール実行する

注) "0"設定時はスケジュール動作しません。

13.3.2.6. VETRGMODE(起動トリガーモード設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	-	-	VTRGB		VTRGA	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:4	-	R	リードすると"0"が読めます。
3:2	VTRGB[1:0]	R/W	VE ch1のトリガーモード 00：INTADAPDB(ADCユニットA、PMD ch1トリガー変換終了割り込み)、INTADBPDB(ADCユニットB、PMD ch1トリガー変換終了割り込み)とも無視 01：INTADAPDB(ADCユニットA、PMD ch1トリガー変換終了割り込み)で起動 10：INTADBPDB(ADCユニットB、PMD ch1トリガー変換終了割り込み)割り込みで起動 11：INTADAPDB(ADCユニットA、PMD ch1トリガー変換終了割り込み)、INTADBPDB(ADCユニットB、PMD ch1トリガー変換終了割り込み)(ADC ユニットB)両方が揃うと起動
1:0	VTRGA[1:0]	R/W	VE ch0のトリガーモード 00：INTADAPDA(ADCユニットA、PMD ch0トリガー変換終了割り込み)、INTADBPDA(ADCユニットB、PMD ch0トリガー変換終了割り込み)とも無視 01：INTADAPDA(ADCユニットA、PMD ch0トリガー変換終了割り込み)で起動 10：INTADBPDA(ADCユニットB、PMD ch0トリガー変換終了割り込み)割り込みで起動 11：INTADAPDA(ADCユニットA、PMD ch0トリガー変換終了割り込み)、INTADBPDA(ADCユニットB、PMD ch0トリガー変換終了割り込み)(ADC ユニットB)両方が揃うと起動

13.3.2.7. VEERRINTEN(エラー割り込み許可/禁止設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	VERRENB	VERRENA
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	VERRENB	R/W	VE ch1エラー検出時の割り込み制御 0: 禁止 1: 許可
0	VERRENA	R/W	VE ch0エラー検出時の割り込み制御 0: 禁止 1: 許可

13.3.2.8. VECOMPEND(VE 強制終了レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	VCENDB	VCENDA
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	VCENDB	R	リードすると"0"が読めます。
		W	VE ch1動作中のスケジュール強制終了(注) 0: - 1: 停止
0	VCENDA	R	リードすると"0"が読めます。
		W	VE ch0動作中のスケジュール強制終了(注) 0: - 1: 停止

注) "1"を書き込んでも次のサイクルでクリアされます。

13.3.2.9. VEERRDET(エラー検出レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	VERRDB	VERRDA
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	VERRDB	R	VE ch1エラーフラグ 0: エラー未検出 1: エラー検出 スケジュールを実行中(起動トリガー待ちを含まない)にPWM割り込みを検知するとエラーフラグに"1"がセットされます。
0	VERRDA	R	VE ch0エラーフラグ 0: エラー未検出 1: エラー検出 スケジュールを実行中(起動トリガー待ちを含まない)にPWM割り込みを検知するとエラーフラグに"1"がセットされます。

注) エラーフラグはレジスターをリードするとクリアされます。

13.3.2.10. VESCHTASKRUN(スケジュール動作状態/実行中タスク番号レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	VRTASKB	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	VRTASKB		VRSCHB	VRTASKA				VRSCHA
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:10	-	R	リードすると"0"が読めます。
9:6	VRTASKB[3:0]	R	VE ch1の実行中タスク番号 0x0: 出力制御 0x1: トリガー生成 0x2: 入力処理 0x3: 入力相変換 0x4: 入力座標軸変換 0x5: 電流制御 0x6: SIN/COS演算 0x7: 出力座標軸変換 0x8: 出力相変換 0x9 ~ 0xF: 設定禁止
5	VRSCHB	R	VE ch1スケジュール動作状態 0: 停止 1: 実行中
4:1	VRTASKA[3:0]	R	VE ch0の実行中タスク番号 0x0: 出力制御 0x1: トリガー生成 0x2: 入力処理 0x3: 入力相変換 0x4: 入力座標軸変換 0x5: 電流制御 0x6: SIN/COS演算 0x7: 出力座標軸変換 0x8: 出力相変換 0x9 ~ 0xF: 設定禁止
0	VRSCHA	R	VE ch0スケジュール動作状態 0: 停止 1: 実行中

13.3.2.11. VETMPREGn(テンポラリーn レジスター)(n = 0 ~ 5)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	TMPREGn							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	TMPREGn							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	TMPREGn							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	TMPREGn							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:0	TMPREGn[31:0]	R/W	テンポラリーnレジスター

13.3.3. 共通レジスター

13.3.3.1. VETADC(AD 変換時間設定(PWM クロック基準)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	TADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	TADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TADC[15:0]	R/W	AD変換時間 "0x0000" ~ "0xFFFF": (AD変換時間[s] ÷ PWMカウンタークロック周期[s]を設定)

注) 1 シャント電流検出方式でシフト PWM 許可時に有効

13.3.4. 専用レジスター

13.3.4.1. VEMCTLFx(ステータスフラグレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	PLSLFM	PLSLF	-	LVTF	LAVFM	LAVF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:6	-	R/W	"0"をライトしてください。
5	PLSLFM	R/W	<PLSLF>の前回値
4	PLSLF	R/W	パルス幅最小フラグ 0: 最小パルス幅差 ≧ VEMINPLSx<MINPLS>の場合 1: 最小パルス幅差 < VEMINPLSx<MINPLS>の場合
3	-	R/W	"0"をライトしてください。
2	LVTF	R/W	電源電圧低下フラグ 0: VEVDCx<VDC> ≧ 1/128の場合 1:VEVDCx<VDC> < 1/128の場合
1	LAVFM	R/W	VEMCTLFx<LAVF>の前回値
0	LAVF	R/W	低速度フラグ 0: VEOMEGAx<OMEGA> ≧ VEFPWMCHGx<FPWMCHG>の場合(高速) 1: VEOMEGAx<OMEGA> < VEFPWMCHGx<FPWMCHG>の場合(低速)

13.3.4.2. VEMODEx(タスク制御モードレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	-	-	OCRMD		ZIEN	PVIEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:4	-	R/W	"0"をライトしてください。
3:2	OCRMD[1:0]	R/W	出力制御動作 00: 出力オフ 01: 出力許可 10: 設定禁止 11: EMG復帰
1	ZIEN	R/W	ゼロ電流検出制御 0: 禁止 1: 許可
0	PVIEN	R/W	位相補間制御 0: 禁止 1: 許可

13.3.4.3. VEFMODEx(フロー制御レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	MREGDIS	CRCEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	ADCSEL		-	PMDSEL	IDMODE		SPWMEN	C2PEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:10	-	R/W	"0"をライトしてください。
9	MREGDIS	R/W	SIN/COS/SECTOR前回値保持選択 0: 許可 1: 禁止 禁止時は、VESINMx = VESINx、VECOSMx = VECOSx、VESECTORMx = VESECTORx
8	CRCEN	R/W	トリガー補正許可 0: 禁止 1: 許可
7:6	ADCSEL[1:0]	R/W	使用ADCユニット選択 00: ユニットA 01: ユニットB 10: ユニットA、B 11: ユニットA、B VEのチャネルに合わせ以下のように設定してください。 VE ch0: 使用ADCユニット AまたはA、B VE ch1: 使用ADCユニット BまたはA、B
5	-	R/W	"0"をライトしてください。
4	PMDSEL	R/W	使用PMDチャネル選択 0: チャネル0 1: チャネル1 VEのチャネルに合わせ以下のように設定してください。 VE ch0: 使用PMDチャネル チャネル0 VE ch1: 使用PMDチャネル チャネル1
3:2	IDMODE	R/W	電流検出モード 00: 3シャント 01: 2センサー 10: 1シャント(PMDTRGアップカウンター(注)) 11: 1シャント(PMDTRGダウンカウンター(注))
1	SPWMEN	R/W	シフトPWM許可 0: 禁止 1: 許可
0	C2PEN	R/W	変調モード選択 0: 3相変調 1: 2相変調

注) 1 シャントモード使用時の PMDTRG の設定値は、下記を参照してください。

VEFMODEx <IDMODE[1:0]>	PMDxTRGCR <TRG0MD[2:0]>	PMDxTRGCR <TRG1MD[2:0]>
10	010(アップカウント)	010(アップカウント)
10	101(キャリアーボトム)	010(アップカウント)
11	001(ダウンカウント)	001(ダウンカウント)
11	001(ダウンカウント)	101(キャリアーボトム)

13.3.4.4. VETPWMx(PWM 周期レート(PWM 周期[s] × 最大速度 × 2^{16})設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	TPWM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	TPWM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TPWM[15:0]	R/W	PWM周期レート設定、位相補間時の積分単位を設定、16ビット固定小数点データ"0.0" ~ "1.0" "0x0000" ~ "0xFFFF": PWM周期[s] × Max_Hz × 2^{16} PWM周波数と最大回転数との比を表します。 (Max_Hz: 最大回転数)

13.3.4.5. VEOMEGAx(回転転速度(速度[Hz] ÷ 最大速度 × 2^{15})設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	OMEGA							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	OMEGA							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	OMEGA[15:0]	R/W	回転速度設定、16ビット固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" "0x0000" ~ "0xFFFF": 回転速度[Hz] ÷ Max_Hz × 2^{15} (Max_Hz: 最大回転数)

13.3.4.6. VETHETAx(モーター位相(モーター位相[deg] ÷ 360 × 2^{16})設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	THETA							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	THETA							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	THETA[15:0]	R/W	位相設定、16ビット固定小数点データ"0.0" ~ "1.0" 計算式: 位相[deg] ÷ 360 × 2^{16}

13.3.4.7. VEIDREFx(d 軸基準電流値(電流[A] ÷ 最大電流 × 2^{15})設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	IDREF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	IDREF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	IDREF[15:0]	R/W	d軸電流指令値16bit固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" "0x0000" ~ "0xFFFF"(d軸電流指令[A] ÷ Max_I × 2^{15}) Max_I: (AD変換値が1LSB変化する相電流の変化量[A]) × 2^{11}

13.3.4.8. VEIQREFx(q 軸基準電流値(電流[A] ÷ 最大電流 × 2^{15})設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	IQREF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	IQREF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	IQREF[15:0]	R/W	q軸電流指令値16bit固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" "0x0000" ~ "0xFFFF"(q軸電流指令[A] ÷ Max_I × 2^{15}) Max_I：(ACD変換値が1LSB変化する相電流の変化量[A]) × 2^{11}

13.3.4.9. VEVDx(d 軸電圧(電圧[V] ÷ 最大電圧 × 2^{31})設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	VD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	VD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	VD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	VD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:0	VD[31:0]	R/W	d軸電圧、32bit固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" "0x0000_0000" ~ "0xFFFF_FFFF"(d軸電圧 ÷ Max_V × 2^{31}) Max_V：(AD変換値が1LSB変化する電源電圧の変化量[V]) × 2^{12}

13.3.4.10. VEVQx(q 軸電圧(電圧[V] ÷ 最大電圧 × 2^{31})設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	VQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	VQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	VQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	VQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:0	VQ[31:0]	R/W	q軸電圧、32bit固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" "0x0000_0000" ~ "0xFFFF_FFFF"(q軸電圧 ÷ Max_V × 2^{31}) Max_V: (AD変換値が1LSB変化する電源電圧の変化量[V]) × 2^{12}

13.3.4.11. VECIDKIx(d 軸電流制御 PI 制御積分項係数設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	CIDKI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	CIDKI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます
15:0	CIDKI[15:0]	R/W	d軸PI制御積分係数"0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.12. VECIDKPx(d 軸電流制御 PI 制御比例項係数設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	CIDKP							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	CIDKP							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます
15:0	CIDKP[15:0]	R/W	d軸PI制御比例係数"0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.13. VEVCIQKIx(q 軸電流制御 PI 制御積分項係数設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	CIQKI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	CIQKI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます
15:0	CIQKI[15:0]	R/W	q軸PI制御積分係数"0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.14. VECIQKPx(q 軸電流制御 PI 制御比例項係数設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	CIQKP							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	CIQKP							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます
15:0	CIQKP[15:0]	R/W	q軸PI制御比例係数"0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.15. VEVDIHx(d 軸電圧積分項保持(VDI の上位 32bit)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	VDIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	VDIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	VDIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VDIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:0	VDIH[31:0]	R/W	d軸PI制御の積分項(VDI)の上位32bit

13.3.4.16. VEVDILHx(d 軸電圧積分項保持(VDI の下位 32bit)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	VDILH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	VDILH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	VDILH[15:0]	R/W	d軸PI制御の積分項(VDI)の下位32bit、ただし下位16bitは"0x0000"固定
15:0	-	R	リードすると"0"が読めます。

注) VDI は 64bit 固定小数点データ(小数 63bit"-1.0" ~ "1.0")

13.3.4.17. VEVQIHx(q 軸電圧積分項保持(VQI の上位 32bit)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	VQIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	VQIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	VQIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VQIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:0	VQIH[31:0]	R/W	q軸PI制御の積分項(VQI)の上位32bi

13.3.4.18. VEVQILHx(q 軸電圧積分項保持(VQI の下位 32bit)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	VQILH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	VQILH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	VQILH[15:0]	R/W	q軸PI制御の積分項(VQI)の下位32bit、ただし下位16bitは"0x0000"固定
15:0	-	R	リードすると"0"が読めます。

注) VQI は 64bit 固定小数点データ(小数 63bit"-1.0" ~ "1.0")

13.3.4.19. VEFPWMCHGx(2 相変調でシフト PWM 許可時の回転速度レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	FPWMCHG							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	FPWMCHG							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	FPWMCHG[15:0]	R/W	シフトPWM許可時のPWM回転速度設定 回転速度[Hz] ÷ Max_Hz × 2^{15}を設定 (Max_Hz: 最大回転数[Hz])

13.3.4.20. VEMDPRDx(PWM 周期設定(PMD の PWM 周期設定と同じ値を設定)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	VMDPRD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VMDPRD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	VMDPRD[15:0]	R/W	PWM周期設定 PMDのPMDxMDPRDの値を設定します。

13.3.4.21. VEMINPLSx(最小パルス幅差設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	MINPLS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	MINPLS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	MINPLS[15:0]	R/W	最小パルス幅差(3相PWM(VECMPUx、VECMPVx、VECMPWx)のDuty差の最小値) 設定値: パルス幅差[s] ÷ PWMカウンタークロック周期[s]

13.3.4.22. VETRGCRCx(同期トリガー補正量設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	TRGCRC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TRGCRC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	TRGCRC[15:0]	R/W	同期トリガータイミングを補正 設定値: 補正時間[s] ÷ PWMカウンタークロック周期[s]

13.3.4.23. VECOSx(THETA での余弦値出力変換用(Q15 データ)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	COS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	COS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	COS[15:0]	R/W	THETA値での余弦値、16bit固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" "0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.24. VESINx(THETA での正弦値出力変換用(Q15 データ)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	SIN							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	SIN							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	SIN[15:0]	R/W	THETA値での正弦値、16bit固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" "0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.25. VECOSMx(前回の余弦値入力処理用(Q15 データ)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	COSM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	COSM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	COSM[15:0]	R/W	VECOSxの前回値保存 "0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.26. VESINMx(前回の正弦値入力処理用(Q15 データ)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	SINM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	SINM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	SINM[15:0]	R/W	VESINxの前回値保存 "0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.27. VESECTORx(セクター情報レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	SECTOR			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:4	-	R	リードすると"0"が読めます。
3:0	SECTOR[3:0]	R/W	セクター情報 設定値: "0x0" ~ "0xF" 出力時の回転位置を30度毎の12エリアに分けてセクターで表します。

13.3.4.28. VESECTORMx(前回セクター情報レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	SECTORM			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:4	-	R	リードすると"0"が読めます。
3:0	SECTORM[3:0]	R/W	前回のセクター情報 設定値: "0x0" ~ "0xF" 入力処理で使用します。

13.3.4.29. VEIAOx(a 相ゼロ電流検出時の AD 変換結果レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	IAO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	IAO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	IAO[15:0]	R/W	a相ゼロ電流時AD変換結果保存(モーター停止時のa相電流のAD変換結果を保存)

注 1) ゼロ電流検出許可時に AD 変換結果が自動で保存されます。

注 2) AD 変換結果は上位 12bit に保存されます。下位 4bit は常に"0"です。

13.3.4.30. VEIBOx(b 相ゼロ電流検出時の AD 変換結果レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	IBO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	IBO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	IBO[15:0]	R/W	b相ゼロ電流時AD変換結果保存(モーター停止時のb相電流のAD変換結果を保存)

注 1) ゼロ電流検出許可時に AD 変換結果が自動で保存されます。

注 2) AD 変換結果は上位 12bit に保存されます。下位 4bit は常に"0"です。

13.3.4.31. VEICOx(c 相ゼロ電流検出時の AD 変換結果レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	ICO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	ICO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	ICO[15:0]	R/W	c相ゼロ電流時AD変換結果保存(停止時のc相電流のAD変換結果を保存)

注 1) ゼロ電流検出許可時に AD 変換結果が自動で保存されます。

注 2) AD 変換結果は上位 12bit に保存されます。下位 4bit は常に"0"です。

13.3.4.32. VEIAADCx(a 相電流 AD 変換結果レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	IAADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	IAADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	IAADC[15:0]	R/W	a相電流AD変換結果保存"0x0000" ~ "0xFFF0"

注) AD 変換結果は上位 12bit に保存されます。下位 4bit は常に"0"です。

13.3.4.33. VEIBADCx(b 相電流 AD 変換結果レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	IBADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	IBADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	IBADC[15:0]	R/W	b相電流AD変換結果保存"0x0000" ~ "0xFFF0"

注) AD 変換結果は上位 12bit に保存されます。下位 4bit は常に"0"です。

13.3.4.34. VEICADCx(c 相電流 AD 変換結果レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	ICADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	ICADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	ICADC[15:0]	R/W	c相電流AD変換結果保存"0x0000" ~ "0xFFF0"

注) AD 変換結果は上位 12bit に保存されます。下位 4bit は常に"0"です。

13.3.4.35. VEVDCx(DC 電源電圧(電圧[V] ÷ 最大電圧 × 2^{15})レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	VDC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VDC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	VDC[15:0]	R/W	電源電圧、16bit固定小数点データ"0" ~ "1.0" 設定値: "0x0000" ~ "0x7FFF" 実電圧値に変換するには、VDC値 × Max_V ÷ 2^{15} (Max_V: (ADC変換値が1LSB変化する電源電圧の変化量[V]) × 2^{12})

13.3.4.36. VEIDx(d 軸電流(電流[A] ÷ 最大電流 × 2^{31})レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	ID							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	ID							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	ID							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	ID							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:0	ID[31:0]	R/W	d軸電流、32bit固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" 設定値: "0x0000_0000" ~ ”0xFFFF_FFFF" 実電流値に変換するには、ID値×Max_I ÷ 2^{31} (Max_I: (AD変換値が1LSB変化する相電流の変化量[A]) × 2^{11})

13.3.4.37. VEIQx(q 軸電流(電流[A] ÷ 最大電流 × 2^{31})レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	IQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	IQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	IQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	IQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:0	IQ[31:0]	R/W	q軸電流、32bit固定小数点データ"-1.0" ~ "1.0" 設定値: "0x0000_0000" ~ "0xFFFF_FFFF" 実電流値に変換するには、IQ値 × Max_ ÷ 2^{31} (Max_I: (AD変換値が1LSB変化する相電流の変化量[A]) × 2^{11})

13.3.4.38. VECMPUx(PMD 制御： U 相 PWM パルス幅設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	VCMPU							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VCMPU							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	VCMPU[15:0]	R/W	U相PWMパルス幅設定 設定値: "0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.39. VECMPVx(PMD 制御： V 相 PWM パルス幅設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	VCMPV							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VCMPV							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	VCMPV[15:0]	R/W	V相PWMパルス幅設定 設定値: "0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.40. VECMPWx(PMD 制御： W 相 PWM パルス幅設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
Bit symbol	VCMPW							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
Bit symbol	VCMPW							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	VCMPW[15:0]	R/W	W相PWMパルス幅設定 設定値: "0x0000" ~ "0xFFFF"

13.3.4.41. VEOUTCRx(PMD 制御： 6 相出力制御レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	WPWM
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VPWM	UPWM	WOC		VOC		UOC	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:9	-	R	リードすると"0"が読めます。
8	WPWM	R/W	W相PWM 0: オン/オフ出力 1: PWM出力
7	VPWM	R/W	V相PWM 0: オン/オフ出力 1: PWM出力
6	UPWM	R/W	U相PWM 0: オン/オフ出力 1: PWM出力
5:4	WOC[1:0]	R/W	W相出力制御 00: WOオフ、ZOオフ(注) 01: WOオフ、ZOオン 10: WOオン、ZOオフ 11: WOオン、ZOオン
3:2	VOC[1:0]	R/W	V相出力制御 00: VOオフ、YOオフ(注) 01: VOオフ、YOオン 10: VOオン、YOオフ 11: VOオン、YOオン
1:0	UOC[1:0]	R/W	U相出力制御 00: UOオフ、XOオフ(注) 01: UOオフ、XOオン 10: UOオン、XOオフ 11: UOオン、XOオン

注) VEOUTCRx<WPWM>、<VPWM>、<UPWM> = "1"時は両方オン

PMD の U、V、W 相の出力制御を以下に示します。(VE で使用する組み合わせのみ示します。)

表 13.1 VEOUTCRx<UPWM>、VEOUTCRx<UOC[1:0]>PMD設定: U相(UOx、XOx)の出力制御

設定		出力	
VEOUTCRx <UPWM>	VEOUTCRx <UOC[1:0]>	UOx	XOx
0	00	オフ出力	オフ出力
1	00	PWMU反転出力	PWMU出力
1	11	PWMU出力	PWMU反転出力

表 13.2 VEOUTCRx<VPWM>、VEOUTCRx<VOC[1:0]>PMD設定: V相(VOx、YOx)の出力制御

設定		出力	
VEOUTCRx <VPWM>	VEOUTCRx <VOC[1:0]>	VOx	YOx
0	00	オフ出力	オフ出力
1	00	PWMV反転出力	PWMV出力
1	11	PWMV出力	PWMV反転出力

表 13.3 VEOUTCRx<WPWM>、VEOUTCRx<WOC[1:0]>PMD設定: W相(WOx、ZOx)の出力制御

設定		出力	
VEOUTCRx <WPWM>	VEOUTCRx <WOC[1:0]>	WOx	ZOx
0	00	オフ出力	オフ出力
1	00	PWMW反転出力	PWMW出力
1	11	PWMW出力	PWMW反転出力

13.3.4.42. VETRGCMP0x(PMD 制御： トリガータイミング設定(TRGCMP0)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	VTRGCMP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VTRGCMP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	VTRGCMP0 [15:0]	R/W	ADCをPMDと同期させてサンプリングさせるトリガータイミングの設定(PMD設定) 0x0000: 設定禁止 0x0001 ~ (PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]> - 1): トリガータイミング PMDxMDPRD <MDPRD[15:0]> ~ "0xFFFF": 設定禁止

注 1) PMD のトリガーモードに次の何れかを選択したときに有効になります。

- ダウンカウント時の一致
- アップカウント時の一致
- アップおよびダウンカウント時の一致

注 2) PMD のトリガー出力モードにトリガー選択出力(PMDxTRGMD<TRGOUT> = "1")を選択時は無効です。

13.3.4.43. VETRGCMP1x(PMD 制御： トリガータイミング設定(TRGCMP1)レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	VTRGCMP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VTRGCMP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	VTRGCMP1 [15:0]	R/W	ADCをPMDと同期させてサンプリングさせるトリガータイミングの設定(PMD設定) 0x0000: 設定禁止 0x0001 ~ (PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>値-1): トリガータイミング PMDxMDPRD <MDPRD[15:0]> ~ "0xFFFF": 設定禁止

注 1) PMD のトリガーモードに次の何れかを選択したときに有効になります。

- ダウンカウント時の一致
- アップカウント時の一致
- アップおよびダウンカウント時の一致

注 2) PMD のトリガー出力モードにトリガー選択出力(PMDxTRGMD<TRGOUT> = "1")を選択時は無効です。

13.3.4.44. VETRGSELx(PMD 制御： 同期トリガー指定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	VTRGSEL		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:0	VTRGSEL[2:0]	R/W	VETRGCMP0x<VTRGCMP0[15:0]>設定タイミングで出力する同期トリガー番号の指定(注) 0 ~ 5: 出力トリガー番号 6 ~ 7: 設定禁止

注) PMD のトリガー出力モードにトリガー選択出力(PMDxTRGMD<TRGOUT> = "1")を選択時に有効になります。

13.3.4.45. VEEMGRSx(PMD 制御： EMG 復帰設定レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	EMGRS
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	EMGRS	R/W	EMG復帰コマンド(PMD設定) 0: - 1: EMG復帰コマンド

13.4. 動作説明

13.4.1. スケジュール管理

モーター制御は図 13.4のようなフローで実行されます。VEは各動作状態をスケジュール設定とMODE設定を切り替えることで遷移させます。

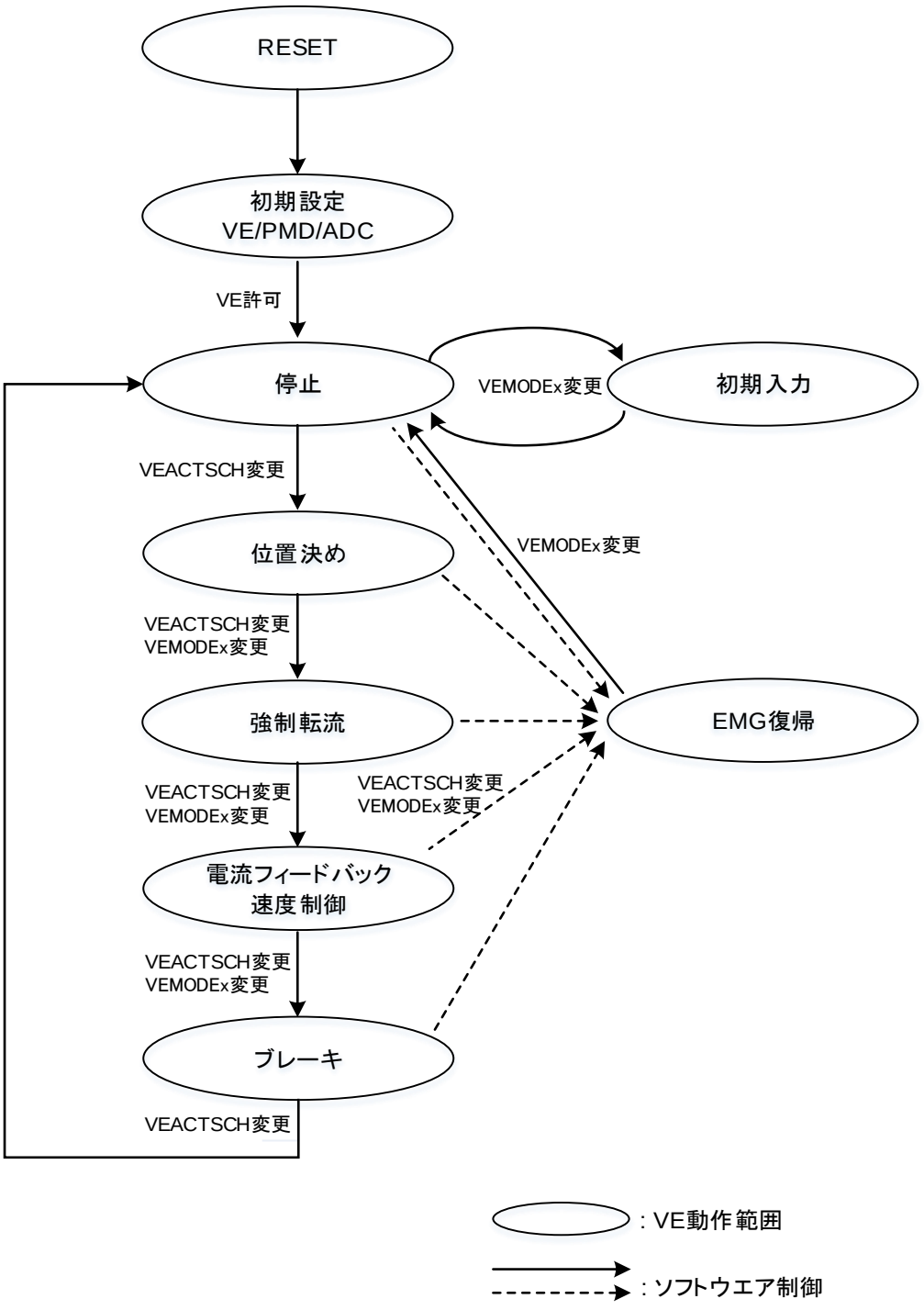


図 13.4 モーター制御の動作状態フロー例

RESET	MCU リセット
初期設定	ユーザーソフトウェアによる初期設定
停止	モーター停止
初期入力	モーター停止時のゼロ電流データをサンプリングして保存
位置決め	モーター起動時の位置決め制御
強制転流	モーター起動所定時間はフィードバック制御しないで設定速度で回転させる
電流フィードバック速度制御	電流フィードバックによるモーター回転数制御
ブレーキ	減速制御
EMG 復帰	EMG 保護状態から復帰する

13.4.1.1. スケジュール制御

動作スケジュールは VEACTSCH で選択します。

スケジュールは出力処理を行う出力スケジュールと入力処理を行う入力スケジュールで構成されます。出力スケジュールは出力関連のタスク、入力スケジュールは入力関連のタスクで構成されます。スケジュールと動作するタスクの関連を表 13.4 に示します。

また、VEMODEx 設定で位相補間許可/出力制御動作/ゼロ電流検出をモーター制御フローに応じて設定を切り替えます。(表 13.5)

表 13.4 スケジュール別の動作タスク

スケジュール選択 VEACTSCH	出力スケジュール						入力スケジュール		
	電流制御	SIN/COS 演算	出力 座標軸 変換	出力 相変換	出力制御	トリガー 生成	入力処理	入力 相変換	入力 座標軸 変換
0: 個別動作	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)
1: スケジュール1	O	O(注2)	O	O	O(注3)	O	O(注4)	O	O
4: スケジュール4	-	O(注2)	O	O	O(注3)	O	O(注4)	O	O
9: スケジュール9	-	-	-	-	O(注3)	O	O(注4)	-	-

○: スケジュールで実行するタスク、-: スケジュールで実行しないタスク

注 1) 指定タスクのみ実行

注 2) 位相補間設定

注 3) 出力オフ設定: VEEMGRSx<EMGRS>

注 4) ゼロ電流検出でタスク動作を切り替え

表 13.5 代表動作フローでの設定例

設定 / モーター制御フロー	スケジュール設定 VEACTSCH <VACTB[3:0]>	タスク指定 VETASKAPP <VTASKB[3:0]>	位相補間許可 VEMODEx <PVIEN>	出力制御動作 VEMODEx <OCRMD[1:0]>	ゼロ電流検出 VEMODEx <ZIEN>
停止	1001	0000	×	00	0
初期入力	1001	0000	×	00	1
位置決め	0001	0101	0	01	0
強制転流	0001	0101	1	01	0
電流フィードバック 速度制御	0001	0101	1	01	0
ブレーキ	0100	0110	0	01	0
EMG復帰	1001	0000	×	11	0

×: 設定しない

出力スケジュールはコマンド(VECPURUNTRG)で動作開始し、出力関連タスクが全て終了すると VE は待機状態に移行して起動トリガーを待ちます。この時、他のチャネルのスケジュールを実行することができます。

入力スケジュールは起動トリガーで動作開始し、入力関連タスクが全て終了すると CPU に割り込みを発生して VE は休止状態に移行します。ただし、スケジュールの繰り返し回数(VEREPTIME)を 2 回以上に設定している場合は、設定回数に達するまでは割り込みを発生しないで出力スケジュールを起動します。

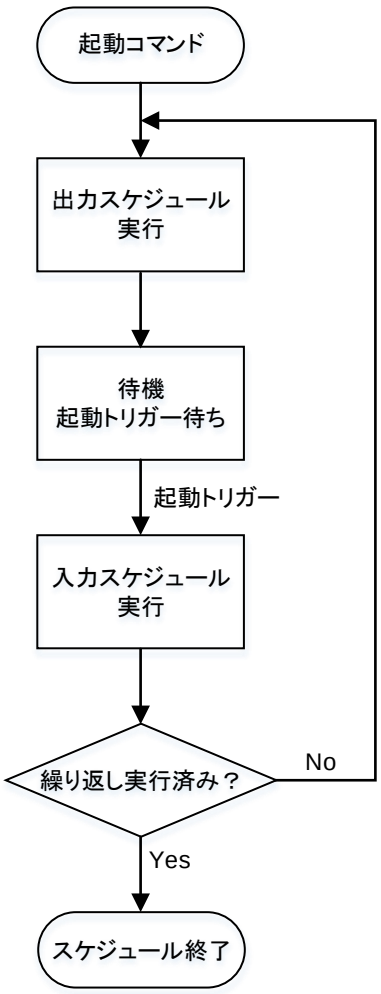


図 13.5　動作スケジュールの動作遷移

13.4.1.2. 起動制御

VE 許可(VEEN<VEEN> = "1")します。動作スケジュール指定(VEACTSCH)、タスク指定(VETASKAPP)、繰り返し回数(VEREPTIME)を設定します。VE の動作スケジュールは出力スケジュールと入力スケジュールに分かれています。基本的に出力スケジュールを最初に実行します。そして、待機状態に移行します。起動トリガーによって入力スケジュールが実行されます。

出力スケジュールと入力スケジュールはそれぞれ次の条件で起動します。

- 出力スケジュールの起動
  - (a) コマンドスタート(VECPURUNTRG)で指定タスク(VETASKAPP)の開始
  - (b) 入力スケジュール終了後の繰り返しスタート(VEREPTIME ≧ 2)

- 入力スケジュールの起動
  - (a) 出力スケジュール終了後の起動トリガー(VETRGMODE で選択したトリガー入力)による入力処理タスクの開始
  - (b) コマンドスタート(VECPURUNTRG)で指定タスク(VETASKAPP)の開始

13.4.2. タスク概要

スケジュールで動作する各タスクの概要を示します。

個別実行または起動タスクを指定する場合は表 13.6 のタスク番号を指定します。

表 13.6 タスク概要

タスク		タスク機能	タスク番号
出力スケジュール	電流制御	dq 電流制御	5
	SIN/COS 演算	正弦/余弦演算、位相補間	6
	出力座標軸変換	dq 座標軸から αβ 座標軸に変換	7
	出力相変換	2 相から 3 相に変換	8
	出力制御	PMD 設定形式へのデータ変換 シフト PWM 切り替え	0
	トリガー生成	同期トリガータイミング生成	1
入力スケジュール	入力処理	AD 変換結果取り込み 固定小数点数へのデータ変換	2
	入力相変換	3 相から 2 相に変換	3
	入力座標軸変換	αβ 座標軸から dq 座標軸に変換	4

13.4.2.1. 電流制御

電流制御部は、d 軸、q 軸それぞれの PI 制御部で構成されます。

本電流制御で d 軸、q 軸電圧を算出します。

(1) d 軸電流 PI 制御

<演算式>

$\Delta ID = VEIDREFx - VEIDx<ID[31:0]>$ ： 電流指令値と電流フィードバックの差分

$VDIx = VECIDKIx \times \Delta ID + VDIx$ ： 積分項演算

$VEVDx = VECIDKPx \times \Delta ID + VDIx$ ： 比例項を合わせて電圧算出

表 13.7 d軸電流PI制御

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VEIDx	d 軸電流	32bit 固定小数点データ(小数点以下 31bit)
	VEIDREFx	d 軸電流基準値	16bit 固定小数点データ(小数点以下 15bit)
	VECIDKPx	比例係数	16bit データ
	VECIDKIx	積分係数	16bit データ
出力	VEVDx	d 軸電圧	32bit 固定小数点データ(小数点以下 31bit)
内部	VDIx	d 軸電圧積分項保持	64bit 固定小数点データ(小数点以下 63bit)

(2) q 軸電流 PI 制御

<演算式>

ΔIQ = VEIQREFx − VEIQx<IQ[31:0]> ： 電流指令値と電流フィードバックの差分

VQIx = VECIQKIx × ΔIQ + VQIx ： 積分項演算

VEVQx = VECIQKPx × ΔIQ + VQIx ： 比例項を合わせて電圧算出

表 13.8 q軸電流PI制御

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VEIQx	q 軸電流	32bit 固定小数点データ(小数点以下 31bit)
	VEIQREFx	q 軸電流基準値	16bit 固定小数点データ(小数点以下 15bit)
	VECIQKPx	比例係数	16bit データ
	VECIQKIx	積分係数	16bit データ
出力	VEVQx	q 軸電圧	32bit 固定小数点データ(小数点以下 31bit)
内部	VQI1x	q 軸電圧積分項保持	64bit 固定小数点データ(小数点以下 63bit)

13.4.2.2. SIN/COS 演算

SIN/COS 演算部は、位相補間部と SIN/COS 算出部で構成されます。

位相補間は回転速度を PWM 周期で積分して算出し、位相補間許可時のみ実行します。

(1) 位相補間

<演算式>

VETHETAx = VEOMEGAx × VETPWMx + VETHETAx　　：回転速度積分、位相補間許可時のみ

表 13.9 位相補間

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VETHETAx	位相 θ	16bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 16bit)
	VEOMEGAx	回転速度	16bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
	VETPWMx	PWM 周期レート	16bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 16bit)
	VEMODEx	位相補間許可	設定
出力	VETHETAx	位相 θ	16bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 16bit)

(2) SIN/COS 演算

<演算式>

VESINMx = VESINx : 前回値保存(入力処理用)

VECOSMx = VECOSx : 前回値保存(入力処理用)

VESINx = sin(VETHETAx × π) : SIN/COS 演算

VECOSx = sin((VETHETAx + 1 ÷ 4) × π) : SIN/COS 演算

表 13.10 SIN/COS演算

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VETHETAx	位相 θ	16bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 16bit)
出力	VESINx	θ での正弦値	16bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
	VECOSx	θ での余弦値	
	VESINMx	前回の正弦値	
	VECOSMx	前回の余弦値	

13.4.2.3. 出力電圧変換(座標軸変換/相変換)

出力電圧変換は、dq-αβ 座標軸変換と 2-3 相変換で構成されます。

dq-αβ 座標軸変換は Vd、Vq、VESINx、VECOSx から Vα、Vβ を算出します。

2-3 相変換は Vα、Vβ からセクター判定し、判別したセクターに応じた空間ベクトル変換を行い Va、Vb、Vc を算出します。また、2-3 相変換では変換方式に 2 相変調か 3 相変調を選択できます。

(1) dq-αβ 座標軸変換

<演算式>

VETMPREG3 = VECOSx × VEVDx - VESINx × VEVQx : Vα 算出

VETMPREG4 = VESINx × VEVDx + VECOSx × VEVQx : Vβ 算出

表 13.11 dq−αβ座標軸変換

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VEVDx	d 軸電圧	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VEVQx	q 軸電圧	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VESINx	θ での正弦値	16bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
	VECOSx	θ での余弦値	16bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
出力	VETMPREG3	α 軸電圧	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電圧	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)

(2) 2-3 相変換(空間ベクトル変換)

(a) セクター判定

<演算式>

VESECTORMx = VESECTORx　　: 前回セクターを保存

if (Vα ≧ 0 & Vβ ≧ 0)　　: Vβ 算出

　if (|Vα| ≧ |Vβ| ÷ √3)

　　if (|Vα| ÷ √3 ≧ |Vβ|)　　SECTOR= "0"

　　else　　SECTOR = "1"

　else　　SECTOR = "2"

else if (Vα < 0 & Vβ ≧ 0)

　if (|Vα| < |Vβ| ÷ √3)　　SECTOR = "3"

　else if (|Vα| ÷ √3 < |Vβ|)　　SECTOR = "4"

　　else　　SECTOR = "5"

else if (Vα < 0 & Vβ < 0)

　if (|Vα| ≧ |Vβ| ÷ √3)

　　if (|Vα| ÷ √3 ≧ |Vβ|)　　SECTOR = "6"

　　else　　SECTOR = "7"

　else　　SECTOR = "8"

else if (Vα ≧ 0 & Vβ < 0)

　if (|Vα| < |Vβ| ÷ √3)　　SECTOR = "9"

　else if (|Vα| ÷ √3 < |Vβ|)　　SECTOR = "10"

　　else　　SECTOR = "11"

表 13.12　2-3相変換(空間ベクトル変換)

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VETMPREG3	α 軸電圧	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電圧	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
出力	VESECTORx	セクター	4bit データ
	VESECTORMx	前回のセクター	4bit データ

(b) 3 相電圧算出(VESECTORx<SECTOR[3:0]> = "0"の場合)

<演算式>

if (VESECTORx<SECTOR[3:0]> = "0")

t1 = (√3) ÷ (VEVDCx) × ((√3) ÷ 2 × Vα - 1 ÷ 2 × Vβ) : V1 期間算出

t2 = (√3) ÷ (VEVDCx) × (Vβ) : V2 期間算出

t3 = 1 − t1 − t2 : V0 + V7 期間算出

if (VEFMODEx<C2PEN> = "0") : 3 相変調

VETMPREG0 = t1 + t2 + t3 ÷ 2 : Va 算出

VETMPREG1 = t2 + t3 ÷ 2 : Vb 算出

VETMPREG2 = t3 ÷ 2 : Vc 算出

else : 2 相変調

VETMPREG0 = t1 + t2 : Va 算出

VETMPREG1 = t2 : Vb 算出

VETMPREG2 = "0" : Vc 算出

表 13.13 3相電圧算出(VESECTORx<SECTOR[3:0]> = "0"の場合)

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VETMPREG3	α 軸電圧	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電圧	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VEVDCx	電源電圧	16bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
	VESECTORx	セクター	4bit データ
	VEFMODEx	変調モード	VEFMODEx<C2PEN> 0: 3 相変調 1: 2 相変調
出力	VETMPREG0	a 相電圧	32bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電圧	32bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG2	c 相電圧	32bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)

13.4.2.4. 出力制御

出力制御部は、3 相電圧値を PWM 設定形式の VECMPUx、VECMPVx、VECMPWx に変換して設定し、動作モードに応じて VEOUTCRx を設定します。

1 シャント電流検出かつ 2 相変調でシフト PWM 許可している場合、回転速度がシフト PWM 切り替え基準より遅いと出力はシフト PWM 出力に切り替わります。

表 13.14 出力制御

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VETMPREG0	a 相電圧	32bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電圧	32bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG2	c 相電圧	32bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VEMDPRDx	PWM 周期設定	16bit データ(PMD PWM 周期設定値)
	VESECTORx	セクター	4bit データ
	VEOMEGAx	回転速度	16bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
	VEFPWMCHGx	シフト PWM 切り替え基準	16bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
	VEMODEx	出力制御動作	設定
	VEFMODEx	PMD チャネル選択/シフト PWM 許可/変調モード/検出モード	設定
出力	VECMPUx	PMD U 相 PWM 設定	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VECMPVx	PMD V 相 PWM 設定	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VECMPWx	PMD W 相 PWM 設定	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VEOUTCRx	PMD 出力制御設定	9bit 設定
	VEEMGRSx	PMD EMG 復帰	1bit 設定
	VEMCTLFx	シフト切り替えフラグ	ステータス

13.4.2.5. トリガー生成

トリガー生成部は、VECMPUx、VECMPVx、VECMPWx から電流検出方式に応じたトリガータイミングを算出して VETRGCMP0x、VETRGCMP1x に設定します。

表 13.15 トリガー生成

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VECMPUx	PMD U 相 PWM 設定	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VECMPVx	PMD V 相 PWM 設定	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VECMPWx	PMD W 相 PWM 設定	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VEMDPRDx	PWM 周期設定	16bit データ(PMD PWM 周期設定値)
	VETADC	AD 変換時間	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VETRGCRCx	トリガー補正値	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VESECTORx	セクター	4bit データ
	VEMODEx	出力制御動作	設定
	VEFMODEx	PMD チャネル選択/シフト PWM 許可/変調モード/検出モード/トリガー補正許可	設定
	VEMCTLFx	シフト切り替えフラグ	ステータス
出力	VETRGCMP0x	PMD トリガー0 タイミング設定	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VETRGCMP1x	PMD トリガー1 タイミング設定	16 ビットデータ(0 - VEMDPRDx<VMDPRD[15:0]>値)
	VETRGSELx	PMD トリガー選択	3bit データ

13.4.2.6. 入力処理

入力処理タスクでは電流変換結果を 3 相成分判定して保存し、電流および電圧の変換結果を固定小数点データに変換します。また、初期入力動作時にゼロ電流変換結果を保存します。

表 13.16 入力処理

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VEADREG0x	AD 変換結果 0	16bit データ(上位 12bit に結果保持)
	VEADREG1x	AD 変換結果 1	
	VEADREG2x	AD 変換結果 2	
	VEADREG3x	AD 変換結果 3	
	VEPHNUM0x	ADREG0x 検出相情報	2bit データ
	VEPHNUM1x	ADREG1x 検出相情報	
	VEPHNUM2x	ADREG2x 検出相情報	
	VEPHNUM3x	ADREG3x 検出相情報	
	VESECTORMx	セクター情報	4bit データ
	VEMODEx	ゼロ電流検出	設定
	VEFMODEx	PMD チャネル選択/電流検出モード/シフト PWM 許可	設定
	VEMCTLFx	シフト切り替えフラグ	ステータス
出力	VEVDCx	電源電圧	16bit 固定小数点データ("0.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
	VETMPREG0	a 相電流	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電流	
	VETMPREG2	c 相電流	
内部	VEIAOx	a 相ゼロ電流変換結果	16bit データ(上位 12bit に結果保持)
	VEIBOx	b 相ゼロ電流変換結果	
	VEICOx	c 相ゼロ電流変換結果	
	VEIAADCx	a 相電流変換結果	16bit データ(上位 12bit に結果保持)
	VEIBADCx	b 相電流変換結果	
	VEICADCx	c 相電流変換結果	

13.4.2.7. 入力電流変換(相変換/座標軸変換)

入力電流変換は、3-2 相変換と αβ-dq 座標軸変換で構成されます。

3-2 相変換は Ia、Ib、Ic から Iα、Iβ を算出します。

αβ-dq 座標軸変換は Iα、Iβ、VESINMx、VECOSMx から Id、Iq を算出します。

(1) 3-2 相変換

<演算式>

VETMPREG3 = VETMPREG0 : Iα 算出

VETMPREG4 = 1 ÷ √3 × VETMPREG1 - 1 ÷ √3 × VETMPREG2 : Iβ 算出

表 13.17 3 − 2相変換

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VETMPREG0	a 相電流	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電流	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG2	c 相電流	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
出力	VETMPREG3	α 軸電流	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電流	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)

(2) αβ-dq 座標軸変換

<演算式>

VEIDx = VECOSMx × VETMPREG3 + VESINMx × VETMPREG4 : Id 算出

VEIQx = - VESINMx × VETMPREG3 + VECOSMx × VETMPREG4 : Iq 算出

表 13.18 αβ-dq座標軸変換

	レジスター名	機能	データフォーマット
入力	VETMPREG3	α 軸電流	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電流	
	VESINMx	θ での正弦値	16bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 15bit)
	VECOSMx	θ での余弦値	
出力	VEIDx	d 軸電流	32bit 固定小数点データ("-1.0" ~ "1.0"、小数点以下 31bit)
	VEIQx	q 軸電流	

13.5. VE チャネルと PMD チャネル、ADC ユニットの組み合わせ

VE の使用チャネルにより、使用できる PMD チャネルおよび ADC ユニットの組み合わせに制限があります。

また、AD 変換結果格納レジスター0 ~ 2(ADxREG0 ~ 2、x = A、B)の値を電流値、AD 変換結果格納レジスター3(ADxREG3、x = A、B)の値を電圧値として計算します。VE の各モードに応じて、表 13.20 に示すように AD 変換結果格納レジスターを割り付けてください

表 13.19 VEチャネルとPMDチャネルの組み合わせ

VEチャネル	PMDチャネル
ch0	ch0
ch1	ch1

表 13.20 VEチャネルとADCユニット、AD変換結果格納レジスターの組み合わせ

VE			ADCユニットA				ADCユニットB			
チャネル	電流検出モード VEFMODEx <IDMODE[1:0]>	ADCユニット選択 VEFMODEx <ADCSEL[1:0]>	ADAREG0	ADAREG1	ADAREG2	ADAREG3	ADBREG0	ADBREG1	ADBREG2	ADBREG3
0	0*	00	電流検出1	電流検出2	(注1)	VDC検出	-	-	-	-
		1*	電流検出1	-	(注1)	VDC検出	電流検出2	-	-	-
	1*	00	電流検出1	電流検出2	-	VDC検出	-	-	-	-
1	0*	00	-	-	-	-	電流検出1	電流検出2	(注1)	VDC検出
		1*	-	電流検出2	-	-	-	電流検出1	(注1)	VDC検出
	1*	01	-	-	-	-	電流検出1	電流検出2	-	VDC検出

注 1) ADxREG2 の変換結果は不要ですが、相情報の設定が必要です。「11. 12 ビットアナログ/デジタルコンバーター(ADC)」を参照してください。

注 2) *: Don't care

注 3) 電流検出モードと AD 変換結果レジスターの組み合わせは上記以外禁止です。

14. エンコーダー入力回路(ENC)

14.1. 概要

エンコーダー入力回路は、エンコーダーモード、センサーモード(2 種類)、タイマーモードの 4 つの動作モードに対応しています。また、以下の機能を備えています。

- インクリメンタルエンコーダーおよびホール IC センサー対応(センサー信号を直接入力可能)
- 汎用 24 ビットタイマー機能
- 4 逓倍(6 逓倍)回路内蔵
- 回転方向検出回路内蔵
- カウンター(24 ビット)内蔵
- コンペア許可/禁止設定可能
- 割り込み要求出力 1 本
- 入力信号についてデジタルノイズフィルター内蔵

インクリメンタルエンコーダーの信号を直接入力し、モーターの絶対位置を容易に得ることができます。

14.2. ブロック図

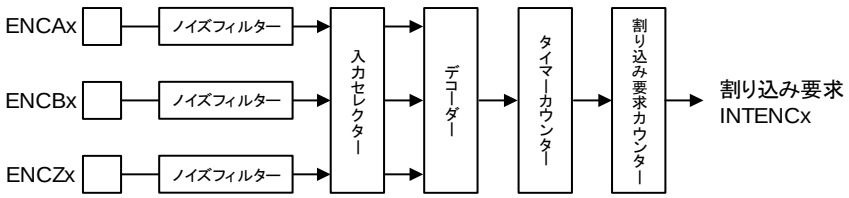


図 14.1 エンコーダー入力回路ブロック図

14.3. レジスター説明

14.3.1. レジスター一覧

制御レジスターとアドレスを以下に示します。

レジスター名		Address (Base+)
入力制御レジスター	ENxTNCR	0x0000
カウンターリロードレジスター	ENxRELOAD	0x0004
比較レジスター	ENxINT	0x0008
カウンターレジスター	ENxCNT	0x000C

14.3.2. ENxTNCR(入力制御レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	MODE		P3EN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CMP	REVERR	UD	ZDET	SFTCAP	ENCLR	ZESEL	CMPEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ZEN	ENRUN	NR		INTEN	ENDEV		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:19	-	R	リードすると"0"が読めます。
18:17	MODE[1:0]	R/W	エンコーダー入力モード設定 00: エンコーダーモード 01: センサーモード(イベントカウント) 10: センサーモード(タイマーカウント) 11: タイマーモード
16	P3EN	R/W	2相/3相入力選択(センサーモード時)(注1) 0: 2相入力 1: 3相入力 入力信号の数を設定します
15	CMP	R	コンペア発生フラグ 0: - 1: コンペア発生(リードでクリア) コンペアが実施されると<CMP>が"1"にセットされます。 値を読み出すとフラグがクリアされます。また、<ENRUN> = "0"のときは常に"0"がセットされます。このビットに値を書き込んでも何も起こりません。

14	REVERR	R	反転エラーフラグ(センサーモード(タイマーカウント)時)(注2) 0: - 1: エラー発生(リードでクリア) センサーモード(タイマーカウント)時、反転エラーが発生すると<REVERR>が"1"にセットされます。値を読み出すとフラグがクリアされます。また、<ENRUN> = "0"のときは常に"0"がセットされます。このビットに値を書き込んでも何も起こりません。エンコーダーモード、センサーモード(イベントカウント)およびタイマーモードの場合、このビットは意味を持ちません。
13	UD	R	エンコーダー回転方向 0: CCW方向 1: CW方向 モーターがCW方向に回転しているときは"1"、CCW方向に回転しているときは"0"がセットされます。また、<ENRUN> = "0"のときは常に"0"がセットされます。
12	ZDET	R	Z相通過検出 0: Z相非検出 1: Z相検出 <ENRUN> = "0"→"1"変化後のZ相入力(ENCZx)の最初の検出エッジ(インクリメンタル型エンコーダー信号のZ相の立ち上がりエッジ(CW方向)、または立ち下がりエッジ(CCW方向))のタイミングで"1"がセットされます。また、<ENRUN> = "0"のときは常に"0"がセットされます。このビットの動作は<ZEN>の値とは無関係です。センサーモード(イベントカウント)およびセンサーモード(タイマーカウント)の場合、このビットは常に"0"です。
11	SFTCAP	W	ソフトウェアキャプチャー実行(タイマーモード/センサーモード(タイマーカウント)時) 0: - 1: ソフトウェアキャプチャー <SFTCAP>に"1"が書き込まれると、エンコーダーカウンターの値をキャプチャーし、ENxCNTレジスターに格納します。"0"を書き込んでも何も起こりません。また、リードすると"0"が読めます。エンコーダーモードおよびセンサーモード(イベントカウント)の場合、このビットは意味を持たず、"1"を書き込んでも何も起こりません。
10	ENCLR	W	エンコーダーパルスカウンタークリア 0: - 1: クリア <ENCLR>に"1"が書き込まれると、エンコーダーカウンターは"0"にクリアされます。クリアされた後は、再びカウントを始めます。"0"を書き込んでも何も起こりません。また、リードすると"0"が読めます。
9	ZESEL	R/W	ENCZxの使用エッジ選択(タイマーモード時) 0: 立ち上がりエッジ 1: 立ち下がりエッジ タイマーモード時、外部トリガーとして使用するENCZx入力のエッジを選択します。他のモードの場合、このビットは意味を持ちません。
8	CMPEN	R/W	コンペア許可 0: コンペア実行しない 1: コンペア実行する <CMPEN>に"1"が書き込まれると、エンコーダーカウンターのカウンター値とENxINTレジスター値のコンペアを実施します。<CMPEN>に"0"が書き込まれると、コンペアを実施しません。
7	ZEN	R/W	Z相許可(エンコーダーモード/タイマーモード時) 0: 禁止 1: 許可 他のモードの場合、このビットは意味を持ちません。 <エンコーダーモード時>: ENCZx入力によるエンコーダーカウンターのクリアを設定 <ZEN> = "1"のとき、CW方向に回転しているときはENCZxの立ち上がりエッジを検出してエンコーダーカウンターが"0"にクリアされ、CCW方向に回転しているときはENCZxの立ち下がりエッジを検出してエンコーダーカウンターが"0"にクリアされます。ENCLK(A相、B相信号を4逓倍したクロック)タイミングとこのエッジ検出のタイミングが同時となった場合には、エンコーダーカウンターはカウント動作を行わず"0"にクリアされます。(クリア優先) <タイマーモード時>: ENCZx入力を外部トリガーとして使用するかどうかを設定 <ZEN> = "1"のとき、<ZESEL>で指定されたENCZx入力のエッジ検出で、エンコーダーカウンターの値をキャプチャー、およびエンコーダーカウンターを"0"にクリアします。

6	ENRUN	R/W	エンコーダー動作許可 0: 禁止 1: 許可 <ENRUN> = "1"で、<ZDET>を"0"クリアするとともにエンコーダー動作を許可します。<ENRUN> = "0"で、エンコーダー動作を禁止にします。エンコーダーの動作を停止した際(<ENRUN>ビットを"1"→"0")、クリアされるカウンターおよびフラグと、クリアされないカウンターおよびフラグが存在します。
5:4	NR[1:0]	R/W	ノイズフィルター 00: ノイズフィルターなし 01: 31 / fsys未満のパルスはノイズとして除去 10: 63 / fsys未満のパルスはノイズとして除去 11: 127 / fsys未満のパルスはノイズとして除去 デジタルノイズフィルターでノイズとして除去するパルスの幅を設定します。
3	INTEN	R/W	エンコーダー割り込み許可 0: 禁止 1: 許可 <INTEN> = "1"で割り込み信号の発生を許可にし、<INTEN> = "0"で割り込み信号の発生を禁止にします。
2:0	ENDEV[2:0]	R/W	エンコーダーパルス分周設定 000: 1分周　100: 16分周 001: 2分周　101: 32分周 010: 4分周　110: 64分周 011: 8分周　111: 128分周 エンコーダーパルスの分周比を設定します。この設定に従ってエンコーダーパルスが分周され、イベント割り込みの発生周期として使用されます。

注 1) エンコーダーモード、タイマーモードの場合は、必ず<P3EN> = "0"に設定してください。

注 2) モードを変更した後は、必ず最初にフラグをリードし、"0"にクリアしてください。

動作モードは<MODE[1:0]>、<P3EN>、<ZEN>により決定し、全部で 8 種類の設定があります。動作モードの設定表を以下に示します。

<MODE[1:0]>	<ZEN>	<P3EN>	入力端子	モード
00	0	0	A、B	エンコーダーモード
	1		A、B、Z	エンコーダーモード(Z 相使用)
01	0	0	U、V	センサーモード(イベントカウント、2 相入力)
		1	U、V、W	センサーモード(イベントカウント、3 相入力)
10	0	0	U、V	センサーモード(タイマーカウント、2 相入力)
		1	U、V、W	センサーモード(タイマーカウント、3 相入力)
11	0	0	-	タイマーモード
	1		Z	タイマーモード(Z 相使用)

<ENRUN>と各信号の状態を以下に示します。

カウンター/フラグ	<ENRUN> = "0"時 (リセット解除後)	<ENRUN> = "1"時 (動作中)	<ENRUN> = "0"時 (停止中)	<ENRUN> = "0"時 対象フラグ/カウンターの クリア手段
エンコーダーカウンター	0x000000	カウント動作	停止時の値を保持	ソフトウェアクリア (<ENCLR> = "1" WR)
ノイズフィルター カウンター	0b0000000	カウントアップ動作	カウントアップ動作 (常時フィルタリング)	リセットのみ
エンコーダーパルス 分周カウンター	0x00	カウントダウン動作	停止してクリア	<ENRUN> = "0"時はクリア
コンペアフラグ <CMP>	0	コンペア時"1"セット リードでクリア	クリア	<ENRUN> = "0"時はクリア
反転エラーフラグ <REVERR>	0	エラー発生で"1"セット リードでクリア	クリア	<ENRUN> = "0"時はクリア
Z 検出フラグ <ZDET>	0	Z 検出で"1"セット	クリア	<ENRUN> = "0"時はクリア
回転方向ビット <UD>	0	方向検出で "0"/"1"セット	クリア	<ENRUN> = "0"時はクリア

14.3.3. ENxRELOAD(カウンターリロードレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	RELOAD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	RELOAD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15:0	RELOAD[15:0]	R/W	エンコーダーカウンターの周期(4逓倍/6逓倍後）設定 "0x0000" ~ "0xFFFF" Z相使用する場合　　: 1回転分のカウントパルス数を設定 Z相使用しない場合　　: 1回転分のカウントパルス数-1を設定 エンコーダーカウンターの周期(4逓倍/6逓倍後)を設定します。 エンコーダーカウンターがアップカウントを行っていた場合、カウンターの値が<RELOAD[15:0]>の値と等しくなったら、次のENCLKタイミングで"0"にクリアされます。ダウンカウントを行っていた場合、カウンターの値が"0"になった次のENCLKのタイミングで、<RELOAD[15:0]>の値がエンコーダーカウンターにロードされます。

注 1) エンコーダーモード時のみ使用

注 2) ENxRELOAD レジスターは、必ずワード単位でアクセスしてください。

14.3.4. ENxINT(比較レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	INT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	INT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	INT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:24	-	R	リードすると"0"が読めます。
23:0	INT[23:0]	R/W	カウンター比較値設定 <エンコーダーモード時> エンコーダーのパルス位置割り込み発生位置設定: "0x0000" ~ "0xFFFF" <CMPEN> = "1"のときエンコーダーカウンターと<INT[15:0]>の値が一致すると、<CMP>が"1"にセットされます。さらに<INTEN> = "1"であれば割り込み要求(INTENCx)が発生します。ただし、<ZEN> = "1"のときは、<ZDET> = "1"になるまでの間の一致については割り込み要求は発生しません。 <センサーモード時(イベントカウント)> エンコーダーのパルス位置割り込み発生位置設定: "0x0000" ~ "0xFFFF" <CMPEN> = "1"のとき、エンコーダーカウンターと<INT[15:0]>の値が一致すると、<CMP>が"1"にセットされます。さらに<INTEN> = "1"であれば割り込み要求(INTENCx)が発生します。<ZEN>の値には影響しません。 <センサーモード時(タイマーカウント)> パルス未検出時間異常判定割り込み発生位置設定: "0x000000" ~ "0xFFFFFF" <CMPEN> = "1"のとき、内部カウンター値が<INT[23:0]>の値と一致すると、パルス未検出時間異常エラーと判定され、<CMP>が"1"にセットされます。さらに<INTEN> = "1"であれば割り込み要求(INTENCx)が発生します。<ZEN>の値には影響しません。 <タイマーモード時> タイマーコンペア割り込み発生位置設定: "0x000000" ~ "0xFFFFFF" <CMPEN> = "1"のとき、内部カウンター値が<INT[23:0]>の値と一致すると、<CMP>が"1"にセットされます。さらに<INTEN> = "1"であればタイマーコンペア割り込み要求(INTENCx)が発生します。<ZEN>の値には影響しません。

注 1) <INT[23:16]>はセンサーモード(タイマーカウント)、タイマーモード時のみ使用

注 2) ENxINT レジスターは、必ずワード単位でアクセスしてください。

14.3.5. ENxCNT(カウンターレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	CNT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CNT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CNT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:24	-	R	リードすると"0"が読めます。
23:0	CNT[23:0]	R/W	エンコーダーカウンター/キャプチャー値 <エンコーダーモード時> エンコーダーパルスのカウント値: "0x0000" ~ "0xFFFF" エンコーダーパルスのカウント値を読み出すことができます。エンコーダーモード時、エンコーダーカウンターは、エンコーダーパルス(ENCLK)をアップまたはダウンカウントします。CW方向に回転しているときはアップカウントを行い、カウンター値が<RELOAD[15:0]>と等しくなったとき、次のENCLKタイミングで"0"にクリアされます。CCW方向に回転しているときはダウンカウントを行い、カウント値が"0"のとき、次のENCLKタイミングで<RELOAD[15:0]>の値がカウンターにロードされます。 <センサーモード時(イベントカウント)> エンコーダーパルスのカウント値: "0x0000" ~ "0xFFFF" エンコーダーパルスのカウント値を読み出すことができます。センサーモード(イベントカウント)時、エンコーダーカウンターは、エンコーダーパルス(ENCLK)をアップまたはダウンカウントします。CW方向に回転しているときはアップカウントを行い、カウンター値が"0xFFFF"までカウントすると、次のENCLKタイミングで"0"にクリアされます。CCW方向に回転しているときはダウンカウントを行い、カウント値が"0"のとき、次のENCLKタイミングで"0xFFFF"がカウンターにロードされます。 <センサーモード時(タイマーカウント)> パルス検出時間の値またはソフトウェアキャプチャー値: "0x000000" ~ "0xFFFFFF" エンコーダーパルス(ENCLK)によりエンコーダーカウンターをキャプチャーした値、または、<SFTCAP>に"1"を書きこむことでエンコーダーカウンターをソフトウェアキャプチャーした値を読み出すことができます。キャプチャーした値はシステムリセットで"0"にクリアされます。また、<ENCLR> = "1"を書き込んでカウンターをクリアした後、ソフトウェアキャプチャーすることによりクリアすることも可能です。センサーモード(タイマーカウント)時、エンコーダーカウンターは、fsysでアップカウントし、フリーランで動作します。エンコーダーパルス(ENCLK)を検出すると"0"にクリアされます。"0xFFFFFF"までカウントすると自動的に"0"にクリアされます。 <タイマーモード時> 内部カウンターのキャプチャー値またはソフトウェアキャプチャー値: "0x000000" ~ "0xFFFFFF" <SFTCAP>に"1"を書きこむことでエンコーダーカウンターをソフトウェアキャプチャーした値を読み出すことができます。<ZEN> = "1"のときは、<ZESEL>で指定されたZ相の検出エッジでもキャプチャーされます。キャプチャーした値はリセットで"0"にクリアされます。<ENCLR> = "1"を書き込んでカウンターをクリアした後にソフトウェアキャプチャーすることにより、クリアすることも可能です。タイマーモード時、エンコーダーカウンターは、fsysでアップカウントし、フリーランで動作します。"0xFFFFFF"までカウントすると自動的に"0"にクリアされます。

注 1) <CNT[23:16]>はセンサーモード(タイマーカウント)、タイマーモード時のみ使用。(エンコーダーモ

ード、センサーモード(イベントカウント)時は常に"0"がリードされます。）

注 2) ENxCNT レジスターは、必ずワード単位でアクセスしてください。

14.4. 動作説明

14.4.1. エンコーダーモード

高速位置センサー対応(位相判定)で、AB エンコーダー入力および ABZ エンコーダー入力に対応しています。

- イベント検出(回転パルス) → 割り込み発生
- イベントカウント → 一致割り込み発生(移動量測定)
- 回転方向検出
- アップダウンカウント(動作中随時変更可能)
- カウンター周期設定可能

14.4.2. センサーモード

低速位置センサー対応(ゼロクロス判定)で、UV ホールセンサー入力および UVW ホールセンサー入力に対応しています。

イベントカウントモードとタイマーカウントモード(fsys でカウント)の 2 種類があります。

14.4.2.1. イベントカウントモード

- イベント検出(回転パルス) → 割り込み発生
- イベントカウント → 一致割り込み発生(移動量測定)
- 回転方向検出

14.4.2.2. タイマーカウントモード

- イベント検出(回転パルス) → 割り込み発生
- タイマーカウント
- 回転方向検出
- キャプチャー機能 → イベントキャプチャー(イベント間隔測定) → 割り込み発生ソフトウェアキャプチャー
- 未検出時間によるエラー(タイマーコンペア) → 一致割り込み発生
- 反転検出エラー → 回転方向変化によるエラーフラグ

14.4.3. タイマーモード

汎用 24 ビットタイマーとして使用できます。

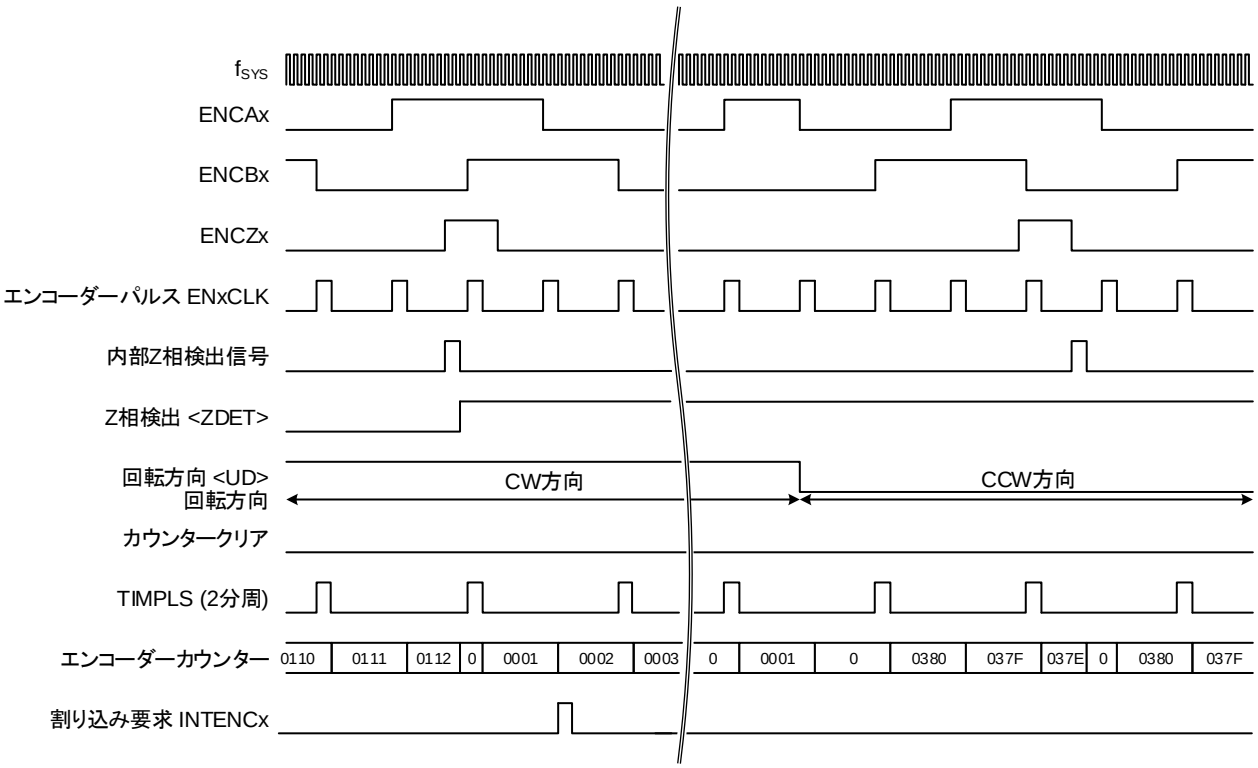
- 24 ビットアップカウンター
- カウンタークリア制御(ソフトウェアクリア、タイマークリア、外部トリガー、フリーランカウント)
- コンペア機能 → 一致割り込み発生
- キャプチャー機能 → 外部トリガーキャプチャー → 割り込み発生
- ソフトウェアキャプチャー

14.5. 機能

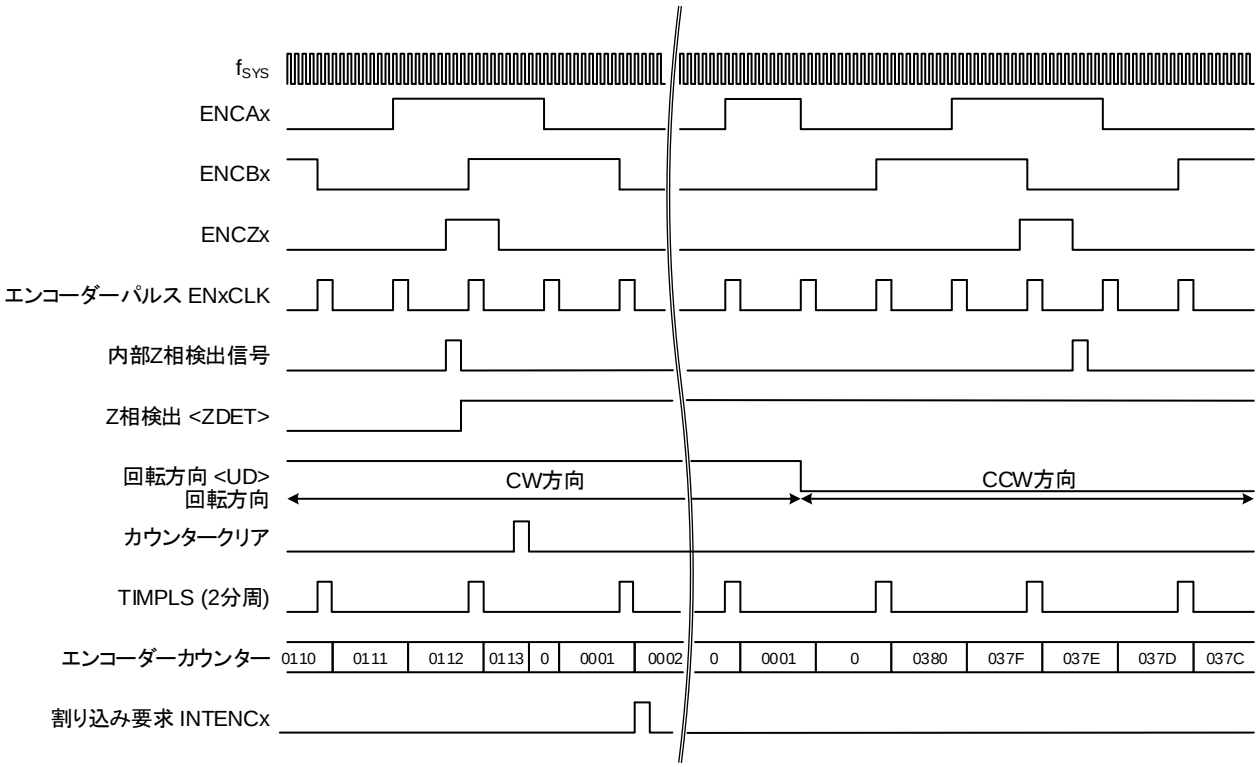
14.5.1. モード動作概要

14.5.1.1. エンコーダーモード

(1) <ZEN> = "1"のとき(<RELOAD[15:0]> = "0x0380"、<INT[15:0]> = "0x0002")



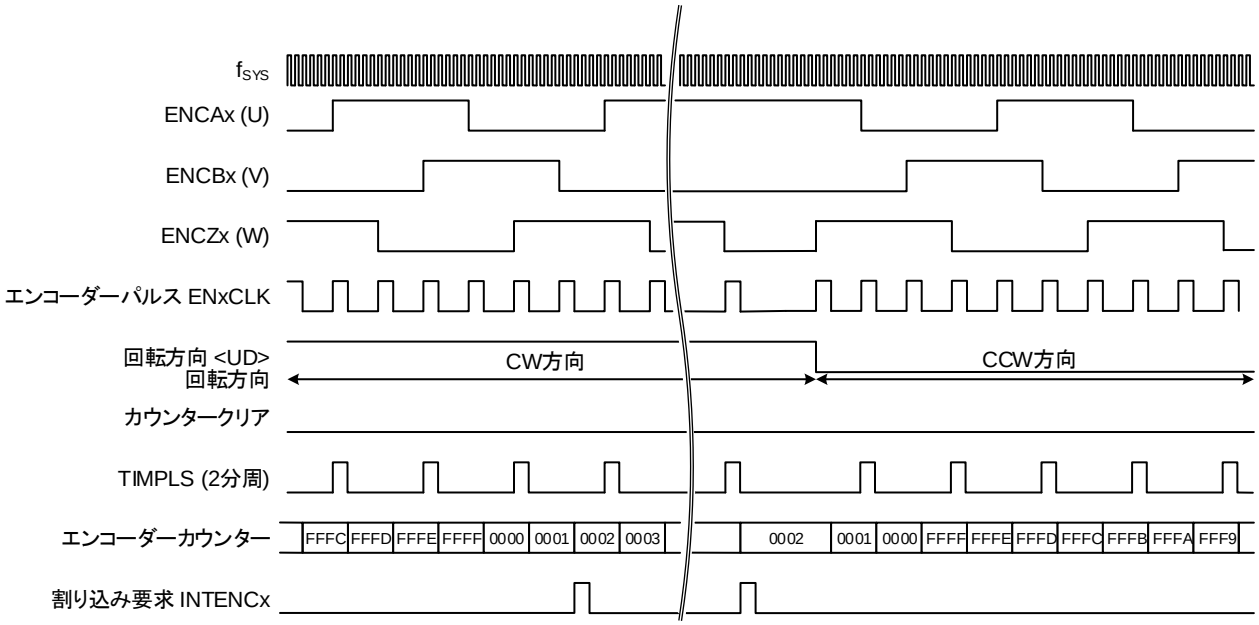
(2) <ZEN> = "0"のとき(<RELOAD[15:0]> = "0x0380"、<INT[15:0]> = "0x0002")



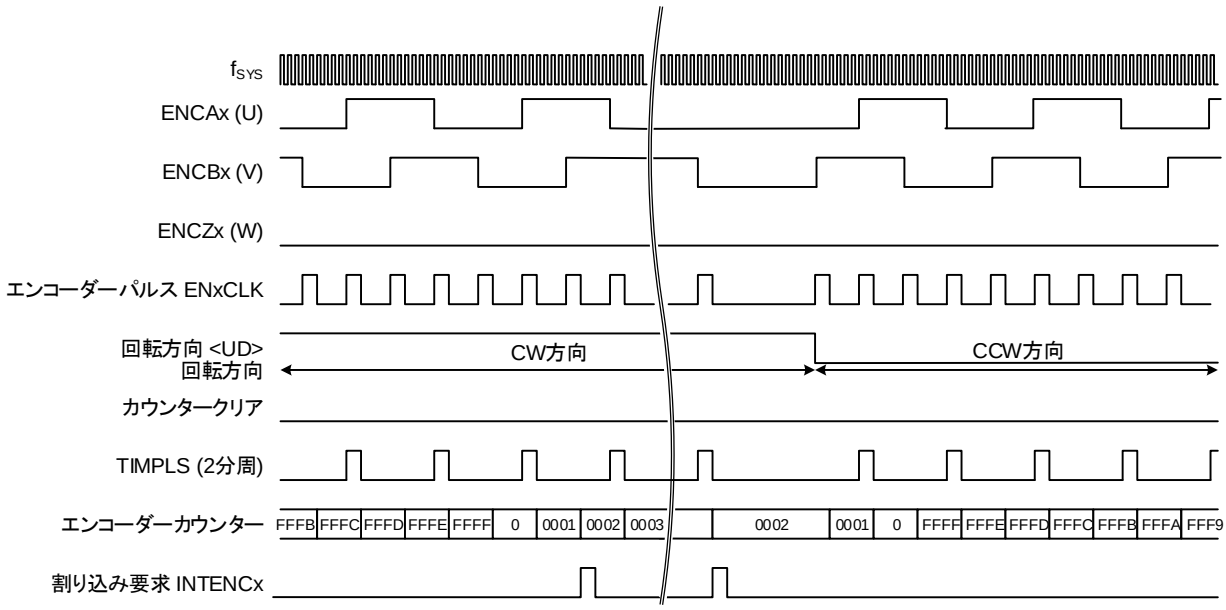
- インクリメンタルエンコーダー入力を A、B、Z 相に接続します。A、B 信号を 4 逓倍して、エンコーダーパルス数のカウントを行います。
- CW 方向(A 相が B 相に対して 90 度進んでいる状態)に回転しているときはアップカウントを行い、カウンター値が<RELOAD[15:0]>と等しくなったとき、次の ENCLK でカウンターが"0"クリアされます。
- CCW 方向(A 相が B 相に対して 90 度遅れている状態)に回転しているときはダウンカウントを行い、カウンター値が"0x0000"と等しくなったとき、次の ENCLK でカウンターに<RELOAD[15:0]>の値がセットされます。
- さらに、<ZEN> = "1"の場合は、CW 方向に回転しているときは Z 相の立ち上がりエッジでカウンターが"0"にクリアされます。CCW 方向に回転しているときは Z 相の立ち下がりエッジでカウンターが"0"にクリアされます。ENCLK と Z 相検出のタイミングが同時になったときは、カウント動作を行わず、"0"にクリアされます。
- <ENCLR>に"1"が書き込まれると、カウンターは"0"にクリアされます。
- <UD>は CW 方向に回転していることを検出しているときは"1"、CCW 方向のときは"0"がセットされます。
- ENCLK を分周した信号(TIMPLS)を取り出すことができます。
- <CMPEN> = "1"のとき、<INT[15:0]>の値とエンコーダーカウンター値が等しくなったときに割り込みが発生します。ただし、<ZEN> = "1"の場合、<ZDET> = "0"の期間の一致では割り込みを発生しません。
- <ZDET>、<UD>は、<ENRUN> = "0"のときは"0"にクリアされます。

14.5.1.2. センサーモード(イベントカウント)

(1) <P3EN> = "1"のとき(<INT[15:0]> = "0x0002")



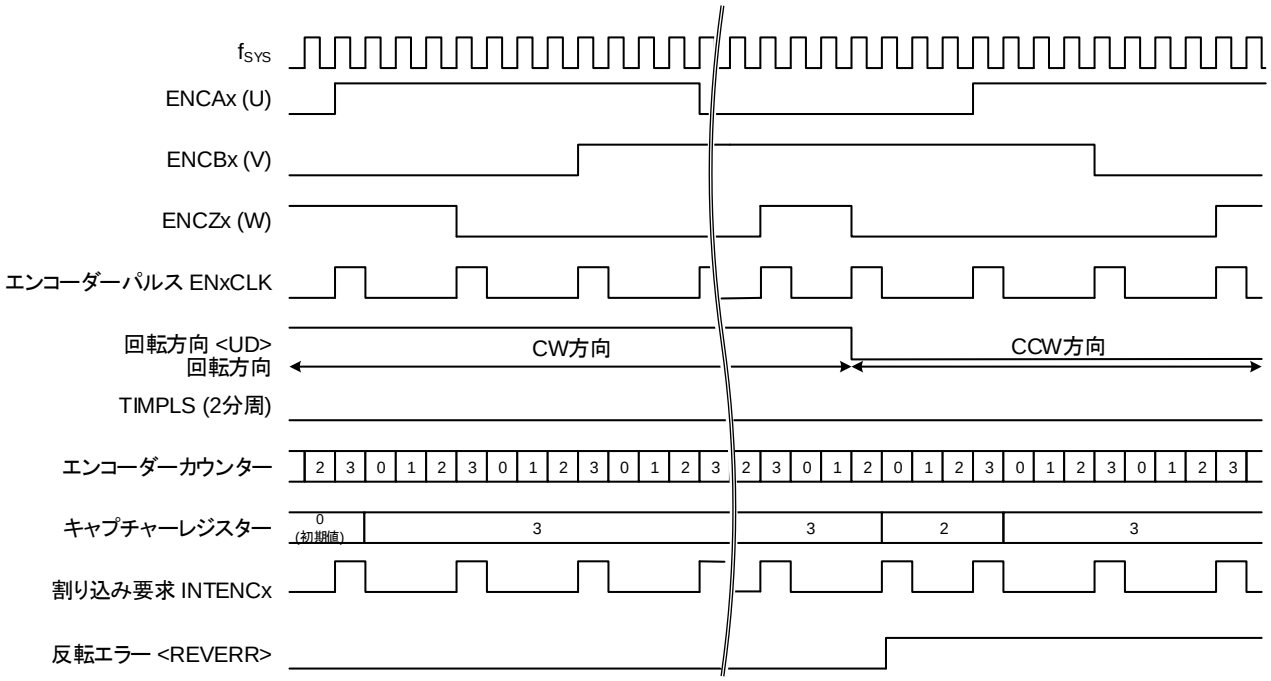
(2) <P3EN> = "0"のとき(<INT[15:0]> = "0x0002")



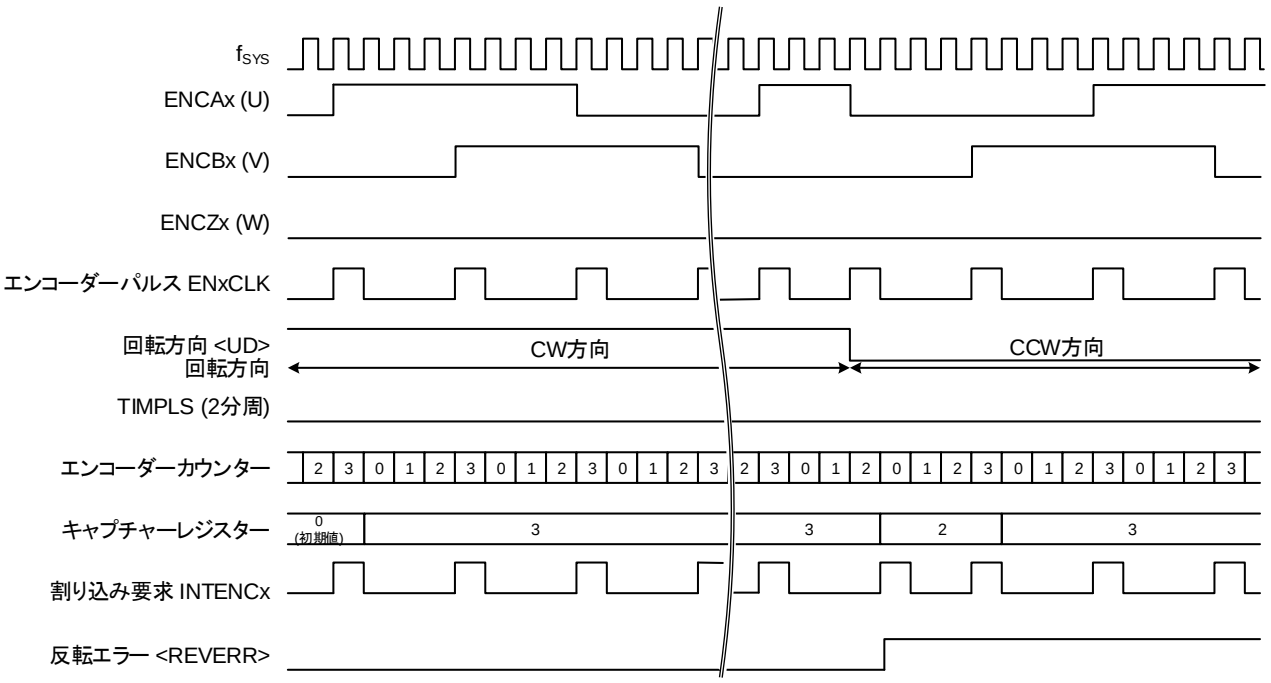
- ホールセンサー入力を U、V、W 相に接続します。<P3EN> = "0"の場合は U、V 信号を 4 逓倍、<P3EN> = "1"の場合は U、V、W 信号を 6 逓倍して、ホールセンサーパルス数のカウントを行います。
- CW 方向(U 相が V 相、V 相が W 相に対して 90 度進んでいる状態)に回転しているときはアップカウントを行い、カウンター値が"0xFFFF"と等しくなったとき、次の ENCLK でカウンターが"0"にクリアされます。
- CCW 方向(U 相が V 相、V 相が W 相に対して 90 度遅れている状態)に回転しているときはダウンカウントを行い、カウンター値が"0x0000"と等しくなったとき、次の ENCLK でカウンターに"0xFFFF"がセットされます。
- <ENCLR>に"1"が書き込まれると、カウンターは"0"にクリアされます。
- <UD>は CW 方向に回転していることを検出しているときは"1"、CCW 方向のときは"0"がセットされます。
- ENCLK を分周した信号(TIMPLS)を取り出すことができます。
- <CMPEN> = "1"のとき、<INT[15:0]>の値とカウンター値が等しくなったときに割り込みが発生します。
- <UD>は<ENRUN> = "0"のときは"0"にクリアされます。

14.5.1.3. センサーモード(タイマーカウント)

(1) <P3EN> = "1"のとき(<INT[23:0]> = "0x0002")



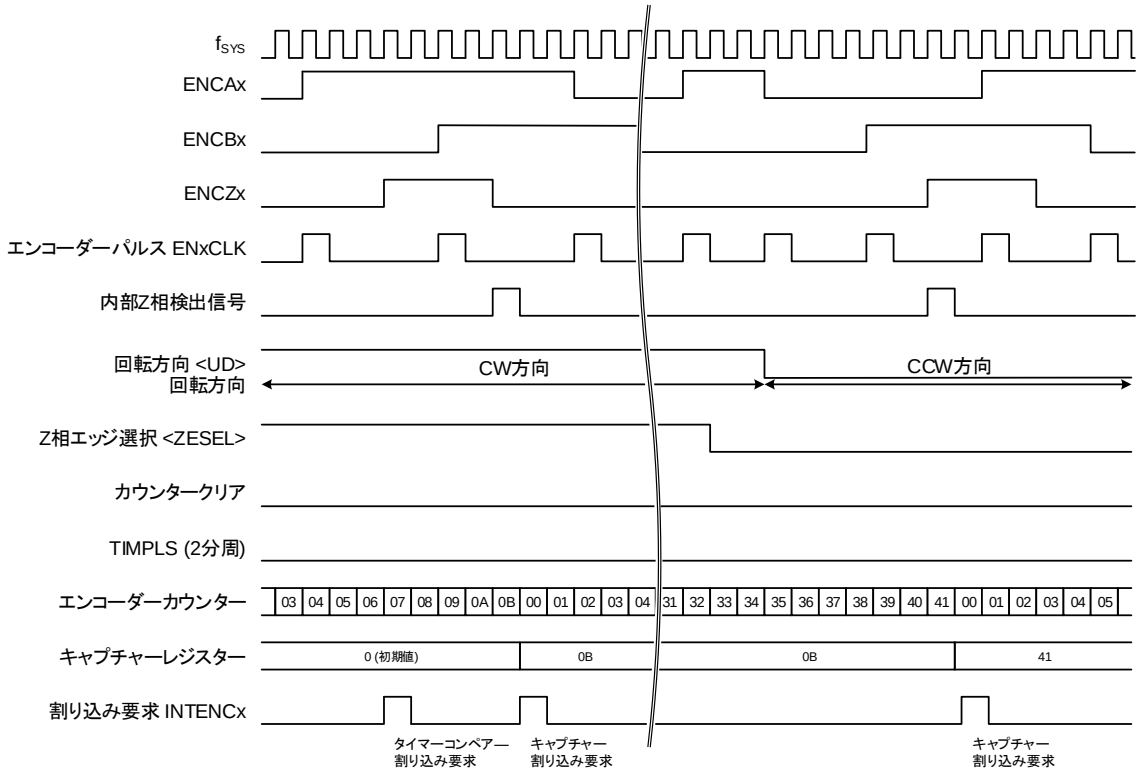
(2) <P3EN> = "0"のとき(<INT[23:0]> = "0x0002")



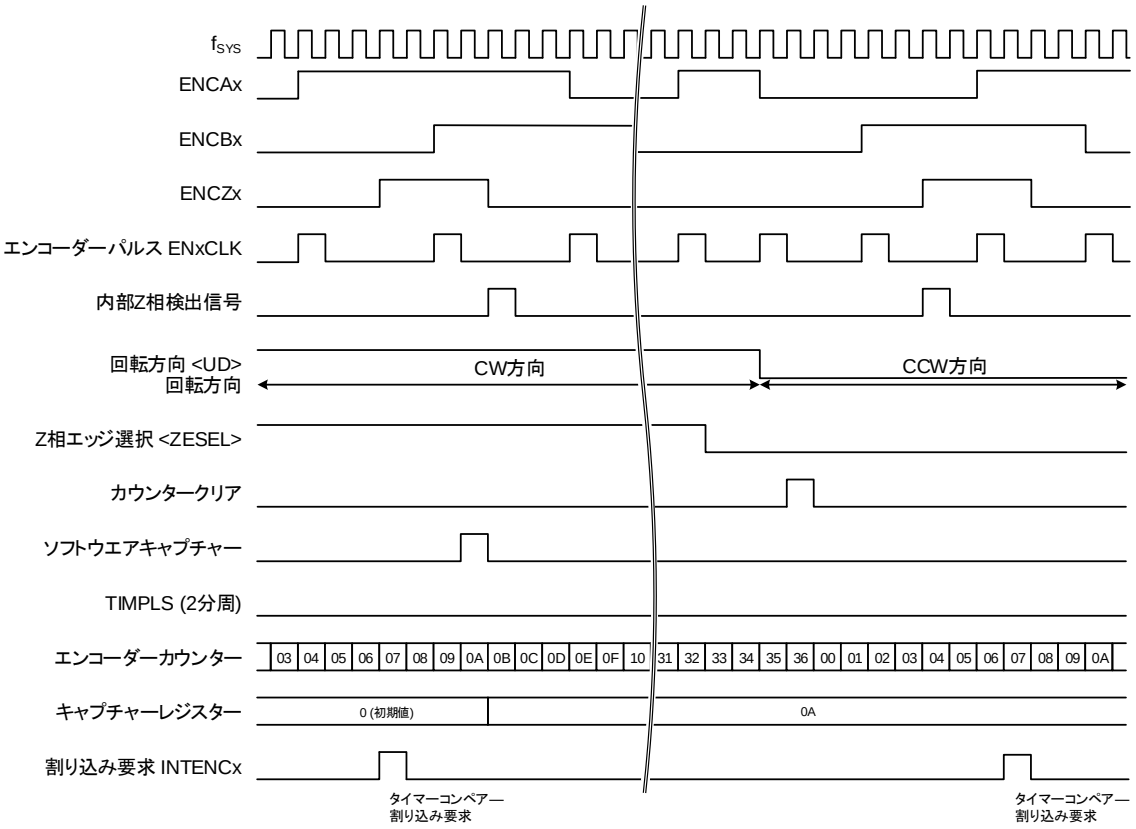
- ホールセンサー入力を U、V、W 相に接続します。<P3EN> = "0"の場合は U、V 信号を 4 逓倍、<P3EN> = "1"の場合は U、V、W 信号を 6 逓倍して、ホールセンサーパルス幅のカウントを行います。
- カウンターは常にアップカウントを行い、ENCLK でカウンターが"0"にクリアされます。また、カウンター値が"0xFFFFFF"と等しくなったとき、カウンターが"0"にクリアされます。
- <ENCLR>に"1"が書き込まれると、カウンターは"0"にクリアされます。
- ENCLK により、カウンター値がキャプチャーされます。キャプチャーした値は ENxCNT レジスターから読み出すことができます。
- <SFTCAP>に"1"が書き込まれると、カウンター値がキャプチャーされます。キャプチャーは任意のタイミングで行うことができます。キャプチャーした値は ENxCNT レジスターから読み出すことができます。
- <UD>は CW 方向に回転していることを検出しているときは"1"、CCW 方向のときは"0"がセットされます。
- <CMPEN> = "1"のとき、<INT[23:0]>の値とカウンター値が等しくなったときに割り込みが発生します。
- <UD>は<ENRUN> = "0"のときは"0"にクリアされます。
- 回転方向が変化した場合は<REVERR> = "1"にセットされます。フラグは読み出すことでクリアされます。
- ENxCNT レジスターの値(キャプチャー値)は、<ENRUN>の値にかかわらず保持されます。ENxCNT レジスターのクリア要因はリセットのみです。

14.5.1.4. タイマーモード

(1) <ZEN> = "1"のとき(<INT[23:0]> = "0x0006")



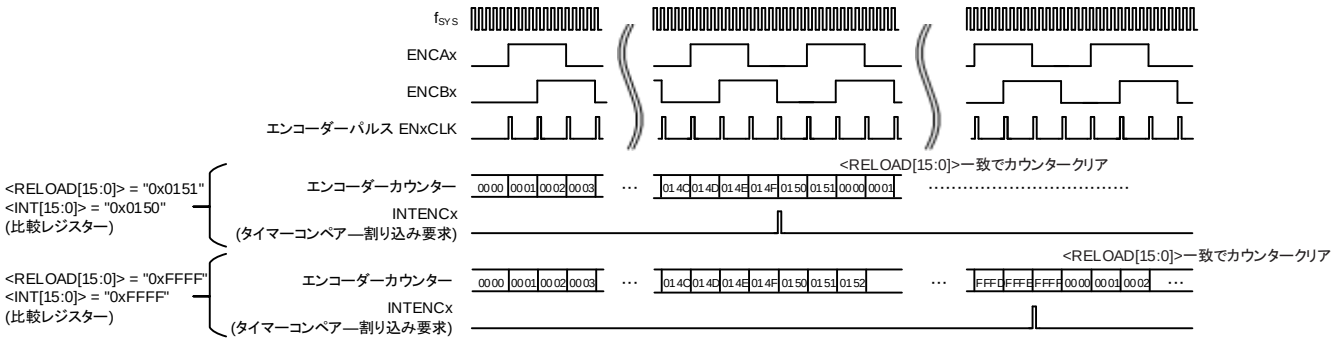
(2) <ZEN> = "0"のとき(<INT[23:0]> = "0x0006")



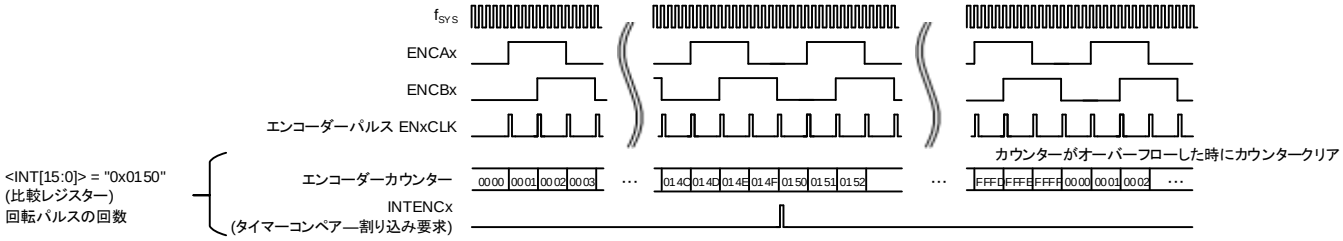
- <ZEN> = "1"のとき、Z 入力端子を外部トリガーとして使います。<ZEN> = "0"のとき、外部入力は使用しません。
- カウンターは常にアップカウントを行います。<ZEN> = "1"の場合、<ZESEL> = "0"のときは Z 相の立ち上がりエッジでカウンターが"0"にクリアされ、<ZESEL> = "1"のときは Z 相の立ち下がりエッジでカウンターが"0"にクリアされます。また、エンコーダーカウンター値が"0xFFFFFF"と等しくなったとき、カウンターが"0"にクリアされます。
- <ENCLR>に"1"が書き込まれると、カウンターは"0"にクリアされます。
- Z 相検出により、発生時のカウンター値がキャプチャーされます。キャプチャーした値は ENxCNT レジスターから読み出すことができます。
- <SFTCAP>に"1"が書き込まれると、発生時のエンコーダーカウンター値がキャプチャーされます。キャプチャーは任意のタイミングで行うことができます。キャプチャーした値は ENxCNT レジスターから読み出すことができます。
- <UD>は CW 方向に回転していることを検出しているときは"1"、CCW 方向のときは"0"がセットされます。
- <CMPEN> = "1"のとき、<INT[23:0]>の値とエンコーダーカウンター値が等しくなったときに割り込みが発生します。
- <UD>は<ENRUN> = "0"のときは"0"にクリアされます。
- ENxCNT レジスターの値(キャプチャー値)は、<ENRUN>の値にかかわらず保持されます。ENxCNT レジスターのクリア要因はリセットのみです。

14.5.2. カウンターおよび割り込み発生動作 <CMPEN> = "1"のとき

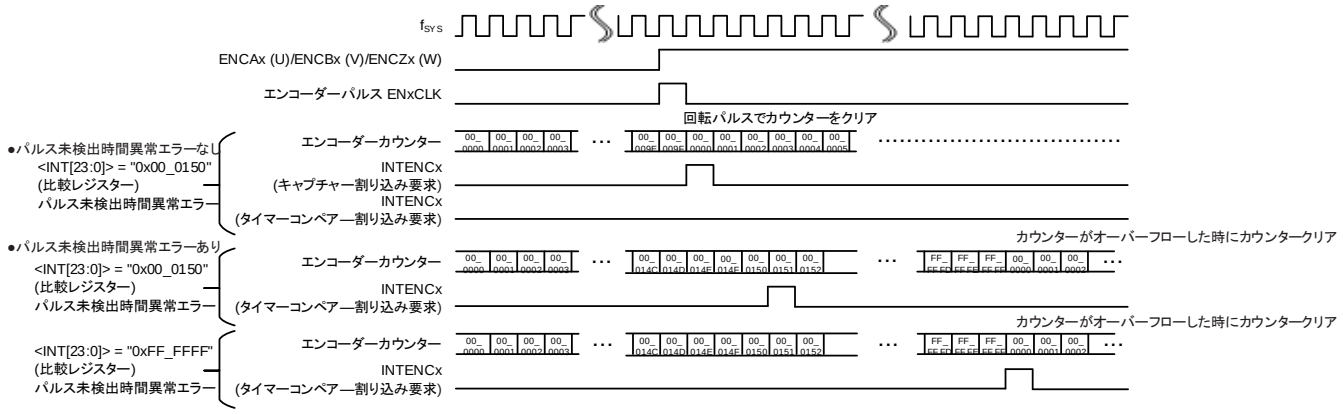
14.5.2.1. エンコーダーモード



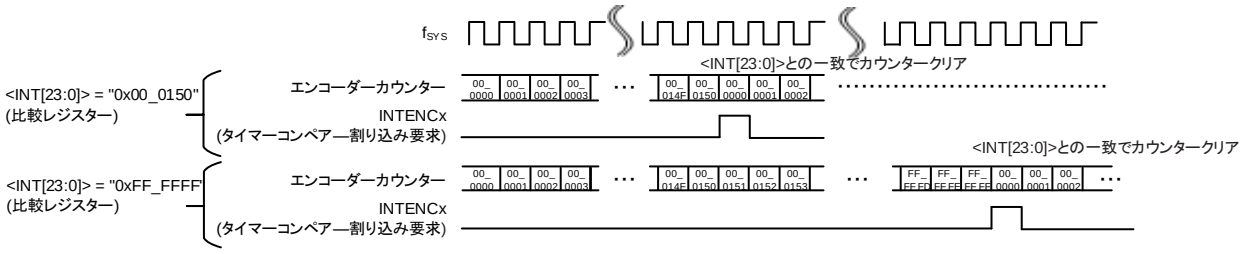
14.5.2.2. センサーモード(イベントカウント)



14.5.2.3. センサーモード(タイマーカウント)

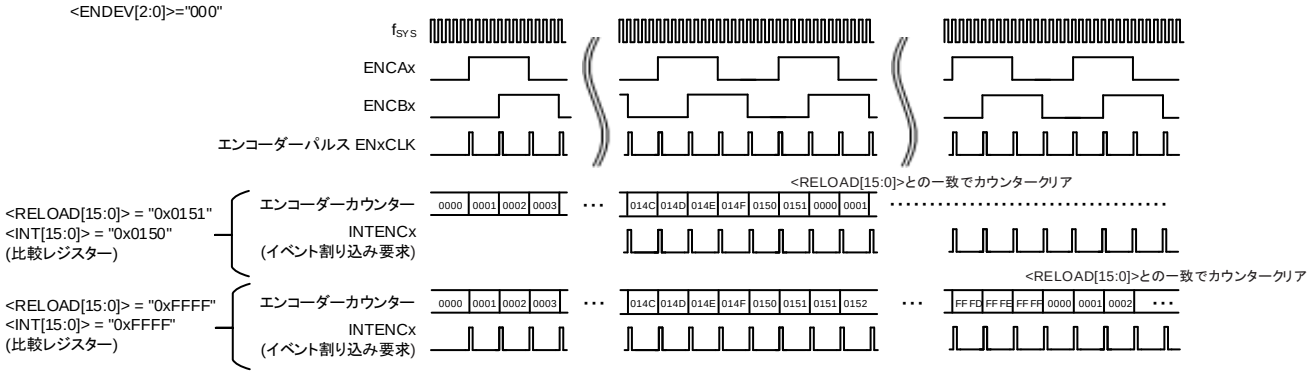


14.5.2.4. タイマーモード

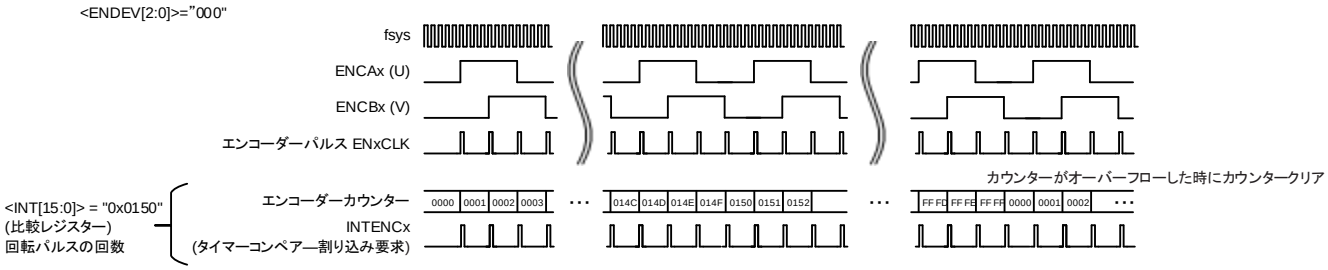


14.5.3. カウンターおよび割り込み発生動作<CMPEN> = "0"のとき

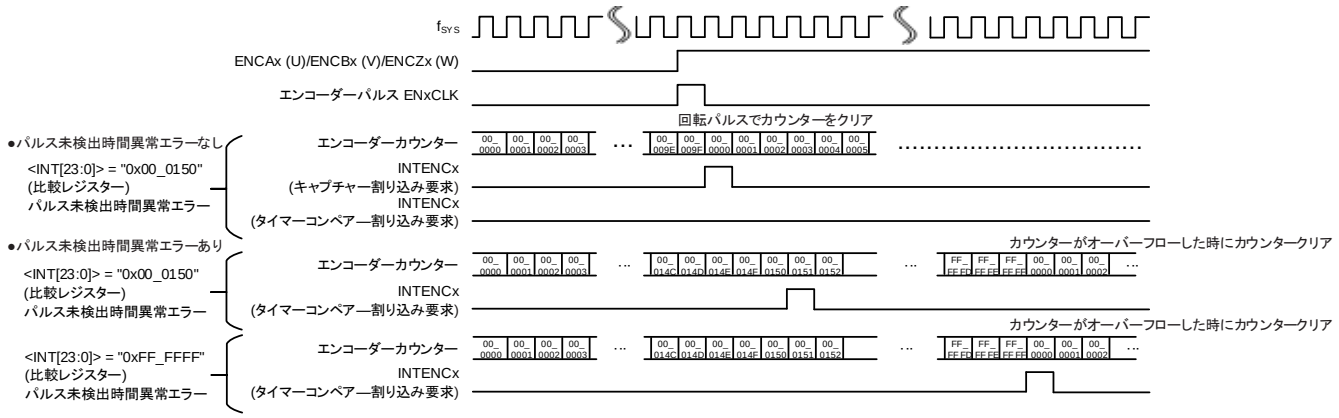
14.5.3.1. エンコーダーモード



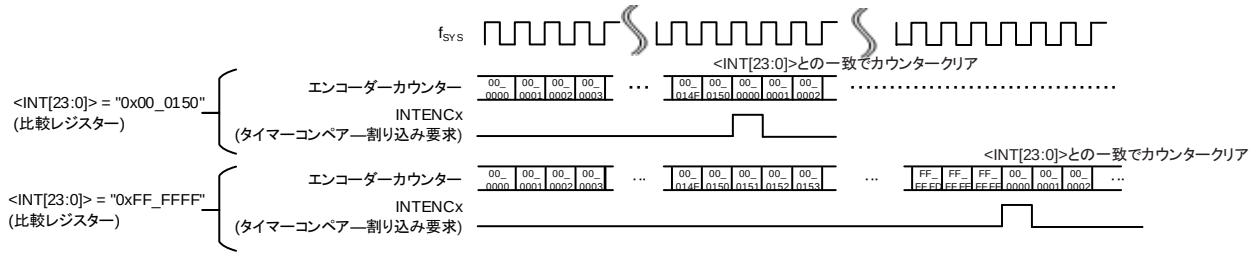
14.5.3.2. センサーモード(イベントカウント)



14.5.3.3. センサーモード(タイマーカウント)



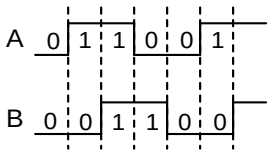
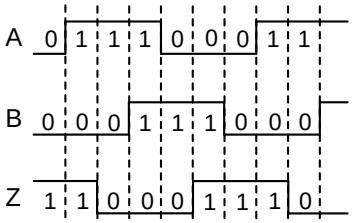
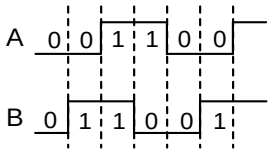
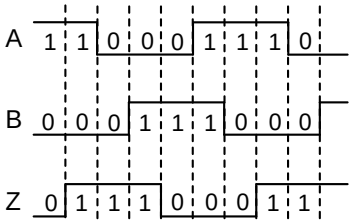
14.5.3.4. タイマーモード



14.5.4. エンコーダー回転方向

A、B、Z 相の位相を判定します。

この回路は 2 相(A、B)/3 相(A、B、Z)入力兼用で使用します。3 相入力時は<P3EN> = "1"に設定します。

	2相入力時	3相入力時
CW 方向		
CCW 方向		

14.5.5. カウンター回路

カウンター回路は、24bit のアップダウンカウンターを内蔵し、カウンターの制御を行います。

14.5.5.1. 動作概要

動作モードにより、カウント動作、クリア、リロードを制御します。カウンターの制御を表 14.1 に示します。

表 14.1 カウンターの制御

モード <MODE[1:0]>	<ZEN>	<P3EN>	入力端子	カウント	動作	カウンタークリア条件	カウンターリロード条件	カウンター動作可能範囲
エンコーダーモード 00	0	0	A、B	エンコーダーパルス (ENCLK)	アップ	[1] <ENCLR> = "1" WR [2] <RELOAD[15:0]>と一致	-	"0x0000" ~ <RELOAD[15:0]>
					ダウン	[1] <ENCLR> = "1" WR	[1] "0x0000"と一致	
	1		A、B、Z		アップ	[1] <ENCLR> = "1" WR [2] <RELOAD[15:0]>と一致 [3] Z トリガー	-	
					ダウン	[1] <ENCLR> = "1" WR	[1] "0x0000"と一致	
センサーモード (イベントカウント) 01	0	0	U、V		アップ	[1] <ENCLR> = "1" WR [2] "0xFFFF"と一致	-	"0x0000" ~ "0xFFFF"
					ダウン	[1] <ENCLR> = "1" WR	[1] "0x0000"と一致	
		1	U、V、W		アップ	[1] <ENCLR> = "1" WR [2] "0xFFFF"と一致	-	
					ダウン	[1] <ENCLR> = "1" WR	[1] "0x0000"と一致	
センサーモード (タイマーカウント) 10	0	0	U、V	fsys	アップ	[1] <ENCLR> = "1" WR [2] "0xFF_FFFF"と一致	-	"0x00_0000" ~ "0xFF_FFFF"
		1	U、V、W		アップ	[3] エンコーダーパルス (ENCLK)	-	
タイマーモード 11	0	Don't care	-		アップ	[1] <ENCLR> = "1" WR [2] "0xFF_FFFF"と一致 [3] <INT[23:0]>と一致	-	"0x00_0000" ~ "0xFF_FFFF"
	1		Z		アップ	[1] <ENCLR> = "1" WR [2] "0xFF_FFFF"と一致 [3] <INT[23:0]>と一致 [4] Z トリガー	-	

注) カウンターの値は、<ENRUN> = "0"を書き込んでもクリアされません。また、再度<ENRUN> = 1 とすると、停止時のカウンター値からカウントを再開します。カウンター値を"0"にクリアする場合は、<ENCLR> = "1"を書き込むことでソフトウェアクリアしてください。

14.5.6. 割り込み

割り込みには、イベント(分周パルス、キャプチャー)割り込み、未検出時間異常割り込み、タイマーコンペア割り込み、キャプチャー割り込みがあります。

14.5.6.1. 動作概要

<INTEN> = "1"のとき、カウンター値およびエンコーダーパルスにより割り込みを発生します。

割り込みの要因は、動作モードおよび<CMPEN>、<ZEN>の設定により以下の6種類があります。表 14.2 に割り込み要因を示します。

表 14.2 割り込み要因

	割り込み要因	説明	モード	割り込み出力	ステータスフラグ
1	イベントカウント割り込み	<CMPEN> = "1"のとき、イベント(回転パルス)の発生をカウントするカウンターを使用し、設定回数(= <INT[15:0]>)カウントされたことを通知します。	エンコーダーモードおよびセンサーモード(イベントカウント)	<INTEN> = "1" かつ <CMPEN> = "1"時	あり <CMP>
2	イベント割り込み（分周パルス）	イベント(エンコーダーパルス) の発生を、<ENDEV>の設定により 1 分周 ~ 128 分周して、通知します。		<INTEN> = "1"時	なし
3	イベント割り込み（キャプチャー割り込み）	イベント(エンコーダーパルス)の発生およびイベント(回転パルス)でキャプチャーが行われたことを通知します。	センサーモード(タイマーカウント)	<INTEN> = "1"時	なし
4	未検出時間異常割り込み	<CMPEN> = "1"のとき、fsys でカウントしイベント(エンコーダーパルス)でクリアするカウンターを使用し、イベントがある一定時間(= <INT[23:0]>)以上発生しないことを通知します。		<INTEN> = "1" かつ <CMPEN> = "1"時	あり <CMP>
5	タイマーコンペア割り込み	<CMPEN> = "1"のとき、タイマーで設定時間(= <INT[23:0]>)カウントしたことを通知します。	タイマーモード	<INTEN> = "1" かつ <CMPEN> = "1"時	あり <CMP>
6	キャプチャー割り込み	外部トリガー(ENCZx 入力)でキャプチャーが行われたことを通知します。		<INTEN> = "1"時	なし

センサーモード(タイマーカウント)およびタイマーモード時は、エンコーダーカウンターのキャプチャー動作が可能です。

キャプチャーした値は、<CNT[23:0]>から読み出すことができます。

センサーモード(タイマーカウント)時は、イベント発生(エンコーダーパルス)により、カウンターの値がキャプチャーされます。<SFTCAP>に"1"を書き込むことにより、ソフトウェアキャプチャーも可能です。

タイマーモード時は、<SFTCAP>に"1"を書き込むことにより、ソフトウェアキャプチャーが可能です。<ZEN> = "1"設定時は、ENCZx 入力を使用して、<ZESEL>に従ったエッジでの外部トリガーキャプチャーも可能です。

15. パワーオンリセット回路(POR)

パワーオンリセット回路(POR)は、電源投入時にパワーオンリセット信号を発生します。
また、電源電圧が POR の検出電圧以下のとき、パワーオンリセット信号を発生します。
電源電圧とは、DVDD5、RVDD5 を指しています。

注 1) 電源電圧の変動により POR が正常に動作をしないことがあります。機器設計的には電気的特性を参照の上十分な考慮をしてください。

注 2) 電源電圧が動作限界(基準電圧発生回路が動作できない電圧)以下のとき、パワーオンリセット信号は不定になります。

15.1. 構成

POR は、基準電圧発生回路、コンパレーターおよびパワーオンカウンターから構成されます。
電源電圧をラダー抵抗によって分圧した電圧を基準電圧発生回路が発生した基準電圧とコンパレーターで比較します。

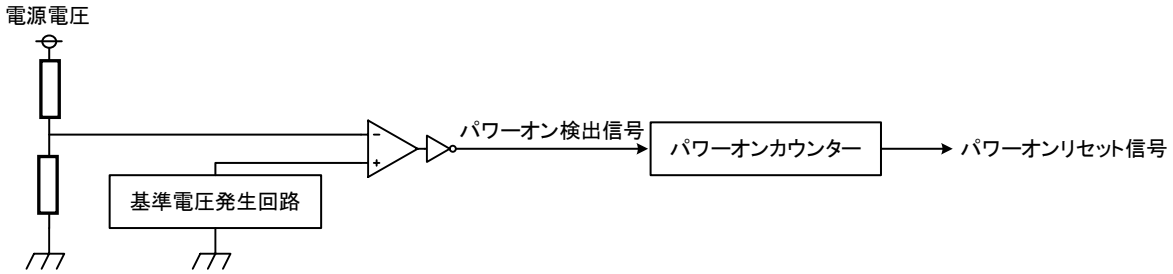


図 15.1 PORのブロック図

15.2. 機能

電源投入時、電源電圧が POR の解除電圧以下の間、パワーオンリセット信号が発生されます。電源電圧が POR の解除電圧を越え、さらにパワーオン検出信号が解除されるとパワーオンカウンター回路が動作し、最大 3.7ms 後にパワーオンリセット信号が解除されます。

電源遮断時、電源電圧がパワーオンリセットの検出電圧以下になるとパワーオンリセット信号が発生されます。

パワーオンリセット信号が発生されている間、パワーオンカウンター回路、CPU および周辺機能はリセットされます。

$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセットを使用しないでパワーオンリセット回路だけを使用するときには、電源電圧が POR の解除電圧を越えてから 3ms 以内に、電源電圧を動作電圧範囲まで上昇させてください。電源電圧が動作電圧範囲に到達しない場合、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は正常に動作することができません。

注）電源投入時、電源電圧が推奨動作電圧範囲(4.5 ~ 5.5V)に到達した後、200μs 経過するまでの期間、ポート L(PL0 および PL1)はオープンまたは 0.5V 以下となるようにしてください。

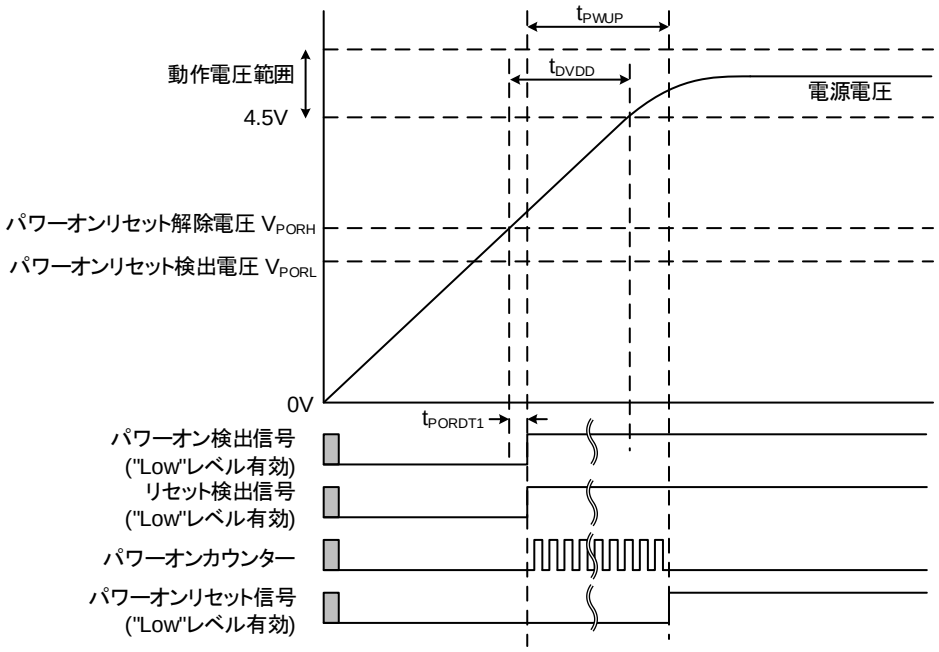


図 15.2　パワーオンリセット動作タイミング (1/2)

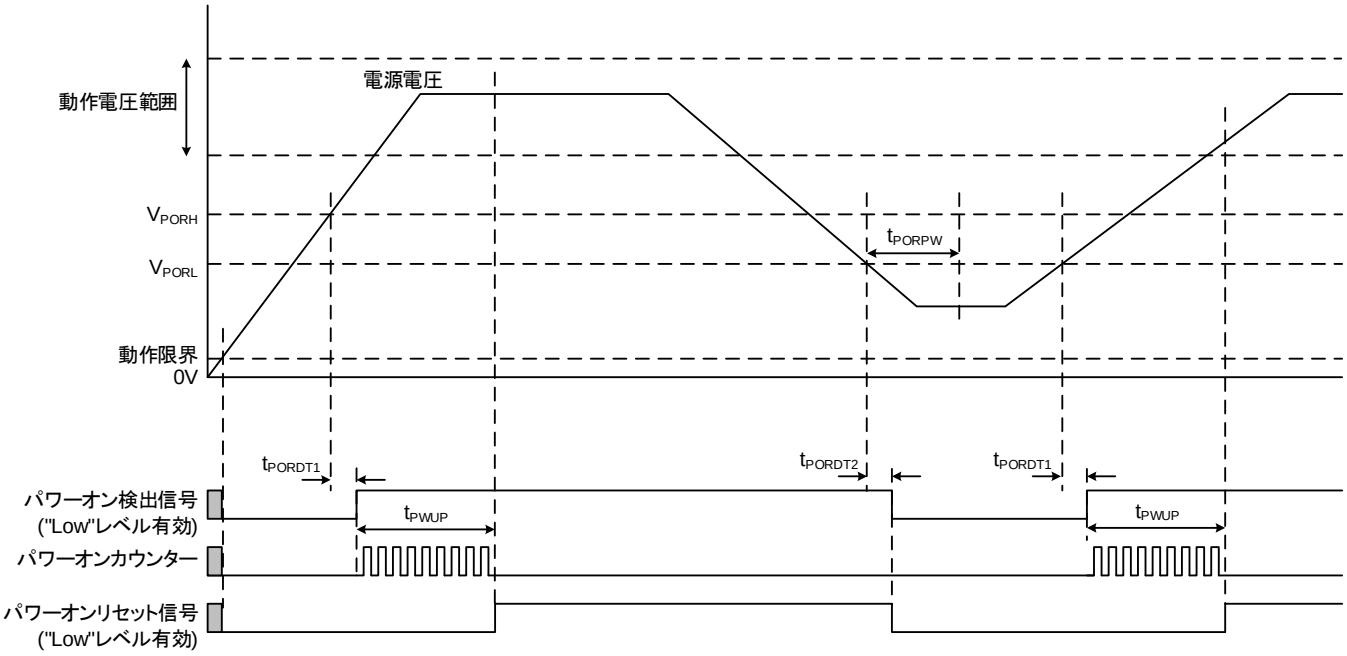


図 15.3　パワーオンリセット動作タイミング (2/2)

項目	記号	Min	Typ.	Max	単位
パワーオンリセット解除時間	t_{PWUP}	-	-	3.7	ms
電源立ち上がり時間	t_{DVDD}	-	-	3	
パワーオンリセット解除電圧	V_{PORH}	2.8	3	3.2	V
パワーオンリセット検出電圧	V_{PORL}	2.6	2.8	3	V
パワーオンリセット解除応答時間	t_{PORDT1}	-	30	-	μs
パワーオンリセット検出応答時間	t_{PORDT2}	-	30	-	μs
パワーオンリセット最小パルス幅	t_{PORPW}	45	-	-	μs

注) パワーオンリセット解除電圧(V_{PORH})とパワーオンリセット検出電圧(V_{PORL})は、相対的に変化するため、パワーオンリセット解除電圧はパワーオン検出電圧より必ず高くなります。

16. 電圧検出回路(VLTD)

16.1. 概要

電圧検出回路は、電源電圧の低下を検出し、リセット信号を発生します。
電源電圧とは、DVDD5、RVDD5 を指しています。

注) 電源電圧の変動によっては電圧検出回路が正常な動作をしないことがありますので、機器設計時には電気的特性を参照の上、十分な考慮が必要です。

16.2. 構成

電圧検出回路は、基準電圧発生回路、検出電圧レベル選択回路、コンパレーター、制御レジスターから構成されます。

電源電圧はラダー抵抗で分圧され、検出電圧選択回路に入力されます。検出電圧選択回路で検出電圧(VDCR<VDLVL[1:0]>)に応じた電圧が選択され、コンパレーターで基準電圧と比較されます。電源電圧が検出電圧(VDCR<VDLVL[1:0]>)を下回ると、電圧検知リセットを発生します。

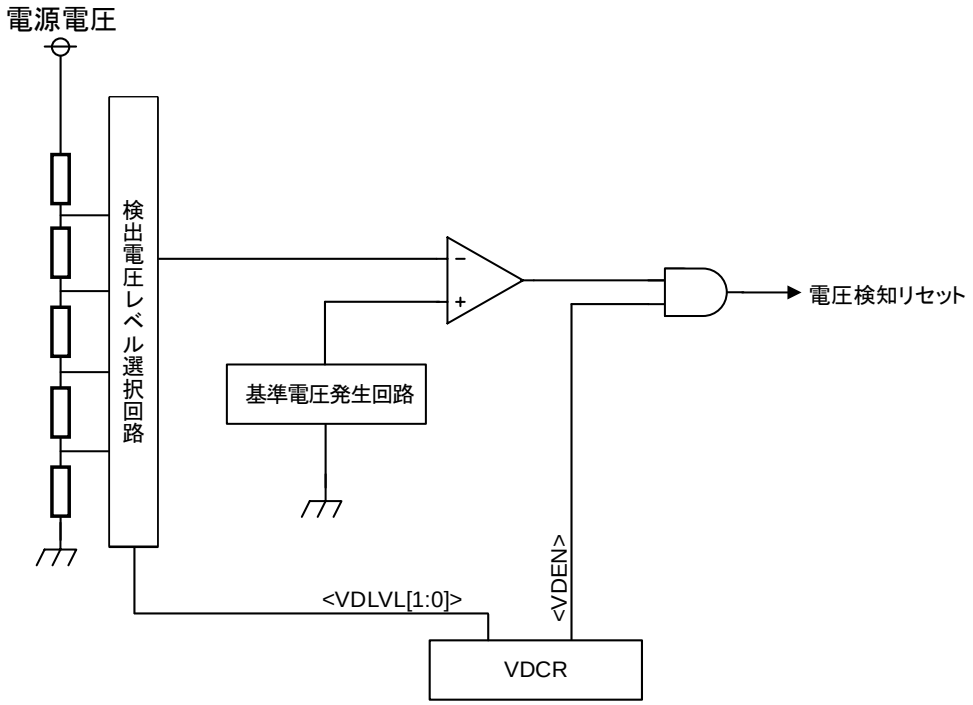


図 16.1 電圧検出回路

16.3. レジスター説明

16.3.1. レジスター一覧

レジスター名		Address (Base+)
電圧検出制御レジスター	VDCR	0x0000

16.3.2. VDCR(電圧検出制御レジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
Bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	-	-	-	-	-	VDLVL		VDEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2:1	VDLVL[1:0]	R/W	検出電圧レベル選択 00: 設定禁止 01: 4.1 ± 0.2V 10: 4.4 ± 0.2V 11: 4.6 ± 0.2V
0	VDEN	R/W	電圧検出の許可/禁止 0: 禁止 1: 許可

注) VDCR は POR、外部リセット入力で初期化されます。

16.4. 動作説明

16.4.1. 制御

電圧検出回路は、電圧検出制御レジスターで制御されます。

16.4.2. 機能

電圧検出回路は、VDCR<VDLVL[1:0]>、VDCR<VDEN>で設定します。電圧検出の許可を設定し、電源電圧が検出電圧(VDCR<VDLVL[1:0]>)を下回ったとき、電圧検知リセットを発生します。

16.4.2.1. 電圧検出動作の許可/禁止

VDCR<VDEN>はパワーオンリセット、外部リセット解除後、"0"にクリアされ禁止されます。"1"にセットすると電圧検出動作が許可されます。

注) 電源電圧 < 検出電圧 VDCR<VDLVL[1:0]>の状態で、VDCR<VDEN> = "0"(禁止)から"1"(許可)に設定すると、設定した時点で電圧検知リセットが発生します。

16.4.2.2. 検出電圧レベル選択

VDCR<VDLVL[1:0]>で検出電圧を選択します。

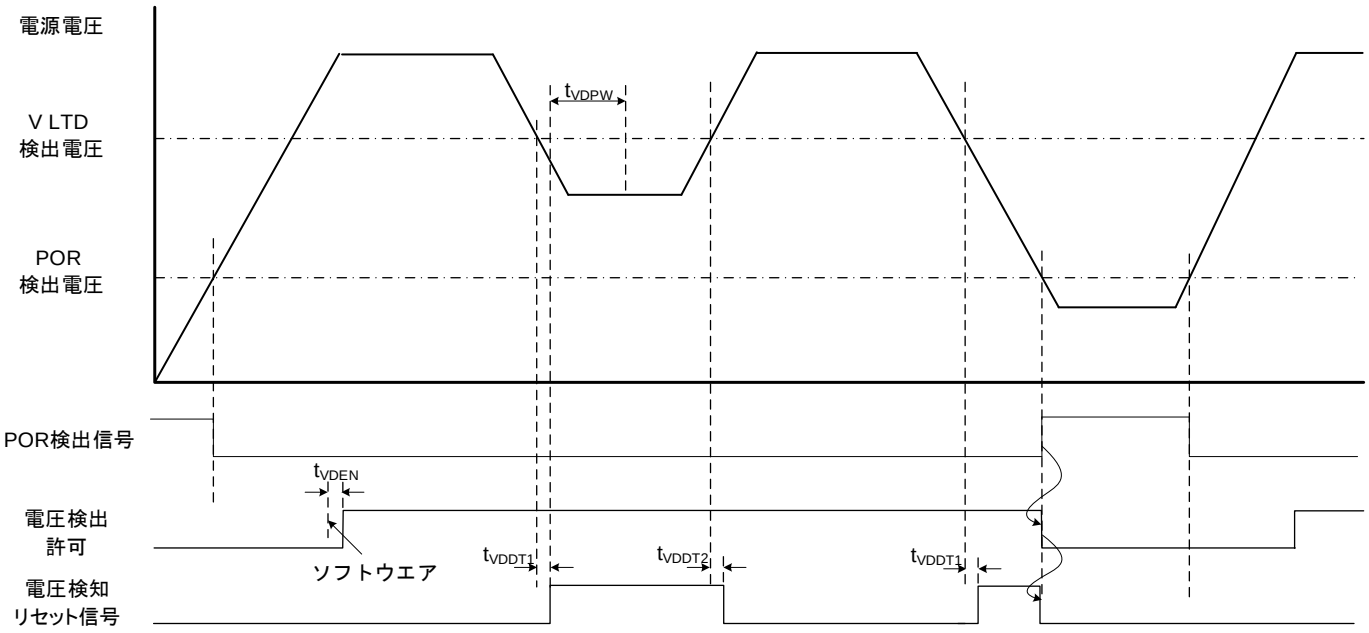


図 16.2 電圧検出タイミング

表 16.1 VLTD特性

項目	記号	Min	Typ.	Max	単位
VLTD が有効になる時間	t_{VDEN}	-	40	-	μs
VLTD 検出応答時間	t_{VDDT1}	-	40	-	
VLTD 検出解除時間	t_{VDDT2}		40	-	
VLTD 検出最小パルス幅	t_{VDPW}	45	-	-	

17. 周波数検知回路(OFD)

17.1. 構成

周波数検知回路(OFD)は、CPU クロック用高周波の周波数が検知周波数設定レジスターによって設定された周波数範囲を超えた場合にリセットを発生する回路です。

検知する周波数の上限と下限は OFDMXPLLOFF と OFDMNPLLOFF で設定します。TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の検出周波数の初期値は図 17.1、図 17.2 を参照してください。OFDMXPLLOFF、OFDMXPLLON、OFDMNPLLOFF および OFDMNPLLON は周波数検知動作中は書き換えできませんので、検知周波数を変更する場合は周波数検知が停止中に行ってください。また、OFDMXPLLOFF、OFDMXPLLON、OFDMNPLLOFF および OFDMNPLLON に書き込みをおこなうためには、周波数検知回路制御レジスター1 (OFDCR1)に書き込み許可コード"0xF9"を設定する必要があります。周波数検知回路は$\overline{\text{RESET}}$端子への外部リセット入力により禁止となります。検知動作を許可にするためには、OFDCR1 に書き込み許可コード"0xF9"を書き込んだ後、周波数検知回路制御レジスター2(OFDCR2)に"0xE4"を設定します。

OFDMNPLLOFF、OFDMNPLLON、OFDMXPLLOFF および OFDMXPLLON で設定した周波数範囲を超えた場合、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は周波数検知リセットを発生し、全ての入出力ポートはハイインピーダンス状態となります。CPU などの内部回路はクロックに同期したリセットによって初期化されますので、高周波クロックの停止により周波数検知リセットが発生した場合、高周波クロックの発振が再開するまで内部回路は初期化されません。

周波数検知回路の全てのレジスター(OFDCR1、OFDCR2、OFDMNPLLOFF、OFDMNPLLON、OFDMXPLLOFF、OFDMXPLLON)は、周波数検知リセットでは初期化されず、周波数検知リセットが発生している期間でも検知動作は継続します。したがって、周波数検知リセットが発生した場合、高周波クロックが正常となるまでリセットは解除されません。

注 1) いかなる異常も検知できるわけではありません。また、クロックの誤差を測定するための回路ではありません。

注 2) 周波数検知回路は NORMAL モードおよび IDLE モードのときのみ有効となります。STOP モードのときは、周波数検知回路は自動的に禁止となります。

注 3) CGPLLSEL で PLL を設定する場合、周波数検知回路(OFD)は必ず禁止の状態で行ってください。なお、PLL オンの状態で OFD リセットが発生した場合、検知周波数設定レジスターは、OFDMNPLLON/OFDMXPLLON から OFDMNPLLOFF/OFDMXPLLOFF に自動的に切り替わります。

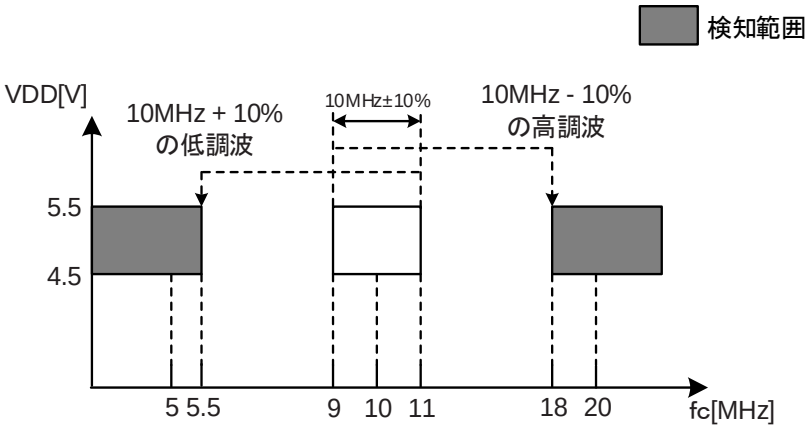


図 17.1　検出周波数範囲初期値(PLL OFF時）

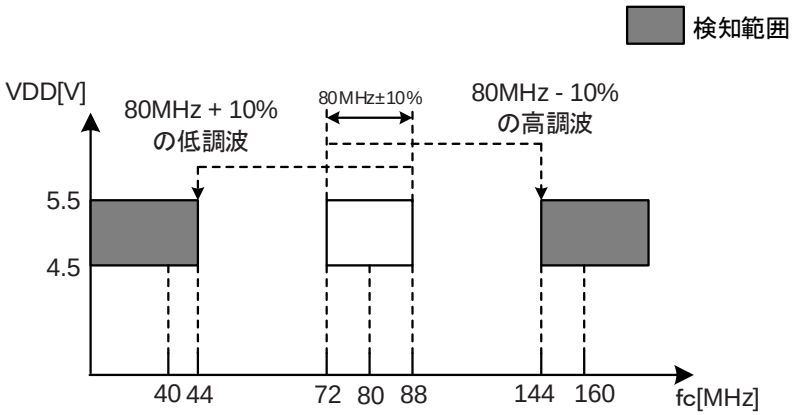


図 17.2　検出周波数範囲初期値(PLL ON時)

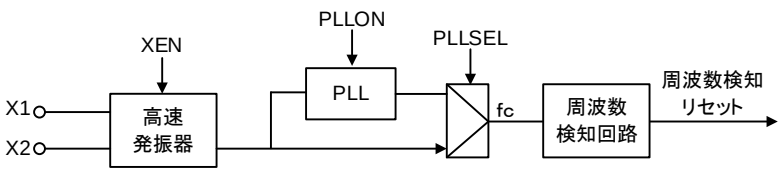


図 17.3　周波数検知回路

注) CGPLLSEL にて PLL の設定をおこなう場合は、必ず OFD が禁止の状態でおこなってください。

17.2. レジスター説明

17.2.1. レジスター一覧

制御レジスターとアドレスを以下に示します。

レジスター名		Address (Base+)
周波数検知回路制御レジスター1	OFDCR1	0x0000
周波数検知回路制御レジスター2	OFDCR2	0x0004
検知周波数下限値レジスター(PLL OFF時)	OFDMNPLLOFF	0x0008
検知周波数下限値レジスター(PLL ON時)	OFDMNPLLON	0x000C
検知周波数上限値レジスター(PLL OFF時)	OFDMXPLLOFF	0x0010
検知周波数上限値レジスター(PLL ON時)	OFDMXPLLON	0x0014

17.2.2. OFDCR1(周波数検知回路制御レジスター1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	OFDWEN							
リセット後	0	0	0	0	0	1	1	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:0	OFDWEN[7:0]	R/W	レジスター書き込み制御 0x06: 禁止 0xF9: 許可 "0xF9"を設定すると、OFDCR1以外のレジスターへの書き込みができるようになります。"0x06"、"0xF9"以外の値を書いた場合、"0x06"が書かれます。書き込みが禁止されていても、各レジスターを読み出すことは可能です。

注) OFDCR1 は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$端子への"Low"レベル入力)で初期化されます。

17.2.3. OFDCR2(周波数検知回路制御レジスター2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	OFDEN							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:0	OFDEN[7:0]	R/W	周波数検知動作制御 0x00: 禁止 0xE4: 許可 "0x00"、"0xE4"以外の値の書き込みは無効で値は変化しません。

注) OFDCR2 は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$端子への"Low"レベル入力)で初期化されます。

17.2.4. OFDMNPLLOFF(検知周波数下限値設定レジスター(PLL OFF 時))

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	OFDMNPLL OFF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDMNPLLOFF							
リセット後	0	0	0	1	1	1	1	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:9	-	R	リードすると"0"が読めます。
8:0	OFDMNPLL OFF[8:0]	R/W	検知周波数の下限値を設定します。

注 1) 本レジスターは、周波数検知動作が許可されているときは書き込みできません。

注 2) OFDMNPLLOFF は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$端子への"Low"レベル入力)で初期化されます。

注 3) OFDMNPLLOFF と OFDMXPLLOFF は OFDMNPLLOFF < OFDMXPLLOFF の条件下で、使用するクロック周波数に合わせて適切な値を設定してください。設定値は、「17.3.2. 検知周波数の設定」参照してください

注 4) OFDMNPLLOFF/OFDMXPLLOFF と OFDMNPLLON/OFDMXPLLON は PLLON 設定により自動的に切り替わります。

17.2.5. OFDMNPLLON(検知周波数下限値設定レジスター(PLL ON 時))

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	OFDMNPLLON
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDMNPLLON							
リセット後	1	1	1	1	0	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:9	-	R	リードすると"0"が読めます。
8:0	OFDMNPLLON[8:0]	R/W	検知周波数の下限値を設定します。

注 1) 本レジスターは、周波数検知動作が許可されているときは書き込みできません。

注 2) OFDMNPLLON は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$端子への"Low"レベル入力)で初期化されます。

注 3) OFDMNPLLON と OFDMXPLLON は OFDMNPLLON < OFDMXPLLON の条件下で、使用するクロックを 8 逓倍した周波数に合わせて適切な値を設定してください。設定値は、「17.3.2. 検知周波数の設定」を参照してください。

注 4) OFDMNPLLOFF/OFDMXPLLOFF と OFDMNPLLON/OFDMXPLLON は PLLON 設定により自動的に切り替わります。

17.2.6. OFDMXPLLOFF(検知周波数上限値設定レジスター(PLL OFF 時))

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	OFDMXPLL OFF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDMXPLLOFF							
リセット後	0	0	1	1	0	1	1	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:9	-	R	リードすると"0"が読めます。
8:0	OFDMXPLL OFF[8:0]	R/W	検知周波数の下限値を設定します。

注 1) 本レジスターは、周波数検知動作が許可されているときは書き込みできません。

注 2) OFDMXPLLOFF は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$端子への"Low"レベル入力)で初期化されます。

注 3) OFDMNPLLOFF と OFDMXPLLOFF は OFDMNPLLOFF < OFDMXPLLOFF の条件下で、使用するクロック周波数に合わせて適切な値を設定してください。設定値は、「17.3.2. 検知周波数の設定」参照してください

注 4) OFDMNPLLOFF/OFDMXPLLOFF と OFDMNPLLON/OFDMXPLLON は PLLON 設定により自動的に切り替わります。

17.2.7. OFDMXPLLON(検知周波数上限値設定レジスター(PLL ON 時))

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	OFDMXPLLON
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDMXPLLON							
リセット後	1	1	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:9	-	R	リードすると"0"が読めます。
8:0	OFDMXPLLON[8:0]	R/W	検知周波数の下限値を設定します。

注 1) 本レジスターは、周波数検知動作が許可されているときは書き込みできません。

注 2) OFDMXPLLON は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$端子への"Low"レベル入力)で初期化されます。

注 3) OFDMNPLLON と OFDMXPLLON は OFDMNPLLON < OFDMXPLLON の条件下で、使用するクロックを 8 逓倍した周波数に合わせて適切な値を設定してください。設定値は、「17.3.2. 検知周波数の設定」を参照してください。

注 4) OFDMNPLLOFF/OFDMXPLLOFF と OFDMNPLLON/OFDMXPLLON は PLLON 設定により自動的に切り替わります。

17.3. 機能

17.3.1. 周波数検知回路の動作制御

OFDCR1 に書き込み許可コード"0xF9"が設定された状態で OFDCR2 に"0xE4"を書き込むと周波数検知回路は許可となり、OFDCR1 に"0xF9"が設定された状態で OFDCR2 に"0x00"を書き込むと周波数検知回路は禁止となります。

OFDCR1 に書き込み禁止コード"0x06"が設定されていると OFDCR2 への書き込みはできなくなります。なお、OFDCR1 の設定に関係なく OFDCR2 の読み出しは可能です。外部リセット入力($\overline{\text{RESET}}$端子への"L"入力)により OFDCR1 は"0x06"に初期化され、OFDCR2 は"0x00"に初期化されますので、外部リセット解除後は周波数検知動作停止、レジスター書き込み禁止状態となります。OFDCR1 と OFDCR2 は内部要因リセット(SYSRESETREQ リセット、ウオッチドッグタイマーリセット)および周波数検知リセットでは初期化されません。

注) OFDCR2 を設定した場合、誤書き込み防止のため OFDCR1 に書き込み禁止コード"0x06"を設定してください。

周波数検知動作が許可状態(OFDCR2 = "0xE4")で STOP モードを起動した場合、周波数検知回路は自動的に禁止となります。この状態で STOP モードが解除されると、周波数検知回路は STOP モード解除後のウォーミングアップ期間が終了してから許可となります。

周波数検知回路は NORMAL モードと IDLE モードのときのみ使用可能です。詳細は表 17.1 を参照してください。

表 17.1 各動作モードにおける周波数検知回路の状態

動作モードまたは状態	周波数検知回路動作 (OFDCR2 = "0xE4"設定時)	周波数検知リセットによる端子状態 (電源、$\overline{\text{RESET}}$、X1、X2端子を除く)
NORMAL	動作	Hi-Z
IDLE	動作	Hi-Z
STOP (ウオーミングアップ期間含む)	周波数検知回路は自動的に禁止となります。	
周波数検知によるリセット	動作	Hi-Z
ウオッチドッグタイマーリセット SYSRESETREQ リセット	動作	Hi-Z
外部リセット入力 ($\overline{\text{RESET}}$端子への"Low"レベル入力)	停止	-

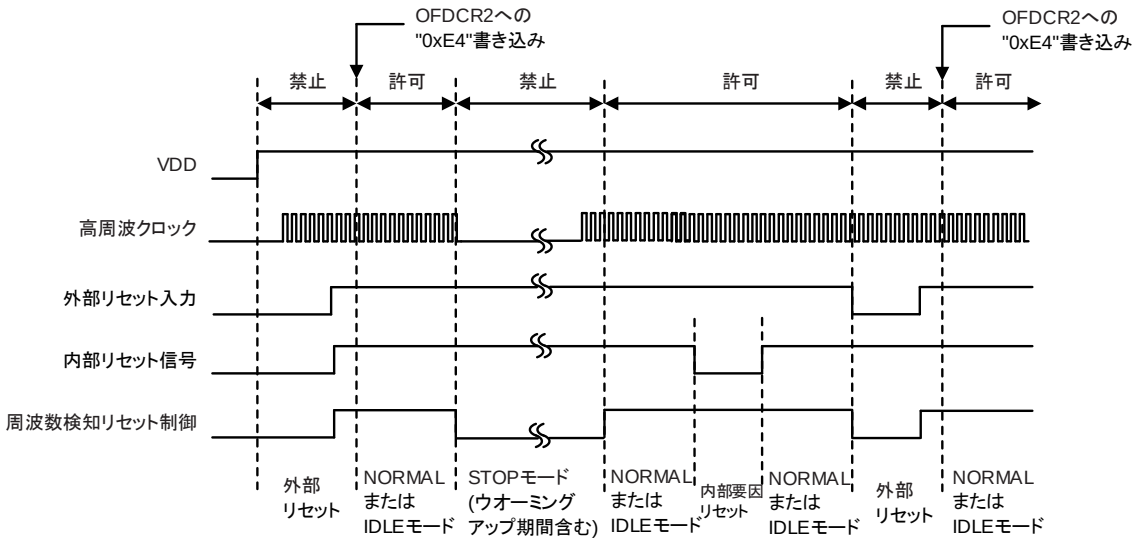


図 17.4　各モードにおける周波数検知回路動作

17.3.2. 検知周波数の設定

OFDMXPLLOFF、OFDMNPLLON、OFDMXPLLOFF および OFDMNPLLON と設定値を表 17.2 に示します。

表 17.2　使用周波数と設定値

発振周波数		検出範囲 [MHz]	非検出範囲 [MHz]	設定値	10進	(16進)
8MHz (PLL OFF)	下限	≦4.12	≧7.76	OFDMNPLLOFF	24	(0x18)
	上限	≧15.52	≦8.24	OFDMXPLLOFF	47	(0x2F)
10MHz (PLLOFF)	下限	≦5.15	≧9.7	OFDMNPLLOFF	30	(0x1E)
	上限	≧19.4	≦10.3	OFDMXPLLOFF	59	(0x3B)
64MHz (PLL ON)	下限	≦32.96	≧62.08	OFDMNPLLON	190	(0xBE)
	上限	≧ 124.16	≦65.92	OFDMXPLLON	379	(0x17B)
80MHz (PLL ON)	下限	≦41.2	≧77.6	OFDMNPLLON	238	(0xEE)
	上限	≧155.2	≦82.4	OFDMXPLLON	473	(0x1D9)

17.3.3. 周波数検知リセット

OFDMNPLLON/OFDMNPLLOFF で設定された値より低い周波数、または OFDMXPLLON/OFDMXPLLOFF で設定された値より高い周波数を検出した場合、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は全ての入出力ポートを初期化する周波数検知リセットを発生します。

(1) 高周波の周波数が異常となった場合

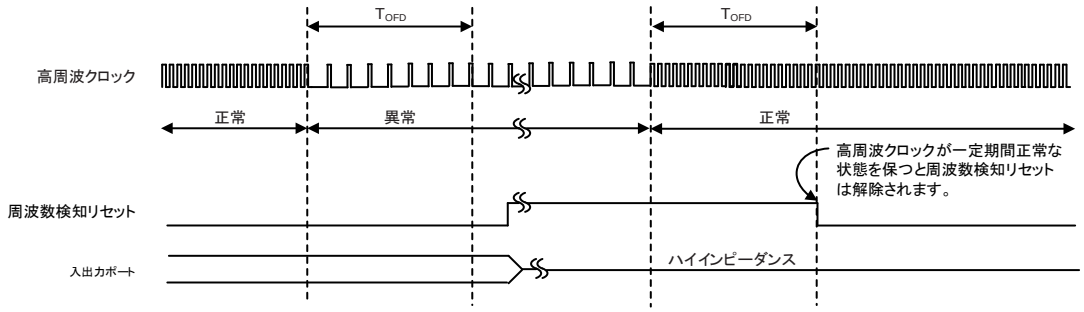
高周波が一定期間(T_{OFD})異常となった場合、周波数検知リセットが発生します。周波数検知リセットは電源端子、$\overline{\text{RESET}}$端子を除く全ての入出力ポートを初期化しハイインピーダンス状態とするとともに、CPU などの内部回路も初期化します。

(2) 高周波が停止した場合

高周波が一定期間(T_{OFD})停止した場合、周波数検知リセットが発生します。周波数検知リセットは電源端子、$\overline{\text{RESET}}$端子を除く全ての入出力ポートを初期化しハイインピーダンス状態とします。CPU などの内部回路は高周波クロックによってラッチされた信号により初期化されますので、高周波が停止している期間、内部回路は周波数検知リセットが発生したときの状態を保持します。その後、高周波発振が再開すると内部回路も初期化されます。

一定期間(T_{OFD})高周波が正常な状態を保つと、周波数検知リセットは解除されます。

- 高周波クロックが異常となった場合



- 高周波クロックが停止した場合

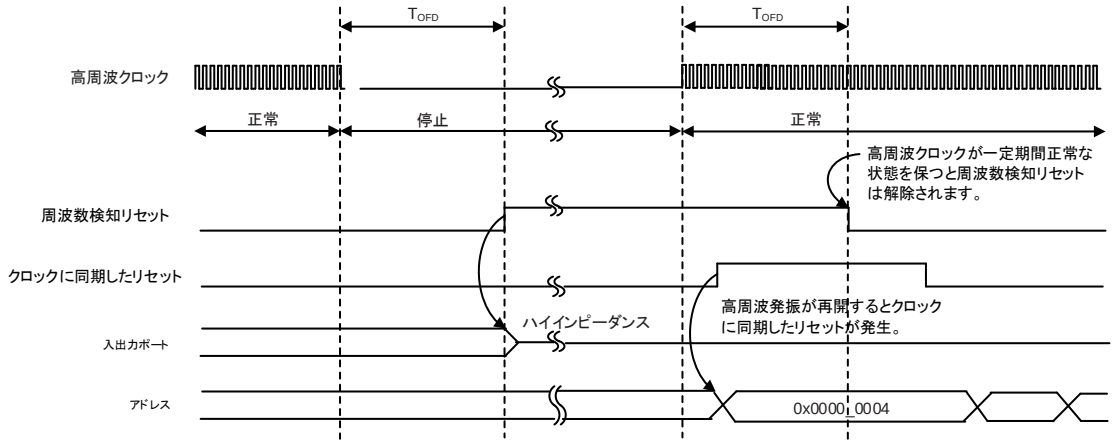


図 17.5　周波数検知リセットタイミング

18. ウオッチドッグタイマー(WDT)

18.1. 概要

ウオッチドッグタイマー(WDT)は、ノイズなどで CPU が誤動作(暴走)を始めたとき、これを検出し正常な状態に戻すことを目的としています。

誤動作(暴走)を検出した場合、割り込み要求(INTWDT)またはリセットを発生します。

18.2. 構成

WDT は、バイナリーカウンター、ウオッチドッグタイマー出力制御回路で構成されています。WDT はウオッチドッグタイマーモードレジスター、ウオッチドッグタイマー制御レジスターで制御されます。

注) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG には、$\overline{\text{WDTOUT}}$端子はありません。

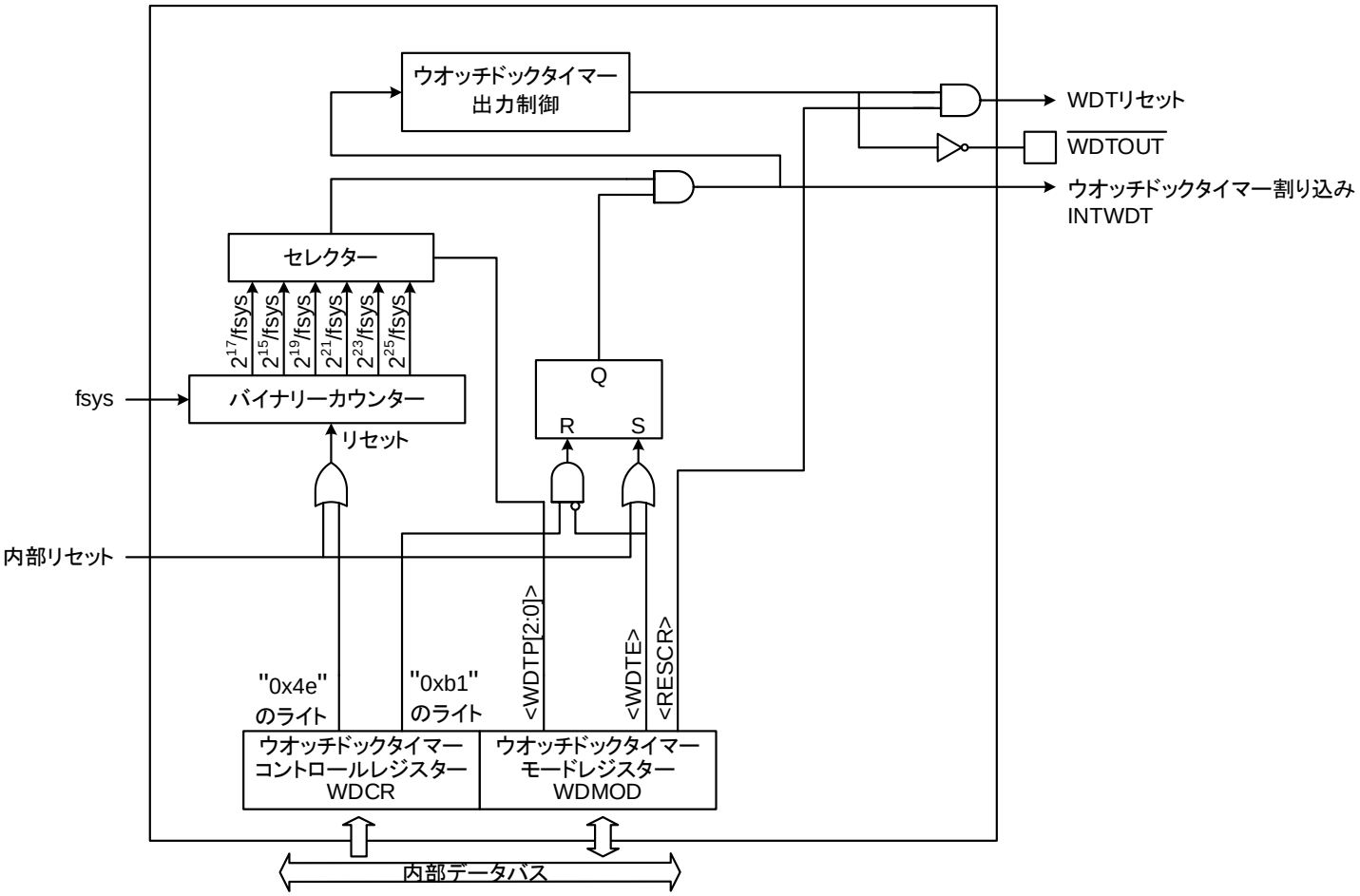


図 18.1 WDTのブロック図

18.3. レジスター説明

18.3.1. レジスター一覧

制御レジスターとアドレスを以下に示します。

レジスター名		Base+ (Address)
ウオッチドッグタイマーモードレジスター	WDMOD	0x0000
ウオッチドッグタイマーコントロールレジスター	WDCR	0x0004

18.3.2. WDMOD(ウオッチドッグタイマーモードレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	WDTE	WDTP			-	I2WDT	RESCR	-
リセット後	1	0	0	0	0	0	1	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	WDTE	R/W	WDT動作制御 0: 禁止 1: 許可
6:4	WDTP[2:0]	R/W	検出時間の選択(表 18.1を参照してください) 000: 2^{15} / fsys　100: 2^{23} / fsys 001: 2^{17} / fsys　101: 2^{25} / fsys 010: 2^{19} / fsys　110: 設定禁止 011: 2^{21} / fsys　111: 設定禁止
3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2	I2WDT	R/W	IDLEモード時の動作 0: 停止 1: 動作
1	RESCR	R/W	暴走検出後の動作選択 0: ウオッチドッグタイマー割り込み(INTWDT)を発生します。(注) 1: ウオッチドッグタイマーリセットを発生します。
0	-	R/W	"0"をライトしてください。

注) INTWDT はマスク不能割り込み(NMI)です。

表 18.1 ウオッチドッグタイマーの検出時間 (fc = 80MHz)

CGSYSCR<GEAR[2:0]>	WDMOD<WDTP[2:0]>					
	000	001	010	011	100	101
000 (fc)	0.41ms	1.64ms	6.55ms	26.21ms	104.86ms	419.43ms
100 (fc / 2)	0.82ms	3.28ms	13.11ms	52.43ms	209.72ms	838.86ms
101 (fc / 4)	1.64ms	6.55ms	26.21ms	104.86ms	419.43ms	1.68s
110 (fc / 8)	3.28ms	13.11ms	52.43ms	209.72ms	838.86ms	3.36s
111 (fc / 16)	6.55ms	26.21ms	104.86ms	419.43ms	1.68s	6.71s

18.3.3. WDCR(ウオッチドッグタイマーコントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	WDCR							
リセット後	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7:0	WDCR[7:0]	W	禁止/クリアコード 0xb1: 禁止コード 0x4e: クリアコード 上記以外:禁止

注) リセット後の初期値のみ、禁止コード(0xb1)、クリアコード(0x4e)ではない値となります。

18.4. 動作説明

18.4.1. 基本動作

WDT は、システムクロック fsys をソースクロックとするバイナリーカウンターで構成されています。

WDT の検出時間は WDMOD<WDTP[2:0]>で 2^{15} / fsys、2^{17} / fsys、2^{19} / fsys、2^{21} / fsys、2^{23} / fsys および 2^{25} / fsys から選択します。検出時間経過後にウオッチドッグタイマー割り込み(INTWDT)またはウオッチドッグタイマーリセットが発生します。この時、ウオッチドッグタイマーアウト端子($\overline{\text{WDTOUT}}$端子)より"Low"レベルが出力されます。

ノイズなどで CPU が誤動作(暴走)を始めたときこれを検出するために、プログラムで検出時間経過前にバイナリーカウンターをクリアします。

CPU が誤動作(暴走)しプログラムが正常に動作しなくなったとき、バイナリーカウンターがクリアされません。この時、INTWDT が発生、ウオッチドッグタイマーリセットが発生、または$\overline{\text{WDTOUT}}$端子から"Low"レベルが出力することで、CPU の誤動作(暴走)を検出します。

INTWDT が発生したとき、INTWDT の割り込みサービスルーチンで暴走対策プログラムを実行して、CPU の動作を正常にします。

ウオッチドッグタイマーリセットが発生したとき、MCU がリセットされ、CPU の動作を正常にします。

また、$\overline{\text{WDTOUT}}$端子を次のように使用することで、CPU の誤動作(暴走)を検出できます。

事前に外部装置を$\overline{\text{WDTOUT}}$端子の"Low"レベルを検出できるようにします。$\overline{\text{WDTOUT}}$端子を CPU の誤動作(暴走)を検出できるように外部装置に接続します。$\overline{\text{WDTOUT}}$端子は WDCR にクリアコード(0x4e)を書き込むことで"High"レベルになります。

注) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG には、$\overline{\text{WDTOUT}}$端子はありません。

18.4.2. 動作モードと動作状態

WDT は、リセット解除後、直ちに動作を開始します。使用しない場合は WDMOD<WDTE>を"0"に設定した後、WDCR に"0xb1"を書き込み WDT 動作を禁止します。

なお、ウオッチドッグタイマーは fc が停止する動作モードでは使用できません。以下に示す動作モードに遷移する前に WDT 動作を禁止してください。

- STOP モード

IDLE モード中の WDT 動作は、WDMOD<I2WDT>の設定に従います。

また、ホールトモード中は自動的にバイナリーカウンターが停止します。

18.5. 暴走検出時の動作

18.5.1. INTWDT 発生の場合

図 18.2 にバイナリーカウンターがオーバーフローして INTWDT が発生(WDMOD<RESCR> = "0")したときの動作を示します。

INTWDT は NMI であるため、CPU は NMI を検出します。

INTWDT が発生すると、CGNMIFLG<NMIFLG0>が"1"にセットされます。

INTWDT 発生と同時に$\overline{\text{WDTOUT}}$端子より"Low"レベルを出力します。

$\overline{\text{WDTOUT}}$端子は WDCR にクリアコード(0x4e)を書き込むことで"High"レベルになります。この時、バイナリーカウンターは"0x0000"にクリアされ、カウントアップを再開します。

注) TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG には、$\overline{\text{WDTOUT}}$端子はありません。

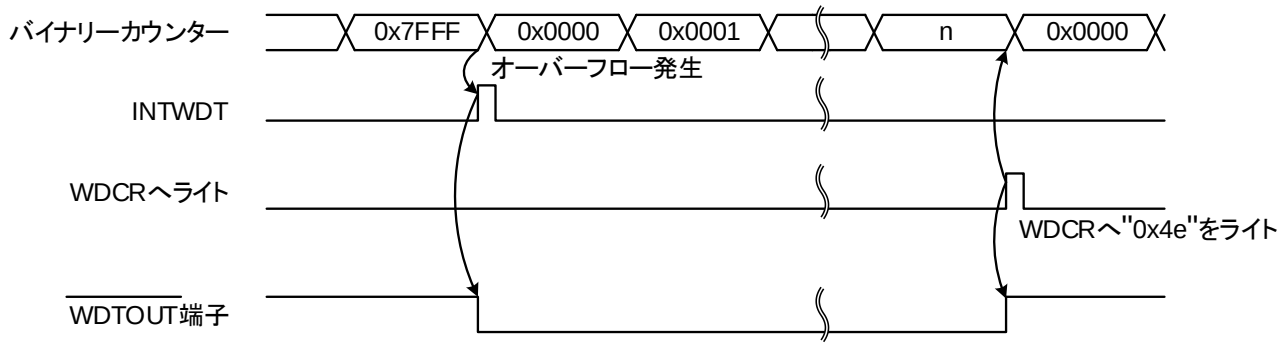


図 18.2 INTWDT発生タイミング

18.5.2. ウオッチドッグタイマーリセット発生の場合

図 18.3 にバイナリーカウンターがオーバーフローしてウオッチドッグタイマーリセットが発生(WDMOD<RESCR>="1")したときの動作を示します。

ウオッチドッグタイマーリセットは、32 / fsys の期間、出力されます。

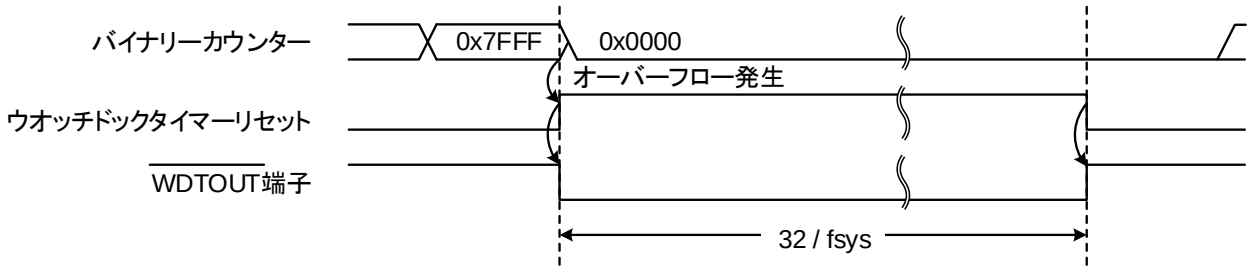


図 18.3 ウオッチドッグタイマーリセット発生のタイミング

18.6. 制御レジスター

WDT は、2 つの制御レジスターによって制御されています。

18.6.1. ウオッチドッグタイマーモードレジスター(WDMOD)

18.6.1.1. 検出時間の選択: WDMOD<WDTP[2:0]>

検出時間を選択します。リセット解除後、"000"に初期化されます。

18.6.1.2. WDT 動作制御: WDMOD<WDTE>

リセット解除後、"1"に初期化されます。WDT は許可です。

CPU の誤動作(暴走)による誤書き込みを防止するため、WDT を禁止するときには WDMOD<WDTE>を"0"に設定した後に WDCR に禁止コード(0xb1)を書き込みます。

WDT を禁止から許可にするためには、WDMOD<WDTE>を"1"に設定します。

18.6.1.3. 誤動作(暴走)検出時の動作選択: WDMOD<RESCR>

バイナリーカウンターがオーバーフローしたの WDT 動作を選択します。

リセット解除後、"1"に初期化されます。バイナリーカウンターがオーバーフローしたとき WDT はウオッチドッグタイマーリセットを発生します。INTWDT を発生するときには WDMOD<RESCR>を"0"に設定します。

18.6.2. ウオッチドッグタイマーコントロールレジスター(WDCR)

WDT を禁止するときに禁止コード(0xb1)を設定します。

バイナリーカウンターをクリアするときに、クリアコード(0x4e)を設定します。

18.6.3. 設定例

18.6.3.1. WDT の禁止

WDMOD<WDTE>に"0"を設定したあと、WDCR に禁止コード(0xb1)を書き込むとウオッチドッグタイマーは禁止になり、バイナリーカウンターはクリアされます。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
WDMOD	←	0	-	-	-	-	-	-	-	WDMOD<WDTE>に"0"を設定します。
WDCR	←	1	0	1	1	0	0	0	1	WDCRに禁止コード(0xb1)を設定します。

注) *: 任意の値を設定できます、-: 変更できません

18.6.3.2. WDT の許可

WDMOD<WDTE>に"1"を設定します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
WDMOD	←	1	*	*	*	0	*	*	0	<WDTE>に"1"を設定します。

注) *: 任意の値を設定できます、-: 変更できません

18.6.3.3. バイナリーカウンターのクリア

WDCR にクリアコード(0x4e)を設定すると、バイナリーカウンターはクリアされ、カウントを続けます。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
WDCR	←	0	1	0	0	1	1	1	0	WDCRにクリアコード(0x4e)を設定します。

注) *: 任意の値を設定できます、-: 変更できません

18.6.3.4. 検出時間の選択

WDMOD<WDTP[2:0]>に"011"を設定すると、検出時間に 2^{21} / fsys が選択されます。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
WDMOD	←	1	0	1	1	0	*	*	0	WDMOD<WDTE>に"1"を設定します。 検出時間に2^{21} / fsysが選択されます。

注) *: 任意の値を設定できます、-: 変更できません

19. オペアンプ/アナログコンパレーター(AMP/CMP)

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は、4 チャネルのオペアンプとアナログコンパレーターを内蔵しており、ポート入力電圧を増幅して 12 ビット逐次変換方式アナログ/デジタルコンバーター(AD コンバーター)に出力しています。これは、モーター電流を検出するシャント抵抗の電圧を増幅するために使用します。また、オペアンプの出力はアナログコンパレーターにも入力されており、外部抵抗によって作られた比較電圧によりその結果を PMD の波形生成回路に出力します。これにより、異常電流検出を行います。

19.1. 構成

図 14.1 に、オペアンプ、アナログコンパレーターのブロック図を示します。

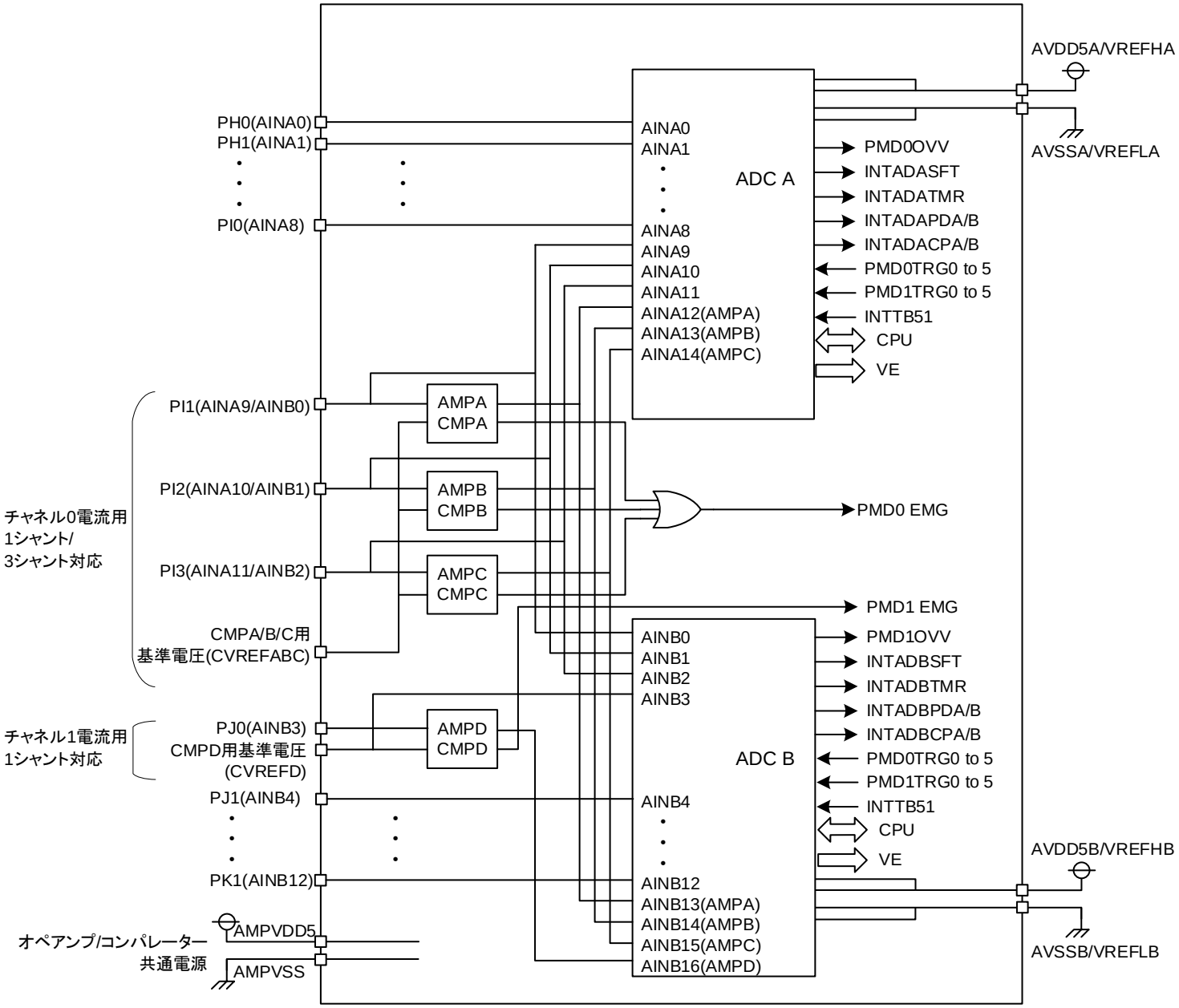


図 19.1 オペアンプ、アナログコンパレーター接続図

19.2. レジスター説明

19.2.1. レジスター一覧

19.2.2. オペアンプ

オペアンプは、AMPCTLA, AMPCTLB, AMPCTLC, AMPCTLD により制御されています。許可/禁止の他に 8 種類のゲインが選択できます。

オペアンプの制御レジスターとアドレスは以下のとおりです。

レジスター名		Address (Base+)
アンプA コントロールレジスター	AMPCTLA	0x0000
アンプB コントロールレジスター	AMPCTLB	0x0008
アンプC コントロールレジスター	AMPCTLC	0x0010
アンプD コントロールレジスター	AMPCTLD	0x0018

19.2.2.1. AMPCTLA/AMPCTLB/AMPCTLC/AMPCTLD (アンプ A ～ D コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	AMPGLIN			AMPEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:4	-	R	リードすると"0"が読めます。
3:1	AMPGLIN[2:0]	R/W	ゲイン設定 000: x1.5　100: x4.0 001: x2.5　101: x6.0 010: x3.0　110: x8.0 011: x3.5　111: x10.0
0	AMPEN	R/W	AMP許可 0: 禁止 1: 許可

注) AMP を許可にした場合、回路が安定するまで約 10μs かかります。

19.2.3. コンパレーター

アナログコンパレーターは、CMPCTLA, CMPCTLB, CMPCTLC, CMPCTLD により制御されます。許可/禁止の他に入力ポートをオペアンプ経由/非経由を選択できます。

外部にオペアンプを接続し、内蔵オペアンプを使用しない場合は、オペアンプ禁止(<AMPEN> = "0"), コンパレーター入力アンプ非経由(<CMPSEL> = "0")に設定してください。

アナログコンパレーターの制御レジスターとアドレスは以下のとおりです。

レジスター名		Address (Base+)
コンパレーターA コントロールレジスター	CMPCTLA	0x0000
コンパレーターB コントロールレジスター	CMPCTLB	0x0008
コンパレーターC コントロールレジスター	CMPCTLC	0x0010
コンパレーターD コントロールレジスター	CMPCTLD	0x0018

19.2.3.1. CMPCTLA/CMPCTLB/CMPCTLC/CMPCTLD (コンパレーターA ～ D コントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	CMPSEL	CMPEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1	CMPSEL	R/W	入力選択 0: オペアンプ非経由(ポート入力) 1: オペアンプ経由(オペアンプ出力)
0	CMPEN	R/W	CMP許可 0: 禁止 1: 許可

注) CMP を許可にした場合、回路が安定するまで約 10μs かかります。

19.3. 動作説明

AMPA, B, C は 3 シャント電流検出を想定しており、増幅された電圧は、2 つの AD コンバーターユニットに出力されます。これにより、U, V, W の 3 シャント電圧の内、2 つのシャント電圧を同時変換できます。

AMPA, B, C の入力部は、直接 2 ユニットの AD コンバーターに接続されており、AMP を使用しなくても、上記のように 2 つのシャント電圧を同時に変換できるようになっています。

AMPD は、1 シャント電流検出を想定しており、増幅された電圧は 1 つの AD コンバーターユニットに出力されます。

図 19.2 に、オペアンプ、アナログコンパレーターの構成図を示します。

CMPA, B, C, D は、AMPA, B, C, D にそれぞれ接続しており、増幅された電圧を入力として使用できます。また、オペアンプ増幅を使用しない場合は、AMP の入力電圧を直接 CMP に入力することができます。

CMPA, B, C は 3 シャント電流検出への接続を想定しており、基準電圧(CVREFABC)は共通です。CMPD は 1 シャント電流検出への接続を想定しており、基準電圧(CVREFD)は独立しています。

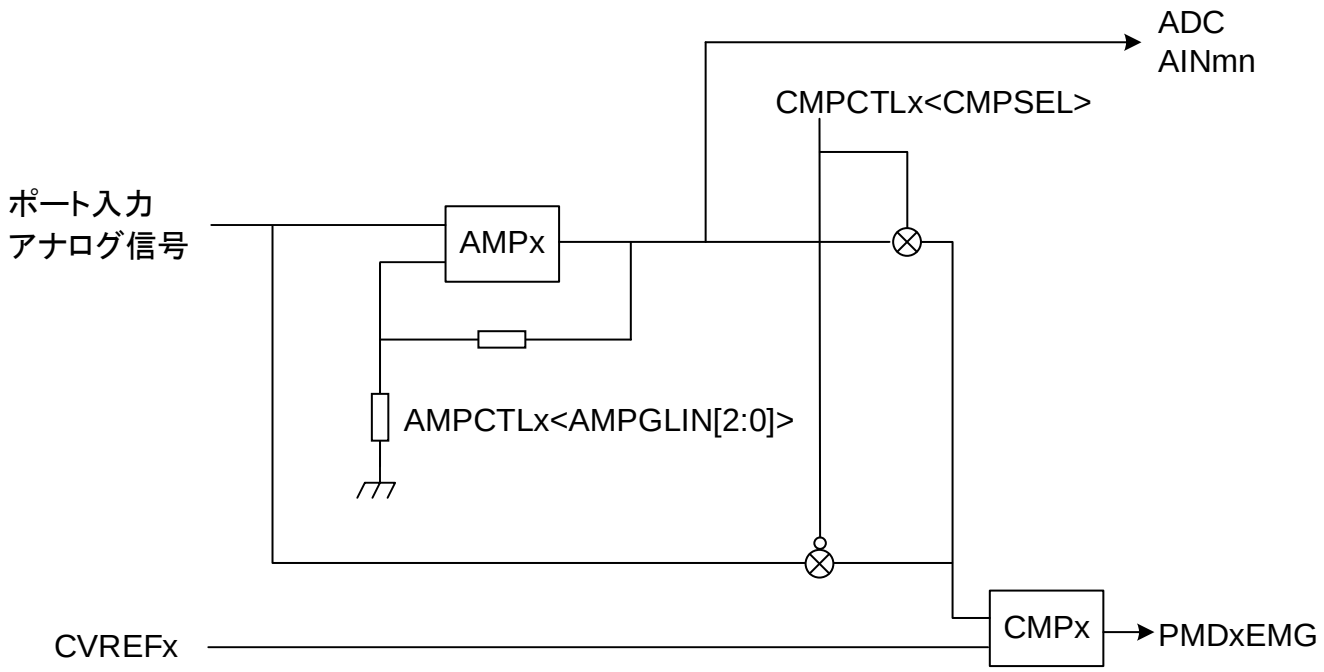


図 19.2 オペアンプ、アナログコンパレーター構成

20. Flash 動作説明

Flash 機能について、ハードウェアの構成およびその動作を説明します。

20.1. フラッシュメモリー

20.1.1. 特長

(1) メモリー容量

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG はフラッシュメモリーを搭載しています。メモリー容量と構成は下記の表のとおりです。

各ブロック個別に書き込みを行うことができます。CPU から内蔵フラッシュメモリーをアクセスする場合、データバス幅は 32 ビットとなります。

(2) 書き込み/消去時間

書き込みはページ単位で行います。1 ページは 64 ワードです。

1 ページあたりの書き込み時間は、ワード数にかかわらず 1.25ms(typ.)です。

消去時間は 1 ブロックあたり 0.1s(typ.)です。

1 チップあたりの書き込み時間、消去時間は以下のようになります。

表 20.1 書き込み/消去時間

製品	メモリー容量	ブロック構成				ワード数	書き込み時間	消去時間
		128KB	64KB	32KB	16KB			
TMPM370FYDFG TMPM370FYFG	256KB	0	3	1	2	64	1.28s	0.4s

注) 上記の値は理論時間を表しており、データ転送時間などは含まれていません。チップ当たりの時間はユーザーの書き替え方法により異なります。

(3) プログラミング方法

ユーザーのボード上で書き替えが可能なオンボードプログラミングモードには以下の 2 種類のモードがあります。

(a) ユーザーブートモード

ユーザー独自の書き替え方法をサポート

(b) シングルブートモード

シリアル転送(当社オリジナル)での書き替え方法をサポート

(4) 書き替え方式

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG 内蔵のフラッシュメモリーは、一部の機能を除き JEDEC 標準機能に準拠しています。このため、外部メモリーとしてフラッシュメモリーをご使用になられている場合でも、本 MCU への移行が容易です。また、フラッシュメモリー内に書き込み、チップ消去など自動で行う回路を内蔵していますので、書き込み、消去動作自身にかかわる複雑なフローをユーザーがプログラムで組む必要がありません。

表 20.2 書き換え方式

JEDEC準拠の機能	変更、追加、削除した機能
・自動プログラム	<変更>
・自動チップ消去	ブロック単位でのライト/消去プロテクト(ソフトウェアプロテクトのみサポート)
・自動ブロック消去	<削除>
・データポーリング/トグルビット	消去レジューム/サスペンド機能

(5) プロテクト/セキュリティー機能

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、ライターでのフラッシュデータの読み出しを禁止する、セキュリティー機能を追加しています。一方、書き替え禁止を設定するライト/消去プロテクトは、コマンド(ソフトウェア)による対応のみで12V 電圧を印加して設定する方式(ハードウェア)には対応できません。プロテクト、セキュリティー機能の詳細については、「21. プロテクト/セキュリティー機能」を参照してください。

注) パスワードが消去データ("0xFF")の場合、容易にパスワードの照合が可能になり、セキュリティーの確保が難しくなります。シングルブートモードを使用しない場合も固有の値を置くことを推奨します。

20.1.2. フラッシュ部ブロック図

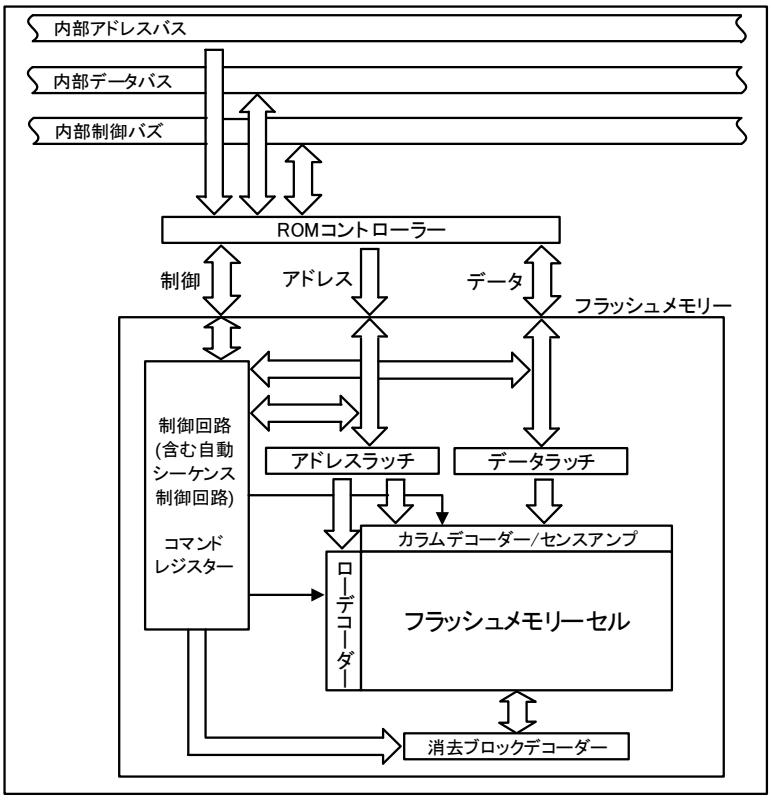


図 20.1 フラッシュ部ブロック図

20.2. 動作モード

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は内蔵フラッシュメモリーを使用しない場合を含めて、3 とおりの動作モードが存在します。

表 20.3 動作モード説明

動作モード		動作の内容
シングルチップモード		リセット解除後、内蔵のフラッシュメモリーから起動します。
	ノーマルモード	本動作モードの中で、ユーザーのアプリケーションプログラムを実行するモードと、ユーザーのセット上でフラッシュメモリーの書き替えを実行するモードとに分けて定義します。 前者を「ノーマルモード」、後者を「ユーザーブートモード」と呼びます。
	ユーザーブートモード	この両者の切り替えはユーザーが独自に設定できます。 例えば、ポート A0 が"1"のときノーマルモード、"0"のときにユーザーブートモードのように自由に設計することが可能です。 ユーザーはアプリケーションプログラムの一部に切り替えを判定するためのルーチンを準備してください。
シングルブートモード		リセット解除後、内蔵する Boot ROM(Mask ROM)から起動します。Boot ROM には、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG のシリアルポートを経由してユーザーのセット上で書き替えを行うことができるアルゴリズムがプログラムされています。シリアルポートにより外部ホストと接続し、規定されたプロトコルでデータの転送を行うことで内蔵フラッシュメモリーの書き替えが実行できます。

上記表 20.3 でプログラムが可能なフラッシュメモリーの動作モードはユーザーブートモード、シングルブートモードの 2 つです。ユーザーのセット上で内蔵フラッシュメモリーの書き替えが可能なモードは、ユーザーブートモードとシングルブートモードで、この 2 つをオンボードプログラミングモードと定義します。

シングルチップ、シングルブートの各動作モードは、リセット状態で$\overline{\text{BOOT}}$(PF0)端子のレベルを外部で設定することにより決定されます。

表 20.4 動作モード設定

動作モード	端子	
	$\overline{\text{RESET}}$	$\overline{\text{BOOT}}$(PF0)
シングルチップモード	"0" → "1"	"1"
シングルブートモード	"0" → "1"	"0"

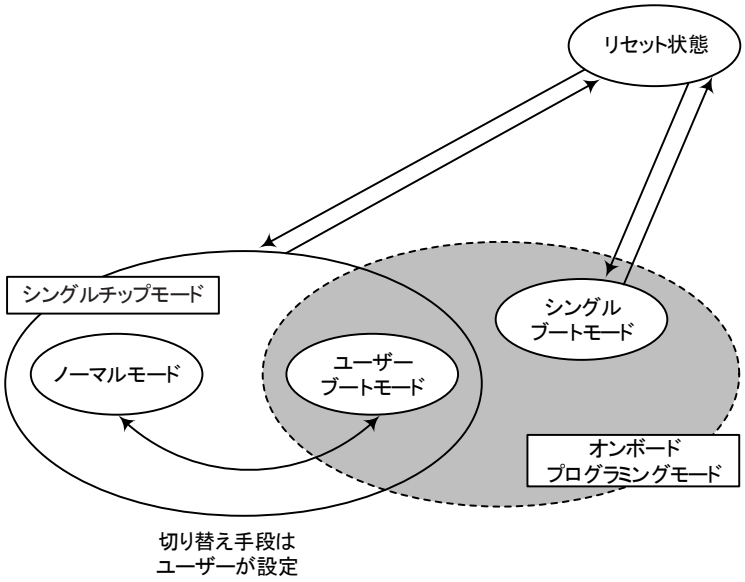


図 20.2　モード遷移図

20.2.1. リセット動作

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG にリセットをかけるには、電源電圧が動作電圧範囲内で、かつ内部発振器の発振が安定した状態で、少なくとも 12 システムクロック間(80MHz 動作で 0.15μs(リセット後は、クロックギア 1/1 モード)) $\overline{\text{RESET}}$入力端子を"0"にしてください。

注 1) 電源投入後は、電源電圧が安定した状態から 700μs 以上経過してからリセット解除させてください。

注 2) 内蔵フラッシュの自動プログラム/消去動作中にハードウェアリセットを行う場合は、システムクロックによらず 0.5μs 以上のリセット期間が必要となります。またこの場合、リセット解除後読み出しが可能になるまで 2ms 程度の時間がかかります。

20.2.2. ユーザーブートモード(シングルチップモード)

ユーザーブートモードは、ユーザー独自のフラッシュメモリープログラムルーチンを使う方法です。ユーザーアプリケーション上で用意されているフラッシュメモリー書き替え用のプログラムで用いる、データ転送バスがシリアルI/Oと異なる場合に使用します。動作はシングルチップモード上で行います。このため、シングルチップモードで通常のユーザーアプリケーションプログラムが動作しているノーマルモードから、フラッシュを書き替えるためのユーザーブートモードに移行する必要があります。従って、条件判定を行うプログラムをユーザーアプリケーションの中で、リセット処理プログラムの中に組み込んでください。

このモード切り替えの条件設定は、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の I/O を使用してユーザーのシステムセット条件に合わせて独自に設定してください。また、ユーザーブートモード移行後に使用するユーザー独自のフラッシュメモリープログラムルーチンも同様にユーザーアプリケーションの中にあらかじめ組み込んでおき、ユーザーブートモード移行後にこれらのルーチンを使用して書き替えを行ってください。なお、内蔵フラッシュメモリーは消去/書き込み動作モード中はフラッシュのデータを読み出せません。このため、プログラムルーチンはフラッシュメモリーエリア外に格納して実行させる必要があります。また、シングルチップモード(通常動作モード)中に誤ってフラッシュの内容を書き替えないよう、書き替え処理が完了した後、必要なブロックにライト/消去プロテクトをかけておくことを推奨します。合わせて、ユーザーブートモード中は、ノンマスカブルを含めた全ての割り込み発生を禁止してください。

プログラムルーチンを内蔵フラッシュメモリーに置く場合と、外部から転送する場合の 2 ケースを例に、以下(1-A)、(1-B)にその手順を説明します。フラッシュメモリーへの書き込み/消去方法の詳細は、「20.3. オンボードプログラミングでのフラッシュメモリー書き込み/消去」を参照してください。

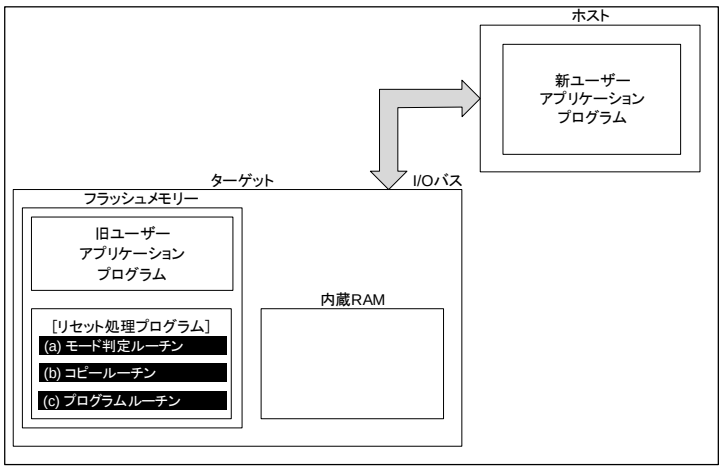
20.2.2.1. (1-A)プログラムルーチンをフラッシュメモリーに内蔵する場合の手順例

(1) Step-1

ユーザーは、あらかじめどのような条件(例えば端子状態)に設定されたらユーザーブートモードに移行するかを決めます。どの I/O バスを使用してデータ転送を行うかを決め、それに合った回路の設計、プログラムの作成を行います。

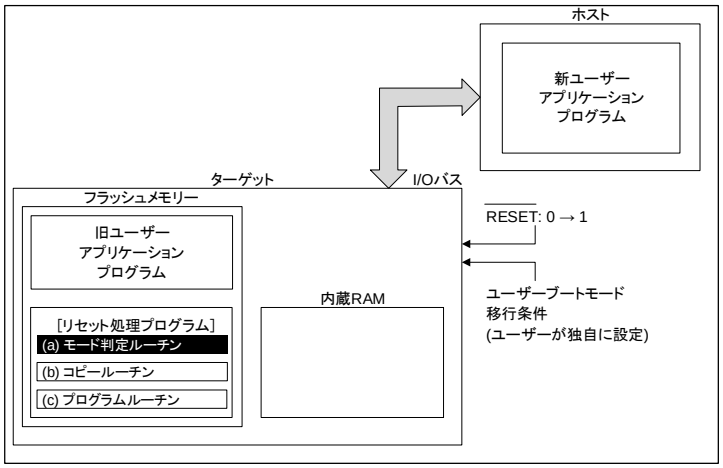
ユーザーは TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG をボードに組み込む前に、あらかじめフラッシュメモリー上の任意のブロックにライターなどを使用して以下に示す 3 つのプログラムを書き込んでおきます。

(a) モード判定ルーチン　：書き替え動作に移るためのプログラム
(b) コピールーチン　　：下記(c)を内蔵 RAM または外部メモリーにコピーするためのプログラム
(c) プログラムルーチン　：書き替えデータを外部から取り込み、フラッシュメモリーを書き替えるためのプログラム



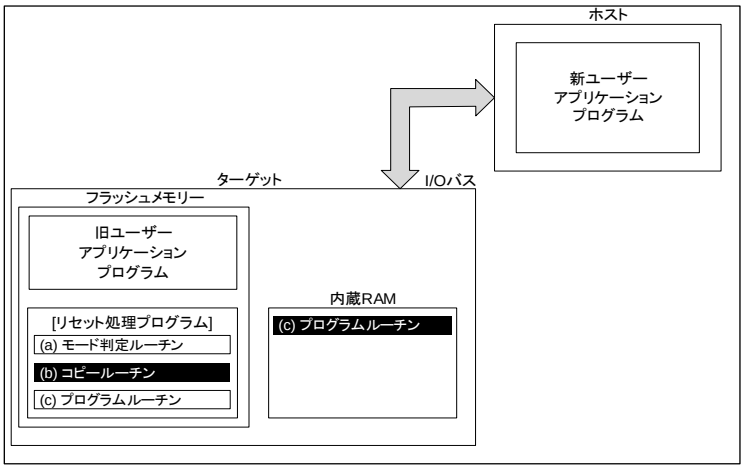
(2) Step-2

以下リセット処理プログラム内にこれらのルーチンを組み込んだ場合について説明します。まず、リセット解除後のリセット処理プログラムでユーザーブートモードへの移行を判定します。このとき、移行条件が整っていれば、プログラムは書き替えのためのユーザーブートモードに移ります。(ユーザーブートモードに移行した場合は、これ以降割り込みを使わないでください



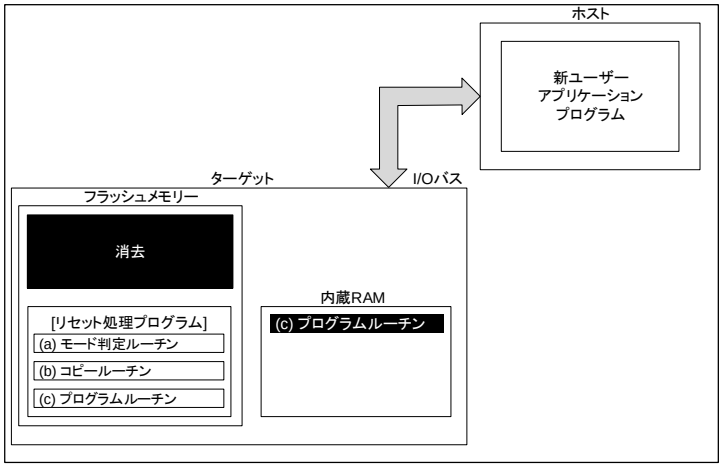
(3) Step-3

ユーザーブートモードに移ると、(b)コピールーチンを使用して、(c)プログラムルーチンを内部 RAM にコピーします。



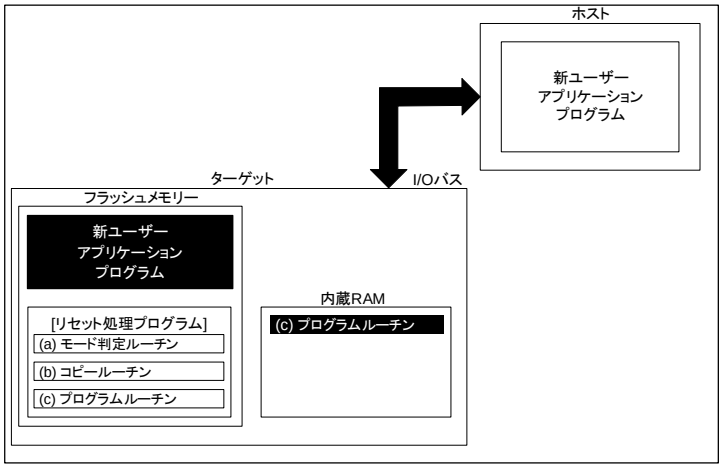
(4) Step-4

RAM 上のプログラムルーチンへジャンプし、旧ユーザープログラムエリアのライト/消去プロテクトを解除して、消去(ブロック単位)を行います。



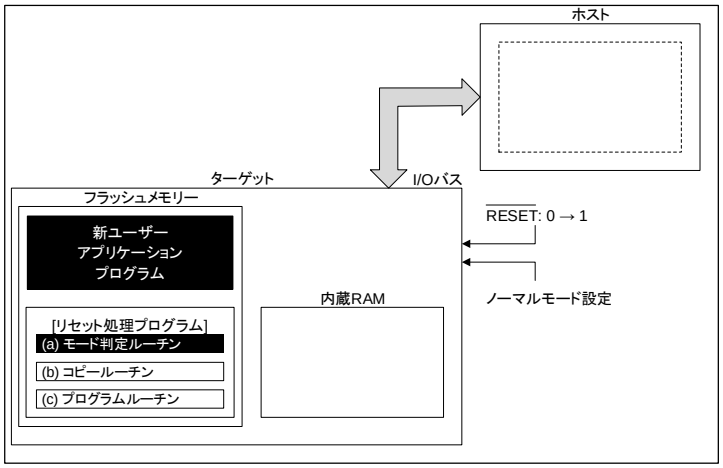
(5) Step-5

さらに、RAM 上のプログラムルーチンを実行して、転送元(ホスト)より新ユーザーアプリケーションプログラムのデータをロードし、フラッシュメモリーの消去したエリアに書き込みを行います。書き込みが完了したら、ユーザープログラムエリアのライト/消去プロテクトをオンにします。



(6) Step-6

$\overline{\text{RESET}}$入力端子を"0"にしてリセットを行い、設定条件をノーマルモードの設定にします。リセット解除後、新ユーザーアプリケーションプログラムで動作を開始します。



20.2.2.2. (1-B)プログラムルーチンを外部から転送する手順例

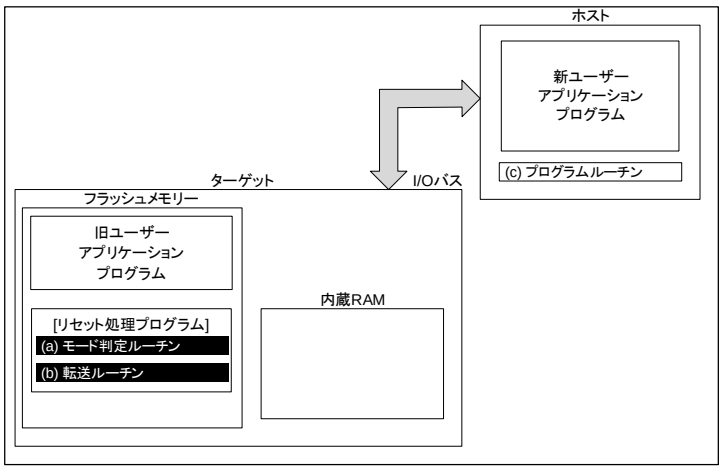
(1) Step-1

ユーザーは、あらかじめどのような条件(例えば端子状態)に設定されたらユーザーブートモードに移行するかを決めます。どの I/O バスを使用してデータ転送を行うかを決め、それに合った回路の設計、プログラムの作成を行います。ユーザーは TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG をボードに組み込む前に、あらかじめフラッシュメモリー上の任意のブロックにライターなどを使用して以下に示す 2 つのプログラムを書き込んでおきます。

(a) モード判定ルーチン ： 書き替え動作に移るためのプログラム
(b) 転送ルーチン ： 書き替えプログラムを外部から取り込むためのプログラム

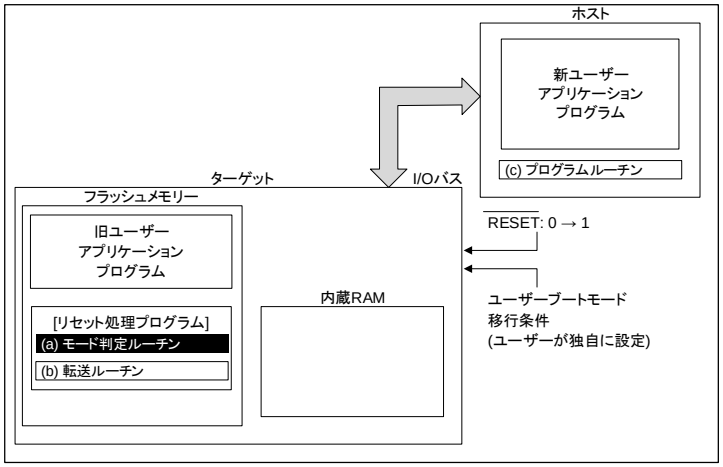
また、下記に示すプログラムはホスト上に用意します。

(c) プログラムルーチン ： 書き替えを行うためのプログラム



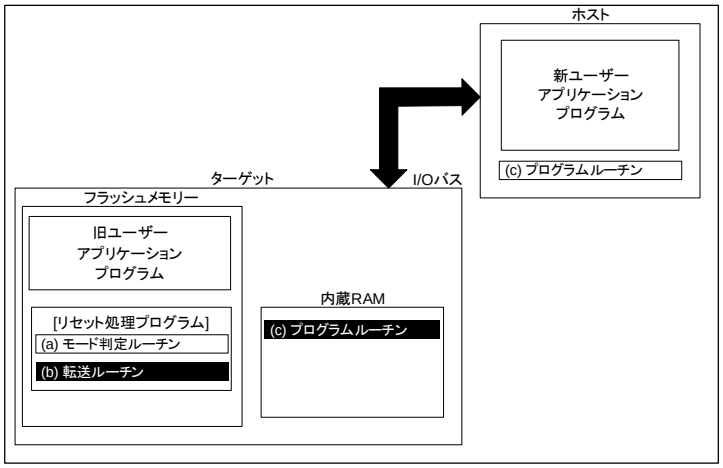
(2) Step-2

以下、リセット処理プログラム内にこれらのルーチンを組み込んだ場合について説明します。まず、リセット解除後のリセット処理プログラムでユーザーブートモードへの移行を判定します。このとき、移行条件が整っていれば、プログラムは書き替えのためのユーザーブートモードに移ります。(ユーザーブートモードに移行した場合は、これ以降割り込みを使わないでください。)



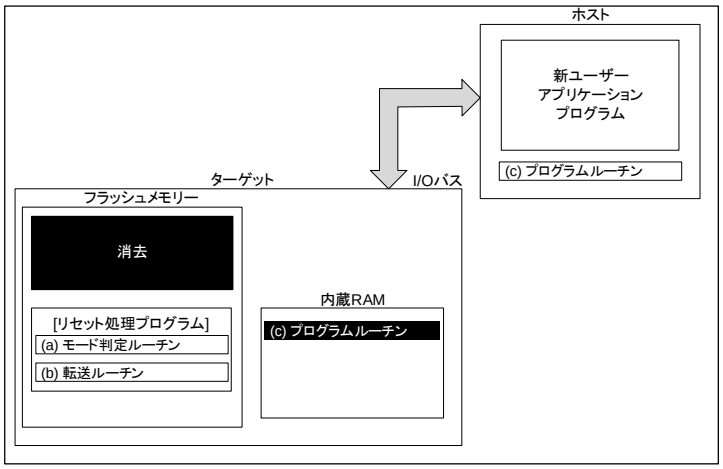
(3) Step-3

ユーザーブートモードに移ると、(b)転送ルーチンを使用して、転送元(ホスト)より(c)プログラムルーチンを内部 RAM にロードします。



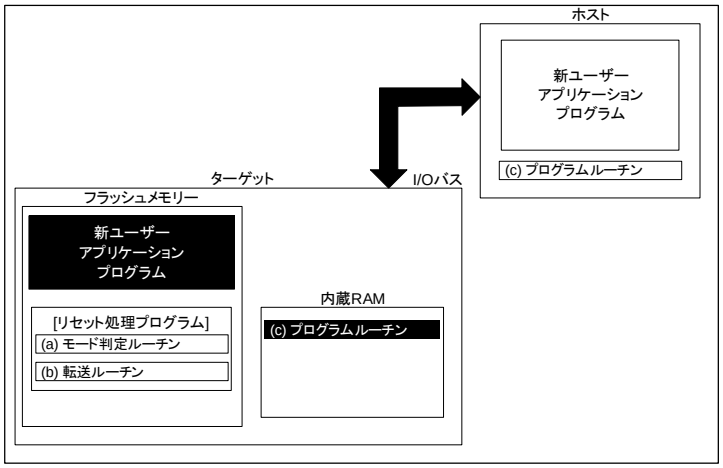
(4) Step-4

RAM 上のプログラムルーチンへジャンプし、旧ユーザープログラムエリアのライト/消去プロテクトを解除して、消去(ブロック単位)を行います。



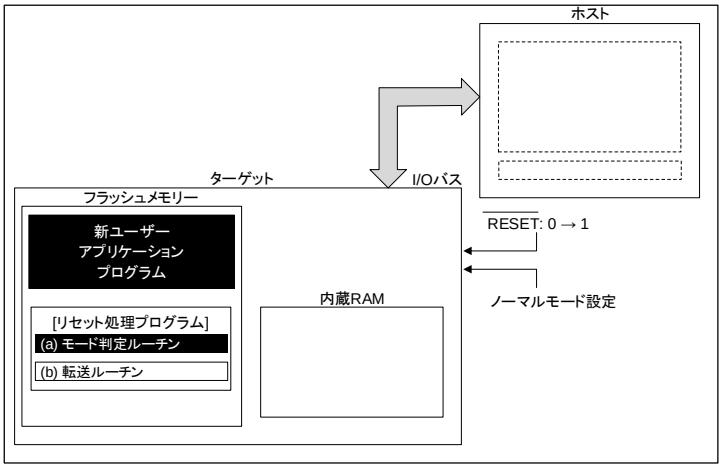
(5) Step-5

さらに、RAM 上の(c)プログラムルーチンを実行して、転送元(ホスト)より新ユーザーアプリケーションプログラムのデータをロードし、消去したエリアに書き込みを行います。書き込みが完了したら、ユーザープログラムエリアのライト/消去プロテクトをオンにします。



(6) Step-6

$\overline{\text{RESET}}$入力端子を"0"にしてリセットを行い、設定条件をノーマルモードに設定します。リセット解除後、新ユーザーアプリケーションプログラムで動作を開始します。



20.2.3. シングルブートモード

内蔵ブート ROM(マスク ROM)を起動して、ブート ROM のプログラムを利用してフラッシュメモリーを書き替える方法です。このモードでは、内蔵ブート ROM が割り込みベクターテーブルを含む領域にマッピングされ、ブート ROM プログラムが実行されます。また、フラッシュメモリーはブート ROM 領域とは別のアドレス空間にマッピングされます。

ブートモードでは、コマンドおよびデータをシリアル転送してフラッシュメモリーの書き替えを行います。TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の SIO/UART(ch 0)と外部ホストを接続し、外部ホスト側から TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の内蔵 RAM に書き替えプログラムをコピーし、RAM 上のプログラムルーチンを実行してフラッシュメモリーの書き替えを行います。プログラムルーチンは、ホスト側からコマンドおよび書き替えデータを送出することにより実行します。ホスト側との通信の詳細は後述のプロトコルに従ってください。

RAM へのプログラム転送は、ユーザーの ROM データ、セキュリティー確保のため、実行に先立ちユーザーパスワードの照合を行います。パスワードが一致しない場合は、RAM 転送そのものが実行されません。なお、シングルブートモードでもユーザーブートモードと同様、割り込み禁止状態で行います。シングルブートモード時、ブート ROM プログラムは NORMAL モードで動作します。

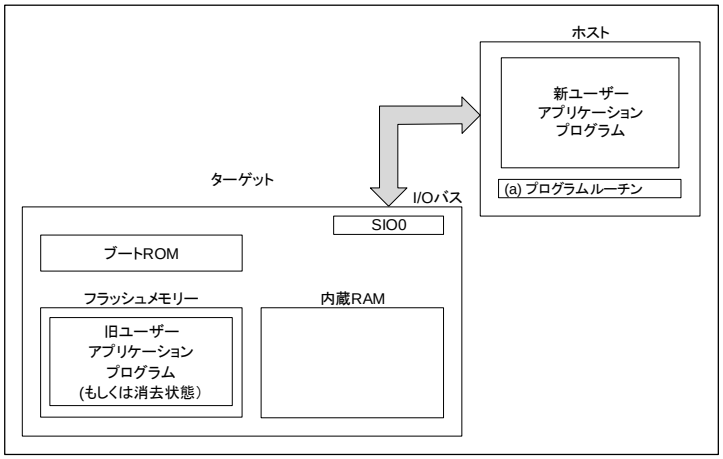
シングルチップモード(通常動作モード)中に誤ってフラッシュメモリーの内容を書き替えないよう、書き替え処理が完了したら必要なブロックにライト/消去プロテクトをかけておくことを推奨します。

20.2.3.1. (2-A)内蔵ブート ROM の書き替えアルゴリズムを利用する場合

(1) Step-1

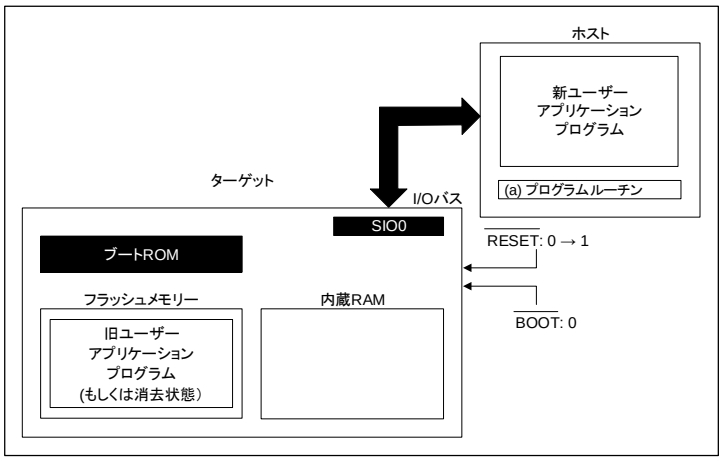
内蔵ブート ROM の書き替えアルゴリズムを利用する場合、フラッシュメモリーは旧バージョンのユーザープログラムが書かていても、消去されていても対応できます。プログラムルーチン、書き替えデータなどの転送はSIO/UART(ch 0)を経由して行いますので、ボード上でTMPM370FYDFG/TMPM370FYFGの SIO0 と外部ホストとをつなげます。書き替えを行うための(a)プログラムルーチンはホスト上に用意します。

(a) プログラムルーチン:書き替えデータを外部から取り込み、フラッシュメモリーを書き替えるためのプログラム



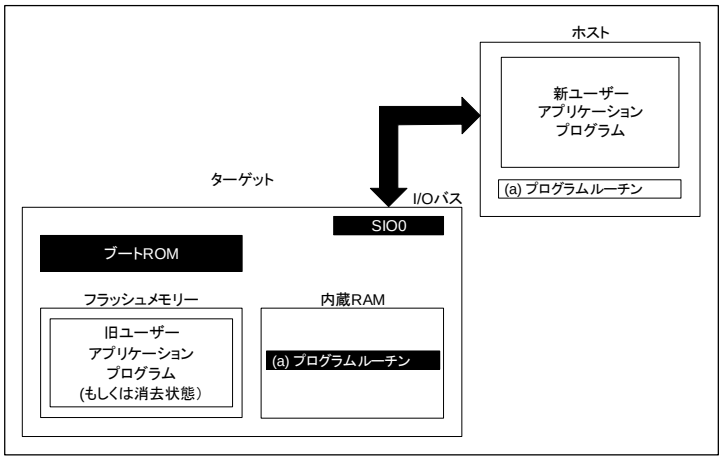
(2) Step-2

ブートモードの端子条件設定でリセットを解除し、ブート ROM で起動します。ブートモードの手順に従い、SIO0 を経由して転送元(ホスト)より(a)プログラムルーチンの転送を行いますが、最初にユーザーアプリケーションプログラム上に記録されているパスワードとの照合を行います。(フラッシュメモリーが消去されている状態でも、消去データ("0xFF")をパスワードとして照合を行います。)



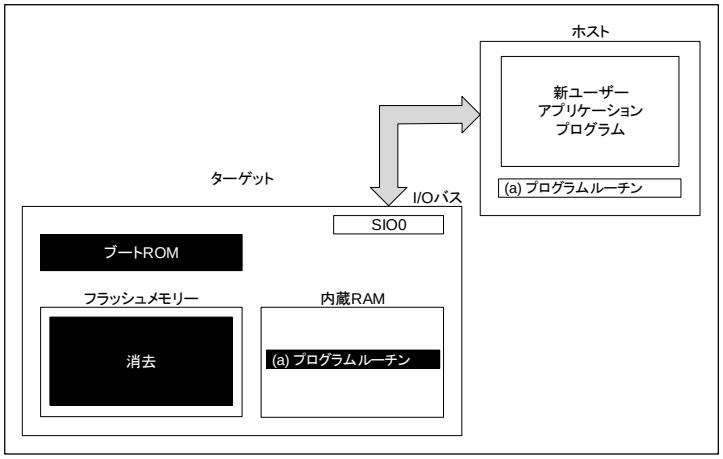
(3) Step-3

パスワードの照合が終了すると、転送元(ホスト)から(a)プログラムルーチンを転送します。ブート ROM はそのルーチンを内部 RAM にロードします。ただし、RAM 上のアドレス"0x2000_0400"から RAM の最終番地の範囲に格納してください。



(4) Step-4

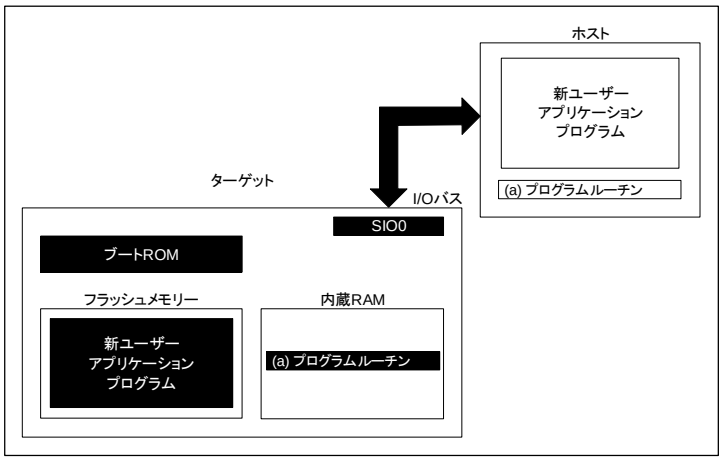
RAM 上の(a)プログラムルーチンへジャンプし、旧ユーザーアプリケーションプログラムエリアの消去を行います。(ブロック単位あるいは一括)



(5) Step-5

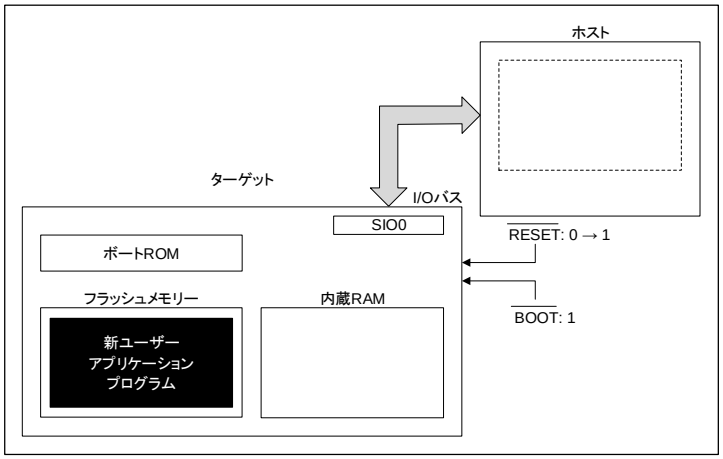
さらに、RAM 上の(a)プログラムルーチンを実行して、転送元(ホスト)より新ユーザーアプリケーションプログラムのデータをロードし、フラッシュメモリーの消去したエリアに書き込みを行います。書き込みが完了したら、ユーザープログラムエリアのライト/消去プロテクトをオンにします。

下の例の場合、プログラムルーチンを転送したときと同じホストおよび SIO0 経由で書き替えデータも転送されていますが、RAM 上で動作を開始した以降では、ユーザー独自にデータバスおよび転送元を設定することもできます。方法に応じて、回路およびプログラムルーチンを組み立ててください。



(6) Step-6

書き込みが完了したら、一度ボードの電源を落とし、ホストと接続していたケーブルをはずします。この後、再度電源を入れ直し、シングルチップモード(ノーマルモード)起動し、新しいユーザーアプリケーションプログラムを実行します。



20.2.4. モード設定

オンボードプログラミングを実行するためには、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG をシングルブートモードで立ち上げます。シングルブートモードで立ち上がるための設定を以下に示します。

$\overline{\text{BOOT}}$(PF0) = "0"
$\overline{\text{RESET}}$ = "0" → "1"

$\overline{\text{RESET}}$入力端子を"0"の状態にして、$\overline{\text{BOOT}}$(PF0)端子をあらかじめ上記条件に設定します。その後リセット解除を行うとシングルブートモードで起動します。

20.2.5. メモリーマップ

図 20.3 にシングルチップモードとシングルブートモードのメモリーマップの比較を示します。図のように、シングルブートモードでは、内蔵フラッシュメモリーは"0x3F80_0000"からマッピングされます。また、"0x0000_0000"から"0x0000_0FFF"にはブート ROM(マスク ROM)がマッピングされます。

内蔵フラッシュメモリーと RAM のマッピングは以下のとおりです。

表 20.5 内蔵フラッシュメモリーとRAMのマッピング

製品	Flashサイズ	RAMサイズ	Flashアドレス (シングルチップモード/シングルブートモード)	RAMアドレス
TMPM370FYDFG TMPM370FYFG	256KB	10KB	"0x0000_0000" ~ "0x0003_FFFF"/ "0x3F80_0000" ~ "0x3F83_FFFF"	"0x2000_0000" ~ "0x2000_27FF"

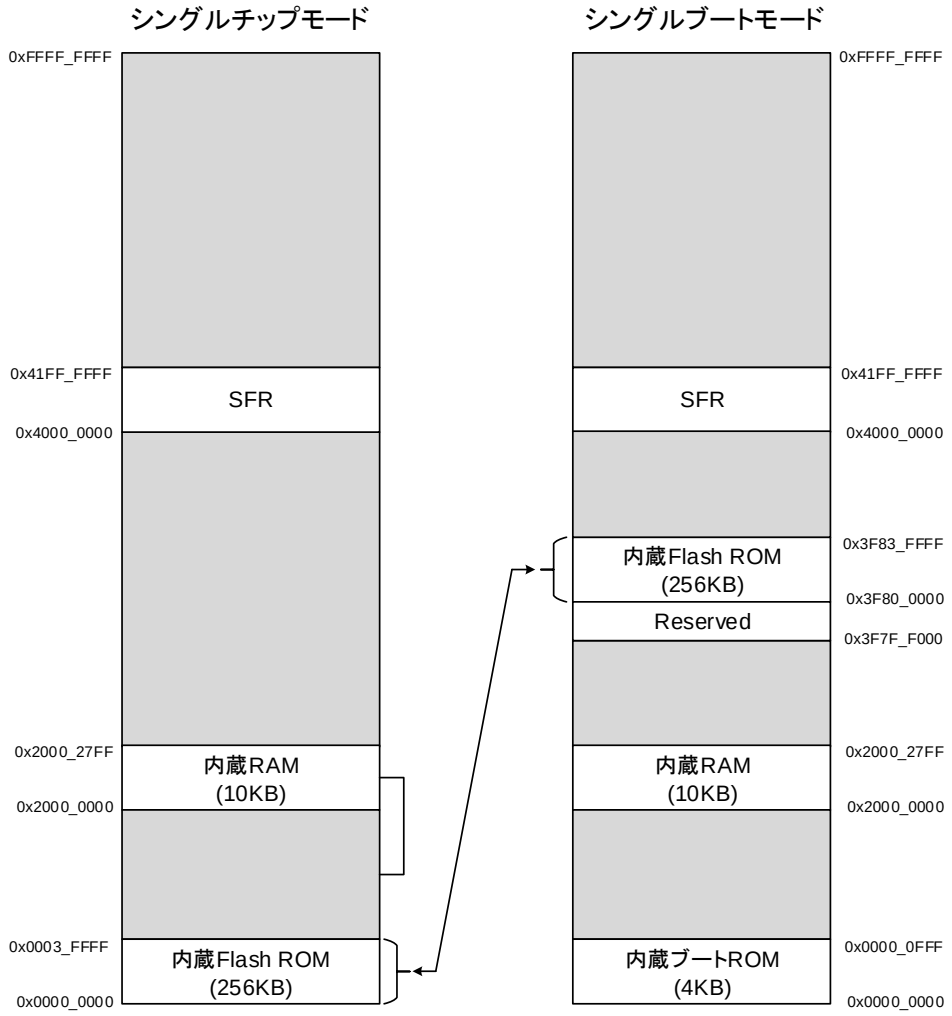


図 20.3 メモリーマップ

20.2.6. インターフェース仕様

シングルブートモードでの通信フォーマットを以下に示します。シリアル動作のモードは、UART(非同期通信モード)と SIO(同期通信モード)両方に対応しています。オンボードプログラミングを実行するためには、書き込みコントローラー側の通信フォーマットも同様に設定する必要があります。

- UART で通信する場合

  通信チャネル : SIO/UART0
  シリアル転送モード : UART(非同期通信モード)、半二重通信、LSB ファースト
  データ長 : 8 ビット
  パリティービット : なし
  STOP ビット : 1 ビット
  ボーレート : 任意のボーレート

- SIO で通信する場合

  通信チャネル : SIO/UART0
  シリアル転送モード : SIO(同期通信モード)、全二重通信、LSB ファースト
  同期信号(SCLK0) : 入力モード
  ハンドシェーク端子 : 出力モード(PE4)
  ボーレート : 任意のボーレート

表 20.6 端子の接続

端子		シリアル転送モード	
		UART	SIO
電源系端子	DVDD5	○	○
	DVSS	○	○
	AVDD5A	○	○
	AVSSA	○	○
	AVDD5B	○	○
	AVSSB	○	○
	VOUT3	○	○
	VOUT15	○	○
	RVDD5	○	○
モード設定端子	$\overline{\text{BOOT}}$(PF0)	○	○
リセット端子	$\overline{\text{RESET}}$	○	○
通信端子	TXD0 (PE0)	○	○
	RXD0 (PE1)	○	○
	SCLK0 (PE2)	-	○(入力モード)
	PE4	-	○(出力モード)

注) ○: 必要、-: 不要

20.2.7. データ転送フォーマット

動作コマンド、および各動作モード時のデータ転送フォーマットをそれぞれ表 20.7、表 20.9 ~ 表 20.10 に示します。「20.2.10. ブートプログラム動作説明」と合わせてお読みください。

表 20.7 動作コマンドデータ

動作コマンドデータ	動作コマンド
"0x10"	RAM 転送
"0x40"	フラッシュメモリーチップ消去およびプロテクトビット消去

20.2.8. メモリーの制約について

シングルブートモードでは、内蔵 RAM、内蔵 Flash ROM に対して表 20.8 のように制約がつきます。

表 20.8 シングルブート時のメモリーの制約

メモリー	制約内容
内蔵 RAM	"0x2000_0000" ~ "0x2000_03FF"番地はブート ROM のワークエリアになります。 RAM 転送のプログラムは"0x2000_0400"から RAM の最終番地に格納してください。
内蔵 Flash ROM	以下の番地はソフトの ID 情報や password の格納エリアとなりますので、なるべく プログラムエリアとしての使用は避けてください。 "0x3F83_FFF0" ~ "0x3F83_FFFF"

20.2.9. ブートプログラムの転送フォーマット

各コマンドのブートプログラムの転送フォーマットを示します。「20.2.10. ブートプログラム動作説明」と合わせて参照してください。

20.2.9.1. RAM 転送

表 20.9 ブートプログラムの転送フォーマット[RAM転送の場合]

	転送バイト数	コントローラー → 本デバイスの転送データ	ボーレート	本デバイス → コントローラーへの転送データ
ブート ROM	1 バイト目	シリアル動作モード&ボーレート設定 UART の場合: "0x86" SIO の場合: "0x30"	指定されたボーレート (注 1)	-
	2 バイト目	-		シリアル動作モードに対する ACK 応答 ・UART の場合 正常(設定可能)の場合: "0x86" (ボーレートの設定が不可能と判断した場合は動作停止) ・SIO の場合 正常の場合: "0x30"
	3 バイト目	動作コマンドデータ("0x10")		-
	4 バイト目	-		動作コマンドに対する ACK 応答(注 2) 正常の場合: "0x10" 異常の場合: "0xX1" 通信異常の場合: "0xX8"
	5 バイト目 ~ 16 バイト目	PASSWORD データ(12 バイト) "0x3F83_FFF4" ~ "0x3F83_FFFF"		-
	17 バイト目	5 ~ 16 バイト目の CHECKSUM 値		-
	18 バイト目	-		CHECKSUM 値に対する ACK 応答(注 2) 正常の場合: "0x10" 異常の場合: "0xX1" 通信異常の場合: "0xX8"
	19 バイト目	RAM 格納開始アドレス 31 ~ 24		-（注 3)
	20 バイト目	RAM 格納開始アドレス 23 ~ 16		-（注 3)
	21 バイト目	RAM 格納開始アドレス 15 ~ 8		-（注 3)
	22 バイト目	RAM 格納開始アドレス 7 ~ 0		-（注 3)
	23 バイト目	RAM 格納バイト数 15 ~ 8		-（注 3)
	24 バイト目	RAM 格納バイト数 7 ~ 0		-（注 3)
	25 バイト目	19 ~ 24 バイト目の CHECKSUM 値		-（注 3)
	26 バイト目	-		CHECKSUM 値に対する ACK 応答 (注 2) 正常の場合: "0x10" 異常の場合: "0xX1" 通信異常の場合: "0xX8"
	27 バイト目 ~ m バイト目	RAM 格納データ		-
	m + 1 バイト目	27 ~ m バイト値の CHECKSUM 値		-

	転送バイト数	コントローラー → 本デバイスの転送データ	ボーレート	本デバイス → コントローラーへの転送データ
	m + 2 バイト目	-		CHECKSUM 値に対する ACK 応答 (注 2) 正常の場合: "0x10" 異常の場合: "0xX1" 通信異常の場合: "0xX8"
RAM	m + 3 バイト目	-		RAM 格納開始アドレスに JUMP

注 1) SIO モードの場合、1 バイト目と 2 バイト目のボーレートは、指定されたボーレート ÷16 で行ってください。

注 2) 異常応答後は、動作コマンド(3 バイト目)待ちになります。SIO モードの場合は、「通信異常の場合」は発生しません。

注 3) 19 バイト目 ~25 バイト目のデータは、RAM 上のアドレス"0x2000_0400"から RAM の最終番地の領域内に納まるようにプログラムしてください。

20.2.9.2. フラッシュメモリーチップ消去およびプロテクトビット消去

表 20.10　ブートプログラムの転送フォーマット
[フラッシュメモリーチップ消去およびプロテクトビット消去の場合]

	転送バイト数	コントローラー → 本デバイスの転送データ	ボーレート	本デバイス → コントローラーへの転送データ
ブート ROM	1 バイト目	シリアル動作モード&ボーレート設定 UART の場合: "0x86" SIO の場合: "0x30"	指定されたボーレート (注 1)	-
	2 バイト目	-		シリアル動作モードに対する ACK 応答 ・正常(設定可能)の場合 ・UART の場合: "0x86" ・SIO の場合: "0x30" (ボーレートの設定が不可能と判断した場合は動作停止)
	3 バイト目	動作コマンドデータ("0x40")		-
	4 バイト目	-		動作コマンドに対する ACK 応答(注 2) 正常の場合: "0x40" 異常の場合: "0xX1" 通信異常の場合: "0xX8"
	5 バイト目	消去イネーブルコマンドデータ("0x54")		-
	6 バイト目	-		動作コマンドに対する ACK 応答(注 2) 正常の場合: "0x54" 異常の場合: "0xX1" 通信異常の場合: "0xX8"
	7 バイト目	-		消去コマンドに対する ACK 応答 正常の場合: "0x4F" 異常の場合: "0x4C"
	8 バイト目	(次の動作コマンドデータ待ち)		-

注 1) SIO モードの場合、1 バイト目と 2 バイト目のボーレートは、指定されたボーレート ÷16 で行ってください。

注 2) 異常応答後は、動作コマンド(3 バイト目)待ちになります。SIO モードの場合は、「通信異常の場合」は発生しません。

20.2.10. ブートプログラム動作説明

シングルブートモードで立ち上げるとブートプログラムが起動し、以下の機能を提供します。

(1) RAM 転送コマンド

RAM 転送は、コントローラーから送られてくるデータを内蔵 RAM へ格納します。転送が正常に終了するとユーザープログラムの実行を開始します。ユーザープログラム領域として、ブートプログラムで使用する領域("0x2000_0000" ~ "0x2000_03FF")を除く、"0x2000_0400"以降を使用可能です。実行開始アドレスは、RAM 格納開始アドレスになります。

この RAM 転送機能により、ユーザー独自のオンボートプログラミング制御を行うことができます。ユーザープログラムでオンボードプログラミングを実行するためには、「20.3. オンボードプログラミングでのフラッシュメモリー書き込み/消去」で説明するフラッシュメモリーコマンドシーケンスを使う必要があります。RAM 転送コマンドは、実行に先立ちパスワードの照合結果をチェックします。パスワードが一致していない場合、実行されません。

注) パスワードが消去データ("0xFF")の場合、容易にパスワードの照合が可能になり、セキュリティーの確保が難しくなります。シングルブートモードを使用しない場合も固有の値を置くことを推奨します。

(2) フラッシュメモリーSUM コマンド

フラッシュメモリー全領域の SUM を計算しその結果を返します。ブートプログラムではフラッシュメモリーの全エリアのデータを読み出す動作コマンドはサポートしていません。その代わりに、このフラッシュメモリーSUM コマンドがあります。SUM を読み出すことで、アプリケーションプログラムのレビジョンを管理することができます。

(3) 製品情報読み出しコマンド

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の製品名やメモリー情報などを返します。製品情報読み出しコマンドでは、フラッシュメモリーの一部エリアのデータを返します。フラッシュメモリーSUM コマンド以外に、このデータを用いることで、アプリケーションプログラムのレビジョンを管理することができます。製品ごとの対象エリアは以下のとおりです。

表 20.11 対象エリア

製品	対象エリア
TMPM370FYDFG TMPM370FYFG	"0x3F83_FFF0" ~ "0x3F83_FFF3"

(4) フラッシュメモリーチップ消去およびプロテクトビット消去

このコマンドはすべてのブロックのフラッシュメモリーを消去します。ライト/消去プロテクトおよび、セキュリティー状態にかかわらず、メモリーセルのすべてのブロックを消去し、すべてのブロックのライト/消去プロテクトを消去します。コマンド終了後、FCSECBIT<SECBIT>は"1"になります。このコマンドは、パスワードを忘れた場合のブートプログラムの操作を回復する機能も兼用しているため、パスワード比較は行っていません。

20.2.10.1. RAM 転送コマンド

データ転送フォーマットは表 20.9 を参照してください。

(1) 1 バイト目のデータは、シリアル動作モードを判定するデータになります。シリアルの動作モードを判定する方法は、後述の「20.2.10.4. シリアル動作モード判定」を参照してください。シリアルの動作モードで UART と判定した場合は、ボーレートの設定が可能かどうかを判定します。1 バイト目のデータは、受信を禁止した状態(SC0MOD0<RXE> = "0")にしています。

- UART で通信を行いたい場合
  コントローラーからターゲットボードへは、UART の設定で、所望のボーレートでデータを"0x86"にして送信してください。シリアルの動作モードの判定で UART と判定した場合、ボーレートの設定が可能かどうかを判定します。設定が不可能と判断した場合は動作を停止するため、通信が行えなくなります。

- SIO で通信を行いたい場合
  コントローラーからターゲットボードへは、同期式の設定で、所望のボーレート ÷16 でデータを"0x30"にして送信してください。2 バイト目も同様に、所望のボーレート ÷16 にしてください。所望のボーレートで転送するのは、3 バイト目(動作コマンドデータ)からにしてください。
  SIO の場合、CPU が受信端子を入力ポートとして見ており、その入力ポートのレベルの変化をモニターしています。従って、ボーレートが高い場合や動作周波数が低い場合は、CPU はレベルの変化を判別できないことがあります。これを防ぐために SIO の場合、ボーレートは所望のボーレート ÷16 で指定します。SIO と判定した場合、SCLK 入力モードになります。コントローラーは、AC タイミングを満足するボーレートで送信を行ってください。
  SIO の場合、受信エラーフラグのチェックは行いません。従って、ACK 応答データの通信異常 ACK(bit3)("0xX8")はありません。

(2) 2 バイト目の送信データは、1 バイト目のシリアル動作モード設定データに対する ACK 応答データになります。1 バイト目のデータが、UART と判定されボーレートの設定が可能な場合"0x86"を SIO と判定された場合"0x30"を送信します。

- UART と判定された場合
  ボーレートの設定が可能かどうかを判定します。設定が可能と判定した場合、SC0BRCR の値を書き替え、"0x86"を送信し、設定が不可能と判定した場合、動作を停止するため何も送信しません。コントローラーは、1 バイト目のデータの送信が終了した後、タイムアウト時間(5 秒)を設けます。タイムアウト時間内に、データ("0x86")を正常受信できなければ、通信不能と判断してください。受信を許可(SC0MOD0<RXE> = "1")するタイミングは、送信バッファーにデータ("0x86")を書き込む前に行っています。

- SIO と判定された場合
  SIO になるように SC0MOD0、SC0CR の値を書き替え、SC0BUF に"0x30"を書き込み、SCLK0 クロックを待ちます。コントローラーは、1 バイト目のデータ送信が終了した後、アイドル時間(数 ms)後、SCLK0 クロックを出力してください。このときのボーレートは、所望のボーレート ÷16 で行い、受信データが"0x30"なら、通信可能と判断してください。3 バイト目からは所望のボーレートで行ってください。受信を許可(SC0MOD0<RXE> = "1")するタイミングは、送信バッファーにデータ("0x30")を書き込む前に行っています。

(3) 3 バイト目の受信データは、動作コマンドデータになります。この場合は、RAM 転送コマンドデータ("0x10")になります。

(4) 4 バイト目の送信データは、3 バイト目の動作コマンドデータに対する ACK 応答データになります。
最初に、3 バイト目の受信データに受信エラーがあるかをチェックします。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ(bit3)"0xX8"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、不定値になります。(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。)なお、SIO の場合、受信エラーのチェックは行いません。
次に、3 バイト目の受信データが、表 20.7 の動作コマンドデータのいずれかに該当する場合は、受信データをエコーバック送信(正常 ACK 応答データ)します。この場合、"0x10"をエコーバック送信して RAM 転送処理ルーチンに分岐します。このルーチンに分岐後、パスワードエリアのデータをチェックします。パスワードエリアのデータのチェック方法は、後述の「20.2.10.5. パスワードについて」を参照してください。該当しない場合は、動作コマンドエラーの ACK 応答データ(bit0)"0xX1"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、不定値になります。(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。)

(5) 5 バイト目 ～16 バイト目の受信データは、パスワードデータ(12 バイト)になります。5 バイト目の受信データから順に、フラッシュメモリーの以下の表のアドレスと照合します。一致していない場合、パスワードエラーフラグをセットします。

表 20.12 パスワード領域

製品	パスワード領域
TMPM370FYDFG TMPM370FYFG	"0x3F83_FFF4" ~ "0x3F83_FFFF"

(6) 17 バイト目の受信データは、CHECKSUM データになります。5 バイト目から 16 バイト目の送信データを符号なしの 8 ビット加算(オーバーフローを無視)して得られた下位 8 ビット値の 2 の補数をコントローラーから送信してください。CHECKSUM データの計算方法は、後述の「20.2.10.6. CHECKSUM の計算方法」を参照してください。

(7) 18 バイト目の送信データは、5 バイト目 ～17 バイト目のデータに対する ACK 応答データ(CHECKSUM 値に対する ACK 応答)になります。最初に、5 バイト目 ～17 バイト目の受信データに受信エラーがあるかをチェックします。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ(bit3)"0x18"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになるので、"1"になります。なお、SIO の場合、受信エラーのチェックは行いません。
次に、17 バイト目の CHECKSUM データをチェックします。CHECKSUM データのチェック方法は、5 バイト目 ～16 バイト目までの受信データを符号なし 8 ビット加算(オーバーフローを無視)して得られた値の下位 8 ビットが、"0x00"かどうかをチェックしています。"0x00"以外の場合、CHECKSUM エラーの ACK 応答データ(bit0)"0x11"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。
最後に、パスワードの照合結果をチェックします。次の場合、パスワードエラーの ACK 応答データ(bit 0)"0x11"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。

- 5 バイト目 ～16 バイト目のパスワードデータの照合結果に関わらず、パスワードエリアの 12 バイトのデータが、"0xFF"以外の同一データの場合
- 5 バイト目 ～16 バイト目のパスワードデータの照合が全て一致しない場合

上記のチェックを終えて、全て正常なら、正常 ACK 応答データ"0x10"を送信します。

(8) 19 バイト目 ～22 バイト目までの受信データは、ブロック転送における格納先の RAM の開始アドレスを表します。19 バイト目がアドレスの 31 ビット ～24 ビットに対応し、22 バイト目が 7 ビット ～0 ビットに対応します。
格納先の RAM の開始アドレスは偶数アドレスで無ければいけません。

(9) 23 バイト目、24 バイト目の受信データは、ブロック転送するバイト数を表します。23 バイト目が転送バイト数の 15 ビット ～8 ビット目に対応し、24 バイト目が 7 ビット ～0 ビット目に対応します。

(10) 25 バイト目の受信データは、CHECKSUM データになります。19 バイト目から 24 バイト目の送信データを符号なし 8 ビット加算(オーバーフローを無視)して得られた下位 8 ビット値の 2 の補数値をコントローラーから送信してください。CHECKSUM データ計算方法は、後述の「20.2.10.6. CHECKSUM の計算方法」を参照してください。

(11) 26 バイト目の送信データは、19 バイト目 ～25 バイト目のデータに対する ACK 応答データ(CHECKSUM 値に対する ACK 応答)になります。最初に、19 バイト目 ～25 バイト目の受信データに受信エラーがあるかどうかをチェックします。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ(bit3)"0x18"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになるので"1"になります。なお、SIO の場合、受信エラーのチェックは行いません。
次に、25 バイト目の CHECKSUM データをチェックします。CHECKSUM データのチェック方法は、19 バイト目 ～24 バイト目までの受信データを符号なし 8 ビット加算(オーバーフローを無視)して得られた値の下位 8 ビットが、"0x00"かどうかをチェックしています。"0x00"以外の場合、CHECKSUM エラーの ACK 応答データ(bit0)"0x11"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。

(12) 27 バイト目 ～m バイト目の受信データは、RAM へ格納するデータになります。RAM に格納するデータを、19 バイト目から 22 バイト目で指定されたアドレスから書き込み、23 バイト目から 24 バイト目に指定されたバイト数分だけ書き込みます。

(13) m + 1 バイト目の受信データは、CHECKSUM データになります。27 バイト目 ～m バイト目の送信データを符号なし 8 ビット加算(オーバーフローを無視)して得られた下位 8 ビット値の 2 の補数をコントローラーから送信してください。CHECKSUM データの計算方法は、「20.2.10.6. CHECKSUM の計算方法」を参照してください。

(14) m + 2 バイト目の送信データは、27 バイト目 ～m + 1 バイト目のデータに対する ACK 応答データ(CHECKSUM に対する ACK 応答)になります。最初に 27 バイト目 ～m + 1 バイト目の受信データに受信エラーがあるかどうかをチェックします。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ(bit3)"0x18"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになるので"1"になります。なお、SIO の場合、受信エラーのチェックは行いません。次に、m + 1 バイト目の CHECKSUM データをチェックします。CHECKSUM データのチェック方法は、27 バイト目 ～m バイト目までの受信データを符号なし 8 ビット加算(オーバーフローを無視)して得られた値の下位 8 ビットが、"0x00"どうかをチェックしています。"0x00"以外の場合、CHECKSUM エラーの ACK 応答データ(bit0)"0x11"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。上記のチェックを終えて全て正常なら、正常 ACK 応答データ"0x10"を送信します。

(15) m + 2 バイト目の ACK 応答データが正常 ACK 応答データの場合、正常 ACK 応答データ"0x10"を送信後、19 バイト目 ～22 バイト目で指定されたアドレスに分岐します。

20.2.10.2. フラッシュメモリーチップ消去およびプロテクトビット消去コマンド

データ転送フォーマットは表 20.10 を参照してください。

(1) 1 バイト目 ~2 バイト目までの送受信データは RAM 転送コマンドの場合と同一になります。

(2) コントローラー→デバイス
3 バイト目の受信データは動作コマンドデータになります。この場合は、フラッシュメモリーチップ消去コマンドデータ("0x40")になります。

(3) デバイス→コントローラー
4バイト目の送信データは､3バイト目の動作コマンドデータに対する ACK 応答データになります。
最初に、3 バイト目の受信データに受信エラーがあるかどうかをチェックします。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ(bit3)"0xX8"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは不定値になります(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります)。
次に、3 バイト目の受信データが、表 20.7 の動作コマンドデータのいずれかに該当する場合は、受信データをエコーバック送信(正常 ACK 応答データ)します。この場合、"0x40"をエコーバック送信します。該当しない場合は、動作コマンドエラーの ACK 応答データ(bit0)"0xX1"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります｡送信データの上位 4 ビットは不定値になります(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります)。

(4) コントローラー→デバイス
5 バイト目の受信データは消去イネーブルコマンドデータ("0x54")になります。

(5) デバイス→コントローラー
6 バイト目の送信データは、5 バイト目の消去イネーブルコマンドデータに対する ACK 応答データになります。
最初に、5 バイト目の受信データに受信エラーがあるかどうかをチェックします。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ(bit3)"0xX8"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは不定値になります(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります)。
次に、5 バイト目の受信データが、消去イネーブルコマンドデータに該当する場合は、受信データをエコーバック送信(正常 ACK 応答データ)します。この場合、"0x54"をエコーバック送信して、フラッシュメモリーチップ消去処理ルーチンに分岐します。該当しない場合は、動作コマンドエラーの ACK 応答データ(bit0)"0xX1"を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは不定値になります(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります)。

(6) デバイス→コントローラー

7 バイト目の送信データが正常に終了したかどうかを示します。
正常に終了したときは、終了コード("0x4F")を返します。
消去エラーが起きた場合は、エラーコード("0x4C")を返します。

(7) 8 バイト目の受信データは、次の動作コマンドデータになります。

20.2.10.3. ACK 応答データ

ブートプログラムは処理状況を各種コードによってコントローラーに送信します。表 20.13 から表 20.16 に各受信データに対する ACK 応答データを示します。ACK 応答データの上位 4 ビットは、動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。また 3 ビット目は受信エラーを表し、0 ビット目は動作コマンドエラー、CHECKSUM エラー、パスワードエラーの状態を表します。1 ビット目と 2 ビット目は常に"0"になります。なお、SIO の場合、受信エラーのチェックは行いません。

表 20.13 シリアル動作判定データに対するACK応答データ

送信データ	送信データの意味
"0x86"	UART での通信が可能と判定した。(注)
"0x30"	SIO での通信が可能と判定した。

注) UART の場合、ボーレートの設定が不可能と判定したら、何も送信しないで動作を停止します。

表 20.14 動作コマンドデータに対するACK応答データ

送信データ	送信データの意味
"0x?8"(注)	動作コマンドデータに受信エラーが発生した。
"0x?1"(注)	未定義の動作コマンドデータを正常受信した。
"0x10"	RAM 転送コマンドと判定した。
"0x40"	フラッシュメモリーチップ消去コマンドと判定した。

注) 上位 4 ビットは、直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。

表 20.15 CHECKSUMデータに対するACK応答データ

送信データ	送信データの意味
"0xN8"(注)	受信エラーが発生していた。
"0xN1"(注)	CHECKSUM エラーが発生した。あるいは、パスワードエラーが発生した。
"0xN0"(注)	CHECKSUM 値は正常な値と判定した。

注) 上位 4 ビットは動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。例えば、パスワードエラー発生時は"1"(N = RAM 転送コマンドデータ[7:4])となります。

表 20.16 フラッシュメモリーチップ消去およびプロテクトビット消去動作に対するACK対応データ

送信データ	送信データの意味
"0x54"	消去イネーブルコマンドと判定した。
"0x4F"	消去コマンド終了
"0x4C"	消去コマンドが不正に終了した。

20.2.10.4. シリアル動作モード判定

コントローラーは、UART で通信したい場合、所望のボーレートで 1 バイト目を"0x86"にし、SIO で通信したい場合、所望のボーレート ÷16 で 1 バイト目を"0x30"にして送信してください。図 20.4 にそれぞれの場合の波形を示します。

注) 図 20.4 の A、B、C、D の各点間を、t_{AB}、t_{AC}、t_{AD}、t_{CD} と表現します。

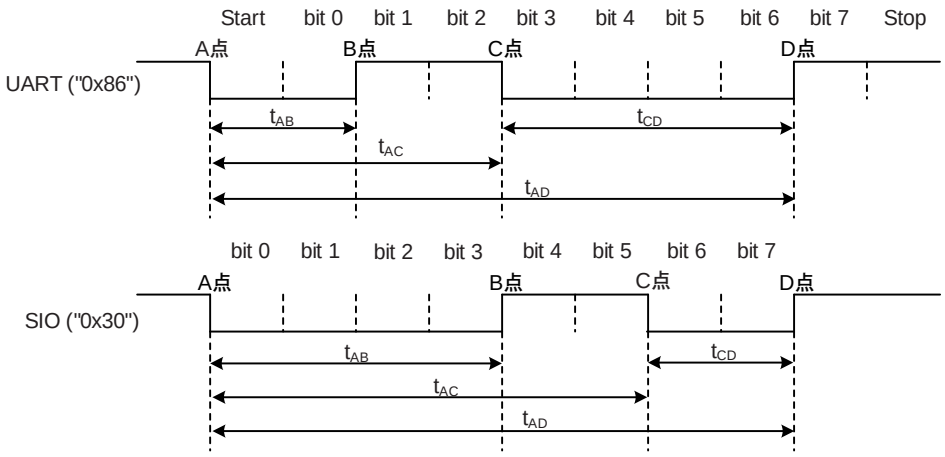


図 20.4 シリアル動作モード判定データ

ブートプログラムは、リセット解除後の 1 バイト目のシリアル動作モード判定データ("0x86"、"0x30")を受信禁止状態にして、図 20.5 に示すフローチャートで、図 20.4 の t_{AB}、t_{AC} と、t_{AD} の時間を求めています。図 20.5 のフローチャートに示すように、CPU が受信端子のレベルをモニターします。レベルの変化があると、そのときのタイマー値を取り込みます。このため、t_{AB}、t_{AC} と、t_{AD} のタイマー値には誤差が生じます。また、ボーレートが高いときには、CPU は受信端子のレベルの変化を判断できない場合がありますので注意してください。特に、SIO は UART に比べボーレートが高いため、このような場合が発生しやすくなります。このようなことが起こらないようにするために、SIO の場合、コントローラーのボーレートは所望ボーレート ÷16 にして送信してください。

図 20.5 のフローチャートに示すように、シリアル動作モードの判定は、受信端子が"Low"レベルのときの時間幅の大小関係で判定しています。$t_{AB} \leqq t_{CD}$ の場合 UART と判定し、ボーレートの自動設定が可能かどうかを t_{AD} の時間から判定します。$t_{AB} > t_{CD}$ の場合、SIO と判定します。なお、先に述べたように、t_{AB}、t_{AC}、t_{AD} のタイマー値には誤差が生じているため、ボーレートが高く、動作周波数が低い場合、各タイマー値が小さくなり、意図しない判断を行うことがありますので注意してください(書き換えルーチン内で UART の再設定を行ってください)。

例えば、コントローラーは UART で通信したいのに、SIO と判定してしまうことがあります。このようなことを考慮して、コントローラーは UART で通信したい場合、1 バイト目のデータを送信後、タイムアウト時間内にデータ"0x86"を正常受信できなければ通信不可能と判断してください。SIO で通信したい場合は1バイト目のデータを送信後､アイドル時間後にSCLKクロックを出力してデータを受信し、受信データが"0x30"でなければ通信不可能と判断してください。

SIO で通信したい場合は上記のとおり、$t_{AB} > t_{CD}$ であれば 1 バイト目のデータは"0x30"でなくても構いません。A 点と C 点の立ち下がり、B 点と D 点の立ち上がりを判定できるように"0x91"、"0xA1"あるいは"0xB1"を 1 バイト目のデータとして送信します。$t_{AB} > t_{CD}$ が成立しており、動作モード判定結果で SIO が選択された場合、(1 バイト目の送信データが"0x30"でない場合でも)2 バイト目のデータは"0x30"となります(以下、SIO 判定用の 1 バイト目のデータは"0x30"を表記しています)。

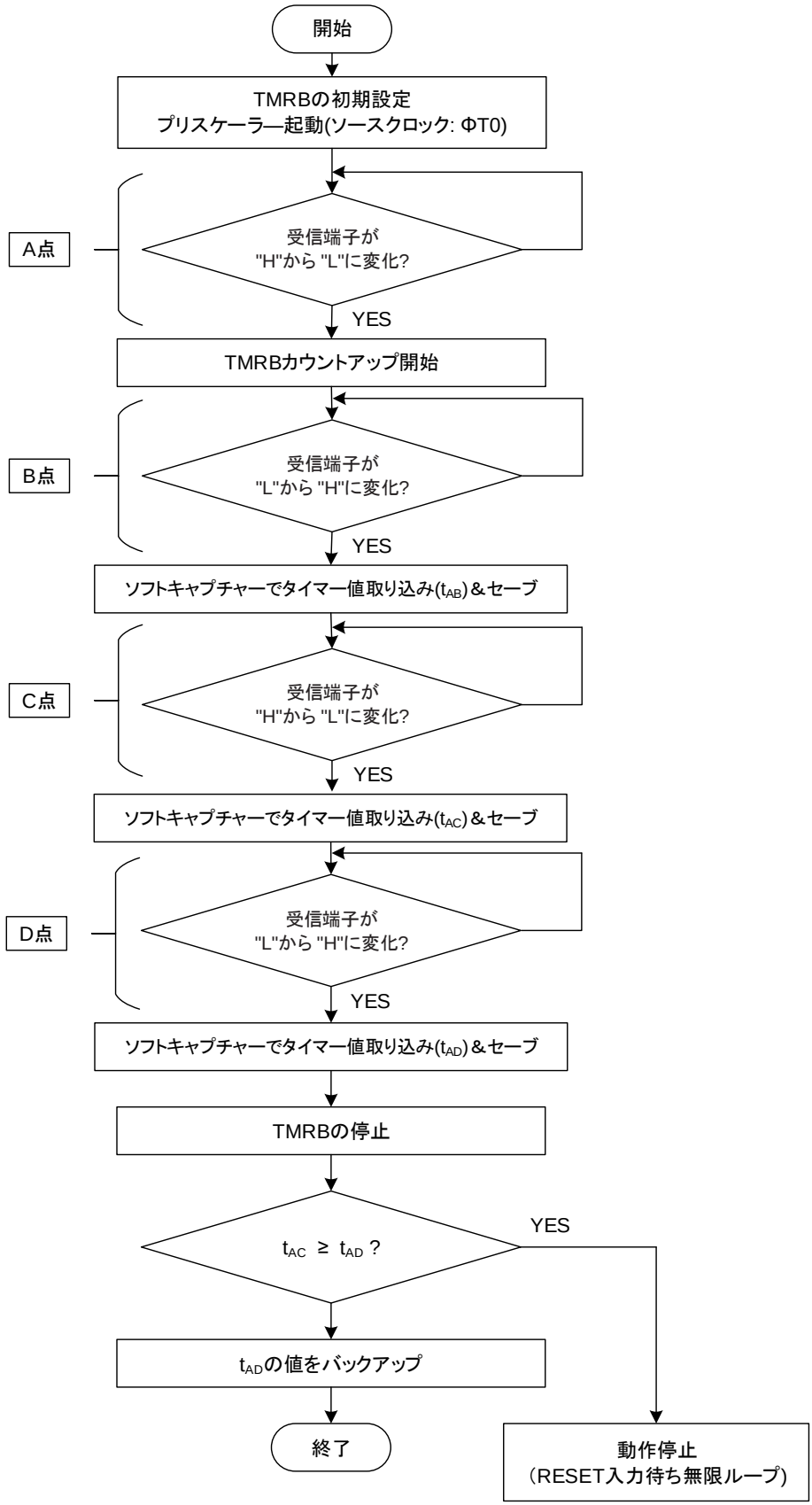


図 20.5　シリアル動作モード受信フローチャート

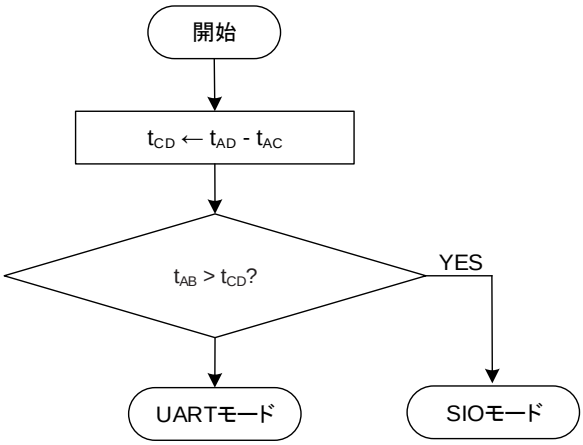


図 20.6　シリアル動作モード判定フローチャート

20.2.10.5. パスワードについて

動作コマンドによりパスワードの確認方法が異なります。パスワード領域はコマンドによらず共通で、以下のとおりです。セキュリティー機能が有効な状態でもパスワードの参照は行います。

表 20.17　パスワード領域

製品	パスワード領域
TMPM370FYDFG TMPM370FYFG	"0x3F83_FFF4" ~ "0x3F83_FFFF"

注) パスワードが消去データ("0xFF")の場合、容易にパスワードの照合が可能になり、セキュリティーの確保が難しくなります。シングルブートモードを使用しない場合も固有の値を置くことを推奨します。

図 20.7 に示すようにパスワードエリアのデータが、"0xFF"以外の同一データになっていた場合、パスワードエリアエラーと判定します。パスワードエリアエラーと判定された場合、パスワードデータの照合結果に関わらず、17 バイト目の CHECKSUM 値に対する ACK 対応は"0x11"を送信します。

次に、5 バイト目 ~ 16 バイト目の受信データ(パスワードデータ)の照合を行います。12 バイト分全てが一致しないと、パスワードエラーになります。パスワードエラーと判定された場合、17 バイト目の CHECKSUM 値に対する ACK 応答は、パスワードエラーとなります。

セキュリティー機能が有効な状態でもパスワードの参照は行います。

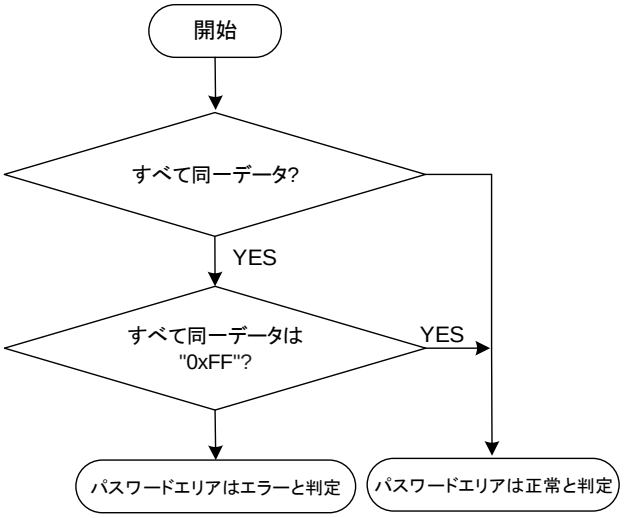


図 20.7　パスワードエリアチェックフローチャート

20.2.10.6. CHECKSUM の計算方法

CHECKSUM の計算方法は、送信データを符号なし 8 ビット加算(オーバーフローを無視)して得られた下位 8 ビット値の 2 の補数値を求めています。コントローラーは CHECKSUM 値を送信するときは、本計算方法を使用してください。

例) CHECKSUM 計算例

2 バイトのデータ"0xE5"、"0xF6"の CHECKSUM 値を求めます。まず、符号なし 8 ビット加算を行います。

"0xE5" + "0xF6" = "0x1DB"

この値の下位 8 ビットに対しての 2 の補数をとると以下のようになり、この値が CHECKSUM 値になります。従って、コントローラーには"0x25"を送信します。

"0" - "0xDB" = "0x25"

20.2.11. ブートプログラム全体フローチャート

ブートプログラム全体フローチャートを示します。

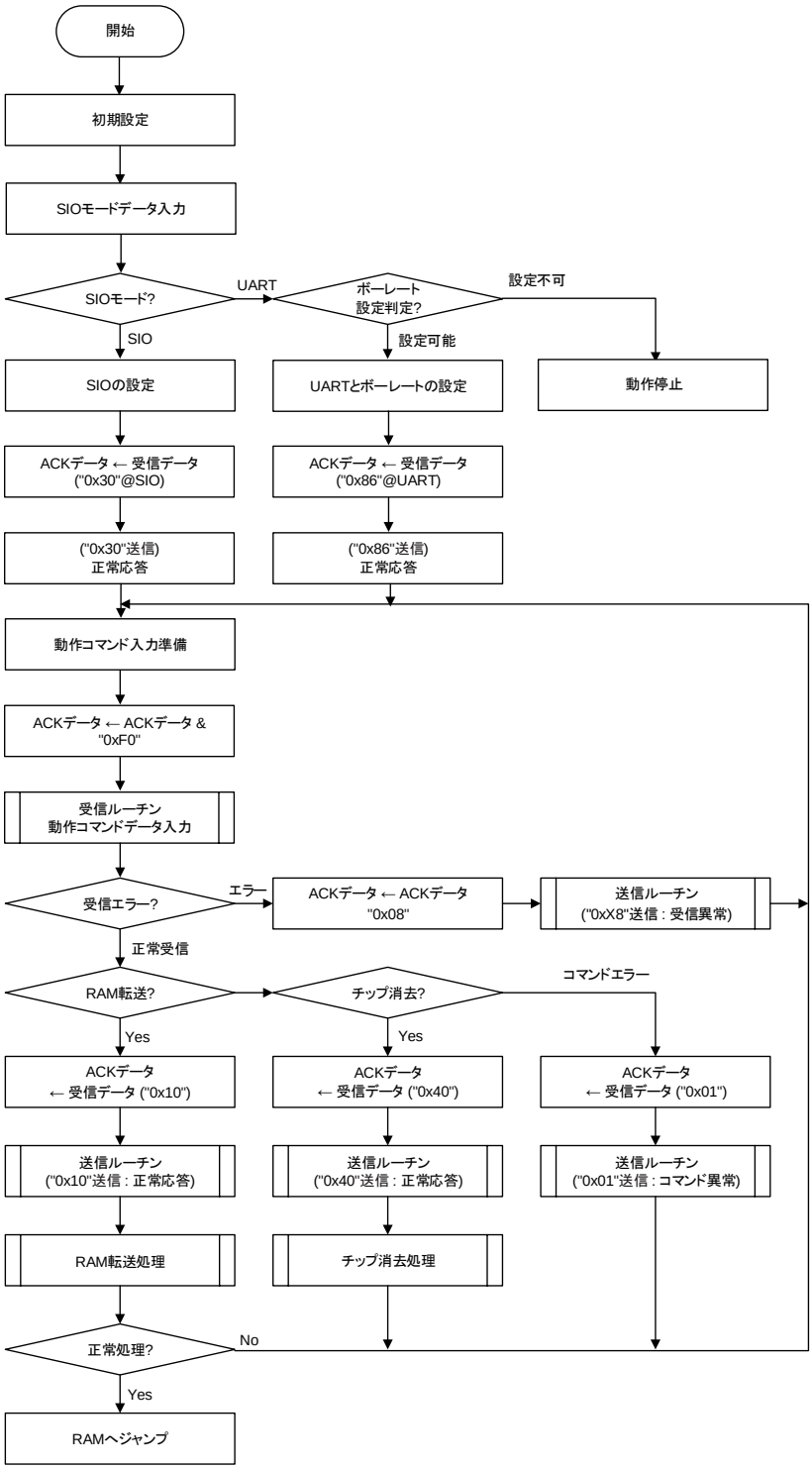


図 20.8　ブートプログラム全体フローチャート

20.3. オンボードプログラミングでのフラッシュメモリー書き込み/消去

オンボードプログラミングでは、CPU によりソフトウェア的にコマンドを実行することで、フラッシュの書き込み/消去を行います。この書き込み/消去の制御プログラムはユーザーがあらかじめ用意しておきます。フラッシュメモリーの書き込み/消去を行っている間は、フラッシュメモリー自身の読み出しはできませんので、ユーザーブートモードに移行後、書き込み/消去制御プログラムは内蔵 RAM 上で実行してください。

20.3.1. フラッシュメモリー

一部の機能を除き、フラッシュメモリーの書き込みおよび消去などは JEDEC 標準コマンドに準拠しています。CPU とのインターフェースの関係上、動作コマンドのアドレス指定が標準コマンドとは異なります。

書き込み、消去を行う場合、32 ビット(ワード)のデータ転送命令を用いてフラッシュメモリーへコマンドを入力します。コマンド入力後、書き込みおよび消去は内部で自動的に行われます。

表 20.18　フラッシュメモリーの機能

主な機能	説明
自動ページプログラム	データ書き込みを自動で行います。
自動チップ消去	フラッシュメモリーの全エリアの一括消去を自動で行います。
自動ブロック消去	ブロック単位での消去を自動で行います。
ライト/消去プロテクト	ブロック単位ごとに書き込みおよび消去を禁止することができます。

20.3.1.1. ブロック構成

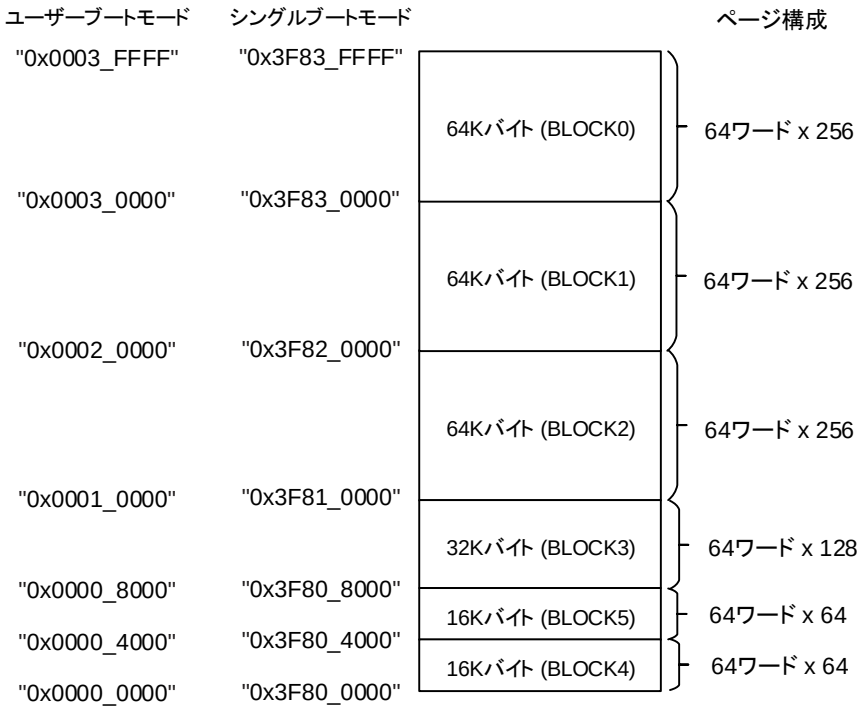


図 20.9 ブロック構成

20.3.1.2. 基本動作

このフラッシュメモリーには、大きく分けて以下の 2 種類の動作モードがあります。

- メモリーデータを読み出すモード(リードモード)
- メモリーデータを自動的に消去/書き替えるモード(自動動作)

リードモード中にコマンドシーケンスを実行することで、自動動作に移ることができます。自動動作中は、フラッシュメモリーデータの読み出しとフラッシュメモリー上の命令の実行ができません。自動動作中はハードウェアリセットを除いて例外が発生した場合、リードモードに移りません。自動動作中はデバックポート接続時のデバッグ例外とリセットを除いて、全ての例外を発生させないでください。ハードウェアリセットを除いて例外が発生した場合、リードモードに移行しません。

(1) リード

データを読み出す場合、フラッシュメモリーをリードモードにします。電源投入直後、CPU リセット解除後および自動動作の正常終了時に、フラッシュメモリーはリードモードになります。自動動作の異常終了時や、他のモードからリードモードに復帰させるには、Read/リセットコマンド(ソフトウェアリセット)あるいはハードウェアリセットを用います。フラッシュメモリーに書かれた命令を実行する場合もリードモードでなければなりません。

- Read/リセットコマンドおよび Read コマンド(ソフトウェアリセット)
  ID-Read コマンドを実行した場合、フラッシュメモリーは自動的には Read モードに復帰せず、その状態で停止します。このような状態からリードモードに復帰させるために、Read/リセットコマンドを使用します。また、途中まで入力したコマンドをキャンセルしたい場合にも、Read/リセットコマンドを使用します。Read コマンドは、フラッシュメモリーの任意のアドレスに"0x0000_00F0"データを 32 ビット(ワード)のデータ転送命令を実行してリードモードに復帰するコマンドです。
  Read/リセットコマンドは第 3 バスライトサイクル終了後にリードモードになります。

(2) コマンドライト

このフラッシュメモリーは、コマンドコントロール方式を用いています。コマンド実行は、フラッシュメモリーに対してコマンドシーケンスを実行することで行います。フラッシュメモリーは、入力されたアドレスとデータの組み合わせによって各自動動作コマンドを実行します(「20.3.1.6. コマンドシーケンス一覧」参照)。

コマンドシーケンスの途中でコマンドライトをキャンセルしたい場合や、間違ったコマンドシーケンスを入力した場合は、Read/リセットコマンドを実行します。フラッシュメモリーはコマンド実行を中止してリードモードになります。

フラッシュメモリーに対する 32 ビット(ワード)のデータ転送命令を"バスライトサイクル"と呼びます。各コマンドは幾つかのバスサイクルで構成されています。各バスライトサイクルには順番があり、フラッシュメモリーはバスライトサイクルのアドレスとデータが規定の順番でコマンドライトされたときは自動動作を実施します。規定の順番でコマンドライトされなかったバスライトサイクルがあった場合にフラッシュメモリーはコマンドの実行を中止してリードモードになります。

注 1) 各コマンドシーケンスは、フラッシュメモリー外のエリアから実施します。

注 2) 各バスライトサイクルは連続して、32 ビット(ワード)のデータ転送命令で行ってください。各コマンドシーケンスの実行中に、フラッシュメモリーへのアクセスは実施しないでください。また、全ての割り込み(デバックポート接続時は、デバッグ例外を除く)を発生させないでください。
各バスライトサイクルおよび、各コマンドシーケンスの実行中にフラッシュメモリーに対して予期しないリードアクセスが生じることになり、コマンドシーケンサーがコマンドを正常に認識できない恐れがあります。各コマンドシーケンスは正常終了しない恐れがあると同時に、誤ったコマンドライトとして認識してしまう可能性があります。

注 3) コマンドシーケンサーがコマンドを認識するために、コマンド開始前の状態がリードモードである必要があります。各コマンドシーケンスの第 1 バスライトサイクル前に FCFLCS<RDY_BSY> = "1"であることを確認してください。続いて Read コマンドを実行することを推奨します。

注 4) コマンド発行時、誤ったアドレスやデータをライトした場合は、必ずソフトウェアリセットを発行して、一度リードモードに戻してください。

20.3.1.3. リセット(ハードウェアリセット)

ハードウェアリセットは、自動プログラム/消去動作の強制的な実行中止や、自動動作が異常終了したとき、コマンドライトにより設定した動作モードの解除に使用します。

本フラッシュメモリーはメモリーブロックとしてリセット入力を持ち、この入力は CPU のリセット信号とつながっています。このため、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の $\overline{\text{RESET}}$入力端子が"Low"となるか、ウオッチドッグタイマーのオーバーフローなどにより CPU のリセットがかかると、フラッシュメモリーは自動動作の実行中であってもその動作を中止し、リードモードに戻ります。なお、自動動作の実行中にハードウェアリセットが入った場合は、データの書き替えが正常に行えませんので注意が必要です。再度、書き替えを行う処置をしてください。

CPU のリセット動作については、「20.2.1. リセット動作」を参照してください。所定のリセット入力後、CPU はフラッシュメモリーよりリセットベクターデータをリードし、リセット解除後の動作を開始します。

20.3.1.4. コマンド説明

(1) 自動ページプログラム

フラッシュメモリーへの書き込みは、"1"データセルを"0"データにすることです。"0"データセルを"1"データにすることはできません。"0"データセルを"1"データにするには消去動作を行う必要があります。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG の自動ページプログラムは、ページごとの書き込みとなります。1 ページは、64 ワードです。1 ページ 64 ワードの場合アドレス[31:8]が同じで、先頭アドレス[7:0] = "0x00"、最後のアドレス[7:0] = "0xFF"のグループです。以降はページプログラムの単位をページと呼びます。

データセルへの書き込みは、内部シーケンサーで自動的に行われ、CPU による外部からの制御を必要としません。自動ページプログラムの状態(書き込み動作中であるか)は FCFLCS<RDY_BSY>で確認できます。

また、自動ページプログラム中は、新たにコマンドシーケンスを受け付けません。自動ページプログラム動作を中止したい場合は、ハードウェアリセットを用います。これにより動作を中止させた場合、該当のページに対するデータの書き込みは正常に行われていないため、消去動作後に改めて自動ページプログラムを実行する必要があります。

自動ページプログラムは消去後のページに対して 1 回のみ可能で、"1"データセルであっても"0"データセルであってもページに対して 2 回以上の実行はできません。一度書き込み動作を行ったページに対して再度書き込みを行う場合は、自動ブロック消去または自動チップ消去コマンドを行った後に自動ページプログラムを実行しなおす必要がありますのでご注意ください。消去動作を伴わない同一ページへの 2 回以上ページプログラム実施はデバイス破損の可能性があります。

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG 内部で自動的なベリファイ動作は行いません。正常に書き込みができたか、コマンド実行後に読み出しをして確認してください。

自動ページプログラムは、コマンドサイクルの第 3 バスライトサイクル終了から開始します。第 5 バスライトサイクル以降は、第 4 バスライトサイクルで指定した次のアドレス(第 4 バスライトサイクルではページの先頭アドレスをコマンドライトします)から順番に書き込みを行います(データ入力は 32 ビット単位で行います)。第 4 バスサイクル以降のコマンドライトは必ず 32 ビット(ワード)のデータ転送命令を使用してください。このとき 32 ビット(ワード)のデータ転送命令はワード境界をまたいだ位置へ実施しないでください。第 5 バスライトサイクル以降は同一ページエリアに対してデータをコマンドライトします。また、ページの一部に書き込みをしたい場合でもページ単位で自動ページプログラムする必要があります。この場合も第 4 バスライトサイクルのアドレス入力はページの先頭アドレスにしてください。この時"0"データセルにしたくない箇所は入力データを"1"にしてコマンドライトします。例えば、あるページの先頭アドレスの書き込みをしない場合、第 4 バスライトサイクルのデータ入力を"0xFFFFFFFF"としてコマンドライトします。

第 3 バスライトサイクルを実行すると自動プログラム動作中となります。このことは FCFLCS<RDY_BSY>をモニターすることで確認できます。自動プログラム動作中は、新たなコマンドシーケンスを受け付けません。動作を中止する場合は、ハードウェアリセットを用います。動作を中止させた場合は、データの書き込みは正常に行えませんので注意してください。1 ページのデータをコマンドライト後、ページ自動書き込みが正常終了したときに FCFLCS<RDY_BSY> = "1"となり、リードモードに復帰します。

複数のページに対してデータの書き込みを行うときは、ページごとにページプログラムコマンドを実行する必要があります(1 回の自動ページプログラムコマンドで書き込めるサイズは 1 ページです)。ページを跨ったデータ入力の自動ページプログラムはできません。

ライト/消去プロテクトされたブロックへの書き込みはできません。自動プログラムが正常終了すると、自動的にリードモードに復帰します。このことは FCFLCS<RDY_BSY>をモニターすることで確認できます。自動プログラム動作が不良となった場合は、フラッシュメモリーはこのモードのままロックされ、リードモードには復帰しません。リード状態に復帰させるにはハードウェアリセットでデバイスをリセットする必要があります。この場合、このアドレスへの書き込みが不良になっていますので、デバイスの使用を停止するか、以後このアドレスを含むブロックを使用しないことを推奨します。

注) 自動ページプログラム第 4 バスライトサイクル以降のバスライトサイクルでは、ソフトウェアリセットが無効になります。

(2) 自動チップ消去

自動チップ消去動作は、コマンドサイクルの第 6 バスライトサイクル終了から開始します。

自動チップ消去動作は、FCFLCS<RDY_BSY>をモニターすることで確認できます。
TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG 内部で自動的なベリファイ動作は行いませんので、正常に消去ができたか、実行後に読み出しをして確認してください。自動チップ消去動作中は、新たなコマンドシーケンスを受け付けません。動作を中止する場合は、ハードウェアリセットを用います。動作を中止した場合、データの消去は正常に行えないので、再度自動チップ消去を行う必要があります。

また、ライト/消去プロテクトされているブロックがある場合、そのブロックの消去は行いません。全てのブロックがライト/消去プロテクトされている場合は、自動チップ消去を実行せず、コマンドシーケンスの第 6 バスライトサイクルの完了後にリードモードになります。自動チップ消去が正常終了すると、自動的にリードモードに復帰します。自動チップ消去動作が不良となった場合は、フラッシュメモリーはこのモードのままロックされ、リードモードには復帰しません。
リードモードに復帰させるにはハードウェアリセットでデバイスをリセットする必要があります。この場合は、不良が発生したブロックの検知はできません。デバイスの使用を停止するか、ブロック消去機能を利用して不良ブロックを特定し、以降不良ブロックを使用しないことを推奨します。

(3) 自動ブロック消去(Block 単位)

自動ブロック消去は、コマンドサイクルの第 6 バスライトサイクル終了から開始します。

自動ブロック消去動作の状態は、FCFLCS<RDY_BSY>をモニターすることで確認できます。TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG 内部で自動的なベリファイ動作は行いませんので、正常に消去ができたか、実行後に読み出しをして確認してください。自動ブロック消去中は新たなコマンドシーケンスを受け付けません。動作を中止する場合は、ハードウェアリセットを用います。この場合、データの消去は正常に行えませんので、再度自動ブロック消去を行う必要があります。

また、ライト/消去プロテクトされているブロックがある場合、そのブロックの消去を行いません。自動ブロック消去動作が不良になった場合、フラッシュメモリーはこのモードのままロックされ、リードモードには復帰しません。ハードウェアリセットを用いてデバイスをリセットしてください。

(4) 自動プロテクトビットプログラム(Block 単位)

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG はプロテクトビットを内蔵し Block 単位で設定することができます。Block とプロテクトビットの関係は表 20.23 にあります。自動プロテクトビットプログラムは 1 ビット単位で実行します。ビットの指定は第 7 バスライトサイクルの PBA で行います。自動プロテクトビットプログラムにより、Block ごとに書き込みと消去の動作を禁止(プロテクト)することができます。各 Block のプロテクトの状態は FCFLCS<BLPRO>で確認できます。自動プロテクトビットプログラム動作の状態は、FCFLCS<RDY_BSY>をモニターすることで確認できます。自動プロテクトビットプログラム動作中は新たなコマンドシーケンスを受け付けません。動作を中止する場合は、ハードウェアリセットを用います。この場合、プロテクトの設定は正常に行えない可能性がありますので、再度 Block プロテクトの動作をやり直す必要があります。全てのプロテクトビットをプログラムした後は、FCFLCS の全ての<BLPRO>ビットが"1"になっています。これ以降は全ての Block に対し、ライト/消去はできません。

注) 自動プロテクトビットプログラム第 7 バスライトサイクルでは、ソフトウェアリセットが無効になります。FCFLCS<RDY_BSY>は、第 7 バスライトサイクル入力後から、FCFLCS<RDY_BSY> = "0" となります。

自動プロテクトビット消去

セキュリティービットとプロテクトビットの状態によって、自動プロテクトビット消去コマンドの実行結果が異なります。FCSECBIT<SECBIT> = "1"の場合、FCFLCS の全ての<BLPRO>が"1"か、それ以外の値かで動作が決まります。自動プロテクトビット消去コマンド実施前に必ずFCFLCS<BLPRO>の値を確認してください。セキュリティーの詳細については「21. プロテクト/セキュリティー機能」を参照してください。

- FCFLCS<BLPRO> = all "1"(全てのプロテクトビットがプログラムされている)の場合

  自動プロテクトビット消去コマンドをコマンドライトすると、自動的にTMPM370FYDFG/TMPM370FYFG 内部でフラッシュメモリーの初期化を行います。第 7 バスライトサイクル終了後、フラッシュメモリー全エリアのデータセルの消去を行い、引き続いてプロテクトビットの消去を行います。この動作に関しては FCFLCS<RDY_BSY>をモニターすることで確認できます。自動プロテクトビット消去動作が正常に終了した場合 FCFLCS = "0x00000001"となります。TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG 内部で自動的なベリファイ動作は行いませんので、正常に消去ができたか、実行後に読み出しをして確認してください。第7バスサイクル以降の自動動作中にリードモードに復帰させるにはハードウェアリセットでデバイスをリセットする必要があります。この場合リードモードに復帰後、FCFLCS<BLPRO>でプロテクトビットの状態を確認して、必要に応じて再度自動プロテクトビット消去または、自動チップ消去あるいは自動ブロック消去を実行する必要があります。

- FCFLCS<BLPRO> ≠ all "1"(全てのプロテクトビットがプログラムされていない)の場合

  プロテクトビットを消去することで、プロテクトの状態を解除することができます。TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG では、表 20.23 のように Block 単位でプロテクトビットをプログラムするのに対して消去は 4 ビットをまとめて行います。消去を行いたいプロテクトビットの指定は第 7 バスライトサイクルで行います。各ブロックのプロテクトビットの状態は FCFLCS<BLPRO>で確認できます。自動プロテクトビットプログラム動作の状態は、FCFLCS<RDY_BSY>をモニターすることで確認できます。自動プロテクトビット消去動作が正常に終了した場合、FCFLCS<BLPRO>の消去選択したプロテクトビットの値が"0"となります。

いずれの場合も、自動プロテクトビット消去動作中は新たなコマンドシーケンスを受け付けません。動作を中止する場合はハードウェアリセットを用います。自動プロテクトビット消去動作が正常に終了した場合はリードモードに復帰します。

注) FCFLCS<RDY_BSY>は自動動作中"0"、自動動作終了後"1"になります。

(5) ID-Read

ID-Read コマンドを使用すると、TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG に内蔵しているフラッシュメモリーのタイプなどの情報を知ることができます。第 4 バスライトサイクル以降でのアドレス[15:14]の値によりロードされるデータが異なります(データ入力値は"0x00"推奨)。第 5 バスライトサイクル以降で任意のフラッシュメモリーエリアの読み出しを行うと ID の値が読み出されます。ID-Read コマンド第 4 バスライトサイクル以降は自動的にリードモードに復帰しません。第 4 バスライトサイクルと ID の値の読み出しは繰り返し実行できます。リードモードへの復帰は Read/リセットコマンドまたはハードウェアリセットで行います。

20.3.1.5. フラッシュコントロール/ステータスレジスター

制御レジスターとアドレスは「21. プロテクト/セキュリティー機能」を参照してください。

20.3.1.6. コマンドシーケンス一覧

各コマンドの、アドレスとデータを表 20.19　内部 CPU によるフラッシュメモリーアクセスに示します。

Read コマンドの第 2 バスサイクル、Read/リセットコマンドの第 4 バスサイクル、ID-Read コマンドの第 5 バスサイクル以外は全て「バスライトサイクル」です。バスライトサイクルは 32 ビット(ワード)のデータ転送命令で実施します。(表では、データの下位 8 ビットのデータのみ示しています。)

アドレスの詳細は、表 20.20 を参照してください。「コマンド」と記載された、Addr[15:8]に下記の値を使用します。

注) 全バスサイクル、アドレスビット[1:0]へは常に"0"を設定してください。

表 20.19　内部CPUによるフラッシュメモリーアクセス

Sequence / Command	First bus cycle	Second bus cycle	Third bus cycle	Fourth bus cycle	Fifth bus cycle	Sixth bus cycle	Seventh bus cycle
	Addr.	Addr.	Addr.	Addr.	Addr.	Addr.	Addr.
	Data	Data	Data	Data	Data	Data	Data
Read	0xXX	-	-	-	-	-	-
	0xF0	-	-	-	-	-	-
Read/リセット	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	RA	-	-	-
	0xAA	0x55	0xF0	RD	-	-	-
ID-Read	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	IA	0xXX	-	-
	0xAA	0x55	0x90	0x00	ID	-	-
自動ページプログラム	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	PA	PA	PA	PA
	0xAA	0x55	0xA0	PD0	PD1	PD2	PD3
自動チップ消去	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	-
	0xAA	0x55	0x80	0xAA	0x55	0x10	-
自動ブロック消去	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	0x54XX	0xAAXX	BA	-
	0xAA	0x55	0x80	0xAA	0x55	0x30	-
自動プロテクトビットプログラム	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	PBA
	0xAA	0x55	0x9A	0xAA	0x55	0x9A	0x9A
自動プロテクトビット消去	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	0x54XX	0xAAXX	0x54XX	PBA
	0xAA	0x55	0x6A	0xAA	0x55	0x6A	0x6A

補足説明

- RA:　リードアドレス
- RD:　リードデータ
- IA:　ID アドレス
- ID:　ID データ
- PA:　プログラムページアドレス
- PD:　プログラムデータ(32 ビットデータ)
  第 4 バスサイクル以降 1 ページ分をアドレス順にデータ入力
- BA:　ブロックアドレス
- PBA:　プロテクトビットアドレス

20.3.2. バスライトサイクル時のアドレスビット構成

表 20.20 は「表 20.19　内部 CPU によるフラッシュメモリーアクセス」と併せてご使用願います。

第 1 バスサイクルから「通常のバスライトサイクルアドレス設定」に従い、アドレス設定を行ってください。「"0"推奨」は適宜変更可能です。

表 20.20　バスライトサイクル時のアドレスビット構成

[通常コマンド]

Address	Adr [31:19]	Adr [18]	Adr [17]	Adr [16]	Adr [15]	Adr [14]	Adr [13:11]	Adr [10]	Adr [9]	Adr [8]	Adr [7:0]
通常コマンド	通常コマンドのバスライトサイクルアドレス設定										
	フラッシュ領域	"0"推奨			コマンド						Adr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨

[ID-Read]

Address	Adr [31:19]	Adr [18]	Adr [17]	Adr [16]	Adr [15]	Adr [14]	Adr [13:11]	Adr [10]	Adr [9]	Adr [8]	Adr [7:0]
ID-Read	IA: ID アドレス(ID-READ の第 4 バスライトサイクルアドレス設定)										
	フラッシュ領域	"0"推奨			ID アドレス		Adr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨				

[ブロック消去]

Address	Adr [31:19]	Adr [18]	Adr [17]	Adr [16]	Adr [15]	Adr [14]	Adr [13:11]	Adr [10]	Adr [9]	Adr [8]	Adr [7:0]
ブロック消去	BA: ブロックアドレス(ブロック消去の第 6 バスライトサイクルアドレス設定)										
	ブロックアドレス(表 20.21)						Adr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨				

[自動ページプログラム]

Address	Adr [31:19]	Adr [18]	Adr [17]	Adr [16]	Adr [15]	Adr [14]	Adr [13:11]	Adr [10]	Adr [9]	Adr [8]	Adr [7:0]
自動ページプログラム	PA: プログラムページアドレス(ページプログラムの第 4 バスライトサイクルアドレス設定)										
	ページアドレス										Adr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨

[プロテクトビットプログラム]

Address	Adr [31:19]	Adr [18]	Adr [17]	Adr [16]	Adr [15]	Adr [14]	Adr [13:11]	Adr [10]	Adr [9]	Adr [8]	Adr [7:0]
プロテクトビットプログラム	PBA: プロテクトビットアドレス(プロテクトビットプログラムの第 7 バスライトサイクルアドレス設定)										
	フラッシュ領域	プロテクトビット選択 (表 20.22)			"0"固定				プロテクトビット選択 (表 20.22)		Adr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨

[プロテクトビット消去]

Address	Adr [31:19]	Adr [18]	Adr [17]	Adr [16]	Adr [15]	Adr [14]	Adr [13:11]	Adr [10]	Adr [9]	Adr [8]	Adr [7:0]
プロテクトビット消去	PBA: プロテクトビットアドレス(プロテクトビット消去の第 7 バスライトサイクルアドレス設定)										
	フラッシュ領域	プロテクトビット選択 (表 20.23)		"0"固定							Adr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨

ブロックアドレスには、消去するブロックに含まれる任意のアドレスを指定します。
ブロック構成については「20.3.1.1. ブロック構成」を参照してください。

表 20.21 ブロックアドレス

Block	Address (User boot mode)	Address (Single boot mode)	Size (Kbyte)
4	"0x0000_0000" ~ "0x0000_3FFF"	"0x3F80_0000" ~ "0x3F80_3FFF"	16
5	"0x0000_4000" ~ "0x0000_7FFF"	"0x3F80_4000" ~ "0x3F80_7FFF"	16
3	"0x0000_8000" ~ "0x0000_FFFF"	"0x3F80_8000" ~ "0x3F80_FFFF"	32
2	"0x0001_0000" ~ "0x0001_FFFF"	"0x3F81_0000" ~ "0x3F81_FFFF"	64
1	"0x0002_0000" ~ "0x0002_FFFF"	"0x3F82_0000" ~ "0x3F82_FFFF"	64
0	"0x0003_0000" ~ "0x0003_FFFF"	"0x3F83_0000" ~ "0x3F83_FFFF"	64

注) 第 1 バスサイクルから第 5 バスサイクルまで上位側のアドレスは消去するブロックのアドレスを指定してください。

表 20.22 プロテクトビットプログラムアドレス

Block	Protection bit	第7バスライトサイクルのアドレス						
		Address [18]	Address [17]	Address [16]	Address [15:11]	Address [10]	Address [9]	Address [8]
Block0	<BLPRO[0]>	0	0	"0"固定			0	0
Block1	<BLPRO[1]>	0	0				0	1
Block2	<BLPRO[2]>	0	0				1	0
Block3	<BLPRO[3]>	0	0				1	1
Block4	<BLPRO[4]>	0	1				0	0
Block5	<BLPRO[5]>	0	1				0	1

表 20.23 プロテクトビット消去アドレス

Block	Protection bit	第7バスライトサイクルのアドレス[18:17]	
		Address [18]	Address [17]
Block0 ~ 3	<BLPRO[3:0]>	0	0
Block4 ~ 5	<BLPRO[5:4]>	0	1

注) プロテクトビット消去コマンドは、プロテクトビット単位での消去はできません。

表 20.24　ID-Readコマンド第4バスライトサイクルのIDアドレス(IA)とその後の32ビット転送命令で読み出せるデータ(ID)

IA[15:14]	ID[7:0]	Code
00	"0x98"	メーカーコード
01	"0x5A"	デバイスコード
10	Reserved	-
11	"0x11"	マクロコード

20.3.2.1. フローチャート

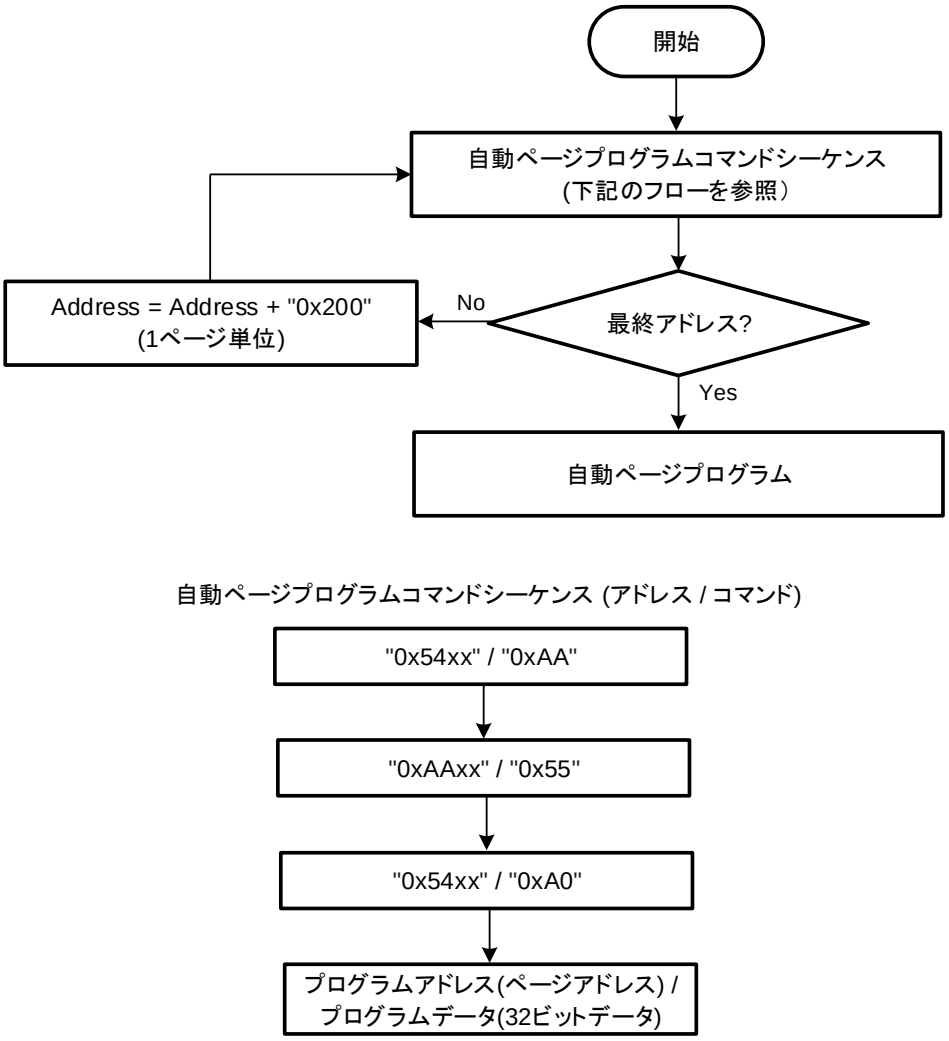


図 20.10 自動プログラム

注) "0x54xx"は"0x55xx"でもコマンドシーケンスを実行します。

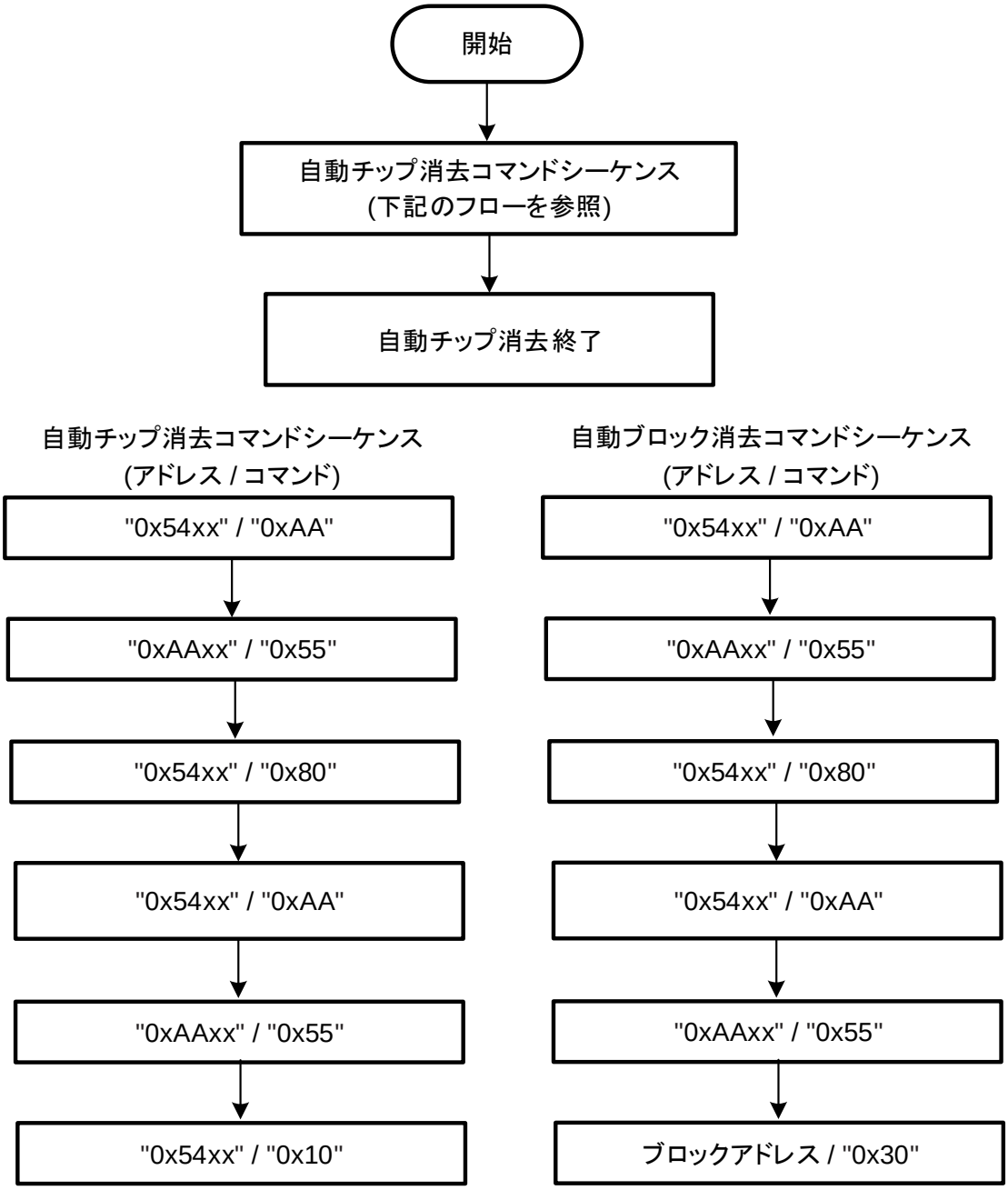


図 20.11　自動消去

注) "0x54xx"は"0x55xx"でもコマンドシーケンスを実行します。

21. プロテクト/セキュリティー機能

21.1. 概要

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は内蔵 ROM(Flash)のライト/消去をプロテクトする機能、およびライターでの内蔵 ROM(Flash)領域を読み出し禁止に設定できるセキュリティー機能を内蔵しています。セキュリティー機能はデバッグ機能の使用制限も行います。プロテクト/セキュリティー機能として、次の 2 つの機能をもっています。

- 内蔵 ROM(Flash)のライト/消去プロテクト
- セキュリティー機能

21.2. 特長

21.2.1. 内蔵 ROM(Flash)のライト/消去プロテクト

内蔵フラッシュは、ブロック単位でライトと消去の動作を禁止することができます。この機能をライト/消去プロテクトと呼びます。

ライト/消去プロテクト機能を有効にするためには、プロテクトをかけたいブロックに対応するプロテクトビットを"1"にします。プロテクトビットを"0"にすることによりブロックプロテクトを解除することができます。(プログラム方法については、「20. Flash 動作説明」の章を参照してください。)

プロテクトビットは、FCFLCS<BLPRO[5:0]>でモニターすることができます。

21.2.2. セキュリティー機能

内蔵フラッシュに対してのデータの読み出しの制限および、デバッグ機能を制限することができます。この機能をセキュリティー機能と呼びます。

セキュリティー機能が有効になる条件を、以下に示します。

(1) FCSECBIT<SECBIT>が"1"にセットされている。

(2) ライト/消去プロテクト用の全てのプロテクトビット(FCFLCS<BLPRO>)が"1"にセットされている。

注) FCSECBIT<SECBIT>はコールドリセットで"1"にセットされます。

セキュリティー機能が有効な状態の制限内容を、表 21.1 に示します。

表 21.1　セキュリティー機能有効時の制限内容

項目	内容
ROM 領域のデータの読み出し	CPU からの読み出しは可能です。
デバッグポート	JTAG/SW、トレースの通信ができなくなります。
フラッシュに対するコマンドの実行	フラッシュに対してのコマンドライトが受け付けられません。 また、ライト/消去プロテクト用のプロテクトビットを消去しようとすると、チップ消去が行われ、全てのプロテクトビットも消去されます。

21.3. レジスター説明

21.3.1. レジスター一覧

制御レジスターとアドレスを以下に示します。

レジスター名		Address (Base+)
Reserved	-	0x0000、0x0004
セキュリティービットレジスター	FCSECBIT	0x0010
Reserved	-	0x0014
フラッシュコントロールレジスター	FCFLCS	0x0020
Reserved	-	0x0024 ~ 0x0FFF

注) "Reserved"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

21.3.2. FCSECBIT(セキュリティービットレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-		-	-	-	SECBIT
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	SECBIT	R/W	セキュリティービット 0: セキュリティー機能設定不可 1: セキュリティー機能設定可能

注) 本レジスターは、コールドリセットで初期化されます。

21.3.3. FCFLCS(フラッシュコントロールレジスター)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	**22**	**21**	**20**	**19**	**18**	**17**	**16**
bit symbol	-	-	BLPRO5	BLPRO4	BLPRO3	BLPRO2	BLPRO1	BLPRO0
リセット後	0	0	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)
	15	**14**	**13**	**12**	**11**	**10**	**9**	**8**
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
bit symbol	-	-	-		-	-	-	RDY_BSY
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31:22	-	R	リードすると"0"が読めます。
21:16	BLPRO5 ~ BLPRO0	R	Block5 ~ 0のプロテクト状態(注1) 0: プロテクト状態ではない 1: プロテクト状態 プロテクトビット値は各ブロックのプロテクト状態に対応します。該当ビットが"1"の時は対応するブロックがプロテクト状態であることを示します。プロテクト状態のブロックは書き換えはできません。
15:1	-	R	リードすると"0"が読めます。
0	RDY_BSY	R	Ready/Busyフラグ(注2) 0: 自動動作中 1: 自動動作終了 自動動作の状態を認識する方法として、RDY_BSY出力を備えています。本ビットはこの機能をCPUからモニターするための機能ビットです。フラッシュメモリーが自動動作中は"0"を出力します。自動動作が終了すると"1"を出力し、次のコマンドを受け付けます。自動動作の結果が不良であった場合、本ビットは"0"出力を継続します。ハードウェアリセットにより"1"に復帰します。

注 1) プロテクト状態に対応した値が読めます。

注 2) コマンド発行は、必ず自動動作終了状態であることを確認してから発行してください。自動動作中にコマンド発行を行った場合、正常なコマンドが送られないだけでなく、それ以降のコマンドを入力できなくなる可能性があります。その際は、ハードウェアリセットで復帰してください。ハードウェアリセットを行う場合は、システムクロックによらず 0.5μs 以上のリセット期間が必要となります。またこの場合、リセット解除後読み出しが可能になるまで 2ms 程度の時間がかかります。

21.4. 設定/解除方法

21.4.1. 内蔵 ROM(Flash)のライト/消去プロテクト

プロテクトビットの書き込みと消去はコマンドシーケンスを用いて行います。

プロテクトビットの書き込みは 1 ブロックごと、消去は Block0 ~ 3 と Block4 ~ 5 の 2 つの単位で行います。

全 Block 全てのプロテクトビットが"1"でかつ、FCSECBIT<SECBIT>が"1"の場合、セキュリティー機能が有効になっているので注意が必要です。この状態でプロテクトビットの消去を行うと、チップ消去を行った上でプロテクトビット全てを消去します。このため、FCSECBIT<SECBIT>を"0"にしてからプロテクトビットの消去を行う必要があります。

コマンドシーケンスの詳細は「20. Flash 動作説明」の章を参照してください。

21.4.2. セキュリティービット

セキュリティー機能を有効にする FCSECBIT<SECBIT>は電源投入直後のパワーオンリセット時"1"にセットされます。FCSECBIT<SECBIT>の書き替えは以下の手順で行います。

(1) FCSECBIT に対して特定のコード("0xa74a9d23")を書き込む。

(2) (1)の書き込みから 16 クロック以内にデータを書き込む。

注) 上記(1)、(2)の書き込みは 32bit 転送命令で行ってください。

22. デバッグインターフェース

22.1. 概要

TMPM370FYDFG/TMPM370FYFG は、デバッグツールと接続するためのデバッグインターフェースとして SWJ-DP(Serial Wire JTAG Debug Port)ユニット、および内部プログラムをトレース出力するための ETM(Embedded Trace Macrocell)ユニットを搭載しています。トレースデータはマイコン内部の TPIU(Trace Port Interface Unit)を通じてデバッグ用端子(TRACEDATA0 ~ 1、SWV)に出力されます。SWJ-DP、ETM、TPIU の詳細に関しましては Arm 社からリリースされている"Cortex-M シリーズプロセッサーの Arm ドキュメンテーションセット"を参照してください。

22.1.1. SWJ-DP

シリアルワイヤデバッグポート(SWDCK、SWDIO)と、JTAG デバッグポート(TDI、TDO、TMS、TCK、$\overline{\text{TRST}}$)をサポートしています。

22.1.2. ETM

データ信号 2 ピン(TRACEDATA0 ~ 1)とクロック信号 1 ピン(TRACECLK)および、シリアルワイヤビューアー信号 1 ピン(SWV)による SWV トレース出力をサポートしています。

22.2. 端子機能

デバッグインターフェース端子は汎用ポートと兼用しています。

表 22.1 に汎用ポートとデバッグインターフェースの対応を示します。

表 22.1 デバッグインターフェースと汎用ポートの対応

SWJ-DP/ETM 端子名	汎用ポート名	JTAGデバッグ機能		SWデバッグ機能	
		I/O	説明	I/O	説明
TMS/SWDIO	PB3	入力	JTAG Test Mode Selection	入出力	Serial Wire Data Input/Output
TCK/SWCLK	PB4	入力	JTAG Test Check	入力	Serial Wire Clock
TDO/SWV	PB5	出力	JTAG Test Data Output	出力 (注)	Serial Wire Viewer Output
TDI	PB6	入力	JTAG Test Data Input	-	-
$\overline{\text{TRST}}$	PB7	入力	JTAG Test Reset	-	-
TRACECLK	PB0	出力	TRACE Clock Output		
TRACEDATA0	PB1	出力	TRACE DATA Output 0		
TRACEDATA1	PB2	出力	TRACE DATA Output 1		

注) SWV 機能を許可した場合

リセット解除後、PB3 から PB7 はデバッグインターフェース端子となりますが、その他のデバッグインターフェース端子は汎用ポートです。必要に応じてデバッグインターフェースを使用する設定を行ってください。また、使用しないデバッグインターフェース端子は汎用ポートとして使用可能です。

表 22.2 にデバッグインターフェース兼用汎用ポートのリセット解除後のポート制御レジスター値を示します。

表 22.2 デバッグインターフェース端子兼用汎用ポートのリセット解除後のポート制御レジスター値

リセット解除後の割り当て	汎用ポート名	SWJ-DP/ETM 端子名	ポート制御レジスター設定値					
			ファンクションレジスター (PBFR1)	入力コントロールレジスター (PBIE)	出力コントロールレジスター (PBCR)	オープンドレインコントロールレジスター (PBOD)	プルアップコントロールレジスター (PBPUP)	プルダウンコントロールレジスター (PBPDN)
デバッグインターフェース端子	PB3	TMS/SWDIO	1	1	1	0	1	0
デバッグインターフェース端子	PB4	TCK/SWCLK	1	1	0	0	0	1
デバッグインターフェース端子	PB5	TDO/SWV	1	0	1	0	0	0
デバッグインターフェース端子	PB6	TDI	1	1	0	0	1	0
デバッグインターフェース端子	PB7	$\overline{\text{TRST}}$	1	1	0	0	1	0
汎用ポート	PB0	TRACECLK	0	0	0	0	0	0
汎用ポート	PB1	TRACEDATA0	0	0	0	0	0	0
汎用ポート	PB2	TRACEDATA1	0	0	0	0	0	0

低消費電力モードを使用する場合には、以下の注意事項に留意してください。

- PB3/PB5 をデバッグインターフェース端子として使用する場合、CGSTBYCR<DRVE>の設定によらず、STOP モード中も PB3/PB5 は出力となります。
- PB4 をデバッグインターフェース端子に割り当てると、STOP モードで十分な低消費電力効果が得られません。PB4 をデバッグインターフェース端子として使用しない場合は、PB4 をデバッグインターフェース端子に割り当てないでください。

22.3. デバッグツールとの接続

22.3.1. 接続

デバッグツールとの接続方法については、お使いになるツールメーカーが推奨する接続方法を参照してください。また、デバッグインターフェース端子はプルアップ/プルダウン抵抗を内蔵していますので、デバッグインターフェース端子に外部プルアップ/プルダウン抵抗を接続する場合には内蔵プルアップ/プルダウン抵抗について考慮してください。

22.3.2. デバッグインターフェース端子を汎用ポートとして使用する場合の注意

リセット解除後、ユーザープログラムでデバッグインターフェース端子を汎用ポートに設定すると、それ以降はデバッグツールからの制御が受け付けられません。そのため、デバッグツールを使用してデバッグを行えなくなります。

使用するデバッグインターフェースに必要なデバッグインターフェース端子を汎用ポートに設定しないでください。

表 22.3 デバッグインターフェースと使用するデバッグインターフェース端子

使用するデバッグインターフェース	それぞれのデバッグインターフェースで使用するデバッグインターフェース端子							
	PB3	PB4	PB5	PB6	PB7	PB0	PB1	PB2
	TDO/SWV	TCK/SWCLK	TMS/SWDIO	TDI	$\overline{\text{TRST}}$	TRACECLK	TRACEDATA0	TRACEDATA1
JTAG+SW (標準、リセット解除時)	○	○	○	○	○	×	×	×
JTAG+SW($\overline{\text{TRST}}$端子なし)	○	○	○	○	×(注 2)	×	×	×
JTAG+TRACE	○	○	○	○	○	○	○	○
SW	×	○	○	×	×	×	×	×
SW+SWV	○	○	○	×	×	×	×	×
デバッグ機能を使用しない	×	×	×	×	×	×	×	×

注 1) ○: 必要、×: 不要(汎用ポートとして使用可能です)

注 2) $\overline{\text{TRST}}$が割り当てられている端子は、$\overline{\text{TRST}}$を選択して、オープンにするか"High"レベルを入力してください。

22.3.3. ホルトモード中の周辺機能の動作(プログラム実行の一時停止時)

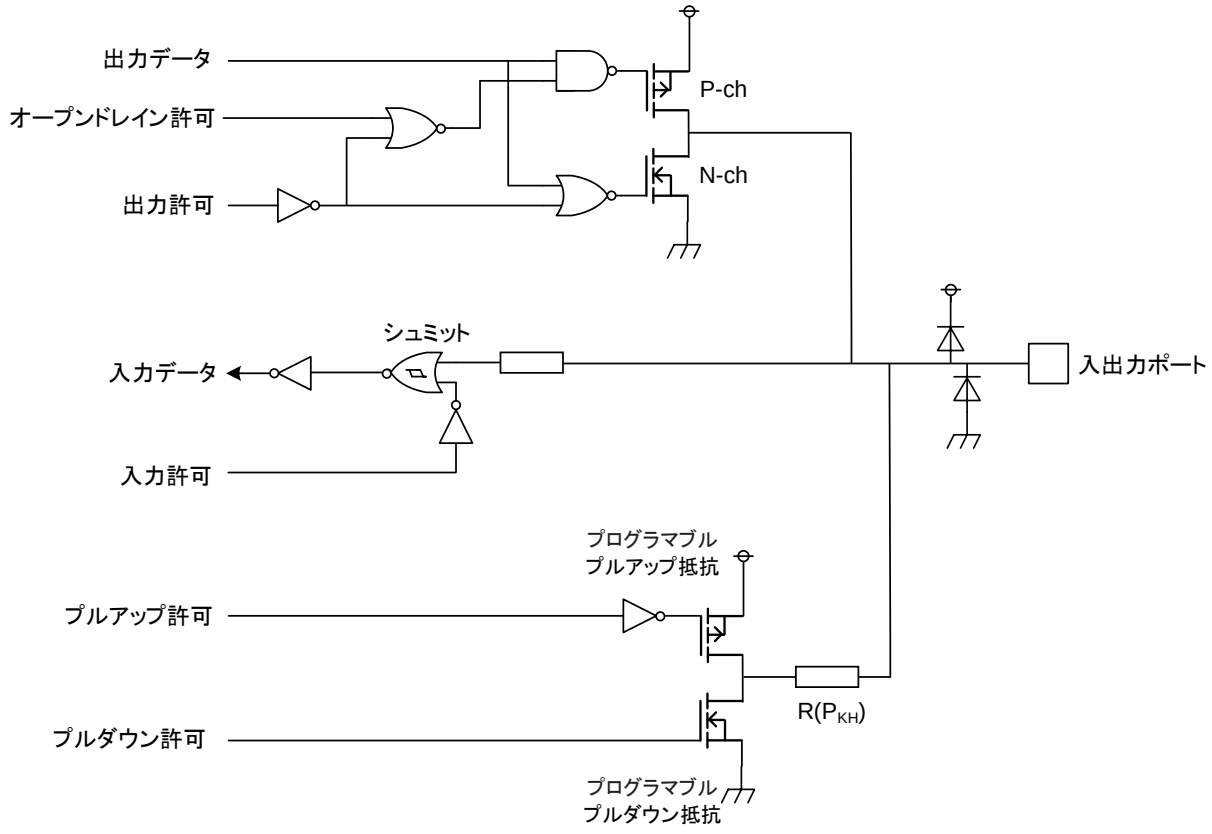
デバック中に、Cortex-M3 コアがホルトモードに入ると、ウオッチドッグタイマー(WDT)のカウントが自動的に停止します。その他の周辺機能は動作を続けます。

23. ポート部等価回路図

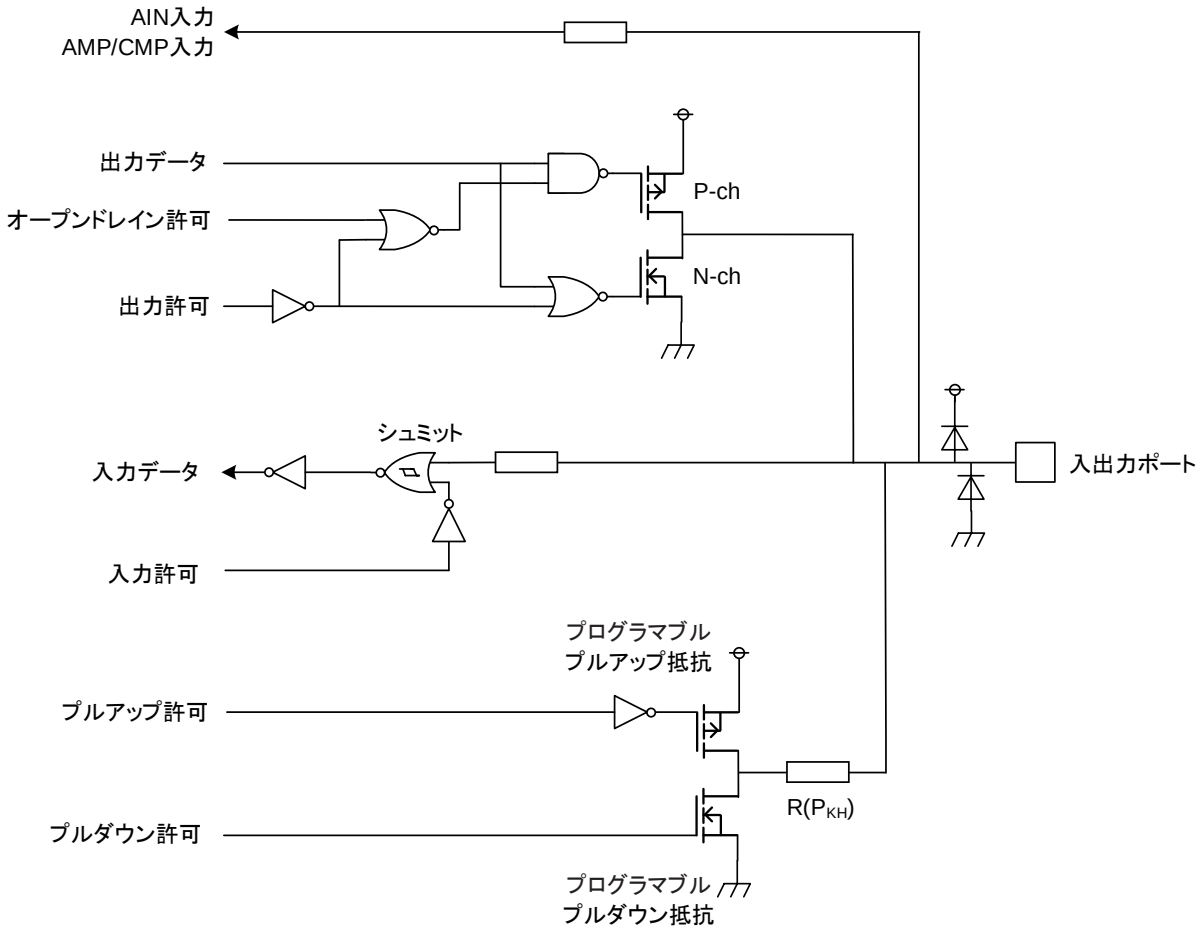
基本的に標準 CMOS ロジック IC「74HCxx」シリーズと同じゲート記号を使って書かれています。
入力保護抵抗は、数十 Ω ~ 数百 Ω です。

注) X2 のダンピング抵抗値は、図中に typ.値を記入しています。図中の数値の記載のない抵抗は、入力保護抵抗を示します。

23.1. PA0 ~ 7、PB0 ~ 7、PC0 ~ 7、PD0 ~ 6、PE0 ~ 7、PF0 ~ 4、PG0 ~ 7

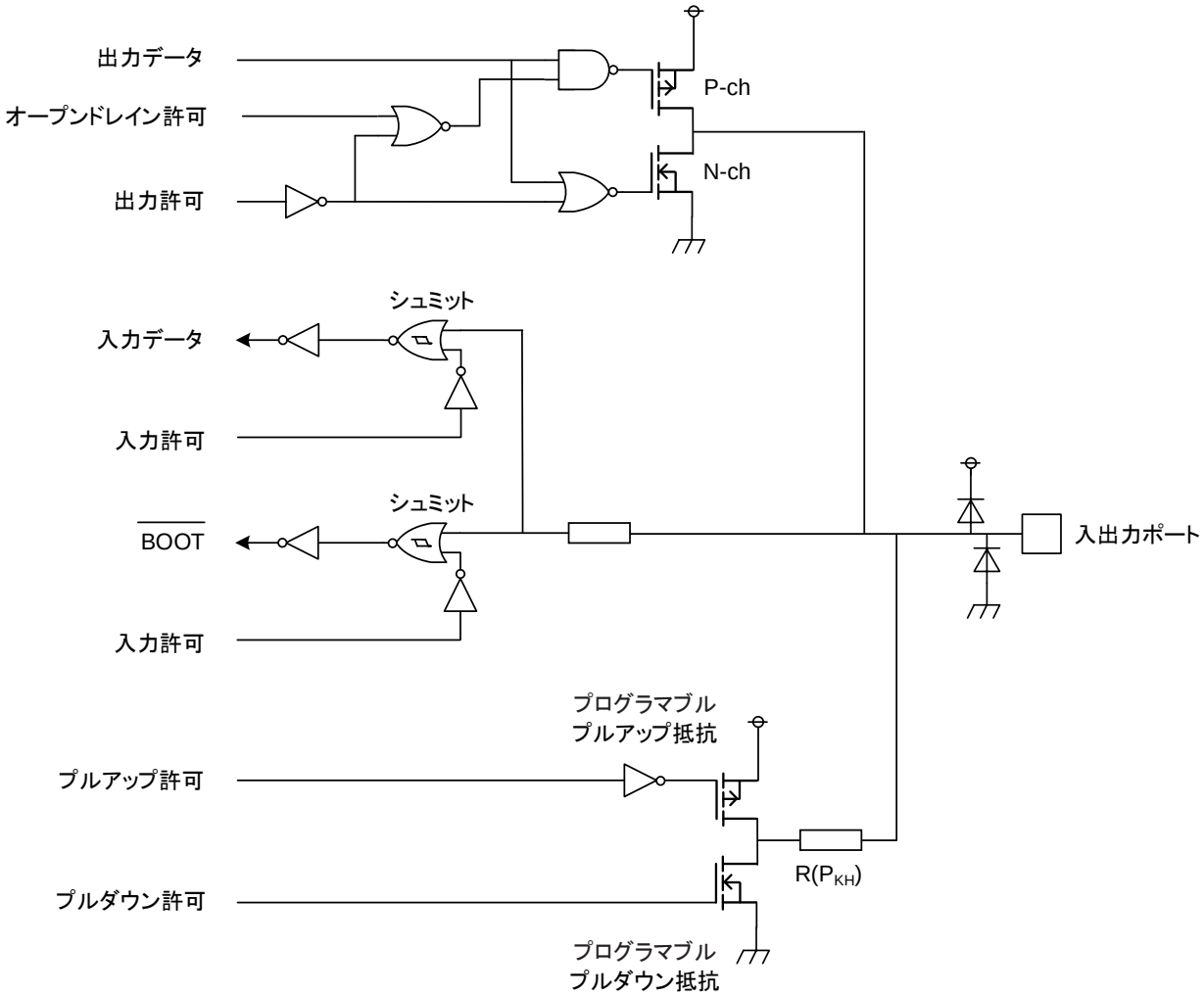


23.2. PH0 ~ 7、PI0 ~ 3、PJ0 ~ 7、PK0、PK1

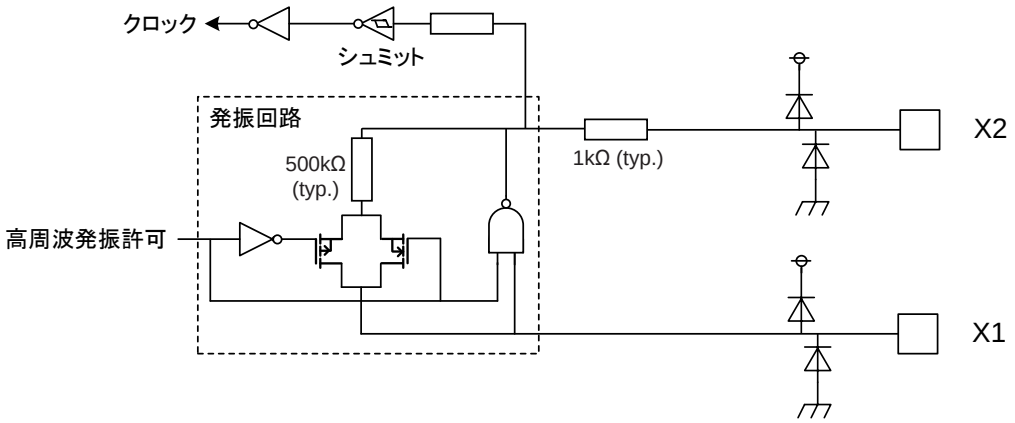


23.3. PL0、PL1

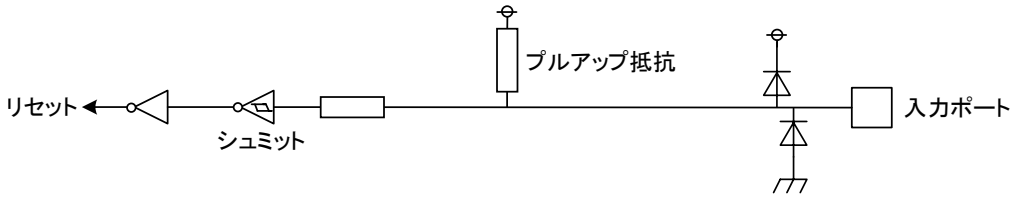
23.4. PF0



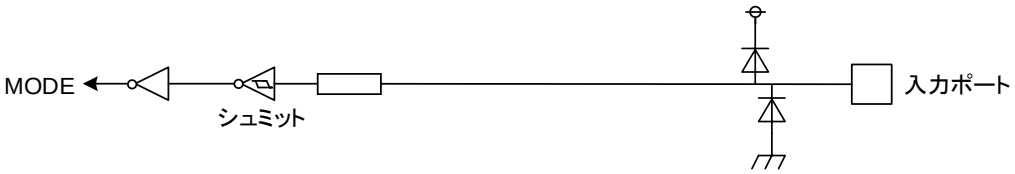
23.5. X1、X2



23.6. $\overline{\text{RESET}}$

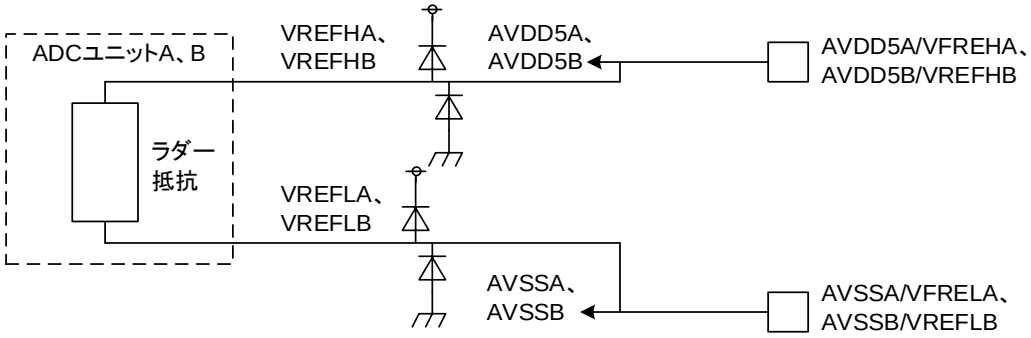


23.7. MODE

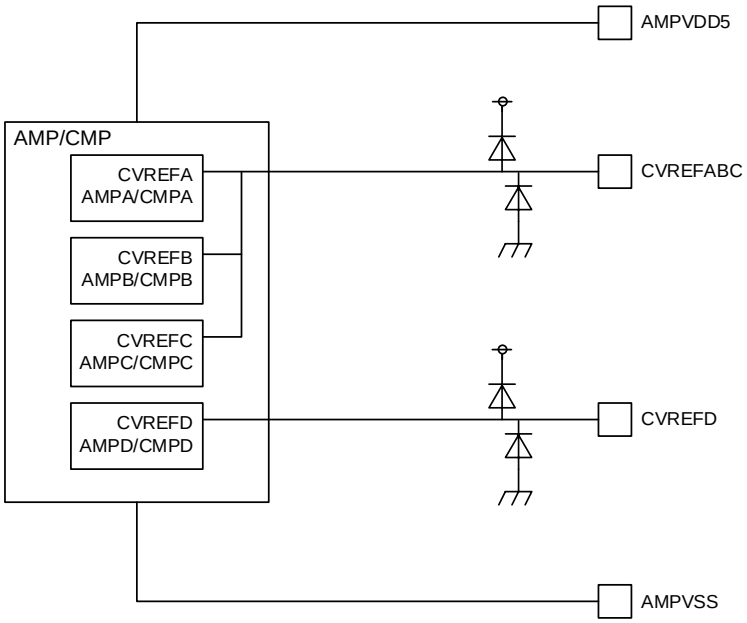


注) 本端子は必ず GND へ接続してください。

23.8. VREFHA、VREFHB、VREFLA、VREFLB



23.9. AMPVDD5、AMPVSS、CREFABC、CREFD



23.10. VOUT15、VOUT3

24. 電気的特性

24.1. 絶対最大定格

表 24.1 絶対最大定格

項目			記号	定格	単位
電源電圧			DVDD5	-0.3 ~ 6.0	V
			RVDD5	-0.3 ~ 6.0	
			AVDD5A AVDD5B	-0.3 ~ 6.0	
			AMPVDD5	-0.3 ~ 6.0	
電圧保持用コンデンサー接続端子電圧			VOUT15	-0.3 ~ 3.0	V
			VOUT3	-0.3 ~ 3.9	
入力電圧			V_{IN}	-0.3 ~ VDD + 0.3 (注 2)	V
低レベル出力電流	1 端子ごと		I_{OL}	5	mA
	全端子合計		ΣI_{OL}	50	
高レベル出力電流	1 端子ごと		I_{OH}	-5	
	全端子合計		ΣI_{OH}	-50	
消費電力			PD	600 (Ta = 85°C)	mW
はんだ付け温度(10 秒)			T_{SOLDER}	260	°C
保存温度			T_{STG}	-55 ~ 125	°C
動作温度	Flash W/E 時を除く	fsys = 1 ~ 80MHz	T_{OPR}	-40 ~ 85	°C
	Flash W/E 時			0 ~ 70	

注 1) 絶対最大定格とは、瞬時たりとも超えてはならない規格であり、どの 1 つの項目も超えることができない規格です。絶対最大定格(電流、電圧、消費電力、温度)を超えると破壊や劣化の原因となり、破裂・燃焼による障害を負うことがあります。従って必ず絶対最大定格を超えないように、応用機器の設計を行ってください。

注 2) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 の総称です。DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 は同電位で使用してください。

24.2. DC 電気的特性(1/2)

DVSS = AVSSA/VREFLA = AVSSB/VREFLB = AMPVSS =0V

Ta = -40 ~ 85°C

項目		記号	条件	Min	Typ. (注2)	Max	単位
電源電圧 (注 3)(注 4)	DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5	VDD	f_{OSC} = 8 ~ 10MHz fsys = 1 ~ 80MHz	4.5	-	5.5	V
電源電圧 (Flash W/E 時) (注 3)(注 4)	DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5	VDD	f_{OSC} = 8 ~ 10MHz fsys = 1 ~ 80MHz Ta = 0 ~ 70°C	4.5	-	5.5	V
電源電圧 (電源上昇/下降時) (注 3)(注 4)	DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5	VDD	f_{OSC} = 8 ~ 10MHz fsys = 1 ~ 80MHz	3.9	-	5.5	V
低レベル入力電圧	シュミット入力	V_{IL1}	VDD = 4.5 ~ 5.5V (注 3)	-0.3	-	VDD × 0.25	V
高レベル入力電圧	シュミット入力	V_{IH1}	VDD = 4.5 ~ 5.5V (注 3)	VDD × 0.75	-	VDD	V
電圧保持用コンデンサー容量 (注 5)		C_{OUT}	RVDD5 = 4.5 ~ 5.5V VOUT15、VOUT3 端子	3.3	-	4.7	μF
低レベル出力電圧		V_{OL}	VDD ≧ 4.5V (注 3) I_{OL} = 1.6mA	-	-	0.4	V
高レベル出力電圧		V_{OH}	VDD ≧ 4.5V (注 3) I_{OH} = -1.6mA	4.1	-	-	V
入力リーク電流		I_{LI1}	0.0 ≦ V_{IN} ≦ VDD (注 3)	-5	0.02	5	μA
出力リーク電流		I_{LO}	0.2 ≦ V_{IN} ≦ VDD - 0.2 (注 3)	-10	0.05	10	
リセットプルアップ抵抗		R_{RST}	VDD = 4.5 ~ 5.5V (注 3)	-	50	150	kΩ
プログラマブルプルアップ/プルダウン抵抗		P_{KH}	VDD = 4.5 ~ 5.5V (注 3)	-	50	150	kΩ
シュミット入力幅		VTH	VDD = 4.5 ~ 5.5V (注 3)	0.3	0.6	-	V
端子容量(電源端子を除く)		C_{IO}	fc = 1MHz	-	-	10	pF

注 1) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 の総称です。

注 2) Typ.値は特に指定のない限り Ta = 25°C、DVDD5 = RVDD5 = AVDD5A = AVDD5B = AMPVDD5 = 5.0V

の値です。

注 3) DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 は同電位で使用してください。

注 4) 電源上昇時（電源投入時）と電圧検出回路（VLTD)許可での電源電圧下降時における電圧範囲となります。詳細は「図 24.10　電源投入シーケンス (外部リセットを使用ししない場合)」を参照してください。

注 5) VOUT15 端子と VOUT3 端子は同値の電圧保持用コンデンサーを介して GND に接続してください。VOUT15 端子と VOUT3 端子から MCU 外部への電源供給はできません。

24.3. DC 電気的特性(2/2)(消費電流)

VDD = DVDD5 = RVDD5 = AVDD5A = AVDD5B = AMPVDD5 = 4.5 ~ 5.5V

DVSS = AVSSA/VREFLA = AVSSB/VREFLB = AMPVSS = 0V

Ta = -40 ~ 85°C

項目	記号	条件	Min	Typ. (注2)	Max	単位
NORMAL(注 4)(注 6)	I_{DD}	fsys = 80MHz ギア比 1:1	-	70	80	mA
IDLE(注 5)(注 6)			-	21	30	
STOP		-	-	7	11	mA

注 1) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 の総称です。

注 2) Typ.値は特に指定のない限り Ta = 25°C、DVDD5 = RVDD5 = VDD5A = AVDD5B = AMPVDD5 = 5.0V の値です。

注 3) DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 は同電位で使用してください。

注 4) I_{DD} (NORMAL)の測定条件: ADC/AMP/CMP を除く内蔵周辺機能は全て動作

注 5) I_{DD} (IDLE)の測定条件: 内蔵周辺機能は全て停止

注 6) ADC のアナログ基準電圧電源電流は常に流れます。

24.4. 12 ビットアナログ/デジタルコンバーター特性

DVDD5 = RVDD5 = AVDD5A/VREFHA = AVDD5B/VREFHB = AMPVDD5 = 4.5 ~ 5.5V
DVSS = AVSSA/VREFLA = AVSSB/VREFLB = AMPVSS = 0V
Ta = -40 ~ 85°C

項目	記号	条件	Min	Typ.	Max	単位
アナログ基準電圧(+)	VREFHA VREFHB	-	-	AVDD5A AVDD5B	-	V
アナログ入力電圧	VAIN	-	AVSSA AVSSB	-	AVDD5A AVDD5B	V
アナログ基準電圧電源電流 (注 1)(注 2)	IREF	-	-	3.5	4.5	mA
ADC 変換時消費電流 (注 1)	-	IREF を除く	-	-	6.0	mA
積分非直線性誤差(INL)	-	AIN 負荷抵抗 ≦ 600Ω AIN 負荷容量 ≧ 0.1μF 変換時間 ≧ 2μs	-6.0	-	6.0	LSB
微分非直線性誤差(DNL)			-5.0	-	5.0	
オフセット誤差			-5.0	-	5.0	
フルスケール誤差			-5.0	-	5.0	
総合誤差			-10	-	5.0	

注 1) 1 ユニット分の電流値です。

注 2) ADC のアナログ基準電圧電源電流は常に流れます。

注 3) 1LSB = (AVDD5A/VREFHA - AVSSA/VREFLAB) / 4096[V]
1LSB = (AVDD5B/VREFHB - AVSSB/VREFLB) / 4096[V]

注 4) AD コンバーター単体動作の時の特性です。

注 5) 設定の詳細は「11. 12 ビットアナログ/デジタルコンバーター(ADC)」を参照してください。

24.5. オペアンプ特性

DVDD5 = RVDD5 = AVDD5A/VREFHA = AVDD5B/VREFHB = AMPVDD5 = 4.5 ~ 5.5V
DVSS = AVSSA/VREFLA = AVSSB/VREFLB = AMPVSS = 0V
Ta = -40 ~ 85°C

項目	記号	条件		Min	Typ.	Max	単位
ゲイン	VGAIN	-		1.5	-	10	倍
オペアンプ入力電圧範囲	VAMPIN	-		(AVDD × 0.1) / VGAIN	-	(AVDD × 0.9) / VGAIN	V
オフセット電圧	VOFF1	VGAIN≧3.5		-6 × VGAIN	-	+6 × VGAIN	mV
		VGAIN≦3.5	Ta≧70°C				
	VOFF2		Ta<70°C	-20		20	
ゲイン誤差	GERR	-		-	±1	±3	%
スルーレート (注 2)	Vthr	CL=5pF、VGAIN=2.5 倍		2	-	-	V/μs
消費電流	-	AMP 使用時 1 チャネル当たりの電流		-	-	6	mA

注 1) AVDD は AVDD5A/VREFHA、AVDD5B/VREFHB の総称です。AVSS は AVSSA/VREFLA、AVSSB/VREFLB の総称です。

注 2) オペアンプ出力の電圧が AVDD - AVDD × 0.001 V に到達するまでの傾きです。

24.6. アナログコンパレーター特性

DVDD5 = RVDD5 = AVDD5A/VREFHA = AVDD5B/VREFHB = AMPVDD5 = 4.5 ~ 5.5V
DVSS = AVSSA/VREFLA = AVSSB/VREFLB = AMPVSS = 0V
Ta = -40 ~ 85°C

項目	記号	条件	Min	Typ.	Max	単位
オフセット電圧	VOFF	-	-	±4	-	mV
アナログコンパレーター入力端子電圧範囲	VIN	-	AVSS		AVDD	V
基準電圧範囲	VREF	-	0.9	-	AVDD - 0.2	
応答時間 (注 2)	TP	1.0V≦VREF≦AVDD-0.2	-	-	1	μs
消費電流	-	CMP 使用時 1 チャネル当たりの電流	-	-	0.75	mA

注 1) AVDD は AVDD5A/VREFHA、AVDD5B/VREFHB の総称です。AVSS は AVSSA/VREFLA、AVSSB/VREFLB の総称です。

注 2) TP は、VIN が VREF - 0.1 V から VREF + 0.1 V、または VREF + 0.1 V から VREF - 0.1 V に変化するときの値です。

24.7. AC 電気的特性

24.7.1. AC 測定条件

この章に記載されている AC 特性は、特に指定のない限り以下の条件となります。

- VDD = 4.5 ~ 5.5V
- Ta = - 40 ~ 85°C、fsys = 1 ~ 80MHz
- 出力レベル: High = VDD × 0.8、Low = VDD × 0.2
- 入力レベル: DC 電気的特性の「低レベル入力電圧」/「高レベル入力電圧」を参照してください。
- 負荷容量 : C_L = 30pF

注 1) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 の総称です。

注 2) DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 は同電位で使用してください。

24.7.2. シリアルチャネル (SIO/UART)

24.7.2.1. SIO モード

表中の「x」は SIO/UART の動作クロックの周期を表します。SIO/UART の動作クロックは、システムクロック fsys です。fsys はクロックギアの設定に依存します。

(1) 転送クロックが SCLKx 端子入力のとき

(a) データ入力

項目	記号	計算式		fsys = 80MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
SCLKx 入力クロック"High"レベル幅	t_{SCH}	3x	-	37.5	-	ns
SCLKx 入力クロック"Low"レベル幅	t_{SCL}	3x	-	37.5	-	
SCLKx 入力クロック周期	t_{SCY}	t_{SCH} + t_{SCL}	-	75	-	
有効データ入力 → SCLKx 入力クロック立ち上がり (SCxMOD0<SCLKS> = "0")	t_{SRD}	30	-	30	-	
SCLKx 入力クロック立ち上がり → 入力データ保持 (SCxMOD0<SCLKS> = "0")	t_{HSR}	x + 30	-	42.5	-	
有効データ入力 → SCLKx 入力クロック立ち下がり (SCxMOD0<SCLKS> = "1")	t_{SRD}	30	-	30	-	
SCLKx 入力クロック立ち下がり → 入力データ保持 (SCxMOD0<SCLKS> = "1")	t_{HSR}	x + 30	-	42.5	-	

(b) データ出力

項目	記号	計算式		fsys = 80MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
SCLKx 入力クロック"High"レベル幅	t_{SCH}	3x	-	37.5 (注 2)	-	ns
SCLKx 入力クロック"Low"レベル幅	t_{SCL}	3x	-	37.5 (注 2)	-	
SCLKx 入力クロック周期	t_{SCY}	t_{SCH} + t_{SCL}	-	75	-	
データ出力 → SCLKx 入力クロック立ち上がり (SCxMOD0<SCLKS> = "0")	t_{OSS}	t_{SCY} / 2 - 4x - 45	-	0 (注 1)	-	
SCLKx 入力クロック立ち上がり → 出力データ保持 (SCxMOD0<SCLKS> = "0")	t_{OHS}	t_{SCY} /2	-	37.5	-	
データ出力 → SCLKx 入力クロック立ち下がり (SCxMOD0<SCLKS> = "1")	t_{OSS}	t_{SCY} / 2 - 4x - 45	-	0 (注 2)	-	
SCLKx 入力クロック立ち下がり → 出力データ保持 (SCxMOD0<SCLKS> = "1")	t_{OHS}	t_{SCY} /2	-	37.5	-	

注 1) 計算結果が"0"以上になる SCLKx 入力クロックの周期で使用してください。

注 2) t_{OSS} が"0"以上になるときの最小値を示します。

- SCxMOD0<SCLKS> = "0" 時
- SCxMOD0<SCLKS> = "1" 時

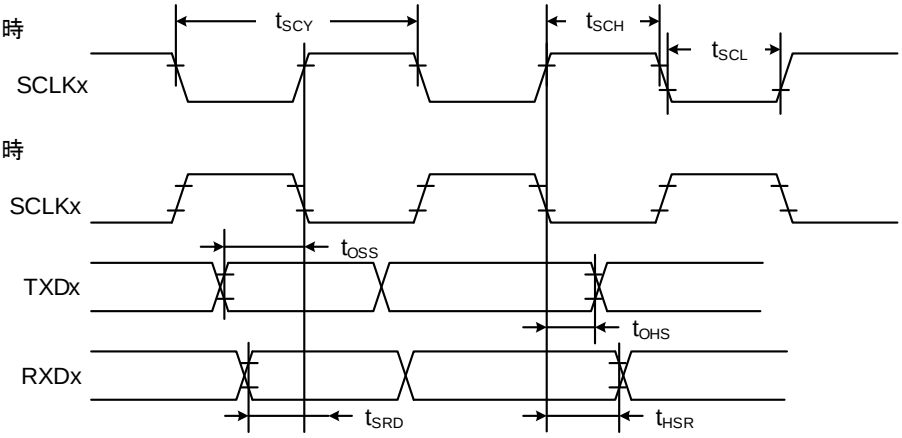


図 24.1　転送クロックがSCLKx端子入力のときのタイミングチャート

(2)　転送クロックが SCLKx 端子出力のとき

項目	記号	計算式		fsys = 80MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
SCLKx 出力クロック周期	t_{SCY}	4x	-	60	-	ns
データ出力 → SCLKx 出力クロック立ち上がり	t_{OSS}	t_{SCY} / 2 - 30 (注 1)	-	0 (注 2)	-	
SCLKx 出力クロック立ち上がり → 出力データ保持	t_{OHS}	t_{SCY} / 2 - 30 (注 1)	-	0 (注 2)	-	
有効データ入力 → SCLKx 出力クロック立ち上がり	t_{SRD}	45		45		
SCLKx 出力クロック立ち上がり → 入力データ保持	t_{HSR}	0	-	0	-	

注 1)　計算結果が"0"以上になる SCLKx 出力クロックの周期で使用してください。

注 2) t_{OSS} が"0"以上になるときの最小値を示します。

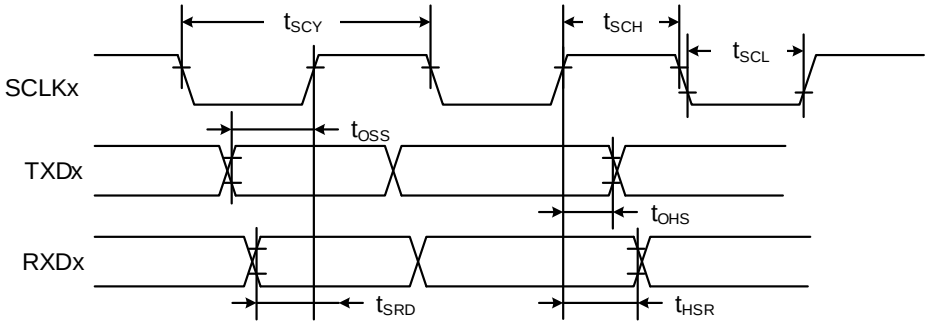


図 24.2　転送クロックがSCLKx端子出力のときのタイミングチャート

24.7.3. 16 ビットタイマー/イベントカウンター (TMRB)

表中の「x」は TMRB の動作クロックの周期を表します。TMRB の動作クロックは、システムクロック fsys です。fsys はクロックギアの設定に依存します。

24.7.3.1. イベントカウンターTBxIN 端子入力

項目	記号	計算式		fsys = 80MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
"Low"レベル幅	t_{VCKL}	2x + 100	-	125	-	ns
"High"レベル幅	t_{VCKH}	2x + 100	-	125	-	

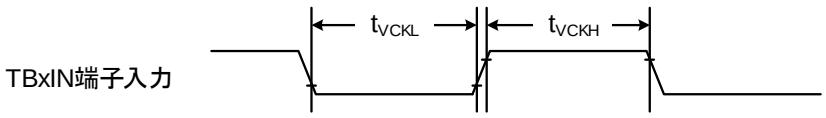


図 24.3 イベントカウンターのタイミングチャート

24.7.3.2. キャプチャーTBxIN 端子入力

項目	記号	計算式		fsys = 80MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
"Low"レベル幅	t_{CPL}	2x + 100	-	125	-	ns
"High"レベル幅	t_{CPH}	2x + 100	-	125	-	

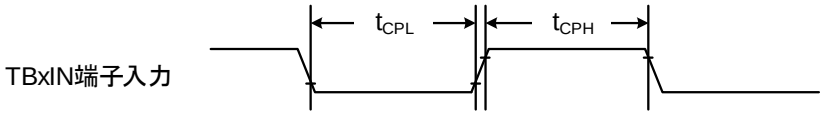


図 24.4 キャプチャーのタイミングチャート

24.7.4. 外部割り込み端子

表中の「x」は外部割り込み端子の動作クロックの周期を表します。外部割り込み端子の動作クロックは、システムクロック fsys です。fsys はクロックギアの設定に依存します。

24.7.4.1. 下記以外で外部割り込みを使用するとき

項目	記号	計算式		fsys = 80MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
"Low"レベル幅	t_{INTAL}	x + 100	-	112.5	-	ns
"High"レベル幅	t_{INTAH}	x + 100	-	112.5	-	

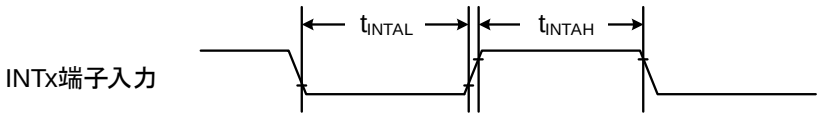


図 24.5 下記以外で外部割り込みを使用するときのタイミングチャート

24.7.4.2. STOP モード解除を外部割り込み端子で行うとき

項目	記号	計算式		fsys = 80MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
"Low"レベル幅	t_{INTBL}	100	-	100	-	ns
"High"レベル幅	t_{INTBH}	100	-	100	-	

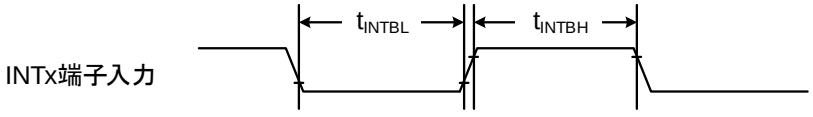


図 24.6 STOPモード解除を外部割り込み端子で行うときのタイミングチャート

24.7.5. デバッグ通信

24.7.5.1. AC 測定条件

- 出力レベル: High = VDD × 0.7、Low = VDD × 0.3
- 負荷容量 : TRACECLK 端子: C_L = 25pF、TRACEDATAn 端子: C_L = 20pF

注 1) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5B の総称です。
注 2) DVDD5、RVDD5、AVDD5B は同電位で使用してください。

24.7.5.2. SWD インターフェース

項目	記号	Min	Max	単位
CLK 周期	t_{dck}	100	-	ns
CLK 立ち上がり → 出力データ保持	t_{d1}	4	-	
CLK 立ち上がり → 出力データ有効	t_{d2}	-	37	
入力データ有効 → CLK 立ち上がり	t_{ds}	20	-	
CLK 立ち上がり → 入力データ保持	t_{dh}	15	-	

24.7.5.3. JTAG インターフェース

項目	記号	Min	Max	単位
CLK 周期	t_{dck}	100	-	ns
CLK 立ち下がり → 出力データ保持	t_{d3}	4	-	
CLK 立ち下がり → 出力データ有効	t_{d4}	-	37	
入力データ有効 → CLK 立ち上がり	t_{ds}	20	-	
CLK 立ち上がり → 入力データ保持	t_{dh}	15	-	

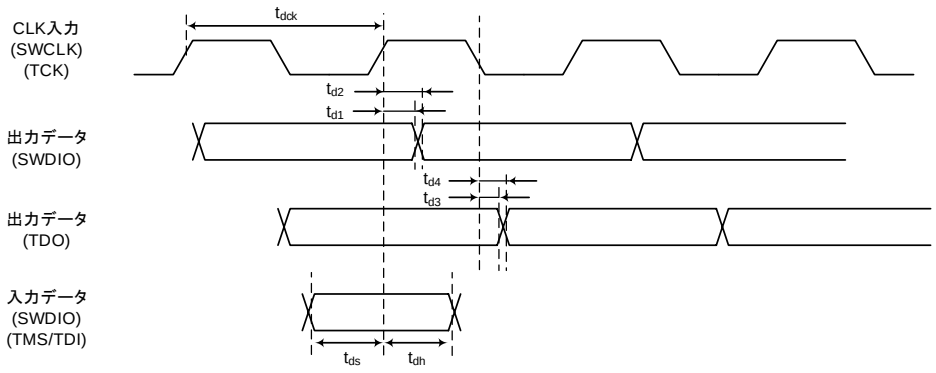


図 24.7 JTAG/SWDのタイミングチャート

24.7.5.4. ETM トレース

項目	記号	Min	Max	単位
TRACECLK 周期	t_{tclk}	25	-	ns
TRACEDATAn 有効 → TRACECLK 立ち上がり	t_{setupr}	2	-	
TRACECLK 立ち上がり → TRACEDATAn 保持	t_{holdr}	1	-	
TRACEDATAn 有効 → TRACECLK 立ち下がり	t_{setupf}	2	-	
TRACECLK 立ち下がり → TRACEDATAn 保持	t_{holdf}	1	-	

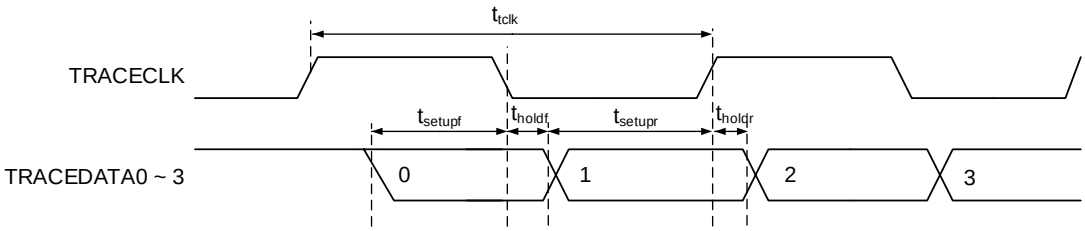


図 24.8 ETMトレースのタイミングチャート

24.8. Flash 特性

VDD = DVDD5 = RVDD5 = AVDD5A = AVDD5B = AMPVDD5 = 4.5 ~ 5.5V
DVSS = AVSSA/VREFLA = AVSSB/VREFLB = AMPVSS = 0V
Ta = 0 ~ 70°C

項目	条件	Min	Typ.	Max	単位
Flash 消去/書き込み回数	-	-	-	100	回

24.9. 発振回路例

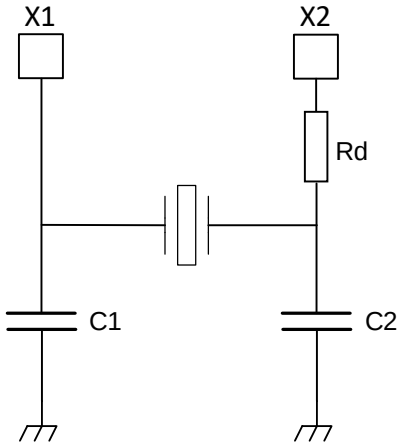


図 24.9 高周波発振回路例

発振の安定には、発振子の位置、負荷容量を適切にする必要があります。これらは基板パターンにより大きな影響を受けます。安定した発振を得るため、ご使用される基板での評価をされるようお願いします。

24.10. セラミック発振子

(株)村田製作所製のセラミック発振子を用いて評価しています。

(株)村田製作所の製品詳細につきましては、同社ホームページを参照してください。

24.11. 電源投入時のご注意

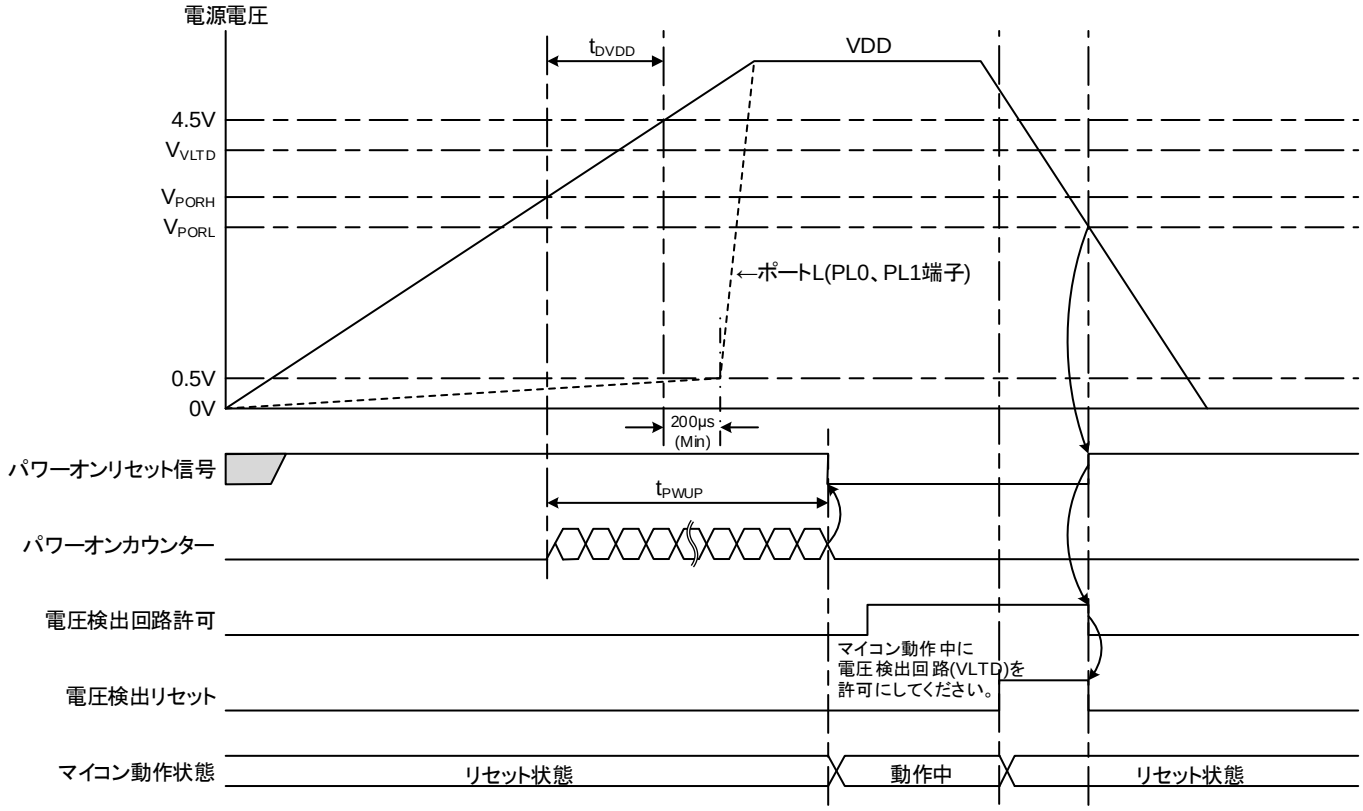
24.11.1. 電源投入時のポート L(PL0、PL1 端子)について

電源投入時、電源電圧が推奨動作電圧範囲(4.5 ~ 5.5V)に到達した後、200μs 経過するまでの期間、ポート L(PL0 および PL1)はオープンまたは 0.5V 以下となるようにしてください。

電源電圧が降下し POR がパワーオンリセット信号を発生させた後に、電源電圧が再度上昇する場合も同じ注意が必要です。

24.11.2. 外部リセットを使用しない場合

項目	記号	Min	Typ.	Max	単位
リセット解除後のウオーミングアップ時間	t_{PWUP}	-	-	3.7	ms
電源立ち上がり時間	t_{DVDD}	-	-	3	
VLTD 検出電圧 （VDCR<VDLVL> = "01"）	V_{VLTD}	3.9	4.1	4.3	V
POR 解除電圧	V_{PORH}	2.8	3	3.2	
POR 検知電圧	V_{PORL}	2.6	2.8	3	



注 1) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 の総称です。

注 2) 電源を立ち上げる場合に POR を使用するときは、3ms 以内に VDD を動作電圧範囲(4.5 ~ 5.5V)に到達させます。

注 3) MCU 動作中に、VLTD を許可します。

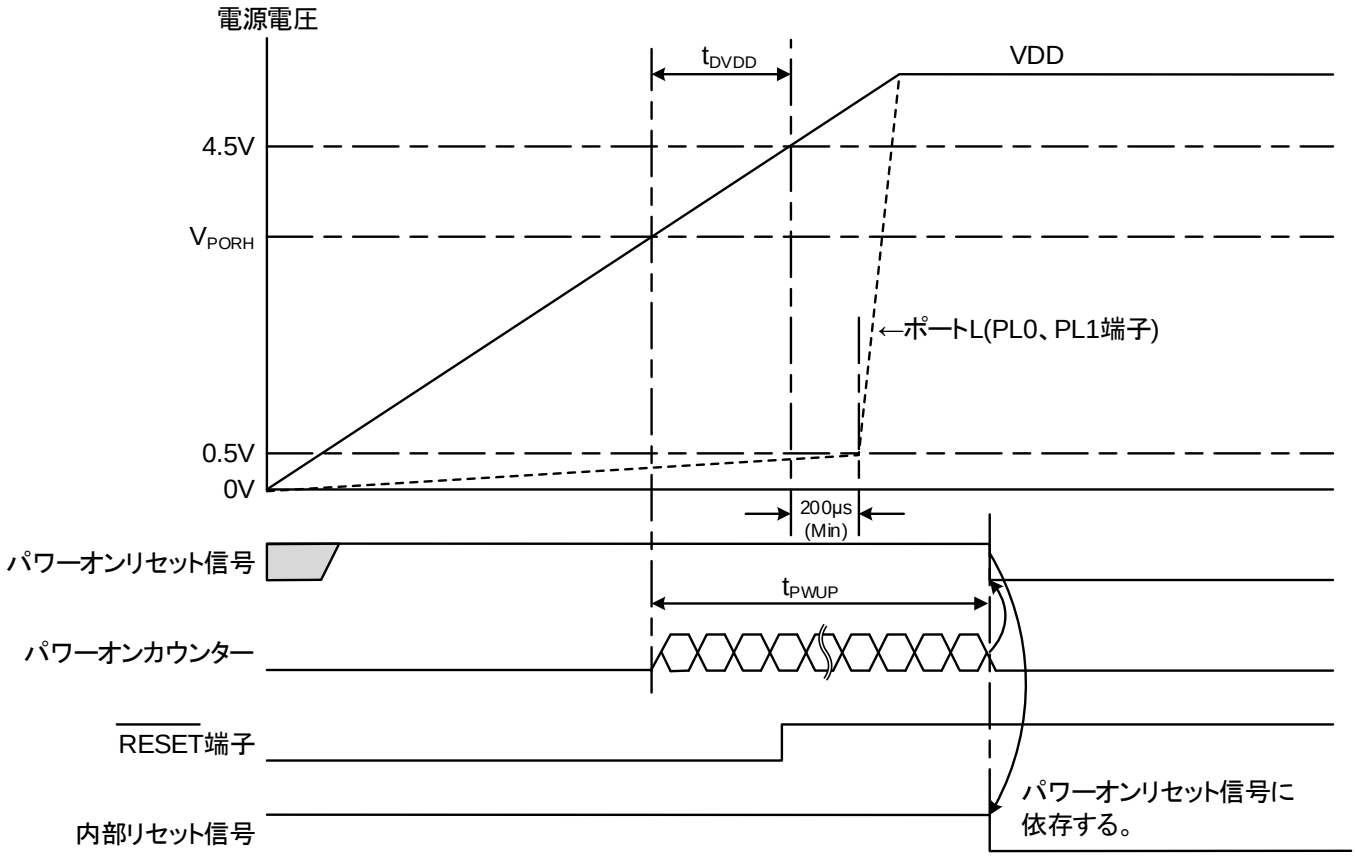
注 4) POR 解除電圧(V_{PORH})と検出電圧(V_{PORL})は、相対的に変化するためにそれぞれの電圧は逆転しません。

図 24.10 電源投入シーケンス (外部リセットを使用ししない場合)

24.11.3. 外部リセットを使用する場合

24.11.3.1. 外部リセットの解除が POR リセット解除よりも早い場合

内部リセットの解除は POR リセットに依存します。

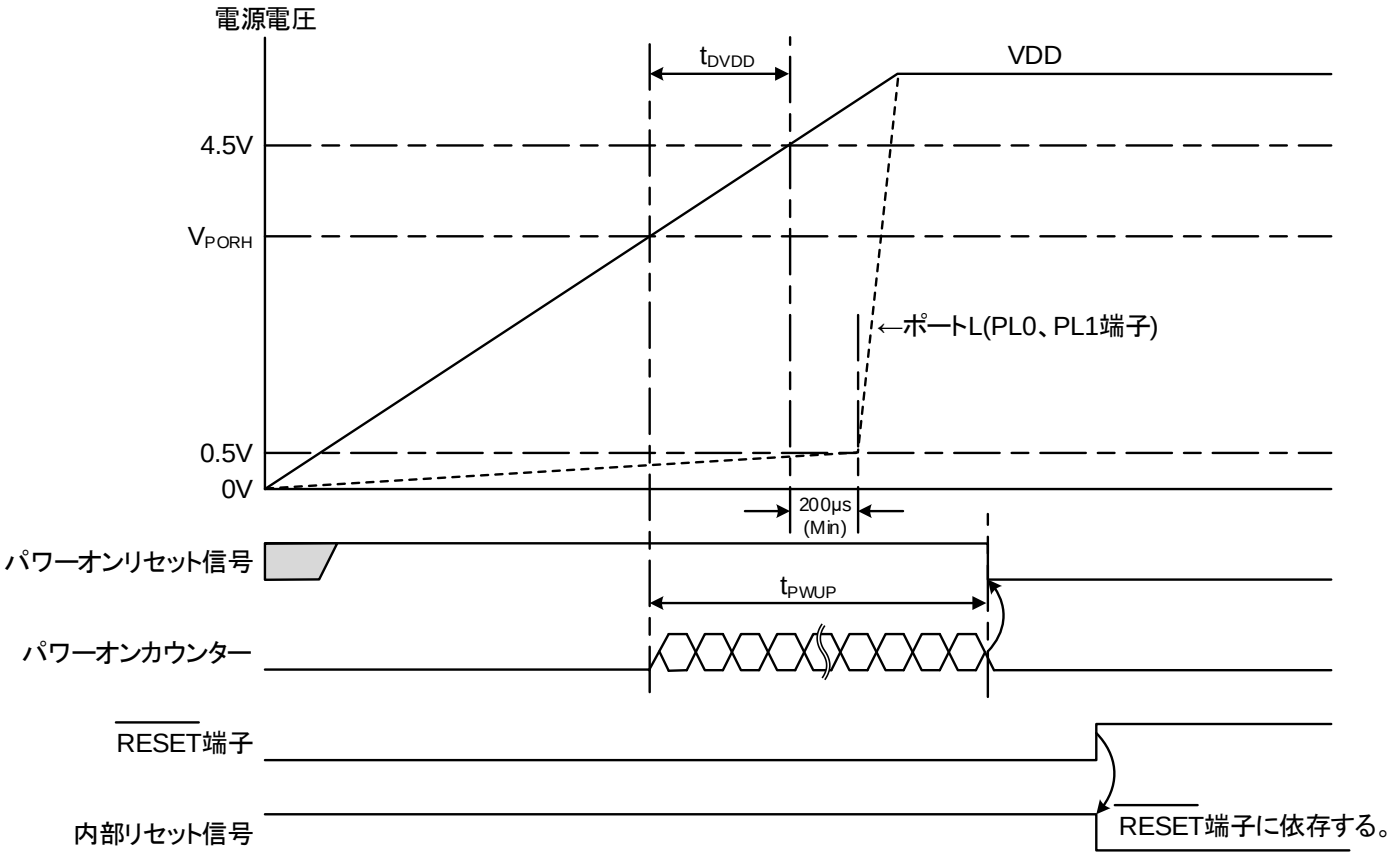


注) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 の総称です。

図 24.11 外部リセットの解除がPORリセット解除よりも早い場合のタイミングチャート

24.11.3.2. 外部リセットの解除が POR リセット解除よりも遅い場合

内部リセットの解除は$\overline{\text{RESET}}$端子に依存します。

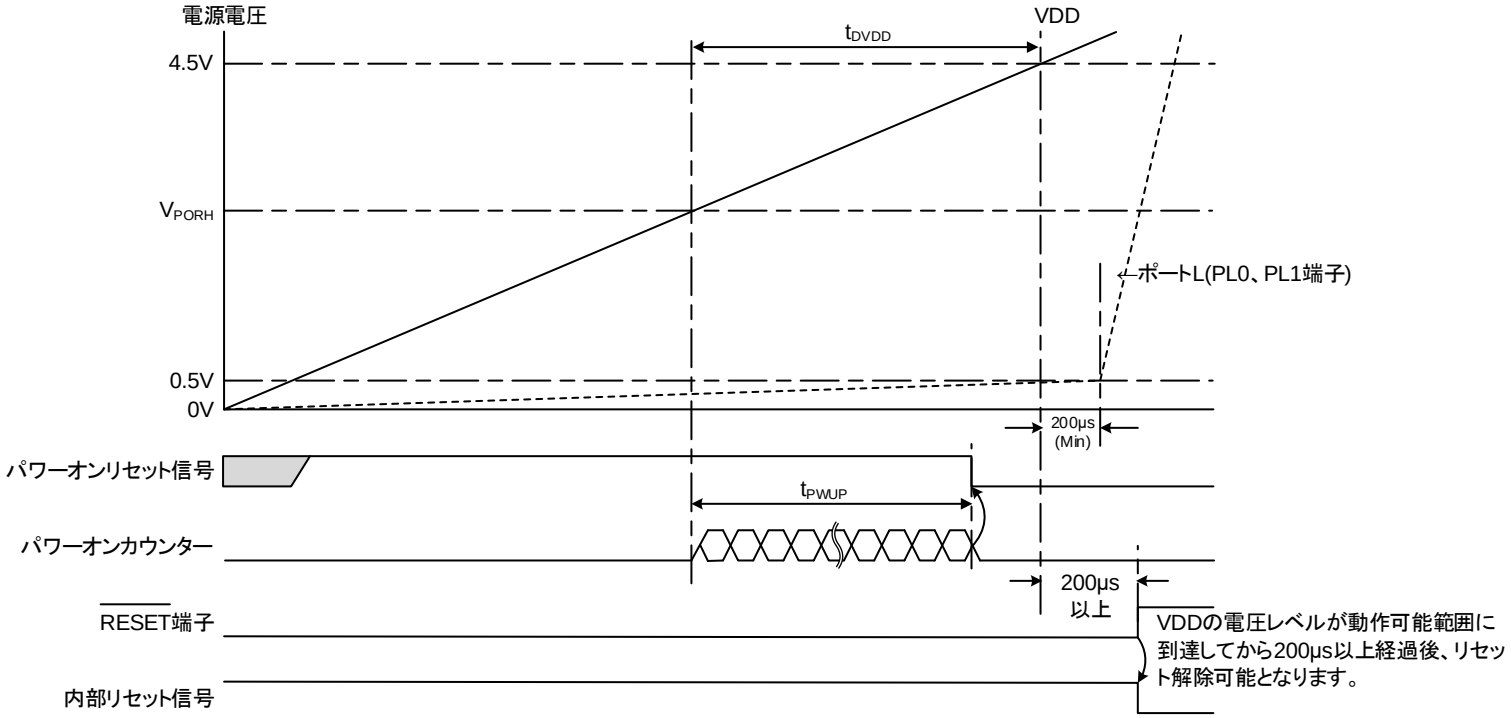


注) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 の総称です。

図 24.12 外部リセットの解除がPORリセット解除よりも遅い場合のタイミングチャート

24.11.3.3. t_{DVDD} が t_{PWUP} よりも長い場合

VDD の電圧が動作電圧範囲を越えてから 200µs 以上経過してから$\overline{\text{RESET}}$端子を"High"レベルにしてください。



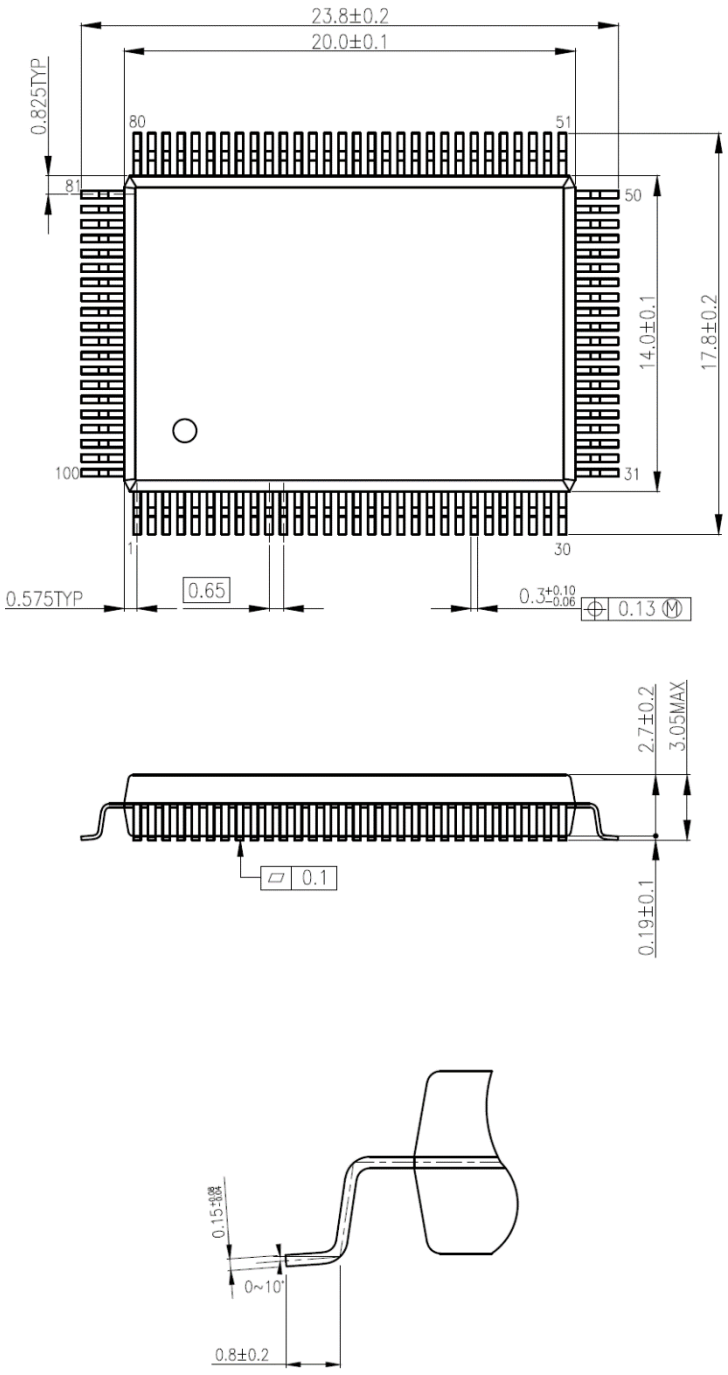
注) VDD は DVDD5、RVDD5、AVDD5A、AVDD5B、AMPVDD5 の総称です。

図 24.13 t_{DVDD}がt_{PWUP}よりも長い場合のタイミングチャート

25. パッケージ寸法図

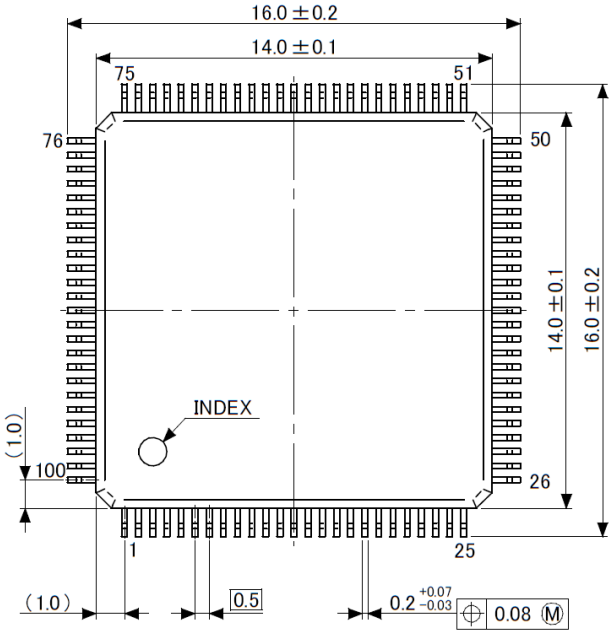
25.1. パッケージ型名: QFP100-P-1420-0.65Q

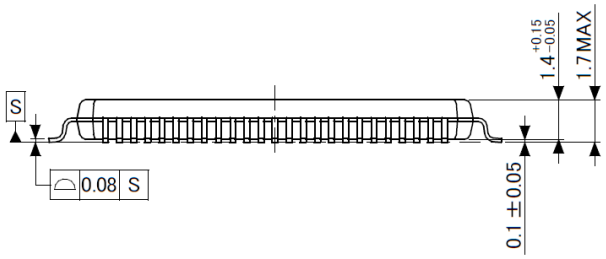
Unit: mm

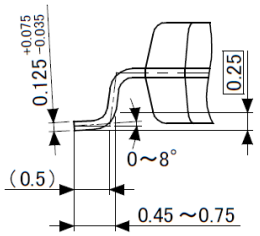


25.2. パッケージ型名: LQFP100-P-1414-0.50H

Unit: mm







26. 改訂履歴

表 26.1 改訂履歴

Revision	日付	説明
1.0	2022-08-01	・新規
1.1	2023-07-21	・図 5.1 修正 ・10.13.1.2. FIFO 許可の場合 文章と表 10.14 を修正 ・10.13.2.2. FIFO 使用の場合 文章と表 10.16 を修正 ・11.5.2. AD 変換開始 誤記修正 ・表 11.6 表題に追加 ・図 11.7 図を修正 ・図 11.8 図を修正 ・13.3.4.3. VEFMODEx(フロー制御レジスター) Bit8 に<CRCEN>を追加 ・表 13.15 トリガー補正許可を追加 ・表 22.3 注 2)を追加

製品取り扱い上のお願い

株式会社東芝およびその子会社ならびに関係会社を以下「当社」といいます。

本資料に掲載されているハードウエア、ソフトウエアおよびシステムを以下「本製品」といいます。

- 本製品に関する情報等、本資料の掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。
- 文書による当社の事前の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。また、文書による当社の事前の承諾を得て本資料を転載複製する場合でも、記載内容に一切変更を加えたり、削除したりしないでください。
- 当社は品質、信頼性の向上に努めていますが、半導体・ストレージ製品は一般に誤作動または故障する場合があります。本製品をご使用頂く場合は、本製品の誤作動や故障により生命・身体・財産が侵害されることのないように、お客様の責任において、お客様のハードウエア・ソフトウエア・システムに必要な安全設計を行うことをお願いします。なお、設計および使用に際しては、本製品に関する最新の情報（本資料、仕様書、データシート、アプリケーションノート、半導体信頼性ハンドブックなど）および本製品が使用される機器の取扱説明書、操作説明書などをご確認の上、これに従ってください。また、上記資料などに記載の製品データ、図、表などに示す技術的な内容、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの情報を使用する場合は、お客様の製品単独およびシステム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。
- 本製品は、特別に高い品質・信頼性が要求され、またはその故障や誤作動が生命・身体に危害を及ぼす恐れ、膨大な財産損害を引き起こす恐れ、もしくは社会に深刻な影響を及ぼす恐れのある機器（以下“特定用途”という）に使用されることは意図されていませんし、保証もされていません。特定用途には原子力関連機器、航空・宇宙機器、医療機器（ヘルスケア除く）、車載・輸送機器、列車・船舶機器、交通信号機器、燃焼・爆発制御機器、各種安全関連機器、昇降機器、発電関連機器などが含まれますが、本資料に個別に記載する用途は除きます。特定用途に使用された場合には、当社は一切の責任を負いません。なお、詳細は当社営業窓口まで、または当社 Web サイトのお問い合わせフォームからお問い合わせください。
- 本製品を分解、解析、リバースエンジニアリング、改造、改変、翻案、複製等しないでください。
- 本製品を、国内外の法令、規則及び命令により、製造、使用、販売を禁止されている製品に使用することはできません。
- 本資料に掲載してある技術情報は、製品の代表的動作・応用を説明するためのもので、その使用に際して当社及び第三者の知的財産権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。
- 別途、書面による契約またはお客様と当社が合意した仕様書がない限り、当社は、本製品および技術情報に関して、明示的にも黙示的にも一切の保証（機能動作の保証、商品性の保証、特定目的への合致の保証、情報の正確性の保証、第三者の権利の非侵害保証を含むがこれに限らない。）をしておりません。
- 本製品、または本資料に掲載されている技術情報を、大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、あるいはその他軍事用途の目的で使用しないでください。また、輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」、「米国輸出管理規則」等、適用ある輸出関連法令を遵守し、それらの定めるところにより必要な手続を行ってください。
- 本製品の RoHS 適合性など、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問い合わせください。本製品のご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用ある環境関連法令を十分調査の上、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いかねます。